

姫路書写ソーラーパーク

早期段階環境配慮書

令和 8 年 6 月

AMP12 合同会社

本書に掲載した地図は、国土地理院発行の電子地形図及び地理院タイルを使用し、それらを編集、加工して作成している。

目 次

第1章 対象事業等の概要	1
1 事業者の名称及び住所並びに代表者の氏名	1
2 対象事業の名称（対象事業の種類を含む。）	1
3 対象事業の目的及び概要	1
3-1 対象事業の目的	1
3-2 対象事業の概要	2
第2章 早期事前調査等の結果等	13
1 複数案の設定	13
2 対象事業等を実施するにつき必要な法令又は条例の規定による許認可等の種類	14
3 特別地域の分布状況	15
3-1 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（平成14年法律第88号）第28条第1項の規定により設定された鳥獣保護区	15
3-2 森林法（昭和26年法律第249号）第25条第1項若しくは第2項又は第25条の2第1項若しくは第2項の規定により指定された保安林の区域	15
3-3 自然公園法（昭和32年法律第161号）第5条第1項の規定により指定された国立公園又は同条第2項の規定により指定された国定公園の区域	15
3-4 近畿圏の保全区域の整備に関する法律（昭和42年法律第103号）第6条第1項の規定により定められた同条第2項に規定する近郊緑地特別保全地区	18
3-5 都市計画法（昭和43年法律第100号）第7条第1項の規定により定められた市街化調整区域及び同法第8条第1項の規定により定められた同項第7号に規定する風致地区	18
3-6 農業振興地域の整備に関する法律（昭和44年法律第58号）第8条第1項の規定により市町が定めた農業振興地域整備計画において定められた同条第2項第1号に規定する農用地区域	18
3-7 自然環境保全法（昭和47年法律第85号）第14条第1項の規定により指定された原生自然環境保全地域及び同法第22条第1項の規定により指定された自然環境保全地域	18
3-8 都市緑地法（昭和48年法律第72号）第12条第1項の規定により定められた特別緑地保全地区	18
3-9 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号）第36条第1項の規定により指定された生息地等保護区	21
3-10 兵庫県立自然公園条例（昭和38年兵庫県条例第80号）第3条第1項の規定により指定された自然公園の区域	21

3-11 環境の保全と創造に関する条例（平成 7 年兵庫県条例第 28 号）第 89 条第 1 項の規定により指定された自然環境保全地域、同条例第 95 条第 1 項の規定により指定された環境緑地保全地域、同条例第 100 条第 1 項の規定により指定された自然海浜保全地区及び同条例第 104 条第 1 項の規定により指定された指定野生動植物種保存地域	21
3-12 緑豊かな地域環境の形成に関する条例（平成 6 年兵庫県条例第 16 号）第 7 条第 1 項の規定により指定された緑豊かな環境形成地域（同条例第 9 条第 1 項第 1 号に掲げる区域）	21
4 早期事前調査等の結果等	24
4-1 早期事前調査等の全部又は一部を他の者に委託して行った場合にはその者の氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては、その代表者の氏名	24
4-2 早期事前調査等の結果等	25
4-3 環境影響要因と環境要素の分析及び選定結果	180
4-4 環境配慮のための調査、予測及び評価の結果	187

資料編

資料編 確認種一覧	資料-1
-----------	------

第1章 対象事業等の概要

1 事業者の名称及び住所並びに代表者の氏名

事業者の名称：AMP12 合同会社

代表者の氏名：AMP1 一般社団法人 職務執行者 中垣 光博

主たる事務所の所在地：東京都千代田区内神田一丁目 3 番 7 号 401 あすな会計事務所内

2 対象事業の名称（対象事業の種類を含む。）

対象事業の名称：姫路書写ソーラーパーク

対象事業の種類：発電所の建設（太陽電池発電所）

3 対象事業の目的及び概要

3-1 対象事業の目的

近年、地球規模での温暖化の進行により、我が国においても異常気象による狭い範囲での集中豪雨の増加など自然災害リスクの高まりや、海水温度の上昇などによる生物の生息環境の変化など、生物多様性の喪失が懸念されており、これらの現象に対し、気候変動枠組条約や生物の多様性に関する条約をはじめとした国際的な枠組みの下で対策の議論が行われている。

2015 年にパリで開催された「国連気候変動枠組条約締約国会議（通称 COP）」で合意された、パリ協定においては、日本の中期目標として 2030 年度の温室効果ガスの排出を 2013 年度の水準から 26%削減することとした。また、その後、2021 年の気候サミットにおいて、新たな目標（2013 年度比 46%減）を定め、温室効果ガス排出量の削減は喫緊の課題となっている。

2025 年に閣議決定された「第 7 次エネルギー基本計画」においても、再生可能エネルギーに対して、低炭素で国内自給可能なエネルギー源として重要な位置付けがなされている。

兵庫県では、2022 年に改定した「兵庫県地球温暖化対策推進計画」において、「2030 年度の再生可能エネルギーによる発電量 100 億 kWh」と改定し、具体的な取組として、太陽光発電の導入拡大を挙げている。

以上の背景のもと、本事業は、経営が厳しいゴルフ場の利活用として、敷地面積約 115ha の敷地を転用して、出力 19,900kW（AC）の太陽電池発電所を計画するものであり、安定的かつ効率的な再生可能エネルギーの普及及び温室効果ガス削減に寄与することを目的とする。また、本事業の実施にあたっては、伐採面積の最小化や残置森林の適切な維持管理等により、周辺環境との調和に最大限に配慮するなど、地域との共生を図ることとする。

3-2 対象事業の概要

3-2-1 事業実施想定地域の位置

事業実施想定地域の位置：兵庫県姫路市夢前町山富他（図 1.3.1～3 参照）

事業実施想定地域の現況の土地利用はゴルフ場となっている。

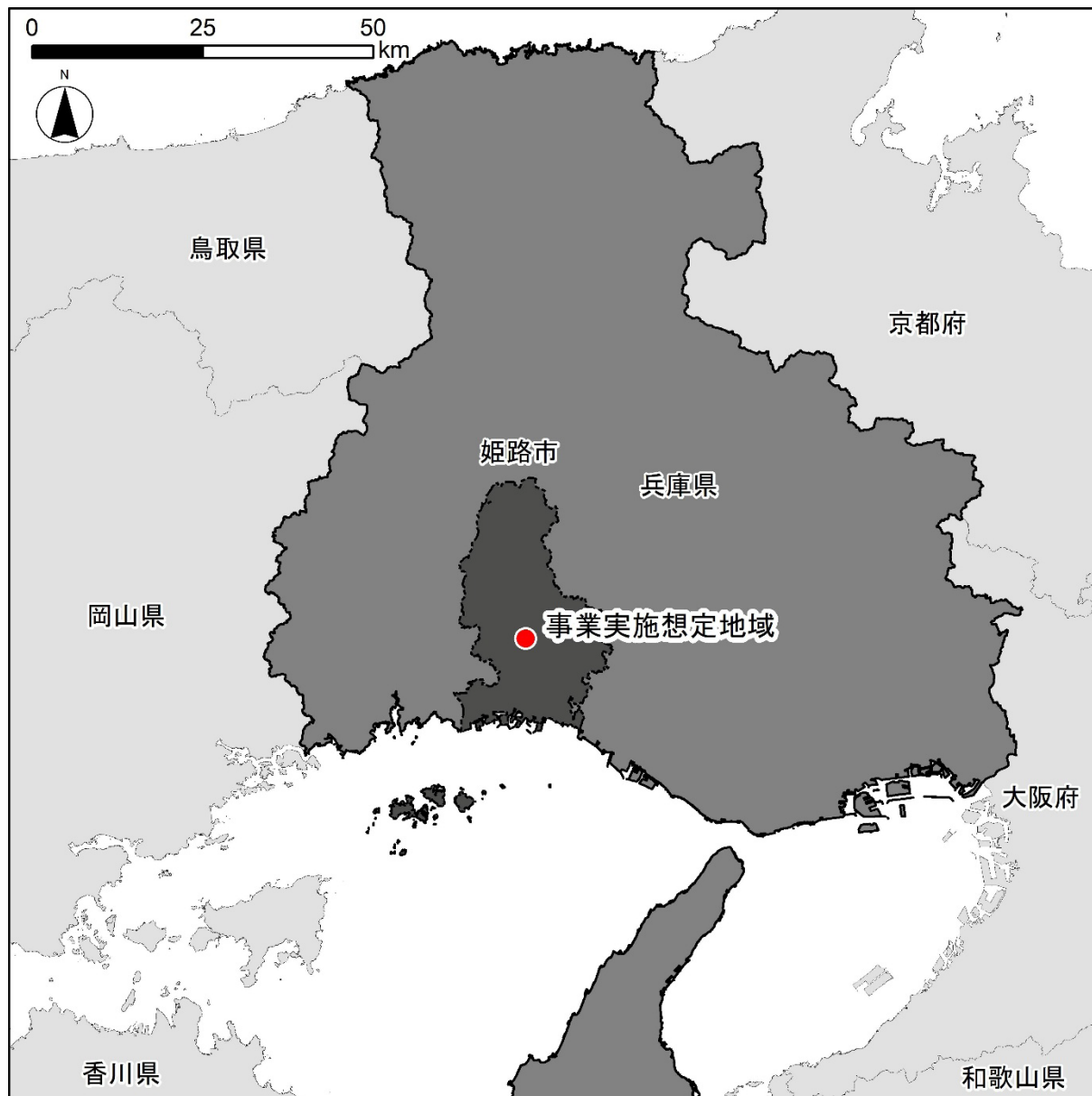


図 1.3.1 事業実施想定地域の位置（広域）

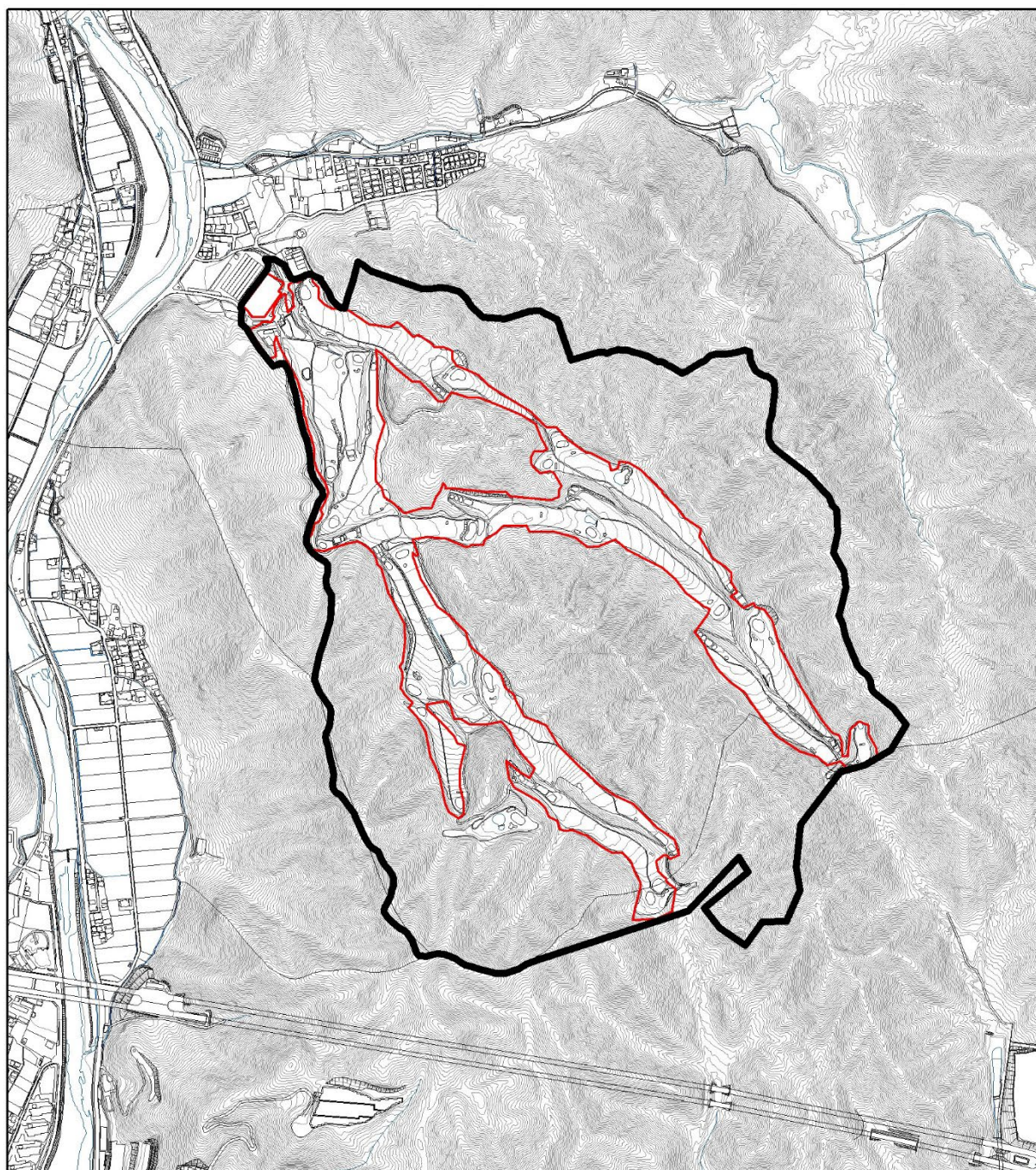
3-2-2 対象事業の規模

事業実施想定地域の面積：約 115ha

太陽電池発電出力（合計）：最大値 19,900kW（AC） 26,611.2kW（DC）

太陽電池の単機出力：660W

太陽電池数量 最大値：40,488 枚



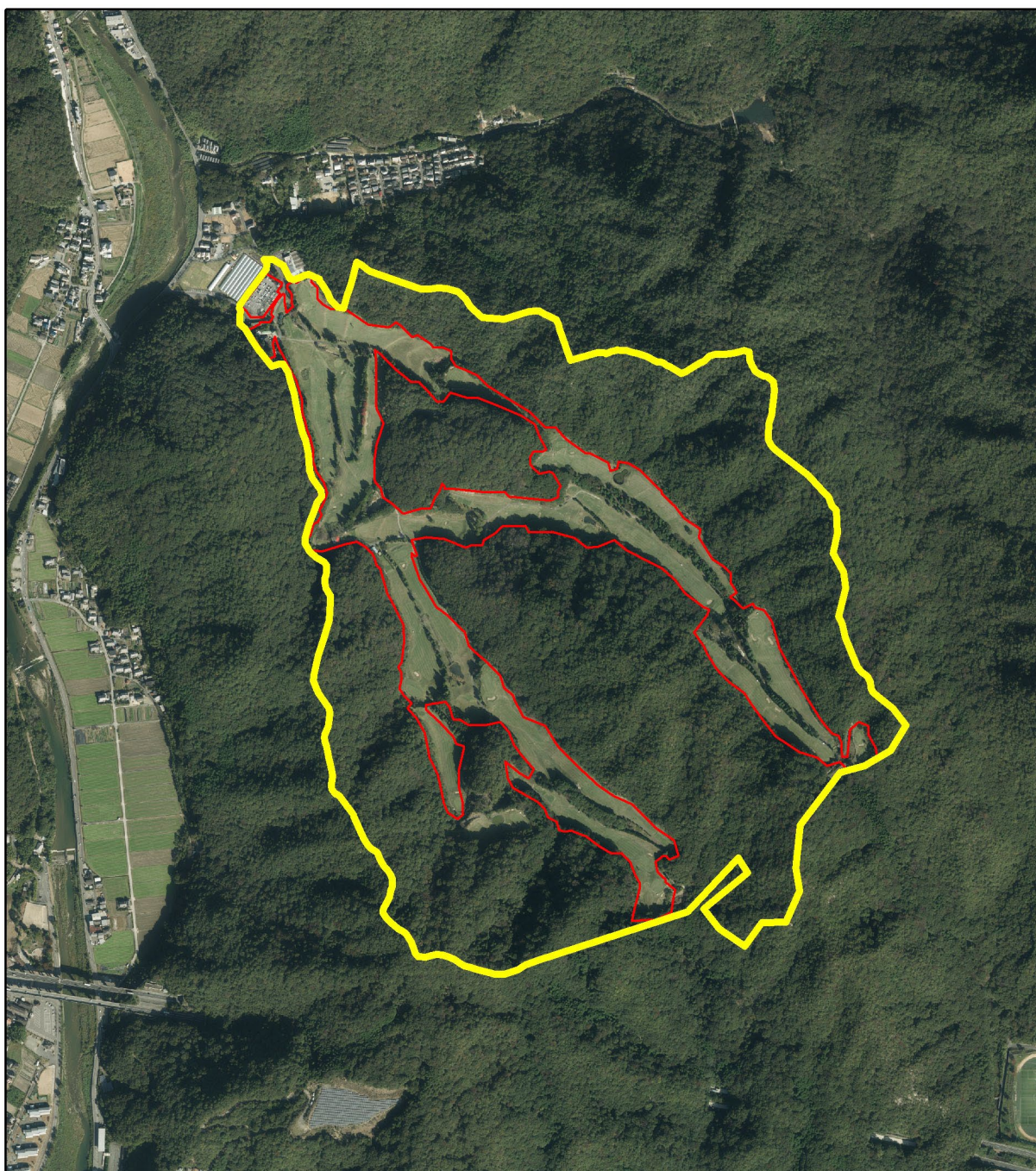
凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲



0 125 250 500
m

図 1.3.2 事業実施想定地域
(詳細図)



凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲



0 125 250 500
m

図 1.3.3 事業実施想定地域
(航空写真)

背景の空中写真は、姫路市撮影（令和 2 年 11 月撮影）のものを用いた。

3-2-3 土地利用計画

現時点での発電所の設備の配置計画及び土地利用計画は表 1.3.1 及び図 1.3.4 のとおりである。

表 1.3.1 土地利用計画

区分	面積
太陽電池等設置範囲	31ha
非改変区域	84ha
合計	115ha

3-2-4 主要施設の概要

主要施設の概要（予定）は表 1.3.2 のとおりである。

太陽電池で発電された直流の電気は、パワーコンディショナーで交流に変換される。パワーコンディショナーに併設された昇圧変圧器によって昇圧された後、送変電設備へと集電され、主変圧器でさらに電圧を昇圧した後に、電力会社の送電線に接続する。

表 1.3.2 主要施設の概要（予定）

項目	内容
太陽電池	太陽電池発電出力（合計）：最大値 19,900kW（AC）、26,611.2kW（DC） 太陽電池の単機出力：660W 太陽電池数量 最大値：40,488 枚
パワーコンディショナー	160 台（125 kW/台） ^{注）}
昇圧変圧器	7 台（3MVA/台）
連系変電所（特別高圧設備）	1 台

注）出力調整を行うことで、最大 19,900kW とする計画である。

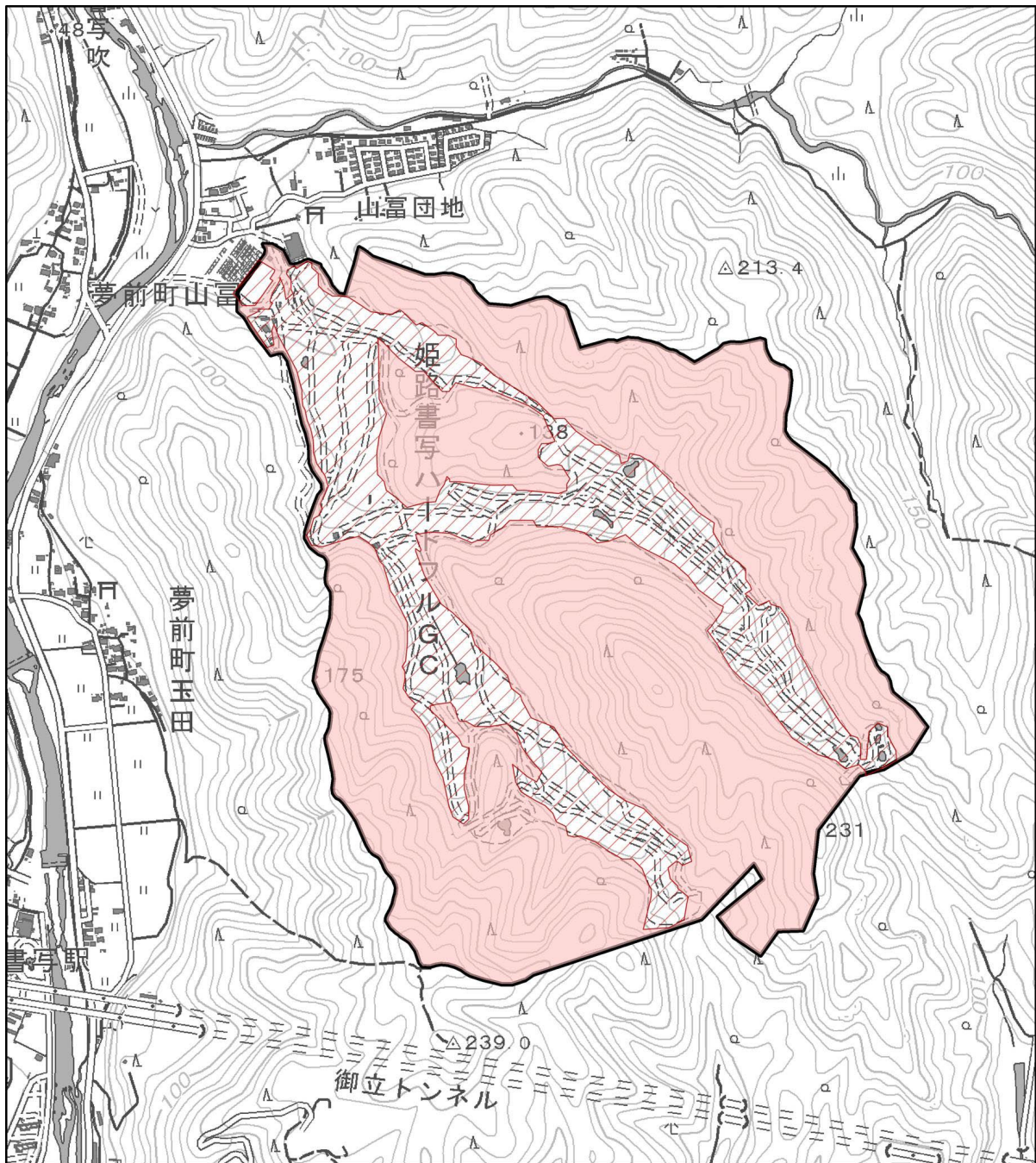
3-2-5 系統連系地点

発電した電力は関西電力の送電線に連系予定である。現在想定している系統連系地点は図 1.3.5 のとおりである。

3-2-6 排水計画

事業実施想定区域から排出される雨水排水は、既存の排水施設を用いて排水する。

なお、排水計画については今後関係機関と協議する。



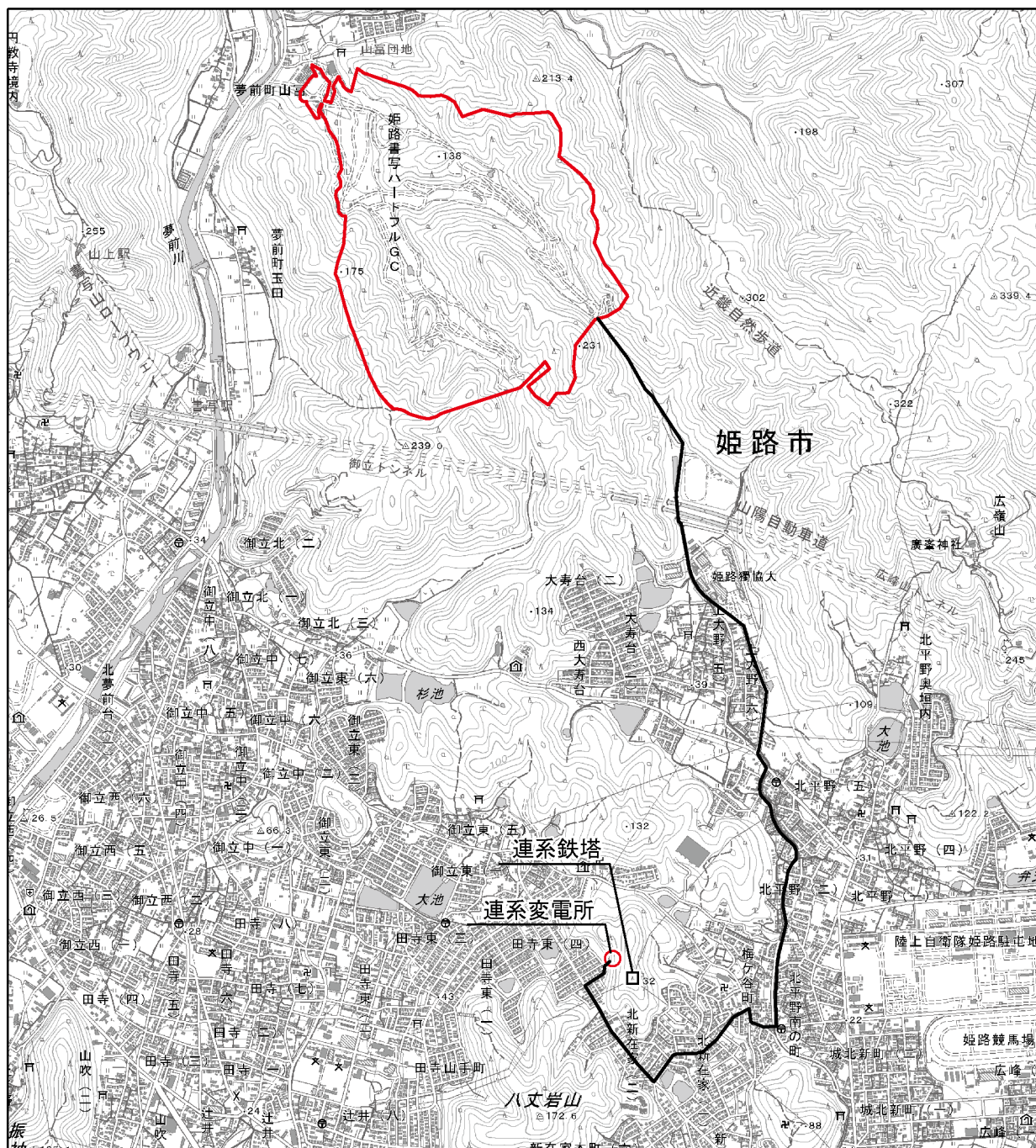
凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲
- 非改変区域



0 125 250 500
m

図 1.3.4 土地利用計画



凡 例



事業実施想定地域



送電線



連系変電所



連系鉄塔



0 250 500 1,000
m

図 1.3.5 系統連系地点

3-2-7 安全管理計画

(1) 立入制限等

- ・発電施設の外周にはフェンスを設け、関係者以外の立入を禁止する。
- ・立入の際には、電気主任技術者への事前の連絡と承認を義務付ける。
- ・管理カメラを発電施設の周辺並びに施設内に設置し、常時監視が可能なシステムを構築する。これにより、発電状態や安全についての24時間リモート監視を行う。

(2) 巡視・見回り

- ・保安規程に基づき、すべてのパネルについて、2回/年の頻度で巡視・点検を行う。また、1回/月の頻度で月次の巡回・点検を行う。
- ・事業実施想定地域には非改変区域ではあるが、急斜面のエリアが存在するため、これらのエリアについて定期的に巡視・見回りを行い、斜面崩落や土砂流出の危険性などを確認し、必要に応じて対策を講じる。

(3) 除草計画

- ・2回/年の頻度で除草（草刈り）を実施する。なお、農薬や除草剤等は使用しない。
- ・除草は、ハンマーナイフモアを使用し、草体を粉砕しながら土壌にすき込むことによりその場で処理することを想定しているが、刈り取った雑草を産業廃棄物として処理することも可能な体制を確保する。
- ・粉砕された植物片が排水路に流れ出す、あるいは排水路を詰まらせるなどの可能性があるため、水路や集水枡の定期的な清掃を実施し、雨水の適切な流下、植物片の流出防止を行う。

(4) 災害発生時の初動体制

- ・保安規定に基づき、2時間以内に電気主任技術者が発電施設に駆け付け対応を行う。

(5) 災害発生時の対応

- ・発電所建設に際しては、電気事業法に沿った計画を行い、管轄消防署へは設備等の情報を共有する。
- ・前述の常時監視システムにより、火災等が発生した場合、管轄消防署へ速やかに連絡できる体制を整備する。
- ・災害等によりパネルが破損した際には、長期の放置をせず即時回収を行い、新たなパネルに入れ替えるものとし、被災等によりパネルが飛散・流出した際には、直ちにパネルを回収する。また、場内でパネルの一部が破損する等の場合には、確認時点より1週間以内を目途に回収する。

(6) 関係機関との連絡・調整

- ・事業の実施に先立ち、関係機関との連絡・調整を行い、災害発生時を含む連絡体制や災害時の対応方策について定める。

3-2-8 工事計画

(1) 工事計画の概要

工事は主に造成・基礎工事、架台据付工事、電気工事から構成される。想定される主な工事の内容は以下のとおりである。なお、基礎工事では、新たな土地の造成（切土・盛土等）は原則実施せず、既存の地形にそのまま施設を設置する計画としている。

- ・基礎工事：機材搬出入路及び管理用道路整備、ヤード整備造成、基礎工事
- ・架台据付工事：架台工事、太陽電池発電設備据付工事
- ・電気工事：送電線工事、所内配電線工事、変電施設工事、電気工事

(2) 工事工程

建設工事期間は13か月（2028年12月予定～2029年12月予定）とし、営業開始は2029年12月を予定している。工事工程等の概要は、表 1.3.3 に示すとおりである。

表 1.3.3 工事工程等の概要

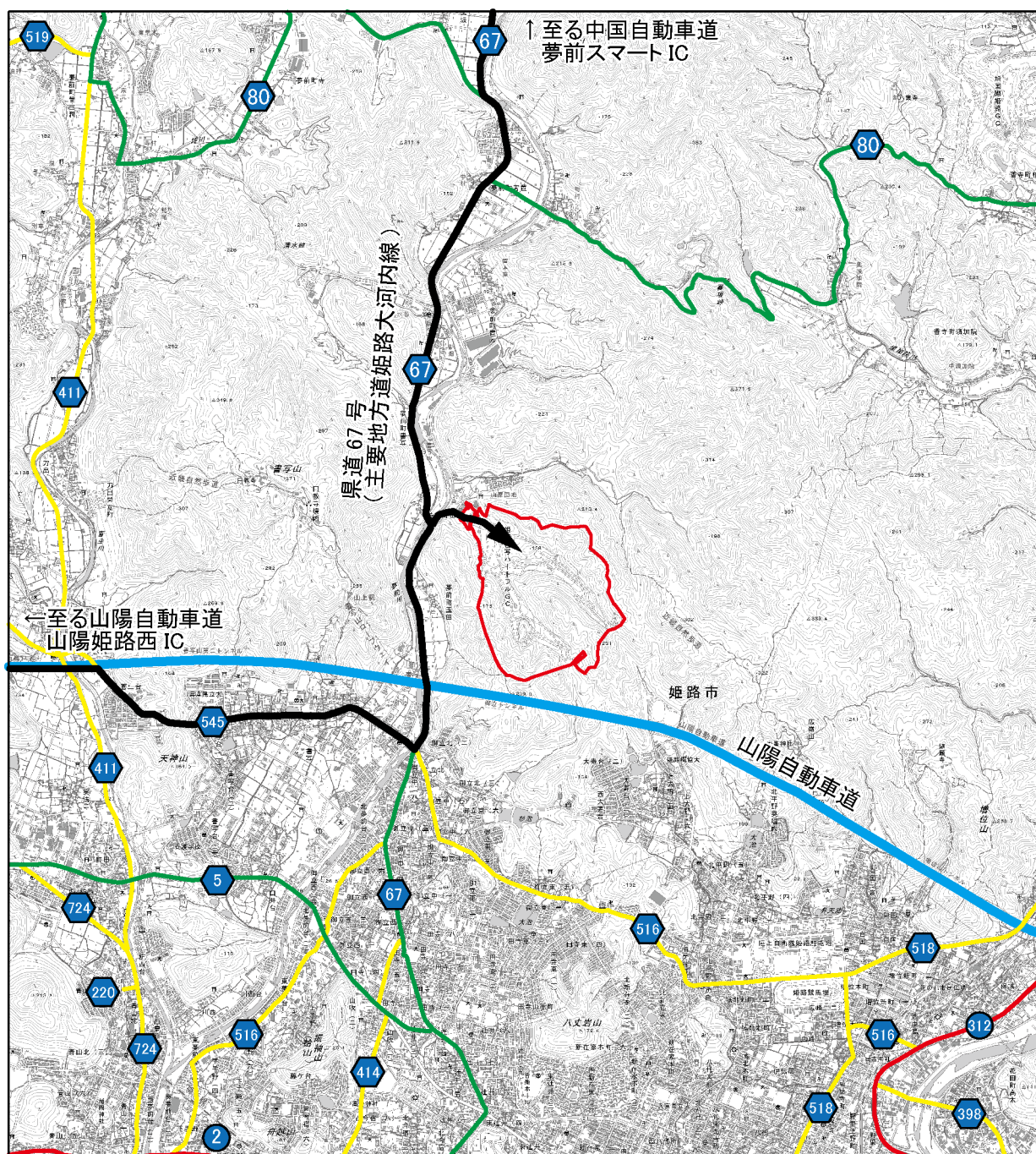
工種等	期間及び時期（予定）
基礎工事	2028年12月～2029年8月
架台据付工事	2029年1月～2029年9月
電気工事	2029年1月～2029年10月
調整・試験	2029年5月～2029年12月
営業運転開始	2029年12月予定

(3) 搬出入計画

太陽電池等及びその他の工事用資材等の搬出入路は、図 1.3.6 に示すとおり、山陽自動車道から北上するルート及び中国自動車道から南下するルートを予定している。なお、連系変電所への搬出入路は、県道 516 号並びに市道幹第 9 号線を経由するルートを予定している。

- ①南ルート：山陽自動車道の山陽姫路西 IC から県道 545 号及び県道 67 号（主要地方道姫路大河内線）を経て事業実施想定地域に至るルート
- ②北ルート：中国自動車道の夢前スマート IC から県道 67 号（主要地方道姫路大河内線）を経て事業実施想定地域に至るルート

車両台数は、工事用車両・搬入車両（大型車）が最大 135 台/月程度（5～6 台/日）、通勤車両（小型車）が 100～400 台/月程度（5～20 台/日）を予定している。車両台数は、可能な限り低減するよう努める。



凡 例

- 事業実施想定地域
- 山陽自動車道
- 一般国道
- 県道（主要地方道）
- 県道（一般県道）
- 搬入ルート



0 500 1,000 2,000
m

図 1.3.6 搬出入ルート

3-2-9 環境保全対策

環境保全対策は、以下のとおりとする。

(1) 大気質、騒音、振動

- ・建設機械等については、可能な限り低炭素型、排出ガス対策型、低騒音型、低振動型の機種を使用するとともに、日常の整備点検の励行により、大気汚染、騒音、振動等の影響の低減を図る。
- ・新たな土地の造成（切土・盛土等）は原則実施せず、周辺地域への粉じんの飛散防止を図る。
- ・工事関係車両の走行に伴う大気汚染、騒音、振動を軽減するため、車両の適切な運行管理により、集中化を避ける。
- ・工事関係車両が周辺道路で待機（路上駐車）することがないように、工事区域内に速やかに入場させる。また、不要な空ぶかしの防止に努め、待機時のアイドリングストップの遵守を指導・徹底する。
- ・工事の実施にあたっては出来る限り作業の効率化を図り、建設機械等の稼働台数を削減し大気汚染、騒音、振動の軽減に努める。
- ・パワーコンディショナー等の発電設備の稼働に伴う騒音及び低周波音による影響が極力発生しないように、設備設置に際しては、民家等の保全対象との離隔距離を十分に確保する。

(2) 水質

- ・工事区域内では可能な限りアスファルト等の舗装はせず、地下水環境の保全に努める。

(3) 動植物

- ・現地調査により、当該地域において重要な動植物の生息及び生育が確認された場合には、本事業による環境影響を可能な限り回避、低減、代償する方法を検討する。また、可能な限り改変区域に生息・生育する重要な動植物の個体の保全に努める。
- ・残置森林を確保することにより、可能な限り動植物の生息・生育環境の保全に努める。
- ・工事関係車両の走行による野生生物との交通事故を回避するため、走行速度の制限や工事関係者への注意喚起に努める。

(4) 廃棄物

- ・工事では、新たな土地の造成（切土・盛土等）は原則実施しない。
- ・伐採樹木は有効な活用方法を検討し、再利用に努める。なお、再利用できない枝葉は関係法令を遵守し、適切に廃棄処分する。
- ・建設廃棄物は分別を徹底し、極力リサイクルに努めるとともに、リサイクルできないものは、関係法令に基づき適正に処理する。
- ・事業実施時に発生する使用済みの太陽光パネルは、リサイクルも含め、適切な方法で処理する。

(5) 景観

- ・残置森林を確保するとともに、樹木伐採は必要最小限に留め、周辺からの景観に配慮する。

(6) その他

- ・工事中の車両の運行は、通勤・通学時間帯やスクールゾーンを極力避けることとし、民家近傍では走行速度の制限や工事関係者への注意喚起に努め、交通安全に配慮する。また、工事区域の出入口には、必要に応じて誘導員を配置する。
- ・工事中は巡回警備を行い、工事完了後はパネルエリア及び変電設備周辺に立入禁止措置（立入防止柵の設置）を行うことで、防犯・安全管理に努める。
- ・残置森林を確保するとともに、樹木伐採は必要最小限に留め、温室効果ガスの吸収源としての樹木の保全に努める。
- ・工事の実施にあたっては、出来る限り作業の効率化を図り、車両の搬入・搬出には出来る限り高効率の建設機械、低燃費の運搬車両を用い、建設機械等の稼働を必要最小限に抑えることで、工事に伴う温室効果ガスの排出量低減に努める。
- ・太陽電池からの反射光が、実施区域周辺の住宅や道路に影響を及ぼさないように、事業実施区域の外周部分を残置森林等で囲む。

第2章 早期事前調査等の結果等

1 複数案の設定

「環境影響評価指針」（平成10年1月9日、兵庫県告示第28号）では、計画段階配慮事業に係る位置・規模又は構造物等の構造・配置に関する適切な複数案（以下「位置等に関する複数案」という。）を設定することを基本としている。

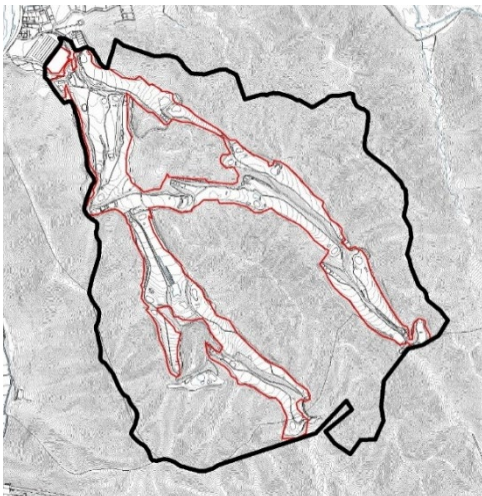
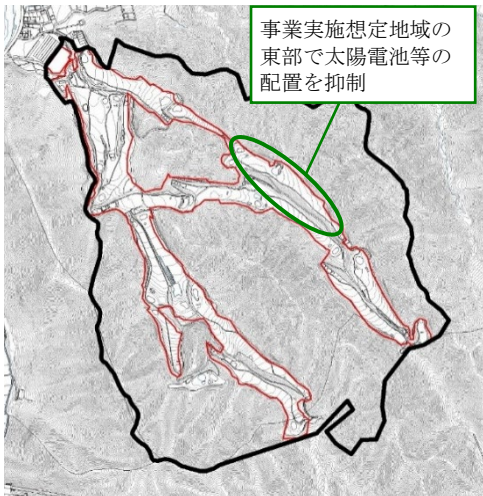
本事業では、社会インフラ整備状況を踏まえ事業候補地を設定し、法令等の規制状況及び学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設等への配慮を行った上で事業実施想定地域を設定している。

本事業では、新たな土地を開発して太陽電池等の設備を配置する行為は、事業性及び環境保全の観点より適さないものと考え、土地や地域の状況に応じた防災、環境保全等の条件が整っている箇所を選定することとし、既設のゴルフ場を事業実施想定地域とした。

一方、事業規模については、環境保全を図ったうえで最大となるよう計画した。

以上より、複数案の設定については、図1.3.2～図1.3.3及び表1.3.2に示した位置・規模で本事業を実施することを前提条件とし、配置に関する複数案を設定することとする（表2.1.1参照）。

表 2.1.1 複数案の設定の考え方

共通する基本方針	・ 姫路書写ハートフルゴルフクラブ所有地を事業実施想定地域とする。 ・ ゴルフコース等に利用するために改変済の土地を太陽電池等設置検討範囲とし、原則として新たな土地造成、樹木伐採（コース間の区切りに植栽された樹木を除く）、調整池の新設などの土地改変は実施しない。 ・ 事業規模は、現段階で設置可能と考えられる太陽光パネルの枚数及び単機出力より設定。	
複数案の設定方針	太陽光パネルの配置に違いを持たせて、複数案を設定する。	
複数案の考え方 事業実施想定地域 太陽電池等設置検討範囲	【A案】 ゴルフコースとして利用されているエリア（コース間の区切りとして利用されている樹林部を含む）について満遍なく太陽電池等を配置する。	【B案】 A案に対し、事業実施想定地域西側に位置する眺望点から比較的眺望しやすい東部の太陽電池等の配置を抑制する。
	 事業実施想定地域：約 115ha 太陽電池等設置範囲：約 31ha 非改変区域（残置森林）：約 84ha	 事業実施想定地域の東部で太陽電池等の配置を抑制 事業実施想定地域：約 115ha 太陽電池等設置範囲：約 31ha 非改変区域（残置森林）：約 84ha

2 対象事業等を実施するにつき必要な法令又は条例の規定による許認可等の種類

本事業に関連する法令又は条例の規定による許認可等は、表 2.2.1 のとおりである。

表 2.2.1 本事業に関連する法令又は条例の規定による許認可等

関係法令	適用区分
大規模開発及び取引事前指導要綱第 3 条 (昭和 50 年 2 月 兵庫県告示第 185 号)	協議
重要調整池の設置等に関する要綱第 4 条 (平成 25 年 4 月 兵庫県)	協議
砂防法第 4 条 (明治 30 年 法律第 29 号)	申請
景観法第 8 条 (平成 16 年 法律第 110 号)	届出
森林法第 34 条 (昭和 26 年 法律第 249 号)	届出
土壤汚染対策法第 4 条第 1 項 (平成 14 年 法律第 53 号)	届出
兵庫県立自然公園条例第 11 条 (昭和 38 年 7 月 条例第 80 号)	届出
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律第 10 条 (平成 12 年 法律第 104 号)	届出
道路法第 32 条 (昭和 27 年 法律第 180 号)	申請
道路交通法第 77 条第 1 項 (昭和 35 年 法律第 105 号)	申請
太陽光発電施設等と地域環境との調和に関する条例 (平成 29 年 3 月 条例第 14 号)	届出

3 特別地域の分布状況

対象区域には、「環境影響評価に関する条例」（平成 9 年 3 月 27 日兵庫県条例第 6 号、最終改正：平成 27 年 6 月 26 日）第 2 条第 3 号に示す「特別地域」に該当する地域が含まれる。同条例別表第 2 に指定された特別地域の分布状況については、以下のとおりである。

3-1 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（平成 14 年法律第 88 号）第 28 条第 1 項の規定により設定された鳥獣保護区

事業実施想定地域及びその周囲における「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年法律第 88 号、最終改正：令和 7 年 4 月 25 日）に基づく鳥獣保護区等の指定状況は表 2.3.1 及び図 2.3.1 のとおりであり、事業実施想定地域の一部（連系変電所のエリア含む）が特定猟具使用禁止区域（銃器）に指定されている。

表 2.3.1 鳥獣保護区等の指定状況（令和 7 年度）

区分	名称	所在地	面積（ha）
鳥獣保護区	姫路市	姫路市	761
鳥獣保護区	書写山	姫路市	113（38）
鳥獣保護区	増位山	姫路市	862
鳥獣保護区	桜山	姫路市	761
特定猟具使用禁止区域（銃器）	姫路	姫路市	15,903
特定猟具使用禁止区域（銃器）	姫路市白鳥池	姫路市	100
特定猟具使用禁止区域（銃器）	油押大池	姫路市	5
特定猟具使用禁止区域（銃器）	書写	姫路市	126
特定猟具使用禁止区域（銃器）	城山	姫路市	155
特定猟具使用禁止区域（銃器）	寺 CSR	姫路市	210

注：（）内は鳥獣保護区特別保護地区の内数。

出典：「兵庫県環境部自然鳥獣共生課資料」（令和 8 年 1 月ヒアリング、兵庫県環境部自然鳥獣共生課）

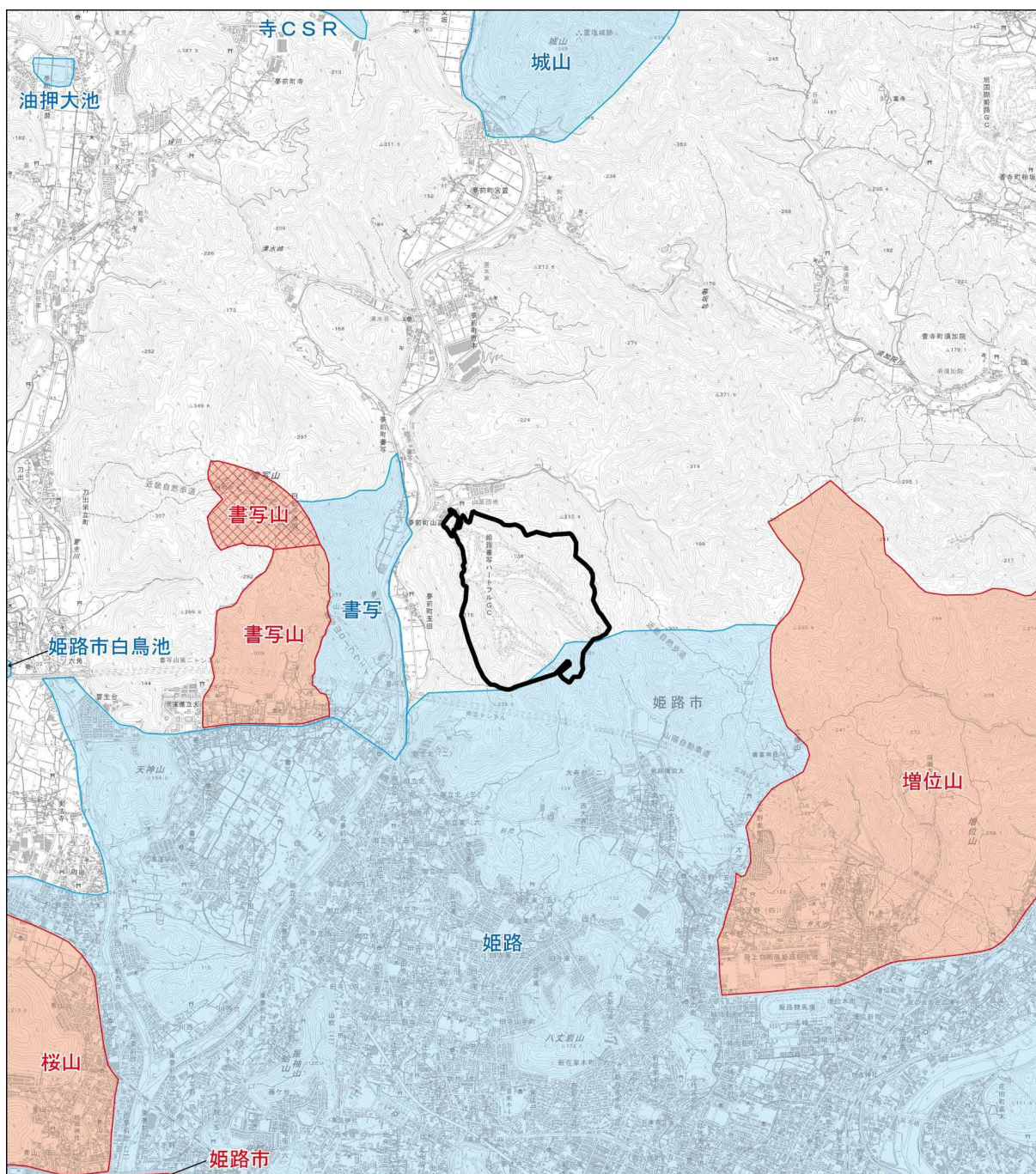
3-2 森林法（昭和 26 年法律第 249 号）第 25 条第 1 項若しくは第 2 項又は第 25 条の 2 第 1 項若しくは第 2 項の規定により指定された保安林の区域

事業実施想定地域及びその周囲における「森林法」（昭和 26 年法律第 249 号、最終改正：令和 7 年 5 月 30 日）に基づく保安林の指定状況は図 2.3.2 のとおりであり、事業実施想定地域内の一部（連系変電所エリア含む）が保安林に指定されている。

3-3 自然公園法（昭和 32 年法律第 161 号）第 5 条第 1 項の規定により指定された国立公園又は同条第 2 項の規定により指定された国定公園の区域

事業実施想定地域及びその周囲における「自然公園法」（昭和 32 年法律第 161 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）に基づく国立公園及び国定公園の指定はない。

出典：「自然公園」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）



凡 例

-  事業実施想定地域
-  県指定鳥獣保護区
-  県指定鳥獣保護区特別保護地区
-  特定猟具使用禁止区域（銃器）



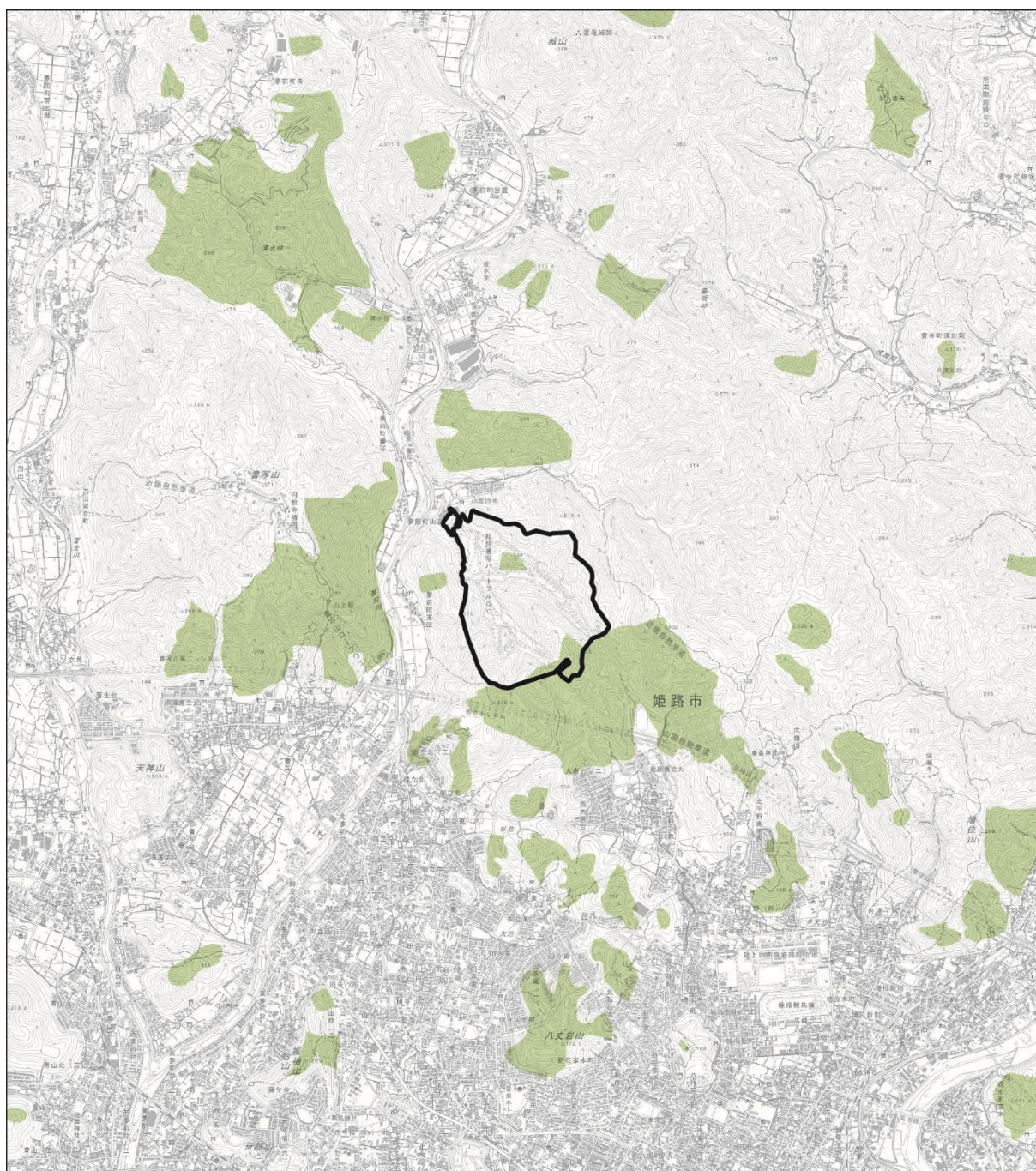
1:50,000

0 500 1,000 2,000
m

図 2.3.1

鳥獣保護区等

出典：「令和7年度兵庫県鳥獣保護区等位置図」（令和7年11月更新、兵庫県 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

- 事業実施想定地域
- 保安林



0 500 1,000 2,000
m

図 2.3.2
保安林

出典：「国土数値情報 森林地域データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

3-4 近畿圏の保全区域の整備に関する法律（昭和 42 年法律第 103 号）第 6 条第 1 項の規定により定められた同条第 2 項に規定する近郊緑地特別保全地区

事業実施想定地域及びその周囲における「近畿圏の保全区域の整備に関する法律」（昭和 42 年法律第 103 号、最終改正：令和 6 年 5 月 29 日）に基づく近郊緑地特別保全地区の指定はない。

出典：「近郊緑地保全区域（令和 2 年 3 月 31 日現在）」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

3-5 都市計画法（昭和 43 年法律第 100 号）第 7 条第 1 項の規定により定められた市街化調整区域及び同法第 8 条第 1 項の規定により定められた同項第 7 号に規定する風致地区

事業実施想定地域及びその周囲における「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号、最終改正：令和 7 年 6 月 4 日）に基づく市街化調整区域指定状況は図 2.3.3 のとおりであり、事業実施想定地域の一部（連系変電所エリア含む）が市街化調整区域に指定されている。なお、風致地区の指定はない。

出典：B「風致地区制度」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

3-6 農業振興地域の整備に関する法律（昭和 44 年法律第 58 号）第 8 条第 1 項の規定により市町が定めた農業振興地域整備計画において定められた同条第 2 項第 1 号に規定する農用地区域

事業実施想定地域及びその周囲における「農業振興地域の整備に関する法律」（昭和 44 年法律第 58 号、最終改正：令和 6 年 6 月 21 日）に基づく農用地区域の指定状況は図 2.3.4 のとおりである。

3-7 自然環境保全法（昭和 47 年法律第 85 号）第 14 条第 1 項の規定により指定された原生自然環境保全地域及び同法第 22 条第 1 項の規定により指定された自然環境保全地域

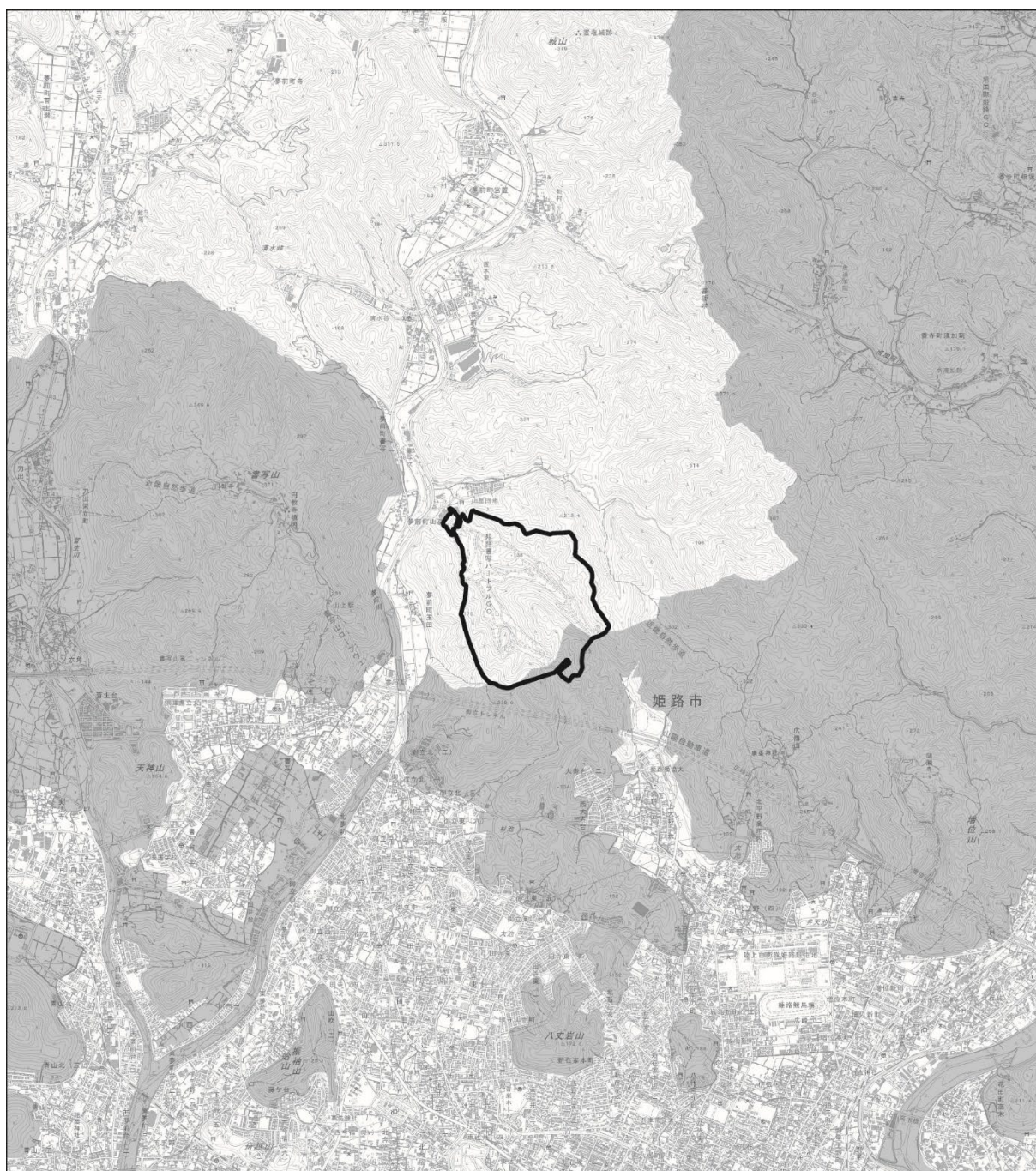
事業実施想定地域及びその周囲における「自然環境保全法」（昭和 47 年法律第 85 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）に基づく原生自然環境保全地域及び自然環境保全地域の指定はない。

出典：「自然環境保全地域」（令和 8 年 1 月閲覧、環境省 HP）

3-8 都市緑地法（昭和 48 年法律第 72 号）第 12 条第 1 項の規定により定められた特別緑地保全地区

事業実施想定地域及びその周囲における「都市緑地法」（昭和 48 年法律第 72 号、最終改正：令和 6 年 5 月 29 日）の規定に基づく緑地保全地域及び特別緑地保全地区の指定はない。

出典：「令和 6 年都市計画現況調査（令和 6 年 3 月 31 日現在）」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）



凡 例

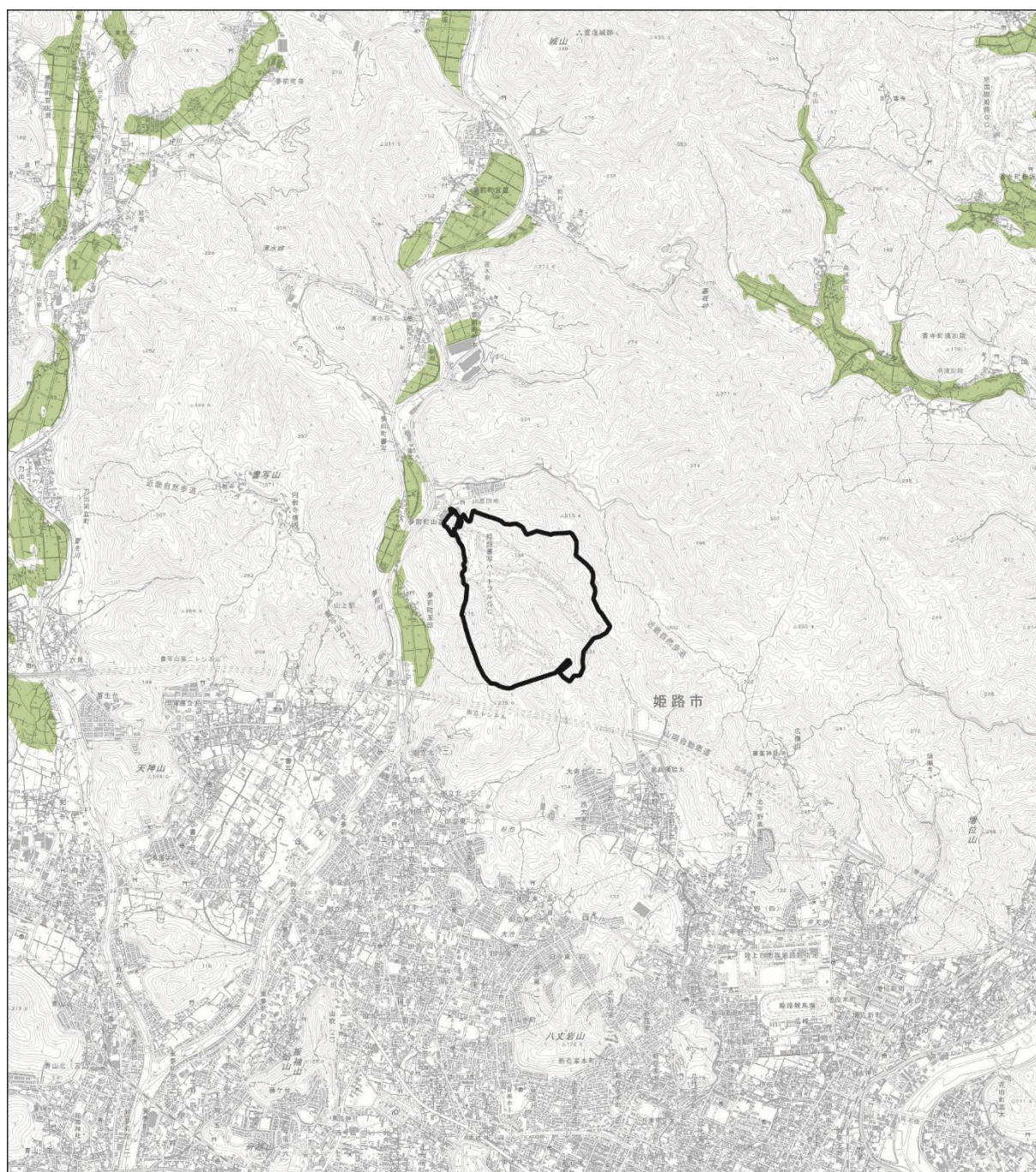
-  事業実施想定地域
-  市街化調整区域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.3.3
市街化調整区域

出典：「国土数値情報 都市計画決定情報データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

-  事業実施想定地域
-  農用地区域



0 500 1,000 2,000 m

図 2.3.4
農用地区域

出典：「国土数値情報 農業地域データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

3-9 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号）第36条第1項の規定により指定された生息地等保護区

事業実施想定地域及びその周囲における「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号、最終改正：令和4年6月17日）に基づく生息地等保護区の指定はない。

出典：「生息地等保護区（令和3年7月時点）」（令和8年1月閲覧、環境省HP）

3-10 兵庫県立自然公園条例（昭和38年兵庫県条例第80号）第3条第1項の規定により指定された自然公園の区域

事業実施想定地域及びその周囲における「兵庫県立自然公園条例」（昭和38年兵庫県条例第80号、最終改正：令和7年3月25日）に基づく自然公園の指定状況は表2.3.2及び図2.3.5のとおりであり、事業実施想定地域内の大部分が西播丘陵県立自然公園に指定されている。

表 2.3.2 兵庫県立自然公園条例に基づく自然公園の指定状況

名称	当初指定年月日	公園面積 (ha)	関係市町
西播丘陵県立自然公園	昭和34年7月21日	6,433 (内、特別地域849)	姫路市・相生市・たつの市

出典：「令和7年度版 環境白書」（令和8年6月閲覧、兵庫県HP）

3-11 環境の保全と創造に関する条例（平成7年兵庫県条例第28号）第89条第1項の規定により指定された自然環境保全地域、同条例第95条第1項の規定により指定された環境緑地保全地域、同条例第100条第1項の規定により指定された自然海浜保全地区及び同条例第104条第1項の規定により指定された指定野生動植物種保存地域

事業実施想定地域及びその周囲における「環境の保全と創造に関する条例」（平成7年兵庫県条例第28号、最終改正：令和7年3月25日）に基づく自然環境保全地域の指定状況は表2.3.3及び図2.3.6のとおりである。環境緑地保全地域、自然海浜保全地区及び指定野生動植物種保存地域の指定はない。

表 2.3.3 環境の保全と創造に関する条例に基づく自然環境保全地域の指定状況

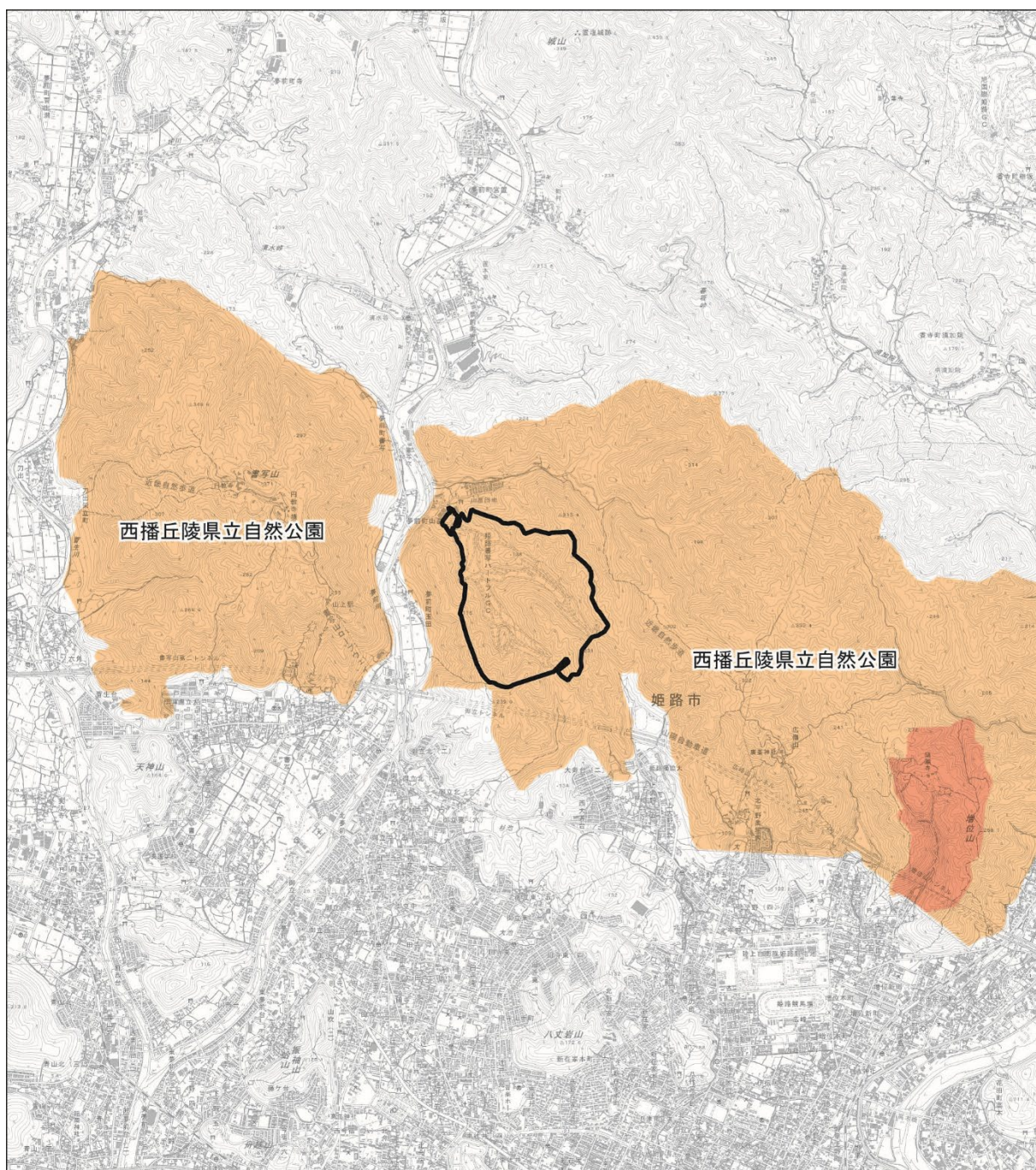
名称	指定年月日	面積等 (ha)	所在地
八徳山自然環境保全地域	昭和49年3月12日	37.1（うち特別区域：13.2）	姫路市
置塩城跡自然環境保全地域	昭和49年3月12日	101.2（うち特別区域：7.3）	姫路市

出典：「自然環境保全地域等」（令和8年1月閲覧、兵庫県HP）

3-12 緑豊かな地域環境の形成に関する条例（平成6年兵庫県条例第16号）第7条第1項の規定により指定された緑豊かな環境形成地域（同条例第9条第1項第1号に掲げる区域）

事業実施想定地域及びその周囲における「緑豊かな地域環境の形成に関する条例」（平成6年兵庫県条例第16号、最終改正：平成21年3月23日）第7条第1項の規定により指定された緑豊かな環境形成地域の指定はない。

出典：「緑条例の運用（西播磨地域）」（令和8年1月閲覧、兵庫県HP）



凡 例

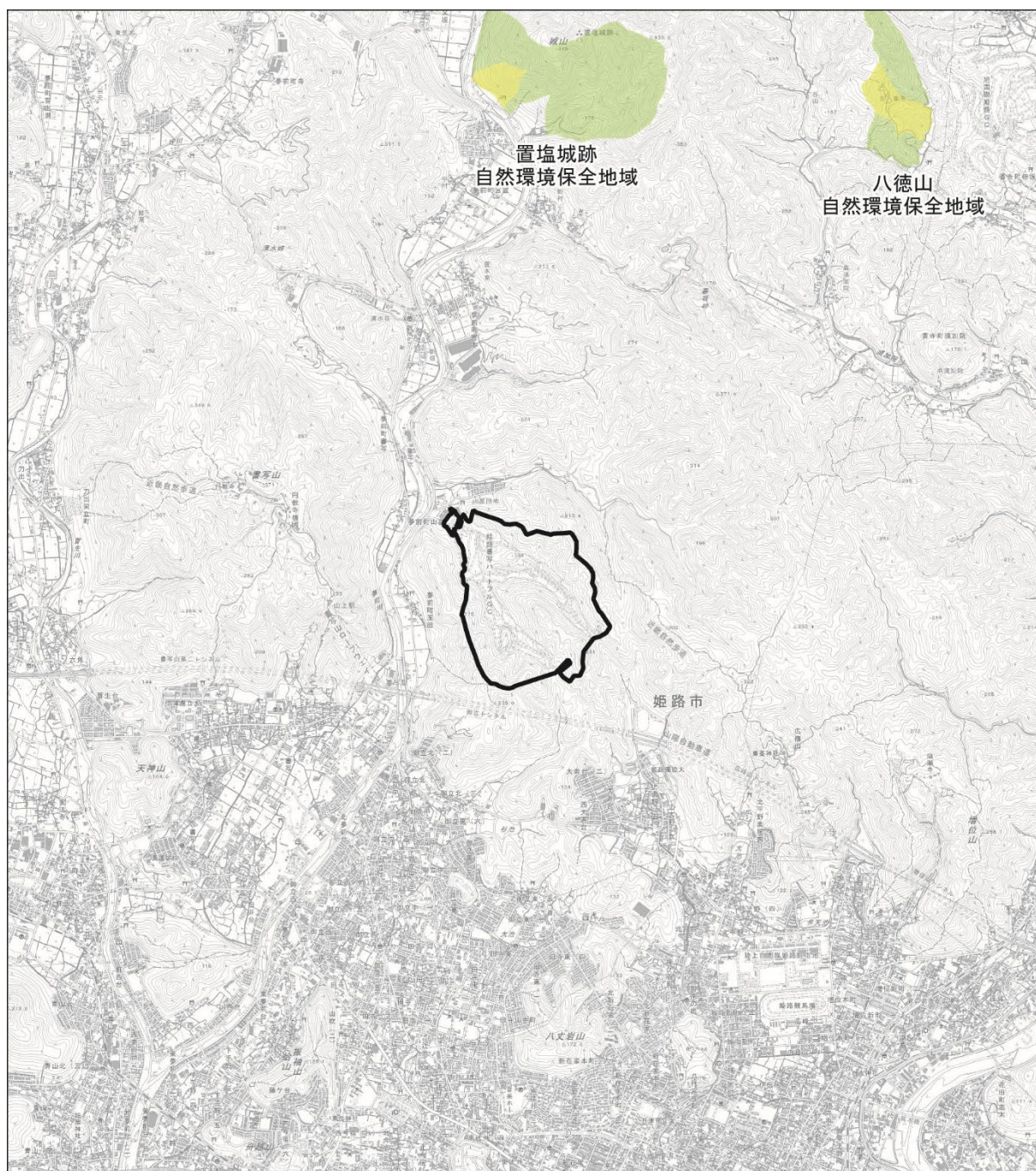
-  事業実施想定地域
-  兵庫県立自然公園
-  兵庫県立自然公園 (特別地域)



0 500 1,000 2,000
m

図 2.3.5
兵庫県立自然公園条例に基
づく自然公園の指定状況

出典：「国土数値情報 自然公園地域データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

-  事業実施想定地域
-  兵庫県自然環境保全地域
-  兵庫県自然環境保全地域（特別地区）



0 500 1,000 2,000
m

図 2.3.6
自然環境保全地域の指定状況

出典：「環境アセスメントデータベース」（令和8年1月閲覧、環境省HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

4 早期事前調査等の結果等

4-1 早期事前調査等の全部又は一部を他の者に委託して行った場合にはその者の氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては、その代表者の氏名

委託者	名 称：AMP12 合同会社 代表者：AMP1 一般社団法人 職務執行者 中垣 光博 所在地：東京都千代田区内神田一丁目 3 番 7 号 401 あすな会計事務所内
受託者	名 称：国際航業株式会社 代表者：代表取締役社長 藤原 協 所在地：東京都新宿区北新宿 2 丁目 21 番 1 号

4-2 早期事前調査等の結果等

4-2-1 社会的状況

(1) 人口等

① 人口

姫路市並びに兵庫県の人口等の状況は表 2.4.1 に、姫路市の人口と世帯数の推移は表 2.4.2 及び図 2.4.1 のとおりである。

姫路市における人口の推移は、緩やかな減少傾向にある。

表 2.4.1 人口・世帯数の状況

区分	世帯数（世帯）	人口（人）	人口密度（人/km ² ）	面積（km ² ）
姫路市	231,679	516,669	966.5	534.56
兵庫県	2,476,274	5,307,197	631.7	8,400.82

注：令和 8 年 5 月 1 日現在。

出典：「推計人口」（令和 8 年 5 月閲覧、兵庫県 HP）

表 2.4.2 姫路市の人口と世帯数の推移

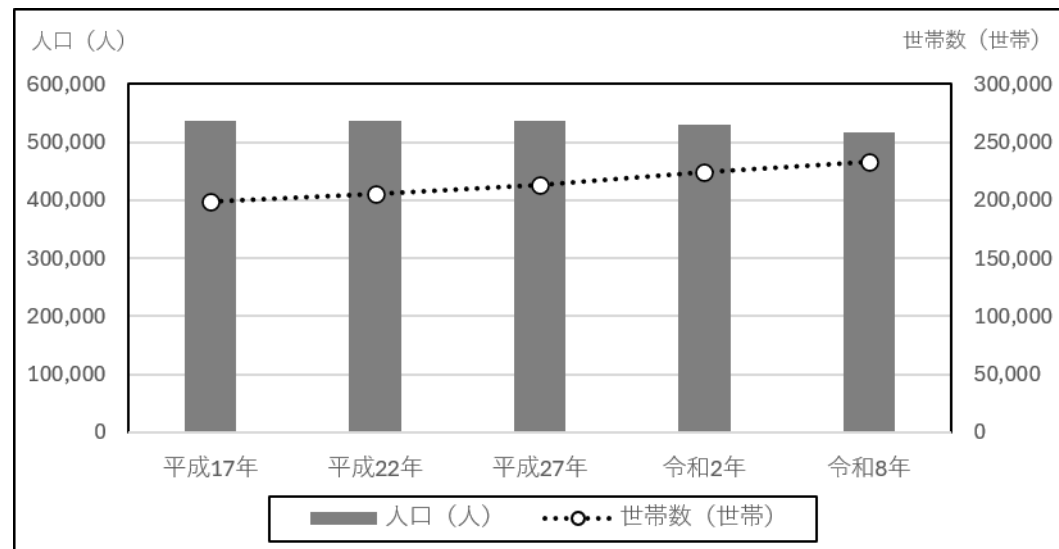
区分	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年	令和 8 年
人口（人）	536,261	536,270	535,664	530,495	516,529
世帯数（世帯）	198,771	205,587	212,801	224,106	233,116

注：1. 平成 22 年、平成 27 年、令和 2 年の値は国勢調査での値である（各年 10 月 1 日時点）。

注：2. 平成 17 年の値は、平成 18 年に姫路市に編入された飾磨郡家島町・夢前町・神崎郡香寺町・宍粟郡安富町の値を加えた値である。

注：3. 令和 8 年の値は、国勢調査（令和 7 年 10 月 1 日実施）を基礎とし、住民基本台帳法に基づく当該月間の移動数を基に集計したものである（令和 8 年 5 月 1 日現在）。

出典：「推計人口」（令和 8 年 5 月閲覧、兵庫県 HP）



注：1. 平成 22 年、平成 27 年、令和 2 年の値は国勢調査での値である（各年 10 月 1 日時点）。

注：2. 平成 17 年の値は、平成 18 年に姫路市に編入された飾磨郡家島町・夢前町・神崎郡香寺町・宍粟郡安富町の値を加えた値である。

注：3. 令和 8 年の値は、国勢調査（令和 7 年 10 月 1 日実施）を基礎とし、住民基本台帳法に基づく当該月間の移動数を基に集計したものである（令和 8 年 5 月 1 日現在）。

出典：「推計人口」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

図 2.4.1 姫路市の人口と世帯数の推移

② 産業

姫路市並びに兵庫県の産業別就業者数は表 2.4.3 のとおりである。

令和 3 年 6 月 1 日現在の姫路市は、「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の占める割合が高い。

表 2.4.3 産業別就業者数

産業		姫路市（人）	兵庫県（人）
第一次産業	農業，林業，漁業	692	11,283
第二次産業	鉱業，採石業，砂利採取業	98	275
	建設業	17,149	110,274
	製造業	50,414	401,351
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	1,618	5,219
	情報通信業	2,505	26,824
	運輸業，郵便業	14,665	129,185
	卸売業，小売業	48,564	436,975
	金融業，保険業	5,946	41,775
	不動産業，物品賃貸業	6,396	60,592
	学術研究，専門・技術サービス業	8,449	68,990
	宿泊業，飲食サービス業	19,046	194,110
	生活関連サービス業，娯楽業	8,436	85,553
	教育，学習支援業	10,952	93,819
	医療，福祉	34,975	352,550
	複合サービス事業	1,753	16,297
	サービス業（他に分類されないもの）	24,418	186,397
総数		256,076	2,221,469

注：1. 就業者数（総数）には分類不能の産業を含むため、第 1～3 次産業就業者数の合計とは一致しない。

出典：「市区町別主要統計指標令和 7 年版」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

1) 農業

姫路市並びに兵庫県の農業産出額は表 2.4.4 のとおりである。

令和 5 年の姫路市の農業産出額は、耕種では「米」が、畜産では「鶏卵」が多くなっている。

表 2.4.4 農業産出額

種別		姫路市（千万円）	兵庫県（億円）
耕種	米	224	441
	麦類	4	3
	雑穀	0	0
	豆類	14	15
	いも類	5	10
	野菜	97	386
	果実	4	44
	花き	18	42
	工芸農作物	0	1
	茶	0	0
	その他作物	1	7
畜産	肉用牛	64	186
	乳用牛	11	110
	生乳	x	101
	豚	x	20
	鶏	292	411
	鶏卵	292	303
	ブロイラー	-	82
その他畜産物		x	2
加工農産物		0	0
合計		745	1,677

注：「0」は単位に満たないものを、「-」は事実のないものを、「x」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないものを示す。

出典：「生産農業所得統計」（令和 8 年 1 月閲覧、農林水産省 HP）

2) 林業

姫路市並びに兵庫県の所有形態別林野面積は表 2.4.5 のとおりである。

令和 2 年 2 月 1 日現在における姫路市の林野面積は、30,543ha となっている。

表 2.4.5 所有形態別林野面積

(単位：ha)

区分	合計	国有			民有							
		計	林野庁	林野庁 以外の 官庁	計	独立 行政法 人等	公有					私有
							小計	都道 府県	森林整 備法人 (林業 ・造林 公社)	市区 町村	財産区	
姫路市	30,543	1,648	1,642	6	28,895	524	2,491	148	1,196	584	563	25,880
兵庫県	563,148	29,563	28,161	1,402	533,585	27,434	74,547	6,869	24,533	34,324	8,821	431,604

出典：「2020 年農林業センサス」（令和 8 年 1 月閲覧、農林水産省 HP）

3) 水産業

(a) 海面漁業

姫路市の令和 5 年の経営組織別経営体数は表 2.4.6 に、平成 30 年の漁業種類別漁獲量は表 2.4.7 のとおりである。

姫路市の海面漁業経営体数は、376 経営体であり、そのうち 309 経営体は個人経営体となっている。また、姫路市の平成 30 年の漁業種類別漁獲量は 10,589t となっている。

表 2.4.6 経営組織別経営体数（令和 5 年）

区分	計	個人経営体	会社	漁業 協同組合	漁業 生産組合	共同経営	その他
姫路市	376	309	-	-	-	67	-

注：1. 経営体数は、令和 5 年 11 月 1 日時点の値である。

注：2. 「-」は皆無または該当事実のないものを示す。

出典：「兵庫県統計書令和 6 年（2024）」（令和 8 年 3 月閲覧、兵庫県 HP）

表 2.4.7 漁業種類別漁獲量（平成 30 年）

区 分				漁獲量 (t)
底びき網	遠洋底びき網			-
	以西底びき網			-
	沖合底びき網			-
	小型底びき網			1,685
船びき網				2,004
まき網	大中型まき網	1 そうまき	遠洋かつお・まぐろ	-
			その他	-
		2 そうまき網		-
	中・小型まき網			6,317
刺 網	さけ・ます流し網			-
	かじき等流し網			-
	その他の刺網			291
さんま棒受網				-
定置網	大型定置網			-
	さけ定置網			-
	小型定置網			113
その他の網漁業				-
はえ縄	まぐろはえ縄	遠洋まぐろはえ縄		-
		近海まぐろはえ縄		-
		沿岸まぐろはえ縄		-
	その他のはえ縄			X
はえ縄以外の釣	かつお一本釣	遠洋かつお一本釣		-
		近海かつお一本釣		-
		沿岸かつお一本釣		-
	いか釣	近海いか釣		-
		沿岸いか釣		-
	ひき縄釣			X
その他の釣			25	
その他の漁業				130
漁獲量計				10,589

注：1. 「-」は事実のないもの、「x」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため統計数値を公表しないものを示す。

注：2. 調査期間は 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間とした。

出典：「海面漁業生産統計調査（平成 30 年）」（令和 8 年 1 月閲覧、農林水産省 HP）

(b) 内水面漁業

兵庫県内では 12 の河川及びその支流で共同漁業権が免許されており、姫路市を流下する夢前川水系夢前川等には内水面漁業権が設定されているが、漁獲量等のデータは公表されていない。

4) 商業

姫路市並びに兵庫県の商業の状況は表 2.4.8 のとおりである。

姫路市の小売業における令和 3 年の年間商品販売額は 550,738 万円となっている。

表 2.4.8 商業の状況

区分	合計			卸売業計			小売業計		
	事業所数	従業者数(人)	年間商品販売額(万円)	事業所数	従業者数(人)	年間商品販売額(万円)	事業所数	従業者数(人)	年間商品販売額(万円)
姫路市	4,701	41,688	1,651,935	1,249	11,904	1,101,198	3,452	29,784	550,738
兵庫県	39,709	361,685	14,059,526	8,955	90,726	8,862,298	30,754	270,959	5,197,228

注：事業所及び従業者数は令和 3 年 6 月 1 日現在、年間商品販売額は令和 2 年 1 年間の数値である。

出典：「令和 3 年経済センサス-活動調査」（令和 8 年 1 月閲覧、総務省統計局 HP）

5) 工業

姫路市並びに兵庫県の工業の状況は表 2.4.9 のとおりである。

姫路市における令和 3 年の製造品出荷額等は 243,463,496 万円となっている。

表 2.4.9 工業の状況（従業員 4 人以上）

区分	事業所数	従業者数(人)	製造品出荷額等(万円)
姫路市	865	47,274	243,463,496
兵庫県	7,219	355,619	1,641,450,757

注：事業所及び従業者数は令和 4 年 6 月 1 日現在、年間商品販売額は令和 3 年 1 年間の値。

出典：「兵庫県統計書令和 5 年(2023)」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

(2) 交通

① 道路交通

事業実施想定地域及びその周囲における主要な道路の状況は図 2.4.2 のとおりであり、山陽自動車道、兵庫県道 67 号姫路神河線、兵庫県道 516 号姫路環状線等があげられる。

令和 3 年度の交通量調査結果は表 2.4.10 に、交通量調査地点は図 2.4.2 のとおりである。

事業実施想定地域の西側に位置する兵庫県道 67 号姫路神河線（姫路市夢前町宮置）の昼間 12 時間交通量は 9,963 台となっている。

表 2.4.10 主要な道路の交通状況（令和 3 年度）

図中 番号	路線名	観測地点地名	昼間 12 時間（台）			24 時間（台）		
			小型車	大型車	合計	小型車	大型車	合計
①	山陽自動車道	山陽姫路東～山陽姫路西	11,147	11,823	22,970	13,835	24,892	38,727
②	一般国道 312 号	姫路市保城	24,079	1,543	25,622	<u>31,237</u>	<u>3,609</u>	<u>34,846</u>
③	姫路上郡線	姫路市書写	11,022	519	11,541	<u>13,970</u>	<u>1,149</u>	<u>15,119</u>
④	姫路神河線	姫路市辻井	7,522	385	7,907	<u>9,395</u>	<u>726</u>	<u>10,121</u>
⑤	姫路神河線	姫路市夢前町宮置	9,431	532	9,963	<u>11,840</u>	<u>1,012</u>	<u>12,852</u>
⑥	宍粟香寺線	姫路市夢前町寺	3,267	568	3,835	4,231	646	4,877
⑦	宍粟香寺線	姫路市香寺町須加院	206	3	209	233	5	238
⑧	花田野里線	姫路市花田町高木	9,064	449	9,513	<u>11,379</u>	<u>893</u>	<u>12,272</u>
⑨	山之内苅野姫路線	姫路市刀出	8,895	912	9,807	<u>11,270</u>	<u>1,381</u>	<u>12,651</u>
⑩	石倉玉田線	姫路市書写	7,301	511	7,812	9,202	618	9,820
⑪	姫路新宮線	姫路市青山北一丁目	10,543	926	11,469	<u>13,472</u>	<u>1,552</u>	<u>15,024</u>

注：1. 図中番号は、図 2.4.2 中の番号に対応する。

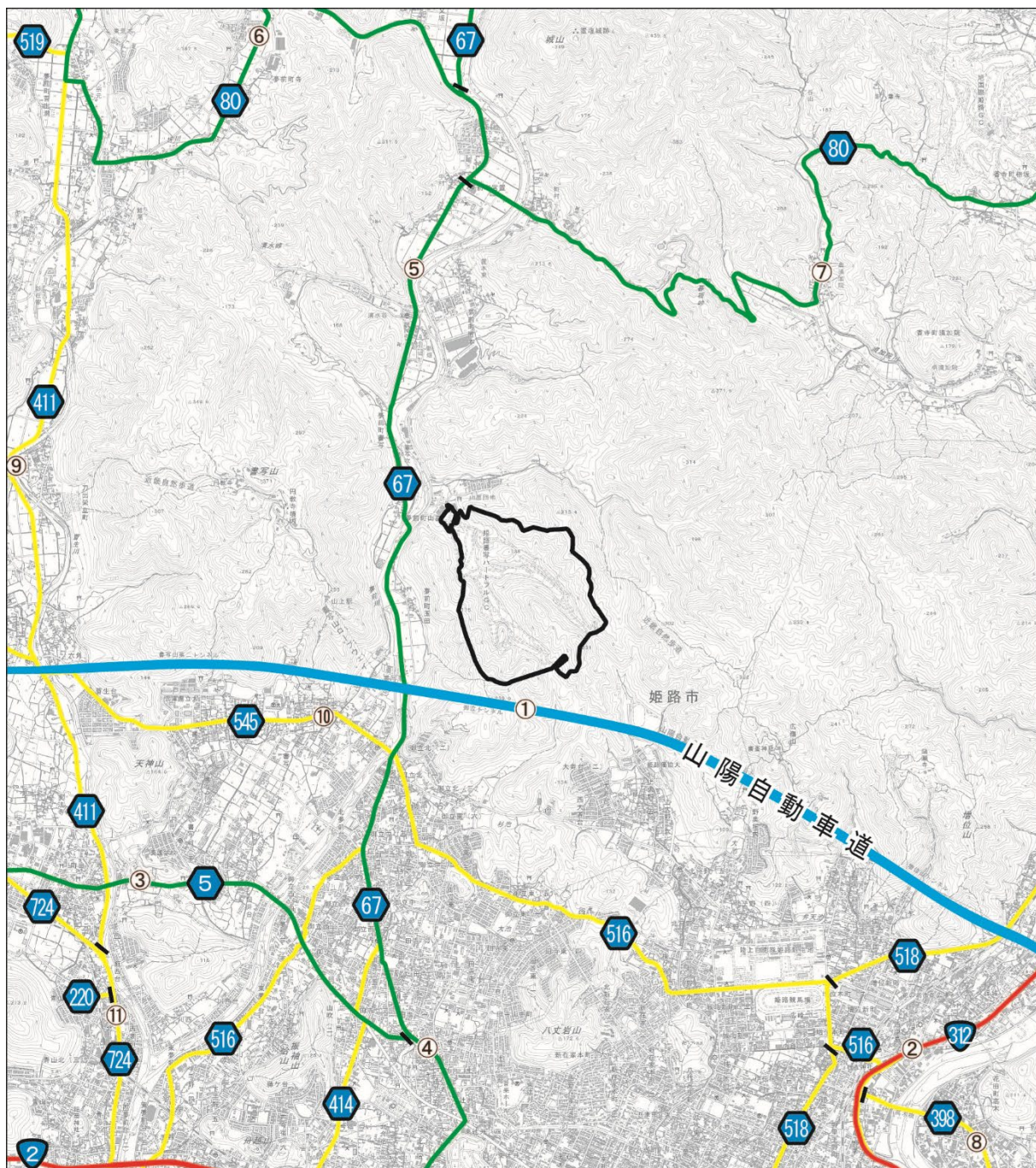
注：2. 傾斜下線の値は、推定値である。

注：3. 12 時間及び 24 時間の観測時間帯は以下のとおりである。

12 時間観測：午前 7 時～午後 7 時

24 時間観測：午前 7 時～翌日午前 7 時または午前 0 時～翌日午前 0 時

出典：「道路に関するデータ（道路交通センサス）」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）



凡 例

- 事業実施想定地域
- 関越自動車道
- No 一般国道
- No 県道（主要地方道）
- No 県道（一般県道）
- ①～⑪ 交通量調査地点



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.2
主要な道路の状況及び交通
量調査地点位置

出典：「道路に関するデータ（道路交通センサス）」（令和7年8月更新、兵庫県 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

② 鉄道

事業実施想定地域及びその周囲における鉄道網は、図 2.4.3 のとおりである。

事業実施想定地域南西側に JR 西日本姫新線が、南東側に JR 西日本播但線が整備されており、最寄り駅としては事業実施想定地域の南東側約 4.1km に余部駅が、南東側約 3.7km に野里駅がある。また、事業実施想定地域の西側約 1.0km には書写山ロープウェイが整備されている。

各駅の年間乗車人員の推移は、表 2.4.11 のとおりであり、令和 5 年度の乗車人員は余部駅が 768 千人、書写山ロープウェイの利用者は 323,770 人、播但線のデータについては非公表となっている。

表 2.4.11 乗車人員の推移

年度	余部駅（千人）	書写山ロープウェイ（人）
令和 5 年度	768	323,770
令和 4 年度	750	255,987
令和 3 年度	697	188,606
令和 2 年度	652	176,379
令和元年度	815	354,132

注：書写山ロープウェイに関しては、以下の運休あり。

令和元年度は R2/1/20～3/17 運休。ただし、2/2,3 は通常運行。

令和 2 年度は R2/4/20～5/31 運休。R3/2/8～2/26 整備運休。

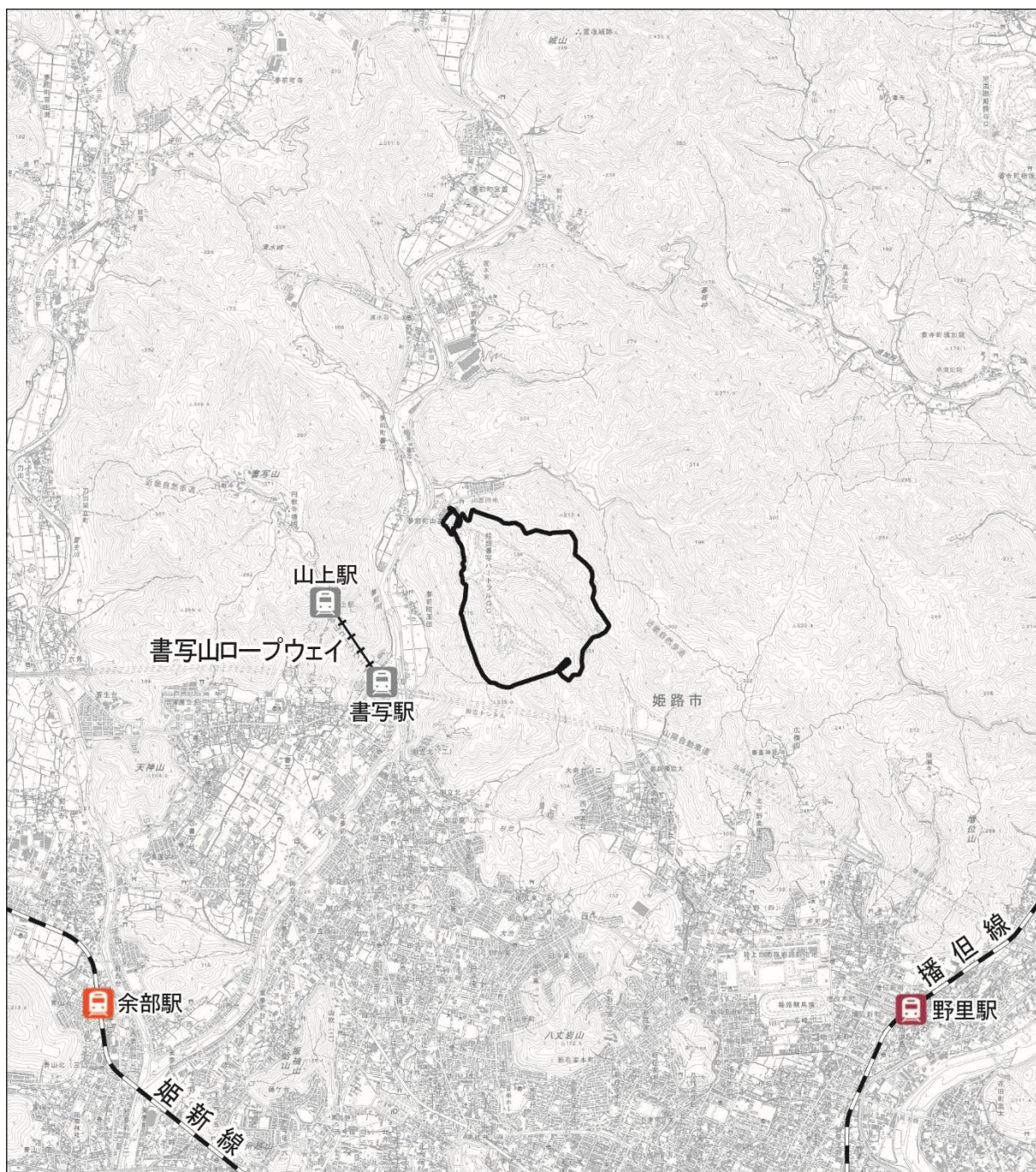
令和 3 年度は R3/4/25～5/11 運休。R4/1/24～3/11 整備運休。

ただし、2/1～3、3/5,6 は通常運行。

令和 4 年度は R5/2/27～3/31 整備運休。

令和 5 年度は R6/2/13～3/13 整備運休。

出典：「姫路市統計要覧 令和 6 年（2024 年）版」（令和 7 年 3 月発行、姫路市 HP）



凡 例

-  事業実施想定地域
-  JR西日本姫新線
-  JR西日本播但線
-  書写山ロープウェイ



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.3
鉄道網図

注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

(3) 土地利用

① 土地利用の状況

姫路市並びに兵庫県における地目別土地利用面積は表 2.4.12 及び図 2.4.4 のとおりである。

姫路市の地目別土地利用は、山林の面積が 161.3km² と約半分を占めている。

事業実施想定地域及びその周囲の土地利用図は図 2.4.5 のとおりであり、事業実施想定地域はゴルフ場、森林となっている。

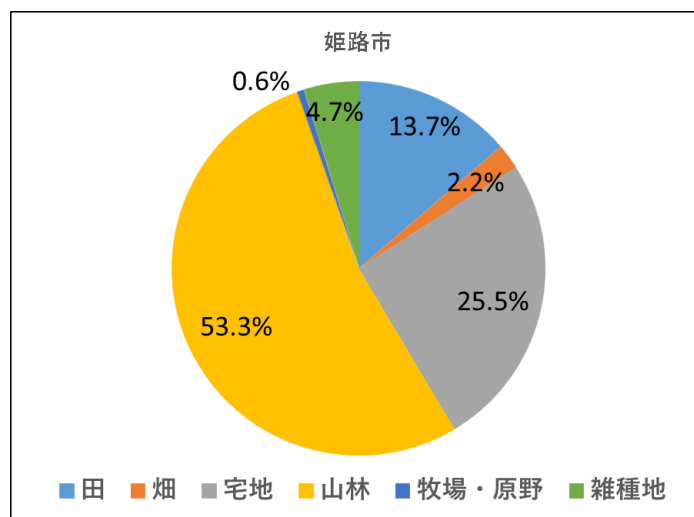
表 2.4.12 地目別土地利用の状況

(単位：km²)

区分	総数	田	畑	宅地	山林	牧場・原野	雑種地
姫路市	303.0	41.5	6.8	77.2	161.3	1.8	14.2
兵庫県	3,943.6	683.0	117.7	590.2	2,272.3	50.1	226.4

注：令和 6 年 1 月 1 日現在の値である。

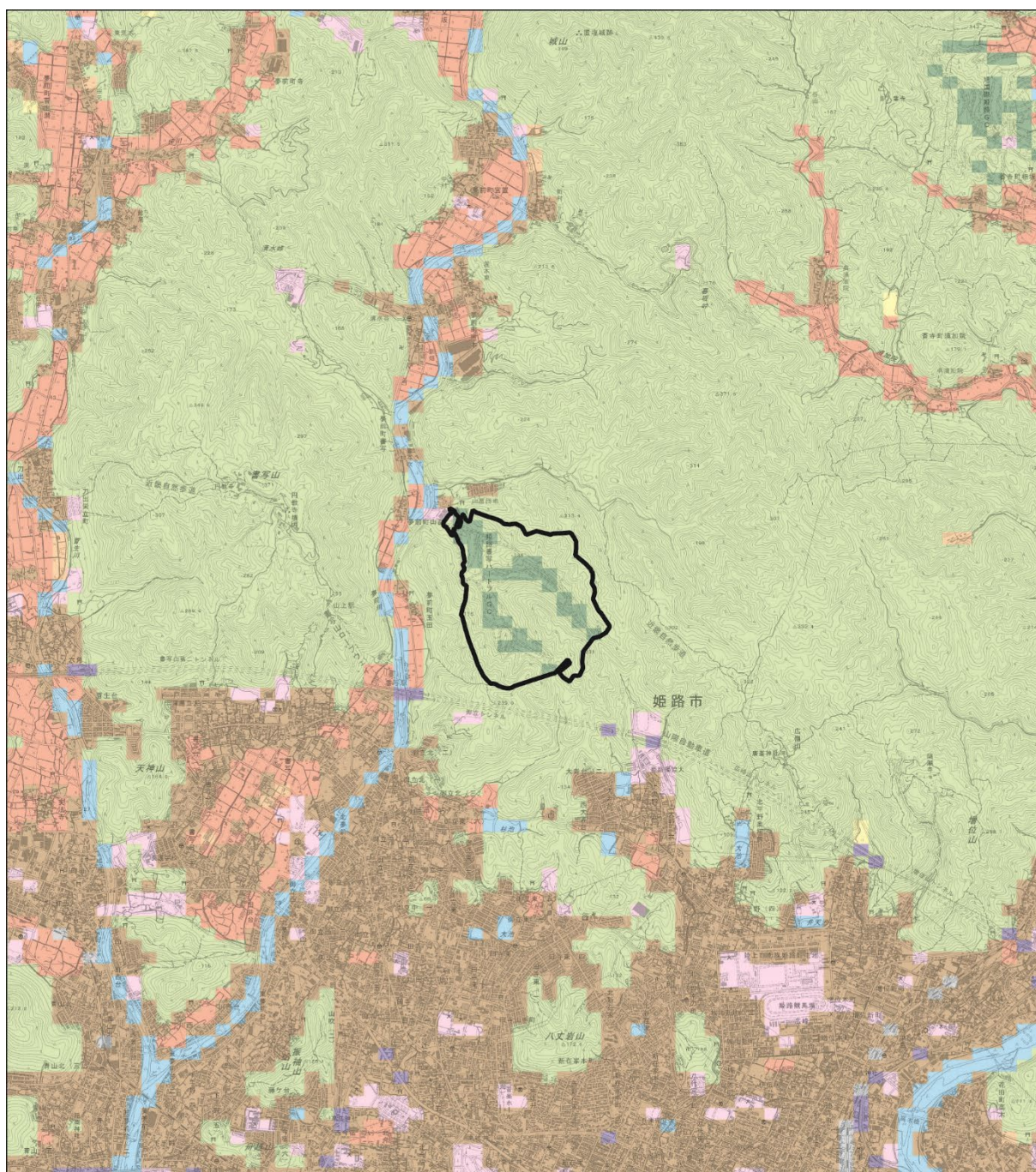
出典：「市区町別主要統計指標令和 7 年版」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）



注：令和 6 年 1 月 1 日現在の値である。

出典：「市区町別主要統計指標令和 7 年版」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

図 2.4.4 地目別土地利用の状況



凡 例

-  事業実施想定地域
-  田
-  その他の農用地
-  森林
-  荒地
-  建物用地
-  道路
-  鉄道
-  その他の用地
-  河川及び湖沼
-  ゴルフ場



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.5
土地利用図

出典：「国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

② 土地利用規制の状況

1) 土地利用基本計画に基づく地域の指定状況

「国土利用計画法」（昭和 49 年法律第 92 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）に基づき定められた、土地利用基本計画の各地域は次のとおりである。

(a) 都市地域

事業実施想定地域及びその周囲の都市地域は図 2.4.6 のとおりであり、事業実施想定地域の一部（連系変電所エリア含む）が都市地域に指定されている。

(b) 農業地域

事業実施想定地域及びその周囲の農業地域は図 2.4.7 のとおりであり、事業実施想定地域周辺には農業地域が分布している。

(c) 森林地域

事業実施想定地域及びその周囲の森林地域は図 2.4.8 のとおりであり、事業実施想定地域の一部（連系変電所エリア含む）が森林地域に指定されている。

2) 農業振興地域整備計画に基づく農用地区域

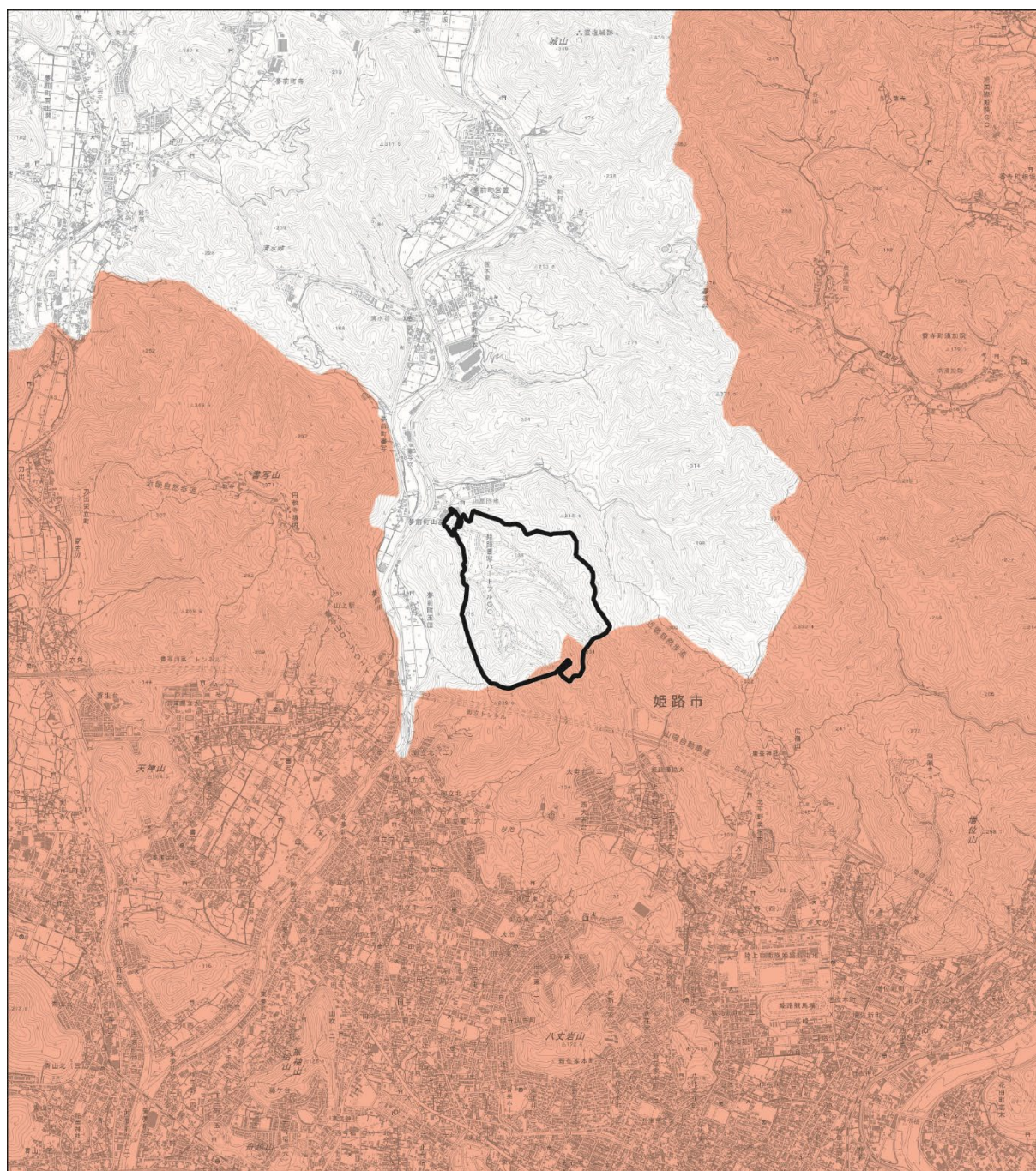
事業実施想定地域及びその周囲における「農業振興地域の整備に関する法律」（昭和 44 年法律第 58 号、最終改正：令和 6 年 6 月 21 日）に基づき定められた農用地区域は図 2.3.4 に示したとおりであり、事業実施想定地域周辺には農用地区域が分布している。

3) 地域森林計画に基づく民有林

事業実施想定地域及びその周囲における「森林法」（昭和 26 年法律第 249 号、最終改正：令和 7 年 5 月 30 日）に基づき定められた地域森林計画対象民有林は図 2.4.9 のとおりであり、事業実施想定地域及びその周囲には民有林が分布している。

4) 都市計画に基づく用途地域

事業実施想定地域の位置する姫路市内の「都市計画法」に基づく用途地域の指定状況は図 2.4.10 のとおりであり、事業実施想定地域は用途地域の指定のない区域となっている。



凡 例

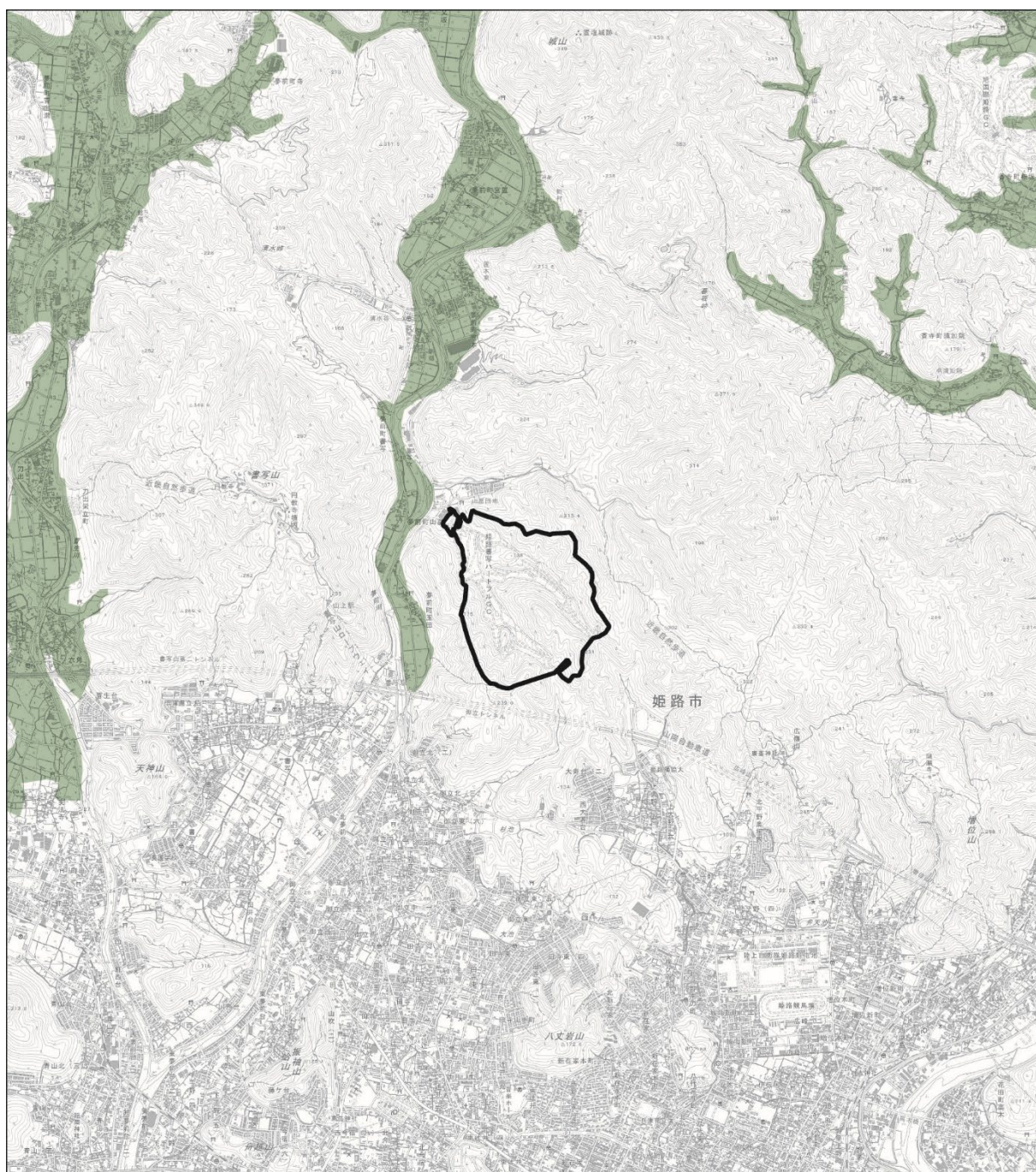
- 事業実施想定地域
- 都市地域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.6
都市地域

出典：「国土数値情報 都市地域データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

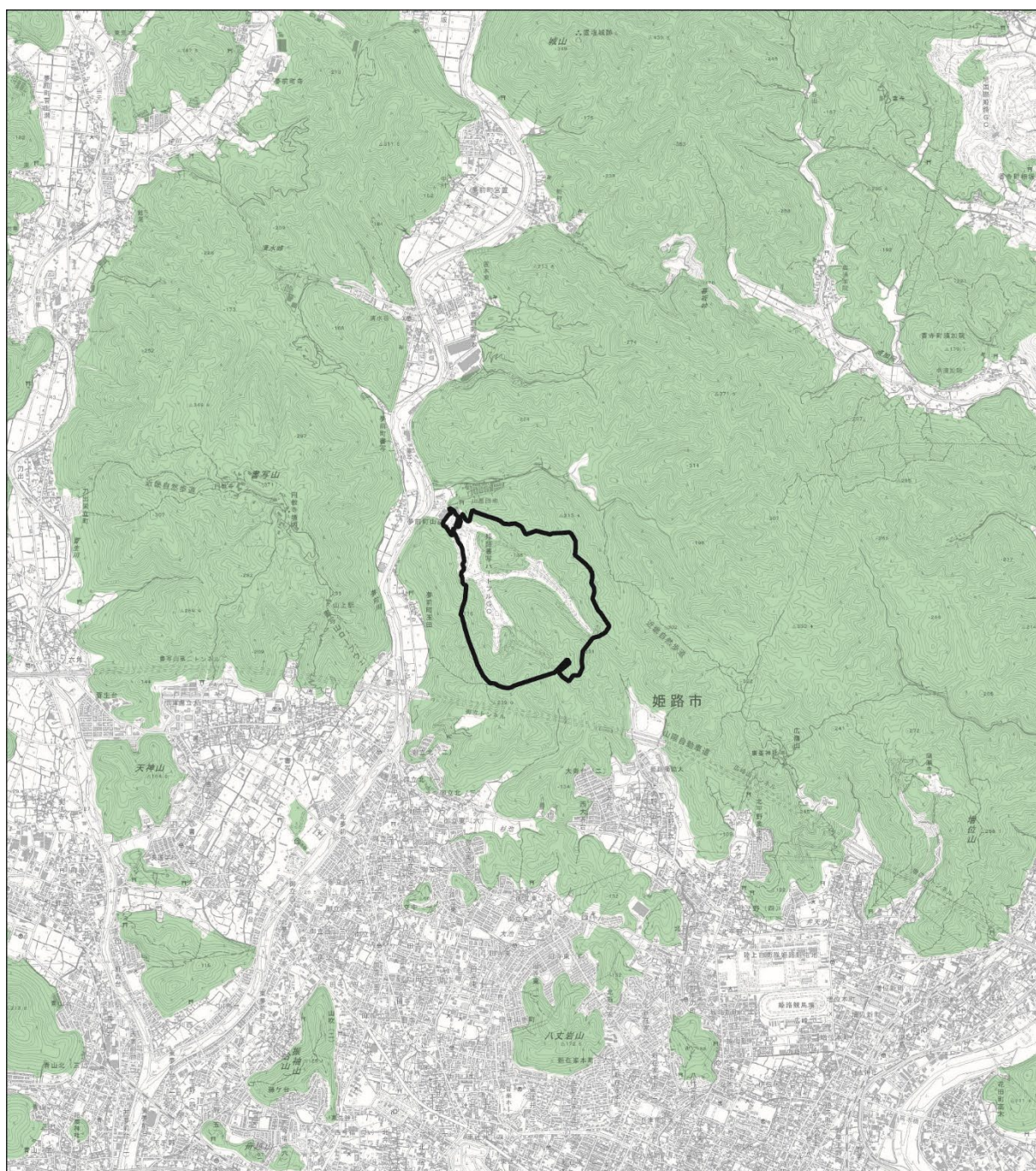
- 事業実施想定地域
- 農業地域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.7
農業地域

出典：「国土数値情報 農業地域データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

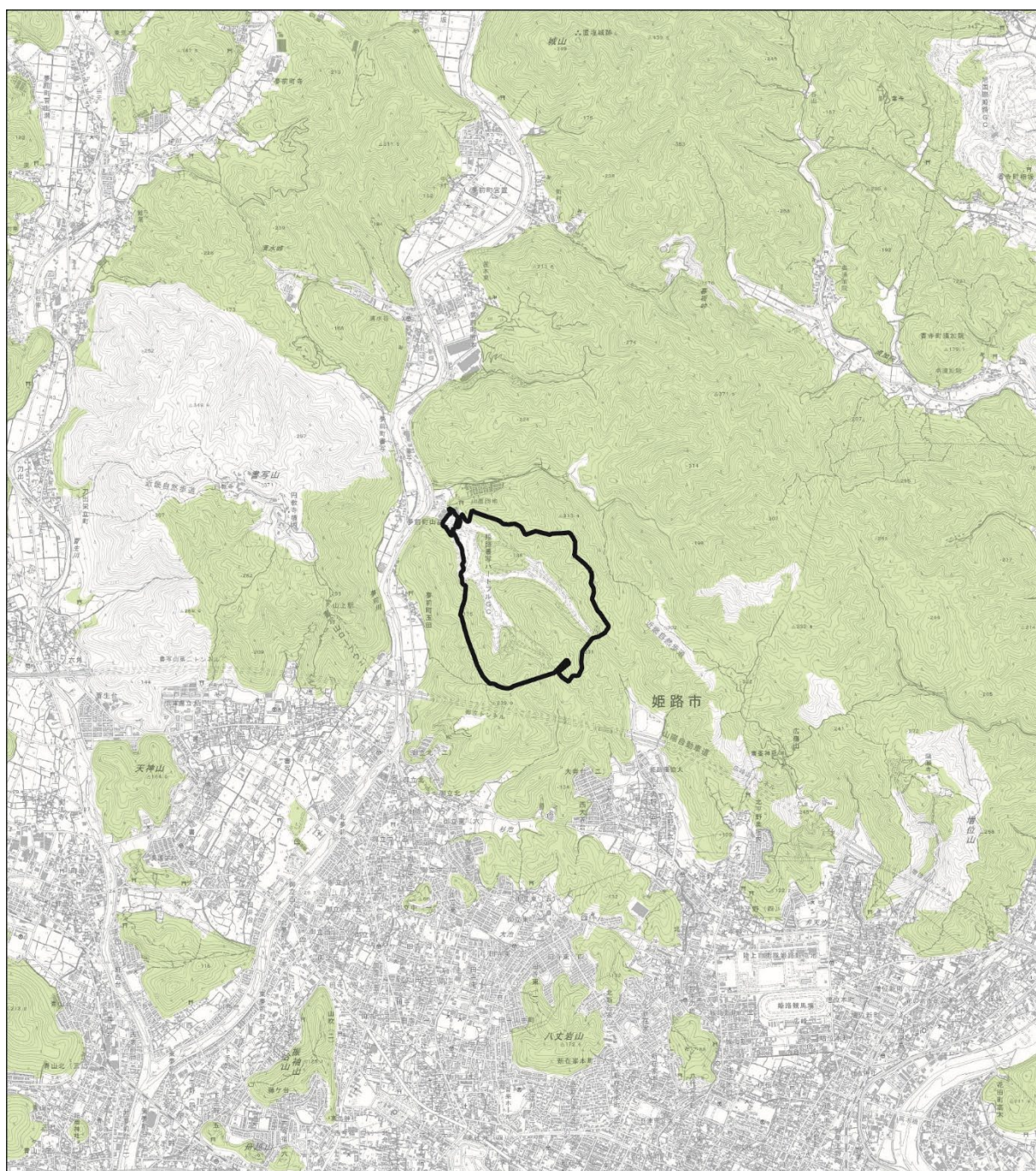
-  事業実施想定地域
-  森林地域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.8
森林地域

出典：「国土数値情報 森林地域データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

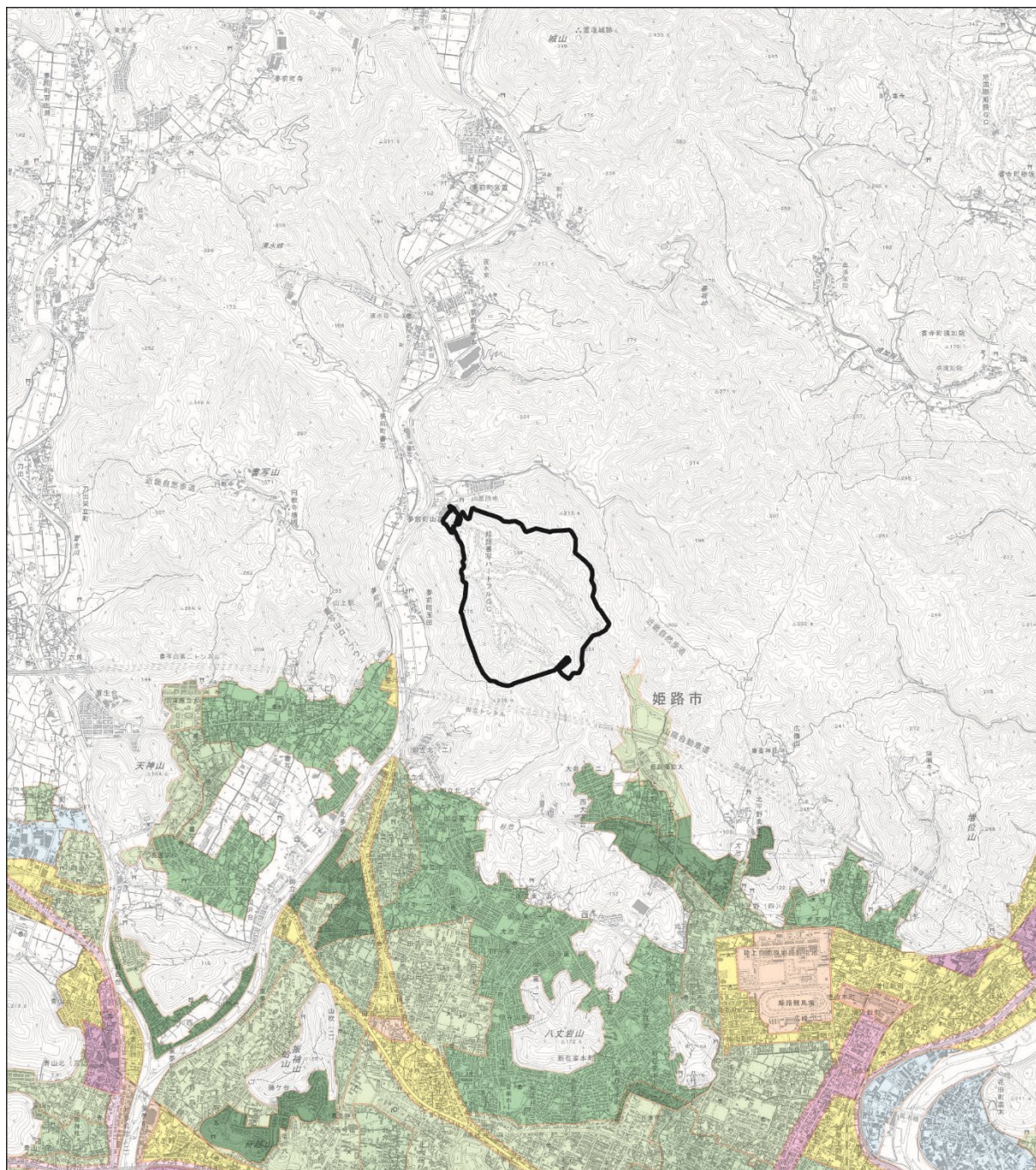
- 事業実施想定地域
- 民有林



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.9
民有林

出典：「国土数値情報 森林地域データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

事業実施想定地域

【用途地域】

- 第一種低層住居専用地域
- 第二種低層住居専用地域
- 第一種中高層住居専用地域
- 第二種中高層住居専用地域
- 第一種住居地域
- 第二種住居地域
- 準住居地域
- 近隣商業地域
- 商業地域
- 準工業地域
- 工業地域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.10
用途地域図

出典：「国土数値情報 都市計画決定情報データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

(4) 水域とその利用

① 河川・湖沼の分布

事業実施想定地域及びその周囲の主な河川の状況は、図 2.4.11 のとおりである。

事業実施想定地域周辺には夢前川水系である二級河川の夢前川、船場川水系である二級河川の大野川等が流れている。

また、事業実施想定地域及びその周囲に主な湖沼は存在しない。

出典：「国土数値情報 湖沼データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）

② 上水道

関係地域における上水道の事業の概要は表 2.4.13 のとおりであり、事業実施想定地域及びその周囲における給水区域は図 2.4.12 のとおりである。

事業実施想定地域周辺は、姫路市上下水道局の給水区域となっている。

また、水源は表流水・地下水・伏流水が利用されている。

表 2.4.13 水道事業の概要（令和 5 年度）

事業名	総人口（人）	給水人口（人）	普及率（％）
姫路市上下水道局	524, 149	522, 289	99. 6

出典：「令和 5 年度姫路市水道事業年報」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

③ 内水面漁業

兵庫県内では 12 の河川及びその支流で共同漁業権が免許されており、事業実施想定地域周辺を流れる夢前川水系夢前川等には内水面漁業権が設定されており、その指定状況は図 2.4.11 のとおりである。

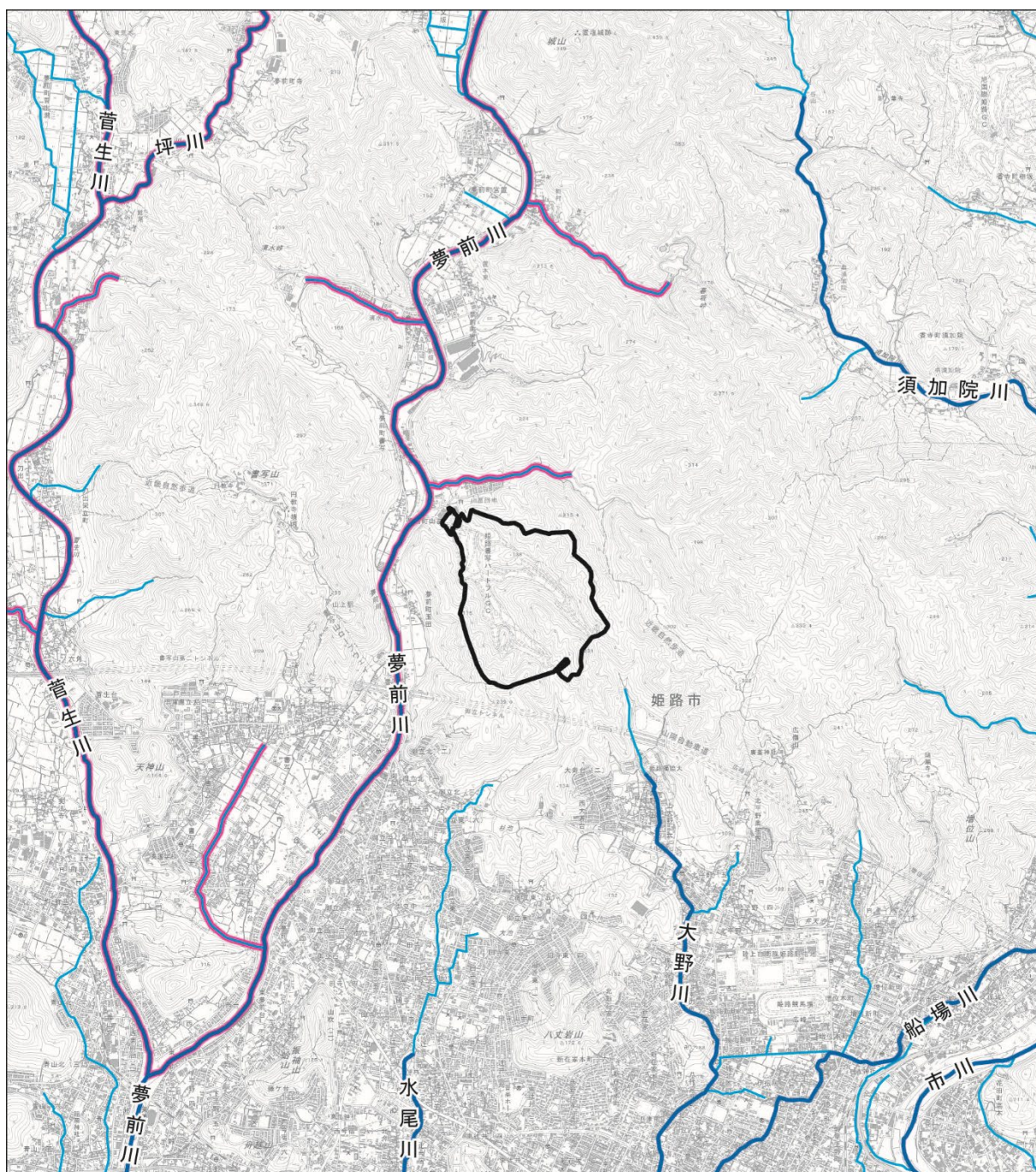
④ 湧水

事業実施想定地域及びその周囲では、「播磨十水」の名水に数えられている梅ヶ谷の名水が姫路市梅ヶ谷町にある。「湧水保全ポータルサイト」において選定された代表的な湧水及び「名水百選ポータル」において選定された昭和の名水百選及び平成の名水百選は存在しない。

出典：「糸の井・桜井の清水と播磨十水」（令和 8 年 1 月閲覧、太子町 HP）

出典：「湧水保全ポータルサイト」（令和 8 年 1 月閲覧、環境省 HP）

出典：「名水百選ポータル」（令和 8 年 1 月閲覧、環境省 HP）



凡 例

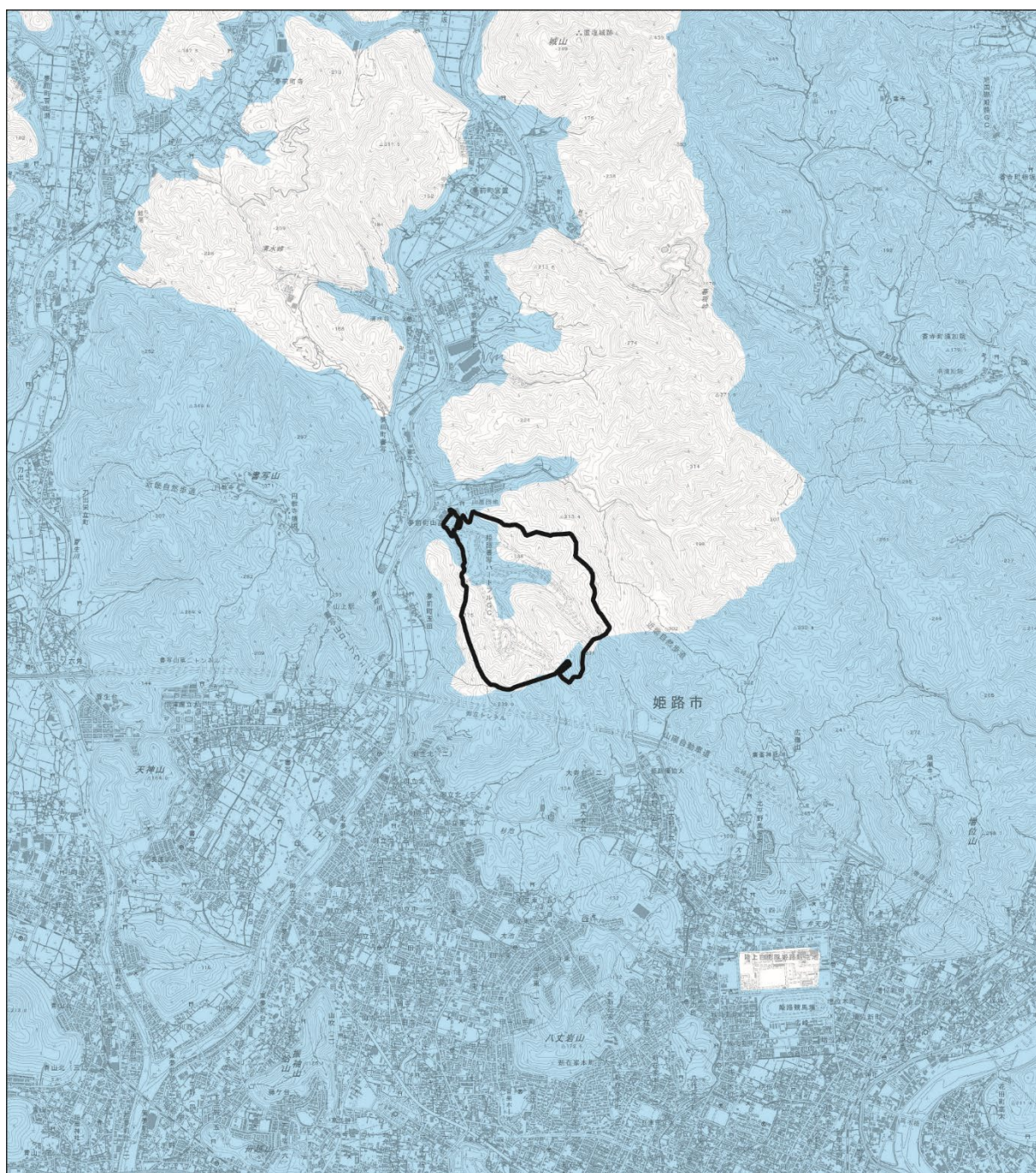
- 事業実施想定地域
- 漁業権が免許されている河川
- 二級河川
- 準用・普通河川



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.11
主な河川及び内水面漁業権
の設定状況

出典：「国土数値情報 河川データ」(令和8年1月閲覧、国土交通省 HP)
「兵庫県の内水面漁業(令和5年9月1日現在)」(令和5年12月更新、兵庫県 HP)
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

- 事業実施想定地域
- 姫路市上下水道局



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.12
上水道給水区域

出典：「国土数値情報 上水道関連施設データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

(5) 生活環境及び資源利用状況

① 環境保全についての配慮が特に必要な施設

事業実施想定地域及びその周囲の環境保全についての配慮が特に必要な施設等は表 2.4.14 及び図 2.4.13 のとおりである。

事業実施想定地域最寄りの環境保全についての配慮が特に必要な施設は、東洋大学附属姫路中学校、姫路獨協大学などがある。

表 2.4.14(1) 環境保全についての配慮が特に必要な施設

図中番号	区分	名称	所在地
保 1	認可保育所 (公立)	花田保育所	姫路市花田町小川 1243-15-1
保 2		高岡保育所	姫路市上手野 411-1
保 3	認可保育所 (私立)	三恵城山こども園	姫路市夢前町宮置 79-2
保 4		峰相ひまわり保育園	姫路市六角 278-2
保 5		白鳥保育園	姫路市六角 204
保 6		書写認定こども園	姫路市書写 2481
保 7		真愛幼稚園	姫路市書写 828
保 8		姫路ひまわり保育園分園	姫路市書写 634-50
保 9		姫路ひまわり保育園	姫路市北夢前台 1-59
保 10		姫路前山保育園	姫路市御立中 5-5-7
保 11		白鳥南保育園	姫路市青山北 1-11-2
保 12		青葉台こども園	姫路市香寺町須加院 351
保 13		白鳥南保育園下手野分園	姫路市下手野 2-12-24
保 14		ベアズガーデン国際自然こども園	姫路市西今宿 7-9-15
保 15		安室保育園	姫路市田寺 3-3-15
保 16		幼児学舎子どもライブラリー	姫路市田寺 8-172
保 17		あゆみ保育園	姫路市御立東 4-6-1
保 18		広峰保育園	姫路市北平野奥垣内 7-3
保 19		エンゼル学園幼稚園	姫路市梅ヶ谷町 10-1
保 20		みどりヶ丘幼児園	姫路市八代緑ヶ丘町 6-26
保 21		城見ヶ丘保育園	姫路市八代宮前町 19-10
保 22		白国保育園	姫路市白国 2-1-47
保 23		保城さくらんぼこども園	姫路市保城 402-2
保 24		保城こども園	姫路市保城 694-3
保 25		まるやま保育園	姫路市東辻井 2-5-10
保 26		野里こども園	姫路市威徳寺町 33
保 27		すごう保育園	姫路市夢前町菅生潤 705-1
保 28	認可外保育施設	ひより	姫路市実法寺 100-1
保 29		りとるらいふこども園	姫路市田寺 6-4-2
保 30		ベアズガーデンインターナショナル プリスクール	姫路市田寺東 2-17-14
保 31		たまえ保育園	姫路市山吹 1-6-15
保 32		城北しらさぎ保育園	姫路市増位本町 2-2-12
幼 1	幼稚園	姫路市立曾左幼稚園	姫路市書写台 1-62-1
幼 2		姫路市立安室東幼稚園	姫路市辻井 8-18-1
幼 3		姫路市立広峰幼稚園	姫路市北平野 2-9-20
幼 4		姫路市立水上幼稚園	姫路市保城 5-4
幼 5		日ノ本幼稚園	姫路市南新在家 5-16

注：図中番号は、図 2.4.13 中の番号に対応する。

出典：「姫路市 Web マップ」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典：「令和 7 年度 姫路市教育保育施設一覧」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典：「姫路市内の届出保育施設（認可外保育施設）一覧」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

表 2. 4. 14(2) 環境保全についての配慮が特に必要な施設

図中番号	区分	名称	所在地
小 1	小学校	姫路市立菅生小学校	姫路市夢前町菅生潤 802-1
小 2		姫路市立置塩小学校	姫路市夢前町宮置 235
小 3		姫路市立峰相小学校	姫路市打越 582-1
小 4		姫路市立白鳥小学校	姫路市飾西 341
小 5		姫路市立曾左小学校	姫路市書写 634-51
小 6		姫路市立安室小学校	姫路市田寺 6-11-12
小 7		姫路市立安室東小学校	姫路市田寺東 2-5-1
小 8		姫路市立高岡西小学校	姫路市上手野 1-1
小 9		姫路市立高岡小学校	姫路市西今宿 4-8-1
小 10		姫路市立城西小学校	姫路市新在家 2-4-1
小 11		姫路市立増位小学校	姫路市白国 5-9-1
小 12		姫路市立広峰小学校	姫路市峰南町 2-1
小 13		姫路市立水上小学校	姫路市西中島 382
小 14		姫路市立城北小学校	姫路市伊伝居 600-2
中 1	中学校	姫路市立書写中学校	姫路市書写台 2-34
中 2		姫路市立大白書中学校	姫路市飾西 652
中 3		姫路市立高丘中学校	姫路市山吹 1-4-13
中 4		姫路市立安室中学校	姫路市田寺東 2-6-1
中 5		姫路市立広嶺中学校	姫路市峰南町 2-43
中 6		姫路市立増位中学校	姫路市増位新町 2-4-1
中 7		東洋大学附属姫路中学校	姫路市書写 1699
高 1	高等学校	兵庫県立姫路飾西高校	姫路市飾西 148-2
高 2		兵庫県立姫路西高校	姫路市北八代 2-1-33
高 3		兵庫県立姫路工業高校	姫路市伊伝居 600-1
高 4		姫路市立姫路高校	姫路市辻井 9-1-10
高 5		東洋大学附属姫路高等学校	姫路市書写 1699
支 1	特別支援学校	兵庫県立姫路聴覚特別支援学校	姫路市本町 68 番地 46
大 1	大学	兵庫県立大学 工学部	姫路市書写 2167
大 2		兵庫県立大学 環境人間学部	姫路市新在家本町 1-1-12
大 3		姫路獨協大学	姫路市上大野 7-2-1
特 1	特別養護老人ホーム	サンライフ御立	姫路市御立東 5-1-1
特 2		書写ひまわりホーム	姫路市書写 634-198
特 3		香照苑	姫路市香寺町須加院 338-506
特 4		サンライフひろみね	姫路市広峰 1-4-55
特 5		第二姫路・勝原ホーム	姫路市勝原区下太田 201
1	病院	医療法人社団普門会 姫路田中病院	姫路市書写 717
2		医療法人財団 清良会 書写病院	姫路市書写台 2-28
3		医療法人社団 綱島会 厚生病院	姫路市御立西 4-1-25
4		医療法人社団 みどりの会 酒井病院	姫路市飾西 412-1
5		医療法人 恵風会 高岡病院	姫路市西今宿 5-3-8
6		木下病院	姫路市東辻井 4-1-12

注：図中番号は、図 2. 4. 13 中の番号に対応する。

出典：「姫路市 Web マップ」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典：「姫路市立小学校一覧」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典：「姫路市立中学校、高等学校、特別支援学校、義務教育学校一覧」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典：「特別養護老人ホーム（令和 6 年 4 月 1 日現在）」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典：「国土数値情報 医療機関データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）

表 2.4.14(3) 環境保全についての配慮が特に必要な施設

図中番号	区分	名称	所在地
1	診療所	中村外科胃腸科	姫路市夢前町菅生潤 161
2		松浦診療所	姫路市夢前町宮置 232-7
3		特別養護老人ホーム 香照苑	姫路市香寺町須加院 338-506
4		瀧谷内科医院	姫路市菅生台 1
5		姫路獨協大学 健康管理室	姫路市上大野 7-2-1
6		なべたに内科クリニック	姫路市飾西 492-1
7		飾西さかいクリニック	姫路市飾西 573
8		夢前和楽園 診療所	姫路市飾西 728-3
9		三輪小児科	姫路市青山北 3-18-8
10		ふかざわ耳鼻咽喉科クリニック	姫路市青山北 2-15-1
11		くるす眼科クリニック	姫路市西夢前台 1-78-2
12		森田医院	姫路市西夢前台 1-69
13		やなぎた皮膚科医院	姫路市青山 5-9-5
14		北野内科クリニック	姫路市下手野 4-6-34
15		いしづか乳腺外科クリニック	姫路市下手野 3-3-27
16		福間内科医院	姫路市下手野 5-450-1
17		社会医療法人 三栄会 ツカザキクリニック	姫路市下手野 2-4-5
18		書写ひまわりホーム 医務室	姫路市書写 634-198
19		ノボクリニック	姫路市書写 1019-145 フラザ加茂 2F
20		書写西村内科	姫路市書写 1019-620
21		まきの外科胃腸科診療所	姫路市書写 2584-1
22		さだとうクリニック	姫路市御立中 2-12-10
23		かりの小児科	姫路市御立中 4-7-3
24		澤田整形外科医院	姫路市御立中 4-10-32
25		野中耳鼻咽喉科医院	姫路市御立中 5-6-24
26		井上産婦人科医院	姫路市御立西 1-16-11
27		門屋眼科	姫路市御立西 2-10-3-1
28		特別養護老人ホーム 厚生園 医務室	姫路市御立西 4-1-19
29		山田クリニック	姫路市御立西 5-16-6
30		はまひらこどもクリニック	姫路市山吹 1-3-5
31		中山外科	姫路市山吹 2-12-15
32		耳鼻咽喉科しばたクリニック	姫路市田寺 1-3-5 メゾン安室 1-D 号室
33		生田クリニック	姫路市田寺 3-2-5
34		塚本内科循環器科	姫路市田寺 3-11-23
35		柴田耳鼻咽喉科医院	姫路市田寺 2-2-1
36		井口皮膚科医院	姫路市田寺 2-2-27
37		大田医院	姫路市田寺東 2-23-1
38		西川クリニック	姫路市田寺東 2-26-14
39		長整形外科	姫路市辻井 1-1-17
40		吉田眼科医院	姫路市辻井 6-10-2
41		土井クリニック	姫路市辻井 6-17-3
42		吉川内科医院	姫路市辻井 7-14-13
43		中山皮膚科	姫路市北今宿 2-5-22 エムセンタービル 1F
44		内科井上医院	姫路市東辻井 1-12-28
45		辻井はやし内科	姫路市東辻井 2-8-34
46		山田脳神経外科医院	姫路市東辻井 4-10-16
47		本郷小児科医院	姫路市新在家中の町 14-17
48		土居医院	姫路市新在家本町 5-1-34
49		たまきファミリークリニック	姫路市新在家本町 1-3-5
50		松本内科クリニック	姫路市西八代町 9-26

注：図中番号は、図 2.4.13 中の番号に対応する。

出典：「国土数値情報 医療機関データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）

表 2. 4. 14(4) 環境保全についての配慮が特に必要な施設

図中番号	区分	名称	所在地
51	診療所	片嶋外科	姫路市北八代 1-2-3
52		大西医院	姫路市北八代 1-17-20
53		五百井小児科	姫路市城北本町 5-25
54		神頭医院	姫路市城北本町 16-14
55		水野内科医院	姫路市坊主町 55
56		平田医院	姫路市八代（富士才町） 740-3
57		藤本医院	姫路市八代 728-7
58		梅田耳鼻咽喉科医院	姫路市河間町 99-3
59		上田クリニック	姫路市伊伝居 612-1
60		金沢小児科医院	姫路市伊伝居馬場先 29-11
61		戸谷整形外科・外科	姫路市広峰 1-2-15
62		藤井内科クリニック	姫路市増位本町 1-7-14
63		あき循環器心臓リハビリクリニック	姫路市増位本町 2-2-16
64		小林整形外科	姫路市増位本町 2-4-10
65		ごばん内科医院	姫路市増位新町 1-8-1 藤和しらさぎハイタウン B102 号
66		クサカベ皮膚科	姫路市増位新町 2-27 八木ビル 1F
67		姫路市立発達医療センター花北診療所	姫路市増位新町 2-37
68		花北整形外科クリニック	姫路市増井新町 1-24 ミラキタシティ花北 105
69		中林産婦人科クリニック	姫路市白国 1-3-30
70		高見医院	姫路市白国 1-17-15
71		中田耳鼻咽喉科	姫路市白国 2-2-20
72		前野整形外科	姫路市白国 4-5-22
73		陸上自衛隊 姫路駐屯地医務室	姫路市峰南町 1-70
74		菊川荒木内科心療内科	姫路市保城 296-1
75		奥山クリニック	姫路市保城 491-1
76		のぞと眼科	姫路市西中島 236-4
77		中塚泌尿器科医院	姫路市保城宇高町 168-7
78		倉橋内科医院	姫路市北平野南の町 16-31
79		信和内科クリニック	姫路市砥堀 329-2
80		白鷺園養護老人ホーム 医務室	姫路市御立北 3-17-1
81		若林医院	姫路市御立東 1-25-7
82		特別養護老人ホーム サンライフ御立 医務室	姫路市御立東 5-1-1
83		特別養護老人ホーム サン・ビレッジ 姫路 医務室	姫路市町坪 468

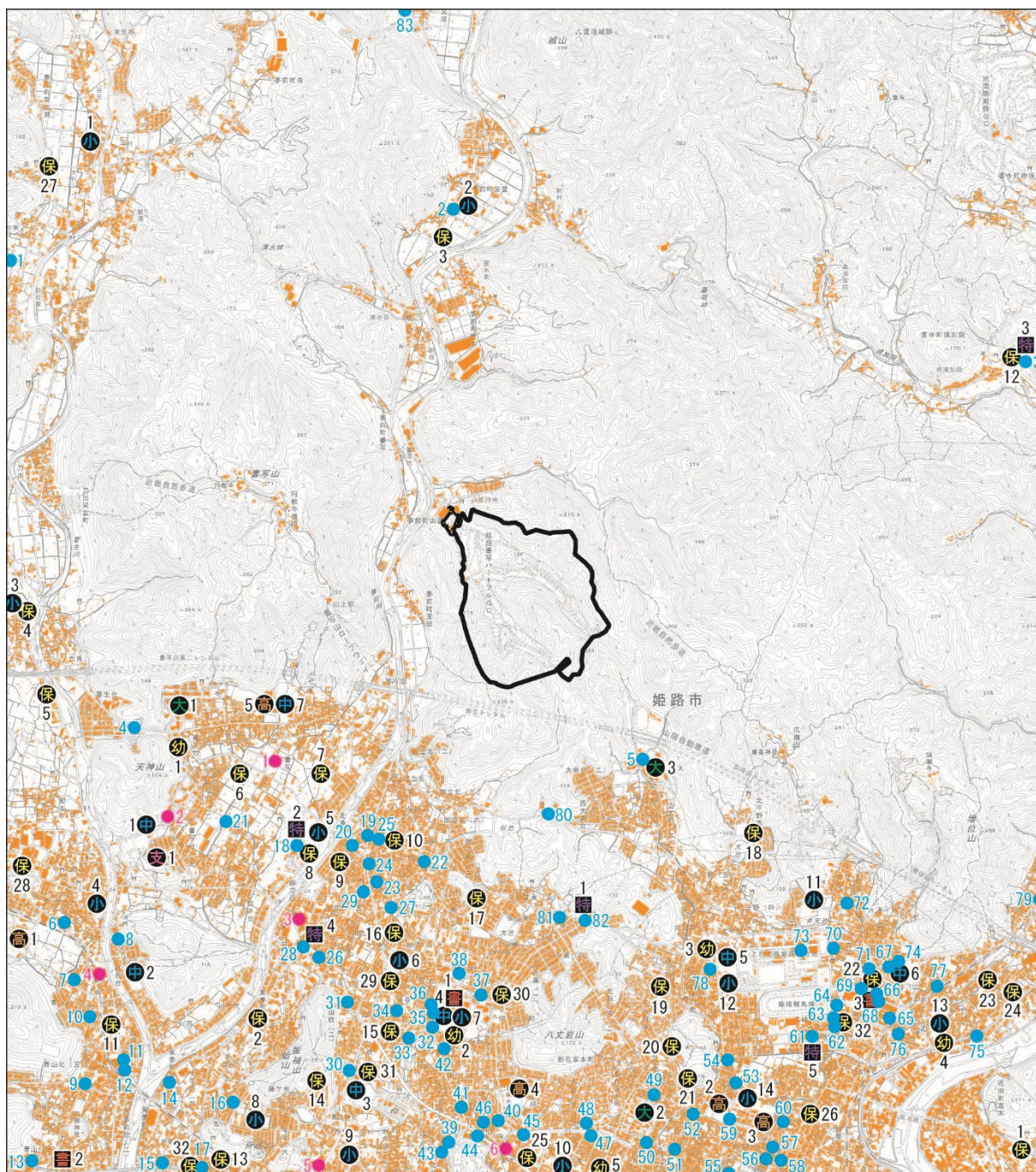
注：図中番号は、図 2. 4. 13 中の番号に対応する。

出典：「国土数値情報 医療機関データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）

② 住宅の分布状況

住宅の分布状況は図 2. 4. 13 のとおりである。

事業実施想定地域の北西側にを中心に住宅が広がっている。



凡 例



事業実施想定地域



幼稚園



小学校



高等学校



特別支援学校



大学



図書館



特別養護老人ホーム



病院



診療所



建築物



保育所・認定こども園・認可外保育施設



中学校



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.13

環境保全についての配慮が
特に必要な施設等

出典：「姫路市 Web マップ」(令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP)
「特別養護老人ホーム (令和 6 年 4 月 1 日現在)」(令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP)
「国土数値情報 医療機関データ」(令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP)
「基盤地図情報ダウンロードサービス」(令和 8 年 1 月閲覧、国土地理院 HP)
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

③ 下水道の整備の状況

姫路市並びに兵庫県における下水道普及率等は表 2.4.15 のとおりである。

令和 6 年度末における姫路市の下水道普及率は 93.4%となっている。

また、事業実施想定地域及びその周囲の下水道計画図は図 2.4.14 のとおりである。

事業実施想定地域の一部（連系変電所エリア含む）が単独公共下水道範囲となっている。

表 2.4.15 下水道普及率等

区分	下水道普及率（％）	生活排水処理率（％）
姫路市	93.4	98.6
兵庫県	94.4	99.2

出典：「下水道の普及率」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）



凡 例

-  事業実施想定地域
-  単独公共下水道範囲



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.14
下水道計画図

出典：「兵庫県下水道計画図（令和5年3月末現在）」（令和7月9日更新、兵庫県 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

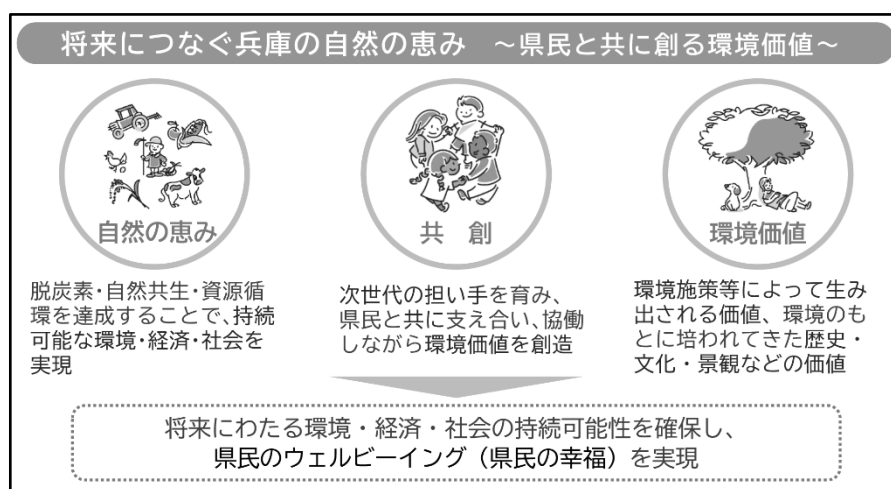
(6) 各種計画の策定状況等

① 第6次兵庫県環境基本計画（令和7年3月策定）

兵庫県では、「環境の保全と創造に関する条例」（平成7年兵庫県条例第28号、最終改正：令和7年3月25日）に基づき本県が目指すべき持続可能な社会の将来像及び重点的に取り組むべき施策を明らかにするために、「第6次兵庫県環境基本計画」を策定している。

計画期間は、2050年頃を展望しつつ、概ね6年間（2030年度まで）とし、基本理念を「将来につなぐ兵庫の自然の恵み ～県民と共に創る環境価値～」とし、施策展開の方針として3つの視点を掲げている。

- ・視点1 環境価値の創出
- ・視点2 施策間の相乗効果の最大化とトレードオフの回避・調整
- ・視点3 共創力の発揮と担い手の確保



出典：「第6次兵庫県環境基本計画」（令和7年3月、兵庫県）

② 兵庫県地球温暖化対策推進計画（令和４年３月改定）

兵庫県では、2030 年度を見据えた地球温暖化対策を展開していく必要があるため、「兵庫県地球温暖化対策推進計画」を策定している。

計画の対象期間を 2030 年度までとし、計画の目標として温室効果ガス削減目標と再生可能エネルギー導入目標を掲げ、2030 年度目標の達成に向けた 6 つの方針を示している。

2030 年度の温室効果ガス削減目標

【温室効果ガス削減目標】

県民・事業者・団体・行政等が一体となり、2030 年度は、
①35%削減（2013 年度比）の達成に向け、果敢に取り組みつ、
②さらに取組の加速・拡大を図っていく中で、最大 38%削減（2013 年度比）を目指す。



県民・事業者・団体・行政等が一体となり、
2030 年度 48%削減（2013 年度比）の達成に向けて取り組むとともに、
さらなる高みを目指す。

2030 年度の再生可能エネルギー導入目標

【再生可能エネルギー導入目標】

2030 年度目標：再生可能エネルギーによる発電量 80 億 kWh（再エネ比率 約 22%）



2030 年度目標：再生可能エネルギーによる発電量 100 億 kWh（再エネ比率 約 30%）

2030 年度目標の達成に向けた方針

方針 1 「2050 年カーボンニュートラルに向けた温室効果ガス排出削減」

方針 2 「再生可能エネルギーの導入拡大」

方針 3 「地域循環共生圏の創出」

方針 4 「暮らしの中での省エネや資源循環」

方針 5 「豊かな森づくりなど森林等の保全と創造」

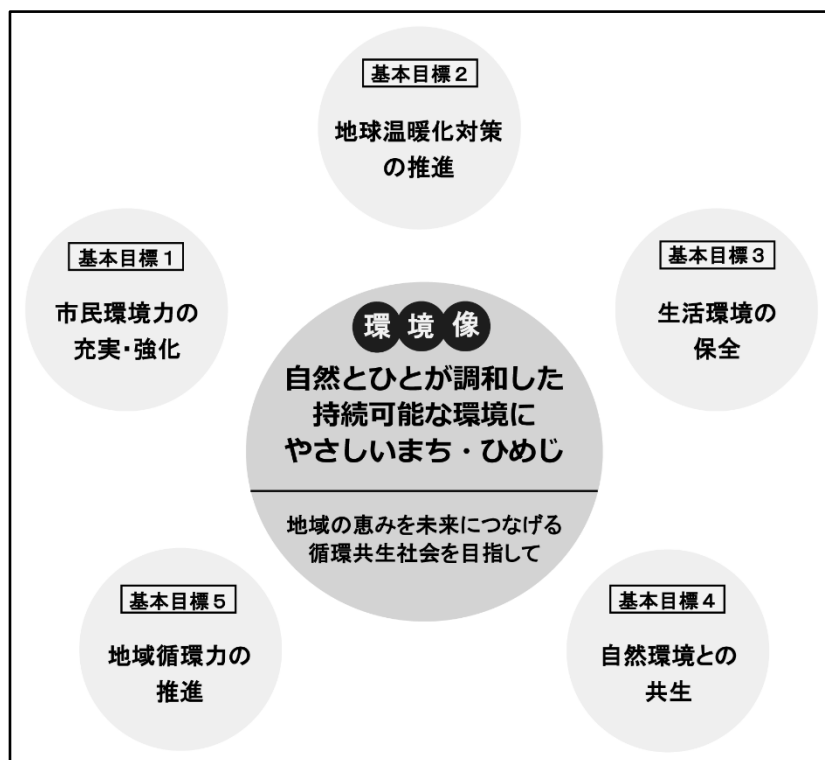
方針 6 「人材育成とグリーンイノベーションへの支援」

出典：「兵庫県地球温暖化対策推進計画」（令和４年３月、兵庫県）

③ 姫路市環境基本計画（2021-2030）（令和 3 年 3 月策定）

姫路市では、「姫路の環境をみんなで守り育てる条例」（平成 13 年姫路市条例第 6 号）を制定し、平成 13 年 6 月に「姫路市環境基本計画」を策定。同計画の計画期間が終了することから、新たな「姫路市環境基本計画」を令和 3 年 3 月に策定した。計画期間は令和 3 年度～令和 12 年度とし、姫路市全域を対象地域としている。

この計画において、目指す環境像を「自然とひとが調和した持続可能な環境にやさしいまち・ひめじ ～地域の恵みを未来につなげる循環共生社会を目指して～」とし、環境像の実現に向けて、以下の 5 つの基本目標を掲げている。



出典：「姫路市環境基本計画（2021-2030）」（令和 3 年 3 月、姫路市）

④ 姫路市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（令和 5 年 3 月改定）

「姫路市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」とは、市民、事業者、行政等の協働の下、姫路市全体の温室効果ガス削減に取り組んでいくための目標や具体的な取組を示した計画であり、平成 23 年 3 月に計画を策定、令和 5 年 3 月に計画の見直しを行った。

計画期間は令和 5 年度から令和 12 年度であり、温室効果ガス排出量の削減目標と再生可能エネルギー導入目標を以下の内容としている。

また、地球温暖化対策として 6 つの基本施策を示している。

姫路市の温室効果ガス排出量の削減目標

2030 年度（令和 12 年度）に、市域の温室効果ガス排出量を 2013 年度（平成 25 年度）比で 48 % 削減することを目指します。さらに新技術の開発や社会変革等が進んだ場合には 50 % の高みを目指します。

姫路市の再生可能エネルギー導入目標

2030 年度（令和 12 年度）に、市域での再生可能エネルギーによる年間発電量を 1,450 GWh 以上（再エネ比率約 30 %）にすることを目指します。

基本施策 1

市民生活における脱炭素化の促進

～日常生活において、省エネ・省 CO₂ に向けた取組を推進します～

基本施策 2

事業活動における脱炭素化の促進

～事業活動において、省エネ・省 CO₂ に向けた取組や環境に配慮した事業活動を推進します～

基本施策 3

脱炭素型の交通環境の充実

～次世代自動車の普及拡大や公共交通の利用促進により、運輸部門の脱炭素化を図ります～

基本施策 4

新たなエネルギーや再生可能エネルギー等の導入促進

～新たなエネルギーや再生可能エネルギーの活用に向けた取組を進めていきます～

基本施策 5

森林等吸収源対策の推進

～ヒートアイランド対策や温室効果ガスの吸収源対策を進めます～

基本施策 6

気候変動適応策の推進

～自然災害の被害を抑えるとともに、被害から迅速に復旧できるまちづくりを目指します～

出典：「姫路市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」（令和 5 年 3 月、姫路市）

(7) 公害防止に係る指定・規制状況

① 環境基準

1) 大気汚染

大気汚染に係る環境基準は、「環境基本法」（平成 5 年法律第 91 号、最終改正：令和 3 年 5 月 19 日）に基づき全国一律に定められており、その内容は表 2.4.16 のとおりである。

表 2.4.16 大気汚染に係る環境基準

物質	環境上の条件		評価方法	
二酸化硫黄	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。(昭和 48 年環境庁告示第 25 号)		短期的 評 価	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。(昭和 48 年環大企第 143 号)
			長期的 評 価	1 日平均値の年間 2%除外値が 0.04ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。(昭和 48 年環大企第 143 号)
一酸化炭素	1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。(昭和 48 年環境庁告示第 25 号)		短期的 評 価	1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。(昭和 48 年環大企第 143 号)
			長期的 評 価	1 日平均値の年間 2%除外値が 10ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。(昭和 48 年環大企第 143 号)
浮遊粒子状物質	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること。(昭和 48 年環境庁告示第 25 号)		短期的 評 価	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること。(昭和 48 年環大企第 143 号)
			長期的 評 価	1 日平均値の年間 2%除外値が 0.10mg/m ³ 以下であること。ただし、1 日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日が 2 日以上連続しないこと。(昭和 48 年環大企第 143 号)
光化学オキシダント	旧基準	1 時間値が 0.06ppm 以下であること。(昭和 48 年環境庁告示第 25 号)	昼間（5 時から 20 時まで）の 1 時間値が 0.06ppm 以下であること。(昭和 48 年環大企第 143 号)	
	新基準	オゾンとして、8 時間値が 0.07ppm 以下であり、かつ、日最高 8 時間値の 1 年平均値が 0.04ppm 以下であること。(令和 8 年環境省告示第 8 号)	短期的 評 価	日最高 8 時間値の年間 99 パーセンタイル値が 0.07ppm 以下であること。(令和 8 年環水大管発第 2601301 号)
			長期的 評 価	日最高 8 時間値の 1 年平均値が 0.04ppm 以下であること。(令和 8 年環水大管発第 2601301 号)
二酸化窒素	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。(昭和 53 年環境庁告示第 38 号)		1 日平均値の年間 98%値が 0.06ppm 以下であること。(昭和 53 年環大企第 262 号)	
微小粒子状物質	1 年平均値が 15μg/m ³ 以下であり、かつ、1 日平均値が 35μg/m ³ 以下であること。(平成 21 年環境省告示第 33 号)		1 年平均値が長期基準（15μg/m ³ ）以下であり、かつ、1 日平均の年間 98 パーセンタイル値が短期基準（35μg/m ³ ）以下であること。(平成 21 年環水大総発第 090909001 号)	
ベンゼン	1 年平均値が 0.003mg/m ³ 以下であること。(平成 9 年環境庁告示第 4 号)			
トリクロロエレン	1 年平均値が 0.13mg/m ³ 以下であること。(平成 9 年環境庁告示第 4 号)			
テトラクロロエレン	1 年平均値が 0.2mg/m ³ 以下であること。(平成 9 年環境庁告示第 4 号)			
ジクロロメタン	1 年平均値が 0.15mg/m ³ 以下であること。(平成 13 年環境庁告示第 30 号)			
備考				
1 環境基準は、工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない地域または場所については、適用しない。				
2 浮遊粒子状物質とは、大気中に浮遊する粒子状物質であって、その粒径が 10μm 以下のものをいう。				
3 光化学オキシダントとは、オゾン、パーオキシアセチルナイトレートその他の光化学反応により生成される酸化性物質（中性ヨウ化カリウム溶液からヨウ素を遊離するものに限り、二酸化窒素を除く。）をいう。				
4 微小粒子状物質とは、大気中に浮遊する粒子状物質であって、粒径が 2.5μm の粒子を 50%の割合で分離できる分粒装置を用いて、より粒径の大きい粒子を除去した後に採取される粒子をいう。				
5 ベンゼン等による大気の汚染に係る環境基準は、継続的に摂取される場合には人の健康を損なうおそれがある物質に係るものであることにかんがみ、将来にわたって人の健康に係る被害が未然に防止されるようにすることを旨として、その維持又は早期達成に努めるものとする。				

出典：「大気汚染に係る環境基準について」（昭和 48 年環境庁告示第 25 号、最終改正：平成 8 年 10 月 25 日）

出典：「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和 53 年環境庁告示第 38 号、最終改正：平成 8 年 10 月 25 日）

出典：「微小粒子状物質による大気汚染に係る環境基準について」（平成 21 年環境省告示第 33 号）

出典：「ベンゼン等による大気汚染に係る環境基準について」（平成 9 年環境庁告示第 4 号、最終改正：平成 30 年 11 月 19 日）

2) 水質汚濁

公共用水域と地下水の水質に係る環境基準は、「環境基本法」に基づき定められている。環境基準のうち、「人の健康の保護に関する環境基準」は、表 2.4.17 のとおり、全公共用水域について一律に定められている。

「生活環境の保全に関する環境基準」は、表 2.4.18～

表 2.4.19 のとおり、河川、海域ごとに利用目的、水生生物の生息状況及び水生生物が生息・再生産する場の適応性に応じた水域類型が設けられ、基準値が定められている。

事業実施想定地域西側に位置する夢前川の類型は A 類型に指定されている。

地下水の水質汚濁に係る環境基準は、表 2.4.20 のとおりすべての地下水について定められている。

表 2.4.17 人の健康の保護に関する環境基準

項 目	基 準 値	項 目	基 準 値
カドミウム	0.003mg/L 以下	1, 1, 2-トリクロロエタン	0.006mg/L 以下
全シアン	検出されないこと。	トリクロロエチレン	0.01mg/L 以下
鉛	0.01mg/L 以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/L 以下
六価クロム	0.02mg/L 以下	1, 3-ジクロロプロペン	0.002mg/L 以下
砒素	0.01mg/L 以下	チウラム	0.006mg/L 以下
総水銀	0.0005mg/L 以下	シマジン	0.003mg/L 以下
アルキル水銀	検出されないこと。	チオベンカルブ	0.02mg/L 以下
PCB	検出されないこと。	ベンゼン	0.01mg/L 以下
ジクロロメタン	0.02mg/L 以下	セレン	0.01mg/L 以下
四塩化炭素	0.002mg/L 以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L 以下
1, 2-ジクロロエタン	0.004mg/L 以下	ふっ素	0.8mg/L 以下
1, 1-ジクロロエチレン	0.1mg/L 以下	ほう素	1mg/L 以下
シス-1, 2-ジクロロエチレン	0.04mg/L 以下	1, 4-ジオキサン	0.05mg/L 以下
1, 1, 1-トリクロロエタン	1mg/L 以下		
備考			
1. 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。			
2. 「検出されないこと」とは、測定方法の項に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。			
3. 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。			
4. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、規格 K0102-2 15.3、15.4、15.6、15.7 又は 15.8 により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数 0.2259 を乗じたものと規格 K0102-2 14.2、14.3 又は 14.4 により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数 0.3045 を乗じたものの和とする。			

出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号、最終改正：令和 7 年 3 月 31 日）

表 2.4.18 生活環境の保全に関する環境基準（湖沼を除く河川）

ア

類型	利用目的の適応性	基 準 値				
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌数
AA	水道 1 級、自然環境保全及び A 以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	1mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	20CFU/100mL 以下
A	水道 2 級、水産 1 級、及び B 以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	2mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	300CFU/100mL 以下
B	水道 3 級、水産 2 級及び C 以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	3mg/L 以下	25mg/L 以下	5mg/L 以上	1,000CFU/100mL 以下
C	水産 3 級、工業用水 1 級及び D 以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L 以下	5mg/L 以上	—
D	工業用水 2 級、農業用水及び E の欄に掲げるもの	6.0 以上 8.5 以下	8mg/L 以下	100mg/L 以下	2mg/L 以上	—
E	工業用水 3 級、環境保全	6.0 以上 8.5 以下	10mg/L 以下	ごみ等の浮遊が認められないこと。	2mg/L 以上	—

備 考

1. 基準値は、日間平均値とする。ただし、大腸菌数に係る基準値については、90%水質値（年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べた際の $0.9 \times n$ 番目（ n は日間平均値のデータ数）のデータ値（ $0.9 \times n$ が整数でない場合は端数を切り上げた整数番目の値をとる。))とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
2. 農業利用水点については、水素イオン濃度 6.0 以上 7.5 以下、溶存酸素量 5mg/L 以上とする（湖沼もこれに準ずる。）。
3. 水質自動監視測定装置とは、当該項目について自動的に計測することができる装置であつて、計測結果を自動的に記録する機能を有するもの又はその機能を有する機器と接続されているものをいう（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
4. 水道 1 級を利用目的としている測定点（自然環境保全を利用目的としている測定点を除く。）については、大腸菌数 100CFU/100mL 以下とする。
5. いずれの類型においても、水浴を利用目的としている測定点（自然環境保全及び水道 1 級を利用目的としている測定点を除く。）については、大腸菌数 300CFU/100mL 以下とする。
6. 水産 1 級、水産 2 級及び水産 3 級のみを利用目的とする場合には、当分の間、大腸菌数の項目の基準値は適用しない（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
7. 大腸菌数に用いる単位は CFU（コロニー形成単位（Colony Forming Unit））/100ml とし、大腸菌を培地で培養し、発育したコロニー数を数えることで算出する。

注：1. 自然環境保全：自然探勝等の環境保全。

注：2. 水道 1 級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの。

水道 2 級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの。

水道 3 級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの。

注：3. 水産 1 級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産 2 級及び水産 3 級の水産生物用。

水産 2 級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物及び水産 3 級の水産生物用。

水産 3 級：コイ、フナ等、 β -中腐水性水域の水産生物用。

注：4. 工業用水 1 級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの。

工業用水 2 級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの。

工業用水 3 級：特殊の浄水操作を行うもの。

注：5. 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を生じない限度。

イ

類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値		
		全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩
生物 A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.03mg/L 以下
生物特 A	生物 A の水域のうち、生物 A の欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	0.0006mg/L 以下	0.02mg/L 以下
生物 B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下
生物特 B	生物 A 又は生物 B の水域のうち、生物 B の欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.04mg/L 以下

備考

1. 基準値は、年間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）。

出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号、最終改正：令和 7 年 3 月 31 日）

表 2.4.19 生活環境の保全に関する環境基準（海域）

ア

類型	利用目的の適応性	基準値				
		水素イオン濃度 (pH)	化学的酸素要求量 (COD)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌数	n—ヘキサン抽出物質 (油分等)
A	水産 1 級 自然環境保全及び B 以下の欄に掲げるもの	7.8 以上 8.3 以下	2mg/L 以下	7.5mg/L 以上	20CFU/100mL 以下	検出されないこと。
B	水産 2 級、工業用水 及び C の欄に掲げるもの	7.8 以上 8.3 以下	3mg/L 以下	5mg/L 以上	—	検出されないこと。
C	環境保全	7.0 以上 8.3 以下	8mg/L 以下	2mg/L 以上	—	—

備考

1. アルカリ性法とは次のものをいう。

試料 50mL を正確に三角フラスコにとり、水酸化ナトリウム溶液（10w/v%）1mL を加え、次に過マンガン酸カリウム溶液（2mmol/L）10mL を正確に加えたのち、沸騰した水浴中に正確に 20 分放置する。その後よう化カリウム溶液（10w/v%）1mL とアジ化ナトリウム溶液（4w/v%）1 滴を加え、冷却後、硫酸（2+1）0.5mL を加えてよう素を遊離させて、それを力価の判明しているチオ硫酸ナトリウム溶液（10mmol/L）ででんぷん溶液を指示薬として滴定する。同時に試料の代わりに蒸留水を用い、同様に処理した空試験値を求め、次式により COD 値を計算する。

$COD (O_2mg/L) = 0.08 \times [(B) - (A)] \times f_{Na_2S_2O_3} \times 1000 / 50$

(A)：チオ硫酸ナトリウム溶液（10mmol/L）の滴定値（mL）

(B)：蒸留水について行なった空試験値（mL）

$f_{Na_2S_2O_3}$ ：チオ硫酸ナトリウム溶液（10mmol/L）の力価

2. いずれの類型においても、水浴を利用目的としている測定点（自然環境保全を利用目的としている測定点を除く。）については、大腸菌数 300CFU/100mL 以下とする。

3. 大腸菌数に用いる単位は CFU（コロニー形成単位（Colony Forming Unit））/100mL とし、大腸菌を培地で培養し、発育したコロニー数を数えることで算出する。

注：1. 自然環境保全：自然探勝等の環境保全。

注：2. 水産 1 級：マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産 2 級の水産生物用。

水産 2 級：ボラ、ノリ等の水産生物用。

注：3. 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を生じない限度。

イ

類型	利用目的の適応性	基準値	
		全窒素	全リン
I	自然環境保全及びⅡ以下の欄に掲げるもの（水産 2 種及び 3 種を除く。）	0.2mg/L 以下	0.02mg/L 以下
Ⅱ	水産 1 種 及びⅢ以下の欄に掲げるもの （水産 2 種及び 3 種を除く。）	0.3mg/L 以下	0.03mg/L 以下
Ⅲ	水産 2 種及びⅣ以下の欄に掲げるもの （水産 3 種を除く。）	0.6mg/L 以下	0.05mg/L 以下
Ⅳ	水産 3 種 工業用水 生物生息環境保全	1mg/L 以下	0.09mg/L 以下

備考

- 基準値は、年間平均値とする。
- 水域類型の指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある海域について行うものとする。

注：1. 自然環境保全：自然探勝等の環境保全。

注：2. 水産 1 種：底生魚介類を含め多様な水産生物がバランス良く、かつ、安定して漁獲される。

水産 2 種：一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される。

水産 3 種：汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される。

注：3. 生物生息環境保全：年間を通して底生生物が生息できる限度。

ウ

類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値		
		全亜鉛	ノニル フェノール	直鎖アルキルベンゼン スルホン酸及びその塩
生物 A	水生生物の生息する水域	0.02mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.01mg/L 以下
生物特 A	生物 A の水域のうち、水生生物の産卵場（繁殖場） 又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.01mg/L 以下	0.0007mg/L 以下	0.006mg/L 以下

エ

類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値
		底層溶存酸素量
生物 1	生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域	4.0mg/L 以上
生物 2	生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域	3.0mg/L 以上
生物 3	生息段階において貧酸素耐性の高い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域、再生産段階において貧酸素耐性の高い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域又は無生物域を解消する水域	2.0mg/L 以上

備考

- 基準値は、日間平均値とする。
- 底面近傍で溶存酸素量の変化が大きいことが想定される場合の採水には、横型のバンドン採水器を用いる。

出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号、最終改正：令和 7 年 3 月 31 日）

表 2.4.20 地下水の水質汚濁に係る環境基準

項 目	基準値
カドミウム	0.003mg/L 以下
全シアン	検出されないこと。
鉛	0.01mg/L 以下
六価クロム	0.02mg/L 以下
砒 素	0.01mg/L 以下
総水銀	0.0005mg/L 以下
アルキル水銀	検出されないこと。
PCB	検出されないこと。
ジクロロメタン	0.02mg/L 以下
四塩化炭素	0.002mg/L 以下
クロロエチレン (塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー)	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン	0.01mg/L 以下
テトラクロロエチレン	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L 以下
チウラム	0.006mg/L 以下
シマジン	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ	0.02mg/L 以下
ベンゼン	0.01mg/L 以下
セレン	0.01mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L 以下
ふっ素	0.8mg/L 以下
ほう素	1mg/L 以下
1,4-ジオキサン	0.05mg/L 以下
備考	
1. 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。	
2. 「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。	
3. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、規格 K0102-2 15.3、15.4、15.6、15.7 又は 15.8 により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数 0.2259 を乗じたものと規格規格 K0102-2 14.2、14.3 又は 14.4 により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数 0.3045 を乗じたものの和とする。	
4. 1,2-ジクロロエチレンの濃度は、規格 K0125 5.1、5.2 又は 5.3.2 により測定されたシス体の濃度と規格 K0125 5.1、5.2 又は 5.3.1 により測定されたトランス体の濃度の和とする。	

出典：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成 9 年環境庁告示第 10 号、最終改正：令和 7 年 3 月 31 日）

3) 土壌汚染

土壌汚染に係る環境基準は、「環境基本法」に基づき全国一律に定められている。

土壌汚染に係る環境基準は表 2.4.21 のとおりである。

表 2.4.21 土壌汚染に係る環境基準

項 目	環境上の条件
カドミウム	検液 1L につき 0.003mg 以下であり、かつ、農用地においては、米 1kg につき 0.4mg 以下であること。
全シアン	検液中に検出されないこと。
有機燐（りん）	検液中に検出されないこと。
鉛	検液 1L につき 0.01mg 以下であること。
六価クロム	検液 1L につき 0.05mg 以下であること。
砒（ひ）素	検液 1L につき 0.01mg 以下であり、かつ、農用地（田に限る。）においては、土壌 1kg につき 15mg 未満であること。
総水銀	検液 1L につき 0.0005mg 以下であること。
アルキル水銀	検液中に検出されないこと。
PCB	検液中に検出されないこと。
銅	農用地（田に限る。）において、土壌 1kg につき 125mg 未満であること。
ジクロロメタン	検液 1L につき 0.02mg 以下であること。
四塩化炭素	検液 1L につき 0.002mg 以下であること。
クロロエチレン（別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー）	検液 1L につき 0.002mg 以下であること。
1,2-ジクロロエタン	検液 1L につき 0.004mg 以下であること。
1,1-ジクロロエチレン	検液 1L につき 0.1mg 以下であること。
1,2-ジクロロエチレン	検液 1L につき 0.04mg 以下であること。
1,1,1-トリクロロエタン	検液 1L につき 1mg 以下であること。
1,1,2-トリクロロエタン	検液 1L につき 0.006mg 以下であること。
トリクロロエチレン	検液 1L につき 0.01mg 以下であること。
テトラクロロエチレン	検液 1L につき 0.01mg 以下であること。
1,3-ジクロロプロペン	検液 1L につき 0.002mg 以下であること。
チウラム	検液 1L につき 0.006mg 以下であること。
シマジン	検液 1L につき 0.003mg 以下であること。
チオベンカルブ	検液 1L につき 0.02mg 以下であること。
ベンゼン	検液 1L につき 0.01mg 以下であること。
セレン	検液 1L につき 0.01mg 以下であること。
ふっ素	検液 1L につき 0.8mg 以下であること。
ほう素	検液 1L につき 1mg 以下であること。
1,4-ジオキサン	検液 1L につき 0.05mg 以下であること。
備考	
1. 環境上の条件のうち検液中濃度に係るものにあつては付表に定める方法により検液を作成し、これを用いて測定を行うものとする。	
2. カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、セレン、ふっ素及びほう素に係る環境上の条件のうち検液中濃度に係る値にあつては、汚染土壌が地下水水面から離れており、かつ、原状において当該地下水中のこれらの物質の濃度がそれぞれ地下水 1L につき 0.003mg、0.01mg、0.05mg、0.01mg、0.0005mg、0.01mg、0.8mg 及び 1mg を超えていない場合には、それぞれ検液 1L につき 0.009mg、0.03mg、0.15mg、0.03mg、0.0015mg、0.03mg、2.4mg 及び 3mg とする。	
3. 「検液中に検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。	
4. 有機燐とは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及び EPN をいう。	
5. 1,2-ジクロロエチレンの濃度は、日本産業規格 K0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.2 より測定されたシス体の濃度と日本産業規格 K0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.1 により測定されたトランス体の濃度の和とする。	

注：環境基準は、汚染がもつぱら自然的原因によることが明らかであると認められる場所及び原材料の堆積場、廃棄物の埋立地その他の別表の項目の欄に掲げる項目に係る物質の利用又は処分を目的として現にこれらを集積している施設に係る土壌については、適用しない。

出典：「土壌の汚染に係る環境基準について」（平成 3 年環境庁告示第 46 号、最終改正：令和 7 年 3 月 31 日）

4) 騒音

騒音に係る環境基準は、騒音に係る環境上の条件について生活環境を保全し、人の健康を保護するうえで維持されることが望ましい基準として、「環境基本法」に基づき、定められている。

騒音に係る環境基準は表 2.4.22 のとおりである。

表 2.4.22 騒音に係る環境基準

地域の類型	基準値 (L _{Aeq})	
	昼間	夜間
AA	50 デシベル以下	40 デシベル以下
A 及び B	55 デシベル以下	45 デシベル以下
C	60 デシベル以下	50 デシベル以下

注：1. 時間の区分は、昼間を午前 6 時から午後 10 時までの間とし、夜間を午後 10 時から翌日の午前 6 時までの間とする。

注：2. AA 類型は姫路市では指定なし。

注：3. A 類型は第 1 種・第 2 種低層住居専用地域、田園住居地域、第 1 種・第 2 種中高層住居専用地域。

注：4. B 類型は第 1 種・第 2 種住居地域、準住居地域、市街化調整区域、都市計画区域外。

注：5. C 類型は近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域。

注：6. この環境基準は、航空機騒音、鉄道騒音及び建設作業騒音には適用しない。

ただし、次表に掲げる地域に該当する地域（以下、「道路に面する地域」という。）については、上表によらず次表の基準値欄に掲げるとおりとする。

地 域 の 区 分	基準値 (L _{Aeq})	
	昼 間	夜 間
A 地域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する地域	60 デシベル以下	55 デシベル以下
B 地域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する地域 及び C 地域のうち車線を有する道路に面する地域	65 デシベル以下	60 デシベル以下

注：車線とは、1 縦列の自動車安全かつ円滑に走行するために必要な一定の幅員を有する帯状の車道部分をいう。この場合において、幹線交通を担う道路に近接する空間については、上表にかかわらず、特例として次表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

基準値 (L _{Aeq})	
昼 間	夜 間
70 デシベル以下	65 デシベル以下
備考：個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、屋内へ透過する騒音に係る基準（昼間にあっては 45 デシベル以下、夜間にあっては 40 デシベル以下）によることができる。	

注：幹線交通を担う道路とは、道路法第 3 条に規定する高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び市町村道（市町村道にあっては 4 車線以上の車線を有する区間に限る）並びに一般自動車道であって都市計画法施行規則第 7 条第 1 項第 1 号に定める自動車専用道路をいう。また、近接する区域とは、2 車線以下の車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から 15m、2 車線を超える車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から 20m までの範囲をいう。

出典：「騒音に係る環境基準について」（平成 10 年環境庁告示第 64 号）、最終改正：令和 2 年 3 月 30 日）

出典：「姫路市環境政策室資料」（令和 8 年 1 月ヒアリング、姫路市環境政策室）

5) ダイオキシン類

ダイオキシン類に係る環境基準は、表 2.4.23 のとおりである。

表 2.4.23 ダイオキシン類に係る環境基準

項 目	基準値
大気	0.6pg-TEQ/m ³ 以下
水質（水底の底質を除く。）	1pg-TEQ/L 以下
水底の底質	150pg-TEQ/g 以下
土壌	1,000pg-TEQ/g 以下
備考	
1. 基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾーパラジオキシンの毒性に換算した値とする。 2. 大気及び水質（水底の底質を除く。）の基準値は、年間平均値とする。 3. 土壌に含まれるダイオキシン類をソックスレー抽出又は高圧流体抽出し、高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計、ガスクロマトグラフ四重極形質量分析計又はガスクロマトグラフ三次元四重極形質量分析計により測定する方法（この表の土壌の欄に掲げる測定方法を除く。以下「簡易測定方法」という。）により測定した値（以下「簡易測定値」という。）に2を乗じた値を上限、簡易測定値に0.5を乗じた値を下限とし、その範囲内の値をこの表の土壌の欄に掲げる測定方法により測定した値とみなす。 4. 土壌にあっては、環境基準が達成されている場合であって、土壌中のダイオキシン類の量が250pg-TEQ/g 以上の場合（簡易測定方法により測定した値に2を乗じた値が250pg-TEQ/g 以上の場合）には、必要な調査を実施することとする。	

注：1. 大気の汚染に係る環境基準は、工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない地域又は場所については適用しない。

注：2. 水質の汚濁（水底の底質の汚染を除く。）に係る環境基準は、公共用水域及び地下水について適用する。

注：3. 水底の底質の汚染に係る環境基準は、公共用水域の水底の底質について適用する。

注：4. 土壌の汚染に係る環境基準は、廃棄物の埋立地その他の場所であって、外部から適切に区別されている施設に係る土壌については適用しない。

出典：「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む）及び土壌の汚染に係る環境基準について」（平成11年環境庁告示第68号、最終改正：令和4年11月25日）

② 規制基準等

1) 大気汚染

「大気汚染防止法」（昭和 43 年法律第 97 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）、「ダイオキシン類対策特別措置法」（平成 11 年法律第 105 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）に基づく大気汚染に係る規制の状況は表 2.4.24 のとおりである。

本事業は太陽光発電事業であるため、ばい煙等の発生はなく、大気汚染防止法等の適用は受けない。

表 2.4.24 大気汚染防止法等規制対象物質一覧

規制物質		物質の例示	発生形態	発生施設	規制基準	規制措置等
ばい煙	硫黄酸化物	SO ₂ 、SO ₃	燃焼など	政令で定めるばい煙発生施設（ボイラー、焼却炉など）	排出基準 〔量規制、地域ごとK値方式〕 特定工場等については総量規制基準 〔指定地域内、工場単位量規制、知事が定める〕	改善命令、直罰など
	ばいじん	すすなど			排出基準 〔濃度規制、施設の種類・規模ごと〕	
	有害物質	NO _x	燃焼、合成、分解、加圧など	政令で定めるばい煙発生施設（銅、亜鉛、鉛の精錬用ばい焼炉など）	排出基準 〔濃度規制、施設の種類・規模ごと〕 特定工場等については総量規制基準 〔指定地域内、工場単位量規制、知事が定める〕	
		Cd、Pb、HF、Cl ₂ 、HClなど			排出基準 〔濃度規制、物質の種類・施設の規模ごと〕	
	（特定有害物質）	未指定	燃焼など	未指定	排出基準 〔量規制、K値方式〕	
揮発性有機化合物（VOC）			乾燥施設、タンクなど	政令で定める揮発性有機化合物排出施設	排出基準 〔濃度規制、施設の種類・規模ごと〕	改善命令
粉じん	特定粉じん	石綿	物の破碎、選別、堆積など	政令で定める特定粉じん発生施設	規制基準 〔敷地境界での濃度基準〕	改善命令
				政令で定める排出等作業	作業基準	基準適合命令
	一般粉じん	セメント粉、石灰粉、鉄粉など		一般粉じん発生施設	構造・使用・管理基準	基準適合命令
水銀等			石炭燃焼、廃棄物焼却等	水銀排出施設	排出基準 〔濃度規制、施設の種類・規模ごと〕	勧告
自動車排出ガス		CO、HC、Pb、NO _x 、粒子状物質	自動車の運行	環境庁長官が定める特定の自動車	許容限度（保安基準で確保）	車両検査、整備命令など（他法による）
特定物質		C ₆ H ₅ OH、C ₆ H ₅ Nなど	物の合成等の化学的処理中	特定施設（政令等で特定せず）	なし	事故時の措置命令
指定物質		ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン	物の反応、乾燥等の化学的処理	指定物質排出施設（現在11施設）	抑制基準	勧告
ダイオキシン類対策特別措置法			燃焼など	焼結炉、製鋼用電気炉、亜鉛回収及びアルミニウム合金製造用炉、廃棄物焼却炉	排出基準	改善命令、直罰など

2) 水質汚濁

事業実施想定地域及びその周囲における工場及び事業場からの排水水については、「水質汚濁防止法」（昭和 45 年法律第 138 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）に基づき、全国一律の排水基準（有害物質 28 物質、生活環境 15 項目）が表 2.4.25 のとおり定められている。

また、水質汚濁防止法第 3 条第 3 項及び第 4 項（「瀬戸内海環境保全特別措置法」（昭和 48 年法律第 110 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）第 12 条の 2 の規定によりこれらの規定が適用される場合を含む）の規定に基づき、「水質汚濁防止法第 3 条第 3 項の排水基準に関する条例」（昭和 49 年兵庫県条例第 18 号、最終改正：令和 7 年 3 月 25 日）で特定施設を設置している工場又は事業場から排出される汚水に係る上乗せ排水基準を定めているが、本事業は太陽光発電事業であるため、排水の発生はなく、水質汚濁防止法等の適用は受けない。

表 2.4.25(1) 水質汚濁防止法に基づく排水基準（有害物質の排水基準）

有害物質の種類		許容限度
カドミウム及びその化合物		1L につきカドミウム 0.03 mg
シアン化合物		1L につきシアン 1 mg
有機リン化合物 (パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及び EPN に限る。)		1L につき 1 mg
鉛及びその化合物		1L につき鉛 0.1 mg
六価クロム化合物		1L につき六価クロム 0.2 mg
砒素及びその化合物		1L につき砒素 0.1 mg
水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物		1L につき水銀 0.005 mg
アルキル水銀化合物		検出されないこと。
ポリ塩化ビフェニル		1L につき 0.003 mg
トリクロロエチレン		1L につき 0.1 mg
テトラクロロエチレン		1L につき 0.1 mg
ジクロロメタン		1L につき 0.2 mg
四塩化炭素		1L につき 0.02 mg
1,2-ジクロロエタン		1L につき 0.04 mg
1,1-ジクロロエチレン		1L につき 1 mg
シス-1,2-ジクロロエチレン		1L につき 0.4 mg
1,1,1-トリクロロエタン		1L につき 3 mg
1,1,2-トリクロロエタン		1L につき 0.06 mg
1,3-ジクロロプロペン		1L につき 0.02 mg
チウラム		1L につき 0.06 mg
シマジン		1L につき 0.03 mg
チオベンカルブ		1L につき 0.2 mg
ベンゼン		1L につき 0.1 mg
セレン及びその化合物		1L につきセレン 0.1 mg
ほう素及びその化合物	海域以外の公共用水域に排出されるもの	1L につきほう素 10 mg
	海域に排出されるもの	1L につきほう素 230 mg
ふっ素及びその化合物	海域以外の公共用水域に排出されるもの	1L につきふっ素 8 mg
	海域に排出されるもの	1L につきふっ素 15 mg
アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物		アンモニア性窒素に 0.4 を乗じたもの、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量
1,4-ジオキサン		1L につき 0.5 mg
備考		
1 「検出されないこと。」とは、第 2 条の規定に基づき環境大臣が定める方法により排水水の汚染状態を検定した場合において、その結果が当該検定方法の定量限界を下回ることをいう。		
2 砒素及びその化合物についての排水基準は、水質汚濁防止法施行令及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の一部を改正する政令（昭和 49 年政令第 363 号）の施行の際現にゆう出している温泉（温泉法（昭和 23 年法律第 125 号）第 2 条第 1 項に規定するものをいう。）を利用する旅館業に属する事業場に係る排水水については、当分の間、適用しない。		

出典：「排水基準を定める省令」（昭和 46 年総理府令第 35 号、最終改正：令和 7 年 5 月 26 日）

表 2.4.25(2) 水質汚濁防止法に基づく排水基準（水素イオン濃度その他の排水基準）

項目		許容限度
水素イオン濃度 (水素指数)	海域以外の公共用水域に排出されるもの	5.8 以上 8.6 以下
	海域に排出されるもの	5.0 以上 9.0 以下
生物化学的酸素要求量		160 mg/L (日間平均 120 mg/L)
化学的酸素要求量		160 mg/L (日間平均 120 mg/L)
浮遊物質		200 mg/L (日間平均 150 mg/L)
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (鉱油類含有量)		5 mg/L
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (動植物油脂類含有量)		30 mg/L
フェノール類含有量		5 mg/L
銅含有量		3 mg/L
亜鉛含有量		2 mg/L
溶解性鉄含有量		10 mg/L
溶解性マンガン含有量		10 mg/L
クロム含有量		2 mg/L
大腸菌数		日間平均 800CFU/mL
窒素含有量		120 mg/L (日間平均 60 mg/L)
リン含有量		16 mg/L (日間平均 8 mg/L)
備考		
1 「日間平均」による許容限度は、一日の排出水の平均的な汚染状態について定めたものである。		
2 この表に掲げる排水基準は、一日当たりの平均的な排出水の量が 50m ³ 以上である工場又は事業場に係る排水について適用する。		
3 水素イオン濃度及び溶解性鉄含有量についての排水基準は、硫黄鉱業（硫黄と共存する硫化鉄鉱を掘採する鉱業を含む。）に属する工場又は事業場に係る排水については適用しない。		
4 水素イオン濃度、銅含有量、亜鉛含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量及びクロム含有量についての排水基準は、水質汚濁防止法施行令及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の一部を改正する政令の施行の際現にゆう出している温泉を利用する旅館業に属する事業場に係る排水については、当分の間、適用しない。		
5 生物化学的酸素要求量についての排水基準は、海域及び湖沼以外の公共用水域に排出される排水に限り適用し、化学的酸素要求量についての排水基準は、海域及び湖沼に排出される排水に限り適用する。		
6 窒素含有量についての排水基準は、窒素が湖沼植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある湖沼として環境大臣が定める湖沼、海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域（湖沼であって水の塩素イオン含有量が 1L につき 9,000 mg を超えるものを含む。以下同じ。）として環境大臣が定める海域及びこれらに流入する公共用水域に排出される排水に限り適用する。		
7 リン含有量についての排水基準は、リンが湖沼植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある湖沼として環境大臣が定める湖沼、海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域として環境大臣が定める海域及びこれらに流入する公共用水域に排出される排水に限り適用する。		

出典：「排水基準を定める省令」（昭和 46 年総理府令第 35 号、最終改正：令和 7 年 5 月 26 日）

表 2.4.25(3) 水質汚濁防止法に基づく排水基準（有害物質に係る排水基準）

有害物質の種類	許容限度	
	既設特定事業場	その他の特定事業場
シアン化合物	1L につきシアン 0.7 mg	1L につきシアン 0.3 mg
有機リン化合物 (パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及び EPN に限る。)	1L につき 0.7 mg	1L につき 0.3 mg
六価クロム化合物	1L につき六価クロム 0.35 mg	1L につき六価クロム 0.1 mg
砒素及びその化合物	—	1L につき砒素 0.05 mg
備考		
1 この表に掲げる排水基準を適用すべき区域の範囲は、県の区域に属する公共用水域の全域とする。		
2 この表に掲げる排水基準は、法第 2 条第 2 項に規定する特定施設（以下「特定施設」という。）及び法第 2 条第 3 項に規定する指定地域特定施設（瀬戸内海環境保全特別措置法第 12 条の 2 の規定により法第 2 条第 3 項に規定する指定地域特定施設とみなされる施設（以下「みなし指定地域特定施設」という。）を含む。以下「指定地域特定施設」という。）を設置する工場又は事業場（以下「特定事業場」という。）から排出される排水について適用する。		
3 以降略		

出典：「水質汚濁防止法第 3 条第 3 項の排水基準に関する条例」（昭和 49 年兵庫県条例第 18 号、最終改正：令和 7 年 3 月 25 日）

3) 土壌汚染

「土壌汚染対策法」（平成 14 年法律第 53 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）に基づく区域の指定に係る基準は表 2.4.26 のとおりである。

表 2.4.26(1) 土壌汚染対策法に基づく区域の指定に係る基準

特定有害物質の種類	要 件
カドミウム及びその化合物	検液 1L につきカドミウム 0.003mg 以下であること。
六価クロム化合物	検液 1L につき六価クロム 0.05mg 以下であること。
クロロエチレン	検液 1L につき 0.002mg 以下であること。
シマジン	検液 1L につき 0.003mg 以下であること。
シアン化合物	検液中にシアンが検出されないこと。
チオベンカルブ	検液 1L につき 0.02mg 以下であること。
四塩化炭素	検液 1L につき 0.002mg 以下であること。
1,2-ジクロロエタン	検液 1L につき 0.004mg 以下であること。
1,1-ジクロロエチレン	検液 1L につき 0.1mg 以下であること。
1,2-ジクロロエチレン	検液 1L につき 0.04mg 以下であること。
1,3-ジクロロプロペン	検液 1L につき 0.002mg 以下であること。
ジクロロメタン	検液 1L につき 0.02mg 以下であること。
水銀及びその化合物	検液 1L につき水銀 0.0005mg 以下であり、かつ、検液中にアルキル水銀が検出されないこと。
セレン及びその化合物	検液 1L につきセレン 0.01mg 以下であること。
テトラクロロエチレン	検液 1L につき 0.01mg 以下であること。
チウラム	検液 1L につき 0.006mg 以下であること。
1,1,1-トリクロロエタン	検液 1L につき 1mg 以下であること。
1,1,2-トリクロロエタン	検液 1L につき 0.006mg 以下であること。
トリクロロエチレン	検液 1L につき 0.01mg 以下であること。
鉛及びその化合物	検液 1L につき鉛 0.01mg 以下であること。
砒素及びその化合物	検液 1L につき砒素 0.01mg 以下であること。
ふっ素及びその化合物	検液 1L につきふっ素 0.8mg 以下であること。
ベンゼン	検液 1L につき 0.01mg 以下であること。
ほう素及びその化合物	検液 1L につきほう素 1mg 以下であること。
ポリ塩化ビフェニル	検液中に検出されないこと。
有機りん化合物	検液中に検出されないこと。

出典：「土壌汚染対策法施行規則」（平成 14 年環境省令第 29 号、最終改正：令和 6 年 4 月 1 日）

表 2.4.26(2) 区域の指定に係る基準（土壌含有量基準）

特定有害物質の種類	要 件
カドミウム及びその化合物	土壌 1kg につきカドミウム 45mg 以下であること。
六価クロム化合物	土壌 1kg につき六価クロム 250mg 以下であること。
シアン化合物	土壌 1kg につき遊離シアン 50mg 以下であること。
水銀及びその化合物	土壌 1kg につき水銀 15mg 以下であること。
セレン及びその化合物	土壌 1kg につきセレン 150mg 以下であること。
鉛及びその化合物	土壌 1kg につき鉛 150mg 以下であること。
砒素及びその化合物	土壌 1kg につき砒素 150mg 以下であること。
ふっ素及びその化合物	土壌 1kg につきふっ素 4,000mg 以下であること。
ほう素及びその化合物	土壌 1kg につきほう素 4,000mg 以下であること。

出典：「土壌汚染対策法施行規則」（平成 14 年環境省令第 29 号、最終改正：令和 6 年 4 月 1 日）

4) 騒音

騒音の規制に関しては、「騒音規制法」（昭和 43 法律第 98 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）に基づき、特定工場等に係る規制基準、特定建設作業に伴って発生する騒音に関する規制基準及び自動車等において発生する騒音の要請限度が定められている。

騒音に関する規制基準は表 2.4.27～表 2.4.32 のとおりである。

表 2.4.27 騒音の特定施設を有する工場、事業場に関する時間及び区域の区分ごとの規制基準
(騒音規制法、環境の保全と創造に関する条例、姫路市公害防止条例)

区域の区分	時間の区分 (デシベル)		
	昼間 (午前 8 時～午後 6 時)	朝・夕 (午前 6 時～午前 8 時、 午後 6 時～午後 10 時)	夜間 (午後 10 時～午前 6 時)
第 1 種区域	50	45	40
第 2 種区域	60	50	45
第 3 種区域	65	60	50
第 4 種区域	70	70	60
備考			
1 デシベルとは、計量法（平成 4 年法律第 51 号）別表第二に定める音圧レベルの計量単位をいう。 2 騒音の測定は、計量法第 71 条の条件に合格した騒音計を用いて行うものとする。この場合において、周波数補正回路は A 特性を、動特性は速い動特性（FAST）を用いることとする。 3 騒音の測定方法は、当分の間、日本工業規格 Z8731 に定める騒音レベル測定方法によるものとし、騒音の大きさの決定は、次のとおりとする。 (1) 騒音計の指示値が変動せず、又は変動が少ない場合は、その指示値とする。 (2) 騒音計の指示値が周期的又は間欠的に変動し、その指示値の最大値がおおむね一定の場合は、その変動ごとの指示値の最大値の平均値とする。 (3) 騒音計の指示値が不規則かつ大幅に変動する場合は、測定値の九十パーセントレンジの上端の数値とする。 (4) 騒音計の指示値が周期的又は間欠的に変動し、その指示値の最大値が一定でない場合は、その変動ごとの指示値の最大値の九十パーセントレンジの上端の数値とする。 4 この表に掲げる区域の区分のうち、第 2 種区域、第 3 種区域及び第 4 種区域の区域内に所在する次に掲げる施設の敷地の周囲おおむね 50m [*] の区域内における規制基準は、上表の当該各欄に定める当該値から 5 デシベルを減じた値とする。※「環境の保全と創造に関する条例」においては、当該敷地の周囲 50m の区域内に適用する。 1 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 1 条に規定する学校 2 児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号）第 7 条第 1 項に規定する保育所 3 医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 1 条の 5 第 1 項に規定する病院及び同条第 2 項に規定する診療所のうち患者の収容施設を有するもの 4 図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）第 2 条第 1 項に規定する図書館 5 老人福祉法（昭和 38 年法律第 133 号）第 20 条の 5 に規定する特別養護老人ホーム 6 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成 18 年法律第 77 号）第 2 条第 7 項に規定する幼保連携型認定こども園			

出典：「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」

(昭和 43 年厚生省・農林省・通商産業省・運輸省告示 1 号、最終改正：令和 2 年 3 月 30 日)

「兵庫県における騒音・振動の規制基準」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

「姫路市公害防止条例施行規則」（昭和 49 年姫路市規則第 25 号）

表 2.4.28 騒音規制法に基づく区域のめやす

騒音規制法に基づく区域	都市計画法の区域のめやす
第1種区域	第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、田園住居地域
第2種区域	第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域、市街化調整区域、その他用途地域の指定をうけていない地域
第3種区域	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、その他用途地域の指定をうけていない地域
第4種区域のうち学校、保育所、病院、診療所、図書館、特別養護老人ホーム、幼保連携型認定こども園の周囲概ね80mの区域	工業地域、工業専用地域

出典：「兵庫県における騒音・振動の規制基準」（令和8年1月閲覧、兵庫県 HP）

「姫路市公害防止条例施行規則」（昭和49年姫路市規則第25号）

表 2.4.29 特定建設作業に係る規制基準

（騒音規制法、環境の保全と創造に関する条例、姫路市公害防止条例）

基準種別 区域の区分	敷地境界における基準	作業時刻に関する基準	作業時間に関する基準*	作業期間に関する基準	作業日に関する基準
A 地域	85 デシベル	午後7時～翌日午前7時の時間内にないこと	1日10時間を超えないこと	連続6日を超えないこと	日曜・その他の休日ではないこと
B 地域		午後10時～翌日午前6時の時間内にないこと	1日14時間を超えないこと		
適用除外	—	イロハニ	イロ	イロ	イロハニホ
備考 1 デシベルとは、計量法（平成4年法律第51号）別表第2に定める音圧レベルの計量単位をいう。 2 騒音の測定は、計量法第71条の条件に合格した騒音計を用いて行うものとする。この場合において、周波数補正回路はA特性を、動特性は速い動特性（FAST）を用いることとする。 3 騒音の測定の方法は、当分の間、日本工業規格 Z8731 に定める騒音レベル測定方法によるものとし、騒音の大きさの決定は、次のとおりとする。 (1) 騒音計の指示値が変動せず、又は変動が少ない場合は、その指示値とする。 (2) 騒音計の指示値が周期的又は間欠的に変動し、その指示値の最大値がおおむね一定の場合は、その変動ごとの指示値の最大値の平均値とする。 (3) 騒音計の指示値が不規則かつ大幅に変動する場合は、測定値の90パーセントレンジの上端の数値とする。 (4) 騒音計の指示値が周期的又は間欠的に変動し、その指示値の最大値が一定でない場合は、その変動ごとの指示値の最大値の90パーセントレンジの上端の数値とする。					

注：適用除外の場合は、次のいずれかをいう。

- イ 災害その他非常事態の発生により緊急を有する場合
- ロ 人の生命・身体の危険防止のため必要な場合
- ハ 鉄道・軌道の正常な運行確保のため必要な場合
- ニ 道路法による占用許可（協議）又は道路交通法による使用許可（協議）に条件が付された場合
- ホ 変電所の工事であって必要な場合

出典：「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和43年厚生省・建設省告示1号、最終改正：令和2年3月30日）

「兵庫県における騒音・振動の規制基準」（令和8年1月閲覧、兵庫県 HP）

「姫路市公害防止条例施行規則」（昭和49年姫路市規則第25号）

表 2.4.30 特定建設作業に伴って発生する騒音・振動に係る規制の区域の区分

区域	騒音規制法に基づく区域	都市計画法の区域のめやす
A 地域	第 1 種区域	第 1 種低層住居専用地域、第 2 種低層住居専用地域、田園住居地域
	第 2 種区域	第 1 種中高層住居専用地域、第 2 種中高層住居専用地域、第 1 種住居地域、第 2 種住居地域、準住居地域、市街化調整区域、その他用途地域の指定をうけていない地域
	第 3 種区域	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、その他用途地域の指定をうけていない地域
	第 4 種区域のうち学校、保育所、病院、診療所、図書館、特別養護老人ホーム、幼保連携型認定こども園の周囲概ね 80m の区域	工業地域、工業専用地域
B 地域	A 以外の区域	

出典：「兵庫県における騒音・振動の規制基準」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）
「姫路市公害防止条例施行規則」（昭和 49 年姫路市規則第 25 号）

表 2.4.31 自動車騒音に係る要請限度及び時間の区分

区域の区分	時間の区分	
	昼間	夜間
A 区域及び B 区域のうち 1 車線を有する道路に面する区域	65 デシベル	55 デシベル
A 区域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する区域	70 デシベル	65 デシベル
B 区域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する区域及び C 区域のうち車線を有する道路に面する区域	75 デシベル	70 デシベル

注：1. 区域の指定は以下のとおり。

A 区域の目安：第 1 種・第 2 種低層住居専用地域、田園住居地域、第 1 種・第 2 種中高層住居専用地域

B 区域の目安：第 1 種・第 2 種住居地域、準住居地域、市街化調整区域、都市計画区域外

C 区域の目安：近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域

注：2. 車線とは、一縦列の自動車（二輪のものを除く。）が安全かつ円滑に走行するために必要な幅員を有する帯状の車道の部分をいう。

注：3. 昼間とは午前 6 時から午後 10 時までの間、夜間とは午後 10 時から翌日の午前 6 時までの間をいう。

注：4. 幹線交通を担う道路に近接する区域に係る限度は上表にかかわらず、特例として、次表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

出典：「騒音規制法第十七条第一項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」

（平成 12 年総理府令第 15 号、最終改正：令和 2 年 3 月 30 日）

出典：「姫路市環境政策室資料」（令和 8 年 1 月ヒアリング、姫路市環境政策室）

表 2.4.32 自動車騒音に係る要請限度及び時間の区分

（幹線交通を担う道路に近接する区域の特例）

基準値	
昼間	夜間
75 デシベル以下	70 デシベル以下

注：1. 時間の区分は、昼間を午前 6 時から午後 10 時までの間とし、夜間を午後 10 時から翌日の午前 6 時までの間とする。

注：2. 幹線交通を担う道路とは、道路法第 3 条に規定する高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び市町村道（市町村道にあっては 4 車線以上の車線を有する区間に限る）並びに一般自動車道であって都市計画法施行規則第 7 条第 1 項第 1 号に定める自動車専用道路をいう。また、近接する区域とは、2 車線以下の車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から 15m、2 車線を超える車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から 20m までの範囲をいう。

出典：「騒音規制法第十七条第一項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」

（平成 12 年総理府令第 15 号、最終改正：令和 2 年 3 月 30 日）

5) 振動

振動の規制に関しては、「振動規制法」（昭和 51 法律第 64 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）に基づき、規制地域を指定して特定工場等における事業活動及び建設工事に伴って発生する振動の規制基準並びに道路交通振動の要請限度が定められている。

振動に関する規制基準は表 2.4.30 及び表 2.4.33～表 2.4.35 のとおりである。

表 2.4.33 振動の特定施設を有する工場、事業場に関する時間及び区域の区分ごとの規制基準
(振動規制法、環境の保全と創造に関する条例)

区域の区分	時間の区分（デシベル）																
	昼間（午前 8 時～午後 7 時）	夜間（午後 7 時～午前 8 時）															
	振動レベル	振動レベル															
第 1 種区域 （良好な住居の環境を保全するため、特に静穏の保持を必要とする区域及び住居の用に供されているため、静穏の保持を必要とする区域）	60	55															
第 2 種区域 （住居の用に併せて商業、工業等の用に供されている区域であつて、その区域内の住民の生活環境を保全するため、振動の発生を防止する必要がある区域及び主として工業等の用に供されている区域であつて、その区域内の住民の生活環境を悪化させないため、著しい振動の発生を防止する必要がある区域）	65	60															
備考																	
1 デシベルとは、計量法（平成 4 年法律第 51 号）別表第二に定める振動加速度レベルの計量単位をいう。																	
2 振動の測定は、計量法第 71 条の条件に合格した振動レベル計を用い、鉛直方向について行うものとする。この場合において、振動感覚補正回路は鉛直振動特性を用いることとする。																	
3 振動の測定方法は、次のとおりとする。																	
（1）振動ピックアップの設置場所は、次のとおりとする。																	
イ 緩衝物がなく、かつ、十分踏み固め等の行われている堅い場所																	
ロ 傾斜及びおうとつがない水平面を確保できる場所																	
ハ 温度、電気、磁気等の外囲条件の影響を受けない場所																	
（2）暗振動の影響の補正は、次のとおりとする。																	
測定の対象とする振動に係る指示値と暗振動（当該測定場所において発生する振動で当該測定の対象とする振動以外のものをいう。）の指示値の差が十デシベル未満の場合は、測定の対象とする振動に係る指示値から次の表の上欄に掲げる指示値の差ごとに同表の下欄に掲げる補正値を減ずるものとする。																	
<table><tr><th>指示値の差</th><th>補正値</th><th>指示値の差</th><th>補正値</th></tr><tr><td>3 デシベル</td><td>3 デシベル</td><td>6 デシベル</td><td rowspan="4">1 デシベル</td></tr><tr><td>4 デシベル</td><td>2 デシベル</td><td>7 デシベル</td></tr><tr><td rowspan="2">5 デシベル</td><td rowspan="2"></td><td>8 デシベル</td></tr><tr><td>9 デシベル</td></tr></table>			指示値の差	補正値	指示値の差	補正値	3 デシベル	3 デシベル	6 デシベル	1 デシベル	4 デシベル	2 デシベル	7 デシベル	5 デシベル		8 デシベル	9 デシベル
指示値の差	補正値	指示値の差	補正値														
3 デシベル	3 デシベル	6 デシベル	1 デシベル														
4 デシベル	2 デシベル	7 デシベル															
5 デシベル		8 デシベル															
		9 デシベル															
4 振動レベルの決定は、次のとおりとする。																	
（1）測定器の指示値が変動せず、又は変動が少ない場合は、その指示値とする。																	
（2）測定器の指示値が周期的又は間欠的に変動する場合は、その変動ごとの指示値の最大値の平均値とする。																	
（3）測定器の指示値が不規則かつ大幅に変動する場合は、5 秒間隔で 100 個又はこれに準ずる間隔及び個数の測定値の 80 パーセントレンジの上端の数値とする。																	
5 ただし、次に掲げる施設の敷地の周囲おおむね 50 メートルの区域内における規制基準は、上表の当該各欄に定める当該値から 5 デシベルを減じた値とする。																	
1 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 1 条に規定する学校																	
2 児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号）第 7 条第 1 項に規定する保育所																	
3 医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 1 条の 5 第 1 項に規定する病院及び同条第 2 項に規定する診療所のうち患者の収容施設を有するもの																	
4 図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）第 2 条第 1 項に規定する図書館																	
5 老人福祉法（昭和 38 年法律第 133 号）第 20 条の 5 に規定する特別養護老人ホーム																	
6 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成 18 年法律第 77 号）第 2 条第 7 項に規定する幼保連携型認定こども園																	

出典：「振動規制法施行規則」（昭和 51 年総理府令第 58 号、最終改正：令和 3 年 3 月 25 日）

「兵庫県における騒音・振動の規制基準」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

「姫路市環境政策室資料」（令和 8 年 1 月ヒアリング、姫路市環境政策室）

表 2.4.34 特定建設作業に係る規制基準

基準種別 区域の区分	敷地境界に おける基準	作業時刻に 関する基準	作業時間に 関する基準*	作業期間に 関する基準	作業日に 関する基準
①の区域	75 デシベル	午後 7 時～翌日午前 7 時の時間内にないこと	1 日 10 時間を超えないこと	連続 6 日を超えないこと	日曜・その他の休日ではないこと
②の区域		午後 10 時～翌日午前 6 時の時間内にないこと	1 日 14 時間を超えないこと		
適用除外	ー	イロハニ	イロ	イロ	イロハニホ
備考					
1 デシベルとは、計量法（平成 4 年法律第 51 号）別表第 2 に定める振動加速度レベルの計量単位をいう。					
2 振動の測定は、計量法第 71 条の条件に合格した振動レベル計を用い、鉛直方向について行うものとする。この場合において、振動感覚補正回路は鉛直振動特性を用いることとする。					
3 振動の測定方法は、次のとおりとする。					
(1)振動ピックアップの設置場所は、次のとおりとする。					
イ 緩衝物がなく、かつ、十分踏み固め等の行われている堅い場所					
ロ 傾斜及びおうとつがない水平面を確保できる場所					
ハ 温度、電気、磁気等の外囲条件の影響を受けない場所					
(2)暗振動の影響の補正は、次のとおりとする。					
測定の対象とする振動に係る指示値と暗振動（当該測定場所において発生する振動で当該測定の対象とする振動以外のものをいう。）の指示値との差が 10 デシベル未満の場合は、測定の対象とする振動に係る指示値から次の表の上欄に掲げる指示値の差ごとに同表の下欄に掲げる補正値を減ずるものとする。					
指示値の差		補正値		指示値の差	
3 デシベル		3 デシベル		6 デシベル	
4 デシベル		2 デシベル		7 デシベル	
5 デシベル				8 デシベル	
				9 デシベル	
1 デシベル					
4 振動レベルの決定は、次のとおりとする。					
(1)測定器の指示値が変動せず、又は変動が少ない場合は、その指示値とする。					
(2)測定器の指示値が周期的又は間欠的に変動する場合は、その変動ごとの指示値の最大値の平均値とする。					
(3)測定器の指示値が不規則かつ大幅に変動する場合は、5 秒間隔で 100 個又はこれに準ずる間隔及び個数の測定値の 80 パーセントレンジの上端の数値とする。					

注：適用除外の場合は、次のいずれかをいう。

- イ 災害その他非常事態の発生により緊急を有する場合
- ロ 人の生命・身体の危険防止のため必要な場合
- ハ 鉄道・軌道の正常な運行確保のため必要な場合
- ニ 道路法による占用許可（協議）又は道路交通法による使用許可（協議）に条件が付された場合
- ホ 変電所の工事であって必要な場合

出典：「振動規制法施行規則」（昭和 51 年総理府令第 58 号、最終改正：令和 3 年 3 月 25 日）

「兵庫県における騒音・振動の規制基準」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

表 2.4.35 道路交通振動の要請限度及び時間の区分

区域の区分	時間の区分	
	昼間（午前 8 時から午後 7 時まで）	夜間（午後 7 時から翌朝午前 8 時まで）
	振動レベル	振動レベル
第 1 種区域	65 デシベル	60 デシベル
第 2 種区域	70 デシベル	65 デシベル

注：区域の指定は以下のとおり。

第 1 種区域：良好な住居の環境を保全するため、特に静穏の保持を必要とする区域及び住居の用に供されているため、静穏の保持を必要とする区域

第 2 種区域：住居の用に併せて商業、工業等の用に供されている区域であつて、その区域内の住民の生活環境を保全するため、振動の発生を防止する必要がある区域及び主として工業等の用に供されている区域であつて、その区域内の住民の生活環境を悪化させないため、著しい振動の発生を防止する必要がある区域

出典：「振動規制法施行規則」（昭和 51 年総理府令第 58 号、最終改正：令和 3 年 3 月 25 日）

出典：「姫路市環境政策室資料」（令和 8 年 1 月ヒアリング、姫路市環境政策室）

6) 地盤沈下

姫路市内に「工業用水法」（昭和 31 年法律第 146 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）第 3 条に基づく指定地域、「建築物用地下水の採取の規制に関する法律」（昭和 37 年法律第 100 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）第 3 条に基づく指定地域はない。

出典：「令和 5 年度 全国の地盤沈下地域の概況」（令和 8 年 1 月閲覧、環境省 HP）

7) 悪臭

悪臭の規制基準は、「悪臭防止法」（昭和 46 年法律第 91 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）第 3 条及び第 4 条に基づき、都道府県知事（政令市長）が「特定悪臭物質の濃度」又は「臭気指数」いずれかの方法を採用し、次について定めるものとなっており、姫路市においては「特定悪臭物質の濃度」規制を行っている。

敷地境界での濃度規制（22 物質）、煙突その他の気体排出口での排出量規制（13 物質）及び排出水中の濃度規制（4 物質）を行っており、敷地境界の規制基準は、表 2.4.36 のとおりである。

表 2.4.36 悪臭に係る規制基準（敷地境界の規制基準）

悪臭物質名	地域の区分	順応地域	一般地域
アンモニア		5ppm	1ppm
メチルメルカプタン		0.01ppm	0.002ppm
硫化水素		0.2ppm	0.02ppm
硫化メチル		0.2ppm	0.01ppm
二硫化メチル		0.1ppm	0.009ppm
トリメチルアミン		0.07ppm	0.005ppm
アセトアルデヒド		0.5ppm	0.05ppm
プロピオンアルデヒド		0.5ppm	0.05ppm
ノルマルブチルアルデヒド		0.08ppm	0.009ppm
イソブチルアルデヒド		0.2ppm	0.02ppm
ノルマルバレールアルデヒド		0.05ppm	0.009ppm
イソバレールアルデヒド		0.01ppm	0.003ppm
イソブタノール		20ppm	0.9ppm
酢酸エチル		20ppm	3ppm
メチルイソブチルケトン		6ppm	1ppm
トルエン		60ppm	10ppm
スチレン		2ppm	0.4ppm
キシレン		5ppm	1ppm
プロピオン酸		0.2ppm	0.03ppm
ノルマル酪酸		0.006ppm	0.001ppm
ノルマル吉草酸		0.004ppm	0.0009ppm
イソ吉草酸		0.01ppm	0.001ppm

注：地域の区分の指定は以下のとおりである。

順応地域：主として工業の用に供されている地域その他悪臭に対する順応の見られる地域をいう。

一般地域：順応地域以外の地域をいう。

出典：「令和 7 年度版 環境白書」（令和 8 年 6 月閲覧、兵庫県 HP）

8) 産業廃棄物

産業廃棄物については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（昭和 45 年法律第 137 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）及び「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成 12 年法律第 104 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）により、事業活動等に伴って発生した廃棄物（石綿等含有廃建材を含む）は、事業者自らの責任で適正に処理しなければならない旨を定めている。

(8) 特別地域の指定状況

「3 特別地域の分布状況」のとおりである。

4-2-2 環境の状況

(1) 大気汚染

① 気象

姫路市は兵庫県の南西部、瀬戸内海に面した播磨平野のほぼ中央に位置し、市域は東西約 36km、南北約 56km、総面積は約 534km² となっており、事業実施想定地域のある姫路市の中南部は、山並みから離れた丘陵部が市街地内に点在しており、市川、夢前川、揖保川などの河川が南北に流れている。気候は瀬戸内海気候に属し、年降水量、降水日数ともに比較的少なく、四季を通じて温和な日が多い自然災害の少ない地域となっている。

事業実施想定地域の最寄りの気象観測所は表 2.4.37 及び図 2.4.15 のとおり事業実施想定地域の南側約 4.5km にある姫路特別地域気象観測所である。

姫路特別地域気象観測所における平年値及び令和 7 年の気象概況は表 2.4.38 及び表 2.4.39 のとおりである。

令和 7 年の年平均気温は 16.6℃、年間降水量は 971.0mm、年平均風速は 2.6m/s、日照時間は 2,312.9 時間である。

表 2.4.37 地域気象観測所の観測状況

観測所名	所在地	海面上の高さ	風速計の高さ	観測項目						
				降水量	気温	風向・風速	相対湿度	日照	積雪	気圧
姫路特別地域気象観測所	姫路市神子岡前	38m	16.2m	○	○	○	○	○	—	○

出典：「地域気象観測所一覧」（令和 7 年 11 月 20 日現在、気象庁 HP）

表 2.4.38 姫路特別地域気象観測所の気象概況（平年値）

要素		年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
平均気温	(℃)	15.6	4.4	5.0	8.3	13.6	18.5	22.4	26.4	27.8	23.8	17.9	11.9	6.6
日最高気温	(℃)	20.6	9.6	10.4	13.8	19.1	23.7	26.8	30.5	32.5	28.6	23.1	17.3	11.9
日最低気温	(℃)	11.2	0.2	0.5	3.2	8.2	13.5	18.5	23.0	24.0	19.8	13.4	7.3	2.4
平均風速	(m/s)	2.5	2.6	2.5	2.7	2.8	2.6	2.4	2.6	2.7	2.5	2.4	2.3	2.5
最多風向	—	北西	北西	北西	北西	北西	北西	南南西	南南西	南南西	北西	北西	北西	北西
日照時間	(時間)	2,034.4	149.1	142.5	173.7	191.8	203.1	156.0	172.1	209.9	158.8	167.4	154.8	155.1
降水量	(mm)	1,254.7	36.9	48.6	92.0	104.7	127.3	160.4	184.3	105.4	177.8	108.7	61.2	47.5

注：平年値は 1991～2020 年の 30 年間の観測値である。

出典：「過去の気象データ検索」（令和 8 年 1 月閲覧、気象庁 HP）

表 2.4.39 姫路特別地域気象観測所の気象概況（令和 7 年）

月	降水量 (mm)				気温 (℃)						風向・風速 (m/s)					日照 時間
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間風速		(h)	
			1 時間	10 分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速	風向		
1	12.0	11.5	4.0	1.0	4.7	10.7	0.2	15.3	-3.1	2.7	9.2	西北西	15.2	西	201.3	
2	13.0	9.5	2.0	0.5	3.6	9.9	-1.2	14.5	-5.1	2.8	10.8	西	21.5	西北西	183.0	
3	113.5	25.5	12.5	4.0	9.2	14.7	4.4	25.0	-1.7	2.8	10.1	西	15.7	西	163.7	
4	52.5	19.5	7.0	5.0	14.5	20.4	8.7	26.9	2.7	2.6	9.1	西北西	14.9	南南東	207.9	
5	128.0	30.0	9.5	4.0	18.8	23.8	14.0	29.6	7.5	2.7	10.1	南	14.8	北西	190.5	
6	150.0	48.5	13.0	6.0	24.3	28.4	20.4	32.9	13.6	2.5	8.9	南西	15.5	西南西	194.3	
7	97.0	46.5	29.5	15.5	29.1	33.7	25.1	36.4	23.5	3.0	9.5	南南東	17.5	南東	291.9	
8	142.0	43.5	19.0	14.5	29.1	33.8	25.5	37.0	22.4	2.4	9.2	東北東	14.6	南南西	230.2	
9	107.0	48.5	18.5	15.0	26.5	30.9	23.0	34.8	17.1	2.5	12.1	西	23.6	西	145.3	
10	89.5	29.5	8.5	2.0	20.2	24.5	16.5	30.7	6.8	2.4	8.1	北北東	14.8	北	150.5	
11	34.0	21.5	5.5	4.0	12.0	18.0	7.5	22.1	3.7	2.2	7.8	北北西	13.6	北北西	184.1	
12	32.5	10.5	6.5	2.0	7.6	13.2	2.9	19.3	-1.6	2.4	11.0	西北西	18.9	西北西	170.2	
年間	971.0	48.5	29.5	15.5	16.6	21.8	12.3	37.0	-5.1	2.6	12.1	西	23.6	西	2,312.9	

出典：「過去の気象データ検索」（令和 8 年 1 月閲覧、気象庁 HP）



② 大気質

姫路市は、大気質の状況として、令和6年度は一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）9局及び自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）2局で大気汚染防止法に基づく常時監視測定を実施している。

測定局の概要及び測定項目は表 2.4.40、位置は図 2.4.16 のとおりである。

表 2.4.40 大気測定局の概要及び測定項目

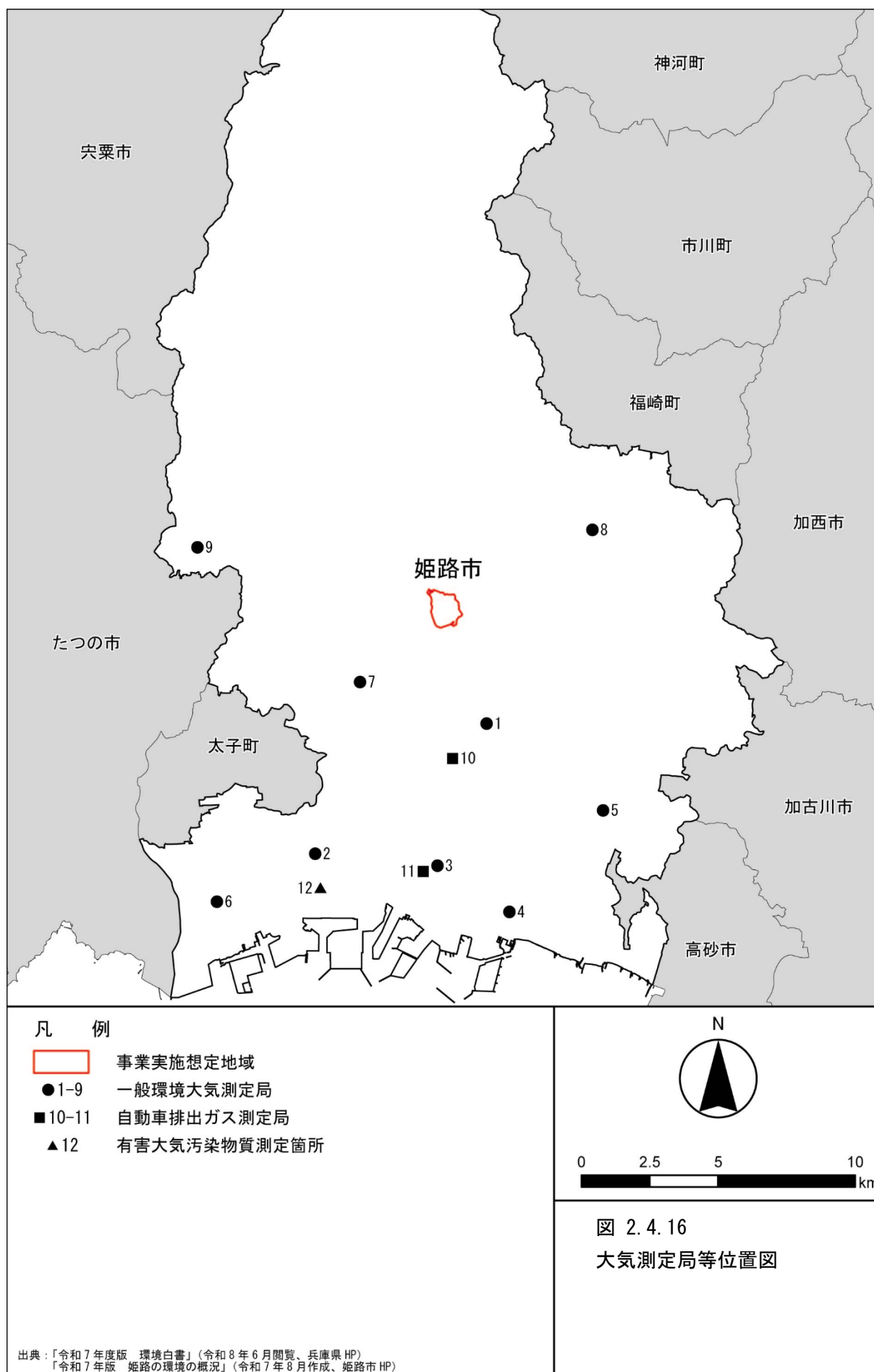
区分	図番号・測定局	所在地	SO ₂	NO _x	CO	SPM	PM2.5	O ₃	有害大気汚染物質
一般局	1. 八代測定局	姫路市八代 779-17	○	○	—	○	—	○	○
一般局	2. 広畑測定局	姫路市広畑区正門通 1-7-3	○	○	—	○	○	○	—
一般局	3. 飾磨測定局	姫路市飾磨区玉地 1-27	○	○	—	○	—	○	—
一般局	4. 白浜測定局	姫路市白浜町甲 396-8	○	○	—	○	○	○	—
一般局	5. 御国野測定局	姫路市御国野町御着 1142-2	○	○	—	○	○	○	—
一般局	6. 網干測定局	姫路市網干区垣内中町 120	○	○	—	○	○	○	—
一般局	7. 飾西測定局	姫路市飾西 728-5	○	○	—	○	○	○	—
一般局	8. 香寺測定局	姫路市香寺町中屋 14	○	○	—	○	—	○	—
一般局	9. 林田測定局	姫路市林田町林田 13	○	○	—	○	—	○	—
自排局	10. 船場自排局	姫路市小姓町 35-3	—	○	○	○	○	—	—
自排局	11. 飾磨自排局	姫路市飾磨区細江 2548	—	○	○	○	○	—	—
有害 ^{注2)}	12. 広畑浜手緑地	姫路市広畑区鶴町 2-31	—	—	—	—	—	—	○

注 1) ○：測定項目 —：非測定項目

注 2) 有害：有害大気汚染物質測定箇所

出典：「令和7年度版 環境白書」（令和8年6月閲覧、兵庫県 HP）

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市 HP）



1) 二酸化硫黄

令和6年度における二酸化硫黄の測定結果は表 2.4.41 のとおりであり、全ての測定局において環境基準に適合している。

また、過去5年間における一般局の年平均値の経年変化は、表 2.4.42 及び図 2.4.17 のとおりである。

表 2.4.41 二酸化硫黄の測定結果（令和6年度）

区分	図番号・測定局	年平均値	1時間値が 0.10ppm を超えた 時間数	日平均値が 0.04ppm を超えた 日数	1時間値 の最高値	日平均 値の 2%除外 値	日平均値が 0.04ppmを超 えた日が2 日以上連続 したことの 有無	環境基準の 長期的評価 による日平 均値が 0.04ppmを超 えた日数
		ppm	時間	日	ppm	ppm	有×・無○	日
一般局	1. 八代測定局	0.000	0	0	0.009	0.002	○	0
	2. 広畑測定局	0.001	0	0	0.012	0.003	○	0
	3. 飾磨測定局	0.000	0	0	0.011	0.001	○	0
	4. 白浜測定局	0.001	0	0	0.009	0.002	○	0
	5. 御国野測定局	0.001	0	0	0.014	0.002	○	0
	6. 網干測定局	0.001	0	0	0.016	0.002	○	0
	7. 飾西測定局	0.001	0	0	0.011	0.003	○	0
	8. 香寺測定局	0.001	0	0	0.008	0.002	○	0
	9. 林田測定局	0.000	0	0	0.010	0.001	○	0

注：1. 「日平均値の2%除外値」とは、日平均値のうち高い方から数えて2%の範囲にある測定値を除外した後の最高値である。

注：2. 「環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数」とは、日平均値のうち高い方から数えて2%の範囲にある測定値を除外した後の日平均値のうち0.04ppmを超えた日数である。ただし、日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続した延べ日数のうち、2%除外該当日に入っている日数分については除外しない。

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市HP）

表 2.4.42 二酸化硫黄の年平均値の経年変化

区分	図番号・測定局	年平均値（ppm）				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般局	1. 八代測定局	0.000	0.001	0.001	0.001	0.000
	2. 広畑測定局	0.001	0.001	0.002	0.001	0.001
	3. 飾磨測定局	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000
	4. 白浜測定局	0.000	0.001	[0.001]	0.001	0.001
	5. 御国野測定局	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
	6. 網干測定局	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
	7. 飾西測定局	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
	8. 香寺測定局	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001
	9. 林田測定局	0.000	[0.000]	0.001	0.001	0.000

注：[]は有効測定時間（6,000時間）を満たさないため参考値。

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市HP）

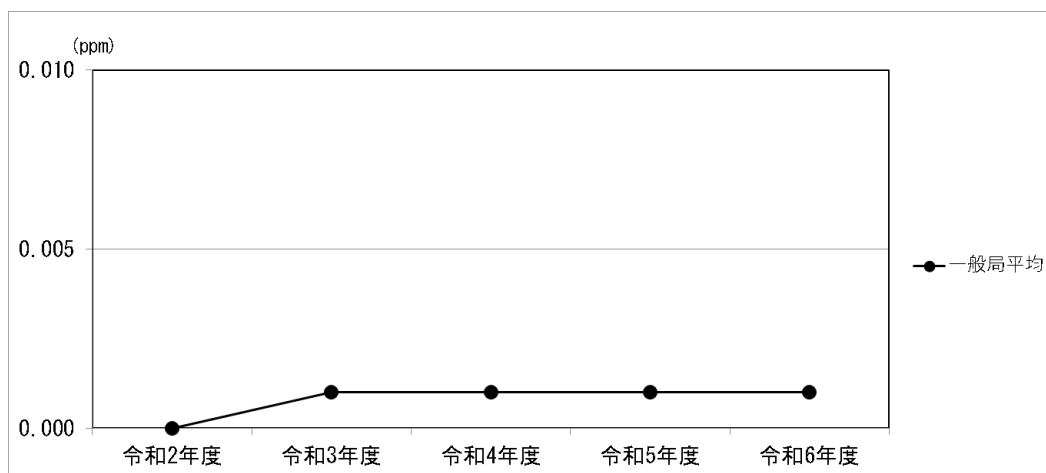


図 2.4.17 二酸化硫黄の年平均値の経年変化

2) 二酸化窒素

令和6年度における二酸化窒素の測定結果は表 2.4.43 のとおりであり、全ての測定局において環境基準に適合している。

また、過去5年間ににおける一般局及び自排局の年平均値の経年変化は、表 2.4.44 及び図 2.4.18 のとおりである。

表 2.4.43 二酸化窒素の測定結果（令和6年度）

区分	図番号・測定局	年平均値	1時間値の最高値	日平均値が0.06ppmを超えた日数	日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数	日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数
		ppm	ppm	日	日	ppm	日
一般局	1. 八代測定局	0.007	0.044	0	0	0.015	0
	2. 広畑測定局	0.007	0.048	0	0	0.016	0
	3. 飾磨測定局	0.008	0.043	0	0	0.018	0
	4. 白浜測定局	0.007	0.051	0	0	0.018	0
	5. 御国野測定局	0.006	0.037	0	0	0.015	0
	6. 網干測定局	0.006	0.046	0	0	0.012	0
	7. 飾西測定局	0.005	0.035	0	0	0.011	0
	8. 香寺測定局	[0.004]	0.034	0	0	0.009	0
	9. 林田測定局	[0.004]	0.040	0	0	0.008	0
自排局	10. 船場自排局	0.008	0.045	0	0	0.016	0
	11. 飾磨自排局	0.009	0.051	0	0	0.020	0

注：1. []は有効測定時間（6,000時間）を満たさないため参考値。

注：2. 「98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数」とは、1年間の日平均値のうち低い方から数えて98%の範囲にあって、かつ、0.06ppmを超えたものの日数である。

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市HP）

表 2.4.44 二酸化窒素の年平均値の経年変化

区分	図番号・測定局	年平均値 (ppm)				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般局	1. 八代測定局	0.007	0.007	0.007	0.007	0.007
	2. 広畑測定局	0.010	0.010	0.009	0.008	0.007
	3. 飾磨測定局	0.009	0.010	0.009	0.008	0.008
	4. 白浜測定局	0.008	0.009	[0.008]	0.007	0.007
	5. 御国野測定局	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006
	6. 網干測定局	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006
	7. 飾西測定局	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005
	8. 香寺測定局	0.005	0.005	0.004	[0.004]	[0.004]
	9. 林田測定局	0.004	[0.004]	0.004	0.004	[0.004]
自排局	10. 船場自排局	0.009	0.009	0.009	0.008	0.008
	11. 飾磨自排局	0.010	0.011	0.010	0.009	0.009

注：[]は有効測定時間（6,000時間）を満たさないため参考値。

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市HP）

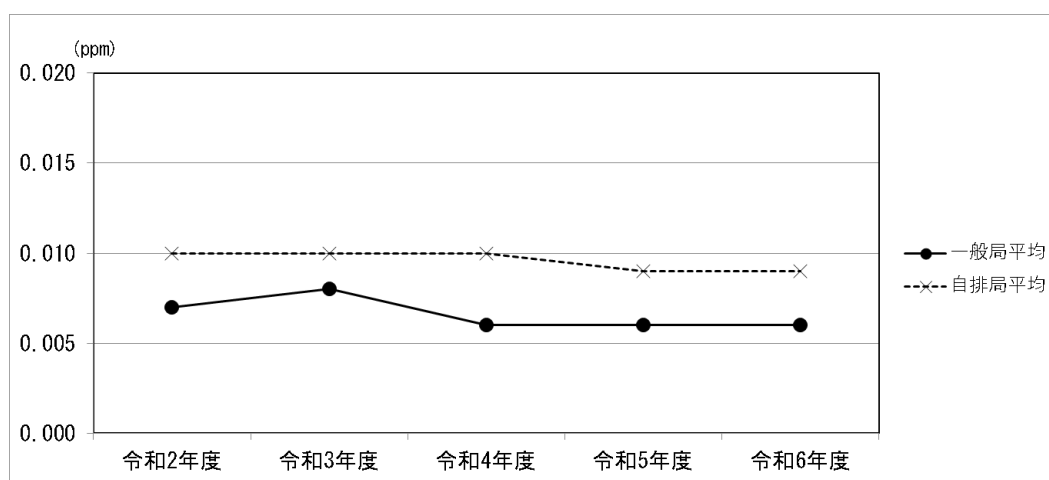


図 2.4.18 二酸化窒素の年平均値の経年変化

3) 一酸化炭素

令和6年度における一酸化炭素の測定結果は表 2.4.45 のとおりであり、全ての測定局において環境基準に適合している。

また、過去5年間における自排局の年平均値の経年変化は、表 2.4.46 及び図 2.4.19 のとおりである。

表 2.4.45 一酸化炭素の測定結果（令和6年度）

区分	図番号・測定局	年平均値	8時間値 が20ppm を超えた 回数とその割合	日平均値 が10ppm を超えた 日数とその割合	1時間値 の最高 値	日平均 値の最 高値	日平均 値の2% 除外値	日平均値 が10ppm を超えた 日が2日 以上連続 したことの有無	環境基準 の長期的 評価による日平均 値が10ppmを 超えた日数
		ppm	日・(%)	日・(%)	ppm	ppm	ppm	有×・無○	日
自排局	10. 船場自排局	9.0	2・(0.6%)	2・(0.6%)	74.0	49.7	25.6	○	0
	11. 飾磨自排局	10.2	5・(1.4%)	5・(1.4%)	77.0	53.3	30.5	○	0

注：1. 「日平均値の2%除外値」とは、日平均値のうち高い方から数えて2%の範囲にある測定値を除外した後の最高値である。

注：2. 「環境基準の長期的評価による日平均値が10ppmを超えた日数」とは、日平均値のうち高い方から数えて2%の範囲にある測定値を除外した後の日平均値のうち10ppmを超えた日数である。ただし、日平均値が10ppmを越えた日が2日以上連続した延べ日数のうち2%除外該当日に入っている日数分については除外しない。

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市HP）

表 2.4.46 一酸化炭素の年平均値の経年変化

区分	図番号・測定局	年平均値（ppm）				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
自排局	10. 船場自排局	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3
	11. 飾磨自排局	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市HP）

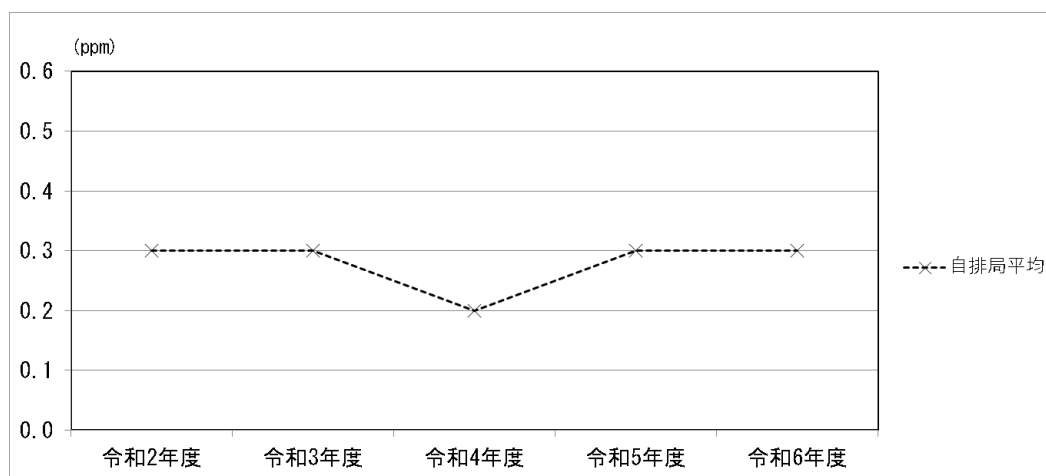


図 2.4.19 一酸化炭素の年平均値の経年変化

4) 浮遊粒子状物質

令和6年度における浮遊粒子状物質の測定結果は表 2.4.47 のとおりであり、長期的評価では全ての測定局において環境基準に適合しているが、短期的評価では7局は環境基準に適合しており、4局（八代局、御国野局、香寺局、船場局）は適合していない。適合していない理由として、黄砂が原因であると考えられる。

また、過去5年間ににおける一般局及び自排局の年平均値の経年変化は、表 2.4.48 及び図 2.4.20 のとおりである。

表 2.4.47 浮遊粒子状物質の測定結果（令和6年度）

区分	図番号・測定局	年平均値	1時間値が 0.20mg/m ³ を 超えた時間 数とその割 合	日平均値が 0.10mg/m ³ を 超えた日数 とその割合	1時間値 の最高値	日平均値 の2%除 外値	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日 が2日以上 連続したこ との有無	環境基準の 長期的評価 による日平 均値が 0.10mg/m ³ を超えた日 数
		mg/m ³	時間・(%)	日・(%)	mg/m ³	mg/m ³	有×・無○	日
一般局	1. 八代測定局	0.013	0・(0.0%)	1・(0.3%)	0.148	0.035	○	0
	2. 広畑測定局	0.014	0・(0.0%)	0・(0.0%)	0.120	0.037	○	0
	3. 飾磨測定局	0.013	0・(0.0%)	0・(0.0%)	0.094	0.036	○	0
	4. 白浜測定局	0.013	0・(0.0%)	0・(0.0%)	0.111	0.035	○	0
	5. 御国野測定局	0.014	0・(0.0%)	1・(0.3%)	0.150	0.035	○	0
	6. 網干測定局	0.013	0・(0.0%)	0・(0.0%)	0.168	0.033	○	0
	7. 飾西測定局	0.013	0・(0.0%)	0・(0.0%)	0.107	0.031	○	0
	8. 香寺測定局	0.014	0・(0.0%)	1・(0.3%)	0.154	0.032	○	0
	9. 林田測定局	0.011	0・(0.0%)	0・(0.0%)	0.096	0.029	○	0
自排局	10. 船場自排局	0.015	0・(0.0%)	1・(0.3%)	0.138	0.041	○	0
	11. 飾磨自排局	0.015	0・(0.0%)	0・(0.0%)	0.115	0.036	○	0

注：1. 「日平均値の2%除外値」とは、日平均値のうち高い方から数えて2%の範囲にある測定値を除外した後の最高値である。

注：2. 「環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m³を超えた日数」とは、日平均値のうち高い方から数えて2%の範囲にある測定値を除外した後の日平均値のうち0.10mg/m³を超えた日数である。ただし、日平均値が0.10mg/m³を超えた日が2日以上連続した延べ日数のうち、2%除外該当日に入っている日数分については除外しない。

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市HP）

表 2.4.48 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

区分	図番号・測定局	年平均値 (mg/m ³)				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般局	1. 八代測定局	0.015	0.014	0.014	0.014	0.013
	2. 広畑測定局	0.015	0.013	0.015	0.014	0.014
	3. 飾磨測定局	0.014	0.012	0.012	0.012	0.013
	4. 白浜測定局	0.017	0.016	[0.017]	0.012	0.013
	5. 御国野測定局	0.017	0.014	0.015	0.017	0.014
	6. 網干測定局	0.014	0.013	0.013	0.014	0.013
	7. 飾西測定局	0.014	0.012	0.013	0.012	0.013
	8. 香寺測定局	0.014	0.013	0.013	0.014	0.014
	9. 林田測定局	0.013	[0.013]	0.012	0.012	0.011
自排局	10. 船場自排局	0.016	0.015	0.015	0.015	0.015
	11. 飾磨自排局	0.015	0.014	0.015	0.015	0.015

注：[]は有効測定時間（6,000時間）を満たさないため参考値。

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市HP）

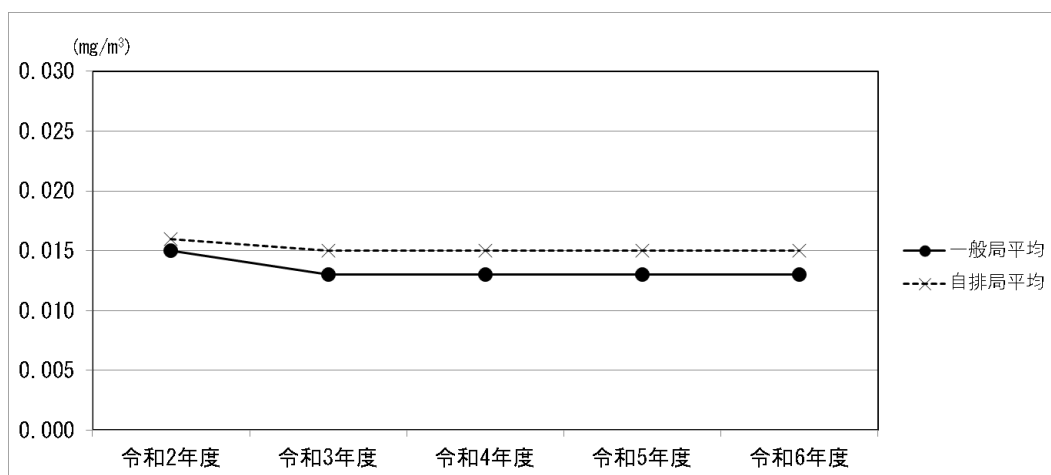


図 2.4.20 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

5) 微小粒子状物質

令和6年度における微小粒子状物質の測定結果は表 2.4.49 のとおりであり、全ての測定局において環境基準に適合している。

また、過去5年間ににおける一般局及び自排局の年平均値の経年変化は、表 2.4.50 及び図 2.4.21 のとおりである。

表 2.4.49 微小粒子状物質の測定結果（令和6年度）

区分	図番号・測定局	年平均値	日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合	1時間値の 最高値	日平均値 の最高値	日平均値 の年間 98%値	年平均値が 15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えたこと の有無	環境基準の 短期基準に よる日平均 値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を 超えた日数
		$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日・(%)	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	有×・無○	日
一般局	2. 広畑測定局	9.1	3・(0.8%)	86.0	50.6	28.2	○	0
	4. 白浜測定局	8.6	1・(0.3%)	72.0	50.4	29.3	○	0
	5. 御国野測定局	8.3	2・(0.6%)	74.0	53.2	26.5	○	0
	6. 網干測定局	8.8	1・(0.3%)	67.0	46.1	25.8	○	0
	7. 飾西測定局	8.2	1・(0.3)	70.0	50.7	24.5	○	0
自排局	10. 船場自排局	9.0	2・(0.6%)	74.0	49.7	25.6	○	0
	11. 飾磨自排局	10.2	5・(1.4%)	77.0	53.3	30.5	○	0

注：「環境基準の短期基準による日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数」とは、日平均値のうち低い方から数えて 98% の範囲にある測定値を除外した後の日平均値のうち 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数である。

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市 HP）

表 2.4.50 微小粒子状物質の年平均値の経年変化

区分	図番号・測定局	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般局	2. 広畑測定局	13.5	11.3	9.7	8.8	9.1
	4. 白浜測定局	11.8	9.4	[8.7]	8.1	8.6
	5. 御国野測定局	10.7	8.0	8.2	8.1	8.3
	6. 網干測定局	9.4	8.7	9.6	8.9	8.8
	7. 飾西測定局	10.5	7.5	8.9	8.2	8.2
自排局	10. 船場自排局	12.3	8.7	9.2	8.8	9.0
	11. 飾磨自排局	11.1	10.4	10.6	9.9	10.2

注：[]は有効測定時間（6,000時間）を満たさないため参考値。

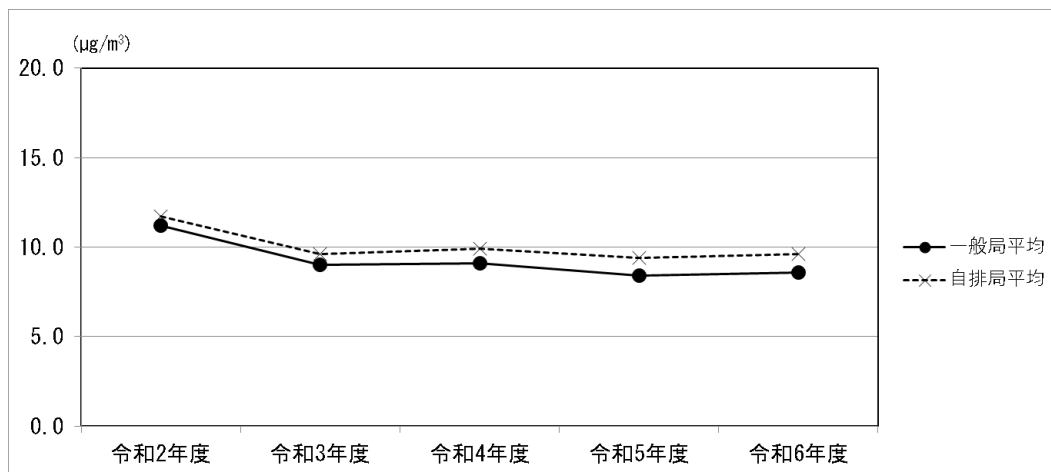


図 2.4.21 微小粒子状物質の年平均値の経年変化

6) 光化学オキシダント

令和6年度における光化学オキシダントの測定結果は表 2.4.51 のとおりであり、全ての測定局において環境基準に適合していない。

また、過去5年間ににおける一般局の昼間の1時間値の経年変化は、表 2.4.52 及び図 2.4.22 のとおりである。

表 2.4.51 光化学オキシダントの測定結果（令和6年度）

区分	図番号・測定局	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数	昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間数	昼間の1時間値の最高値	昼間の日最高1時間値の年平均値
		ppm	日・時間	日・時間	ppm	ppm
一般局	1. 八代測定局	0.035	68・305	0・0	0.092	0.049
	2. 広畑測定局	0.034	59・232	0・0	0.091	0.047
	3. 飾磨測定局	0.031	38・127	0・0	0.088	0.043
	4. 白浜測定局	0.029	17・64	0・0	0.086	0.040
	5. 御国野測定局	0.035	71・304	0・0	0.098	0.049
	6. 網干測定局	0.034	63・284	0・0	0.095	0.048
	7. 飾西測定局	0.032	58・255	0・0	0.092	0.047
	8. 香寺測定局	0.035	72・316	0・0	0.093	0.050
	9. 林田測定局	0.032	54・224	0・0	0.090	0.046

注：昼間とは、5時から20時までの時間帯をいう。

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市HP）

表 2.4.52 光化学オキシダントの昼間の1時間値の年平均値の経年変化

区分	図番号・測定局	年平均値（ppm）				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般局	1. 八代測定局	0.036	0.030	0.027	0.029	0.035
	2. 広畑測定局	0.032	0.032	0.031	0.031	0.034
	3. 飾磨測定局	0.028	0.029	0.028	0.028	0.031
	4. 白浜測定局	0.030	0.033	[0.034]	0.024	0.029
	5. 御国野測定局	0.032	0.034	0.031	0.032	0.035
	6. 網干測定局	0.032	0.033	0.032	0.031	0.034
	7. 飾西測定局	0.031	0.032	0.030	0.027	0.032
	8. 香寺測定局	0.033	0.033	0.032	0.032	0.035
	9. 林田測定局	0.028	[0.028]	0.027	0.031	0.032

注：[]は有効測定時間（6,000時間）を満たさないため参考値。

出典：「大気・水質等常時測定結果（令和6年度）」（令和7年8月発行、兵庫県HP）

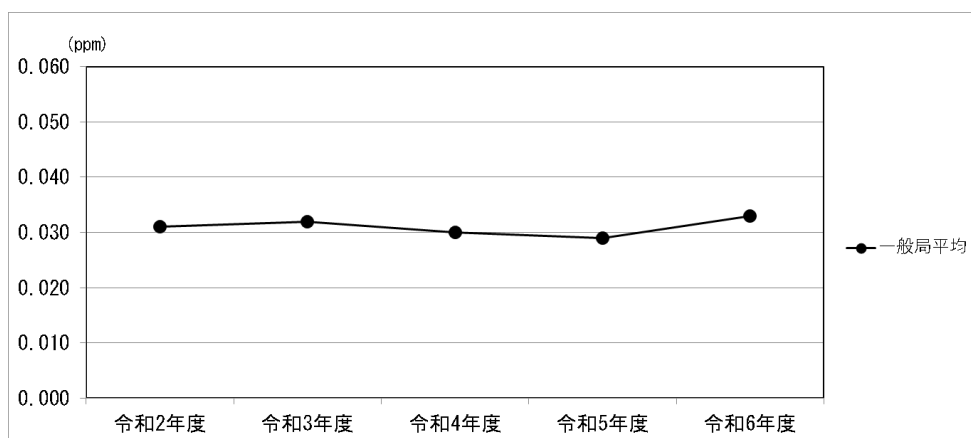


図 2.4.22 光化学オキシダントの年平均値の経年変化

7) ダイオキシン類

令和 6 年度における大気ダイオキシン類の測定結果は表 2.4.53 のとおりであり、全ての測定局において環境基準に適合している。

また、過去 5 年間に於ける年平均値の経年変化は、表 2.4.54 のとおりである。

表 2.4.53 ダイオキシン類の測定結果（令和 6 年度）

図番号・測定局	年平均値	環境基準値
	pg-TEQ/m ³	pg-TEQ/m ³
1. 八代測定局	0.011	0.6
4. 白浜測定局	0.026	0.6

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

表 2.4.54 ダイオキシン類の年平均値の経年変化

図番号・測定局	年平均値 (pg-TEQ/m ³)				
	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1. 八代測定局	0.027	0.050	0.018	0.014	0.011
3. 飾磨測定局	—	—	0.069	—	—
4. 白浜測定局	—	0.093	—	—	0.026
6. 網干測定局	0.018	—	—	0.016	—

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

出典：「令和 7 年度版 環境白書」（令和 8 年 6 月閲覧、兵庫県 HP）

8) 有害大気汚染物質

令和 6 年度における有害大気汚染物質の測定結果は表 2.4.55 のとおりであり、全ての測定局において環境基準に適合している。

表 2.4.55 有害大気汚染物質の測定結果（令和 6 年度）

図番号・測定局	年平均値 (μg/m ³)			
	ベンゼン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン
1. 八代測定局	0.71	0.16	0.045	1.6
12. 広畑浜手緑地	0.83	—	—	0.82
環境基準	3 以下	130 以下	200 以下	150 以下

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

9) 大気汚染に係る苦情の発生件数

大気汚染に係る公害苦情の受理件数は、令和 6 年度は姫路市で 43 件である。

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

(2) 水質汚濁

① 一般水象

1) 河川

事業実施想定地域及びその周囲の主な河川の状況は、図 2.4.23 のとおりである。

事業実施想定地域周辺には夢前川水系である二級河川の夢前川、船場川水系である二級河川の大野川等が流れている。

2) 湖沼

事業実施想定地域及びその周囲に主な湖沼は存在しない。

出典：「国土数値情報ダウンロード 湖沼」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）

3) 海域

事業実施想定地域及びその周囲に海域は存在しない。

② 水質

1) 河川の水質

事業実施想定地域及びその周囲における河川の水質の状況として、令和 6 年度の水質測定結果は表 2.4.56、水質測定地点は図 2.4.23 のとおりである。

pH が書写橋において、DO が清水橋、書写橋において環境基準を超過している。

表 2.4.56(1) 河川の水質測定結果（令和 6 年度・生活環境項目）

水系名		夢前川		菅生川		環境基準	
河川名・測定地点名		書写橋	清水橋	大白書橋	新清水橋	A 類型 (夢前川)	指定なし (菅生川)
項目	単位						
pH	(-)	7.3～8.9	7.2～7.8	7.3～8.2	7.1～9.1	6.5-8.5	—
BOD	(mg/L)	0.6	0.6	0.6	0.7	2 以下	—
SS	(mg/L)	<1～9	<1～1	<1～3	<1～4	25 以下	—
DO	(mg/L)	6.8～12	6.1～12	8.0～11	8.8～14	7.5 以下	—
大腸菌数	(CFU/100mL)	77	83	87	183	300 以下	—
全窒素	(mg/L)	1.1	1.2	1.2	1.8	—	—
全りん	(mg/L)	0.077	0.12	0.074	0.21	—	—
全亜鉛	(mg/L)	0.003	0.004	0.004	0.006	—	—
ノニルフェノール	(mg/L)	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	—	—
LAS	(mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	—	—

注：1. 測定地点名は、図 2.4.23 に対応している。

注：2. 環境基準の「—」は環境基準が定められていないことを示す。

注：3. pH, SS, DO は日間平均値の最小値～最大値、BOD は日間平均値の 75% 値、その他の項目は日間平均値の年平均値を示す。

出典：「令和 7 年版 姫路の環境（第 60 号）」（令和 8 年 2 月作成、姫路市 HP）

出典：「ひょうごの水環境」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

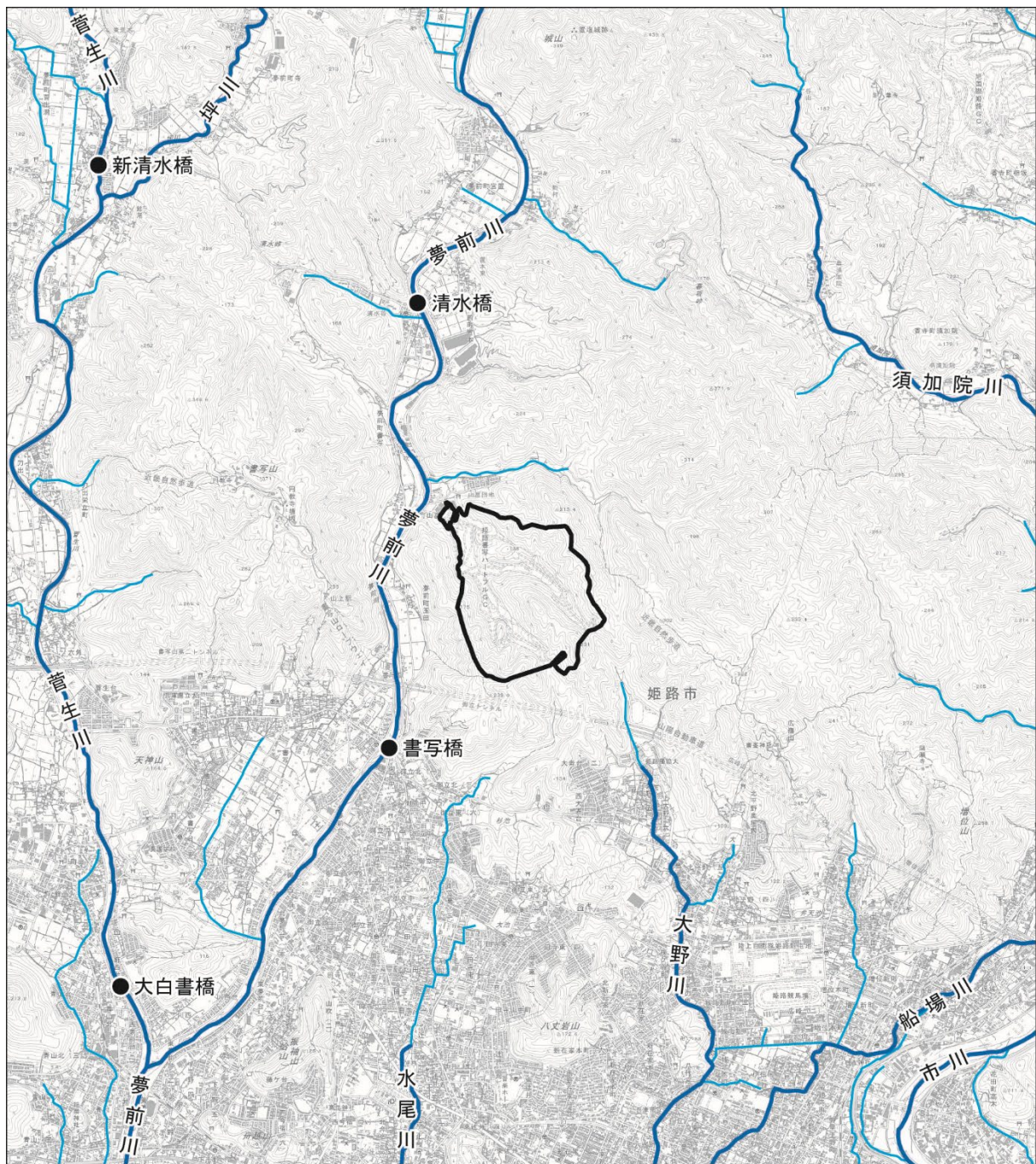
出典：「姫路市環境政策室資料」（令和 8 年 3 月ヒアリング、姫路市環境政策室）

表 2.4.56(2) 河川の水質測定結果（令和 6 年度・健康項目）

水系名			夢前川水系			環境基準
河川名・測定地点名		夢前川 書写橋	菅生川 大白書橋	菅生川 新清水橋		
項目	単位					
健康項目	カドミウム	(mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
	全シアン	(mg/L)	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
	鉛	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
	六価クロム	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	0.02 以下
	砒素	(mg/L)	0.001	0.001	0.001	0.01 以下
	総水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
	アルキル水銀	(mg/L)	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
	PCB	(mg/L)	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
	ジクロロメタン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
	四塩化炭素	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
	1,2-ジクロロエタン	(mg/L)	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 以下
	1,1-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	0.1 以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下
	1,1,1-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 以下
	1,1,2-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
	トリクロロエチレン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
	テトラクロロエチレン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 以下
	1,3-ジクロロプロペン	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
	チウラム	(mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
	シマジン	(mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
	チオベンカルブ	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
	ベンゼン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
	セレン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	(mg/L)	0.93	1.1	0.89	10 以下
	ふっ素	(mg/L)	<0.08	0.12	0.11	0.8 以下
	ほう素	(mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	1 以下
	1,4-ジオキサン	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下

注：測定地点名は、図 2.4.23 に対応している。

出典：「ひょうごの水環境」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）



凡 例

- 事業実施想定地域
- 二級河川
- 準用・普通河川
- 水質測定地点



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.23
水質測定地点

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市 HP）
「国土数値情報 河川データ」（令和8年1月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

2) 地下水

令和 6 年度は姫路市内において、15 地区について健康項目（28 項目）を対象に概況調査を実施しており、1 地区において鉛、1 地区においてふっ素が環境基準を超過した。

なお、詳細な調査位置は公表されていない。

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

③ 底質

令和 6 年度は事業実施想定地域及びその周囲の河川において、河川底質の測定は実施されていない。

出典：「令和 7 年度版 環境白書」（令和 8 年 6 月閲覧、兵庫県 HP）

④ ダイオキシン類

令和 6 年度は事業実施想定地域及びその周囲の河川において、河川及び河川の底質のダイオキシン類の測定は実施されていない。また、地下水の調査を姫路市内 4 地点で測定しているが、事業実施想定地域及びその周囲においては調査が行われていない。

出典：「令和 6 年度大気・水質等常時監視結果（令和 7 年 8 月）」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

⑤ 水質汚濁に係る苦情の発生件数

水質汚濁に係る公害苦情の受理件数は、令和 6 年度は姫路市で 20 件である。

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

(3) 土壌汚染

① 土壌

事業実施想定地域及びその周囲における土壌の状況は図 2.4.24 のとおりである。

事業実施想定地域は主として残積性未熟土壌及び岩石地、連系変電所エリアは乾性褐色森林土壌（黄褐色系）からなっている。

② 土壌汚染

事業実施想定地域及びその周囲における「土壌汚染対策法」に基づく形質変更時要届出区域の指定状況は表 2.4.57 のとおりである。なお、姫路市内には要措置区域の指定はない。

表 2.4.57 土壌汚染対策法に基づく形質変更時要届出区域の状況

整理番号 指定番号	指定 年月日	所在地	面積 (m^2)	基準に適合しない 特定有害物質の種類
整-28-3 指-13号	H28.11.16 H29.2.17	姫路市書写字北垣内 2125 番 2、2106 番 1 及び字西ノ口 2167 番の各一部	約 336	セレン及びその化合物（溶出量） 砒素及びその化合物（溶出量） ふっ素及びその化合物（溶出量）
整-28-5 指-15号	H29.2.17	姫路市書写字北垣内 2125 番 2 の一部	39.87	ふっ素及びその化合物（溶出量）
整-29-2 指-17号	H29.12.21	姫路市書写字北垣内 2125 番 2 の一部	63.73	砒素及びその化合物（溶出量） ふっ素及びその化合物（溶出量）
整-30-5 指-23号	H30.11.20	姫路市書写字北垣内 2125 番 2 の一部	36.45	水銀及びその化合物（溶出量） 鉛及びその化合物（含有量、溶出量） 砒素及びその化合物（溶出量）
整-30-7 指-25号	H31.3.25	姫路市書写字北垣内 2125 番 2 の一部	114.37	砒素及びその化合物（溶出量）
整-30-8 指-26号	R1.5.20	姫路市書写字西ノ口 2167 番の一部	10.88	砒素及びその化合物（溶出量）
整-2021-6 指-47号	R3.11.26	姫路市書写字西ノ口 2167 番及び字北垣内 2125 番 2 の各一部	130.38	ふっ素及びその化合物（溶出量）
整-2023-1 指-58号	R5.4.27	姫路市書写字西ノ口 2167 番及び字北垣内 2125 番 2 の各一部	63.16	鉛及びその化合物（溶出量） 砒素及びその化合物（溶出量） ふっ素及びその化合物（溶出量）

出典：「姫路市内における区域指定の状況」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

③ ダイオキシン類

事業実施想定地域及びその周囲における土壌のダイオキシン類の状況として、令和 6 年度の土壌のダイオキシン類の調査結果は表 2.4.58、調査地点は図 2.4.25 のとおりであり、全ての調査地点において環境基準に適合している。

表 2.4.58 ダイオキシン類の調査結果（令和 6 年度）

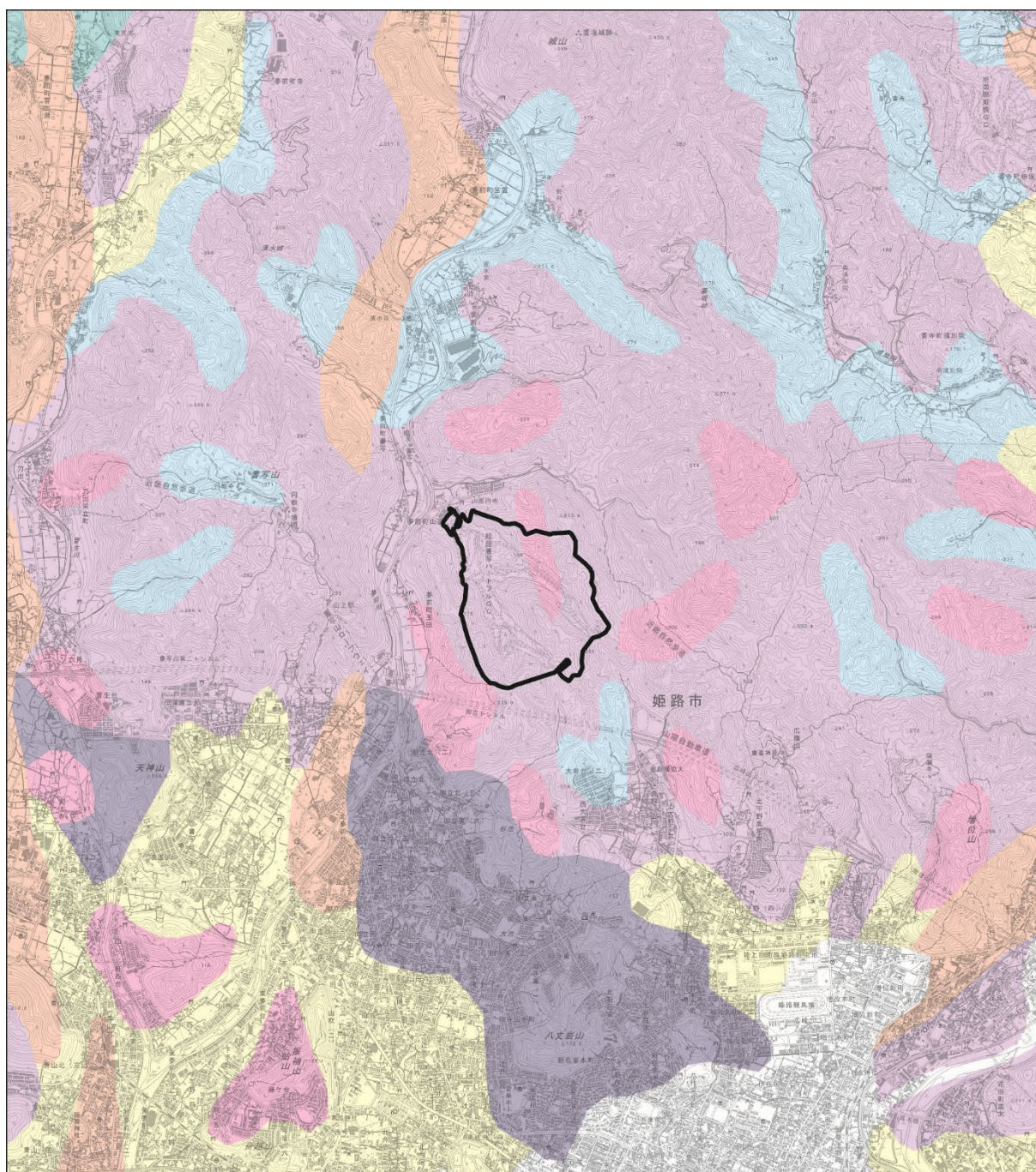
図番号・調査地点	年平均値	環境基準値
	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g
1. 菅生台（菅生台第二公園）	5.1	1,000
2. 上手野（上手野中央公園）	0.047	
3. 御立中五丁目（御立本村公園）	0.067	

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

④ 土壌汚染に係る苦情の発生件数

土壌汚染に係る公害苦情の受理件数は、令和 6 年度は姫路市で 0 件である。

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）



凡 例

事業実施想定地域

【岩石地】

岩石地

【未熟土】

残積性未熟土壤

【灰色低地土】

灰色低地土壤

粗粒灰色低地土壤

【褐色森林土】

褐色森林土壤

乾性褐色森林土壤

乾性褐色森林土壤（黄褐系）

出典：「国土数値情報 20万分の1土地分類基本調査」（令和8年1月閲覧、国土交通省HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

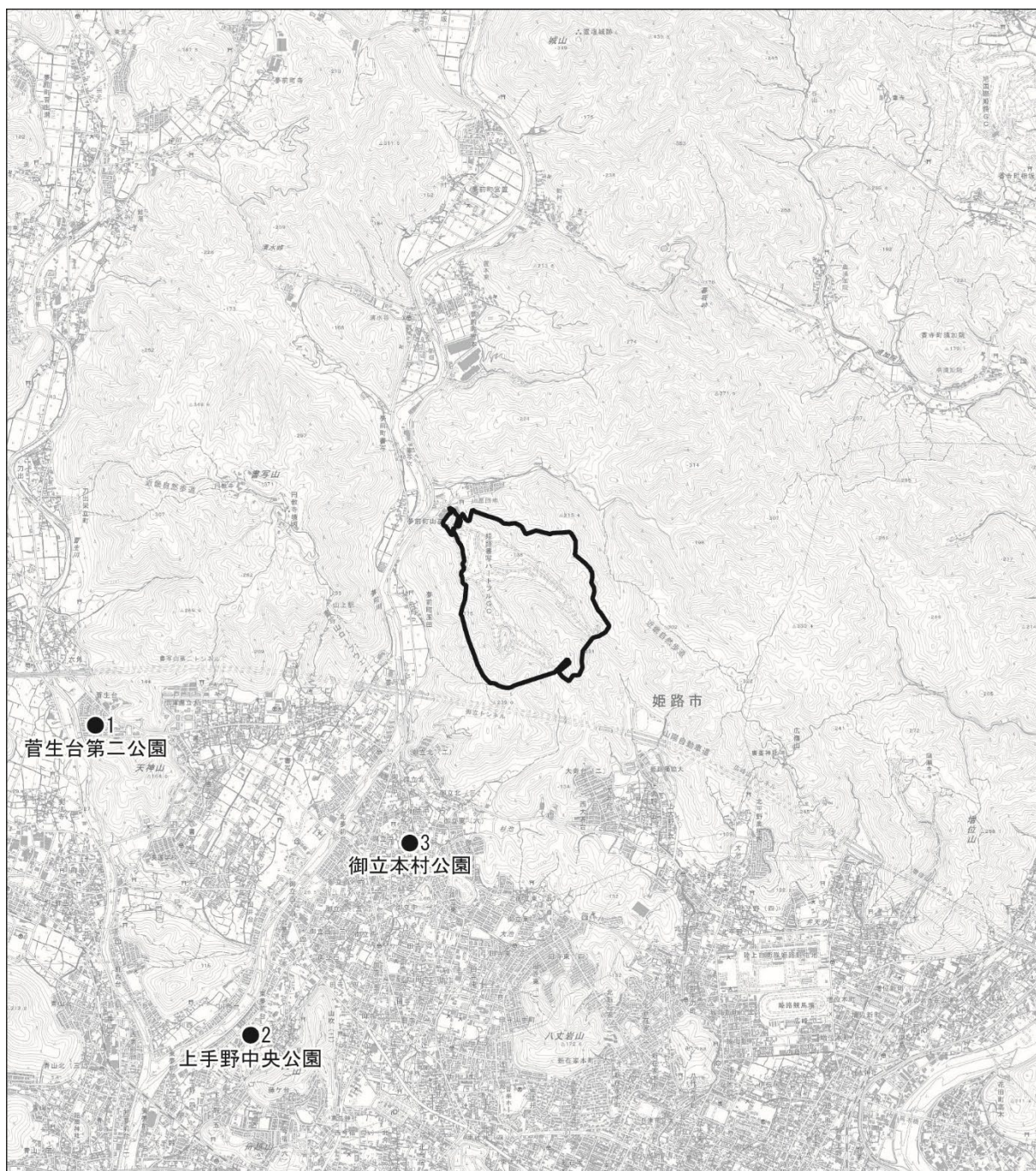
N



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.24

土壤図



凡 例



事業実施想定地域



ダイオキシン類調査地点（土壌）



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.25
ダイオキシン類調査地点
（土壌）

出典：「令和7年版 姫路の環境の概況」（令和7年8月作成、姫路市HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

(4) 騒音・低周波音

① 環境騒音

事業実施想定地域及びその周囲における環境騒音の状況について、公表された測定結果は確認できなかった。

出典：「令和 7 年度版 環境白書」（令和 8 年 6 月閲覧、兵庫県 HP）

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

② 自動車騒音

事業実施想定地域及びその周囲における自動車騒音測定状況は表 2.4.59 及び図 2.4.26 のとおりであり、令和 5 年度は 3 地点、令和 6 年度は 1 地点において自動車騒音の測定が行われている。いずれの地点、年度においても環境基準に適合していた。

表 2.4.59 自動車騒音の測定結果

(単位：デシベル)

年度	図中番号	路線名	測定地点	用途地域	測定結果		環境基準		評価	
					昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
令和 5 年度	①	主要地方道 67 号 姫路神河線	姫路市御立西 2-1-33	第 1 種 住居地域	66	60	70	65	○	○
	②	一般県道 545 号 石倉玉田線	姫路市菅生台 4-1	指定なし	66	60			○	○
	③	一般県道 724 号 姫路新宮線	姫路市西夢前台 2-140-1	準住居 地域	60	52			○	○
令和 6 年度	③	一般県道 724 号 姫路新宮線	姫路市西夢前台 2-140-1	準住居 地域	66	60			○	○

注：1. 図中番号は、図 2.4.26 に対応している。

注：2. 昼間は午前 6 時から午後 10 時まで、夜間は午後 10 時から午前 6 時までを示す。

注：3. 評価の欄の「○」は環境基準に適合、「×」は環境基準に適合していないことを示す。

出典：「令和 6 年度版 環境白書」（令和 8 年 6 月閲覧、兵庫県 HP）

出典：「令和 7 年度版 環境白書」（令和 8 年 6 月閲覧、兵庫県 HP）

出典：「姫路市 Web マップ」（令和 8 年 6 月閲覧、姫路市 HP）

③ 新幹線騒音

事業実施想定地域及びその周囲における新幹線騒音は、広畑区西夢前台五丁目（主として住居の用に供される地域）を定点として、軌道より 12.5m、25m、50m の地点で調査が実施されている。令和 6 年度は全ての地点で環境基準の 70dB を超過している。なお、具体的な測定値は公表されていない。

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

④ 騒音に係る苦情の発生件数

騒音に係る公害苦情の受理件数は、令和 6 年度は姫路市で 60 件である。

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

(5) 振動

① 環境振動

事業実施想定地域及びその周囲における環境振動の状況について、公表された測定結果は確認できなかった。

出典：「令和 7 年度版 環境白書」（令和 8 年 6 月閲覧、兵庫県 HP）

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

② 道路交通振動

事業実施想定地域及びその周囲における道路交通振動の状況において、公表された測定結果は確認できなかった。

出典：「令和 7 年度版 環境白書」（令和 8 年 6 月閲覧、兵庫県 HP）

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

③ 新幹線振動

姫路市内において、新幹線振動測定は行われていない。

出典：「令和 7 年度版 環境白書」（令和 8 年 6 月閲覧、兵庫県 HP）

④ 振動に係る苦情の発生件数

振動に係る公害苦情の受理件数は、令和 6 年度は姫路市で 7 件である。

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

(6) 地盤沈下

① 地盤沈下の状況

事業実施想定地域が位置する姫路市において地盤沈下は確認されていない。

出典：「令和 6 年度 全国の地盤沈下地域の概況」（令和 8 年 6 月閲覧、環境省 HP）

② 地盤沈下に係る苦情の発生件数

地盤沈下に係る公害苦情の受理件数は、令和 6 年度は姫路市で 0 件である。

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）

(7) 悪臭

① 悪臭の状況

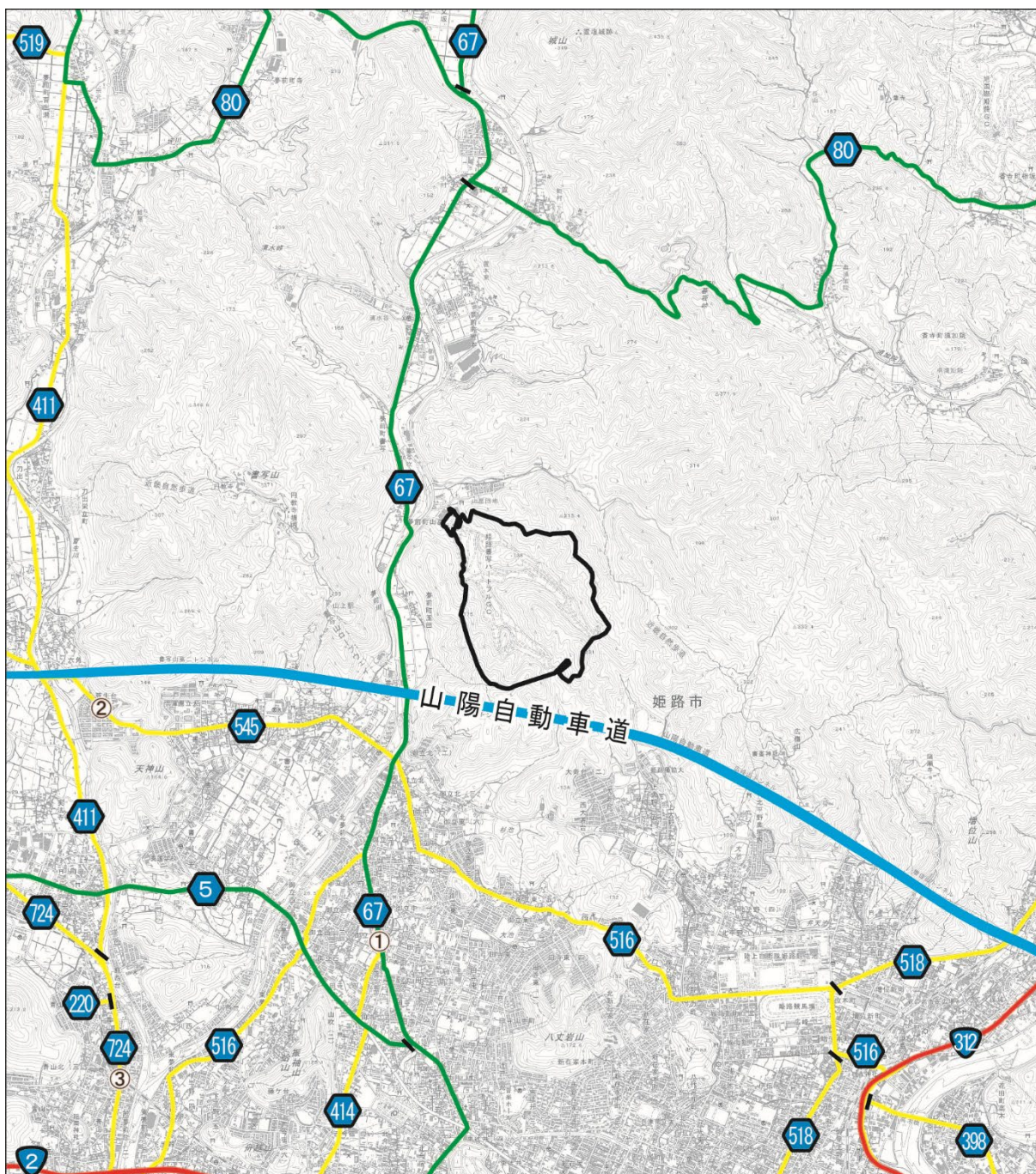
事業実施想定地域及びその周囲における悪臭の状況について、公表された測定結果は確認できなかった。

出典：「令和 7 年度版 環境白書」（令和 8 年 6 月閲覧、兵庫県 HP）

② 悪臭に係る苦情の発生件数

悪臭に係る公害苦情の受理件数は、令和 6 年度は姫路市で 35 件である。

出典：「令和 7 年版 姫路の環境の概況」（令和 7 年 8 月作成、姫路市 HP）



- 凡 例
- 事業実施想定地域
 - 関越自動車道
 - No 一般国道
 - No 県道（主要地方道）
 - No 県道（一般県道）
 - ①～③ 自動車騒音測定地点



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.26
騒音測定地点

出典：「令和6年度版 環境白書」（令和8年1月閲覧、兵庫県 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

(8) 廃棄物等

① 一般廃棄物の状況

姫路市及び兵庫県における一般廃棄物の処理状況は表 2.4.60 のとおりである。
姫路市における令和 5 年度の最終処分量は 14,223t である。

表 2.4.60 一般廃棄物の処理状況（令和 5 年度）

区分		兵庫県	姫路市
ごみ 総排出量	計画収集量（t）	1,446,886	146,950
	直接搬入量（t）	156,851	21,403
	集団回収量（t）	83,368	0
	合計（t）	1,687,105	168,353
ごみ 処理量	直接焼却量（t）	1,344,283	146,167
	直接最終処分量（t）	14,024	1,751
	焼却以外の中間処理量（t）	187,897	15,281
	直接資源化量（t）	56,905	5,152
	合計（t）	1,603,109	168,351
中間処理後再生利用量（t）		115,230	19,823
リサイクル率（%）		15.2	14.8
最終処分量（t）		181,199	14,223

出典：「一般廃棄物処理実態調査結果 令和 5 年度調査結果」（令和 8 年 1 月閲覧、環境省 HP）

② 産業廃棄物の状況

兵庫県における令和 4 年度の産業廃棄物の排出状況は、表 2.4.61 のとおりである。
令和 4 年度の 1 年間の排出量は 23,410 千 t である。

表 2.4.61 産業廃棄物の処理状況（令和 4 年度）

県	排出量	再生利用量	減量化量	最終処分量
兵庫県	23,410 千 t	10,365 千 t	12,513 千 t	532 千 t

出典：「令和 7 年度版 環境白書」（令和 8 年 6 月閲覧、兵庫県 HP）

(9) 地形・地質

① 地形の状況

事業実施想定地域及びその周囲における地形の状況は図 2.4.27 のとおりである。

事業実施想定地域の地形分類区分は丘陵地の大起伏丘陵地、山地の小起伏山地からなっている。

② 地質の状況

事業実施想定地域及びその周囲における表層地質の状況は図 2.4.28 のとおりである。

事業実施想定地域は火山性岩石である流紋岩類、未固結堆積物（泥・砂・礫）で、連系変電所エリアは固結堆積物（泥質岩）からなっている。

③ 重要な地形・地質

事業実施想定地域及びその周囲には「日本の典型地形について」にて選定された代表的な地形は表 2.4.62 及び図 2.4.29 のとおり河岸段丘及び段丘崖である市川中流がある。

表 2.4.62 日本の典型地形に選定された代表的な地形

分類	名称	地形項目	所在地
河川的作用による地形	市川中流	河岸段丘及び段丘崖	姫路市、神崎郡福崎町・市川町

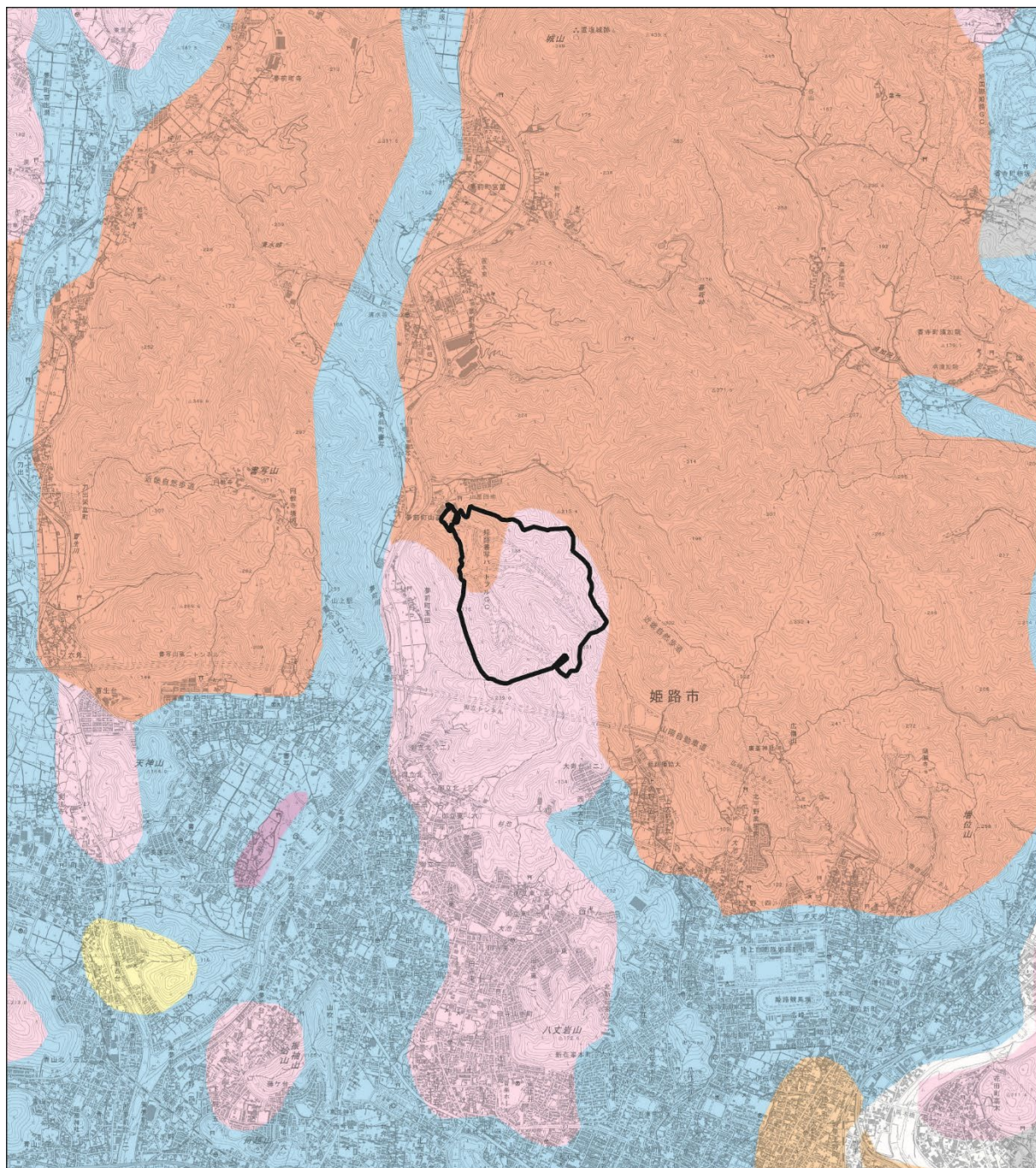
出典：「日本の典型地形について」（令和 8 年 1 月閲覧、国土地理院 HP）

また、事業実施想定地域及びその周囲には表 2.4.63 及び図 2.4.29 のとおり「兵庫県版レッドリスト 2011（地形・地質・自然景観・生態系）」にて選定された増位山の準平原等が存在する。

表 2.4.63 事業実施想定地域及びその周囲における選定された地形・地質

分類 (分類区分)	名称 (ランク)	所在地	概要
地形 (準平原)	増位山の準平原 (B)	姫路市増位山	姫路市街地の北側の脊梁を形づくる増位山・広嶺山は、標高 300m 前後の山頂部が連なり、夢前川を隔てて書写山山頂へ続く高原地形となっている。また、増位山南麓の登山道沿いには、基盤岩が地形の凹凸に平行して割れている風化（シーティング）現象もみられる。
地質 (岩石)	増位山の岩石 (B)	姫路市白国東北方 (増位山)	「書写層群」の随願寺含異質れき溶結凝灰岩
地質 (岩石)	上砥掘の岩石 (A)	姫路市香寺町奥須 加院及び姫路市広 峰神社・上砥掘	相生層群最下部の礫岩（奥須加院角礫岩）。広峰神社周辺などにも断層に沿って局所的に見られる。

出典：「兵庫県版レッドリスト 2011（地形・地質・自然景観・生態系）」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）



凡 例

事業実施想定地域

【山地】

小起伏山地

【丘陵地】

大起伏丘陵地

小起伏丘陵地

【低地】

扇状地性低地

三角洲性低地

自然堤防・砂州・砂丘

【台地段丘】

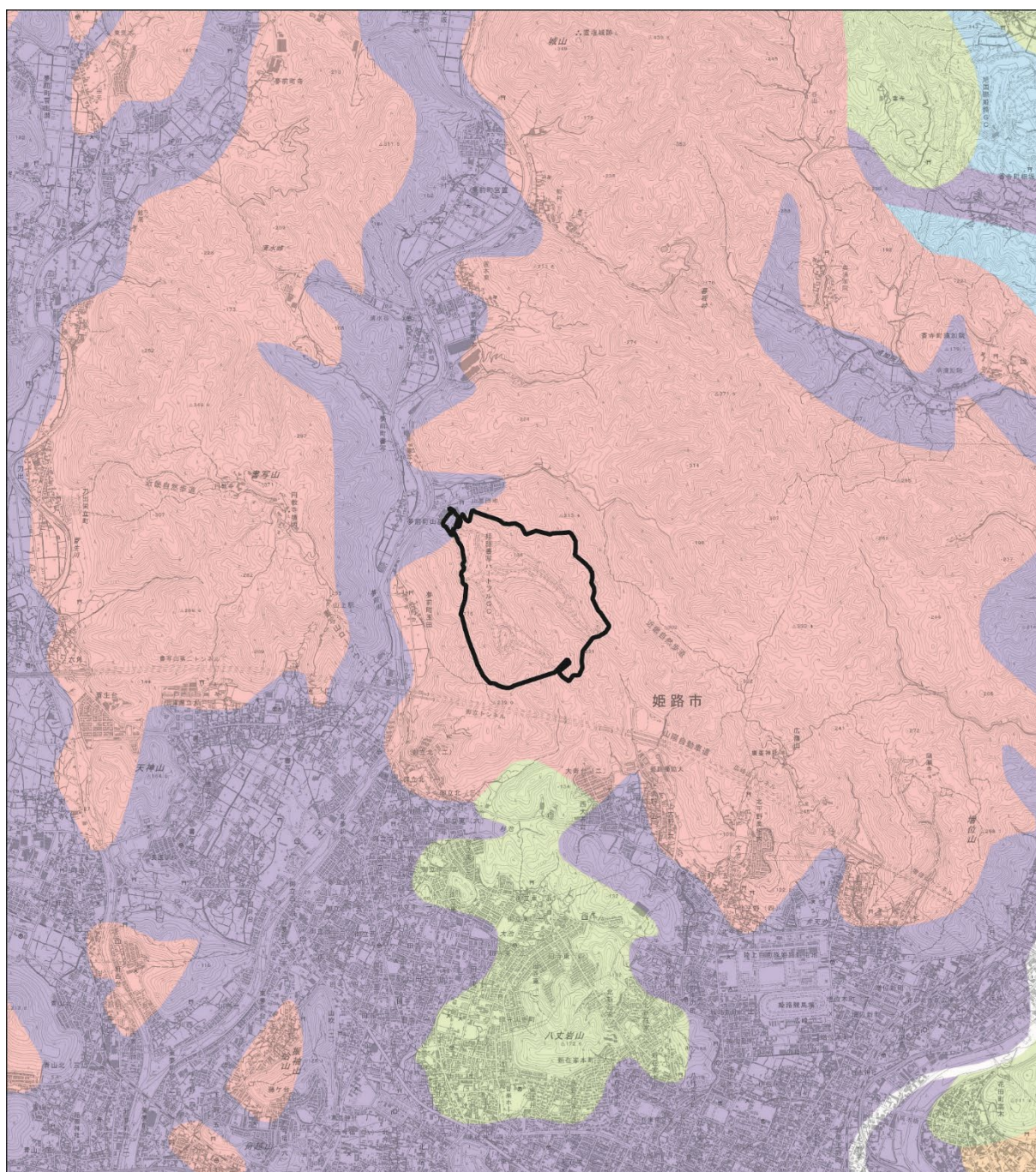
砂礫台地（下位）

出典：「国土数値情報 20万分の1土地分類基本調査」（令和8年1月閲覧、国土交通省HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図25000を用いて作成したものである。



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.27
地形分類図



凡 例

事業実施想定地域

【火山性岩石】

流紋岩類

【固結～半固結堆積物】

礫砂泥

【未固結堆積物】

泥・砂・礫

段丘礫

【固結堆積物】

泥質岩

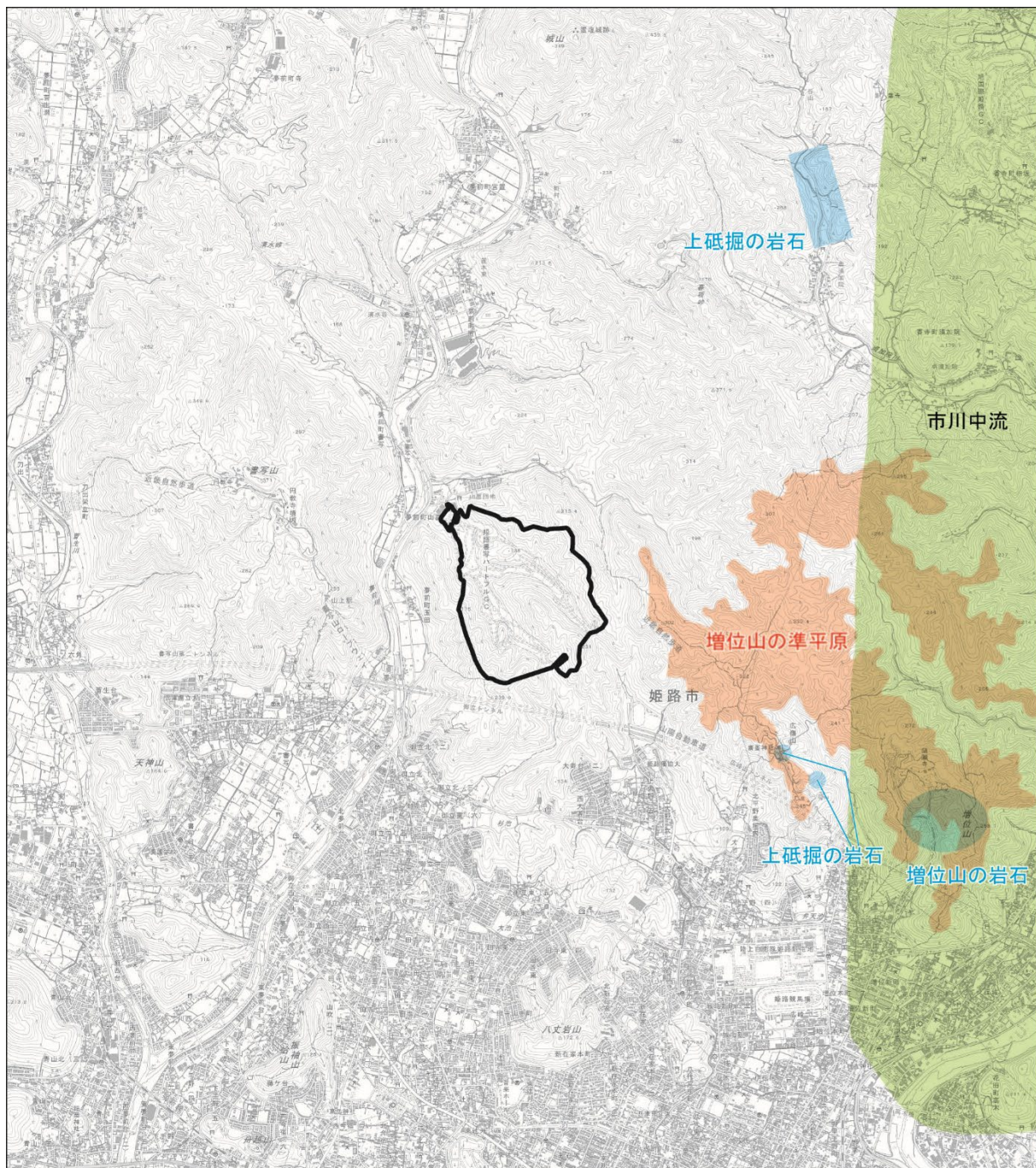


0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.28

表層地質図

出典：「国土数値情報 20 万分の 1 土地分類基本調査」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例



事業実施想定地域

日本の典型地形に選定された代表的な地形

河川的作用による地形（市川中流）

兵庫県版レッドリスト2011選定の地形・地質

地形

地質



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.29

日本の典型地形と兵庫県版
RL2011 にて選定された地形・地
質

出典：「日本の典型地形について」（令和 8 年 1 月閲覧、国土地理院 HP）
「兵庫県版レッドリスト 2011（地形・地質・自然景観・生態系）」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

(10) 植物

① 植物の生育状況

植物の生育状況は、事業実施想定地域及びその周囲を対象に文献・その他の資料により整理した。

事業実施想定地域及びその周囲における確認種を抽出した植物相に係る収集文献は、表 2.4.64 に、調査範囲は図 2.4.30 のとおり、事業実施想定地域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ（1/25,000 地形図の図郭割の安積、長谷、山崎、寺前、安志、前之庄、北条、龍野、姫路北部、笠原、網干、姫路南部、加古川）又は姫路市とし、文献ごとに設定した。

表 2.4.64 植物相に係る収集文献

No.	文献その他の資料	調査範囲	調査対象項目					
			維管束植物	蘚苔類	藻類	菌類	植物群落	巨樹巨木
①	「自然環境保全基礎調査（第 2 回、第 3 回、第 4 回、第 5 回、第 6 回、第 7 回）-自然環境調査 Web-GIS 巨樹・巨木、特定植物群落、植生調査（1/2.5 万）」（環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和 7 年 9 月）	事業実施想定地域周辺で図 2.4.30 等に表示範囲に記録があるもの。					○	○
②	「兵庫県版レッドデータブック 2020（植物・植物群落）」（兵庫県、令和 2 年） ※兵庫県 HP 更新履歴閲覧：令和 8 年 3 月	姫路市に記録があるもの。	○	○	○	○	○	
③	「兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト（ブラックリスト）（2010）（2024 改訂版）」（兵庫県 HP、閲覧：令和 8 年 3 月）	播磨西部に記録があるもの。	○					
④	「兵庫県産維管束植物」（福岡誠行ほか、平成 11 年）、人と自然 HumAns And Nature, No. 10, 73-115 「兵庫県産維管束植物 2」（福岡誠行ほか、平成 12 年）、人と自然 HumAns And Nature, No. 11, 85-104 「兵庫県産維管束植物 3」（福岡誠行ほか、平成 13 年）、人と自然 HumAns And Nature, No. 12, 105-162 「兵庫県産維管束植物 4」（福岡誠行ほか、平成 14 年）、人と自然 HumAns And Nature, No. 13, 131-184 「兵庫県産維管束植物 5」（福岡誠行ほか、平成 15 年）、人と自然 HumAns And Nature, No. 14, 111-162 「兵庫県産維管束植物 6」（福岡誠行ほか、平成 16 年）、人と自然 HumAns And Nature, No. 15, 93-146 「兵庫県産維管束植物 7」（福岡誠行ほか、平成 14 年）、人と自然 HumAns And Nature, No. 16, 99-129 「兵庫県産維管束植物 8」（福岡誠行ほか、平成 15 年）、人と自然 HumAns And Nature, No. 17, 143-188 「兵庫県産維管束植物 9」（福岡誠行ほか、平成 16 年）、人と自然 HumAns And Nature, No. 18, 85-117 「兵庫県産維管束植物 10」（福岡誠行ほか、平成 17 年）、人と自然 HumAns And Nature, No. 19, 161-222 「兵庫県産維管束植物 11」（福岡誠行ほか、平成 18 年）、人と自然 HumAns And Nature, No. 20, 139-189 「兵庫県産維管束植物 12」（福岡誠行ほか、平成 29 年）、人と自然 HumAns And Nature, No. 28, 31-86	姫路市に記録があるもの。	○					



1) 植物相の概況（菌類を含む）

事業実施想定地域及びその周囲で確認された文献その他の資料による植物相の概況は、表 2.4.65 のとおりである。

菌類が 13 科 18 種、藻類が 3 科 11 種、蘚苔類が 13 科 17 種、シダ植物が 26 科 144 種、種子植物（裸子植物）が 3 科 4 種、種子植物（被子植物）が 130 科 977 種確認された。

表 2.4.65 文献その他の資料による植物相の概況

分類		科数	種数	主な確認種
菌類		13	18	アケボノタケ、ホンシメジ、マツタケモドキ、シャグマ アミガサタケ、ホンセイヨウショウロ等
藻類		3	11	オオイシソウ、チャイロカワモズク、シャジクモ、ヒメフラ スコモ等
蘚苔類		13	17	クラマゴケモドキ、センボンゴケ、ヤマハリガネゴケ（ホン マゴケ）、イタチゴケ、アブラゴケ等
シダ植物		26	144	ヒカゲノカズラ、トクサ、イワヒバ、ゼンマイ、ウラジロ、 イノモトソウ
種子植物	裸子植物	3	4	ゴヨウマツ、ツガ、スギ、イヌガヤ（イチイ）
	被子植物	130	977	スイレン、ドクダミ、ススキ、クリ、スイカズラ等
合計		188	1171	

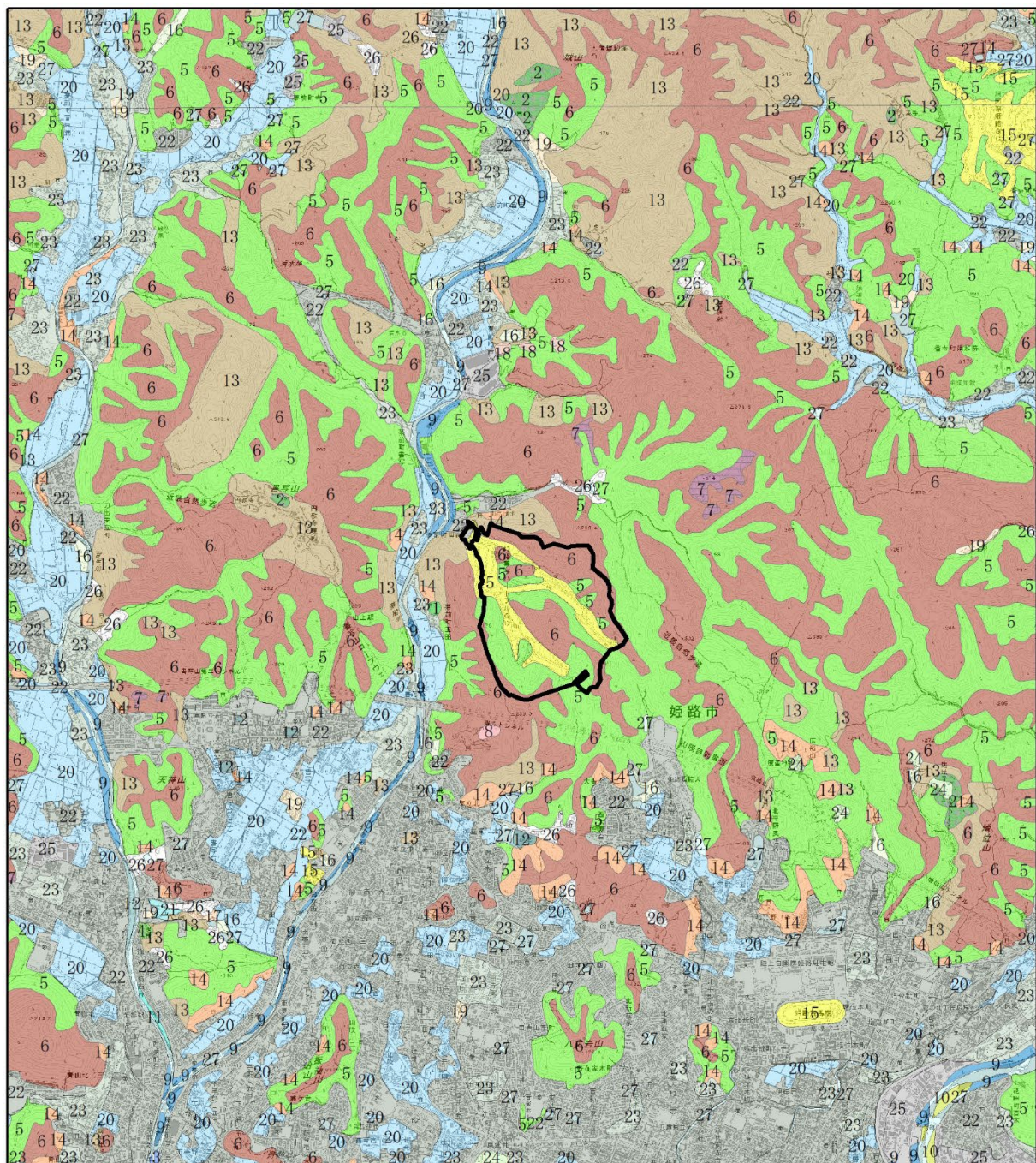
2) 植生

事業実施想定地域及びその周囲の現存植生図は、図 2.4.31 に示すとおりである。

事業実施想定地域は、ゴルフ場・芝地、アベマキーコナラ群集、モチツツジ・アカマツ群集等で構成されている。連系変電所エリアはアベマキーコナラ群集となっている。

事業実施想定地域及びその周囲の植生自然度は、図 2.4.32 に示すとおりである。

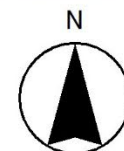
事業実施想定地域の谷部は主に植生自然度 4 となっており、斜面部は植生自然度 7 となっている。連系変電所エリアは植生自然度 7 となっている。



凡例

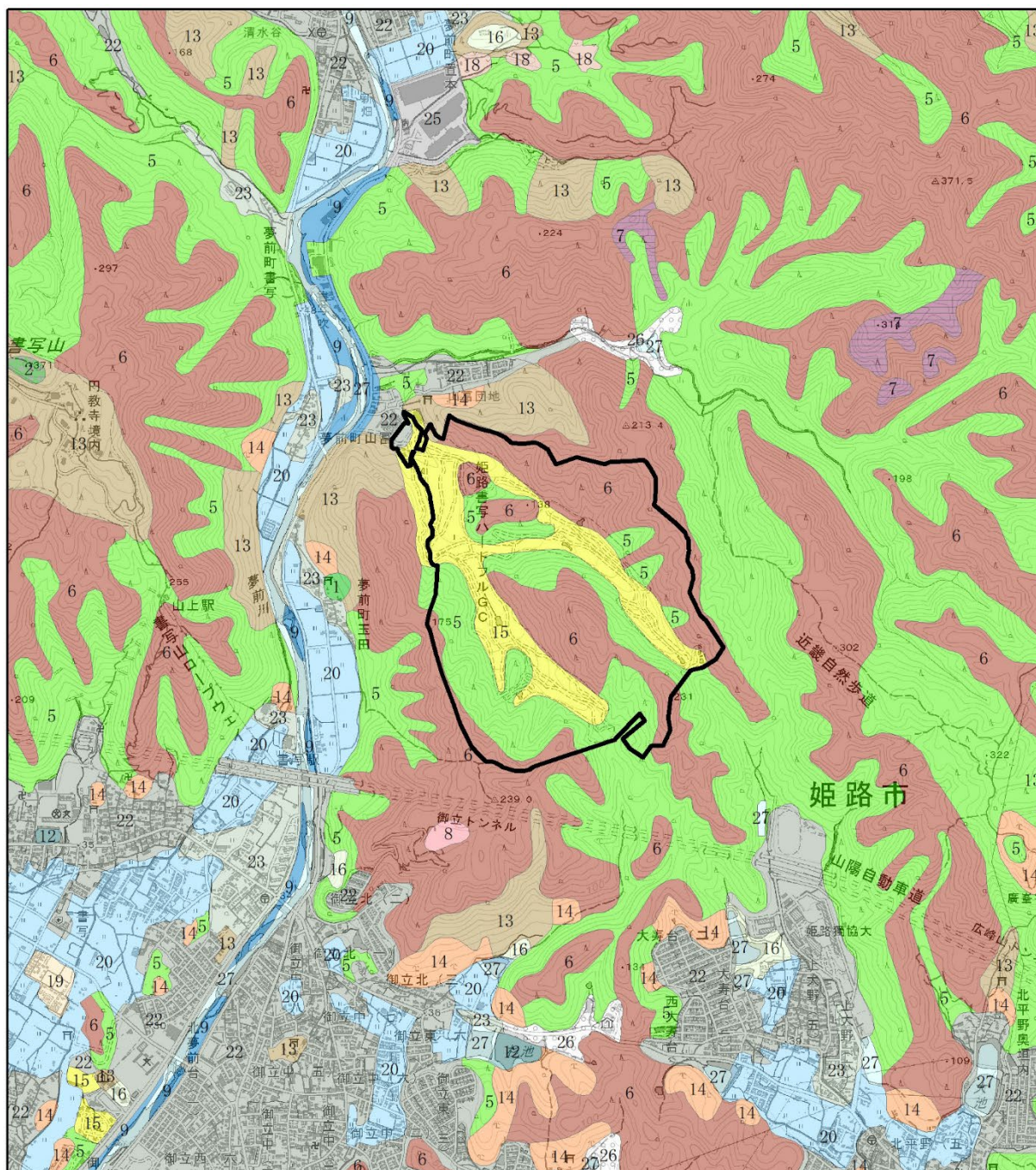
 事業実施想定地域

※凡例は別表に示す



0 500 1,000 2,000
m

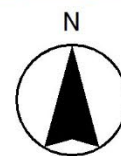
図 2.4.31(1)
現存植生図 (広域)



凡例

 事業実施想定地域

※凡例は別表に示す



0 250 500 1,000
m

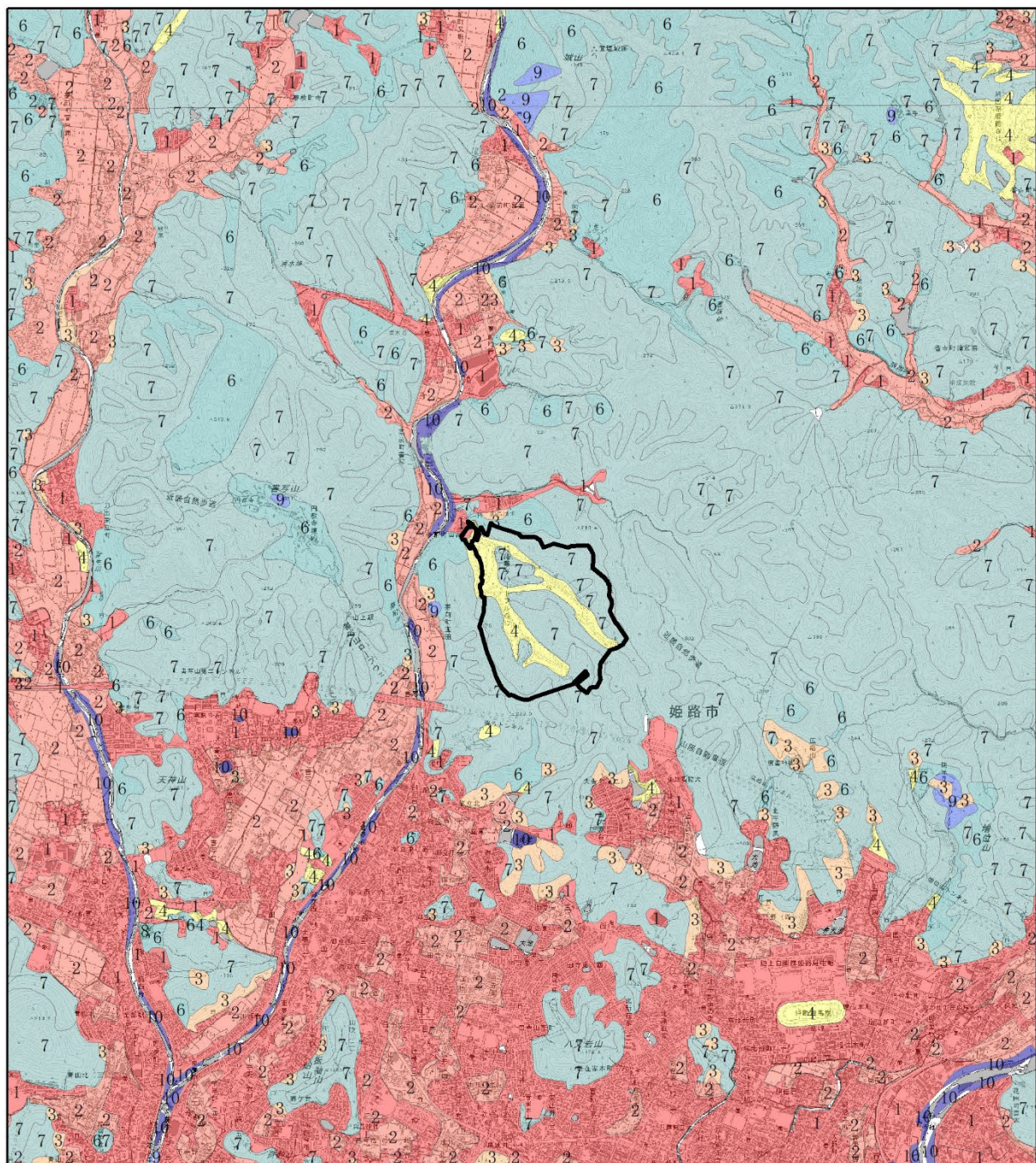
図 2.4.31(2)
現存植生図 (詳細)

表 2.4.66 現存植生図凡例

植生区分	凡例番号	凡例名	植生 自然度
ヤブツバキクラス域自然植生	 1	アラカシ群落	9
	 2	カナメモチーコジイ群集	9
	 3	ヤナギ高木群落 (VI)	9
ヤブツバキクラス域代償植生	 4	シイ・カシ二次林	8
	 5	アベマキーコナラ群集	7
	 6	モチツツジーアカマツ群集	7
	 7	ネズーアカマツ群落	7
	 8	伐採跡地群落 (VII)	4
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	 9	ヨシクラス	10
	 10	河川敷砂礫地植生	10
	 11	オギ群集	10
	 12	ヒルムシロクラス	10
植林地、耕作地植生	 13	スギ・ヒノキ・サワラ植林	6
	 14	竹林	3
	 15	ゴルフ場・芝地	4
	 16	路傍・空地雑草群落	4
	 17	放棄畑雑草群落	4
	 18	果樹園	3
	 19	畑雑草群落	2
	 20	水田雑草群落	2
	 21	放棄水田雑草群落	4
その他	 22	市街地	1
	 23	緑の多い住宅地	2
	 24	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	3
	 25	工場地帯	1
	 26	造成地	1
	 27	開放水域	-

注：1. 凡例番号は図 2.4.31(1) (広域図)、図 2.4.31(2) (詳細図) の現存植生図内の番号に対応している。

注：2. 植生自然度の区分は、「1/2.5 万植生図の新たな植生自然度について」(平成 28 年、環境省)に基づく。



凡例

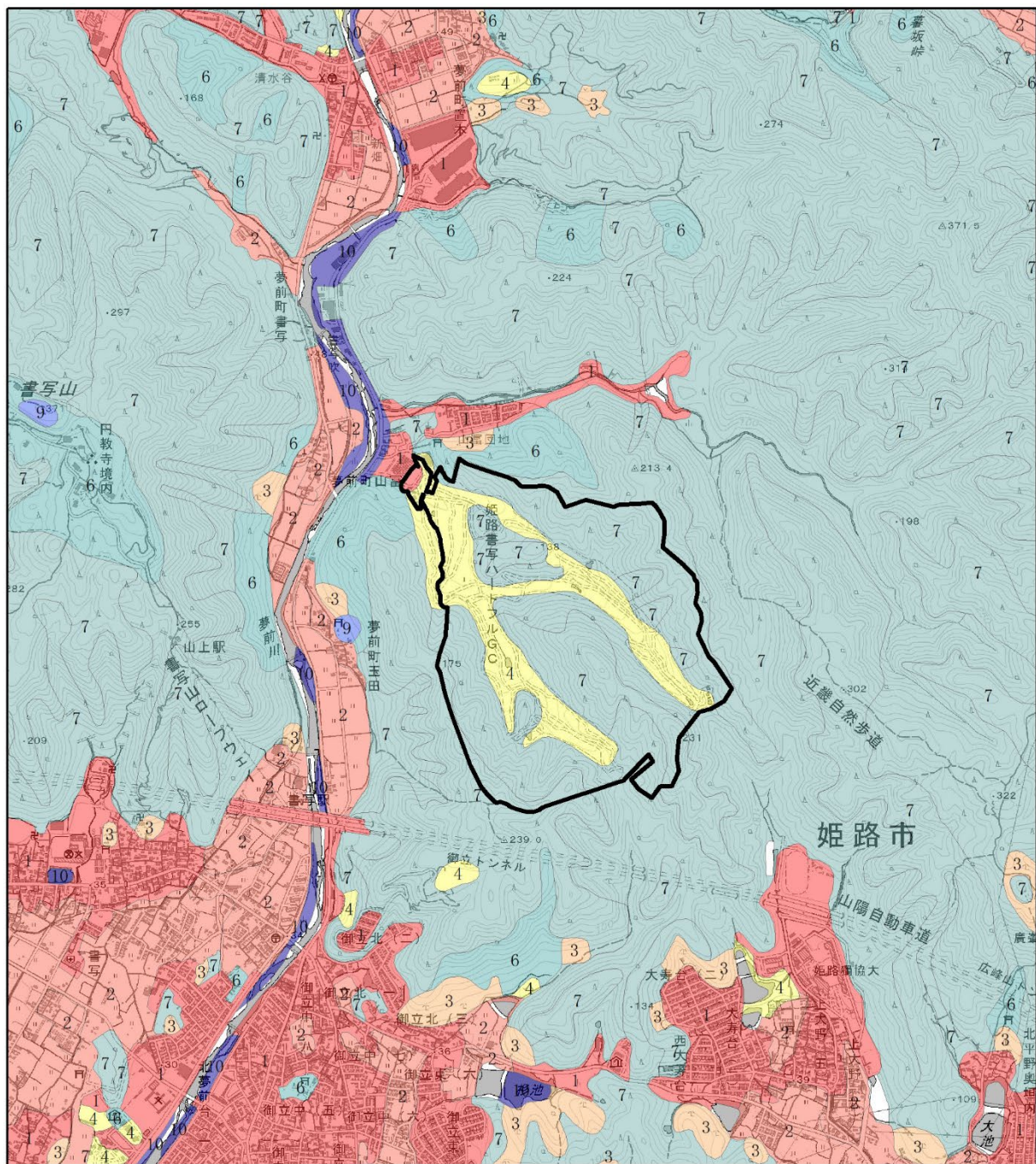
事業実施想定地域

 植生自然度10	 植生自然度5
 植生自然度9	 植生自然度4
 植生自然度8	 植生自然度3
 植生自然度7	 植生自然度2
 植生自然度6	 植生自然度1



0 500 1,000 2,000
m

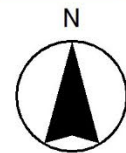
図 2.4.32(1)
植生自然度 (広域)



凡例

事業実施想定地域

 植生自然度10	 植生自然度5
 植生自然度9	 植生自然度4
 植生自然度8	 植生自然度3
 植生自然度7	 植生自然度2
 植生自然度6	 植生自然度1



0 250 500 1,000
m

図 2.4.32(2)
植生自然度 (詳細)

3) 植物の重要な種及び重要な植物群落等の分布

(a) 植物の重要な種（菌類を含む）

事業実施想定地域及びその周囲の植物の重要な種の選定は、表 2.4.67 の法令・文献等による選定基準に基づいて選定した。

事業実施想定地域及びその周囲で確認された植物の重要な種は、表 2.4.68 のとおりであり、47 目 98 科 260 種の植物の重要な種が確認された。

表 2.4.67 植物の重要な種の選定基準

No.	法令・文献等	カテゴリー
①	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日） 「兵庫県文化財保護条例」（昭和 39 年条例第 58 号、最終改正：令和 3 年 3 月 23 日条例第 24 号） 「姫路市文化財保護条例」（昭和 52 年条例第 11 号）に基づく天然記念物	特天：特別天然記念物 天：天然記念物 県天：兵庫県天然記念物 市天：姫路市天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日） 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」（平成 5 年政令第 17 号、最終改正：令和 7 年 1 月 22 日）に基づく国内希少野生動植物等	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 特定 1：特定第一種国内希少野生動植物種 特定 2：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「環境省レッドリスト 2020」（環境省、令和 2 年）の掲載種	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「兵庫県版レッドデータブック 2020（植物・植物群落）」（兵庫県、令和 2 年）の掲載種	Ex：絶滅 EW：野生絶滅（維管束植物に適用） A：A ランク B：B ランク C：C ランク 地：地域絶滅危惧種（淡水藻類に適用） 注：要注目（菌類、植物群落に適用） 調：要調査

表 2.4.68(1) 植物の重要な種リスト

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
1	ハラタケ	ヌメリガサ	アケボノタケ				注
2		シメジ	ホンシメジ				注
3		キシメジ	ハエトリシメジ				注
4			マツタケモドキ			NT	注
5		オオモミタケ	モミタケ				注
6		モエギタケ	ナガエノスギタケ				注
7	イグチ	イグチ	タマノリイグチ				A
8	ビョウタケ	キンカクキン	キツネノワシ				注
9			キツネノヤリタケ				注
10	チャワンタケ	ベニチャワンタケ	キツネノサカズキ			VU	A
11		ノボリリュウタケ	ミミズサタケ				注
12		フクロシトネタケ	シャグマアミガサタケ				注
13		セイヨウショウロ	クルミタケ				調
14			イボセイヨウショウロ				調
15			ホンセイヨウショウロ				調
16	ボタンタケ	バツカクキン	アブラゼミタケ				B
17		オフィオコルディセプス	ウメムラセミタケ				調
18			ミヤマタンボタケ				調
19	オオイシソウ	オオイシソウ	オオイシソウ			VU	A
20	カワモズク	カワモズク	チャイロカワモズク			NT	C
21			イシカワモズク			CR+EN	A
22			アオカワモズク			NT	C
23			ホソカワモズク			VU	A
24			ユタカカワモズク			CR+EN	地
25	シャジクモ	シャジクモ	シャジクモ			VU	C
26			イトシャジクモ類			CR+EN	B
27			ヒメフラスコモ			CR+EN	A
28			ハデフラスコモ			CR+EN	A
29			オオシャジクモ			CR+EN	A
30	ウロコゴケ	クラマゴケモドキ	カギクラマゴケモドキ				A
31	センボンゴケ	センボンゴケ	ニセイシバイゴケ				B
32		カタシロゴケ	ヒメイサワゴケ				B
33	ホンマゴケ	ハリガネゴケ	ヤマハリガネゴケ				C
34	イヌマゴケ	ツルゴケ	イトヒバゴケ			CR	A
35			ツルゴケ				B
36		イタチゴケ	トガリイタチゴケ				B
37		ナワゴケ	カトウゴケ			NT	A
38			キノクニキヌタゴケ				C
39		ハイヒモゴケ	イトゴケ				B
40		ヒラゴケ	セイナンヒラゴケ				C
41			フトスズゴケ				C
42	ハイゴケ	ハイヒモゴケ	オオミミゴケ				A
43		ミヤベゴケ	タチヒラゴケ				A
44		ハイゴケ	ヒロハクシノハゴケ				A
45			キノクニイチイゴケ				B
46	アブラゴケ	アブラゴケ	イバラゴケ				C
47	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	ミズスギ				C
48			マンネンスギ				B
49	ハナヤスリ	ハナヤスリ	アカハナワラビ				B
50			ハマハナヤスリ				B

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.67 に対応する。

表 2.4.68(2) 植物の重要な種リスト

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
51	マツバラン	マツバラン	マツバラン			NT	B
52	ウラボシ	イノモトソウ	ヒメミズワラビ				C
53			ナチシダ				B
54		チャセンシダ	クモノスシダ				B
55			イヌチャセンシダ				C
56			アオガネシダ				A
57			フクロシダ				C
58		メシダ	ハコネシケチシダ				C
59			カラクサイヌワラビ				B
60			イッポンワラビ				A
61			ミヤコイヌワラビ				C
62			ルリデライヌワラビ				B
63			ヒカゲワラビ				B
64			ウスバミヤマノコギリシダ				B
65			シロヤマシダ				C
66		オシダ	ヒロハヤブソテツ				B
67			ミヤマクマワラビ				C
68			ナガバノイタチシダ				B
69		ウラボシ	アオネカズラ				C
70			イワヤナギシダ				C
71			クリハラン				C
72			イワオモダカ				A
73	マツ	マツ	ゴヨウマツ				C
74	スイレン	スイレン	サイコクヒメコウホネ				C
75	センリョウ	センリョウ	キビヒトリシズカ			VU	B
76			センリョウ				C
77	コショウ	ドクダミ	ハンゲショウ				C
78		ウマノスズクサ	ウマノスズクサ				C
79			フタバアオイ				B
80	オモダカ	サトイモ	ホソバテンナンショウ				C
81			ムサシアブミ				B
82			オオハンゲ				C
83		チシマゼキショウ	ハナゼキショウ				C
84		トチカガミ	クロモ				C
85			トチカガミ			NT	EX
86			ミズオオバコ			NT	C
87			セキショウモ				B
88	ヤマノイモ	ヒナノジャクジョウ	ヒナノジャクジョウ				B
89	クサスギカズラ	ラン	ヒナラン			VU	B
90			マメヅタラン			NT	C
91			ムギラン			NT	
92			エビネ			NT	C
93			ナツエビネ			VU	B
94			ギンラン				C
95			キンラン			NT	C
96			ササバギンラン				B
97			クマガイソウ			VU	B

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.67 に対応する。

表 2.4.68(3) 植物の重要な種リスト

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
98	クサスギカズラ	ラン	カキラン				C
99			ミズトンボ			NT	C
100			ムカゴソウ			VU	B
101			アオフタバラン				B
102			サギソウ			NT	B
103			ヤマサギソウ			VU	C
104			コバノトンボソウ				C
105			トキソウ			NT	C
106			クモラン				B
107			カヤラン				C
108		アヤメ	ノハナショウブ				C
109			カキツバタ			NT	B
110	イネ	ススキノキ	ユウスゲ				C
111			ノカンゾウ				B
112		ガマ	ミクリ			NT	C
113			ナガエミクリ			NT	C
114		ホシクサ	ヤマトホシクサ			VU	C
115		イグサ	ヒメコウガイゼキショウ				C
116			ドロイ				B
117		カヤツリグサ	コウキヤガラ				B
118			ベニイトスゲ				C
119			オオナキリスゲ				C
120			ヤマジスゲ				B
121			オオタマツリスゲ				B
122			フサスゲ				B
123			アオバスゲ				C
124			タカネマスキサ				C
125			マメスゲ				B
126			センダイスゲ				B
127			ホソバカンスゲ				B
128			カガシラ			VU	B
129			ヤリハリイ				C
130			イヌクログワイ				B
131			オオヌマハリイ				C
132			イソヤマデンツキ				C
133			ネビキグサ				B
134			トラノハナヒゲ				B
135			タイワンヤマイ				C
136			フトイ				調
137			ノグサ				C
138			マツカサススキ				B
139	イネ	イネ	ヒロハノハネガヤ				C
140			イトスズメガヤ				調
141			ナルコビエ				C
142			ウンヌケモドキ			NT	C
143			ウンヌケ			VU	B
144			ムツオレグサ				C
145			イワタケソウ				B
146			タチネズミガヤ				C
147			スズメノコビエ				B

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.67 に対応する。

表 2.4.68(4) 植物の重要な種リスト

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
148	イネ	イネ	タキキビ				C
149			ムカゴツツリ				B
150			ウキシバ				C
151			オニシバ				C
152			ナガミノオニシバ				C
153	キンポウゲ	ケシ	ヤマキケマン				A
154		キンポウゲ	オオバショウマ				C
155			カザグルマ			NT	B
156			セツブンソウ			NT	C
157			シギンカラマツ				B
158	ツゲ	ツゲ	フッキソウ				B
159	ユキノシタ	ユキノシタ	コガネネコノメソウ				C
160		ベンケイソウ	ツメレンゲ			NT	C
161			メノマンネングサ				C
162			タイトゴメ				C
163	ハマビシ	ハマビシ	ハマビシ			EN	EW
164	マメ	マメ	ハマナタマメ				B
165			サイカチ				調
166			マキエハギ				B
167		ヒメハギ	ヒナノカンザシ				C
168	バラ	グミ	ナツアサドリ				C
169		クロウメモドキ	オオクマヤナギ				C
170			ヨコグラノキ				B
171			ハマナツメ			NT	調
172		バラ	エドヒガン				C
173			クサボケ				C
174			バクチノキ				C
175			カワラサイコ				B
176			シロヤマブキ			EN	調
177			モリイバラ				C
178			オオバライチゴ				B
179			コジキイチゴ				C
180	ウリ	ウリ	ゴキヅル				C
181	キントラノオ	トウダイグサ	ニシキソウ				C
182			イワタイゲキ				B
183			タカトウダイ				B
184		スマレ	コミヤマスミレ				C
185	ムクロジ	ムクロジ	カジカエデ				C
186			ヒナウチワカエデ				C
187			ムクロジ				C
188	アブラナ	アブラナ	オオマルバコンロンソウ			EN	B
189			ミズタガラシ				B
190			コイヌガラシ			NT	C
191	ナデシコ	イソマツ	ハマサジ			NT	C
192		タデ	サデクサ				C
193			ヌカボタデ			VU	B
194			ニオイタデ				B
195			コギシギシ			NT	調
196		モウセンゴケ	イシモチソウ			NT	C
197			コモウセンゴケ				C

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」
(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.67 に対応する。

表 2.4.68(5) 植物の重要な種リスト

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
198	ナデシコ	ナデシコ	ワチガイソウ				B
199		ヒユ	ホソバハマアカザ				C
200			イソホウキギ				EX
201			イワアカザ			CR	調
202			ハママツナ				B
203	ツツジ	カキノキ	トキワガキ				B
204		サクラソウ	クサレダマ				B
205			タイミンタチバナ				C
206		ツツジ	ウメガサソウ				B
207			シャクジョウソウ				C
208			ホンシャクナゲ				C
209			ヒカゲツツジ				C
210			アカヤシオ				B
211	リンドウ	アカネ	ジュズネノキ				C
212			サツマイナモリ				B
213			ヤマトグサ				A
214			カギカズラ				B
215		リンドウ	ムラサキセンブリ			NT	B
216			イヌセンブリ			NT	C
217		マチン	チトセカズラ			VU	C
218			ホウライカズラ				C
219			アイナエ				C
220		キョウチクトウ	ケテイカカズラ				調
221			コカモメヅル				C
222	ナス	ナス	ヤマホロシ				C
223	ムラサキ	ムラサキ	サワリソウ				A
224	シソ	モクセイ	セツイボタ				調
225		オオバコ	アブノメ				C
226			キクガラクサ			NT	B
227			クワガタソウ				B
228			イヌノフグリ			NT	C
229			カワヂシャ			NT	C
230		ゴマノハグサ	オオヒナノウスツボ				B
231		シソ	ヤマジソ			NT	C
232			ミゾコウジュ			NT	B
233			ミヤマナミキ				B
234			ナミキソウ				B
235		ハマウツボ	ゴマクサ			NT	B
236			クチナシグサ				C
237			キヨスミウツボ				B
238			オオヒキヨモギ			NT	
239		タヌキモ	ノタヌキモ			VU	C
240			ムラサキミミカキグサ			NT	C
241		キツネノマゴ	オギノツメ				B
242			スズムシバナ				B
243	モチノキ	モチノキ	タマミズキ				C
244	キク	ミツガシワ	アサザ			NT	B
245		キク	ヌメダイコン				C
246			ホソバナヤマハハコ				A

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」
(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.67 に対応する。

表 2.4.68(6) 植物の重要な種リスト

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
247	キク	キク	カワラハハコ				B
248			フクド			NT	B
249			ヒメヨモギ				B
250			ヤマジノギク				C
251			オケラ				C
252			ノジギク				C
253			サケバヒヨドリ				調
254			オグルマ				C
255			ノニガナ				C
256			ハマニガナ				C
257			ハンカイソウ				C
258	セリ	トベラ	コヤスノキ			NT	C
259		セリ	ボタンボウフウ				B
260	マツムシソウ	スイカズラ	ナベナ				B
合計	46 目	98 科	260 種	0 種	0 種	66 種	258 種

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」
(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.67 に対応する。

(b) 重要な植物群落等

事業実施想定地域及びその周囲の重要な植物群落等は、表 2.4.69 の法令・文献等による選定基準に基づいて選定した。

事業実施想定地域及びその周囲における重要な植物群落等は、表 2.4.70 及び図 2.4.33 のとおりである。

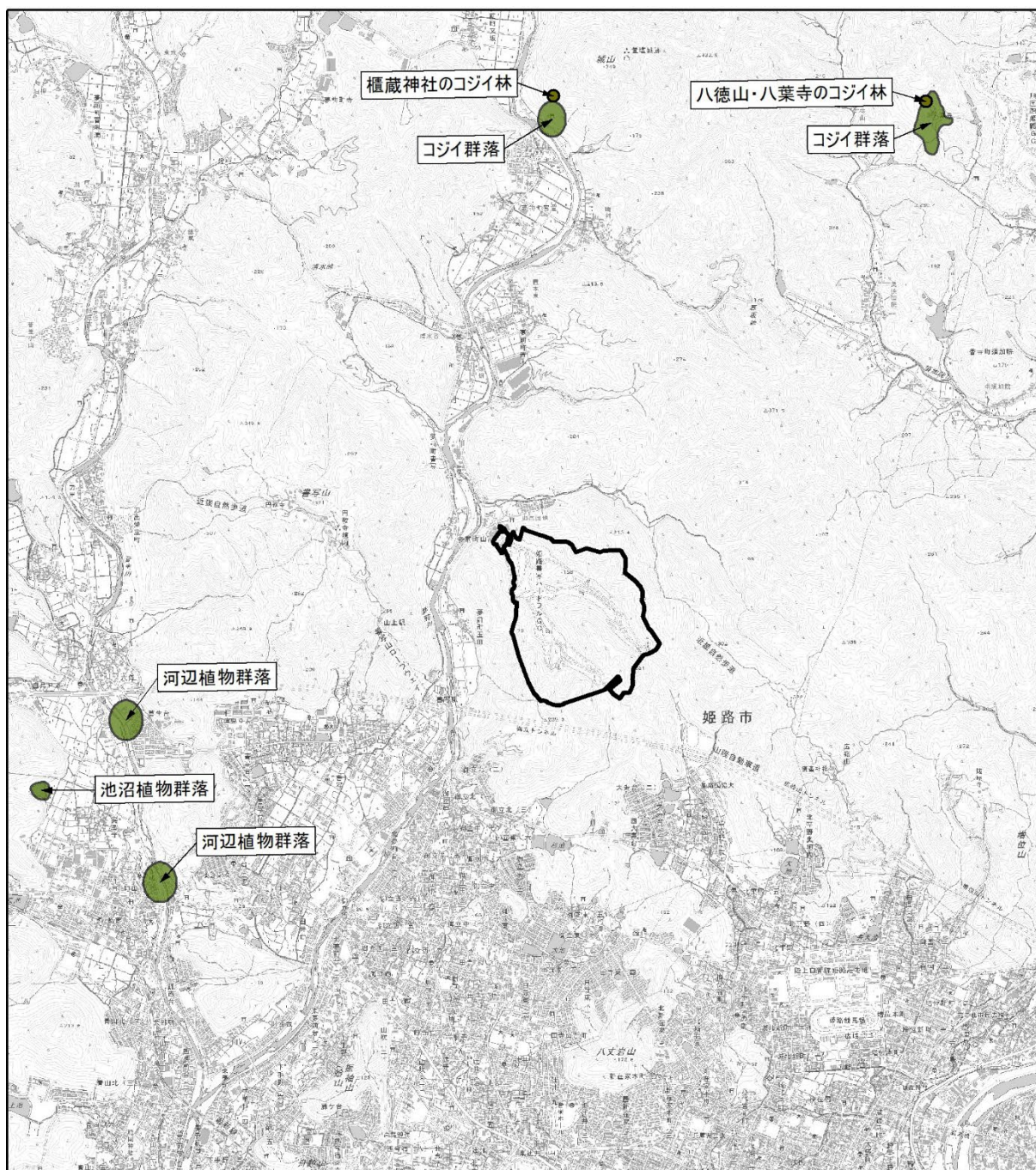
事業実施想定地域には重要な植物群落等は存在しない。

表 2.4.69 重要な植物群落の選定基準

	文献等	選定基準
①	「兵庫県版レッドデータブック 2020 (植物・植物群落)」(兵庫県、令和2年)の掲載種	A : A ランク B : B ランク C : C ランク 注 : 要注目
②	「自然環境保全基礎調査(第6回)-自然環境調査 Web-GIS 特定植物群落」(環境省生物多様性センターHP、閲覧 : 令和8年3月)	特定植物群落

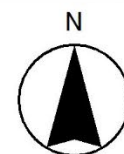
表 2.4.70 事業実施想定地域及びその周辺の重要な植物群落等

準拠文献	場所	植物群落名・名称	選定基準
兵庫県 RDB2020	菅生川町田橋下流右岸	河辺植物群落	C
兵庫県 RDB2020	菅生川新六角川下流左岸	河辺植物群落	C
兵庫県 RDB2020	市川山陽自動車道上流右岸	河辺植物群落	C
兵庫県 RDB2020	市川大橋下流左岸	河辺植物群落	C
兵庫県 RDB2020	置塩城跡、櫃蔵神社	コジイ群落	B
兵庫県 RDB2020	八徳山八葉寺	コジイ群落	B
兵庫県 RDB2020	伯母池	池沼植物群落	注
特定植物群落	櫃蔵神社	櫃蔵神社のコジイ林	AB
特定植物群落	八徳山・八葉寺	八徳山・八葉寺のコジイ林	AB



凡例

- 事業実施想定地域
- 重要な植物群落(特定植物群落)
- 重要な植物群落(兵庫県RDB2020)



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.33
重要な植物群落等

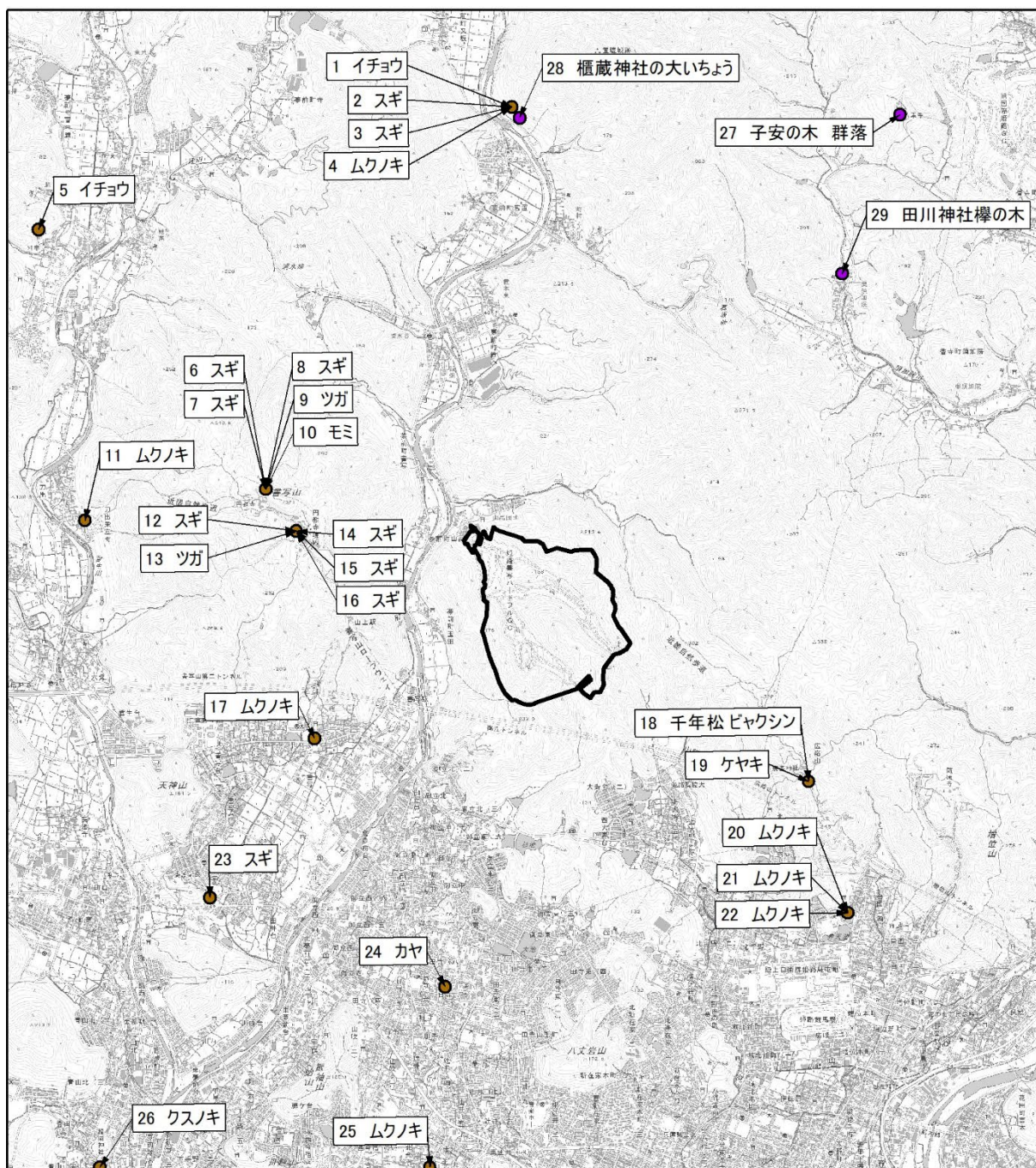
(c) 巨樹・巨木林、天然記念物

事業実施想定地域及びその周囲の巨樹・巨木林、天然記念物は、表 2.4.71 及び図 2.4.34 のとおりである。

事業実施想定地域内には巨樹・巨木林、天然記念物は存在しない。

表 2.4.71 事業実施想定地域及びその周囲の巨樹・巨木林、天然記念物

No.	名称または樹種名	幹周囲 (cm)	樹高 (m)	備考
1	イチョウ	680	39	
2	スギ	470	28	
3	スギ	455	37	
4	ムクノキ	480	26	
5	イチョウ	445	27	
6	スギ	410	22	
7	スギ	835	35	
8	スギ	510	22	
9	ツガ	390	25	
10	モミ	300	32	
11	ムクノキ	470	25	
12	スギ	400	37	
13	ツガ	360	29	
14	スギ	380	30	
15	スギ	370	38	
16	スギ	360	35	
17	ムクノキ	600	17	
18	ビャクシン (千年松)	330	16	
19	ケヤキ	360	18	
20	ムクノキ	350	21	
21	ムクノキ	340	21	
22	ムクノキ	350	21	
23	スギ	300	30	
24	カヤ	420	14	
25	ムクノキ	410	15	
26	クスノキ	340	22	
27	子安の木 群落	—	—	姫路市指定天然記念物
28	檀蔵神社の大イチョウ	650	30	姫路市指定天然記念物
29	田川神社櫨の木	600	37	姫路市指定天然記念物

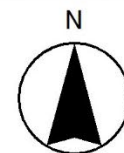


凡例

事業実施想定地域

● 巨樹・巨木林

● 姫路市天然記念物



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.34

巨樹・巨木林、天然記念物

図中の番号は、表 2.4.71 の No.を表す。

(d) 侵略的外来種

事業実施想定地域及びその周囲の侵略的外来種の選定は、表 2.4.72 の法令・文献等による選定基準に基づいて選定した。

事業実施想定地域及びその周囲における植物の侵略的外来種は、表 2.4.73 のとおりであり、18 目 21 科 56 種が確認された。

表 2.4.72 侵略的外来生物の選定基準

No.	法令・文献等	カテゴリー
①	「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物のリスト」(環境省、最終更新：令和6年7月1日)に基づく掲載種	特定：特定外来生物
②	「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)」(環境省、平成27年)に基づく掲載種	定着を予防する外来種(定着予防外来種) 未侵入：侵入予防外来種 未定着：その他の定着予防外来種 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) 緊急：緊急対策外来種 重点：重点対策外来種 その他総合：その他の総合対策外来種 適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種) 産業：産業管理外来種
③	「兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト2010(2024改訂版))」に基づく掲載種	注意：注意種 警戒：警戒種

表 2.4.73(1) 侵略的外来生物（植物）

No.	目名	科名	種和名	選定基準		
				①	②	③
1	サンショウモ	サンショウモ	外来アゾラ属	特定	緊急	警戒
2	オモダカ	サトイモ	ボタンウキクサ	特定	緊急	警戒
3		トチカガミ	オオカナダモ		重点	警戒
4			コカナダモ		重点	注意
5	キジカクシ	アヤメ	キショウブ		重点	注意
6	ツユクサ	ミズアオイ	ホテイアオイ		重点	警戒
7	イネ	イネ	コヌカグサ		産業	
8			メリケンカルカヤ		その他総合	注意
9			ハルガヤ		その他総合	注意
10			カモガヤ		産業	警戒
11			シナダレスズメガヤ		重点	警戒
12			オニウシノケグサ		産業	
13			ネズミムギ		産業	警戒
14			ホソムギ		産業	
15			ススキ			警戒
16			シマスズメノヒエ		その他総合	
17			オオアワガエリ		産業	
18			モウソウチク		産業	注意
19			マダケ		産業	
20			ヒロハノウシノケグサ		産業	
21			セイバンモロコシ		その他総合	注意
22			ナギナタガヤ		産業	
23	キンポウゲ	メギ	ヒイラギナンテン		その他総合	注意
24	ユキノシタ	アリノトウグサ	オオフサモ	特定	緊急	警戒
25	フトモモ	アカバナ	コマツヨイグサ		重点	注意
26	マメ	マメ	イタチハギ		重点	警戒
27			アレチヌスビトハギ		その他総合	
28			Indigofera 属			警戒
29			ヤマハギ			警戒
30			メドハギ			警戒
31			マルバハギ			警戒
32			ハリエンジュ		産業	警戒
33			カンポウフウ			注意
34	ウリ	ウリ	アレチウリ	特定	緊急	警戒
35	ブナ	カバノキ	オオバヤシャブシ			警戒
36	キントラノオ	トウダイグサ	ナンキンハゼ		その他総合	警戒
37	ムクロジ	ニガキ	ニワウルシ		重点	注意
38	ナデシコ	タデ	シャクチリソバ		その他総合	注意
39			イタドリ			警戒
40			ヒメスイバ		その他総合	
41			エゾノギシギシ		その他総合	
42	ナス	ヒルガオ	アメリカネナシカズラ		その他総合	
43	シソ	モクセイ	トウネズミモチ		重点	警戒
44		オオバコ	オオカワヂシャ	特定	緊急	警戒
45		ゴマノハグサ	フサフジツギ		重点	警戒
46			アレチハナガサ		その他総合	注意
47	キク	キク	オオブタクサ		重点	警戒
48			ヨモギ			警戒
49			オオキンケイギク	特定	緊急	警戒
50			ヒメジョオン		その他総合	
51			キクイモ			注意

表 2.4.73(2) 侵略的外来生物（植物）

No.	目名	科名	種和名	選定基準		
				①	②	③
52	キク	キク	ナルトサワギク	特定	緊急	警戒
53			セイタカアワダチソウ		重点	注意
54			セイヨウタンポポ		重点	
55			オオオナモミ		その他総合	注意
56	セリ	ウコギ	ウチワゼニクサ		重点	注意
合計	18 目	21 科	56 種	7 種	47 種	42 種

(11) 動物

① 動物の生息状況

動物の生息状況は、事業実施想定地域及びその周囲を対象に文献・その他の資料により整理した。

事業実施想定地域及びその周囲における確認種を抽出した動物に係る収集文献は、表 2.4.74、調査範囲は図 2.4.30 のとおりである。調査範囲は、事業実施想定地域及びその周囲が含まれる 2 次メッシュ（1/25,000 地形図の図郭割の安積、長谷、山崎、寺前、安志、前之庄、北条、龍野、姫路北部、笠原、網干、姫路南部、加古川）又は姫路市とし、文献ごとに設定した。

表 2.4.74 動物に係る収集文献

No.	文献その他の資料	調査範囲	調査対象項目								
			哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	昆虫類	クモ類	陸産貝類	淡水魚類	底生動物
①	「自然環境保全基礎調査（第2回、第3回、第4回、第5回、第6回）-自然環境調査Web-GIS 動物」（環境省生物多様性センターHP、閲覧：令和8年3月）	事業実施想定地域周辺で姫路市にかかる2次メッシュ（図2.4.30に示すメッシュ）に記録があるもの。	○	○	○	○	○		○	○	○
②	「兵庫県版レッドリスト2025（鳥類）」（兵庫県、令和7年） 「兵庫県版レッドリスト2014（貝類・その他無脊椎動物）」（兵庫県、平成25年） 「兵庫県版レッドリスト2017（哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類）」（兵庫県、平成26年～平成28年） 「兵庫県版レッドリスト2022（昆虫類）」（兵庫県、令和4年） ※兵庫県HP更新履歴閲覧：令和8年3月	姫路市に記録があるもの。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③	「兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト（ブラックリスト）（2010）（2024改訂版）」（兵庫県HP、閲覧：令和8年3月）	播磨西部に記録があるもの。	○	○		○	○	○	○	○	○
④	「兵庫県における鳥類の分布と変遷」（兵庫県立人と自然の博物館、平成18年）	姫路市に記録があるもの。		○							
⑤	「兵庫県の淡水魚」（兵庫県立人と自然の博物館、平成20年）	姫路市に位置する夢前川で確認記録があるもの。								○	
⑥	「兵庫県の野生動物の生息と被害の動向（2006-2016年度）」（栗山武夫ほか、平成30年）兵庫ワイルドライフモノグラフ第10号：9-31, 兵庫県森林動物研究センター	姫路市にかかる5倍地域メッシュに記録があるもの。	○	○							
⑦	「鳥獣害アンケートに基づく兵庫県における中型哺乳類の分布・出没状況とそ の変化」（高木俊、令和2年）、兵庫ワイル ドライフモノグラフ第12号：67-78, 兵庫 県森林動物研究センター	姫路市にかかる5倍地域メッシュに記録があるもの。	○								
⑧	「兵庫県の外来哺乳類（アライグマ・ハクビシン・ヌートリア）の生息と農作物被害の動向（2004-2018年度）」（栗山武夫ほか、令和2年）兵庫ワイルドライフモノグラフ第12号：1-23, 兵庫県森林動物研究センター	姫路市にかかる5倍地域メッシュに記録があるもの。	○								
⑨	「きべりはむし第32巻第2号-第48巻第1号」（兵庫昆虫同好会・NPO法人こどもとむしの会、2010-2025）	姫路市に記録があるもの。					○	○			
⑩	「兵庫県の蝶」（広畑政巳・近藤伸一、平成19年）	姫路市に記録があるもの。					○				

1) 動物相の概況

事業実施想定地域及びその周辺で確認された文献その他の資料による動物相の概況は、表 2.4.75 のとおりである。

表 2.4.75 文献その他の資料による動物相の概況

分類群	確認種数	主な確認種
哺乳類	8 目 20 科 36 種	ジネズミ、ヒミズ、ミズラモグラ、コウベモグラ、コキクガシラコウモリ（ニホンコキクガシラコウモリ）、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、アブラコウモリ、ヒナコウモリ、ノウサギ、クリハラリス、ニホンリス、ムササビ、カヤネズミ、クマネズミ、ドブネズミ、スミスネズミ、ハタネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、ヌートリア、ツキノワグマ、アライグマ、ノイヌ（オオカミ）、テン（ホンドテン）、シベリアイタチ、アナグマ、ニホンイタチ、ハクビシン、ノネコ、タヌキ、キツネ、ゴマフアザラシ、ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル
鳥類	18 目 44 科 156 種	ウズラ、ヤマドリ、ミゾゴイ、ゴイサギ、ササゴイ、チュウサギ、コサギ、クイナ、ヒクイナ、ジュウイチ、カッコウ、ヨタカ、イカルチドリ、シロチドリ、ヤマシギ、タシギ、ミサゴ、ハチクマ、オジロワシ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、クマタカ、アオバズク、カワセミ、ヤマセミ、ブッポウソウ、アリスイ、アカゲラ、アオゲラ、ハヤブサ、サンショウクイ、コガラ、メボソムシクイ、オオヨシキリ、ゴジュウカラ、キバシリ、コムクドリ、カワガラス、ルリビタキ、ジョウビタキ、キビタキ、オオルリ、ビンズイ、カシラダカ、ノジコ、アオジ、クロジ等
爬虫類	2 目 7 科 13 種	ニホンイシガメ、クサガメ、ミシシッピアカミミガメ、チュウゴクスッポン、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、タワヤモリ、ニホンカナヘビ、ジムグリ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
両生類	2 目 8 科 16 種	ヒダサンショウウオ、セトウチサンショウウオ、オオサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、ニホンアマガエル、タゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ウシガエル、ツチガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル
昆虫類	13 目 134 科 724 種	ヒメタイコウチ、ゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、ガムシ、コサナエ、アオサナエ、ミヤマカラスアゲハ、ジャコウアゲハ、コムラサキ、ヒオドシチョウ、アサギマダラ、オオカマキリ、エンマコオロギ、ミツカドコオロギ、ハタケノウマオイ、キリギリス、トノサマバッタ、クルマバッタ、ヒシバッタ、オンブバッタ、クマゼミ、アブラゼミ、マイマイカブリ、セアカオサムシ、ゴミムシ、ノコギリクワガタ、コクワガタ、ヒラタクワガタ、カナブン、シロテンハナムグリ、ハナムグリ、コガネムシ、ナナホシテントウ、ベニカミキリ、ゴマダラカミキリ、アメンボ、キイロスズメバチ、オオスズメバチ、セイヨウミツバチ、ニホンミツバチ、オオムラサキ、ダイミョウセセリ等
魚類	14 目 38 科 111 種	ニホンウナギ、チチブ、ゴクラクハゼ、シマヨシノボリ、トウヨシノボリ、カワヨシノボリ、ウキゴリ、スミウキゴリ、ドンコ、オオクチバス、ブルーギル、アユ、サツキマス（アマゴ）、イワナ、コイ、ギンブナ、カネヒラ、タイリクバラタナゴ、タモロコ、ホンモロコ、スゴモロコ、オイカワ、モツゴ、カマツカ、ドジョウ、シマドジョウ、スジシマドジョウ、ホトケドジョウ、メダカ（ミナミメダカ）等
陸産貝類	4 目 22 科 105 種	ゴマオカタニシ、ヤマタニシ、アツブタガイ、タニシ、ゴマガイ、ナガオカモノアラガイ、オオギセル、シリオレトノサマガセル、ナミギセル、エルベリギセル、シリオレギセル、オカチョウジガイ、イボイボナメクジ、ナメクジ、ヤマナメクジ、チャコウラナメクジ、キビガイ、キヌツヤベッコウ、シメクチマイマイ、ウスカワマイマイ、オオケマイマイ、オナジマイマイ、セトウチマイマイ等
底生動物	37 目 72 科 141 種	カワニナ、チリメンカワニナ、イシマキガイ、タニシ、マルタニシ、モノアラガイ、サカマキガイ、イシガイ、ササノハガイ、ドブガイ、ヌマガイ、シジミ、マシジミ、ヤマトシジミ、タイワンシジミ、ヌマエビ、ミナミヌマエビ、スジエビ、テナガエビ、アメリカザリガニ、サワガニ、モクズガニ等

2) 動物の重要な種及び注目すべき生息地

(a) 動物の重要な種

事業実施想定地域及びその周囲の動物の重要な種の選定は、表 2.4.76 の法令・文献等による選定基準に基づいて選定した。

事業実施想定地域及びその周囲で確認された動物の重要な種は、表 2.4.77～表 2.4.84 のとおりである。哺乳類 5 種、鳥類 156 種、爬虫類 7 種、両生類 12 種、昆虫類 146 種、魚類 31 種、陸産貝類 31 種、底生動物 108 種が確認された。

表 2.4.76 動物の重要な種の選定基準

No.	法令・文献等	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号、最終改正:令和 4 年 6 月 17 日) 「兵庫県文化財保護条例」(昭和 39 年条例第 58 号、最終改正:令和 3 年 3 月 23 日条例第 24 号)	特天:特別天然記念物 天:天然記念物 県天:兵庫県天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号、最終改正:令和 4 年 6 月 17 日) 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号、最終改正:令和 7 年 1 月 22 日)に基づく国内希少野生動植物等	国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種 特定 1:特定第一種国内希少野生動植物種 特定 2:特定第二種国内希少野生動植物種 緊急:緊急指定種
③	「環境省レッドリスト 2025」(環境省、令和 7 年)の掲載種 「環境省レッドリスト 2020」(環境省、令和 2 年)の掲載種	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	「兵庫県版レッドリスト 2025 (鳥類)」(兵庫県、令和 7 年) 「兵庫県版レッドリスト 2014 (貝類・その他無脊椎動物)」(兵庫県、平成 25 年) 「兵庫県版レッドリスト 2017 (哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類)」(兵庫県、平成 26 年～平成 28 年) 「兵庫県版レッドリスト 2022 (昆虫類)」(兵庫県、令和 4 年)の掲載種	Ex:絶滅 A:A ランク B:B ランク C:C ランク 注:要注目 地:地域限定貴重種(貝類その他無脊椎動物・哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類のみ区分) 調:要調査

表 2.4.77 重要な種（哺乳類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
1	モグラ	モグラ	ミズラモグラ			NT	調
2	コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ				調
3		ヒナコウモリ	ヒナコウモリ				調
4	ネコ	クマ	ツキノワグマ				注
5	ネズミ	ネズミ	スミスネズミ				調
合計	4 目	5 科	5 種	0 種	0 種	1 種	5 種

注：選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.78(1) 重要な種（鳥類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
1	キジ	キジ	ウズラ			VU	A
2			ヤマドリ				注
3	カモ	カモ	ヒシクイ	天		NT	B
4			コクガン	天		VU	注
5			コハクチョウ				C
6			オオハクチョウ				B
7			ツクシガモ			DD	注
8			オシドリ				B
9			アメリカヒドリ				C
10			シマアジ				C
11			トモエガモ			DD	C
12			ホシハジロ			NT	
13			アカハジロ			CR	注
14			キンクロハジロ			VU	
15			スズガモ			NT	
16			ビロードキンクロ				B
17			クロガモ				C
18			ホオジロガモ				注
19	アビ	アビ	アビ				調
20			オオハム				調
21	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	特天	国内	EN	A
22	カツオドリ	ウ	ヒメウ			EN	B
23	ペリカン	サギ	サンカノゴイ			CR	A
24			ヨシゴイ			DD	A
25			オオヨシゴイ		国内	CR	調
26			ミゾゴイ			NT	A
27			ゴイサギ			VU	
28			ササゴイ			VU	C
29			アマサギ			EN	
30			チュウサギ			NT	C
31			コサギ			VU	
32			クロサギ				B
33			カラシラサギ				注
34	ツル	クイナ	クイナ				B
35			ヒメクイナ			DD	調
36			ヒクイナ			NT	B
37			バン			VU	
38	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ				C
39			カッコウ				注
40	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	A

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.78(2) 重要な種（鳥類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
41	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ			VU	
42			アマツバメ			VU	
43			ヒメアマツバメ				B
44	チドリ	チドリ	ケリ			DD	
45			ダイゼン				C
46			イカルチドリ				B
47			シロチドリ			VU	A
48			オオメダイチドリ				B
49		ミヤコドリ	ミヤコドリ				C
50		セイタカシギ	セイタカシギ			DD	B
51		シギ	ヤマシギ				B
52			オオジシギ			NT	B
53			チュウジシギ				B
54			タシギ				C
55			オグロシギ				B
56			オオソリハシシギ			VU	B
57			ダイシャクシギ				B
58			ホウロクシギ			VU	B
59			ツルシギ			EN	B
60			アカアシシギ			CR	B
61			コアオアシシギ				B
62			アオアシシギ				B
63			タカブシギ			VU	B
64			ソリハシシギ				B
65			イソシギ				C
66			キョウジョシギ			NT	C
67			オバシギ				B
68			コオバシギ				B
69			ミユビシギ				B
70			オジロトウネン				B
71			ヒバリシギ				B
72			ウズラシギ				B
73			サルハマシギ				B
74			ハマシギ			VU	C
75			ヘラシギ		国内	CR	B
76			キリアイ				B
77			エリマキシギ				B
78			アカエリヒレアシシギ				調
79		タマシギ	タマシギ			DD	B
80		ツバメチドリ	ツバメチドリ			VU	B
81		カモメ	ズグロカモメ			VU	B
82			ウミネコ			VU	
83			オオアジサシ			EN	注
84			コアジサシ			EN	A
85			アジサシ				調
86			クロハラアジサシ				注
87			ハジロクロハラアジサシ				調
88	タカ	ミサゴ	ミサゴ				B
89		タカ	ハチクマ			DD	B
90			オジロワシ	天	国内	VU	B

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.78(3) 重要な種（鳥類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
91	タカ	タカ	チュウヒ		国内	EN	A
92			ハイイロチュウヒ				C
93			ツミ				B
94			ハイタカ			NT	C
95			オオタカ			NT	B
96			サシバ			VU	B
97			ノスリ				B
98			ケアシノスリ				B
99			イヌワシ	天	国内	EN	A
100			クマタカ		国内	EN	A
101	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク				B
102			コノハズク				A
103			アオバズク				B
104			トラフズク				B
105			コミミズク				B
106	サイチョウ	ヤツガシラ	ヤツガシラ				注
107	ブッポウソウ	カワセミ	アカシヨウビン				B
108			カワセミ				注
109			ヤマセミ			VU	A
110		ブッポウソウ	ブッポウソウ			EN	A
111	キツツキ	キツツキ	アリスイ				B
112			アカゲラ				注
113			アオゲラ				注
114	ハヤブサ	ハヤブサ	コチョウゲンボウ				C
115			チゴハヤブサ				C
116			ハヤブサ		国内	NT	B
117	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ		国内	DD	注
118		サンショウクイ	サンショウクイ				注
119		モズ	チゴモズ			EN	調
120			アカモズ		国内	CR	C
121		カラス	コクマルガラス				注
122		ツリスガラ	ツリスガラ				B
123		シジュウカラ	コガラ				注
124		ムシクイ	メボソムシクイ				B
125		センニュウ	マキノセンニュウ			VU	調
126			シマセンニュウ				注
127			オオセッカ		国内	EN	
128			エゾセンニュウ				調
129		ヨシキリ	オオヨシキリ				注
130			コヨシキリ			NT	C
131		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ				C
132		キバシリ	キバシリ				A
133		ムクドリ	コムクドリ				注
134		カワガラス	カワガラス				C
135		ヒタキ	マミジロ				B
136			コマドリ				A
137			コルリ				A
138			ルリビタキ				A
139			ジョウビタキ				注
140			ノビタキ				A
141			コサメビタキ				C
142			キビタキ				注

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.78(4) 重要な種（鳥類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
143	スズメ	ヒタキ	オジロビタキ				注
144			オオルリ				注
145		イワヒバリ	カヤクグリ				A
146		スズメ	ニュウナイスズメ				注
147		セキレイ	ビンズイ			NT	
148		アトリ	ベニヒワ				調
149			オオマシコ				注
150			イスカ				注
151			コイカル				C
152		ホオジロ	ホオアカ				A
153			カシラダカ			EN	
154			ノジコ			NT	A
155			アオジ				A
156			クロジ				A
合計	18 目	44 科	156 種	5 種	11 種	64 種	142 種

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」
(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.79 重要な種（爬虫類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ			VU	C
2			ニホンスッポン			DD	調
3	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ				注
4			タワヤモリ			NT	B
5		ナミヘビ	ジムグリ				注
6			シロマダラ				C
7			ヒバカリ				注
合計	2 目	3 科	7 種	0 種	0 種	3 種	7 種

注：選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.80 重要な種（両生類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
1	有尾	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ			NT	B
2			セトウチサンショウウオ		特定2	VU	B
3		オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	特天	国際	VU	B
4		イモリ	アカハライモリ			NT	注
5	無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル				C
6		アカガエル	タゴガエル				C
7			ニホンアカガエル				C
8			ヤマアカガエル				C
9			ツチガエル				C
10		アオガエル	シュレーゲルアオガエル				C
11			モリアオガエル				B
12			カジカガエル				C
合計	2 目	6 科	12 種	1 種	2 種	4 種	12 種

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」
(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.81(1) 重要な種（昆虫類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
1	クモ	トタテグモ	キノボリトタテグモ			NT	A
2			キシノウエトタテグモ			NT	A
3		ヒメグモ	ハラダカツクネグモ				調
4		ヨリメグモ	ヨリメグモ				注
5		アシナガグモ	キンヨウグモ				C
6		コガネグモ	コケオニグモ				C
7			マメイタイセキグモ				調
8			ムツトゲイセキグモ				C
9			ゲホウグモ				調
10		サシアシグモ	シノビグモ				B
11		ヒトエグモ	ヒトエグモ				A
12		ミヤマシボグモ	シボグモモドキ				B
13		カニグモ	カトウツケオグモ				C
14	カゲロウ	トビイロカゲロウ	オオトゲエラカゲロウ				注
15		マダラカゲロウ	コウノマダラカゲロウ				注
16			チノマダラカゲロウ				C
17	トンボ	アオイトトンボ	コバネアオイトトンボ			EN	A
18			オツネイトンボ				調
19		イトトンボ	モートンイトトンボ			NT	B
20			セスジイトトンボ				調
21			ムスジイトトンボ				注
22		モノサシトンボ	グンバイトンボ			NT	B
23		ムカシトンボ	ムカシトンボ				C
24		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ			NT	B
25			アオヤンマ			NT	A
26			ルリボシヤンマ				B
27			マルタンヤンマ				調
28			カトリヤンマ				C
29			サラサヤンマ				B
30		サナエトンボ	ミヤマサナエ				調
31			キイロサナエ			NT	A
32			ヒラサナエ				A
33			アオサナエ				注
34			ホンサナエ				B
35			ヒメサナエ				B
36			タベサナエ			NT	
37			フタスジサナエ			NT	
38			オグマサナエ			NT	
39		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ				B
40		エゾトンボ	ハネビロエゾトンボ			VU	A
41			タカネトンボ				調
42			エゾトンボ				B
43		トンボ	ベッコウトンボ		国内	CR	Ex
44			ヨツボシトンボ				C
45			ハッチョウトンボ				B
46			ナニワトンボ			VU	注
47			ノシメトンボ				調
48			マイコアカネ				B
49			マダラナニワトンボ			EN	A
50			ミヤマアカネ				注

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」

(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.81(2) 重要な種 (昆虫類)

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
51	トンボ	トンボ	オオキトンボ			EN	B
52	カワゲラ	ヒロムネカワゲラ	ミヤマノギカワゲラ				C
53	バッタ	クツワムシ	クツワムシ				注
54		カネタタキ	イソカネタタキ				注
55	ガロアムシ	ガロアムシ	ガロアムシ				注
56	カメムシ	セミ	ハルゼミ				C
57			エゾハルゼミ				注
58		アメンボ	エサキアメンボ			NT	B
59		ミズムシ (昆)	ホッケミズムシ			NT	A
60			ナガミズムシ			NT	A
61		コオイムシ	コオイムシ			NT	
62			タガメ		国内	VU	B
63		タイコウチ	ヒメタイコウチ				A
64			ミズカマキリ				注
65		ナベブタムシ	トゲナベブタムシ			VU	A
66		コバンムシ	コバンムシ		国内	EN	A
67	アミメカゲロウ	ツノトンボ	キバネツノトンボ				B
68	トビケラ	カタツムリトビケラ	カタツムリトビケラ				C
69	チョウ	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ			EN	A
70			ダイミョウセセリ				注
71			ホソバセセリ				C
72			ギンイチモンジセセリ			NT	B
73			ヒメキマダラセセリ				注
74			コキマダラセセリ				C
75			ミヤマチャバネセセリ				C
76			スジグロチャバネセセリ 北海道・本州・九州亜種			NT	A
77			ヘリグロチャバネセセリ				B
78		シジミチョウ	ウラゴマダラシジミ				注
79			スギタニルリシジミ 本州亜種				注
80			ヒロオビミドリシジミ				C
81			ウラジロミドリシジミ				注
82			ウラナミアカシジミ				注
83			ミドリシジミ				注
84			クロシジミ			EN	A
85			キマダラルリツバメ			NT	B
86			ゴイシシジミ				B
87			クロツバメシジミ 中国地方・四国・九州内陸亜種			NT	B
88			ウラキンシジミ				注
89			シルビアシジミ			EN	C
90		タテハチョウ	サカハチチョウ				注
91			ウラギンスジヒョウモン			VU	B
92			ヒメヒカゲ 本州西部亜種			EN	A
93			メスグロヒョウモン				注
94			オオウラギンヒョウモン			CR	Ex
95			キマダラモドキ			NT	B
96			ウスイロヒョウモンモドキ		国内	CR	A
97			ヒョウモンモドキ		国内	CR	Ex

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.81(3) 重要な種（昆虫類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
98	チョウ	タテハチョウ	クモガタヒョウモン				C
99			オオムラサキ			NT	C
100			ウラナミジャノメ本土亜種			VU	B
101			ヒメキマダラヒカゲ				注
102		アゲハチョウ	ギフチョウ			VU	B
103			オナガアゲハ				注
104			ウスバシロチョウ				注
105		シロチョウ	ツマグロキチョウ			EN	注
106			スジボソヤマキチョウ				B
107			ヤマトスジグロシロチョウ本 州中・南部亜種				注
108		ヤママユガ	オナガミズアオ本土亜種			NT	
109		ヤガ	コシロシタバ			NT	
110			クロシオキシタバ				注
111			カバフキシタバ				C
112	コウチュウ	オサムシ	セアカオサムシ			NT	調
113			クロヒメヒョウタンゴミムシ				調
114			キベリマルクビゴミムシ			EN	B
115			ウミホソチビゴミムシ			NT	C
116		ハンミョウ	ヨドシロヘリハンミョウ			VU	A
117			アイヌハンミョウ			NT	C
118		ゲンゴロウ	コマルケシゲンゴロウ			NT	
119			マルケシゲンゴロウ			NT	
120			ケシゲンゴロウ			NT	C
121			コウベツブゲンゴロウ			NT	調
122			シャープツブゲンゴロウ			NT	
123			マルチビゲンゴロウ			NT	
124			メクラゲンゴロウ			DD	調
125		ミズスマシ	オオミズスマシ			NT	調
126			ヒメミズスマシ			EN	B
127			ミズスマシ			VU	B
128		コガシラミズムシ	クビボソコガシラミズムシ			DD	注
129		ムカシゲンゴロウ	ムカシゲンゴロウ			DD	調
130		ホソガムシ	チュウブホソガムシ			VU	
131		ガムシ	スジヒラタガムシ			NT	
132		クワガタムシ	マメクワガタ				C
133		コガネムシ	ヤマトアオドウガネ				C
134			シロスジコガネ				B
135		ヒメドロムシ	ヨコミゾドロムシ			VU	C
136		タマムシ	アオタマムシ				注
137		コメツキムシ	ツシマヒメサビキコリ				調
138			スナサビキコリ				調
139		ホタル	ヒメボタル				注
140		ツチハンミョウ	マメハンミョウ				C
141		カミキリムシ	アサカミキリ			VU	A
142		ハムシ	キンイロネクイハムシ			NT	C
143		ゾウムシ	ハマベゾウムシ				調

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」

(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.81(4) 重要な種（昆虫類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
144	ハチ	コマユバチ	ウマノオバチ			NT	C
145		ミツバチ	ウスルリモンハナバチ				C
146		ハキリバチ	トモンハナバチ				調
合計	12 目	61 科	146 種	0 種	5 種	65 種	134 種

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」
(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.82 重要な種（魚類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
1	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ			EN	C
2	コイ	コイ	ヤリタナゴ			NT	B
3			アブラボテ			NT	C
4			カネヒラ				B
5			イチモンジタナゴ			CR	調
6			シロヒレタビラ			EN	A
7			ニッポンバラタナゴ			CR	A
8			カワバタモロコ		特定 2	EN	A
9			アブラハヤ				C
10			カワヒガイ			NT	C
11			ゼゼラ			VU	調
12		ドジョウ	ドジョウ			NT	注
13		フクドジョウ	ナガレホトケドジョウ			EN	調
14	ナマズ	アカザ	アカザ			VU	地
15	サケ	シラウオ	シラウオ				A
16		サケ	サツキマス (アマゴ)			NT	調
17	ダツ	メダカ	ミナミメダカ			VU	注
18		サヨリ	クルマサヨリ			NT	A
19	スズキ	ケツギョ	オヤニラミ			EN	C
20		カジカ	カジカ			NT	C
21		イソギンポ	トサカギンポ				調
22		ハゼ	シロウオ			VU	A
23			トビハゼ			NT	A
24			マサゴハゼ			VU	A
25			シモフリシマハゼ				調
26			ヒナハゼ				調
27			オオヨシノボリ				C
28			ウキゴリ				C
29			チクゼンハゼ			VU	A
30			クボハゼ			EN	A
31			エドハゼ			VU	A
合計	6 目	13 科	31 種	0 種	1 種	23 種	31 種

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」
(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.83 重要な種（陸産貝類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
1	アマオブネガイ	ゴマオカタニシ	ゴマオカタニシ			NT	
2	新生腹足	ヤマタニシ	サドヤマトガイ			NT	注
3		ムシオイガイ	ハリマムシオイガイ				A
4			ミヤマムシオイガイ				A
5	マイマイ	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ			NT	
6		キバサナギガイ	ナガナタネガイ			LP	B
7		マキゾメガイ	マルナタネガイ				B
8			ヒラドマルナタネ				B
9		キセルガイモドキ	フトキセルガイモドキ				C
10			キセルガイモドキ				C
11		キセルガイ	オオギセル			NT	
12			コンボウギセル				A
13			シリオレットノサマギセル			NT	
14			エルバリギセル			DD	
15			ホソヒメギセル			VU	
16		ナメクジ	イボイボナメクジ			NT	A
17		ベッコウマイマイ	ヒメハリマキビ			NT	
18			ウメムランタラガイ			NT	
19			オオウエキビ			DD	
20			ヒメカサキビ			NT	
21			ヒラベッコウガイ			DD	
22			ハクサンベッコウ			DD	
23			キヌツヤベッコウ			DD	
24			レンズガイ			VU	A
25		ナンバンマイマイ	ケハダビロウドマイマイ			NT	B
26			トウカイビロウドマイマイ			DD	B
27			ヒメビロウドマイマイ			VU	
28			トサビロウドマイマイ			VU	
29			ヤマタカマイマイ			NT	
30		オナジマイマイ	コウロマイマイ			NT	
31			ヒメコウロマイマイ				C
合計	3 目	12 科	31 種	0 種	0 種	23 種	14 種

注：1. 種名及び配列は、原則として「日本産野生生物目録-本邦産野生動植物の種の現状-(無脊椎動物編Ⅲ)」
（環境庁、平成 10 年 12 月）に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.84(1) 重要な種（底生動物）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
1	ウグイスガイ	ハボウキ	リシケタイラギ			NT	C
2	イシガイ	イシガイ	フネドブガイ				A
3			ニセマツカサガイ			VU	A
4			ササノハガイ			VU	A
5			イシガイ				C
6			カタハガイ			VU	A
7			マツカサガイ広域分布種			NT	B
8	ネリガイ	オキナガイ	オキナガイ				B
9	マテガイ	マテガイ	マテガイ				注
10	ウロコガイ	ウロコガイ	ニッポンマメアゲマキ			NT	A
11		ブンブクヤドリガイ	スジホシムシモドキヤドリガイ				A
12	ドブシジミ	ドブシジミ	ドブシジミ				C
13		シオサザナミ	ムラサキガイ			VU	A
14		キヌタアゲマキ	キヌタアゲマキ				B
15	マルスダレガイ	バカガイ	シオフキガイ				A
16		チドリマスオ	クチバガイ			NT	
17		フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ			NT	
18		マルスダレガイ	ハマグリ			VU	A
19		シジミ	ヤマトシジミ			NT	C
20			マシジミ			VU	注
21	オオノガイ	オオノガイ	オオノガイ			NT	B
22			クシケマスオ			NT	B
23	ヨメガカサ	コガモガイ	ツボミ			NT	C
24	ニシキウズ	ニシキウズ	イボキサゴ			NT	C
25	アマオブネ	アマオブネ	ヒロクチカノコ			NT	B
26		ユキスズメ	ミヤコドリガイ			NT	A
27			ヒナユキスズメ			NT	A
28	タニシ	タニシ	マルタニシ			VU	C
29			オオタニシ			NT	
30	オニノツノガイ	ウミニナ	ウミニナ			NT	
31			イボウミニナ			VU	A
32		キバウミニナ	フトヘナタリ			NT	
33			ヘナタリ			NT	A
34			カワアイ			VU	A
35		カワニナ	クロダカワニナ			NT	C
36	エゾタマキビ	クビキレガイ	ヤマトクビキレガイ				A
37		カワザンショウ	クリイロカワザンショウ			NT	C
38			サツマクリイロカワザンショウ				C
39			ツブカワザンショウ			NT	B
40			ヒラドカワザンショウ				B
41			ムシヤドリカワザンショウ			NT	A
42			ヒナタムシヤドリカワザンショウ			NT	B
43			ヨシダカワザンショウ			NT	B
44		エゾマメタニシ	イナバマメタニシ			VU	B
45		ワカウラツボ	カワグチツボ			NT	C
46			ワカウラツボ			VU	A
47		ミズゴマツボ	エドガワミズゴマツボ			NT	C
48		イソコハクガイ	シラギクガイ			NT	A

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」
(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.84(2) 重要な種（底生動物）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
49	新腹足	オリイレヨフバイ	ムシロガイ			NT	B
50	頭楯	クダタマガイ	コヤスツラガイ			NT	B
51	モノアラガイ	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ			DD	
52			モノアラガイ			NT	
53		ヒラマキガイ	カワネジガイ			CR	A
54			カワコザラガイ			CR	
55			ハブタエヒラマキガイ			DD	
56			ヒメヒラマキミズマイマイ			EN	
57			ミズコハクガイ			VU	A
58			ヒラマキミズマイマイ			DD	
59			クルマヒラマキガイ			VU	B
60			ヒラマキガイモドキ			NT	
61	オカミミガイ	オカミミガイ	ウスコミミガイ			NT	A
62			ナギサノシタタリ				B
63	サシバゴカイ	チロリ	マキントシチロリ				C
64		ゴカイ	コケゴカイ				C
65			カワゴカイ属				C
66			スナイソゴカイ				調
67	イソメ	ナナテイソメ	スゴカイイソメ				C
68		ギボシイソメ	コアシギボシイソメ				C
69	スピオ	ツバサゴカイ	ムギワラムシ				A
70			スナタバムシ				B
71	イトゴカイ	タマシキゴカイ	タマシキゴカイ				C
72	フクロホシムシ	スジホシムシ	スジホシムシモドキ				B
73	エビ	クルマエビ	クルマエビ				C
74		ヌマエビ	ミズレヌマエビ				B
75		テナガエビ	ミナミテナガエビ				C
76			シラタエビ				B
77		テッポウエビ	テッポウエビ				C
78		エビジャコ	エビジャコ属				B
79		ハサミシャコエビ	ハサミシャコエビ				C
80		スナモグリ	ニホンスナモグリ				C
81		アナジャコ	アナジャコ				B
82			ヨコヤアナジャコ				C
83		コブシガニ	マメコブシガニ				B
84		ベンケイガニ	アカテガニ				B
85			クシテガニ				A
86			フタバカクガニ				B
87			ユビアカベンケイガニ				C
88			クロベンケイガニ				C
89		モクズガニ	ハマガニ				B
90			ヒメアシハラガニ				B
91			アシハラガニ				C
92			スネナガイソガニ				C
93			ヒメケフサイソガニ				B
94			ウモレマメガニ				A
95			タイワンヒライソモドキ				B
96			トリウミアカイソモドキ				B

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」
(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

表 2.4.84(3) 重要な種（底生動物）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			
				①	②	③	④
97	エビ	ムツハアリアケガニ	アリアケモドキ				A
98		コメツキガニ	チゴガニ				C
99			コメツキガニ				C
100		オサガニ	ヒメヤマトオサガニ				B
101			ヤマトオサガニ				C
102		スナガニ	ハクセンシオマネキ			VU	C
103			スナガニ				B
104	舌殻	シャミセンガイ	シャミセンガイ属				A
105	ハネコケムシ	ヒメテンコケムシ	カンテンコケムシ				B
106	イソギンチャク	ウメボシイソギンチャク	ニンジンイソギンチャク				A
107	タコノマクラ	ヨウミヤクカシパン	ハスノハカシパン				B
108	ナメクジウオ	ナメクジウオ	ヒガシナメクジウオ				B
合計	29 目	61 科	108 種	0 種	0 種	51 種	96 種

注：1. 種名及び配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」
(国土交通省河川環境データベース HP、令和7年10月)に準拠した。

注：2. 選定基準の番号は表 2.4.76 に対応する。

(b) 注目すべき生息地

事業実施想定地域及びその周囲の動物の注目すべき生息地は、表 2.4.85 の法令・文献等による選定基準に基づいて選定した。

事業実施想定地域及びその周囲における動物の注目すべき生息地は、表 2.4.86 及び図 2.4.35 のとおりである。

事業実施想定地域は、大部分が西播丘陵県立自然公園に含まれる。

表 2.4.85 動物の注目すべき生息地の選定基準

No.	法令・文献等	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号、最終改正:令和 4 年 6 月 17 日)、「兵庫県文化財保護条例」(昭和 39 年兵庫県条例第 58 号、最終改正:令和 3 年 3 月 23 日条例第 24 号)、「姫路市文化財保護条例」(昭和 52 年姫路市条例第 11 号)	特別天然記念物 天然記念物 兵庫県天然記念物 姫路市天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号、最終改正:令和 4 年 6 月 17 日)	生息地等保護区
③	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約(ラムサール条約)」(昭和 55 年条約第 28 号)	ラムサール条約登録湿地
④	「自然公園法」(昭和 32 年法律第 161 号) 「兵庫県立自然公園条例」(昭和 38 年条例第 80 号)	自然公園
⑤	「環境の保全と創造に関する条例」(平成 7 年 7 月 18 日条例第 28 号)	自然海浜保全地区
⑥	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成 14 年法律第 88 号)	鳥獣保護区
⑦	「生物多様性保全の鍵になる重要な地域(KBA)」(2025 年 9 月閲覧、コンサベーション・インターナショナル・ジャパン)	生物多様性保全の鍵になる重要な地域
⑧	「重要野鳥生息地(IBA)」(2025 年 9 月閲覧、日本野鳥の会 HP)	重要野鳥生息地
⑨	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(2025 年 9 月閲覧、環境省 HP)	重要度の高い湿地
⑩	「生物多様性の観点から重要度の高い海域」(2025 年 9 月閲覧、環境省 HP)	重要度の高い海域

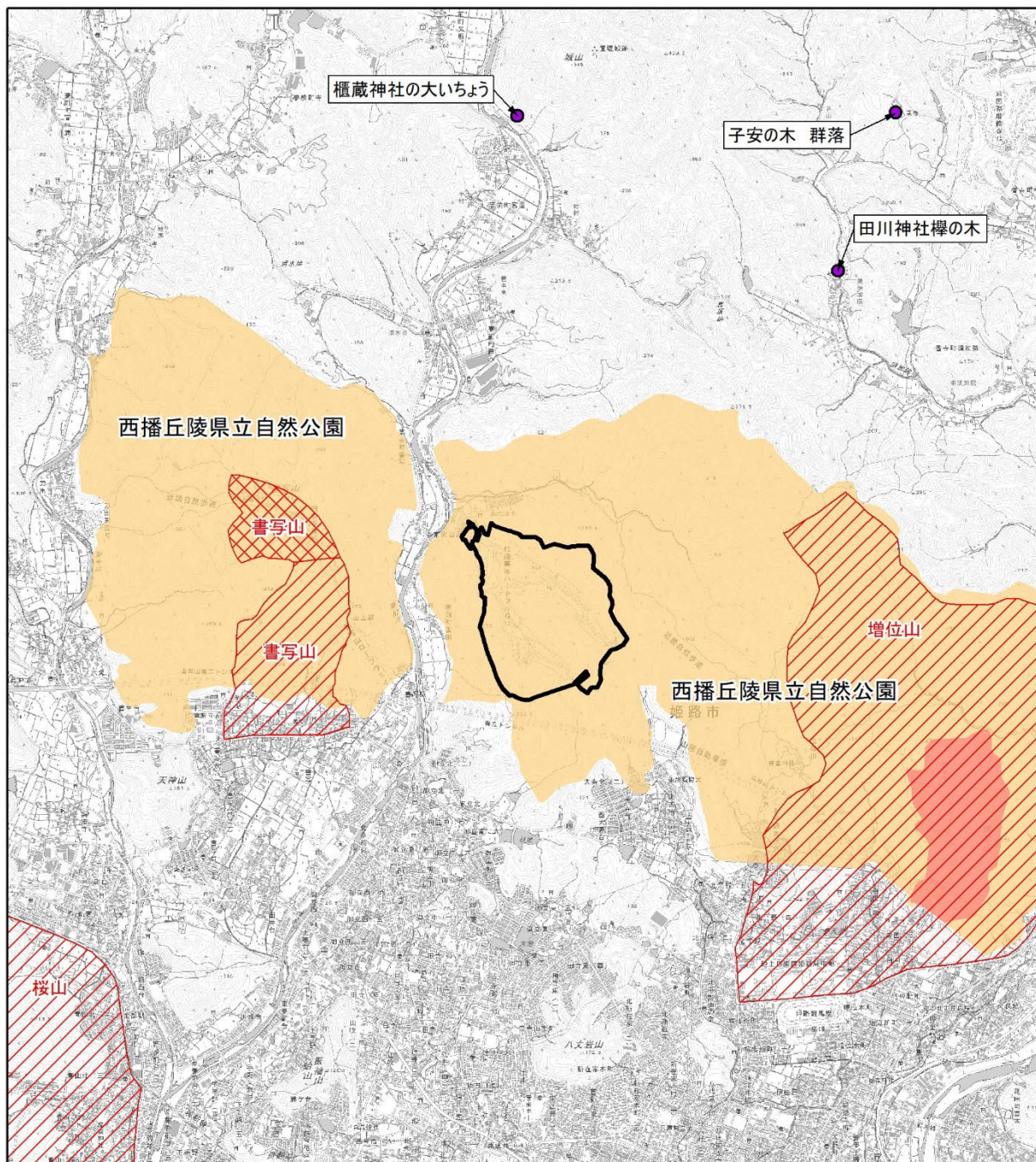
表 2.4.86 動物の注目すべき生息地

名称	法令・文献等	カテゴリー
子安の木 群落	「姫路市文化財保護条例」(昭和 52 年姫路市条例第 11 号)	姫路市天然記念物
櫃蔵神社の大いちょう	「姫路市文化財保護条例」(昭和 52 年姫路市条例第 11 号)	姫路市天然記念物
田川神社櫓の木	「姫路市文化財保護条例」(昭和 52 年姫路市条例第 11 号)	姫路市天然記念物
書写山	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成 14 年法律第 88 号)	県指定鳥獣保護区 特別保護区
書写山	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成 14 年法律第 88 号)	県指定鳥獣保護区
増位山	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成 14 年法律第 88 号)	県指定鳥獣保護区
桜山	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成 14 年法律第 88 号)	県指定鳥獣保護区
西播丘陵県立自然公園	「自然公園法」(昭和 32 年法律第 161 号)	県立自然公園

出典:「姫路市内の指定等文化財一覧」(令和 8 年 3 月閲覧、姫路市 HP)

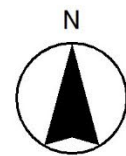
出典:「令和 7 年度兵庫県鳥獣保護区等位置図」(令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP)

「ひょうごの環境:自然公園」(令和 8 年 3 月閲覧、兵庫県 HP)



凡例

- 事業実施想定地域
- 兵庫県自然公園
- 兵庫県自然公園(特別地域)
- 県指定鳥獣保護区
- 県指定鳥獣保護区特別保護区
- 姫路市天然記念物



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.35
動物の注目すべき生息地

(c) 侵略的外来種

事業実施想定地域及びその周囲の侵略的外来種は、表 2.4.72 の法令・文献等による選定基準に基づいて選定した。

事業実施想定地域及びその周囲における動物の侵略的外来種は、表 2.4.87 のとおりである。哺乳類 7 種、鳥類 4 種、爬虫類 3 種、両生類 1 種、昆虫類 2 種、魚類 8 種、陸産貝類 1 種、底生動物 12 種が確認された。

表 2.4.87 侵略的外来生物（動物）

分類	No.	目名	科名	種名	選定基準		
					①	②	③
哺乳類	1	ネズミ	リス	クリハラリス	特定	緊急	注意
	2		ヌートリア	ヌートリア	特定	緊急	警戒
	3	ネコ	アライグマ	アライグマ	特定	緊急	警戒
	4		イヌ	ノイヌ（オオカミ）		重点	警戒
	5		イタチ	シベリアイタチ			警戒
	6		ジャコウネコ	ハクビシン		重点	
	7		ネコ	ノネコ		緊急	警戒
	合計	2 目	7 科	7 種	3 種	6 種	6 種
鳥類	1	カモ	カモ	アヒル			注意
	2			アイガモ			注意
	3	ハト	ハト	カワラバト（ドバト）			警戒
	4	スズメ	ムクドリ	ハッカチョウ			注意
	合計	3 目	3 科	4 種	0 種	0 種	4 種
爬虫類	1	カメ	イシガメ	クサガメ			注意
	2		ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ	特定		警戒
	3		スッポン	チュウゴクスッポン			警戒
	合計	1 目	3 科	3 種	1 種	0 種	3 種
両生類	1	無尾	アカガエル	ウシガエル	特定	重点	警戒
	合計	1 目	1 科	1 種	1 種	1 種	1 種
昆虫類	1	チョウ	イラガ	ヒロヘリアオイラガ			注意
	2	コウチュウ	ゾウムシ	アルファルファタコゾウムシ			注意
	合計	2 目	2 科	2 種	0 種	0 種	2 種
魚類	1	コイ	コイ	コイ（型不明）			注意
	2			タイリクバラタナゴ		重点	注意
	3			ソウギョ		その他 総合	注意
	4	サケ	サケ	サクラマス類			注意
	5	スズキ	スズキ	タイリクスズキ			注意
	6		サンフィッシュ	ブルーギル	特定	緊急	警戒
	7			オオクチバス	特定	緊急	警戒
	8			コクチバス	特定	緊急	注意
	合計	3 目	4 科	8 種	3 種	5 種	8 種
陸産 貝類	1	マイマイ	コウラナメクジ	チャコウラナメクジ			注意
	-			チャコウラナメクジ近似種			注意
	合計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	1 種
底生 動物	1	新生腹足	リンゴガイ	スクミリンゴガイ			警戒
	2		カリバガサガイ	シマメノウフネガイ			注意
	3	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ			警戒
	4			ミドリイガイ			警戒
	5			コウロエンカワヒバリガイ		その他 総合	注意
	6	マルスダレガイ	シジミ	タイワンシジミ			警戒
	7	エビ	ヌマエビ	カワリヌマエビ属			注意
	8		アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	特定		注意
	9		ミドリガニ	チチュウカイミドリガニ			注意
	10	マメボヤ	ユウレイボヤ	カタユウレイボヤ			注意
	11	無柄	フジツボ	アメリカフジツボ		その他 総合	警戒
	12			ヨーロッパフジツボ			注意
	合計	6 目	9 科	12 種	1 種	2 種	12 種

(12) 生態系

① 環境類型区分

重要な自然環境のまとまりの場は、事業実施想定地域及びその周囲における動物、植物等の文献その他の資料の整理結果をもとに、表 2.4.88 の選定基準に基づき選定した。

事業実施想定地域及びその周囲の重要な自然環境のまとまりの場は、表 2.4.89 及び図 2.4.36 のとおりである。

事業実施想定地域内には重要な植物群落、自然度の高い植生は存在しないが、大部分が西播丘陵県立自然公園に含まれ、事業実施想定地域の一部（連系変電所エリア含む）が保安林となっている。

表 2.4.88 重要な自然環境のまとまりの場の選定基準

No.	法令・文献等	カテゴリー
①	「自然公園法」（昭和 32 年法律第 161 号）	国立公園 国定公園 県立自然公園
②	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年法律第 88 号）	鳥獣保護区
③	「森林法」（昭和 26 年法律第 249 号）	保安林
④	「兵庫県版レッドデータブック 2020（植物・植物群落）」（令和 2 年、兵庫県）	重要な植物群落
⑤	「兵庫県版レッドリスト 2011（地形・地質・自然景観・生態系）」（平成 22 年、兵庫県）	生態系
⑥	「第 5 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」（平成 12 年、環境庁）	特定植物群落
⑦	「植生調査（1/2.5 万）（自然環境調査 Web-GIS）」（2025 年 9 月閲覧、生物多様性センターHP）	植生自然度 10 植生自然度 9
⑧	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（2025 年 9 月閲覧、環境省 HP）	重要度の高い湿地
⑨	「生物多様性の観点から重要度の高い海域」（2025 年 9 月閲覧、環境省 HP）	重要度の高い海域

表 2.4.89 重要な自然環境のまとまりの場

名称	選定理由
西播丘陵県立自然公園	県立自然公園(*1)
書写山、増位山、桜山	鳥獣保護区(*2)
保安林	保安林(*3)
河辺植物群落、コジイ群落、池沼植物群落	重要な植物群落(*4)
坪川（夢前川水系）、姫路市の水路、市川河口・下流域、夢前川河口・下流域	生態系(*5)
櫃蔵神社のコジイ林、八徳山・八葉寺のコジイ林	特定植物群落(*6)
ヒルムシロクラス、ヨシクラス、河川敷砂礫地植生、オギ群落、	植生自然度 10(*7)
カナメモチーコジイ群落、アラカシ群落、ヤナギ高木群落（VI）	植生自然度 9(*7)

出典：*1「ひょうごの環境：自然公園」（令和 8 年 3 月閲覧、兵庫県 HP）

*2「令和 7 年度兵庫県鳥獣保護区等位置図」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

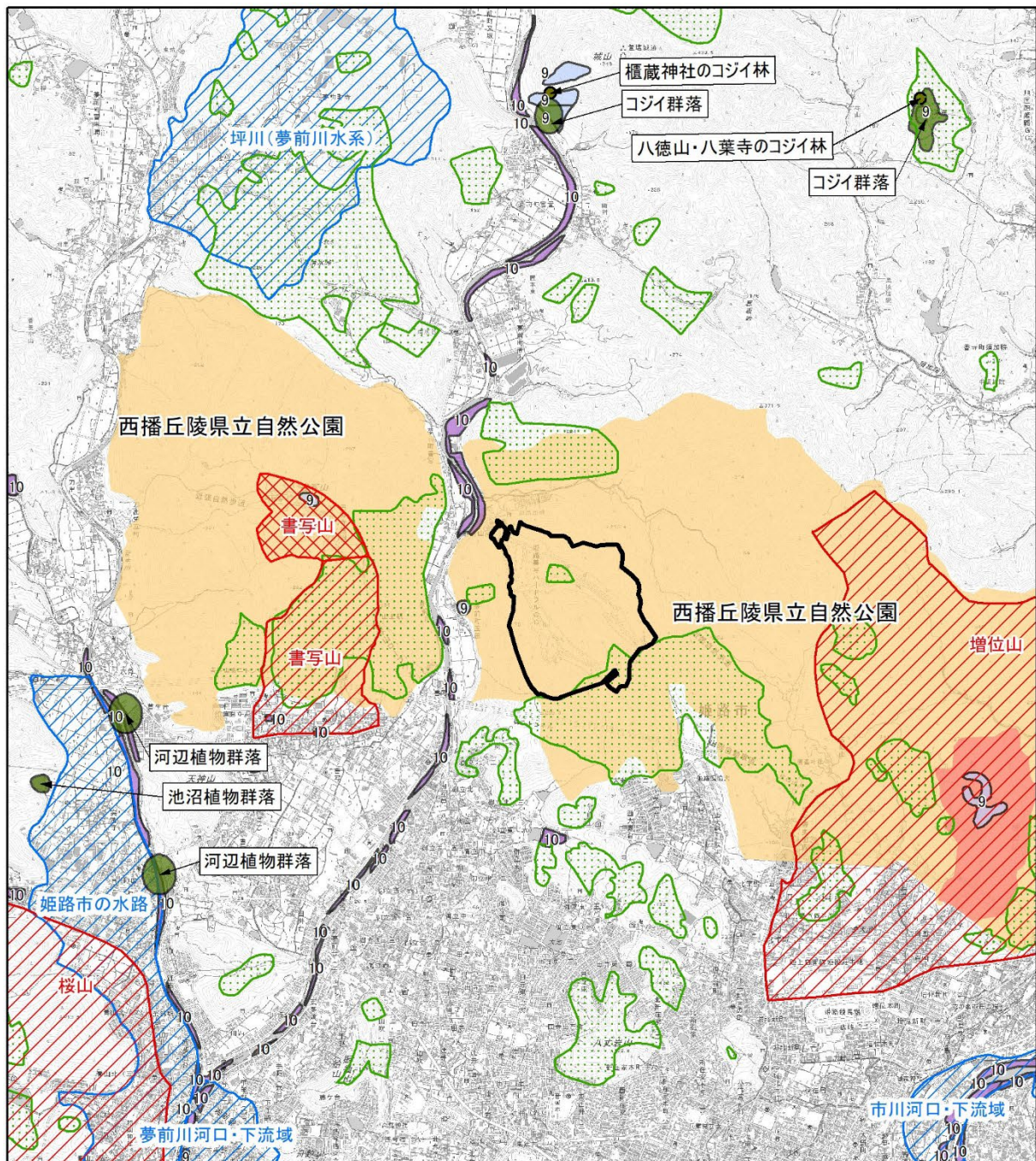
*3「国土数値情報 森林地域データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）

*4「兵庫県版レッドデータブック 2020（植物・植物群落）」（令和 2 年、兵庫県）

*5「兵庫県版レッドリスト 2011（地形・地質・自然景観・生態系）」（平成 22 年、兵庫県）

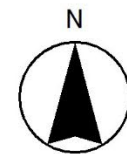
*6「自然環境保全基礎調査（第 6 回）-自然環境調査 Web-GIS 特定植物群落」（令和 8 年 3 月閲覧、環境省生物多様性センターHP）

*7「植生調査（1/2.5 万）（自然環境調査 Web-GIS）」（令和 8 年 3 月閲覧、生物多様性センターHP）



凡例

- | | |
|---|--|
|  事業実施想定地域 |  生態系 |
|  兵庫県自然公園 |  保安林 |
|  兵庫県自然公園(特別地域) |  植生自然度 10 |
|  県指定鳥獣保護区 |  植生自然度 9 |
|  県指定鳥獣保護区特別保護区 | |
|  重要な植物群落(特定植物群落) | |
|  重要な植物群落(兵庫県RDB2020) | |



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.36
重要な自然環境のまとまりの場

(13) 文化財

① 文化財の概況

事業実施想定地域及びその周囲における「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）等に基づく有形文化財、民俗文化財、史跡、名勝、天然記念物の状況は表 2.4.90 及び図 2.4.37 のとおりである。

事業実施想定地域及びその周囲には、国指定文化財 20 件、兵庫県指定文化財 14 件、姫路市指定文化財 33 件が存在している。

事業実施想定地域及びその周囲には「文化財保護法」に基づく伝統的建造物群保存地区は存在しない。

出典：「伝統的建造物群保存地区」（令和 8 年 1 月閲覧、文化庁 HP）

また、「文化財保護法」に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地の状況は表 2.4.91 及び図 2.4.38 のとおりである。事業実施想定地域の周辺に周知の埋蔵文化財が存在している。

表 2.4.90(1) 事業実施想定地域及びその周囲の指定文化財

図中 番号	分類	名称	指定年月日	所在地
①	国指定史跡	円教寺境内	昭和 9 年 3 月 13 日	姫路市書写 2968
②	国指定史跡	赤松氏城跡 置塩城跡	平成 10 年 1 月 30 日	姫路市夢前町宮置、糸田
①	国指定建造物	円教寺大講堂	大正 2 年 4 月 14 日	姫路市書写 2968
①	国指定建造物	円教寺鐘楼	大正 2 年 4 月 14 日	姫路市書写 2968
①	国指定建造物	円教寺金剛堂	大正 2 年 4 月 14 日	姫路市書写 2968
①	国指定建造物	円教寺食堂	昭和 30 年 6 月 22 日	姫路市書写 2968
①	国指定建造物	円教寺常行堂	昭和 30 年 6 月 22 日	姫路市書写 2968
①	国指定建造物	円教寺奥之院	昭和 30 年 6 月 22 日 平成 26 年 1 月 27 日	姫路市書写 2968
①	国指定建造物	寿量院	昭和 31 年 6 月 28 日 平成 26 年 1 月 27 日	姫路市書写 2968
①	国指定建造物	十妙院	平成 26 年 1 月 27 日	姫路市書写 2968
①	国指定建造物	円教寺摩尼殿	令和 6 年 1 月 19 日	姫路市書写 2968
③	国指定建造物	広峯神社宝篋印塔	昭和 28 年 8 月 29 日	姫路市広嶺山 52
③	国指定建造物	広峯神社本殿	昭和 35 年 6 月 9 日	姫路市広嶺山 52
③	国指定建造物	広峯神社拝殿	昭和 35 年 6 月 9 日	姫路市広嶺山 52
④	国指定建造物	随願寺	平成 21 年 6 月 30 日	姫路市白国 5
④	国指定美術工芸品	木造毘沙門天立像	明治 34 年 8 月 2 日	姫路市白国 5
①	国指定美術工芸品	木造釈迦如来及両脇侍像	大正 12 年 3 月 28 日	姫路市書写 2968
①	国指定美術工芸品	木造四天王立像	大正 12 年 3 月 28 日	姫路市書写 2968
①	国指定美術工芸品	木造阿弥陀如来坐像	平成 7 年 6 月 15 日	姫路市書写 2968
①	国指定美術工芸品	木造性空坐像（開山堂安置）	平成 21 年 7 月 10 日	姫路市書写 2968
⑤	県指定史跡	御興塚古墳	昭和 36 年 5 月 12 日	姫路市北平野町 1109
①	県指定建造物	石造笠塔婆	昭和 36 年 5 月 12 日	姫路市書写 2968
①	県指定建造物	円教寺薬師堂	昭和 40 年 3 月 16 日	姫路市書写 2968
①	県指定建造物	円教寺仁王門	昭和 43 年 3 月 29 日	姫路市書写 2968
①	県指定建造物	本多家廟屋	昭和 45 年 3 月 30 日	姫路市書写 2968
①	県指定建造物	円教寺摩尼殿	平成 29 年 3 月 14 日	姫路市書写 2968
⑥	県指定建造物	八葉寺奥院厨子 （一間春日厨子）	昭和 47 年 3 月 24 日	姫路市香寺町相坂 1068
④	県指定美術工芸品	木造薬師如来坐像	昭和 44 年 3 月 25 日	姫路市白国 5

注：図中番号は、図 2.4.37 中の番号に対応する。

出典：「姫路市内の指定等文化財一覧」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

表 2.4.90(2) 事業実施想定地域及びその周囲の指定文化財

図中 番号	分類	名称	指定年月日	所在地
①	県指定美術工芸品	木造金剛薩埵坐像	昭和44年3月25日	姫路市書写 2968
①	県指定美術工芸品	性空上人坐像	平成20年3月21日	姫路市書写 2968
①	県指定美術工芸品	如意輪観音坐像	平成20年3月21日	姫路市書写 2968
①	県指定美術工芸品	銅鐘	昭和39年3月9日	姫路市書写 2968
⑥	県指定美術工芸品	素文磬	昭和48年3月9日	姫路市香寺町相坂 1068
③	県指定美術工芸品	広峯神社文書	昭和40年3月16日	姫路市広嶺山 52
⑦	市指定史跡	宮の前古墳	昭和52年9月16日	姫路市香寺町須加院 357
⑧	市指定史跡	榑原忠次墓所	昭和61年10月6日	姫路市白国 1263
⑧	市指定史跡	榑原政邦墓所	昭和61年10月6日	姫路市白国 1263
⑨	市指定史跡	坂本城跡土塁	平成14年8月28日	姫路市書写 2465-2 他
⑩	市指定史跡	辻井庵寺跡	令和4年2月18日	姫路市辻井 1丁目 784 他
⑥	市指定天然記念物	子安の木 群落	昭和52年9月16日	姫路市香寺町相坂 1068
⑪	市指定天然記念物	田川神社櫻の木	昭和61年4月17日	姫路市香寺町須加院 1440-1
⑫	市指定天然記念物	檀蔵神社の大いちよう	平成7年7月19日	姫路市夢前町宮置 981
③	市指定建造物	廣峯神社表門	昭和42年2月23日	姫路市広嶺山 52
③	市指定建造物	廣峯神社摂社・末社	昭和58年2月3日	姫路市広嶺山 52
⑬	市指定建造物	六角坂石造笠塔婆	昭和52年3月4日	姫路市書写 3068
⑥	市指定建造物	八葉寺奥院	昭和52年9月16日	姫路市香寺町相坂 1068
⑥	市指定建造物	八葉寺宝篋印塔	昭和52年9月16日	姫路市香寺町相坂 1068
①	市指定建造物	圓教寺愛宕社本殿	平成25年1月16日	姫路市書写 2968
⑭	市指定建造物	白國神社八幡社	平成25年1月16日	姫路市白国 5-15-1
①	市指定美術工芸品	木造金剛力士像	平成元年2月28日	姫路市書写 2968
⑮	市指定美術工芸品	如意輪観音菩薩半跏像	平成8年12月2日	姫路市書写 1463-3
⑮	市指定美術工芸品	薬師如来坐像	平成8年12月2日	姫路市書写 1463-3
⑮	市指定美術工芸品	聖徳太子立像	平成8年12月2日	姫路市書写 1463-3
④	市指定美術工芸品	行基菩薩坐像	平成13年8月23日	姫路市白国 5
①	市指定美術工芸品	木造護法童子立像	平成30年4月20日	姫路市書写 2968
①	市指定美術工芸品	木造毘沙門天立像	平成30年4月20日	姫路市書写 2968
⑯	市指定美術工芸品	勝瑞寺梵鐘	昭和52年3月4日	姫路市御立中 3-7-20
⑥	市指定美術工芸品	沐浴の湯釜	昭和52年9月16日	姫路市香寺町相坂 1068
⑰	市指定美術工芸品	キリシタン灯籠	昭和52年9月16日	姫路市香寺町須加院 420
⑱	市指定美術工芸品	青山石造道標（安政二年）	昭和52年3月4日	姫路市青山 721-2 地先
⑲	市指定美術工芸品	固寧倉（野里）	平成7年9月25日	姫路市野里 708
⑳	市指定美術工芸品	固寧倉（刀出）	平成7年9月25日	姫路市刀出 410-1
㉑	市指定美術工芸品	河合寸翁関係資料	令和2年2月14日	姫路市書写 1223
㉒	市指定美術工芸品	羽柴秀吉制札	令和2年2月14日	姫路市広嶺山 52
③	市指定無形民俗	広峯神社御田植祭附穂揃式・走馬式	昭和52年3月4日	姫路市広嶺山 52
㉓	市指定無形民俗	書写山圓教寺鬼追い会式	平成14年8月28日	姫路市書写 1419
㉔	市指定無形民俗	修正会鬼会式（鬼追い）	平成15年1月24日	姫路市香寺町相坂 1068

注：図中番号は、図 2.4.37 中の番号に対応する。

出典：「姫路市内の指定等文化財一覧」（令和8年1月閲覧、姫路市 HP）

表 2.4.91(1) 周知の埋蔵文化財包蔵地

遺跡番号:遺跡の名称 (遺跡の所在地)	遺跡の時代							遺跡の種類												備考		
	旧	縄	弥	古	奈	平	中	近	他	散	集	貝	都	官	城	寺	古	穴	墓		産	他
020059:八王子遺跡（姫路市打越）							●								●							
020068:六角遺跡（姫路市打越）		●	●	●	●						●											
020069:刀出古墳（姫路市刀出）				●													●					
020070:書写城山遺跡（姫路市書写）							●								●							
020103:大岡 1 号墳（姫路市青山）				●													●					葺石
020104:大岡 2 号墳（姫路市青山）				●													●					
020114:大岡窯跡（姫路市青山）				●															●			消滅か
020115:稲岡山古墳（姫路市青山）				●													●					箱式石棺
020116:高貴山 1 号墳（姫路市青山）				●													●					造出しあり
020117:高貴山 2 号墳（姫路市青山）				●													●					横穴式石室
020118:高貴山遺跡（姫路市飾西）			●								●											
020119:飾西遺跡（姫路市飾西）			●							●												
020121:実法寺遺跡、実法寺廃寺（姫路市実法寺）			●	●	●	●				●						●						
020129:引照廃寺（姫路市実法寺）							●									●						
020130:天神山 10 号墳（姫路市実法寺）				●													●					竪穴式石室、全長 30m
020131:天神山窯跡（姫路市実法寺）				●															●			消滅か
020132:町田池遺跡（姫路市町田）		●	●							●												
020133:書写天神山城跡（姫路市書写）							●								●							
020134:坂本城跡（姫路市書写）							●								●							城跡の一部が市指定史跡（平成 14 年指定）
020135:西坂古墳（姫路市書写）				●													●					
020137:蓑尾山 1 号墳（姫路市書写台 3 丁目）				●													●					横穴式石室
020138:蓑尾山 2 号墳（姫路市書写台 3 丁目）				●													●					横穴式石室
020139:蓑尾山 3 号墳（姫路市書写台 3 丁目）				●													●					横穴式石室
020140:蓑尾山 4 号墳（姫路市書写台 3 丁目）				●													●					横穴式石室
020141:蓑尾山 5 号墳（姫路市町田）				●													●					竪穴式石室
020142:蓑尾山弥生墳墓群（姫路市書写）			●																●			全壊か
020143:蓑尾山中世墳墓群（姫路市町田～書写）						●	●												●			布目瓦、人骨
020144:蓑尾山遺跡（姫路市町田）									●	●												
020145:東山 1 号墳（姫路市飾西～書写）				●													●					箱式石棺
020146:東山 2 号墳（姫路市飾西～書写）				●													●					横穴式石室
020147:東山 3 号墳（姫路市飾西～書写）				●													●					横穴式石室
020148:飾西東山遺跡（姫路市飾西～書写）			●								●											石鏃、石斧、弥生土器（中期後半）

注:1. 遺跡番号は、図 2.4.38 中の番号に対応する。

注:2. 遺跡の時代の略号は、下記のとおりである。

旧:旧石器時代 縄:縄文時代 弥:弥生時代 古:古墳時代 奈:奈良時代 平:平安時代

中:中世 近:近世 他:その他の時代

注:3. 遺跡の種類の略号は、下記のとおりである。

散:散布地 集:集落 貝:貝塚 都:都城 官:官衙 城:城館 寺:寺社 古:古墳 穴:横穴

墓:その他の墓 産:生産遺跡 他:その他の遺跡

出典:「兵庫県遺跡地図(令和 2 年度時点)」(令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県立考古博物館 HP)

表 2.4.91(2) 周知の埋蔵文化財包蔵地

遺跡番号:遺跡の名称 (遺跡の所在地)	遺跡の時代									遺跡の種類											備考
	旧	縄	弥	古	奈	平	中	近	他	散	集	貝	都	官	城	寺	古	穴	墓	産	
020149:川西弥生墳墓群（姫路市飾西～上手野）			●															●			壺棺群
020150:秩父山古墳（姫路市下手野 2 丁目）				●													●				箱式石棺
020151:秩父山遺跡（姫路市下手野 2 丁目）			●							●											弥生土器
020152:船越山 1 号墳（姫路市下手野 2 丁目）				●													●				
020153:船越山 2 号墳（姫路市下手野 2 丁目）				●													●				
020154:船越山 3 号墳（姫路市下手野 2 丁目）				●													●				
020155:船越山 4 号墳（姫路市下手野 2 丁目）				●													●				
020156:蛤山 1 号墳(姫路市山吹 2 丁目)				●													●				
020157:蛤山 2 号墳(姫路市山吹 2 丁目)				●													●				
020158:蛤山 3 号墳(姫路市山吹 2 丁目)				●													●				
020159:蛤山 4 号墳（姫路市藤ヶ台）				●													●				
020160:山吹遺跡(姫路市山吹 2 丁目)		●	●	●	●	●	●				●										
020161:今宿遺跡(姫路市西今宿 5 丁目)			●		●		●			●											瓦
020162:辻井遺跡(姫路市辻井 1～7 丁目)		●	●		●						●										縄文土器、弥生土器他多数
020163:辻井廃寺(姫路市辻井 1～5 丁目)					●	●										●					瓦多数
020166:八代深田遺跡（姫路市南八代町）			●							●											
020169:姫路城城下町跡（姫路市西二階町他）								●			●										
020170:御茶屋町遺跡（姫路市八代）			●							●											磨製石斧
020171:富士才遺跡（姫路市八代）			●							●											弥生土器数点
020173:八代山古墳群 1 号墳（姫路市城北新町 3 丁目）				●													●				
020174:八代山古墳群 2 号墳（姫路市城北新町 3 丁目）				●													●				
020175:八代山古墳群 3 号墳（姫路市城北新町 3 丁目）				●													●				
020176:八代山古墳群 4 号墳（姫路市城北新町 3 丁目）				●													●				
020177:八代山古墳群 5 号墳（姫路市城北新町 3 丁目）				●													●				箱式石棺
020178:八代山古墳群 6 号墳（姫路市八代宮前町）				●													●				円筒、形象埴輪（広峰中）、消滅か
020179:東光寺山古墳（姫路市八代宮前町）				●													●				箱式石棺

注：1. 遺跡番号は、図 2.4.38 中の番号に対応する。

注：2. 遺跡の時代の略号は、下記のとおりである。

旧：旧石器時代 縄：縄文時代 弥：弥生時代 古：古墳時代 奈：奈良時代 平：平安時代

中：中世 近：近世 他：その他の時代

注：3. 遺跡の種類の略号は、下記のとおりである。

散：散布地 集：集落 貝：貝塚 都：都城 官：官衙 城：城館 寺：寺社 古：古墳 穴：横穴

墓：その他の墓 産：生産遺跡 他：その他の遺跡

出典：「兵庫県遺跡地図 (令和 2 年度時点)」 (令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県立考古博物館 HP)

表 2.4.91(3) 周知の埋蔵文化財包蔵地

遺跡番号:遺跡の名称 (遺跡の所在地)	遺跡の時代									遺跡の種類											備考	
	旧	縄	弥	古	奈	平	中	近	他	散	集	貝	都	官	城	寺	古	穴	墓	産		他
020180:伊伝居遺跡（姫路市伊伝居）			●								●											土壙等、弥生土器
020181:増位平塚遺跡（姫路市増位本町2丁目）				●						●												消滅か
020182:桑の木遺跡（姫路市峰南町～白国1丁目）			●	●							●											
020183:仏正田遺跡（姫路市峰南町）				●							●											須恵器
020184:平塚遺跡（姫路市峰南町）			●	●						●												石鏃、須恵器
020185:白国廃寺（姫路市白国5丁目）					●											●						瓦、消滅か
020186:二塚古墳（姫路市白国4丁目）				●													●					横穴式石室、消滅か
020187:平野ハス池頂上1号墳（姫路市北平野4丁目）				●													●					
020188:平野ハス池頂上2号墳（姫路市北平野4丁目）				●													●					
020189:ハス池遺跡（姫路市北平野奥垣内）				●						●												
020190:平野廃寺（姫路市北平野5丁目）					●											●						心礎（現在船場本徳寺に移動）
020191:御興塚古墳（姫路市北平野奥垣内）				●													●					横穴式石室、組合式家形石棺、県指定史跡22
020192:平野1号墳（姫路市梅ヶ谷町）				●													●					
020193:平野2号墳（姫路市梅ヶ谷町）				●													●					
020194:平野3号墳（姫路市梅ヶ谷町）				●													●					
020195:山田古墳（姫路市御立東4丁目）				●													●					
020196:大谷口遺跡（姫路市田寺東2丁目～田寺山手町）		●	●							●												消滅か
020197:岸の下遺跡（姫路市田寺2丁目～田寺東2丁目）			●							●												
020198:下橋遺跡（姫路市田寺2丁目～田寺東2丁目）			●							●												
020199:番留遺跡（姫路市田寺東2丁目）			●							●												
020200:河野遺跡（姫路市田寺4丁目）			●							●												
020201:大池古墳（姫路市御立東2丁目）				●													●					消滅か
020202:檜尾遺跡（姫路市御立東6丁目）			●							●												
020203:馬瀬遺跡（姫路市御立北3丁目）			●							●												
020204:馬瀬1号墳（姫路市御立北3丁目）				●													●					
020205:馬瀬2号墳（姫路市御立北3丁目）				●													●					

注:1. 遺跡番号は、図 2.4.38 中の番号に対応する。

注:2. 遺跡の時代の略号は、下記のとおりである。

旧:旧石器時代 縄:縄文時代 弥:弥生時代 古:古墳時代 奈:奈良時代 平:平安時代

中:中世 近:近世 他:その他の時代

注:3. 遺跡の種類の略号は、下記のとおりである。

散:散布地 集:集落 貝:貝塚 都:都城 官:官衙 城:城館 寺:寺社 古:古墳 穴:横穴

墓:その他の墓 産:生産遺跡 他:その他の遺跡

出典:「兵庫県遺跡地図(令和2年度時点)」(令和8年1月閲覧、兵庫県立考古博物館 HP)

表 2.4.91(4) 周知の埋蔵文化財包蔵地

遺跡番号:遺跡の名称 (遺跡の所在地)	遺跡の時代									遺跡の種類											備考	
	旧	縄	弥	古	奈	平	中	近	他	散	集	貝	都	官	城	寺	古	穴	墓	産		他
020206:馬瀬 3 号墳 (姫路市御立北 3 丁目)				●													●					
020207:馬瀬 4 号墳 (姫路市御立北 4 丁目)				●													●					
020208:馬瀬 5 号墳 (姫路市御立北 3 丁目)				●													●					
020209:馬瀬 6 号墳 (姫路市御立北 3 丁目)				●													●					
020210:馬瀬 7 号墳 (姫路市御立北 3 丁目)				●													●					
020211:馬瀬 8 号墳 (姫路市御立北 3 丁目)				●													●					
020212:大谷古墳 (姫路市御立北 3 丁目)				●													●					
020213:大谷 2 号墳 (姫路市御立北 3 丁目)				●													●					
020214:北山 1 号墳 (姫路市御立北 3 丁目)				●													●					
020215:北山 2 号墳 (姫路市御立北 3 丁目)				●													●					
020216:兼ヶ瀬 3 号墳 (姫路市大寿台 2 丁目)				●													●					
020217:兼ヶ瀬 4 号墳 (姫路市大寿台 2 丁目)				●													●					
020218:広峰山城跡 (姫路市広峰山)							●								●							
020219:広峰山遺跡第 1 地点 (姫路市広峰山)							●								●							
020220:広峰山遺跡第 2 地点 (姫路市広峰山)							●								●							
020221:広峰山遺跡第 3 地点 (姫路市広峰)							●								●							
020222:広峰山遺跡第 4 地点 (姫路市広峰)							●								●							
020223:弥高山城跡、千軒寺跡 (姫路市広峰)							●								●	●						
020224:随願寺境内、有明山城跡 (姫路市白国)							●								●	●						
020225:砥堀古墳 (姫路市砥堀)				●													●					
020226:山根遺跡 (姫路市白国～砥堀)			●							●												弥生土器
020227:増位山 1 号墳 (姫路市砥堀)				●													●					竪穴式石室
020228:増位山 2 号墳 (姫路市西中島)				●													●					
020229:増位山 3 号墳 (姫路市砥堀)				●													●					
020231:白国宮山 1 号墳 (姫路市白国)				●													●					円筒埴輪 (鶏形埴輪は市指定文化財－2 号墳か)

注:1. 遺跡番号は、図 2.4.38 中の番号に対応する。

注:2. 遺跡の時代の略号は、下記のとおりである。

旧:旧石器時代 縄:縄文時代 弥:弥生時代 古:古墳時代 奈:奈良時代 平:平安時代

中:中世 近:近世 他:その他の時代

注:3. 遺跡の種類は、下記のとおりである。

散:散布地 集:集落 貝:貝塚 都:都城 官:官衙 城:城館 寺:寺社 古:古墳 穴:横穴

墓:その他の墓 産:生産遺跡 他:その他の遺跡

出典:「兵庫県遺跡地図 (令和 2 年度時点)」 (令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県立考古博物館 HP)

表 2.4.91(5) 周知の埋蔵文化財包蔵地

遺跡番号:遺跡の名称 (遺跡の所在地)	遺跡の時代									遺跡の種類											備考	
	旧	縄	弥	古	奈	平	中	近	他	散	集	貝	都	官	城	寺	古	穴	墓	産		他
020232:白国宮山 2 号墳 (姫路市白国)				●													●					円筒埴輪 (鶏形埴輪は市指定文化財－1 号墳か)
020233:白国梅林園遺跡 (姫路市白国 4 丁目)			●	●						●												石鏃、弥生土器、埴輪
020265:小川廃寺 (姫路市花田町小川)					●											●						
020266:石積山 1 号墳 (姫路市花田町小川)				●													●					横穴式石室
020267:石積山 2 号墳 (姫路市花田町小川)				●													●					横穴式石室
020268:石積山城跡 (姫路市花田町小川)							●								●							
020814:書写構江遺跡 (姫路市書写)			●		●						●								●			
020824:天神山 1 号墳 (姫路市書写台 2 丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、消滅
020825:天神山 2 号墳 (姫路市書写台 2 丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、消滅
020826:天神山 3 号墳 (姫路市書写台 2 丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、消滅
020827:天神山 4 号墳 (姫路市書写台 2 丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、消滅
020828:天神山 5 号墳 (姫路市書写台 2 丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、消滅
020829:天神山 6 号墳 (姫路市書写台 2 丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、消滅
020830:天神山 7 号墳 (姫路市書写台 2 丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、消滅
020831:天神山 8 号墳 (姫路市書写台 2 丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、消滅
020832:天神山 9 号墳 (姫路市書写台 2 丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、消滅
020833:天神山 11 号墳 (姫路市実法寺)				●													●					円墳、消滅
020834:兼ヶ瀬 1 号墳 (姫路市大寿台 2 丁目)				●													●					円墳、消滅
020835:兼ヶ瀬 2 号墳 (姫路市大寿台 2 丁目)				●													●					円墳、消滅
020836:上大野群集墳 (姫路市上大野 7 丁目)				●													●					円墳、消滅
020837:県立種畜場内古墳 1 号 (姫路市上大野 7 丁目)				●													●					円墳、消滅
020838:県立種畜場内古墳 2 号 (姫路市上大野 7 丁目)				●													●					円墳、消滅
020839:平野古墳 (姫路市北平野奥垣内)				●													●					円墳、消滅
020847:前山遺跡 (姫路市御立東 2 丁目)			●							●												消滅
020848:八代古墳支群第 1 号墳 (姫路市梅ヶ谷町)				●													●					円墳、消滅

注:1. 遺跡番号は、図 2.4.38 中の番号に対応する。

注:2. 遺跡の時代の略号は、下記のとおりである。

旧:旧石器時代 縄:縄文時代 弥:弥生時代 古:古墳時代 奈:奈良時代 平:平安時代

中:中世 近:近世 他:その他の時代

注:3. 遺跡の種類の略号は、下記のとおりである。

散:散布地 集:集落 貝:貝塚 都:都城 官:官衙 城:城館 寺:寺社 古:古墳 穴:横穴

墓:その他の墓 産:生産遺跡 他:その他の遺跡

出典:「兵庫県遺跡地図 (令和 2 年度時点)」 (令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県立考古博物館 HP)

表 2.4.91(6) 周知の埋蔵文化財包蔵地

遺跡番号:遺跡の名称 (遺跡の所在地)	遺跡の時代									遺跡の種類											備考	
	旧	縄	弥	古	奈	平	中	近	他	散	集	貝	都	官	城	寺	古	穴	墓	産		他
020849:八代古墳支群第2号墳(姫路市八代緑ヶ丘町)				●													●					円墳、消滅
020850:八代古墳支群第3号墳(姫路市北新在家3丁目)				●													●					円墳、消滅
020851:人見塚古墳(姫路市峰南町)				●													●					円墳、粘土槨、内行花文鏡、家形埴輪など、消滅
020859:山崎山1号墳(姫路市辻井9丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、玉類、鉄器(馬具、武器等)多数、消滅
020860:山崎山2号墳(姫路市辻井9丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、玉類、鉄器(馬具、武器等)多数、消滅
020861:山崎山3号墳(姫路市辻井9丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、玉類、鉄器(馬具、武器等)多数、消滅
020862:山崎山4号墳(姫路市辻井9丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、玉類、鉄器(馬具、武器等)多数、消滅
020863:山崎山5号墳(姫路市辻井9丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、玉類、鉄器(馬具、武器等)多数、消滅
020864:山崎山6号墳(姫路市辻井9丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、玉類、鉄器(馬具、武器等)多数、消滅
020865:山崎山7号墳(姫路市辻井9丁目)				●													●					円墳、横穴式石室、玉類、鉄器(馬具、武器等)多数、消滅
020866:大歳神社前遺跡(姫路市八代宮前町)				●						●												埴輪、消滅
020904:元江尻病院裏山窯跡(姫路市城北新町3丁目)				●																●		窯跡2基、消滅
020905:白国奥畑古墳(姫路市白国)				●													●					円墳、横穴式石室、消滅
020927:榊原忠次墓所(姫路市白国)								●											●			藩主墓所、随願寺境内、市指定史跡
020928:榊原政邦墓所(姫路市白国)								●											●			藩主墓所、随願寺境内、市指定史跡
020931:梅ヶ谷町、行部遺跡(姫路市梅ヶ谷町)				●													●					
020935:砥堀丁田遺跡(姫路市砥堀)				●							●											
370013:中岡山遺跡(姫路市夢前町寺字寺村西山)			●	●		●															●	弥生の堅穴住居址、横穴式石室を持つ古墳を検出
370044:置塩城跡(姫路市夢前町宮置字城山)							●								●							城跡面積 60000㎡、10数段の平地、一部国指定史跡 29
370057:小屋谷構居跡(姫路市夢前町寺字小屋谷)							●														●	山頂に方形の平坦地、東西 16m、南北 22m、石垣は残存しない

注:1.遺跡番号は、図 2.4.38 中の番号に対応する。

注:2.遺跡の時代の略号は、下記のとおりである。

旧:旧石器時代 縄:縄文時代 弥:弥生時代 古:古墳時代 奈:奈良時代 平:平安時代

中:中世 近:近世 他:その他の時代

注:3.遺跡の種類略号は、下記のとおりである。

散:散布地 集:集落 貝:貝塚 都:都城 官:官衙 城:城館 寺:寺社 古:古墳 穴:横穴

墓:その他の墓 産:生産遺跡 他:その他の遺跡

出典:「兵庫県遺跡地図(令和2年度時点)」(令和8年1月閲覧、兵庫県立考古博物館 HP)

表 2.4.91(7) 周知の埋蔵文化財包蔵地

遺跡番号:遺跡の名称 (遺跡の所在地)	遺跡の時代									遺跡の種類											備考	
	旧	縄	弥	古	奈	平	中	近	他	散	集	貝	都	官	城	寺	古	穴	墓	産		他
370061:荒木遺跡（姫路市夢前町菅生潤字東荒木）			●							●												弥生土器（高杯）のか けらが出土
370071:鞍掛山墳墓（姫路市夢前町宮置字庄上）									●										●			円型、径 3m、高さ 0.5m 積石、東西 30m の範囲 に 6 基が並列する
370072:宮置古墳（姫路市夢前町宮置）				●													●					円型、径 19m、高さ 1.6m、墳丘の封土削 平、消滅
370073:松安寺跡（姫路市夢前町宮置）					●											●						赤松 2 代（晴政、義祐） の墓がある、墓石群は 県指定文化財
370074:寺村遺跡（姫路市夢前町寺字寺村）				●	●											●						布目瓦や弥生土器、須 恵器の破片を出土
370075:鞍掛山城跡（姫路市夢前町宮置字鞍掛山）							●								●							山頂と尾根を南北に 平地が開ける、山麓に 中島構居跡がある
370076:番城山城跡（姫路市夢前町宮置字番城山）							●								●							東西 100m、平坦地に研 が露出、尾根上に掘込 み跡が残る
370077:置本武家屋敷跡（姫路市夢前町置本字萩原）							●								●							室町様式の石垣積が 残されている
370078:くるすの構居跡（姫路市夢前町書写）							●													●		書写吹唐西北鯉尾に 通じる山道の 500m 地 点
370079:御門の大門跡（姫路市夢前町寺字御門）							●													●		積石なし、3 段の平坦 地、位置不明
370080:清水谷構居跡（姫路市夢前町宮置字清水谷）							●													●		東西 22m、南北 77m、 東西 17m、南北 10～20m の溝が 3 段残る
370081:岡前遺跡（姫路市夢前町宮置）							●								●							2400 坪、第 3 代城主 晴政の別邸
370082:潤代官屋敷跡（姫路市夢前町菅生潤字潤）							●								●							東西 55m、南北 45m の 台地を形成
370083:鯉尾大谷構居跡（姫路市夢前町寺字大谷）							●													●		東西 100m、南北 50m の 石塁が残存し、3 段の 構えからなる
370084:玉田の大門跡（姫路市夢前町玉田）							●													●		地名のみ残る、置塩城 の南端の構え、位置不 明
370085:多々良跡（姫路市夢前町宮置字多々良）							●													●		山麓に 1000㎡ 程の平 坦地があり円形に 2m 程掘り下げている
370086:中村遺跡（姫路市夢前町宮置字中村）			●				●			●												地蔵小祀の土壇上に 礎石数個が残存
370087:長谷山遺跡（姫路市夢前町菅生潤）			●								●											
370088:峠口遺跡（姫路市夢前町又坂字峠口）			●							●												
370089:清水山窯跡群（姫路市夢前町寺）					●	●														●		窯跡より須恵器片、布 目瓦を採集

注:1.遺跡番号は、図2.4.38中の番号に対応する。

注:2.遺跡の時代の略号は、下記のとおりである。

旧:旧石器時代 縄:縄文時代 弥:弥生時代 古:古墳時代 奈:奈良時代 平:平安時代

中:中世 近:近世 他:その他の時代

注:3.遺跡の種類は、下記のとおりである。

散:散布地 集:集落 貝:貝塚 都:都城 官:官衙 城:城館 寺:寺社 古:古墳 穴:横穴

墓:その他の墓 産:生産遺跡 他:その他の遺跡

出典:「兵庫県遺跡地図(令和2年度時点)」(令和8年1月閲覧、兵庫県立考古博物館HP)

表 2.4.91(8) 周知の埋蔵文化財包蔵地

遺跡番号:遺跡の名称 (遺跡の所在地)	遺跡の時代									遺跡の種類											備考	
	旧	縄	弥	古	奈	平	中	近	他	散	集	貝	都	官	城	寺	古	穴	墓	産		他
370094:城山 1 号墳 (姫路市夢前町宮置)				●															●			
370095:城山 2 号墳 (姫路市夢前町宮置)				●															●			
370096:城山 3 号墳 (姫路市夢前町宮置)				●															●			
370097:城山 4 号墳 (姫路市夢前町宮置)				●															●			
370098:城山 5 号墳 (姫路市夢前町宮置)				●															●			
370099:城山 6 号墳 (姫路市夢前町宮置)				●															●			
370100:城山 7 号墳 (姫路市夢前町宮置)				●															●			
370101:町村遺跡 (姫路市夢前町宮置)							●				●											
370103:城山遺跡 (姫路市夢前町宮置)							●								●							
420022:薬師の下遺跡 (姫路市香寺町矢田部字薬師の下)				●																●		全壊、旧名称矢田部窯跡
420023:矢田部城跡 (姫路市香寺町矢田部字坊の奥)							●								●							
420024:南条山城跡 (姫路市香寺町須加院)							●								●							
420046:上丁郷遺跡 (姫路市香寺町相坂字上丁郷)				●																	●	
420047:薬師跡遺跡 (姫路市香寺町相坂字塩田前)				●													●					須恵器出土地
420048:ナルサ遺跡 (姫路市香寺町相坂字ナルサ)							●												●			土壇墓
420050:田野城跡 (姫路市香寺町田野字東成山、西成山)							●								●							
420062:鍊金古墳 (姫路市香寺町須加院字鍊金)				●													●					円墳、横穴式石室
420063:宮ノ前 1 号墳 (姫路市香寺町須加院字鍊金)				●													●					横穴式石室、市指定史跡
420064:宮ノ前 2 号墳 (姫路市香寺町須加院字鍊金)				●													●					横穴式石室
420065:常福寺山古墳 (姫路市香寺町須加院字宮の前)				●													●					円墳、横穴式石室
420066:極楽寺瓦経塚 (姫路市香寺町須加院字宮の前)							●														●	遺物は国指定文化財
420068:新野塚(親王塚)古墳 (姫路市香寺町須加院字新野)				●													●					畦の 1 部
420069:山伏塚古墳 (姫路市香寺町須加院字向林)				●													●					全壊

注：1. 遺跡番号は、図 2.4.38 中の番号に対応する。

注：2. 遺跡の時代の略号は、下記のとおりである。

旧：旧石器時代 縄：縄文時代 弥：弥生時代 古：古墳時代 奈：奈良時代 平：平安時代

中：中世 近：近世 他：その他の時代

注：3. 遺跡の種類の略号は、下記のとおりである。

散：散布地 集：集落 貝：貝塚 都：都城 官：官衙 城：城館 寺：寺社 古：古墳 穴：横穴

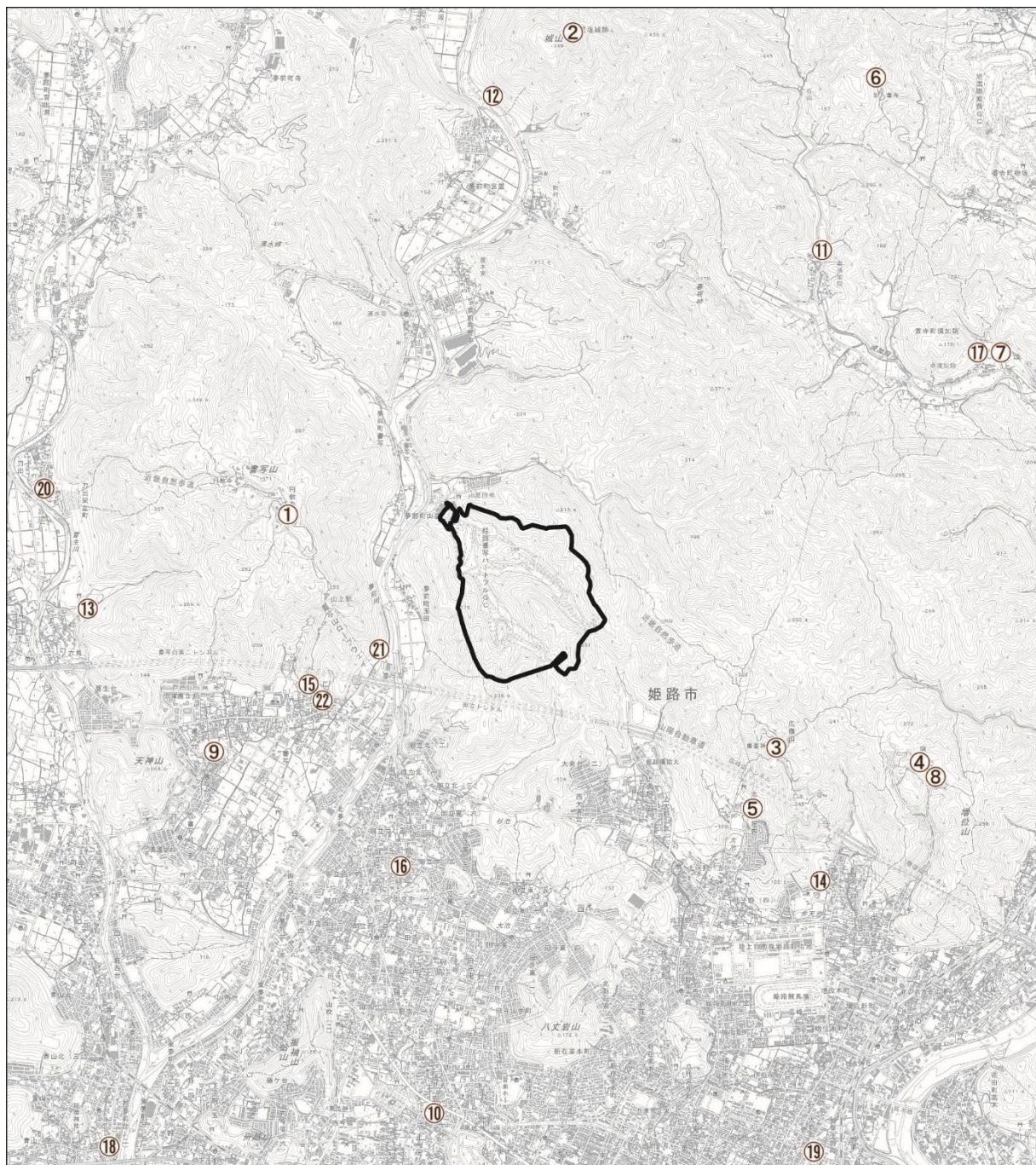
墓：その他の墓 産：生産遺跡 他：その他の遺跡

出典：「兵庫県遺跡地図（令和 2 年度時点）」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県立考古博物館 HP）

② 郷土記念物の概況

事業実施想定地域及びその周囲には「環境の保全と創造に関する条例」（平成 7 年兵庫県条例第 28 号、最終改正：令和 7 年 3 月 25 日）に基づく郷土記念物は存在しない。

出典：「自然環境保全地域等」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）



凡 例

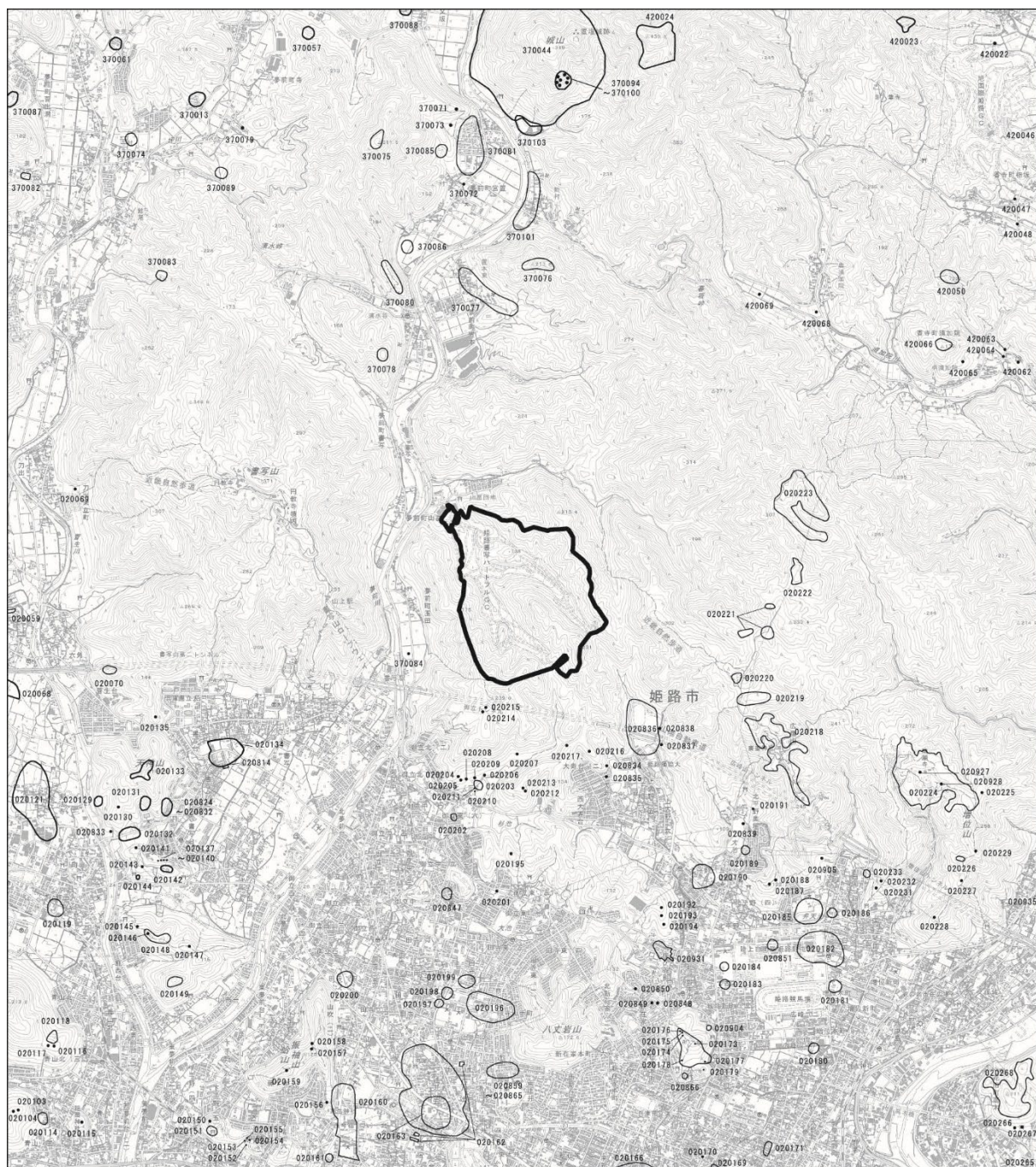
-  事業実施想定地域
 ①～②③ 指定文化財の位置



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.37
指定文化財位置図

出典：「姫路市内の指定文化財一覧」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）
 注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



- 凡 例
- 事業実施想定地域
 - 周辺の埋蔵文化財包蔵地



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.38
埋蔵文化財包蔵地

出典：「兵庫県遺跡地図（令和2年度時点）」（令和8年1月閲覧、兵庫県 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

(14) 人と自然との触れ合い活動の場

事業実施想定地域及びその周囲における人と自然との触れ合いの活動の場の状況は表 2.4.92 及び図 2.4.39 のとおりである。

表 2.4.92 人と自然との触れ合いの活動の場

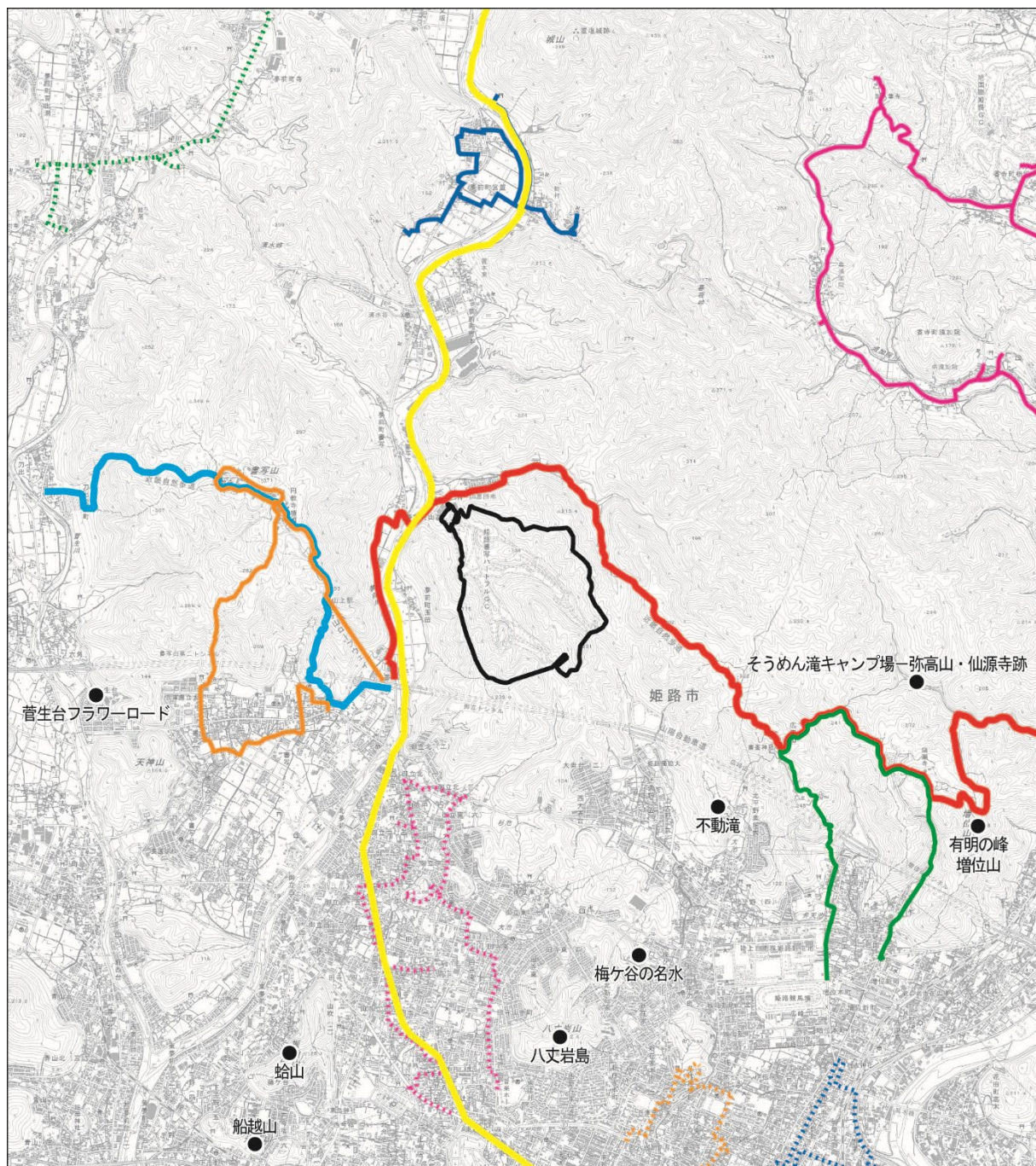
名称	概要
菅生台フラワーロード	地域の人たちの手で造られ維持されている道端花壇。四季折々の草花が道行く人の心をなごませている。
蛤山	蛤山は、播磨国五ノ宮であった高岳神社が鎮座、盤座としても名高い山である。
船越山	「播磨国風土記」にある匣丘は船越山という説もある。
八丈岩島	標高 172.9m、山上の八丈岩の上から眼下に市内を一望できる。
梅ヶ谷の名水	日照りでも大雨でも変わらぬ水位を保つ清水があり、「播磨十水」の名水に数えられ、多くの人々が水を汲みに来ている。
有明の峰 増位山	増位山は、平安時代、日本を代表する歌人が散策し、和歌を詠んでおり「有明の峰」と呼ばれている。
不動滝	不動滝は修行場として開かれたもので行者堂より上流へ 100m 程入った所にある。
そうめん滝キャンプ場・弥高山・仙源寺跡	弥高山から流れ出る溪谷の景観は奇岩、滝の風情があり、「そうめん滝」の名称で呼ばれている。溪谷は落葉樹林一なら、ブナ、椿が群棲し森林浴に適している。上流にはキャンプ場もあり、近畿自然歩道として多くの市民に親しまれている。
【近畿自然歩道】 深山と広峯神社を訪ねるみち	近畿自然歩道は、近畿を中心とした 2 府 7 県にまたがり、太平洋、瀬戸内海、日本海とを結ぶ路線延長約 3,300km におよぶ長距離自然歩道です。総距離 11.4km
【近畿自然歩道】 西の比叡 書写山圓教寺参詣のみち	近畿自然歩道は、近畿を中心とした 2 府 7 県にまたがり、太平洋、瀬戸内海、日本海とを結ぶ路線延長約 3,300km におよぶ長距離自然歩道です。総距離 5.3km
【文化財をたずねて（散策ルートマップ）】 広嶺・増位・白国めぐり	姫路市教育委員会事務局文化財課で刊行している散策ルートマップ。全行程約 8.3km
【文化財をたずねて（散策ルートマップ）】 書写山・円教寺めぐり	姫路市教育委員会事務局文化財課で刊行している散策ルートマップ。全行程約 5.6km
【文化財をたずねて（散策ルートマップ）】 置塩城下めぐり	姫路市教育委員会事務局文化財課で刊行している散策ルートマップ。全行程約 6.7km
【文化財をたずねて（散策ルートマップ）】 香呂地区めぐり	姫路市教育委員会事務局文化財課で刊行している散策ルートマップ。全行程約 16.0km
【文化財をたずねて（散策ルートマップ）】 菅野地区めぐり	姫路市教育委員会事務局文化財課で刊行している散策ルートマップ。全行程約 2.1km～6.7km
【文化財をたずねて（散策ルートマップ）】 男山周辺めぐり	姫路市教育委員会事務局文化財課で刊行している散策ルートマップ。全行程約 4km
【文化財をたずねて（散策ルートマップ）】 野里地区めぐり	姫路市教育委員会事務局文化財課で刊行している散策ルートマップ。全行程約 5.2km
【文化財をたずねて（散策ルートマップ）】 安室地区めぐり	姫路市教育委員会事務局文化財課で刊行している散策ルートマップ。全行程約 5.6km
【はりまサイクリングマップ】 夢前・夢街道コース	姫路城の西、雪彦山から書写山のふもと、播磨灘まで流れる夢前川に沿って、田園風景を肌で感じるサイクリングコース。距離 26km。

出典：「姫路市 Web マップ」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典：「自然歩道」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

出典：「文化財をたずねて（散策ルートマップ）」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典：「はりまサイクリングマップ」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）



凡 例



事業実施想定地域

● 人と自然との触れ合いの活動の場

【近畿自然歩道】

深山と広峯神社を訪ねるみち
西の比叡 書写山園教寺参詣のみち

【文化財をたずねて（散策ルートマップ）】

広嶺・増位・白国めぐり
置塩城下めぐり
菅野地区めぐり
野里地区めぐり
書写山・円教寺めぐり
香呂地区めぐり
男山周辺めぐり
安室地区めぐり

【はりまサイクリングマップ】

夢前・夢街道コース



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.39

人と自然との触れ合い活動の場

出典：「姫路市 Web マップ」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）
「自然歩道」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）
「文化財をたずねて（散策ルートマップ）」（令和 6 年 4 月更新、姫路市 HP）
「はりまサイクリングマップ」（令和 4 年 1 月更新、姫路市 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

(15) 景観

① 景観の状況

姫路市では「景観法」（平成 16 年法律第 110 号、最終改正：令和 7 年 4 月 23 日）に基づく景観計画区域を市内全域と定めている。また、重点的に景観形成を図る区域として、「都市景観形成地区」「歴史的町並み景観形成地区」「風景形成地域」を定め、区域の景観特性に応じた規制誘導を行っているが、事業実施想定地域及びその周囲にはそれらの地区及び地域は存在しない。

出典：「景観計画と景観法に基づく届出」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

事業実施想定地域及びその周囲には「景観の形成等に関する条例」（昭和 60 年兵庫県条例第 17 号、最終改正：令和 4 年 3 月 31 日）に基づく景観形成地区、広域景観形成地域、景観形成重点区域及び星空景観形成地域等は存在しない。

出典：「景観条例に基づく指定・登録制度」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

また、事業実施想定地域及びその周囲の一部は「姫路市屋外広告物条例」（平成 8 年姫路市条例第 5 号、最終改正：令和 6 年 10 月 8 日）において、禁止地域等の区域等の指定を受けている。

出典：「姫路市屋外広告物条例及び姫路市屋外広告物条例施行規則に基づく禁止地域等の区域等の指定について」（平成 8 年姫路市告示第 71 号、最終改正：平成 24 年 3 月 15 日）

② 都市計画法上の地区計画

事業実施想定地域のある姫路市には「都市計画法」に基づく風致地区、景観地区及び伝統的建造物群保存地区は存在しない。

出典：「風致地区制度」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

出典：「制限区域の詳細について」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

出典：「伝統的建造物群保存地区（令和 6 年 8 月 15 日現在）」（令和 8 年 1 月閲覧、文化庁 HP）

③ 景観資源

1) 第 3 回自然環境保全基礎調査

事業実施想定地域及びその周囲における「第 3 回自然環境保全基礎調査」による自然景観資源は表 2.4.93 及び図 2.4.40 のとおりである。

表 2.4.93 景観資源の状況

自然景観資源名	名 称
非火山性孤嶺	広峰山
非火山性孤嶺	書写山
滝	そうめん滝

出典：「第 3 回自然環境保全基礎調査 兵庫県自然環境情報図」（平成元年発行、環境庁）

2) 都市景観重要建築物等

姫路市では、「都市景観条例」（昭和 62 年姫路市条例第 5 号、最終改正：令和 3 年 3 月 29 日）に基づき都市景観形成上重要な価値がある建築物、工作物、樹木等を都市景観重要建築物等として指定しており、事業実施想定地域及びその周囲における指定状況は表 2.4.94 及び図 2.4.40 のとおりである。

表 2.4.94 都市景観重要建築物等

名称	所在地	建築年代	指定年月日
旧姫路高等学校講堂 (兵庫県立大学)	姫路市新在家本町一丁目	大正 15 年 (1926 年)	平成 2 年 8 月 30 日
旧姫路高等学校本館 (兵庫県立大学)	姫路市新在家本町一丁目	大正 15 年 (1926 年)	平成 2 年 8 月 30 日
魚橋呉服店	姫路市威徳寺町	明治期	平成 17 年 10 月 24 日
大野家住宅	姫路市大野町	明治期以前	平成 18 年 10 月 17 日

出典：「都市景観重要建築物等」(令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP)

3) 景観遺産

姫路市では、未来へ引き継ぎたい姫路のすぐれた景観を募集し、景観遺産に登録している。令和 7 年 4 月時点で 100 件が景観遺産に登録されており、事業実施想定地域及びその周囲における登録状況は表 2.4.95 及び図 2.4.40 のとおりである。事業実施想定地域の北側にヤマサ蒲鉾の芝桜等がある。

表 2.4.95 景観遺産

登録No. (図番号)	景観分類	タイトル
9	建物・まちなみ	書写の里・美術工芸館と竹林
17	建物・まちなみ	書写山圓教寺十妙院(長吏處)
25	自然	書写山圓教寺摩尼殿と紅葉
30	自然	夢前川の桜並木と姫新線
35	自然	置塩城跡のある置塩山
46	姫路城	お城に沈む夕日
48	いとなみ	豆まきの風景
64	建物・まちなみ	相坂側(東)から見た相坂トンネル
69	自然	書写山
72	自然	玉田の農道から見た菜の花畑
73	自然	ヤマサ蒲鉾の芝桜
95	自然	そうめん滝南側から見た景観
100	いとなみ	書写ロープウェイ入口西側から

出典：「登録されている景観遺産の一覧」(令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP)

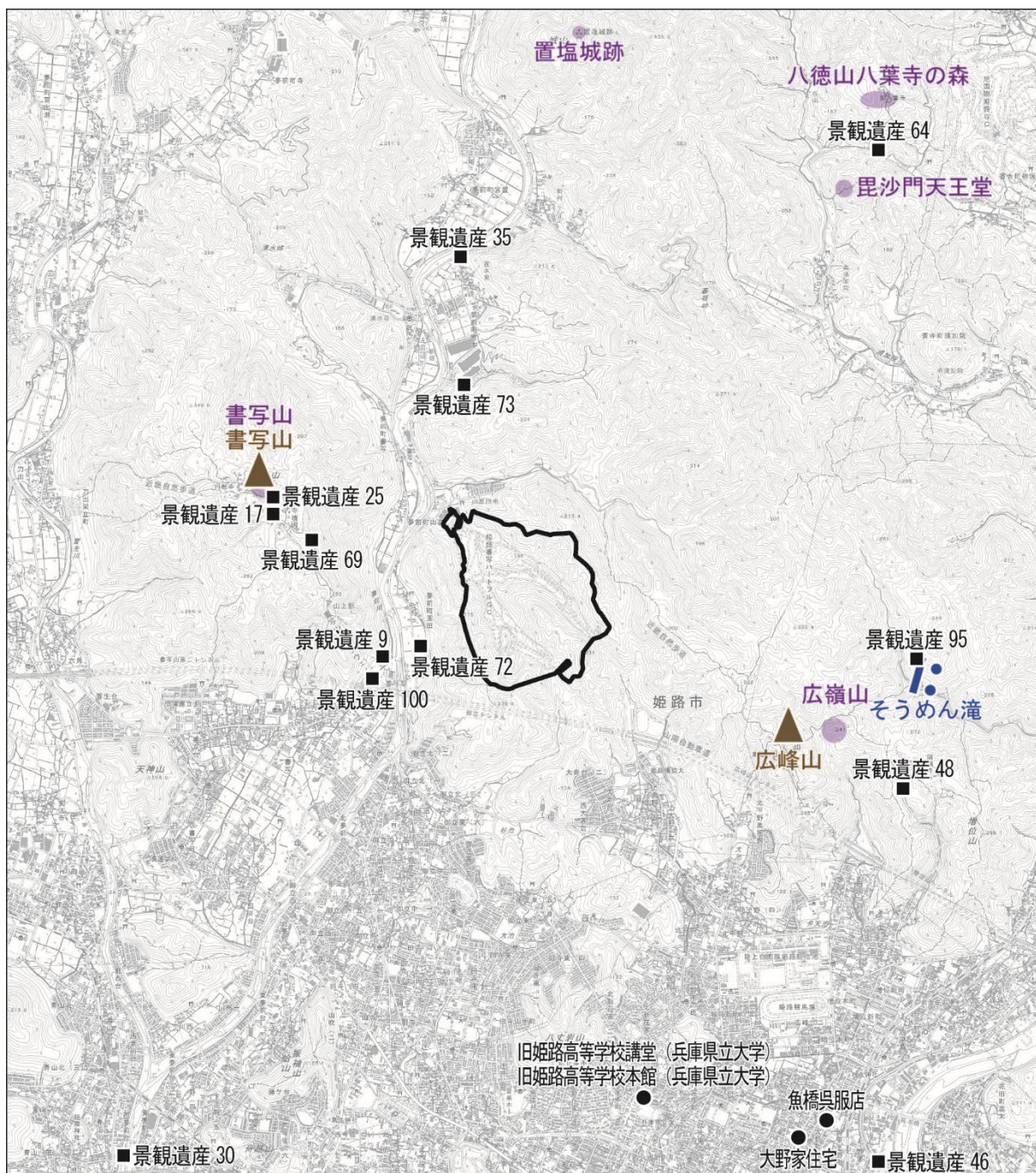
4) 自然景観

事業実施想定地域及びその周囲における「兵庫県版レッドリスト 2011」にて選定された自然景観は表 2.4.96 及び図 2.4.40 のとおりである。

表 2.4.96 自然景観

分類 (分類区分)	名称(ランク)	所在地
自然景観	書写山・広嶺山 (B)	姫路市
自然景観	置塩城跡 (B)	姫路市
自然景観	八徳山八葉寺の森 (C)	姫路市香寺町
自然景観 (人の暮らしに密接に関わる 自然景観)	毘沙門天王堂 (要注目)	姫路市香寺町須加院

出典：「兵庫県版レッドリスト 2011(地形・地質・自然景観・生態系)」
(令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP)



凡 例

■ 事業実施想定地域

【第3回自然環境保全基礎調査】

▲ 非火山性孤峰

⦿ 滝

【都市景観重要建築物等】

● 都市景観重要建築物

【景観遺産】

■ 景観遺産

【兵庫県版レッドリスト2011（地形・地質・自然景観・生態系）】

■ 自然景観

出典：「第3回自然環境保全基礎調査 兵庫県自然環境情報図」（平成元年発行、環境庁）

「都市景観重要建築物等」（令和6年12月更新、姫路市HP）

「登録されている景観遺産の一覧」（令和7年4月更新、姫路市HP）

「兵庫県版レッドリスト2011（地形・地質・自然景観・生態系）」（令和8年1月閲覧、兵庫県HP）

注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.40
景観資源の位置

④ 主要な眺望点の分布

事業実施想定地域及びその周囲における主要な眺望点は表 2.4.97 及び図 2.4.41 のとおりである。事業実施想定地域の西側に、書写山展望デッキであるミオロッソ書写等がある。

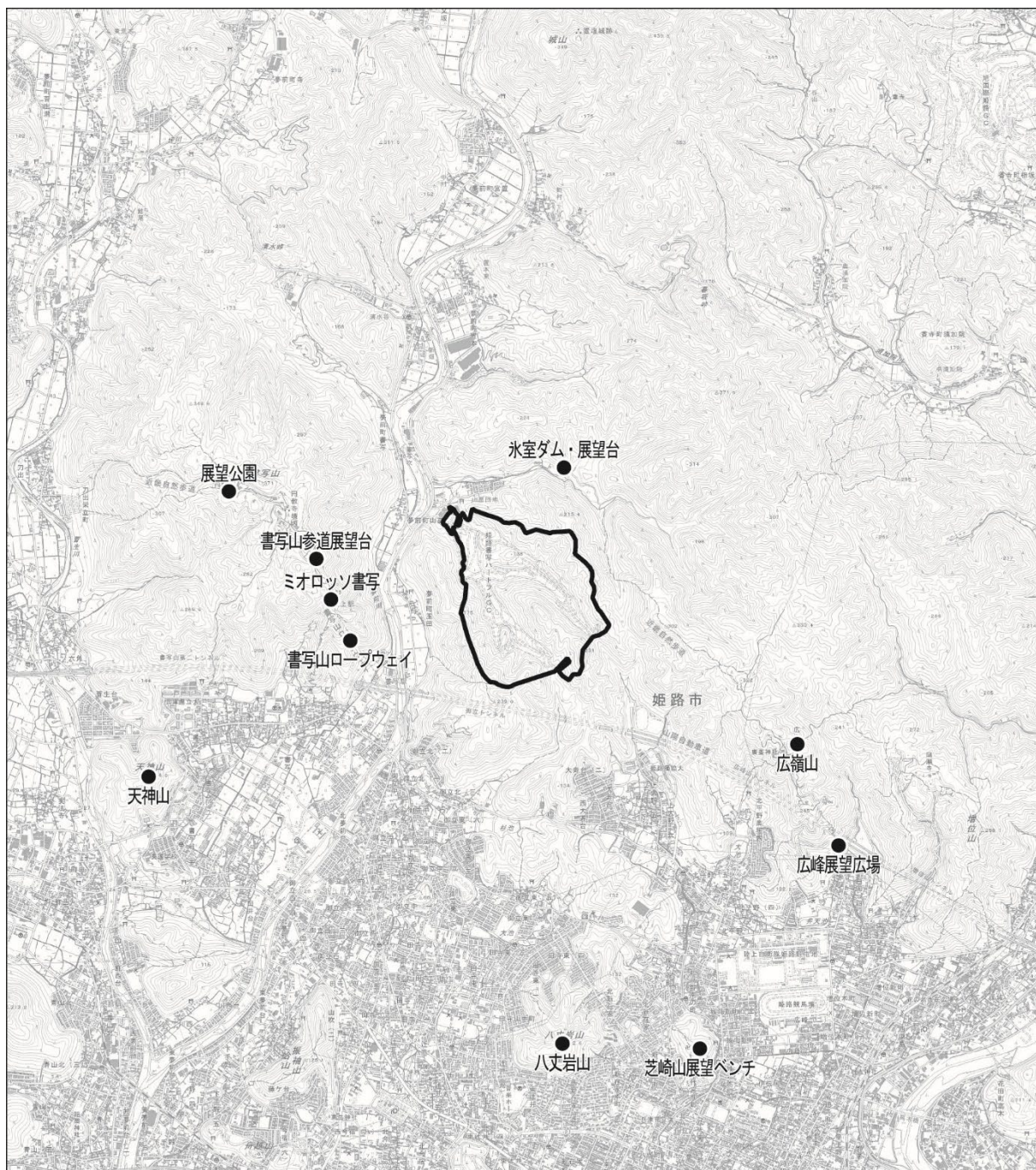
表 2.4.97 主要な眺望点の分布

名称	概要
広嶺山	姫路市街地を中心とした雄大な夜景を楽しむことができる。
ミオロッソ書写	2022 年 3 月完成した書写山上展望デッキ。 姫路市街地だけでなく、好天時には瀬戸内海まで見渡せる。
書写山ロープウェイ	昭和 33 年 3 月に開通。複線交走式索道で、3 分 50 秒で最大 71 人を乗せて運行。標高 371m の山上には西国第 27 番札所の圓教寺。
八丈岩山	標高 172.9m、山上の八丈岩の上から眼下に市内を一望できる。
書写山参道展望台	南向きに視界が開けており、姫路市街を一望できる。空気が澄んでいれば遠くに明石海峡大橋を望むことも可能。
広峰展望広場	ハイランドビラ姫路へ続く山道の途中に位置する。姫路市の街明かりを見下ろすことができる夜景スポットとして知られている。
芝崎山展望ベンチ	姫路競馬場の西にある八代山（別名：柴崎山・金山）の山頂付近、送電線巡視路を登り総社線 5 番鉄塔を過ぎたあたりにある展望所。南東方面に展望が開けており、直線距離で約 1.5km 先にある姫路城を望むことができる。
天神山	書写山の南に位置する標高約 164m の山で、菅生川に架かる「書写中学校橋」付近の遊歩道から登ることができる。山頂自体は雑木に囲まれており展望はあまりないが、木々の隙間から書写山や白鳥城を垣間見ることができる。一方、山頂手前の露岩地や南に伸びる尾根からは、広嶺山、増位山、姫路市街、鷹山などを見渡せる眺望ポイントがある。
氷室ダム・展望台	姫路自然観察の森の遊歩道や山頂の見晴らし台から氷室ダムを望むことができる。
展望公園	書写山・圓教寺の境内奥、松平家墓所や法華堂（三つの堂）から少し歩いた場所にあり、木々の隙間から姫路市街を眺望できるほか、遠く瀬戸内海が見渡せた際の島々の位置関係を示す展望図も設置されている。

出典：「書写山ロープウェイ」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典：「姫路市 Web マップ」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典：「Google マップ」（令和 8 年 1 月閲覧）



凡 例



事業実施想定地域



主要な眺望点



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.41
主要な眺望点

出典：「書写山ロープウェイ」(令和8年1月更新、姫路市HP)
「姫路市Webマップ」(令和8年1月閲覧、姫路市HP)
「Google マップ」(令和8年1月閲覧)
注：本図は、国土地理院電子地形図25000を用いて作成したものである。

(16) 日照

事業実施想定地域及びその周囲の土地利用図は図 2.4.5 (p.36) のとおりであり、事業実施想定地域はゴルフ場と森林で占められている。

事業実施想定地域の近傍である姫路特別地域気象観測所における令和 7 年の日照の状況は表 2.4.39 (p.78) のとおりである。

姫路特別地域気象観測所における令和 7 年の日照時間は 2,312.9 時間である。

(17) 反射光

事業実施想定地域及びその周囲の土地利用図は図 2.4.5 (p.36) のとおりであり、事業実施想定地域はゴルフ場と森林で占められている。

事業実施想定地域周辺における道路や民家等の建物の分布状況は図 2.4.2 (p.32) 及び図 2.4.13 (p.50) に示すとおりであり、反射光の影響をうける可能性がある。

(18) 地盤

① 「森林法」に基づく保安林

事業実施想定地域及びその周囲における「森林法」に基づく保安林の指定状況は図 2.3.2 (p.17) のとおりであり、事業実施想定地域の一部（連系変電所エリア含む）が保安林に指定されている。

② 「砂防法」に基づく砂防指定地

事業実施想定地域及びその周囲における「砂防法」（明治 30 年法律第 29 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）に基づく砂防指定地の指定状況は図 2.4.42 のとおりであり、事業実施想定地域の大部分が砂防指定地に指定されている。

③ 「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」に基づく急傾斜地崩壊危険区域

事業実施想定地域及びその周囲における「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」（昭和 44 年法律第 57 号、最終改正：令和 5 年 5 月 26 日）に基づく急傾斜地崩壊危険区域の指定状況は図 2.4.42 のとおりであり、事業実施想定地域周辺に急傾斜地崩壊危険区域が存在している。

④ 「地すべり等防止法」に基づく地すべり防止区域

事業実施想定地域及びその周囲には「地すべり等防止法」（昭和 33 年法律第 30 号、最終改正：令和 5 年 5 月 26 日）に基づく地すべり防止区域は存在しない。

出典：「国土数値情報ダウンロード 地すべり防止区域」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）

⑤ 「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく
土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域

事業実施想定地域及びその周囲における「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」（平成 12 年法律第 57 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）に基づく土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域は図 2.4.43 のとおりであり、事業実施想定地域の一部（連系変電所エリア含む）が土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている。

⑥ 「山地災害危険地区調査要領」に基づく山地災害危険地区

事業実施想定地域及びその周囲における「山地災害危険地区調査要領」に基づく山地災害危険地区の指定状況は図 2.4.44 のとおりであり、事業実施想定地域の一部（連系変電所エリア含む）が崩壊土砂流出危険地区、山腹崩壊危険地区に指定されている。

⑦ 「宅地造成及び特定盛土等規制法」に基づく宅地造成工事規制区域

事業実施想定地域及びその周囲における「宅地造成及び特定盛土等規制法」（昭和 36 年法律第 191 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日）に基づく宅地造成等工事規制区域及び特定盛土等規制区域の指定状況は図 2.4.45 のとおりであり、事業実施想定地域の一部（連系変電所エリア含む）が宅地造成工事規制区域、特定盛土等規制区域に指定されている。

⑧ 「総合治水条例」に基づく重要調整池

事業実施想定地域及びその周囲における「総合治水条例」（平成 24 年兵庫県条例第 20 号）に基づく重要調整池は存在しない。

出典：「兵庫県土木部総合治水課」（令和 8 年 1 月ヒアリング、兵庫県土木部総合治水課）

⑨ 「建築基準法」に基づく災害危険区域

事業実施想定地域及びその周囲には「建築基準法」（昭和 25 年法律第 201 号、最終改正：令和 7 年 5 月 16 日）に基づく災害危険区域は存在しない。

出典：「災害危険区域について」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

⑩ 「津波防災地域づくりに関する法律」に基づく津波災害警戒区域及び津波災害特別警戒区域

事業実施想定地域及びその周囲には「津波防災地域づくりに関する法律」（平成 23 年法律第 123 号、最終改正：令和 5 年 6 月 16 日）に基づく津波災害警戒区域及び津波災害特別警戒区域は存在しない。

出典：「南海トラフ巨大地震津波浸水想定図」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

⑪ 「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」に基づく特定農業用ため池及び
「ため池の保全等に関する条例」に基づく特定ため池

事業実施想定地域及びその周囲における「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」
(平成 31 年法律第 17 号) 及び「ため池の保全等に関する条例」(平成 27 年兵庫県条例
第 18 号、最終改正：令和元年 6 月 26 日) に基づく特定ため池の指定状況は表 2.4.98 及
び図 2.4.46 のとおりであり、事業実施想定地域の周辺に特定農業用ため池等が存在し
ている。

表 2.4.98(1) 特定農業用ため池等の指定状況

ID	ため池名	所在地	堤高 (m)	堤長 (m)	貯水量 (千 m ³)	指定区分
282010005	蛤池	姫路市西今宿 7-214-1	4.1	220.0	14.0	条例指定
282010007	杉池	姫路市御立東 6-726	6.6	128.1	69.8	条例指定
282010008	奥池	姫路市御立北 3-819	5.2	116.0	9.0	条例指定
282010009	唐立池	姫路市御立北字唐立 943	4.4	50.0	2.8	条例指定
282010010	大谷池	姫路市御立東 5-187	5.2	30.0	2.7	法指定
282010011	首田下池	姫路市御立東 5-303	6.0	52.0	1.1	法指定
282010012	首田上池	姫路市御立東 5-304	3.5	28.0	4.8	法指定
282010013	東山池	姫路市辻井 9-319-1	3.6	48.0	1.6	法指定
282010014	宮の谷池	姫路市東辻井 3-137	4.2	100.0	5.5	法指定
282010015	大池	姫路市御立東 2-467-1, 2, 3	7.0	300.0	40.0	条例指定
282010016	中池	姫路市御立東 2-878-1	3.0	160.0	14.0	条例指定
282010017	中池	姫路市上大野 4-500	6.0	154.0	24.0	法指定
282010018	大池	姫路市上大野 3-609	4.0	320.0	20.0	法指定
282010019	下池	姫路市上大野 4-501	3.2	150.0	5.1	法指定
282010020	摺鉢池	姫路市上大野 4-499	4.0	60.0	4.8	法指定
282010021	北平野大池 上池	姫路市北平野字奥垣内 1034	4.7	109.0	21.0	条例指定
282010022	北平野大池 下池	姫路市北平野字奥垣内 1027	6.0	100.0	24.0	条例指定
282010023	行部下池	姫路市梅ヶ谷町 772-3	4.8	73.0	3.2	条例指定
282010024	弁天池	姫路市白国 5-689-1	6.0	350.0	51.0	法指定
282010025	白国上池	姫路市白国 5-690-1	5.0	90.0	7.0	法指定
282010026	山田池	姫路市白国 5-642	5.0	60.0	5.0	法指定
282010176	東池	姫路市書写 71	4.6	133.0	7.0	条例指定
282010177	西池	姫路市書写 67	4.3	112.0	4.0	法指定
282010178	浮田池	姫路市書写字梅垣内 1749-1	3.5	120.0	9.0	法指定
282010179	海老池	姫路市書写台 2-38-1	4.1	99.0	7.0	法指定
282010180	新池	姫路市書写 2019	4.3	86.0	6.0	法指定
282010181	桜池	姫路市書写 2911-1	4.7	135.0	20.0	法指定
282010321	大谷下池	姫路市夢前町寺字大谷 210	5.8	95.0	12.0	条例指定
282010322	高部下池	姫路市夢前町寺字高部 1438	4.3	111.0	11.0	条例指定
282010323	高部上池	姫路市夢前町寺字高部 1439	5.2	45.0	5.0	条例指定
282010324	弁天池	姫路市夢前町寺字荒神畑 1540	5.6	68.0	11.2	条例指定
282010325	北清水右池	姫路市夢前町寺字北清水 1565	3.6	53.0	4.0	条例指定
282010326	北清水左池	姫路市夢前町寺字北清水 1562	4.4	53.0	4.0	条例指定
282010327	北清水左池 上池	姫路市夢前町寺字北清水 1563	3.1	30.0	2.3	条例指定
282010336	鍛冶屋池	姫路市夢前町菅生澗字別車野々谷 252-5	4.3	82.0	3.0	条例指定
282010337	油押大池	姫路市夢前町菅生澗字池ノ内 1384	6.4	202.0	27.0	条例指定
282010404	野田池	姫路市香寺町行重村西	5.7	40.0	10.4	条例指定

注：ID は、図 2.4.46 中の番号に対応する。

出典：「ため池データベース（令和 7 年 3 月更新版）」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

表 2.4.98(2) 特定農業用ため池等の指定状況

ID	ため池名	所在地	堤高 (m)	堤長 (m)	貯水量 (千 m ³)	指定区分
282010407	坂ノ尻池	姫路市香寺町矢田部 112	5.3	50.0	9.8	条例指定
282010409	坊ノ奥池	姫路市香寺町矢田部 148	12.0	55.0	28.3	法指定
282010411	西ノ奥池	姫路市香寺町相坂字西垣内 956-2	7.0	70.0	13.0	法指定
282010412	奥三谷中池	姫路市香寺町相坂字奥之山 1038	7.4	36.0	10.0	法指定
282010413	奥三谷奥池	姫路市香寺町相坂字奥之山 1038	8.4	31.0	9.0	法指定
282010414	大畑池	姫路市香寺町相坂 647	8.4	91.0	26.0	法指定
282010417	棕谷池	姫路市香寺町相坂 1347-6	11.4	90.0	20.0	法指定
282010423	練金上池	姫路市香寺町田野 1083	5.0	20.0	1.0	法指定
282010424	練金下池	姫路市香寺町田野 1084	5.6	36.0	4.3	法指定
282010426	毘沙門池	姫路市香寺町相坂 1115	7.0	35.0	2.2	条例指定
282010427	円堂谷池	姫路市香寺町須加院 1490	8.5	43.0	8.2	条例指定
282010428	城ヶ谷池	姫路市香寺町須加院 1220	7.7	74.0	31.0	法指定
282010429	鍵ノ谷池	姫路市香寺町須加院 944	11.4	83.0	30.0	法指定
282010430	細倉大池	姫路市香寺町須加院 805	9.2	91.0	84.2	法指定
282010431	鍊金池	姫路市香寺町須加院 409	7.7	60.0	4.3	法指定
282010432	鍊金奥池	姫路市香寺町須加院 411	5.8	26.0	3.2	条例指定
282010444	ヤシガタニ池	姫路市御立東 4-24	3.5	40.3	1.3	法指定
282010445	赤岩池	姫路市御立東 4-37	3.9	34.7	0.8	法指定
282010449	内池	姫路市新在家本町 716-1	2.5	17.0	1.9	条例指定
282010450	ししわけ池	姫路市西新在家 598-453	4.4	72.0	3.0	条例指定
282010451	増位池（山田池）	姫路市保城 323	4.0	179.4	3.7	条例指定
282010463	松谷池	姫路市花田町小川 1247	5.7	52.5	10.1	条例指定
282010749	保智池	姫路市夢前町菅生潤 399	2.2	45.0	1.3	法指定
282010750	札場池	姫路市夢前町菅生潤字宮ノ西 686	2.1	32.9	1.4	条例指定
282010751	南原池	姫路市夢前町菅生潤 1155	3.1	30.4	0.7	条例指定

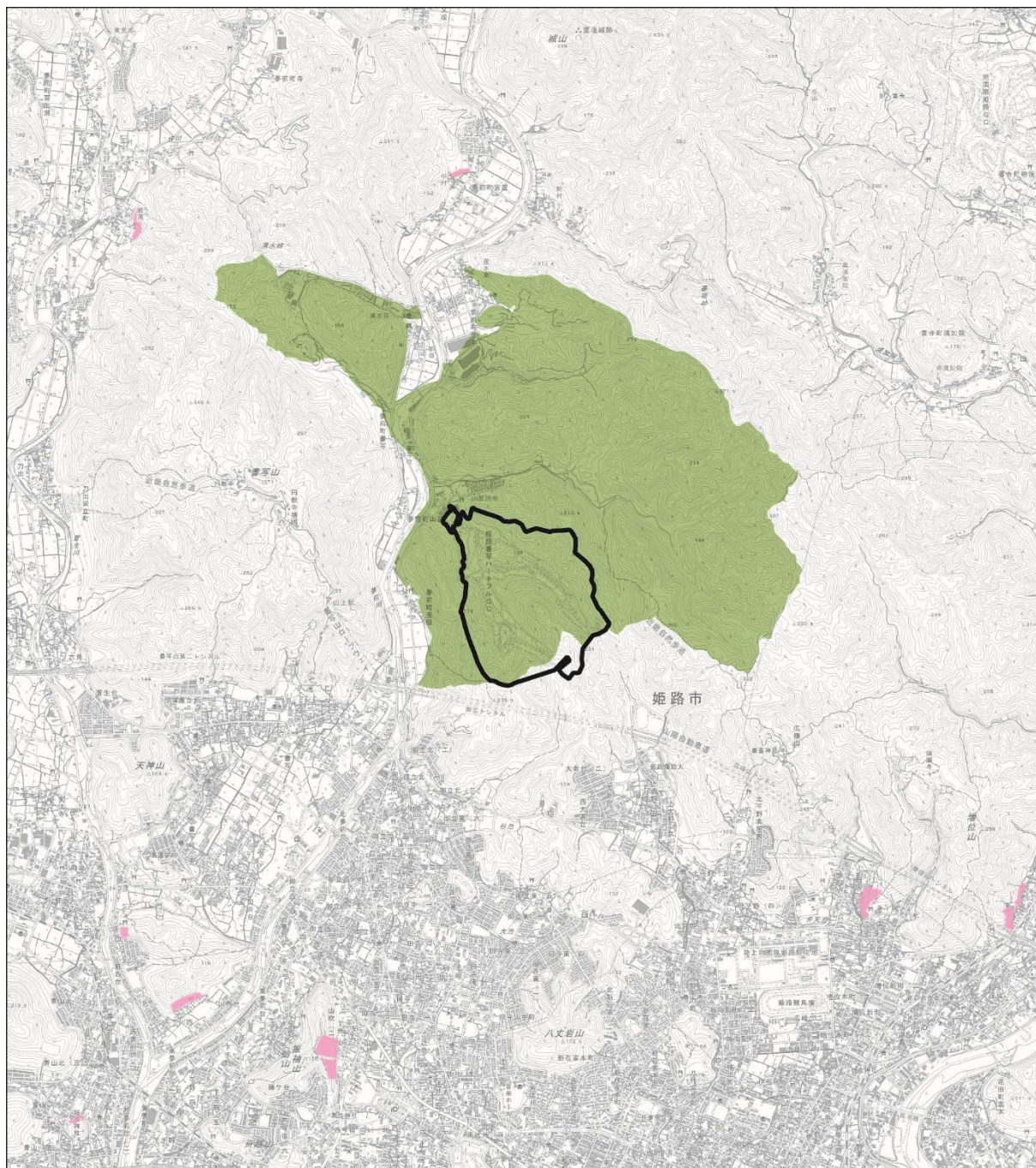
注：ID は、図 2.4.46 中の番号に対応する。

出典：「ため池データベース（令和 7 年 3 月更新版）」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

⑫ 「兵庫県 CG ハザードマップ」に基づく危険箇所

事業実施想定地域及びその周囲における洪水浸水想定区域図は図 2.4.47 のとおりであり、事業実施想定地域及びその周囲に洪水浸水想定区域及び家屋倒壊等氾濫想定区域等が存在している。

また、事業実施想定地域及びその周囲における山地災害危険区域の指定状況は図 2.4.48 のとおりであり、事業実施想定地域の一部（連系変電所エリア含む）及びその周囲は山地災害危険区域に指定されている。



凡 例

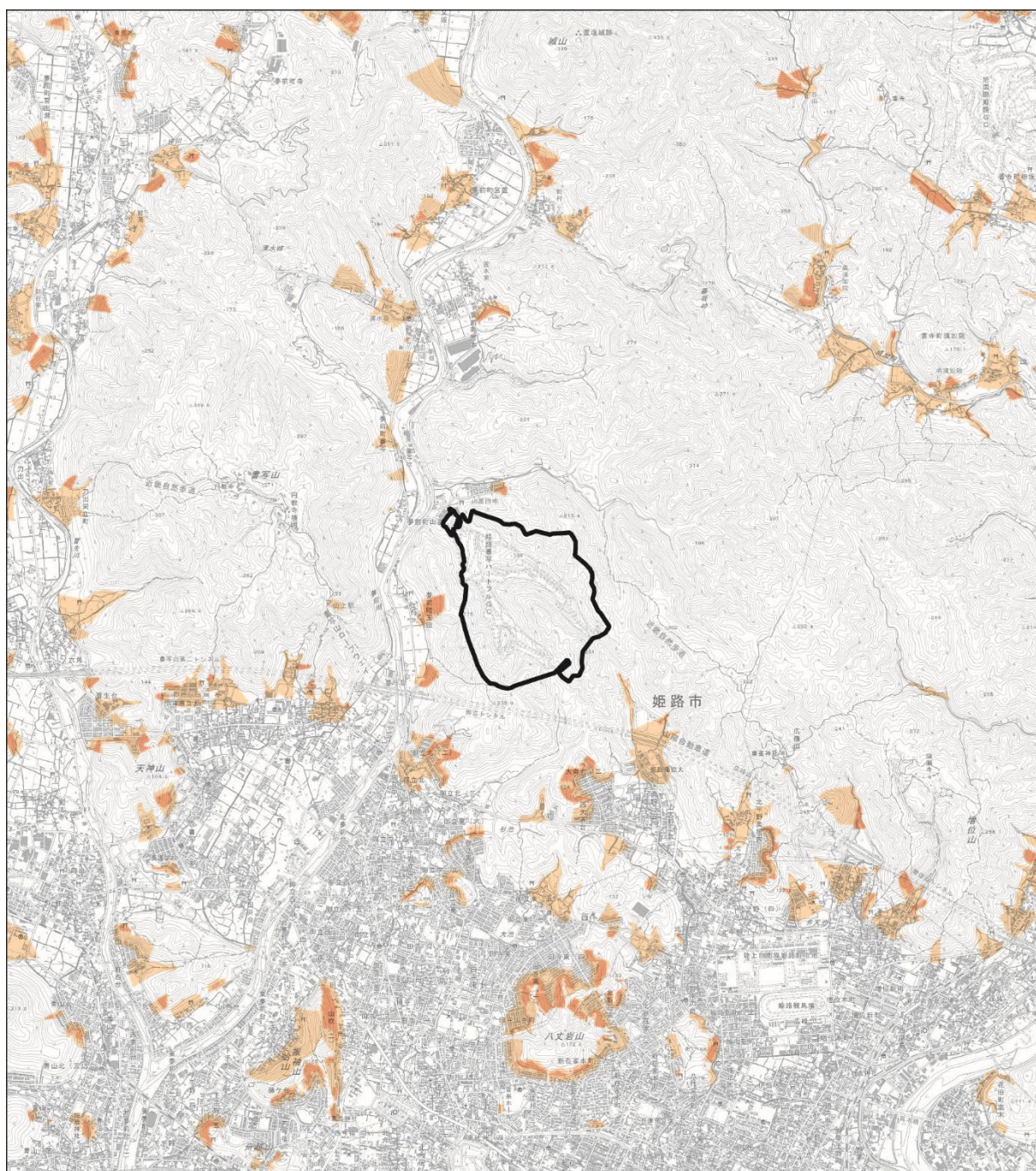
- 事業実施想定地域
- 砂防指定地
- 急傾斜地崩壊危険区域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.42
砂防指定地等

出典：「姫路土木事務所資料」（令和7年12月ヒアリング、姫路土木事務所）
「国土数値情報 急傾斜地崩壊危険区域データ」（令和8年1月閲覧、国土交通省 HP）
「国土数値情報 地すべり防止区域データ」（令和8年1月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

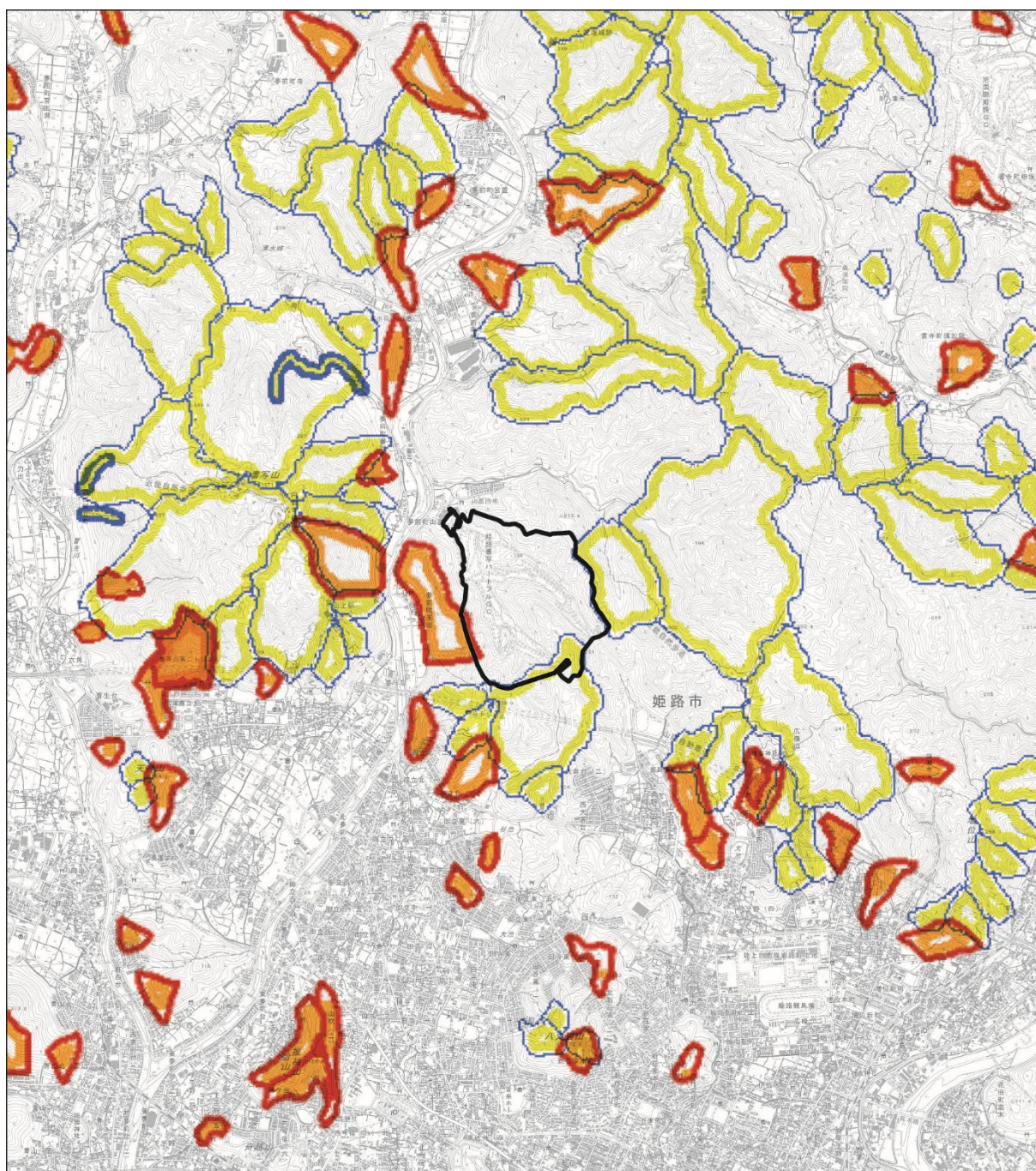
-  事業実施想定地域
-  土砂災害警戒区域
-  土砂災害特別警戒区域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.43
土砂災害警戒区域及び土砂
災害特別警戒区域

出典：「国土数値情報 土砂災害警戒区域データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

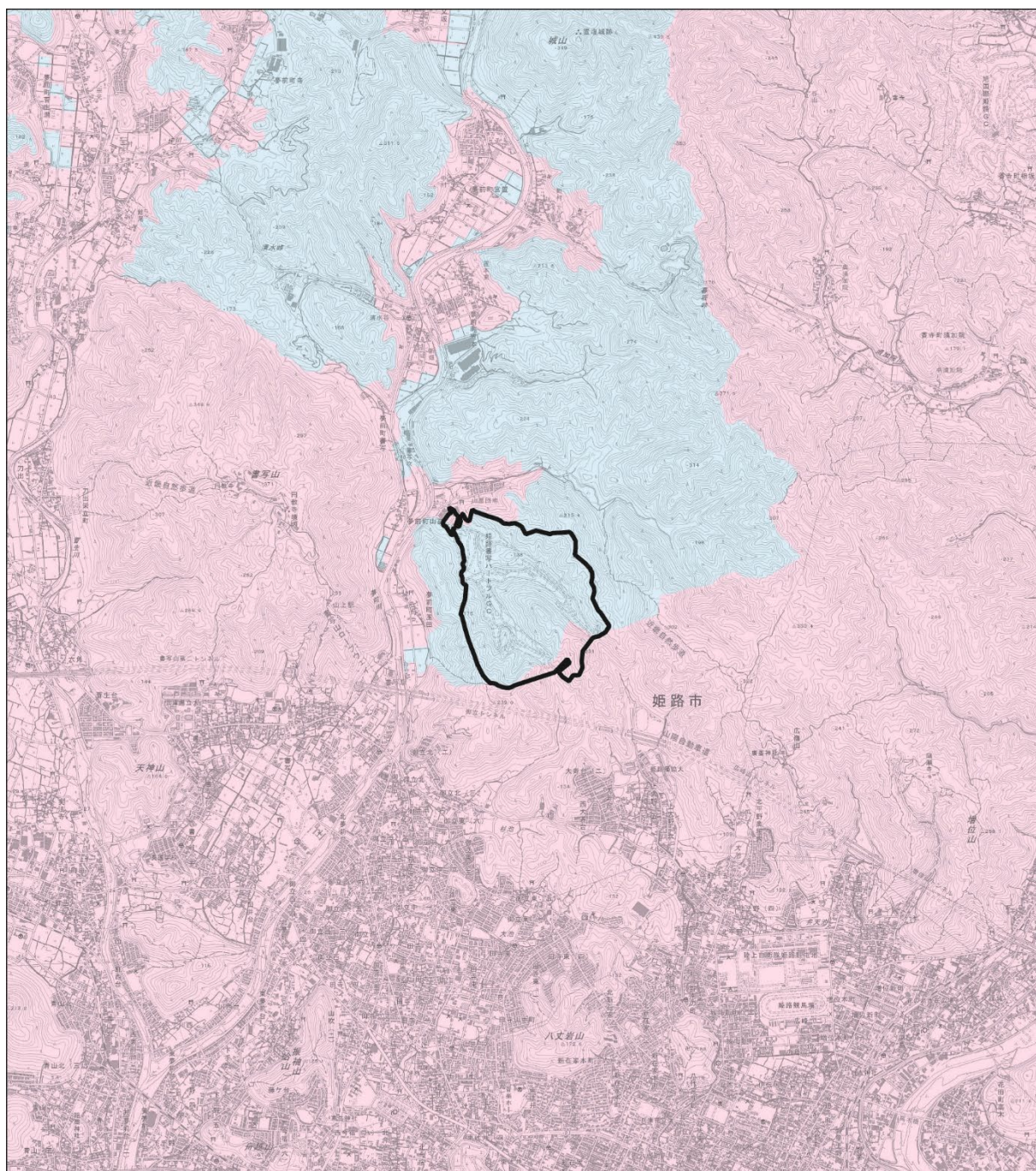
- 事業実施想定地域
- 崩壊土砂流出危険地区
- 山腹崩壊危険地区



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.44
山地災害危険地区

出典：「環境アセスメントデータベース」（令和 8 年 1 月閲覧、環境省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

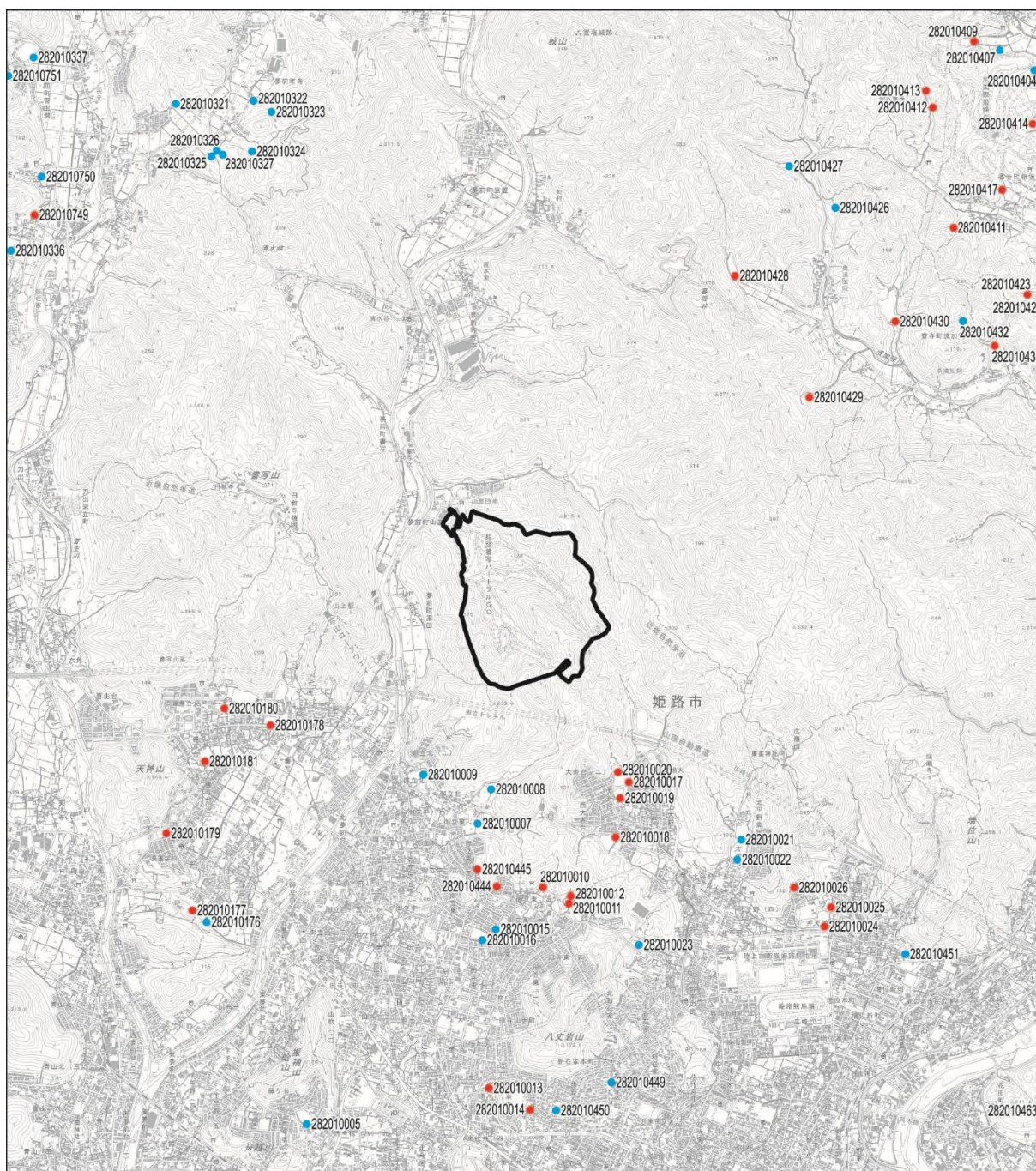
- 事業実施想定地域
- 宅地造成等工事規制区域
- 特定盛土等規制区域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.45
宅地造成工事規制区域

出典：「宅地造成及び特定盛土等規制法（盛土規制法）」（令和8年1月更新、姫路市HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

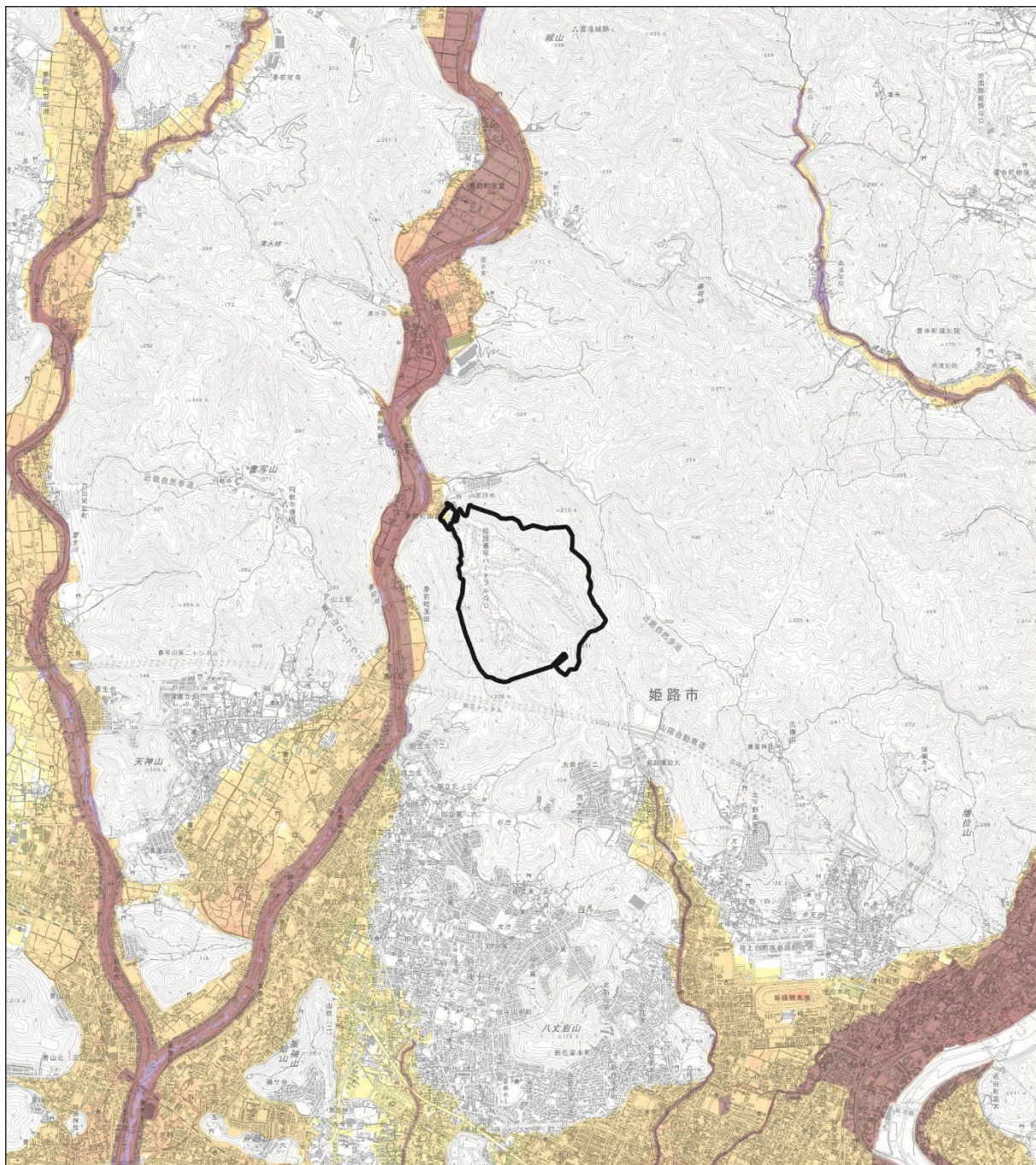
- 事業実施想定地域
- 特定農業用ため池（法指定）
- 特定ため池（条例指定）



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.46
特定農業用ため池等

出典：「ため池データベース（令和7年3月更新版）」（令和8年1月閲覧、兵庫県 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

- 事業実施想定地域
- 洪水浸水想定区域（想定最大規模）
 - 0.5m未満の区域
 - 0.5m以上3.0m未満の区域
 - 3.0m以上5.0m未満の区域
 - 5.0m以上10.0m未満の区域
 - 10.0m以上20.0m未満の区域
- 家屋倒壊等氾濫想定区域

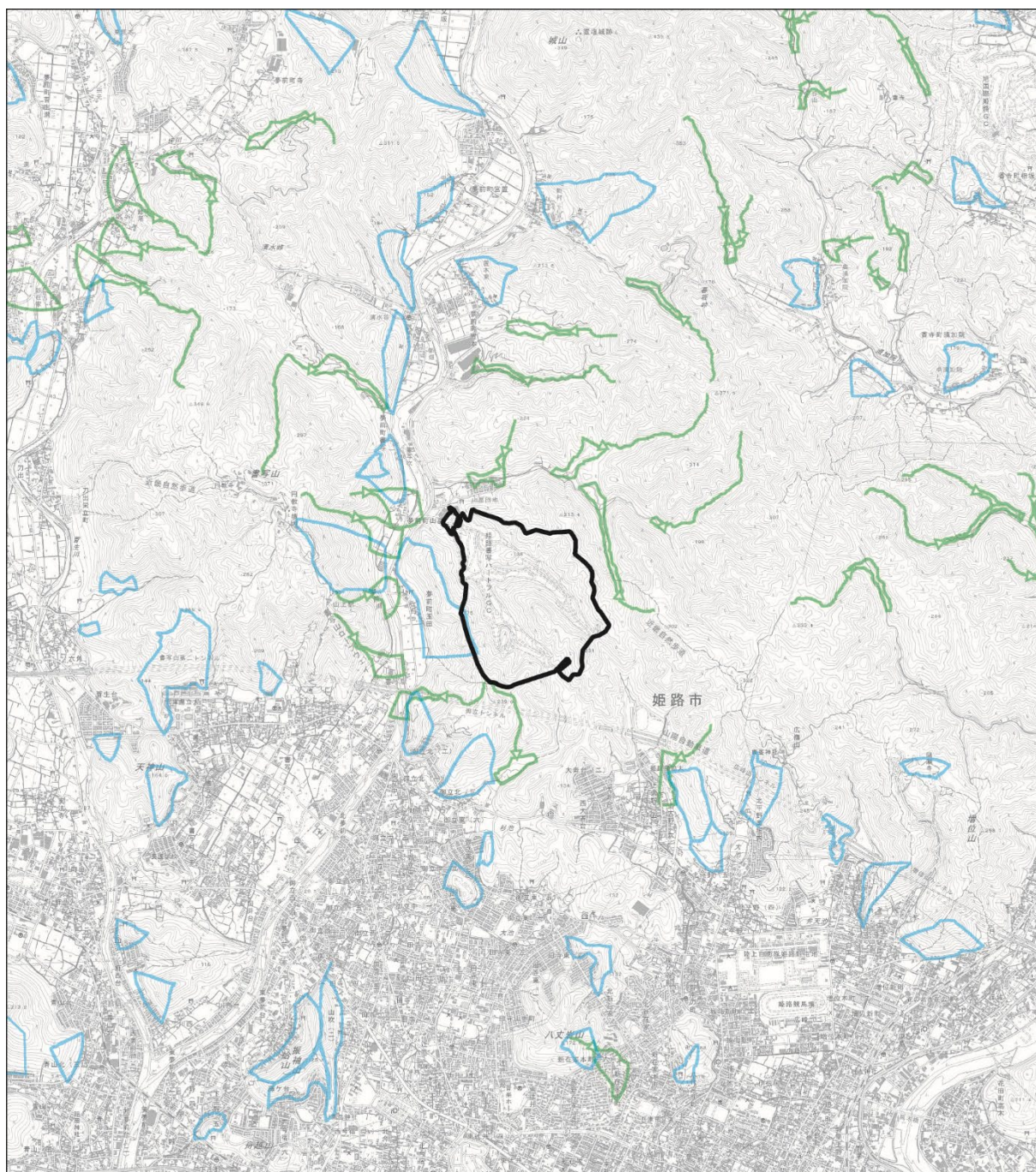


0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.47

浸水想定区域等

出典：「国土数値情報 洪水浸水想定区域データ」（令和8年1月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

- 事業実施想定地域
- 山腹崩壊危険区域
- 崩壊土砂流出危険区域 (→土石流の流向)



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.48
山地災害危険区域

出典：「CGハザードマップ2.0」（令和8年1月閲覧、兵庫県 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

4-3 環境影響要因と環境要素の分析及び選定結果

4-3-1 影響を及ぼす環境影響要因の抽出

本事業の実施による環境影響要因は、表 2.4.99 に示すとおりである。

環境影響要因は、「環境影響評価指針」（平成 10 年 1 月 9 日兵庫県告示第 28 号）に基づき、工事、存在、供用について設定した。

表 2.4.99 本事業による環境影響要因

環境影響要因		内容
工事	建設機械の稼働	・対象事業実施区域における建設機械の稼働
	工事用車両の走行	・対象事業実施区域周辺の道路における工事用車両の走行
	造成等の施工による一時的な影響	・工事に伴う裸地の出現 ・造成中の降雨に伴う雨水の排水 ・伐採等に伴う廃棄物等の発生
存在	地形の改変及び施設の存在	・土地利用の改変（各種自然資源の減少） ・構造物（太陽光パネル、変電設備等）の存在
供用	施設の稼働	・設備（変電設備等）の稼働

4-3-2 影響が及ぶ環境要素の把握

環境要素は、「環境影響評価指針」（平成 10 年 1 月 9 日兵庫県告示第 28 号）に基づき、環境の保全と創造に係るものとして、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音・低周波音、振動、地盤沈下、悪臭、廃棄物等、地形・地質、植物、動物、生態系、文化財、人と自然との触れ合い活動の場、景観、日照、地球温暖化、オゾン層破壊、反射光及び地盤の計 20 項目を基本とした。

各環境要素について、本事業の実施を及ぼすおそれの有無は、表 2.4.100 に示すとおりである。

表 2.4.100 本事業の実施による影響を及ぼすおそれの有無								
環境影響要因 環境要素		工事			存在	供用		影響を及ぼすおそれの有無
		工 事 用 車 両 の 走 行	建 設 機 械 の 稼 働	造 成 等 の 施 工 に よ る 一 時 的 な 影 響	の 地 形 改 変 及 び 施 設 の 存 在	施 設 の 稼 働	設 置 物 の 撤 去	
大気汚染	窒素酸化物、浮遊粒子状物質	○	○					工事用車両の走行、建設機械の稼働に係る窒素酸化物、浮遊粒子状物質の影響が考えられる。
	粉じん等	○	○					工事用車両の走行、建設機械の稼働に係る粉じん等の影響が考えられる。
水質汚濁	流況変化、水の濁り			○	○			事業実施想定地域及びその周辺には河川が存在するため、太陽光パネル設置等の基礎工事に伴う濁水の発生、土地利用の改変及び施設の存在に伴う雨水排水の流況の変化や水質への影響が考えられる。
	水の汚れ							本事業は、水質汚濁は発生しないため、影響はないと考えられる。
土壌汚染	土壌汚染							事業実施段階において土壌汚染が確認された場合には、土壌汚染対策法等の関係法令に基づき適切に処理するため、土壌汚染を拡散させる可能性は極めて小さく、本事業の実施に伴う影響はないと考えられる。
騒音・低周波音	騒音	○	○			○		工事用車両の走行、建設機械の稼働に伴う騒音の影響や、施設の稼働時のパワーコンディショナーの稼働に伴う騒音の影響が考えられる。
振動	振動	○	○					工事用車両の走行、建設機械の稼働に伴う振動の影響が考えられる。
地盤沈下	地下水位の変動							本事業は、新たな土地の造成（切土・盛土等）は原則実施しない。また、地下水のくみ上げも実施しないため、地盤沈下への影響はないと考えられる。
悪臭	悪臭							本事業は、悪臭防止法及び同法施行令に定める物質は発生しないため、影響はないと考えられる。
廃棄物等	建設工事に伴う副産物			○			○	建設工事に伴う廃棄物が発生する。また、施設の稼働に伴い太陽電池の撤去等により産業廃棄物が発生する。
	残土							残土については新たな土地の造成（切土・盛土等）は原則実施しないため、残土は発生しない。
地形・地質	重要な地形及び地質							事業実施想定区域及びその周辺において、重要な地形・地質は存在しないため、影響はないと考えられる。
植物	植生、貴重な種及び群落、侵略的外来種及び生物多様性			○	○			事業実施想定地域及びその周辺において、重要な種及び重要な群落が確認されているため、造成等の施工による一時的な影響や、地形の改変及び施設の存在による影響が考えられる。
動物	貴重な種、侵略的外来種及び生物多様性			○	○			事業実施想定地域及びその周辺において、重要な種及び注目すべき生息地が確認されているため、造成等の施工による一時的な影響や、地形の改変及び施設の存在による影響が考えられる。
生態系	既存生態系、貴重な生態系及び生態系の構造			○	○			事業実施想定地域及びその周辺において、重要な自然環境のまとまりの場が確認されているため、造成等の施工による一時的な影響や、地形の改変及び施設の存在による影響が考えられる。
文化財	指定文化財、埋蔵文化財包蔵地							事業実施想定地域に指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地は存在しないことから本事業による影響はないため、本事業の実施に伴う影響は考えられない。
人と自然との触れ合い活動の場	人と自然との触れ合い活動の場の改変、自然的特性、利用状況	○			○			事業実施想定地域及びその周辺において、人と自然との触れ合い活動の場が確認されており、工事用車両の走行による影響や、自然との触れ合い活動の場の改変による影響が考えられる。
景観	眺望変化、重要な景観資源				○			事業実施想定地域及びその周辺において、主要な眺望点及び景観資源が存在し、施設の存在に係る景観への影響が考えられる。
日照	影となる状況							本事業では、高層建築物等を建設しないため、本事業の実施に伴う影響はないと考えられる。
地球温暖化	温室効果ガス排出量	○	○					工事用車両の走行、建設機械の稼働により温室効果ガスが発生するため、影響が考えられる。
オゾン層破壊	特定物質の排出量							本事業では、「特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律施行令」（平成6年9月26日政令第308号）に定められた特定物質は発生しないため、影響はないと考えられる。
反射光	反射光の範囲、時刻、時間数、影響を受けやすい場所				○			事業実施想定地域の周辺には集落があるため、施設の存在による影響が考えられる。
地盤	土地の安定性				○			工事により土地の安定性への影響が考えられることから、影響が考えられる。

注 1）環境要素の区分については、「環境影響評価指針」（平成 10 年 1 月 9 日兵庫県告示第 28 号）に基づき作成

注 2）「○」：影響が考えられる環境要素
「空白」：影響がないと考えられる環境要素

4-3-3 環境影響要因と環境要素の分析及び選定結果

早期段階配慮事項の項目は、前項で示した本事業の実施により影響が及ぼすと考えられる環境要素から、事業特性及び早期事前調査を踏まえて、重大な影響のおそれのある環境要素として、表 2.4.101 に示すとおり「植物」、「動物」、「生態系」、「景観」及び「地盤」の5項目を選定した。

なお、本図書においては、現時点では工事計画の詳細が検討段階であること、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、工事による影響は対象としないこととした。工事による影響については、事業計画が固まる概要書以降の手続きにおいて、適切に調査、予測及び評価を実施する。

また、選定した理由及び選定しなかった理由については、表 2.4.102 に示すとおりである。

表 2.4.101 早期段階配慮事項の選定

環境要素		環境影響要因				存在		供用	
		搬出入	工事用資材等の	建設機械の稼働	造成等の施工による一時的な影響	地形変化及び施設の存在	施設の稼働	設置物の撤去	
大気汚染	窒素酸化物、浮遊粒子状物質	×	×						
	粉じん等	×	×						
水質汚濁	流況変化				×	×			
	水の濁り				×	×			
	水の汚れ								
土壌汚染	土壌汚染								
騒音・低周波音	騒音	×	×				×		
振動	振動	×	×						
地盤沈下	地下水位の変動								
悪臭	悪臭								
廃棄物等	建設工事に伴う副産物				×				×
	残土								
地形・地質	地形の改変、地質の変化								
植物	植生、貴重な種及び群落、侵略的外来種及び生物多様性				×	○			
動物	貴重な種、侵略的外来種及び生物多様性				×	○			
生態系	既存生態系、貴重な生態系及び生態系の構造				×	○			
文化財	指定文化財、埋蔵文化財包蔵地								
人と自然との触れ合い活動の場	人と自然との触れ合い活動の場の改変、自然的特性、利用状況	×				×			
景観	眺望変化、重要な景観資源					○			
日照	影となる状況								
地球温暖化	温室効果ガス排出量	×	×						
オゾン層破壊	特定物質の排出量								
反射光	反射光の範囲、時刻、時間数、影響を受けやすい場所					×			
地盤	土地の安定性					○			

注：環境要素の区分については、「環境影響評価指針」（平成10年1月9日兵庫県告示第28号）に基づき作成
「○」：影響が考えられ、早期段階配慮事項の項目として選定する項目
「×」：工事計画等が決定していないこと、また、影響が限定的と考えられることから、早期段階配慮事項の項目として選定しない項目
「空白」：影響がないと考えられる項目
網掛け■は、「発電所アセス省令」の「太陽光発電所別表第五」の参考項目

表 2.4.102(1) 早期段階配慮事項として選定する理由又は選定しない理由

環境要素		環境影響要因		選定	選定する理由又は選定しない理由
大気汚染	窒素酸化物、浮遊粒子状物質	工事	工事用車両の走行	×	工事用車両の走行に伴う窒素酸化物、浮遊粒子状物質による影響のおそれがあるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
			建設機械の稼働	×	建設機械の稼働に伴う窒素酸化物及び浮遊粒子状物質による影響のおそれがあるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
	粉じん等	工事	工事用車両の走行	×	工事用車両の走行に伴う粉じん等による影響のおそれがあるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
			建設機械の稼働	×	建設機械の稼働に伴う粉じん等による影響のおそれがあるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
水質汚濁	流況変化、水の濁り	工事	造成等の施工による一時的な影響	×	本事業では新たな土地の造成は原則として行わないこと、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
		存在	地形の改変及び施設の使用	×	本事業で予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、既存の排水施設により、濁水の流出を防止することで、重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
騒音・低周波音	騒音	工事	工事用車両の走行	×	工事用車両の走行に伴う騒音の影響のおそれがあるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
			建設機械の稼働	×	建設機械の稼働に伴う騒音の影響のおそれがあるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
		供用	施設の稼働	×	事業実施想定地域の周辺には複数の集落が存在するものの、パワーコンディショナー等の騒音を発生する施設の配置計画や低騒音型施設の採用等により、影響を低減できることから、早期段階配慮事項として選定しない。

表 2.4.102(2) 早期段階配慮事項として選定する理由又は選定しない理由

環境要素		環境影響要因		選定	選定する理由又は選定しない理由
振動	振動	工事	工事用車両の走行	×	工事用車両の走行に伴う振動の影響のおそれがあるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
			建設機械の稼働	×	建設機械の稼働に伴い振動の影響のおそれがあるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
廃棄物等	建設工事に伴う副産物、残土	工事	造成等の施工による一時的な影響	×	本事業では新たな土地の造成は原則として行わないこと、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
		供用	設置物の撤去	×	事業終了後の太陽電池の撤去等により産業廃棄物が発生する可能性があるが、今後の太陽電池の廃棄や再資源化等の方策については、国等のガイドラインに沿って適切に検討し、今後の手続きでそれらを明らかにするため、早期段階配慮事項として選定しない。
植物	植生、貴重な種及び群落、侵略的外来種及び生物多様性	工事	造成等の施工による一時的な影響	×	事業実施想定地域及びその周辺には重要な種及び重要な群落が確認されており、造成等の施工による一時的な影響のおそれがあるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
		存在	地形の改変及び施設の使用	○	事業実施想定地域及びその周辺において、重要な種及び重要な群落が確認されており、地形の改変及び施設の使用による影響のおそれがあることから、早期段階配慮事項として選定する。
動物	貴重な種、侵略的外来種及び生物多様性	工事	造成等の施工による一時的な影響	×	事業実施想定地域及びその周辺には重要な種及び注目すべき生息地が確認されており、造成等の施工による一時的な影響のおそれがあるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
		存在	地形の改変及び施設の使用	○	事業実施想定地域及びその周辺において、重要な種及び注目すべき生息地が確認されており、地形の改変及び施設の使用による影響のおそれがあることから、早期段階配慮事項として選定する。
生態系	既存生態系、貴重な生態系、生態系の構造	工事	造成等の施工による一時的な影響	×	事業実施想定地域及びその周辺において、重要な自然環境のまとまりの場が確認されており、造成等の施工による一時的な影響のおそれがあるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
		存在	地形の改変及び施設の使用	○	事業実施想定地域及びその周辺において、重要な自然環境のまとまりの場が確認されており、地形の改変及び施設の使用による影響のおそれがあることから、早期段階配慮事項として選定する。

表 2.4.102(3) 早期段階配慮事項として選定する理由又は選定しない理由

環境要素		環境影響要因		選定	選定する理由又は選定しない理由
人と自然との触れ合い活動の場	人と自然との触れ合い活動の場の改変、自然的特性、利用状況	工事	工事用車両の走行	×	事業実施想定地域及びその周辺において、人と自然との触れ合い活動の場が確認されており、工事用車両の走行による影響のおそれがあるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
		存在	地形の改変及び施設の使用	×	事業実施想定地域及びその周辺において、人と自然との触れ合い活動の場が確認されているが、本事業で人と自然との触れ合い活動の場へ直接改変等を行わないため、早期段階配慮事項として選定しない。
景観	眺望変化、重要な景観資源	存在	地形の改変及び施設の使用	○	事業実施想定地域の周辺には、主要な眺望点及び景観資源が確認されており、地形の改変及び施設の使用に伴う景観への影響のおそれがあることから、早期段階配慮事項として選定する。
地球温暖化	温室効果ガス排出量	工事	工事用車両の走行	×	工事用資材等運搬車両の運行に伴い温室効果ガスが排出されるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
			建設機械の使用	×	建設機械の使用に伴い温室効果ガスが排出されるが、配慮書段階では配置や工事計画が決定していないこと、予定する工事の内容は他の一般的な太陽電池発電事業と同程度もしくはそれ以下であり、工事中の重大な環境影響が想定されないことから、早期段階配慮事項として選定しない。
反射光	反射光の範囲、時刻、時間数、影響を受けやすい場所	存在	地形の改変及び施設の使用	×	既存資料調査により、事業実施想定地域の周辺には複数の集落が存在し、施設の使用に伴い反射光の発生のおそれがあるが、太陽電池の設置角度等が未定であるため、今後の手続きで詳細を明らかにすることから、早期段階配慮事項として選定しない。
地盤	土地の安定性	存在	地形の改変及び施設の使用	○	事業実施想定地域に斜面等の土地の安定性に関連する地形・地質等が存在し、地形の改変及び施設の使用に伴い土地の安定性が変化することから、早期段階配慮事項として選定する。

4-4 環境配慮のための調査、予測及び評価の結果

4-4-1 植物

(1) 調査

① 調査事項

調査項目は、以下のとおりとした。

- ・植物の重要な種の状況
- ・重要な植物群落の状況
- ・巨樹・巨木林、天然記念物等の状況

② 調査方法

調査方法は、既存文献等の収集整理とした。

③ 調査地域

調査地域は、事業実施想定地域及びその周囲とした。

④ 調査結果

1) 植物の重要な種

既存資料調査の結果、重要な種として、260 種が確認された。

調査結果及び生態的特性から、これらの重要な種は表 2.4.103 の環境に生育すると考えられる。

表 2.4.103(1) 重要な種の主な生育環境

No.	目名	科名	種和名	選定基準		主な生育環境				
				環境省 RL	兵庫県 RDB	水辺	水田	樹林	草地	耕作地
1	ハラタケ	ヌメリガサ	アケボノタケ		注			○	○	
2		シメジ	ホンシメジ		注			○		
3		キシメジ	ハエトリシメジ		注			○		
4			マツタケモドキ	NT	注			○		
5		オオモミタケ	モミタケ		注			○		
6		モエギタケ	ナガエノスギタケ		注			○		
7	イグチ	イグチ	タマノリイグチ		A				○	
8	ビョウタケ	キンカクキン	キツネノワン		注			○		○
9			キツネノヤリタケ		注			○		○
10	チャワಂತケ	ベニチャワಂತケ	キツネノサカズキ	VU	A			○		
11		ノボリリュウタケ	ミミズサタケ		注			○		
12		フクロシトネタケ	シャグマアミガサタケ		注			○		
13		セイヨウショウロ	クルミタケ		調			○		
14			イボセイヨウショウロ		調			○		
15			ホンセイヨウショウロ		調			○		
16	ボタンタケ	バツカクキン	アブラゼミタケ		B			○		
17		オフィオコルディ セプス	ウメムラセミタケ		調			○		
18			ミヤマタンポタケ		調	○		○		
19	オオイシソウ	オオイシソウ	オオイシソウ	VU	A	○				
20	カワモズク	カワモズク	チャイロカワモズク	NT	C	○				
21			イシカワモズク	CR+EN	A	○				
22			アオカワモズク	NT	C	○				
23			ホソカワモズク	VU	A	○				
24			ユタカカワモズク	CR+EN	地	○				
25	シャジクモ	シャジクモ	シャジクモ	VU	C	○				
25			イトシャジクモ類	CR+EN	B	○				
27			ヒメフラスコモ	CR+EN	A	○				
28			ハデフラスコモ	CR+EN	A	○				
29			オオシャジクモ	CR+EN	A	○				
30	ウロコゴケ	クラマゴケモドキ	カギク ラマゴケモドキ		A	○		○		
31	センボンゴケ	センボンゴケ	ニセイシバイゴケ		B			○		
32		カタシロゴケ	ヒメイサワゴケ		B			○		
33	ホンマゴケ	ハリガネゴケ	ヤマハリガネゴケ		C			○	○	
34	イヌマゴケ	ツルゴケ	イトヒバゴケ	CR	A			○		○
35			ツルゴケ		B			○		
36		イタチゴケ	トガリイタチゴケ		B			○		
37		ナワゴケ	カトウゴケ	NT	A	○		○		
38			キノクニキヌタゴケ		C			○		
39		ハイヒモゴケ	イトゴケ		B	○		○		
40		ヒラゴケ	セイナンヒラゴケ		C			○		
41			フトスズゴケ		C			○		
42		ハイヒモゴケ	オオミミゴケ		A			○		
43		ミヤベゴケ	タチヒラゴケ		A			○		
44	ハイゴケ	ハイゴケ	ヒロハクシノハゴケ		A			○		
45			キノクニイチイゴケ		B	○		○		
46	アブラゴケ	アブラゴケ	イバラゴケ		C	○		○		
47	ヒカゲノカ ズラ	ヒカゲノカズラ	ミズスギ		C	○	○			
48			マンネンスギ		B			○		
49	ハナヤスリ	ハナヤスリ	アカハナワラビ		B			○		
50			ハマハナヤスリ		B	○			○	
51	マツバラ	マツバラ	マツバラ	NT	B			○		

表 2.4.103(2) 重要な種の主な生育環境

No.	目名	科名	種和名	選定基準		主な生育環境				
				環境省 RL	兵庫県 RDB	水辺	水田	樹林	草地	耕作地
52	ウラボシ	イノモトソウ	ヒメミズワラビ		C	○	○			
53			ナチシダ		B			○		
54		チャセンシダ	クモノスシダ		B	○		○		
55			イヌチャセンシダ		C	○		○		
56			アオガネシダ		A			○		
57			フクロシダ		C			○		
58		メシダ	ハコネシケチシダ		C			○		
59			カラクサイヌワラビ		B	○		○		
60			イッポウワラビ		A			○		
61			ミヤコイヌワラビ		C			○		
62			ルリデライヌワラビ		B			○		
63			ヒカゲワラビ		B			○		
64			ウスバミヤマノコギリシダ		B			○		
65			シロヤマシダ		C			○		
66		オシダ	ヒロハヤブソテツ		B			○		
67			ミヤマクマワラビ		C			○		
68			ナガバノイタチシダ		B			○		
69		ウラボシ	アオネカズラ		C			○		
70			イワヤナギシダ		C			○		
71			クリハラン		C			○		
72			イワオモダカ		A			○		
73	マツ	マツ	ゴヨウマツ		C			○		
74	スイレン	スイレン	サイコクヒメコウホネ		C	○				
75	センリョウ	センリョウ	キビヒトリシズカ	VU	B			○		
76			センリョウ		C			○		
77	コショウ	ドクダミ	ハンゲショウ		C	○				
78		ウマノスズクサ	ウマノスズクサ		C				○	
79			フタバアオイ		B			○		
80	オモダカ	サトイモ	ホソバテンナンショウ		C			○	○	
81			ムサシアブミ		B			○		
82			オオハング		C			○		
83		チシマゼキショウ	ハナゼキショウ		C	○				
84		トチカガミ	クロモ		C	○				
85			トチカガミ	NT	EX	○				
86			ミズオオバコ	NT	C	○	○			
87			セキショウモ		B	○				
88	ヤマノイモ	ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ		B			○		
89	クサスギカズラ	ラン	ヒナラン	VU	B	○			○	
90			マメヅタラン	NT	C			○		
91			ムギラン	NT				○		
92			エビネ	NT	C			○		
93			ナツエビネ	VU	B			○		
94			ギンラン		C			○		
95			キンラン	NT	C			○		
96			ササバギンラン		B			○		
97			クマガイソウ	VU	B			○		
98			カキラン		C	○				
99			ミズトンボ	NT	C	○				
100			ムカゴソウ	VU	B				○	

表 2.4.103(3) 重要な種の主な生育環境

No.	目名	科名	種和名	選定基準		主な生育環境				
				環境省 RL	兵庫県 RDB	水辺	水田	樹林	草地	耕作地
101	クサスギカズ ラ	ラン	アオフタバラン		B			○		
102			サギソウ	NT	B	○				
103			ヤマサギソウ	VU	C				○	
104			コバノトンボソウ		C				○	
105			トキソウ	NT	C	○				
106			クモラン		B			○		
107			カヤラン		C			○		
108		アヤメ	ノハナショウブ		C	○			○	
109			カキツバタ	NT	B	○				
110		ススキノキ	ユウスゲ		C	○			○	
111			ノカンゾウ		B				○	○
112	イネ	ガマ	ミクリ	NT	C	○				
113			ナガエミクリ	NT	C	○				
114		ホシクサ	ヤマトホシクサ	VU	C	○	○			
115		イグサ	ヒメコウガイゼキショウ		C	○	○			
116			ドロイ		B	○				
117		カヤツリグサ	コウキヤガラ		B	○				
118			ベニイトスゲ		C			○		
119			オオナキリスゲ		C			○		
120			ヤマジスゲ		B			○		
121			オオタマツリスゲ		B	○		○		
122			フサスゲ		B			○		
123			アオバスゲ		C			○		
124			タカネマスクサ		C			○		
125			マメスゲ		B				○	
126			センダイスゲ		B			○		
127			ホソバカンスゲ		B			○		
128			カガシラ	VU	B	○				
129			ヤリハリイ		C	○	○			
130			イヌクログワイ		B	○	○			
131			オオヌマハリイ		C	○				
132			イソヤマテンツキ		C	○				
133			ネビキグサ		B	○				
134			トラノハナヒゲ		B	○				
135			タイワンヤマイ		C		○			
136			フトイ		調	○				
137			ノグサ		C				○	
138			マツカサススキ		B	○				
139		イネ	ヒロハノハネガヤ		C			○		
140			イトスズメガヤ		調				○	○
141			ナルコビエ		C				○	
142			ウンヌケモドキ	NT	C				○	
143			ウンヌケ	VU	B				○	
144			ムツオレグサ		C	○	○			
145			イワタケソウ		B	○		○		
146			タチネズミガヤ		C			○		
147			スズメノコビエ		B				○	
148			タキキビ		C			○		
149			ムカゴツヅリ		B				○	
150			ウキシバ		C	○				

表 2.4.103(4) 重要な種の主な生育環境

No.	目名	科名	種和名	選定基準		主な生育環境				
				環境省 RL	兵庫県 RDB	水辺	水田	樹林	草地	耕作地
151	イネ	イネ	オニシバ		C	○				
152			ナガミノオニシバ		C	○				
153	キンポウゲ	ケシ	ヤマキケマン		A			○		
154		キンポウゲ	オオバショウマ		C			○		
155			カザグルマ	NT	B			○		
156			セツブンソウ	NT	C			○		
157			シギンカラマツ		B			○		
158	ツゲ	ツゲ	フッキソウ		B			○		
159	ユキノシタ	ユキノシタ	コガネネコノメソウ		C	○				
160		ベンケイソウ	ツメレンゲ	NT	C				○	○
161			メノマンネングサ		C	○				
162			タイトゴメ		C	○				
163	ハマビシ	ハマビシ	ハマビシ	EN	EW	○				
164	マメ	マメ	ハマナタマメ		B	○				
165			サイカチ		調	○		○		
166			マキエハギ		B				○	
167		ヒメハギ	ヒナノカンザシ		C	○				
168	バラ	グミ	ナツアサドリ		C			○		
169		クロウメモドキ	オオクマヤナギ		C			○		
170			ヨコグラノキ		B			○		
171			ハマナツメ	NT	調	○				
172		バラ	エドヒガン		C			○		
173			クサボケ		C			○	○	
174			バクチノキ		C			○		
175			カワラサイコ		B	○				
176			シロヤマブキ	EN	調			○		
177			モリイバラ		C			○		
178			オオバライチゴ		B			○		
179			コジキイチゴ		C			○		
180	ウリ	ウリ	ゴキヅル		C	○				
181	キントラノオ	トウダイグサ	ニシキソウ		C					○
182			イワタイゲキ		B	○				
183			タカトウダイ		B				○	
184		スミレ	コミヤマスミレ		C			○		
185	ムクロジ	ムクロジ	カジカエデ		C			○		
186			ヒナウチワカエデ		C			○		
187			ムクロジ		C			○		
188	アブラナ	アブラナ	オオマルバコンロンソウ	EN	B	○		○		
189			ミズタガラシ		B	○	○			
190			コイヌガラシ	NT	C	○	○			
191	ナデシコ	イソマツ	ハマサジ	NT	C	○				
192		タデ	サデクサ		C	○				
193			ヌカボタデ	VU	B	○				
194			ニオイタデ		B				○	
195			コギシギシ	NT	調	○				○
196		モウセンゴケ	イシモチソウ	NT	C	○				
197			コモウセンゴケ		C	○				
198		ナデシコ	ワチガイソウ		B			○		
199		ヒユ	ホソバハマアカザ		C	○				
200			イソホウキギ		EX	○				

表 2.4.103(5) 重要な種の主な生育環境

No.	目名	科名	種和名	選定基準		主な生育環境				
				環境省 RL	兵庫県 RDB	水辺	水田	樹林	草地	耕作地
201	ナデシコ	ヒユ	イワアカザ	CR	調	○				
202			ハママツナ		B	○				
203	ツツジ	カキノキ	トキワガキ		B			○		
204		サクラソウ	クサレダマ		B	○				
205			タイミンタチバナ		C			○		
206			ウメガサソウ		B			○		
207		ツツジ	シャクジョウソウ		C			○		
208			ホンシャクナゲ		C			○		
209			ヒカゲツツジ		C			○		
210			アカヤシオ		B			○		
211		アカネ	ジュズネノキ		C			○		
212			サツマイナモリ		B			○		
213			ヤマトグサ		A			○		
214			カギカズラ		B			○		
215	リンドウ	リンドウ	ムラサキセンブリ	NT	B				○	
216			イヌセンブリ	NT	C	○				
217		マチン	チトセカズラ	VU	C			○		
218			ホウライカズラ		C			○		
219			アイナエ		C	○				
220		キョウチクトウ	ケテイカカズラ		調			○		
221			コカモメヅル		C				○	
222	ナス	ナス	ヤマホロシ		C			○		
223	ムラサキ	ムラサキ	サウルリソウ		A			○		
224	シソ	モクセイ	セツツイボタ		調			○		
225		オオバコ	アブノメ		C	○	○			
226			キクガラクサ	NT	B			○		
227			クワガタソウ		B			○		
228			イヌノフグリ	NT	C				○	
229			カワヂシャ	NT	C	○	○			
230		ゴマノハグサ	オオヒナノウスツボ		B			○	○	
231		シソ	ヤマジソ	NT	C				○	
232			ミゾコウジュ	NT	B				○	○
233			ミヤマナミキ		B			○		
234			ナミキソウ		B	○				
235		ハマウツボ	ゴマクサ	NT	B	○				
236			クチナシグサ		C			○		
237			キヨシミウツボ		B			○		
238			オオヒキヨモギ	NT					○	
239		タヌキモ	ノタヌキモ	VU	C	○				
240			ムラサキミミカキグサ	NT	C	○				
241		キツネノマゴ	オギノツメ		B	○				
242			スズムシバナ		B			○		
243	モチノキ	モチノキ	タマミズキ		C			○		
244	キク	ミツガシワ	アサザ	NT	B	○				
245		キク	ヌマダイコン		C	○				
246			ホソバナヤマハハコ		A				○	
247			カワラハハコ		B	○				
248			フクド	NT	B	○				
249			ヒメヨモギ		B				○	
250			ヤマジノギク		C				○	

表 2.4.103(6) 重要な種の主な生育環境

No.	目名	科名	種和名	選定基準		主な生育環境				
				環境省 RL	兵庫県 RDB	水辺	水田	樹林	草地	耕作地
251	キク	キク	オケラ		C				○	
252			ノジギク		C	○				
253			サケバヒヨドリ		調			○	○	
254			オグルマ		C	○	○			
255			ノニガナ		C		○			○
256			ハマニガナ		C	○				
257			ハンカイソウ		C			○	○	
258	セリ	トベラ	コヤスノキ	NT	C			○		
259		セリ	ボタンボウフウ		B	○				
260	マツムシソウ	スイカズラ	ナベナ		B			○	○	
合計	46 目	98 科	260 種	66 種	258 種	101 種	15 種	141 種	40 種	10 種

注：2. 環境省 RL CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧

注：3. 兵庫県 RDB Ex：絶滅 EW：野生絶滅（維管束植物に適用） A：Aランク B：Bランク C：Cランク
地：地域絶滅危惧種（淡水藻類に適用） 注：要注目 調：要調査

2) 重要な植物群落

事業実施想定地域には重要な植物群落は存在しないが、表 2.4.104 及び図 2.4.49 のとおり、北側に八徳山八葉寺のコジイ群落等がある。

表 2.4.104 事業実施想定地域及びその周辺の重要な植物群落等

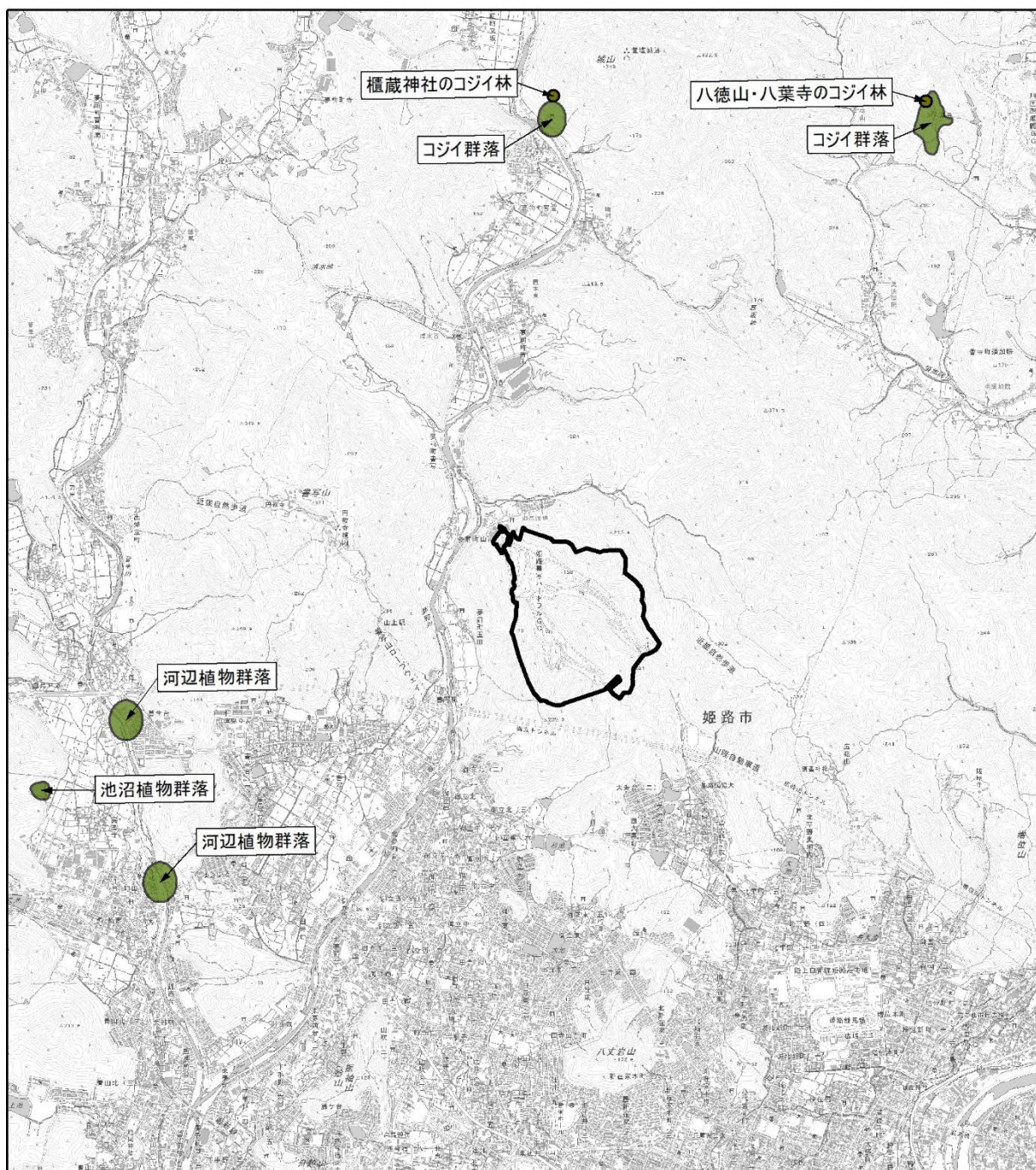
名称	場所	選定基準
河辺植物群落	菅生川町田橋下流右岸	C
河辺植物群落	菅生川新六角川下流左岸	C
河辺植物群落	市川山陽自動車道上流右岸	C
河辺植物群落	市川大橋下流左岸	C
コジイ群落	置塩城跡、櫃蔵神社	B
コジイ群落	八徳山八葉寺	B
池沼植物群落	伯母池	注
櫃蔵神社のコジイ林	櫃蔵神社	AB
八徳山・八葉寺のコジイ林	八徳山・八葉寺	AB

3) 巨樹・巨木林、天然記念物等

事業実施想定地域には巨樹・巨木林、天然記念物は存在しないが、表 2.4.105 及び図 2.4.50 のとおり、西側の書写山周辺にスギやツガの巨樹がある。

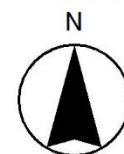
表 2.4.105 事業実施想定地域及びその周囲の巨樹・巨木林

No.	名称または樹種名	幹周囲 (cm)	樹高 (m)	備考
1	イチョウ	680	39	
2	スギ	470	28	
3	スギ	455	37	
4	ムクノキ	480	26	
5	イチョウ	445	27	
6	スギ	410	22	
7	スギ	835	35	
8	スギ	510	22	
9	ツガ	390	25	
10	モミ	300	32	
11	ムクノキ	470	25	
12	スギ	400	37	
13	ツガ	360	29	
14	スギ	380	30	
15	スギ	370	38	
16	スギ	360	35	
17	ムクノキ	600	17	
18	ビャクシン (千年松)	330	16	
19	ケヤキ	360	18	
20	ムクノキ	350	21	
21	ムクノキ	340	21	
22	ムクノキ	350	21	
23	スギ	300	30	
24	カヤ	420	14	
25	ムクノキ	410	15	
26	クスノキ	340	22	
27	子安の木 群落	—	—	姫路市指定天然記念物
28	檀蔵神社の大イチョウ	650	30	姫路市指定天然記念物
29	田川神社櫨の木	600	37	姫路市指定天然記念物



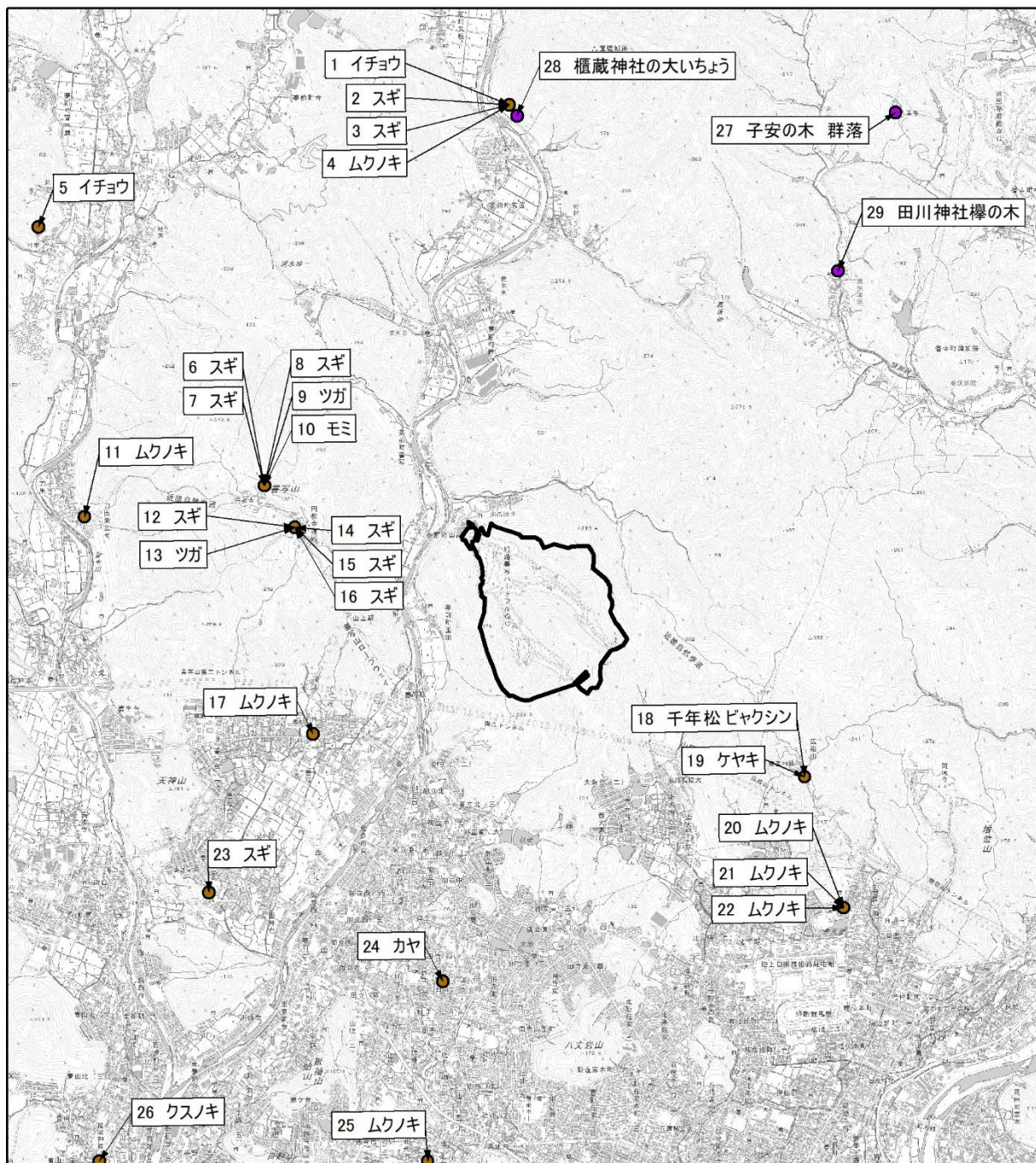
凡例

- 事業実施想定地域
- 重要な植物群落(特定植物群落)
- 重要な植物群落(兵庫県RDB2020)



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.49
重要な植生群落等

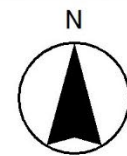


凡例

事業実施想定地域

巨樹・巨木林

姫路市天然記念物



0 500 1,000 2,000 m

図 2.4.50

巨樹・巨木林、天然記念物

図中の番号は、表 2.4.105 の No. を表す。

(2) 予測

① 予測事項

- ・植物の重要な種への影響
- ・重要な植物群落への影響
- ・巨樹・巨木林、天然記念物等への影響

② 予測方法

事業実施想定地域と重要な種、重要な植物群落、巨樹・巨木林、天然記念物等の重ね合わせにより直接改変に伴う影響の程度を整理するものとした。

③ 予測地域

予測地域は、調査地域と同様とした。

④ 予測結果

1) 植物の重要な種への影響

事業実施想定地域には主にゴルフ場・芝地、アベマキーコナラ群集、モチツツジ・アカマツ群集等が広く分布している。調査結果に示す重要な種の主な生育環境を基に、重要な種への影響を予測した結果は表 2.4.106 のとおりである。

なお、A 案、B 案ともに、事業実施に伴う改変により影響を受ける生育環境は同様のため、A 案、B 案ともに同様の予測結果である。

表 2.4.106(1) 重要な種への影響の予測結果

主な生育環境	重要な種	予測結果
水辺	ミヤマタンポタケ、オオイシソウ、チャイロカワモズク、イシカワモズク、アオカワモズク、ホソカワモズク、ユタカカワモズク、シャジクモ、イトシャジクモ類、ヒメフラスコモ、ハデフラスコモ、オオシャジクモ、カギクラマゴケモドキ、カトウゴケ、イトゴケ、イバラゴケ、キノクニイチイゴケ、ミズスギ、ハマハナヤスリ、ヒメミズワラビ、クモノスシダ、イヌチャセンシダ、カラクサイヌワラビ、サイコクヒメコウホネ、ハンゲショウ、ハナゼキショウ、クロモ、トチカガミ、ミズオオバコ、セキショウモ、ヒナラン、カキラン、ミズトンボ、サギソウ、トキソウ、ノハナショウブ、カキツバタ、ユウスゲ、ミクリ、ナガエミクリ、ヤマトホシクサ、ヒメコウガイゼキショウ、ドロイ、コウキヤガラ、オオタマツリスゲ、カガシラ、ヤリハリイ、イヌクログワイ、オオヌマハリイ、イソヤマテンツキ、ネビキグサ、トラノハナヒゲ、フトイ、マツカサススキ、ムツオレグサ、イワタケソウ、ウキシバ、オニシバ、ナガミノオニシバ、コガネネコノメソウ、メノマンネングサ、タイトゴメ、ハマビシ、ハマナタマメ、サイカチ、ヒナノカンザシ、ハマナツメ、カワラサイコ、ゴキヅル、イワタイゲキ、オオマルバコンロンソウ、ミズタガラシ、コイヌガラシ、ハマサジ、サデクサ、ヌカボタデ、コギシギシ、イシモチソウ、コモウセンゴケ、ホソバハマアカザ、イソホウキギ、イワアカザ、ハママツナ、クサレダマ、イヌセンブリ、アイナエ、アブノメ、カワヂシャ、ナミキソウ、ゴマクサ、ノタヌキモ、ムラサキミミカキグサ、オギノツメ、アサザ、ヌマダイコン、カワラハハコ、フクド、ノジギク、オグルマ、ハマニガナ、ボタンボウフウ	事業実施想定地域内にため池が存在し、ため池の直接改変を行う事業計画とはなっていないものの、ため池周辺の土地利用の変化等に伴い、生育環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。

表 2.4.106(2) 重要な種への影響の予測結果

主な生育環境	重要な種	予測結果
水田	ミズスギ、ヒメミズワラビ、ミズオオバコ、ヤマトホシクサ、ヒメコウガイゼキショウ、ヤリハリイ、イヌクログワイ、タイワンヤマイ、ムツオレグサ、ミズタガラシ、コイヌガラシ、アブノメ、カワヂシャ、オグルマ、ノニガナ	事業実施想定地域内に主な生育環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
樹林	アケボノタケ、ホンシメジ、ハエトリシメジ、マツタケモドキ、モミタケ、ナガエノスギタケ、キツネノワン、キツネノヤリタケ、キツネノサカズキ、ミミズサタケ、シャグマアミガサタケ、クルミタケ、イボセイヨウショウロ、ホンセイヨウショウロ、アブラゼミタケ、ウメムラセミタケ、ミヤマタンポタケ、カギクラマゴケモドキ、ニセイシバイゴケ、ヒメイサワゴケ、ヤマハリガネゴケ、イトヒバゴケ、ツルゴケ、トガリイタチゴケ、カトウゴケ、キノクニキヌタゴケ、イトゴケ、オオミミゴケ、セイナンヒラゴケ、フトスズゴケ、タチヒラゴケ、イバラゴケ、ヒロハクシノハゴケ、キノクニイチイゴケ、マンネンスギ、アカハナワラビ、マツバラン、ナチシダ、クモノスシダ、イヌチャセンシダ、アオガネシダ、フクロシダ、ハコネシケチシダ、カラクサイヌワラビ、イッポンワラビ、ミヤコイヌワラビ、ルリデライヌワラビ、ヒカゲワラビ、ウスバミヤマノコギリシダ、シロヤマシダ、ヒロハヤブソテツ、ミヤマクマワラビ、ナガバノイタチシダ、アオネカズラ、イワヤナギシダ、クリハラン、イワオモダカ、ゴヨウマツ、キビヒトリシズカ、センリョウ、フタバアオイ、ホソバテンナンショウ、ムサシアブミ、オオハング、ヒナノシヤクジョウ、マメヅタラン、ムギラン、エビネ、ナツエビネ、ギンラン、キンラン、ササバギンラン、クマガイソウ、アオフタバラン、クモラン、カヤラン、ベニイトスゲ、オオナキリスゲ、ヤマジスゲ、オオタマツリスゲ、フサスゲ、アオバスゲ、タカネマスキサ、センダイスゲ、ホソバカンスゲ、ヒロハノハネガヤ、イワタケソウ、タチネズミガヤ、タキキビ、ヤマキケマン、オオバショウマ、カザグルマ、セツブンソウ、シギンカラマツ、フッキソウ、サイカチ、ナツアサドリ、オオクマヤナギ、ヨコグラノキ、エドヒガン、クサボケ、バクチノキ、シロヤマブキ、モリイバラ、オオバライチゴ、コジキイチゴ、コミヤマスマレ、カジカエデ、ヒナウチワカエデ、ムクロジ、オオマルバコンロンソウ、ワチガイソウ、トキワガキ、タイミンタチバナ、ウメガサソウ、シャクジョウソウ、ホンシヤクナゲ、ヒカゲツツジ、アカヤシオ、ジュズネノキ、サツマイナモリ、ヤマトグサ、カギカズラ、チトセカズラ、ホウライカズラ、ケテイカカズラ、ヤマホロシ、サウルリソウ、セツツイボタ、キクガラクサ、クワガタソウ、オオヒナノウスツボ、ミヤマナミキ、クチナシグサ、キヨスミウツボ、スズムシバナ、タマミズキ、サケバヒヨドリ、ハンカイソウ、コヤスノキ、ナベナ	事業実施想定地域内に主な生育環境が存在し、その一部が改変されることから、生育環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
草地	アケボノタケ、タマノリイグチ、ヤマハリガネゴケ、ハマハナヤスリ、ウマノスズクサ、ホソバテンナンショウ、ヒナラン、ムカゴソウ、ヤマサギソウ、コバノトンボソウ、ノハナショウブ、ユウスゲ、ノカンゾウ、マメスゲ、ノグサ、イトスズメガヤ、ナルコビエ、ウンヌケモドキ、ウンヌケ、スズメノコビエ、ムカゴツヅリ、ツメレンゲ、マキエハギ、クサボケ、タカトウダイ、ニオイタデ、ムラサキセンブリ、コカモメヅル、イヌノフグリ、オオヒナノウスツボ、ヤマジソ、ミゾコウジュ、オオヒキヨモギ、ホソバノヤマハハコ、ヒメヨモギ、ヤマジノギク、オケラ、サケバヒヨドリ、ハンカイソウ、ナベナ	事業実施想定地域内に主な生育環境が存在し、その一部が改変されることから、生育環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
耕作地	キツネノワン、キツネノヤリタケ、イトヒバゴケ、ノカンゾウ、イトスズメガヤ、ツメレンゲ、ニシキソウ、コギシギシ、ミゾコウジュ、ノニガナ	事業実施想定地域内に主な生育環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。

2) 重要な植物群落への影響

重要な植物群落は、事業実施想定地域内に存在しないことから、A 案、B 案ともに直接改変による影響はないと予測する。

3) 巨樹・巨木林、天然記念物等への影響

巨樹・巨木林、天然記念物等は、事業実施想定地域内に存在しないことから、A 案、B 案ともに直接改変による影響はないと予測する。

(3) 評価

① 評価手法

調査及び予測結果に基づき、複数案ごとに重大な環境影響の有無や程度について評価した。

② 評価結果

事業実施想定地域及びその周囲に主な生育環境が存在する重要な種(260 種)のうち、水田、耕作地を主な生育環境とする重要な種については、事業実施想定地域内に生育環境が存在しないことから、直接改変による生育環境の変化に伴う影響はない。一方、水辺、樹林、草地を主な生育環境とする重要な種については、一部直接改変による生育環境の変化に伴う影響が生じる可能性がある。重要な植物群落及び巨樹・巨木林、天然記念物は、事業実施想定地域内に存在しないことから、直接改変による影響はない。

また、A 案、B 案ともに、事業実施想定地域や改変により影響を受ける生育環境は同様のため、A 案、B 案ともに同様の予測結果である。

なお、現時点では、これらの種については、早期事前調査による既存資料の調査結果のため、事業実施想定地域内における詳細な生育状況の情報を得られていないことから、今後の概要書の手続き以降の調査、予測及び評価の結果等を踏まえた上で、以下の事項に留意し、具体的な環境保全措置を検討する。

- ・現地調査により植物の生育状況を把握し、生育が確認された重要な種に対して環境保全措置を検討する。なお、現地調査の実施にあたっては、今後検討される事業実施想定地域に主な生育環境が存在する種の生態的特性を踏まえた調査を検討する。
- ・今後の太陽電池等の配置等においては、重要な種の生育状況等を踏まえて検討する。
- ・ゴルフ場等の既改変の土地の活用により、樹木の伐採面積の最小化を図ることで、直接改変による重要な種の生育環境への影響の低減を図る。
- ・工事に使用する重機のタイヤ等の足回りに付着した泥の洗浄、緑化を行う際には地域の在来種を極力使用、種子吹付を行う際には侵略的外来種の種子が含まれていないものを使用等により、事業実施想定地域内に持ち込まないよう配慮する。
- ・工事用車両の事業実施想定地域からの退出時の足回り洗浄の実施、太陽光パネル配置箇所周辺の定期的な除草(草刈り)による侵略的外来種の異常繁茂抑制等により、事業実施想定地域外に持ち出さないよう配慮する。

今後の手続において以上を着実に実施することにより、A 案、B 案ともに事業による重大な影響は回避又は低減できる可能性が高いものと評価する。

4-4-2 動物

(1) 調査

① 調査事項

調査項目は、以下のとおりとした。

- ・重要な種の生息状況
- ・注目すべき生息地の分布状況

② 調査方法

調査方法は、既存文献等の収集整理とした。

③ 調査地域

調査地域は、事業実施想定地域及びその周囲とした。

④ 調査結果

1) 重要な種の生息状況

調査の結果、事業実施想定地域及びその周囲において、重要な種として哺乳類 5 種、鳥類 156 種、爬虫類 7 種、両生類 12 種、昆虫類 147 種、魚類 31 種、陸産貝類 31 種、底生動物 108 種が確認された。

調査結果及び生態的特性から、これらの重要な種は表 2.4.107～表 2.4.114 の環境を主な生息環境とすると考えられる。

表 2.4.107 重要な種の主な生息環境（哺乳類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			主な生息環境					
				種の保存法	環境省 RL	兵庫県 RL	河川	樹林	草地	市街地	洞窟等	高山
1	モグラ	モグラ	ミズラモグラ		NT	調						○
2	コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ			調		○		○	○	
3		ヒナコウモリ	ヒナコウモリ			調		○		○	○	
4	ネコ	クマ	ツキノワグマ			注		○				
5	ネズミ	ネズミ	スミスネズミ			調		○				
合計	4 目	5 科	5 種	0 種	1 種	5 種	0 種	4 種	0 種	2 種	2 種	1 種

注：1. 環境省 RL

NT：準絶滅危惧

注：2. 兵庫県 RL

注：要注目、調：要調査

表 2.4.108(1) 重要な種の主な生息環境（鳥類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準				主な生息環境									
				文化財 保護法	種の 保存法	環境 省 RL	兵庫 県 RL	海 域	海 岸	水 辺	水 田	樹 林	草 地	耕 作 地	市 街 地	高 山	
1	キジ	キジ	ウズラ			VU	A						○	○			
2			ヤマドリ				注						○	○			
3	カモ	カモ	ヒシクイ	天		NT	B		○	○	○	○					
4			コクガン	天		VU	注	○	○	○	○						
5			コハクチョウ				C	○	○	○	○						
6			オオハクチョウ				B	○	○	○	○						
7			ツクシガモ			DD	注	○	○	○							
8			オシドリ				B			○		○					
9			アメリカヒドリ				C	○	○	○			○				
10			シマアジ				C			○			○				
11			トモエガモ			DD	C		○	○							
12			ホシハジロ				NT		○	○	○						
13			アカハジロ				CR	注	○	○	○	○					
14			キンクロハジロ				VU		○	○	○						
15			スズガモ				NT		○	○	○						
16			ビロードキンクロ					B	○	○	○						
17			クロガモ					C	○	○	○						
18			ホオジロガモ					注	○	○	○						
19	アビ	アビ	アビ				調	○									
20			オオハム				調	○		○							
21	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	特天	国内	EN	A			○	○	○					
22	カツオドリ	ウ	ヒメウ			EN	B	○	○								
23	ペリカン	サギ	サンカノゴイ			CR	A			○							
24			ヨシゴイ			DD	A			○	○						
25			オオヨシゴイ		国内	CR	調			○							
26			ミゾゴイ			NT	A			○		○					
27			ゴイサギ			VU				○	○						
28			ササゴイ			VU	C			○	○						
29			アマサギ			EN				○	○		○				
30			チュウサギ			NT	C			○	○		○	○			
31			コサギ			VU				○	○	○					
32			クロサギ				B			○	○						
33			カラシラサギ				注			○	○	○					
34	ツル	クイナ	クイナ				B			○	○						
35			ヒメクイナ			DD	調			○	○						
36			ヒクイナ			NT	B			○	○						
37			バン			VU				○	○						
38	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ				C					○					
39			カッコウ				注					○	○				
40	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	A					○	○				
41	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ			VU			○						○		
42			アマツバメ			VU			○				○		○		
43			ヒメアマツバメ				B						○	○	○		
44	チドリ	チドリ	ケリ			DD				○	○		○	○			
45			ダイゼン			C		○	○	○							
46			イカルチドリ			B			○								
47			シロチドリ			VU	A		○	○							
48			オオメダイチドリ			B		○									
49		ミヤコドリ	ミヤコドリ				C		○								
50		セイタカシギ	セイタカシギ			DD	B		○	○	○						

表 2.4.108(2) 重要な種の主な生息環境（鳥類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準				主な生息環境								
				文化財 保護法	種の 保存法	環境 省 RL	兵庫 県 RL	海 域	海 岸	水 辺	水 田	樹 林	草 地	耕 作 地	市 街 地	高 山
51	チドリ	シギ	ヤマシギ				B			○		○	○	○		
52			オオシギ			NT	B			○			○			
53			チュウシギ				B			○	○	○				
54			タシギ				C			○	○					
55			オグロシギ				B			○	○					
56			オオソリハシギ			VU	B		○	○						
57			ダイシャクシギ				B		○	○						
58			ホウロクシギ			VU	B		○	○						
59			ツルシギ			EN	B		○	○	○					
60			アカアシシギ			CR	B		○	○						
61			コアオアシシギ				B		○	○	○					
62			アオアシシギ				B		○	○	○		○			
63			タカブシギ			VU	B			○	○					
64			ソリハシギ				B		○	○	○					
65			イソシギ				C		○	○						
66			キョウジョシギ			NT	C		○	○	○					
67			オビシギ				B		○	○	○					
68			コオビシギ				B		○	○	○					
69			ミユビシギ				B		○							
70			オジロトウネン				B			○	○					
71			ヒバリシギ				B			○	○					
72			ウズラシギ				B		○	○	○					
73			サルハマシギ				B		○	○	○					
74			ハマシギ			VU	C		○	○						
75			ヘラシギ		国内	CR	B		○	○						
76			キリアイ				B		○	○	○					
77			エリマキシギ				B		○	○	○					
78			アカエリヒレアシシギ				調		○	○						
79		タマシギ	タマシギ			DD	B			○	○					
80		ツバメチドリ	ツバメチドリ			VU	B		○	○			○			
81		カモメ	ズグロカモメ			VU	B		○							
82			ウミネコ			VU		○	○							
83			オオアジサシ			EN	注	○	○							
84			コアジサシ			EN	A		○							
85			アジサシ				調		○	○						
86			クロハラアジサシ				注		○	○						
87			ハズロクロハラアジサシ				調		○	○	○					
88	タカ	ミサゴ	ミサゴ				B	○	○	○						
89		タカ	ハチクマ			DD	B				○	○	○	○		
90			オジロワシ	天	国内	VU	B		○	○						
91			チュウヒ		国内	EN	A			○	○		○	○		
92			ハイイロチュウヒ				C			○			○			
93			ツミ				B					○	○	○		
94			ハイタカ			NT	C					○	○	○		
95			オオタカ			NT	B					○	○	○	○	
96			サシバ			VU	B				○	○	○	○		
97			ノスリ				B					○	○	○		
98			ケアシノスリ				B						○	○		

表 2.4.108(3) 重要な種の主な生息環境（鳥類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準				主な生息環境								
				文化財 保護法	種の 保存法	環境 省 RL	兵庫 県 RL	海 域	海 岸	水 辺	水 田	樹 林	草 地	耕 作 地	市 街 地	高 山
99	タカ	タカ	イヌワシ	天	国内	EN	A					○	○			
100			クマタカ		国内	EN	A					○				
101	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク				B					○				
102			コノハズク				A					○				
103			アオバズク				B					○				
104			トラフズク				B					○				
105			コミミズク				B					○				
106	サイチョウ	ヤツガシラ	ヤツガシラ				注						○	○		
107	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン				B			○		○				
108			カワセミ				注			○						
109			ヤマセミ			VU	A			○						
110		ブッポウソウ	ブッポウソウ			EN	A					○				
111	キツツキ	キツツキ	アリスイ				B					○	○	○		
112			アカゲラ				注					○				
113			アオゲラ				注					○				
114	ハヤブサ	ハヤブサ	コチョウゲンボウ				C		○			○	○	○		
115			チゴハヤブサ				C					○	○	○		
116			ハヤブサ		国内	NT	B		○				○	○	○	
117	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ		国内	DD	注					○				
118		サンショウクイ	サンショウクイ				注					○				
119		モズ	チゴモズ			EN	調					○				
120			アカモズ		国内	CR	C					○	○			
121		カラス	コクマルガラス				注					○	○	○		
122		ツリスガラ	ツリスガラ				B						○			
123		シジュウカラ	コガラ				注					○				
124		ムシクイ	メボソムシクイ				B					○				○
125		センニュウ	マキノセンニュウ			VU	調						○			
126			シマセンニュウ				注		○				○			
127			オオセッカ		国内	EN			○				○			
128			エゾセンニュウ				調					○	○			
129		ヨシキリ	オオヨシキリ				注			○			○			
130			コヨシキリ			NT	C			○			○			
131		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ				C					○				
132		キミシリ	キミシリ				A					○				
133		ムクドリ	コムクドリ				注					○				
134		カワガラス	カワガラス				C			○						
135		ヒタキ	マミジロ				B					○				
136			コマドリ				A					○				
137			コルリ				A					○				
138			ルリビタキ				A					○				
139			ジョウビタキ				注				○	○	○	○	○	
140			ノビタキ				A				○		○	○		
141			コサメビタキ				C					○				
142			キビタキ				注					○	○	○	○	
143			オジロビタキ				注					○				
144			オオルリ				注					○				
145		イワヒバリ	カヤクグリ				A					○				
146		スズメ	ニューナイスズメ				注				○	○	○	○	○	
147		セキレイ	ビンズイ			NT						○	○			

表 2.4.108(4) 重要な種の主な生息環境（鳥類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準				主な生息環境								
				文化財 保護法	種の 保存法	環境 省 RL	兵庫 県 RL	海 域	海 岸	水 辺	水 田	樹 林	草 地	耕 作 地	市 街 地	高 山
148	スズメ	アトリ	ベニヒワ				調					○	○			
149			オオマシコ				注					○	○	○		
150			イスカ				注					○				
151			コイカル				C					○			○	
152		ホオジロ	ホオアカ				A			○			○	○		
153			カシラダカ			EN						○	○	○		
154			ノジコ			NT	A					○				○
155			アオジ				A					○	○			
156			クロジ				A					○				
合計	18 目	44 科	156 種	5 種	11 種	64 種	142 種	18 種	59 種	81 種	45 種	60 種	49 種	26 種	8 種	4 種

注：1. 文化財保護法

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

注：2. 種の保存法

国内：国内希少野生動植物種

注：3. 環境省 RL

CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注：4. 兵庫県 RL

A：Aランク、C：Cランク、注：要注目、調：要調査

表 2.4.109 重要な種の主な生息環境（両生類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準				主な生息環境					
				文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RL	兵庫県 RL	河 川	池	湿 地	水 田	樹 林	草 地
1	有尾	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ			NT	B	○		○		○	
2			セトウチサンショウウオ		特定 2	VU	B	○			○		
3		オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	特天	国際	VU	B	○					
4		イモリ	アカハライモリ			NT	注		○	○	○		
5	無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル				C		○	○	○	○	○
6		アカガエル	タゴガエル				C			○		○	
7			ニホンアカガエル				C			○	○	○	○
8			ヤマアカガエル				C	○	○	○	○	○	
9			ツチガエル				C		○	○	○		
10		アオガエル	シュレーゲルアオガエル				C		○	○	○	○	
11			モリアオガエル				B		○	○		○	
12			カジカガエル				C	○	○	○		○	
合計	2 目	6 科	12 種	1 種	2 種	4 種	12 種	5 種	7 種	10 種	7 種	8 種	2 種

注：1. 文化財保護法

特天：特別天然記念物

注：2. 種の保存法

国際：国際希少野生動植物種、特定2：特定第二種国内希少野生動植物種

注：3. 環境省 RL

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧

注：4. 兵庫県 RL

B：Bランク、C：Cランク、注：要注目

表 2.4.110 重要な種の主な生息環境（爬虫類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			主な生息環境						
				種の 保存 法	環境 省 RL	兵庫 県 RL	海岸	河川	池	水田	樹林	草地	市街 地
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ		VU	C		○	○	○			
2			ニホンスッポン		DD	調		○	○	○			
3	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ			注							○
4			タワヤモリ		NT	B	○				○		
5		ナミヘビ	ジムグリ			注					○	○	
6			シロマダラ			C					○		
7			ヒバカリ			注					○		
合計	2 目	3 科	7 種	0 種	3 種	7 種	1 種	2 種	2 種	2 種	4 種	1 種	1 種

注：1. 環境省 RL

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注：2. 兵庫県 RL

B：B ランク、C：C ランク、注：要注目、調：要調査

表 2.4.111(1) 重要な種の主な生息環境（昆虫類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			主な生息環境						
				種の 保存法	環境 省 RL	兵庫 県 RL	水 辺	水 田	樹 林	草 地	耕 作 地	市 街 地	
1	クモ	トタテグモ	キノボリトタテグモ		NT	A			○				
2			キシノウエトタテグモ		NT	A						○	
3		ヒメグモ	ハラダカツクネグモ			調			○				
4		ヨリメグモ	ヨリメグモ			注	○						
5		アシナガグモ	キンヨウグモ			C			○				
6		コガネグモ	コケオニグモ			C			○				
7			マメイタイセキグモ			調			○	○			
8			ムツトゲイセキグモ			C			○			○	
9			ゲホウグモ			調			○				
10		サシアシグモ	シノビグモ			B	○						
11		ヒトエグモ	ヒトエグモ			A						○	
12		ミヤマシボグモ	シボグモモドキ			B			○				
13		カニグモ	カトウツケオグモ			C			○	○			
14	カゲロウ	トビイロカゲロウ	オオトゲエラカゲロウ			注	○						
15		マダラカゲロウ	コウノマダラカゲロウ			注	○						
16			チノマダラカゲロウ			C	○						
17	トンボ	アオイトトンボ	コバネアオイトトンボ		EN	A	○						
18			オツネイトンボ			調	○	○					
19		イトトンボ	モートンイトトンボ		NT	B	○	○					
20			セスジイトトンボ			調	○						
21			ムスジイトトンボ			注	○						
22		モノサシトンボ	グンバイトンボ		NT	B	○						
23		ムカシトンボ	ムカシトンボ			C	○		○				
24		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ		NT	B	○		○				
25			アオヤンマ		NT	A	○						
26			ルリボシヤンマ			B	○						
27			マルタンヤンマ			調	○		○				
28			カトリヤンマ			C	○	○					
29			サラサヤンマ			B	○		○				
30		サナエトンボ	ミヤマサナエ			調	○						
31			キイロサナエ		NT	A	○						
32			ヒラサナエ			A	○		○				
33			アオサナエ			注	○						
34			ホンサナエ			B	○						
35			ヒメサナエ			B	○						
36			タベサナエ		NT		○		○				
37			フタスジサナエ		NT		○		○				
38			オグマサナエ		NT		○						
39		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ			B	○						
40		エゾトンボ	ハネビロエゾトンボ		VU	A	○						
41			タカネトンボ			調	○						
42			エゾトンボ			B	○		○				
43		トンボ	ベッコウトンボ	国内	CR	Ex	○						
44			ヨツボシトンボ			C	○						
45			ハッチョウトンボ			B	○						
46			ナニワトンボ		VU	注	○		○				
47			ノシメトンボ			調	○		○				
48			マイコアカネ			B	○						
49			マダラナニワトンボ		EN	A	○		○				
50			ミヤマアカネ			注	○	○					
51			オオキトンボ		EN	B	○						

表 2. 4. 111(2) 重要な種の主な生息環境 (昆虫類)

No.	目名	科名	種和名	選定基準			主な生息環境					
				種の 保存法	環境 省 RL	兵庫 県 RL	水 辺	水 田	樹 林	草 地	耕 作 地	市 街 地
52	カワゲラ	ヒロムネカワゲラ	ミヤマノギカワゲラ			C	○					
53	バッタ	クツワムシ	クツワムシ			注				○		
54		カネタタキ	イソカネタタキ			注	○					
55	ガロアムシ	ガロアムシ	ガロアムシ			注			○			
56	カメムシ	セミ	ハルゼミ			C			○			
57			エゾハルゼミ			注			○			
58		アメンボ	エサキアメンボ		NT	B	○					
59		ミズムシ (昆)	ホッケミズムシ		NT	A	○					
60			ナガミズムシ		NT	A	○					
61		コオイムシ	コオイムシ		NT		○	○				
62			タガメ	国内	VU	B	○	○				
63		タイコウチ	ヒメタイコウチ			A	○					
64			ミズカマキリ			注	○	○				
65		ナベブタムシ	トゲナベブタムシ		VU	A	○					
66		コバンムシ	コバンムシ	国内	EN	A	○					
67	アミメカゲロウ	ツノトンボ	キバネツノトンボ			B			○	○		
68	トビケラ	カタツムリトビケラ	カタツムリトビケラ			C	○					
69	チョウ	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ		EN	A			○	○		
70			ダイミョウセセリ			注			○	○		
71			ホソバセセリ			C				○		
72			ギンイチモンジセセリ		NT	B				○		
73			ヒメキマダラセセリ			注				○		
74			コキマダラセセリ			C				○		
75			ミヤマチャバネセセリ			C			○	○	○	
76			スジグロチャバネセセリ 北海道・本州・九州亜種		NT	A				○		
77			ヘリグロチャバネセセリ			B			○	○		
78		シジミチョウ	ウラゴマダラシジミ			注	○		○			
79			スギタニルリシジミ 本州亜種			注	○		○			
80			ヒロオビミドリシジミ			C			○			
81			ウラジロミドリシジミ			注			○			
82			ウラナミアカシジミ			注			○			
83			ミドリシジミ			注	○		○			
84			クロシジミ		EN	A			○			
85			キマダラルリツバメ		NT	B			○			
86			ゴイシシジミ			B			○			
87			クロツバメシジミ中国地 方・四国・九州内陸亜種		NT	B				○		
88			ウラキンシジミ			注			○			
89			シルビアシジミ		EN	C				○	○	
90		タテハチョウ	サカハチチョウ			注			○	○		
91			ウラギンスジヒョウモン		VU	B			○	○		
92			ヒメヒカゲ本州西部亜種		EN	A				○		
93			メスグロヒョウモン			注			○			
94			オオウラギンヒョウモン		CR	Ex				○		
95			キマダラモドキ		NT	B	○		○			
96			ウスイロヒョウモンモドキ	国内	CR	A				○		
97			ヒョウモンモドキ	国内	CR	Ex	○			○		
98			クモガタヒョウモン			C			○	○		
99			オオムラサキ		NT	C			○			
100			ウラナミジャノメ本土亜種		VU	B				○		

表 2. 4. 111(3) 重要な種の主な生息環境 (昆虫類)

No.	目名	科名	種和名	選定基準			主な生息環境						
				種の 保存法	環境 省 RL	兵庫 県 RL	水 辺	水 田	樹 林	草 地	耕 作 地	市 街 地	
101	チョウ	タテハチョウ	ヒメキマダラヒカゲ			注			○				
102		アゲハチョウ	ギフチョウ		VU	B			○				
103			オナガアゲハ			注			○				
104			ウスバシロチョウ			注			○	○			
105		シロチョウ	ツマグロキチョウ		EN	注	○	○		○	○		
106			スジボソヤマキチョウ			B			○				
107			ヤマトスジグロシロチ ョウ本州中・南部亜種			注			○				
108		ヤママユガ	オナガミズアオ本土亜種		NT				○				
109		ヤガ	コシロシタバ		NT				○				
110			クロシオキシタバ			注			○				
111			カバフキシタバ			C			○				
112	コウチュウ	オサムシ	セアカオサムシ		NT	調	○			○			
113			クロヒメヒョウタンゴミシ			調	○			○	○		
114			キベリマルクビゴミシ		EN	B	○			○			
115			ウミホソチビゴミシ		NT	C	○						
116		ハンミョウ	ヨドシロヘリハンミョウ		VU	A	○			○			
117			アイヌハンミョウ		NT	C	○			○			
118		ゲンゴロウ	コマルケシゲンゴロウ		NT		○	○					
119			マルケシゲンゴロウ		NT		○						
120			ケシゲンゴロウ		NT	C	○	○					
121			コウベツブゲンゴロウ		NT	調	○						
122			シャープツブゲンゴロウ		NT		○	○					
123			マルチビゲンゴロウ		NT		○						
124			メクラゲンゴロウ		DD	調	○					○	
125		ミズスマシ	オオミズスマシ		NT	調	○	○					
126			ヒメミズスマシ		EN	B	○						
127			ミズスマシ		VU	B	○	○					
128		コガシラミズムシ	クビボソコガシラミズムシ		DD	注	○						
129		ムカシゲンゴロウ	ムカシゲンゴロウ		DD	調	○	○					
130		ホソガムシ	チュウブホソガムシ		VU		○		○				
131		ガムシ	スジヒラタガムシ		NT		○						
132		クワガタムシ	マメクワガタ			C			○				
133		コガネムシ	ヤマトアオドウガネ			C	○		○				
134			シロスジコガネ			B	○		○				
135		ヒメドロムシ	ヨコミゾドロムシ		VU	C	○		○	○			
136		タマムシ	アオタマムシ			注			○				
137		コメツキムシ	ツシマヒメサビキコリ			調	○						
138			スナサビキコリ			調	○						
139		ホタル	ヒメボタル			注			○				
140		ツチハンミョウ	マメハンミョウ			C				○	○		
141		カミキリムシ	アサカミキリ		VU	A				○			
142		ハムシ	キンイロネクイハムシ		NT	C	○			○			
143		ゾウムシ	ハマベゾウムシ			調	○						
144	ハチ	コマユバチ	ウマノオバチ		NT	C			○				
145		ミツバチ	ウスリモンハナバチ			C	○						
146		ハキリバチ	トモンハナバチ			調				○			
合計	12 目	61 科	146 種	5 種	65 種	134 種	86 種	14 種	62 種	35 種	5 種	4 種	

注：1. 種の保存法

国内：国内希少野生動植物種

注：2. 環境省 RL

CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注：3. 兵庫県 RL

Ex：絶滅、A：Aランク、B：Bランク、C：Cランク、注：要注目、調：要調査

表 2.4.112 重要な種の主な生息環境（魚類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			主な生息環境			
				種の 保存法	環境省 RL	兵庫県 RL	河 川	池	湿 地	水 田
1	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ		EN	C	○			
2	コイ	コイ	ヤリタナゴ		NT	B	○			
3			アブラボテ		NT	C	○			
4			カネヒラ			B	○			
5			イチモンジタナゴ		CR	調	○	○		
6			シロヒレタビラ		EN	A	○			
7			ニッポンバラタナゴ		CR	A	○	○	○	
8			カワバタモロコ	特定 2	EN	A	○	○	○	
9			アブラハヤ			C	○	○		
10			カワヒガイ		NT	C	○			
11			ゼゼラ		VU	調	○			
12		ドジョウ	ドジョウ		NT	注	○	○	○	○
13		フクドジョウ	ナガレホトケドジョウ		EN	調	○			
14	ナマズ	アカザ	アカザ		VU	地	○			
15	サケ	シラウオ	シラウオ			A	○			
16		サケ	サツキマス（アマゴ）		NT	調	○			
17	ダツ	メダカ	ミナミメダカ		VU	注	○	○		○
18		サヨリ	クルメサヨリ		NT	A	○			
19	スズキ	ケツギョ	オヤニラミ		EN	C	○			
20		カジカ	カジカ		NT	C	○			
21		イソギンポ	トサカギンポ			調	○			
22		ハゼ	シロウオ		VU	A	○			
23			トビハゼ		NT	A	○			
24			マサゴハゼ		VU	A	○			
25			シモフリシマハゼ			調	○			
26			ヒナハゼ			調	○			
27			オオヨシノボリ			C	○			
28			ウキゴリ			C	○			
29			チクゼンハゼ		VU	A	○			
30			クボハゼ		EN	A	○			
31			エドハゼ		VU	A	○			
合計	6 目	13 科	31 種	1 種	23 種	31 種	31 種	6 種	3 種	2 種

注：1. 種の保存法

特定 2：特定第二種国内希少野生動植物種

注：2. 環境省 RL

CR：絶滅危惧ⅠA 類、EN：絶滅危惧ⅠB 類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧

注：3. 兵庫県 RL

A：A ランク、B：B ランク、C：C ランク、注：要注目、地：地域限定貴重種（貝類その他無脊椎動物・哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類のみ区分）、調：要調査

表 2.4.113 重要な種の主な生息環境（陸産貝類）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			主な生息環境				
				種の 保存法	環境 省 RL	兵庫 県 RL	河川	池	湿地	草地	樹林
1	アマオブネガイ	ゴマオカタニシ	ゴマオカタニシ		NT						○
2	新生腹足	ヤマタニシ	サドヤマトガイ		NT	注					○
3		ムシオイガイ	ハリマムシオイガイ			A					○
4			ミヤマムシオイガイ			A					○
5	マイマイ	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ		NT			○	○	○	
6		キバサナギガイ	ナガナタネガイ		LP	B					○
7		マキゾメガイ	マルナタネガイ			B					○
8			ヒラドマルナタネ			B					○
9		キセルガイモドキ	フトキセルガイモドキ			C					○
10			キセルガイモドキ			C					○
11		キセルガイ	オオギセル		NT						○
12			コンボウギセル			A					○
13			シリオレトノサマギセル		NT						○
14			エルベリギセル		DD						○
15			ホソヒメギセル		VU						○
16		ナメクジ	イボイボナメクジ		NT	A					○
17		ベッコウマイマイ	ヒメハリマキビ		NT						○
18			ウメムラシタラガイ		NT						○
19			オオウエキビ		DD						○
20			ヒメカサキビ		NT						○
21			ヒラベッコウガイ		DD						○
22			ハクサンベッコウ		DD						○
23			キヌツヤベッコウ		DD						○
24			レンズガイ		VU	A					○
25		ナンバンマイマイ	ケハダビロウドマイマイ		NT	B					○
26			トウカイビロウドマイマイ		DD	B					○
27			ヒメビロウドマイマイ		VU						○
28			トサビロウドマイマイ		VU						○
29			ヤマタカマイマイ		NT						○
30		オナジマイマイ	コウロマイマイ		NT						○
31			ヒメコウロマイマイ			C	○		○	○	○
合計	3 目	12 科	31 種	0 種	23 種	14 種	1 種	1 種	2 種	2 種	30 種

注：1. 環境省 RL

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

注：2. 兵庫県 RL

A：A ランク、B：B ランク、C：C ランク、注：要注目

表 2.4.114(1) 重要な種の主な生息環境（底生動物）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			主な生息環境				
				種の 保存法	環境省 RL	兵庫県 RL	海域	河川	池	湿地	水田
1	ウグイスガイ	ハボウキ	リシケタイラギ		NT	C	○				
2	イシガイ	イシガイ	フネドブガイ			A		○			
3			ニセマツカサガイ		VU	A		○	○	○	
4			ササノハガイ		VU	A		○	○	○	
5			イシガイ			C		○	○	○	
6			カタハガイ		VU	A		○			
7			マツカサガイ広域分布種		NT	B		○			
8	ネリガイ	オキナガイ	オキナガイ			B	○				
9	マテガイ	マテガイ	マテガイ			注	○				
10	ウロコガイ	ウロコガイ	ニッポンマメアゲマキ		NT	A	○				
11		ブンブクヤドリガイ	スジシムシモドキヤドリガイ			A	○				
12	ドブシジミ	ドブシジミ	ドブシジミ			C		○			○
13		シオサザナミ	ムラサキガイ		VU	A	○				
14		キヌタアゲマキ	キヌタアゲマキ			B	○				
15	マルスダレガイ	バカガイ	シオフキガイ			A	○				
16		チドリマスオ	クチバガイ		NT		○				
17		フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ		NT		○				
18		マルスダレガイ	ハマグリ		VU	A	○				
19		シジミ	ヤマトシジミ		NT	C		○	○		
20			マシジミ		VU	注		○	○		○
21	オオノガイ	オオノガイ	オオノガイ		NT	B	○				
22			クシケマスオ		NT	B	○				
23	ヨメガカサ	コガモガイ	ツボミ		NT	C	○				
24	ニシキウス	ニシキウス	イボキサゴ		NT	C	○				
25	アマオブネ	アマオブネ	ヒロクチカノコ		NT	B	○				
26		ユキスズメ	ミヤコドリガイ		NT	A	○				
27			ヒナユキスズメ		NT	A	○				
28	タニシ	タニシ	マルタニシ		VU	C			○	○	○
29			オオタニシ		NT			○	○	○	○
30	オニノツノガイ	ウミニナ	ウミニナ		NT		○				
31			イボウミニナ		VU	A	○				
32		キバウミニナ	フトヘナタリ		NT		○				
33			ヘナタリ		NT	A	○				
34			カワアイ		VU	A	○				
35		カワニナ	クロダカワニナ		NT	C		○	○	○	
36	エゾタマキビ	クビキレガイ	ヤマトクビキレガイ			A	○				
37		カワザンショウ	クリイロカワザンショウ		NT	C	○				
38			サツマクリイロカワザンショウ			C	○				
39			ツブカワザンショウ		NT	B	○				
40			ヒラドカワザンショウ			B	○				
41			ムシヤドリカワザンショウ		NT	A	○				
42			ヒナタムシヤドリカワザンショウ		NT	B	○				
43			ヨシダカワザンショウ		NT	B	○				
44		エゾマメタニシ	イナバマメタニシ		VU	B			○	○	○
45		ワカウラツボ	カワグチツボ		NT	C	○				
46			ワカウラツボ		VU	A	○				
47		ミズゴマツボ	エドガワミズゴマツボ		NT	C	○				
48		イソコハクガイ	シラギクガイ		NT	A	○				
49	新腹足	オリイレヨフイ	ムシロガイ		NT	B	○				
50	頭楯	クダタマガイ	ユヤスツララガイ		NT	B	○				

表 2.4.114(2) 重要な種の主な生息環境（底生動物）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			主な生息環境				
				種の 保存法	環境省 RL	兵庫県 RL	海域	河川	池	湿地	水田
51	モノアラガイ	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ		DD			○	○	○	○
52			モノアラガイ		NT			○	○	○	○
53		ヒラマキガイ	カワネジガイ		CR	A		○	○	○	
54			カワコザラガイ		CR			○	○	○	
55			ハブタエヒラマキガイ		DD				○	○	○
56			ヒメヒラマキミズマイマイ		EN				○	○	○
57			ミズコハクガイ		VU	A			○	○	○
58			ヒラマキミズマイマイ		DD				○	○	○
59			クルマヒラマキガイ		VU	B			○	○	○
60			ヒラマキガイモドキ		NT				○	○	○
61	オカミミガイ	オカミミガイ	ウスコミミガイ		NT	A	○				
62			ナギサノシタタリ			B	○				
63	サシバゴカイ	チロリ	マキントシチロリ			C	○				
64		ゴカイ	コケゴカイ			C	○				
65			カワゴカイ属			C	○				
66			スナイソゴカイ			調	○				
67	イソメ	ナナテイソメ	スゴカイイソメ			C	○				
68		ギボシイソメ	コアシギボシイソメ			C	○				
69	スピオ	ツバサゴカイ	ムギワラムシ			A	○				
70			スナタバムシ			B	○				
71	イトゴカイ	タマシキゴカイ	タマシキゴカイ			C	○				
72	フクロホシムシ	スジホシムシ	スジホシムシモドキ			B	○				
73	エビ	クルマエビ	クルマエビ			C	○				
74		ヌマエビ	ミゾレスヌマエビ			B		○			
75		テナガエビ	ミナミテナガエビ			C		○			
76			シラタエビ			B	○				
77		テッポウエビ	テッポウエビ			C	○				
78		エビジャコ	エビジャコ属			B	○				
79		ハサミシャコエビ	ハサミシャコエビ			C	○				
80		スナモグリ	ニホンスナモグリ			C	○				
81		アナジャコ	アナジャコ			B	○				
82			ヨコヤアナジャコ			C	○				
83		コブシガニ	マメコブシガニ			B	○				
84		ベンケイガニ	アカテガニ			B	○				
85			クシテガニ			A	○				
86			フタバカクガニ			B	○				
87			ユビアカベンケイガニ			C	○				
88			クロベンケイガニ			C	○				
89			ハマガニ			B	○				
90		モクズガニ	ヒメアシハラガニ			B	○				
91			アシハラガニ			C	○				
92			スネナガイソガニ			C	○				
93			ヒメケフサイソガニ			B	○				
94			ウモレマメガニ			A	○				
95			タイワンヒライソモドキ			B	○				
96			トリウミアカイソモドキ			B	○				
97		ムツアリアケガニ	アリアケモドキ			A	○				
98		コメツキガニ	チゴガニ			C	○				
99			コメツキガニ			C	○				
100		オサガニ	ヒメヤマトオサガニ			B	○				

表 2.4.114(3) 重要な種の主な生息環境（底生動物）

No.	目名	科名	種和名	選定基準			主な生息環境				
				種の 保存法	環境省 RL	兵庫県 RL	海域	河川	池	湿地	水田
101	エビ	オサガニ	ヤマトオサガニ			C	○				
102		スナガニ	ハクセンシオマネキ		VU	C	○				
103			スナガニ			B	○				
104	舌殻	シャミセンガイ	シャミセンガイ属			A	○				
105	ハネコケムシ	ヒメテンコケムシ	カンテンコケムシ			B		○	○	○	○
106	イソギンチャク	ウラボシイソギンチャク	ニンジンイソギンチャク			A	○				
107	タコノマクラ	ヨウミヤクカシシ	ハスノハカシパン			B	○				
108	ナメクジウオ	ナメクジウオ	ヒガシナメクジウオ			B	○				
合計	29 目	61 科	108 種	0 種	51 種	96 種	82 種	18 種	20 種	18 種	14 種

注：1. 環境省 RL

CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

注：2. 兵庫県 RL

A：Aランク、B：Bランク、C：Cランク、注：要注目、調：要調査

2) 注目すべき生息地の分布状況

事業実施想定地域は、表 2.4.115 及び図 2.4.51 に示す通りであり、大部分が西播丘陵県立自然公園に含まれる。

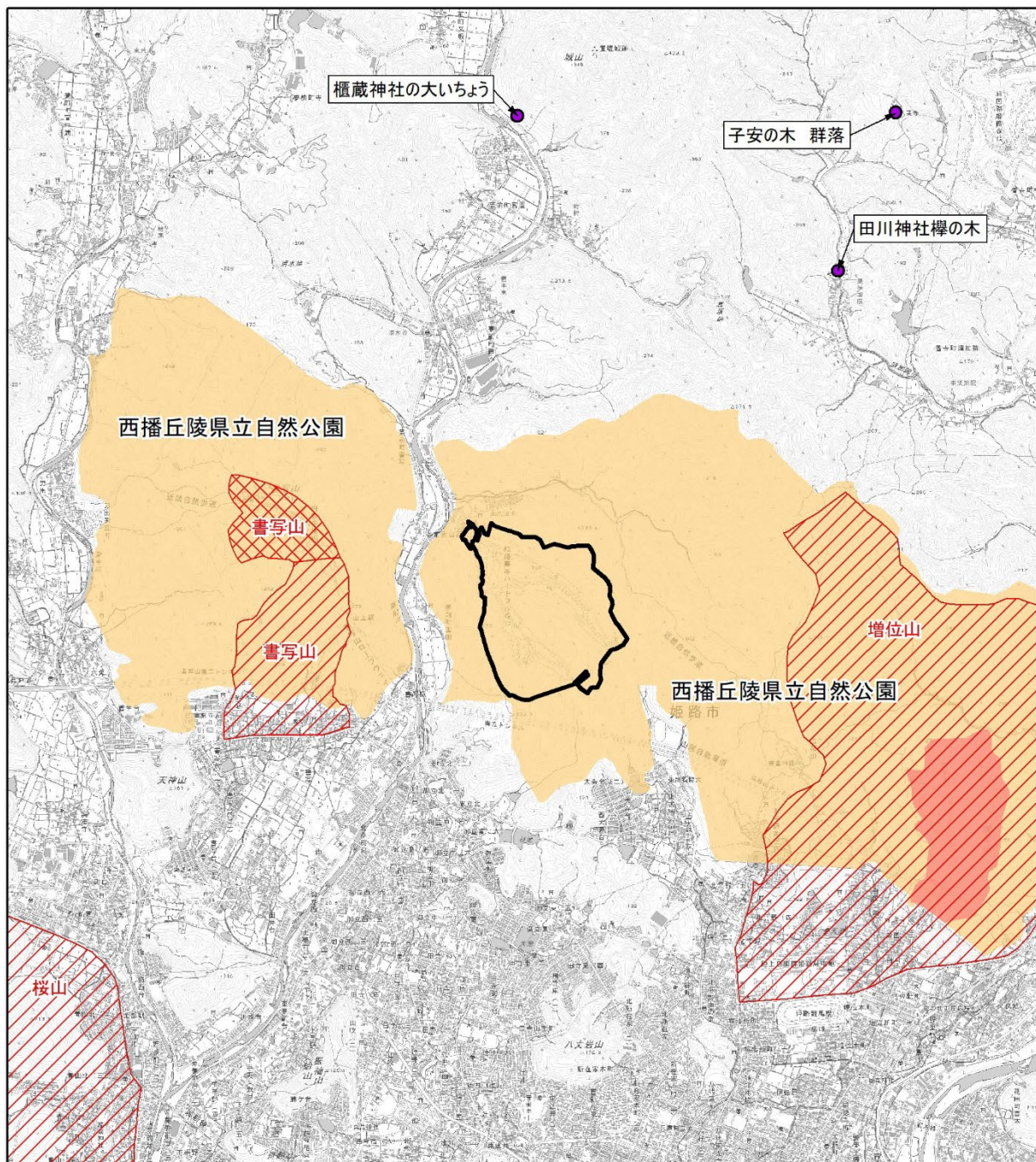
表 2.4.115 動物の注目すべき生息地

名称	法令・文献等	カテゴリー
子安の木 群落	「姫路市文化財保護条例」（昭和 52 年姫路市条例第 11 号）	姫路市天然記念物
檀蔵神社の大いちょう	「姫路市文化財保護条例」（昭和 52 年姫路市条例第 11 号）	姫路市天然記念物
田川神社櫓の木	「姫路市文化財保護条例」（昭和 52 年姫路市条例第 11 号）	姫路市天然記念物
書写山	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年法律第 88 号）	県指定鳥獣保護区 特別保護区
書写山	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年法律第 88 号）	県指定鳥獣保護区
増位山	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年法律第 88 号）	県指定鳥獣保護区
桜山	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年法律第 88 号）	県指定鳥獣保護区
西播丘陵県立自然公園	「自然公園法」（昭和 32 年法律第 161 号）	県立自然公園

出典：「姫路市内の指定等文化財一覧」（令和 8 年 3 月閲覧、姫路市 HP）

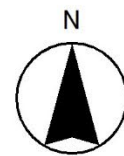
出典：「令和 7 年度兵庫県鳥獣保護区等位置図」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

出典：「ひょうごの環境：自然公園」（令和 8 年 3 月閲覧、兵庫県 HP）



凡例

- 事業実施想定地域
- 兵庫県自然公園
- 兵庫県自然公園(特別地域)
- 県指定鳥獣保護区
- 県指定鳥獣保護区特別保護区
- 姫路市天然記念物



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.51
動物の注目すべき生息地

3) 専門家等へのヒアリング

文献その他の資料の収集のみでは得られない地域の状況について、専門家等へのヒアリングを実施した。

ヒアリングの結果、事業実施想定地域及びその周囲に生息する種等について、表 2.4.116 の情報が得られた。

表 2.4.116 専門家等へのヒアリング結果概要

ヒアリング実施日：令和 7 年 2 月 12 日

専門分野	概要
動物 (鳥類)	【所属等：自然保護団体】 ・文献調査によれば、姫路市域で 230 種の鳥類が確認されているが、この中には、海岸部のみで観察される種も含まれるので、調査地の環境にあわせて、留意すべき種を選定すれば良い。 ・希少猛禽類のイスワシは、事業計画地周辺は主要な生息地になっていないが、稀に飛来する可能性は否定できないので、調査でも留意すること。 ・事業実施想定地域の西側に位置する書写山では、過去にハチクマやサシバの渡りが確認されているので、渡りの時期には留意すること。 ・猛禽類の調査計画については妥当である。ツミは近年、都市部の緑地等で繁殖する傾向が強く、当該事業地のような山間部ではハイタカが出現する可能性の方が高い。また、ハヤブサについても、近年は都市構造物や鉄塔を利用する例が増えており、留意が必要である。 ・今回の事業計画では、既存のゴルフ場を利用するため、大規模な森林伐採による生息地消失の影響は小さいと考えられる。ただし、猛禽類の餌動物（小鳥、小動物、昆虫）の生息環境が変化することで、間接的に猛禽類へ影響が及ぶ可能性については、生態系調査（動植物調査）の結果と合わせて予測・評価する必要がある。 ・鳥類への工事中の保全措置として最も有効なものは、繁殖期（特に造巣・抱卵等の重要時期）に騒音の出る工事を避けることである。工程管理上の制約はあるが、可能な限り繁殖期を外して着工する等の配慮が望ましい。 ・風力発電とは異なりバードストライクのリスクは低く、地上設置の太陽光パネルであれば渡りへの直接的な影響は大きくないと考えられる。 ・渡りへの物理的影響は少ないが、パネルの反射光が鳥類にどのような影響を与えるかは不明確な部分があり、留意が必要である。

(2) 予測

① 予測事項

- ・ 重要な種への影響
- ・ 注目すべき生息地への影響

② 予測方法

予測方法は、事業実施想定地域と重要な種の生息環境及び注目すべき生息地の重ね合わせにより直接改変に伴う影響の程度を整理するものとした。

③ 予測地域

予測地域は、調査地域と同様とした。

④ 予測結果

1) 重要な種の生息状況

事業実施想定地域の地形分類区分は主に山地の小起伏山地又は丘陵地の大起伏丘陵地からなっている。また、事業実施想定地域には主にゴルフ場・芝地、アベマキーコナラ群集、モチツツジアカマツ群集等が広く分布している。

調査結果に示す重要な種の主な生息環境を基に重要な種への影響を予測した結果は表 2.4.117～表 2.4.124 のとおりである。

なお、A 案、B 案ともに、事業実施に伴う改変により影響を受ける生息環境は同様のため、A 案、B 案ともに同様の予測結果である。

表 2.4.117 重要な種への影響（哺乳類）

分類	主な生息環境	重要な種	予測結果
哺乳類	樹林	キクガシラコウモリ、ヒナコウモリ、ツキノワグマ、スミスネズミ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在し、その一部が直接改変されることから、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
	市街地	キクガシラコウモリ、ヒナコウモリ	
	洞窟等	キクガシラコウモリ、ヒナコウモリ	
	高山	ミズラモグラ	

表 2.4.118 重要な種への影響（鳥類）

分類	主な生息環境	重要な種	予測結果
鳥類	海域	コクガン、コハクチョウ、オオハクチョウ、ツクシガモ、アメリカヒドリ、ホシハジロ、アカハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ビロードキンクロ、クロガモ、ホオジログアモ、アビ、オオハム、ヒメウ、ウミネコ、オオアジサシ、ミサゴ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	海岸	ヒシクイ、コクガン、コハクチョウ、オオハクチョウ、ツクシガモ、アメリカヒドリ、トモエガモ、ホシハジロ、アカハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ビロードキンクロ、クロガモ、ホオジログアモ、ヒメウ、コサギ、クロサギ、カラシラサギ、ハリオアマツバメ、アマツバメ、ダイゼン、シロチドリ、オオメダイチドリ、ミヤコドリ、セイタカシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、ツルシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、オバシギ、コオバシギ、ミユビシギ、ウズラシギ、サルハマシギ、ハマシギ、ヘラシギ、キリアイ、エリマキシギ、アカエリヒレアシシギ、ツバメチドリ、ズグロカモメ、ウミネコ、オオアジサシ、コアジサシ、アジサシ、クロハラアジサシ、ハジロクロハラアジサシ、ミサゴ、オジロワシ、コチョウゲンボウ、ハヤブサ、シマセンニュウ、オオセッカ	
	水辺	ヒシクイ、コクガン、コハクチョウ、オオハクチョウ、ツクシガモ、オシドリ、アメリカヒドリ、シマアジ、トモエガモ、ホシハジロ、アカハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ビロードキンクロ、クロガモ、ホオジログアモ、オオハム、コウノトリ、サンカノゴイ、ヨシゴイ、オオヨシゴイ、ミゾゴイ、ゴイサギ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、コサギ、クロサギ、カラシラサギ、クイナ、ヒメクイナ、ヒクイナ、パン、ケリ、ダイゼン、イカルチドリ、シロチドリ、セイタカシギ、ヤマシギ、オオジシギ、チュウジシギ、タシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、ツルシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、タカブシギ、ソリハシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、オバシギ、コオバシギ、オジロトウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、サルハマシギ、ハマシギ、ヘラシギ、キリアイ、エリマキシギ、アカエリヒレアシシギ、タマシギ、ツバメチドリ、アジサシ、クロハラアジサシ、ハジロクロハラアジサシ、ミサゴ、オジロワシ、チュウヒ、ハイロチュウヒ、アカショウビン、カワセミ、ヤマセミ、オオセッカ、オオヨシキリ、コヨシキリ、カワガラス	事業実施想定地域内にため池が存在し、ため池の直接改変を行う事業計画とはなっていないものの、ため池周辺の土地利用の変化等に伴い、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
	水田	ヒシクイ、コクガン、コハクチョウ、オオハクチョウ、アカハジロ、コウノトリ、ヨシゴイ、ゴイサギ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、コサギ、カラシラサギ、クイナ、ヒメクイナ、ヒクイナ、パン、ケリ、ダイゼン、セイタカシギ、チュウジシギ、タシギ、オグロシギ、ツルシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、タカブシギ、ソリハシシギ、キョウジョシギ、オバシギ、コオバシギ、オジロトウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、サルハマシギ、キリアイ、エリマキシギ、タマシギ、ハジロクロハラアジサシ、ハチクマ、チュウヒ、サシバ、ジョウビタキ、ノビタキ、ニュウナイスズメ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	樹林	ヤマドリ、オシドリ、コウノトリ、ミゾゴイ、ジュウイチ、カッコウ、ヨタカ、ヤマシギ、チュウジシギ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、イヌワシ、クマタカ、オオコノハズク、コノハズク、アオバズク、トラフズク、コミミズク、アカショウビン、ブッポウソウ、アリスイ、アカゲラ、アオゲラ、コチョウゲンボウ、チゴハヤブサ、ヤイロチョウ、サンショウクイ、チゴモズ、アカモズ、コクマルガラス、コガラ、メボソムシクイ、エゾセンニュウ、ゴジュウカラ、キバシリ、コムクドリ、マミジロ、コマドリ、コルリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オジロビタキ、オオルリ、カヤクグリ、ニュウナイスズメ、ビンズイ、ベニヒワ、オオマシコ、イスカ、コイカル、カシラダカ、ノジコ、アオジ、クロジ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在し、その一部が直接改変されることから、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
	草地	ウズラ、ヤマドリ、アメリカヒドリ、シマアジ、アマサギ、チュウサギ、カッコウ、ヨタカ、アマツバメ、ヒメアマツバメ、ケリ、ヤマシギ、オオジシギ、アオアシシギ、ツバメチドリ、ハチクマ、チュウヒ、ハイロチュウヒ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、ケアシノスリ、イヌワシ、ヤツガシラ、アリスイ、コチョウゲンボウ、チゴハヤブサ、ハヤブサ、アカモズ、コクマルガラス、ツリスガラ、マキノセンニュウ、シマセンニュウ、オオセッカ、エゾセンニュウ、オオヨシキリ、コヨシキリ、ジョウビタキ、ノビタキ、キビタキ、ニュウナイスズメ、ビンズイ、ベニヒワ、オオマシコ、ホオアカ、カシラダカ、アオジ	
	耕作地	ウズラ、チュウサギ、ヒメアマツバメ、ケリ、ヤマシギ、ハチクマ、チュウヒ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、ケアシノスリ、ヤツガシラ、アリスイ、コチョウゲンボウ、チゴハヤブサ、ハヤブサ、コクマルガラス、ジョウビタキ、ノビタキ、キビタキ、ニュウナイスズメ、オオマシコ、ホオアカ、カシラダカ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	市街地	アマツバメ、ヒメアマツバメ、オオタカ、ハヤブサ、ジョウビタキ、キビタキ、ニュウナイスズメ、コイカル	
	高山	ハリオアマツバメ、アマツバメ、メボソムシクイ、ノジコ	

表 2.4.119 重要な種への影響（両生類）

分類	主な生息環境	重要な種	予測結果
両生類	河川	セトウチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、オオサンショウウオ、ヤマアカガエル、カジカガエル	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	池	アカハライモリ、ニホンヒキガエル、ヤマアカガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル	事業実施想定地域内にため池や水路が存在し、直接改変を行う事業計画とはなっていないものの、ため池や水路周辺の土地利用の変化等に伴い、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があると予測する。
	湿地	ヒダサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、タゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル	
	水田	セトウチサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	樹林	ヒダサンショウウオ、ニホンヒキガエル、タゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在し、その一部が直接改変されることから、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があると予測する。
	草地	ニホンヒキガエル、ニホンアカガエル	

表 2.4.120 重要な種への影響（爬虫類）

分類	主な生息環境	重要な種	予測結果
爬虫類	海岸	タワヤモリ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	河川	ニホンイシガメ、ニホンスッポン	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	池	ニホンイシガメ、ニホンスッポン	事業実施想定地域内にため池が存在し、直接改変を行う事業計画とはなっていないものの、ため池周辺の土地利用の変化等に伴い、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があると予測する。
	水田	ニホンイシガメ、ニホンスッポン	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	樹林	タワヤモリ、ジムグリ、シロマダラ、ヒバカリ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在し、その一部が直接改変されることから、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があると予測する。
	草地	ジムグリ	
	市街地	ニホンヤモリ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。

表 2. 4. 121 重要な種への影響（昆虫類）

分類	主な 生息環境	重要な種	予測結果
昆虫類	水辺	ヨリメグモ、シノビグモ、オオトゲエラカゲロウ、コウノマダラカゲロウ、チノマダラカゲロウ、コバネアオイトトンボ、オツネイトンボ、モートンイトンボ、セスジイトンボ、ムスジイトンボ、グンバイトンボ、ムカシトンボ、ネアカヨシヤンマ、アオヤンマ、ルリボシヤンマ、マルタンヤンマ、カトリヤンマ、サラサヤンマ、ミヤマサナエ、キイロサナエ、ヒラサナエ、アオサナエ、ホンサナエ、ヒメサナエ、タベサナエ、フタスジサナエ、オグマサナエ、ムカシヤンマ、ハネビロエゾトンボ、タカネトンボ、エゾトンボ、ベッコウトンボ、ヨツボシトンボ、ハッチョウトンボ、ナニワトンボ、ノシメトンボ、マイコアカネ、マダラナニワトンボ、ミヤマアカネ、オオキトンボ、ミヤマノギカワゲラ、イソカネタタキ、エサキアメンボ、ホッケミズムシ、ナガミズムシ、コオイムシ、タガメ、ヒメタイコウチ、ミズカマキリ、トゲナベブタムシ、コバンムシ、カタツムリトビケラ、ウラゴマダラシジミ、スギタニルリシジミ本州亜種、ミドリシジミ、キマダラモドキ、ヒョウモンモドキ、ツマグロキチョウ、セアカオサムシ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、キベリマルクビゴミムシ、ウミホソチビゴミムシ、ヨドシロヘリハンミョウ、アイヌハンミョウ、コマルケシゲンゴロウ、マルケシゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ、コウベツブゲンゴロウ、シャープツブゲンゴロウ、マルチビゲンゴロウ、メクラゲンゴロウ、オオミズスマシ、ヒメミズスマシ、ミズスマシ、クビボソコガシラミズムシ、ムカシゲンゴロウ、チュウブホソガムシ、スジヒラタガムシ、ヤマトアオドウガネ、シロスジコガネ、ヨコミゾドロムシ、ツシマヒメサビキコリ、スナサビキコリ、キンイロネクイハムシ、ハマベジウムシ、ウスルリモンハナバチ	事業実施想定地域内にため池が存在し、ため池の直接改変を行う事業計画とはなっていないものの、ため池周辺の土地利用の変化等に伴い、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
	水田	オツネイトンボ、モートンイトンボ、カトリヤンマ、ミヤマアカネ、コオイムシ、タガメ、ミズカマキリ、ツマグロキチョウ、コマルケシゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ、シャープツブゲンゴロウ、オオミズスマシ、ミズスマシ、ムカシゲンゴロウ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	樹林	キノボリトタテグモ、ハラダカツクネグモ、キンヨウグモ、コケオニグモ、マメイタイセキグモ、ムツトゲイセキグモ、ゲホウグモ、シボグモモドキ、カトウツケオグモ、ムカシトンボ、ネアカヨシヤンマ、マルタンヤンマ、サラサヤンマ、ヒラサナエ、タベサナエ、フタスジサナエ、エゾトンボ、ナニワトンボ、ノシメトンボ、マダラナニワトンボ、ガロアムシ、ハルゼミ、エゾハルゼミ、キバネツノトンボ、ホシチャバネセセリ、ダイミョウセセリ、ミヤマチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、ウラゴマダラシジミ、スギタニルリシジミ本州亜種、ヒロオビミドリシジミ、ウラジロミドリシジミ、ウラナミアカシジミ、ミドリシジミ、クロシジミ、キマダラルリツバメ、ゴイシシジミ、ウラキンシジミ、サカハチチョウ、ウラギンスジヒョウモン、メスグロヒョウモン、キマダラモドキ、クモガタヒョウモン、オオムラサキ、ヒメキマダラヒカゲ、ギフチョウ、オナガアゲハ、ウスバシロチョウ、スジボソヤマキチョウ、ヤマトスジグロシロチョウ本州中・南部亜種、オナガミズアオ本土亜種、コシロシタバ、クロシオキシタバ、カバフキシタバ、チュウブホソガムシ、マメクワガタ、ヤマトアオドウガネ、シロスジコガネ、ヨコミゾドロムシ、アオタマムシ、ヒメボタル、ウマノオバチ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在し、その一部が直接改変されることから、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
	草地	マメイタイセキグモ、カトウツケオグモ、クツワムシ、キバネツノトンボ、ホシチャバネセセリ、ダイミョウセセリ、ホソバセセリ、ギンイチモンジセセリ、ヒメキマダラセセリ、コキマダラセセリ、ミヤマチャバネセセリ、スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種、ヘリグロチャバネセセリ、クロツバメシジミ中国地方・四国・九州内陸亜種、シルビアシジミ、サカハチチョウ、ウラギンスジヒョウモン、ヒメヒカゲ本州西部亜種、オオウラギンヒョウモン、ウスイロヒョウモンモドキ、ヒョウモンモドキ、クモガタヒョウモン、ウラナミジャノメ本土亜種、ウスバシロチョウ、ツマグロキチョウ、セアカオサムシ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、キベリマルクビゴミムシ、ヨドシロヘリハンミョウ、アイヌハンミョウ、ヨコミゾドロムシ、マメハンミョウ、アサカミキリ、キンイロネクイハムシ、トモンハナバチ	
	耕作地	ミヤマチャバネセセリ、シルビアシジミ、ツマグロキチョウ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、マメハンミョウ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	市街地	キシノウエトタテグモ、ムツトゲイセキグモ、ヒトエグモ、メクラゲンゴロウ	

表 2.4.122 重要な種への影響（魚類）

分類	主な生息環境	重要な種	予測結果
魚類	河川	ニホンウナギ、ヤリタナゴ、アブラボテ、カネヒラ、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、ニッポンバラタナゴ、カワバタモロコ、アブラハヤ、カワヒガイ、ゼゼラ、ドジョウ、ナガレホトケドジョウ、アカザ、シラウオ、サツキマス、ミナミメダカ、クルマサヨリ、オヤニラミ、カジカ、トサカギンボ、シロウオ、トビハゼ、マサゴハゼ、シモフリシマハゼ、ヒナハゼ、オオヨシノボリ、ウキゴリ、チクゼンハゼ、クボハゼ、エドハゼ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	池	イチモンジタナゴ、ニッポンバラタナゴ、カワバタモロコ、アブラハヤ、ドジョウ、ミナミメダカ	事業実施想定地域内にため池が存在し、ため池の直接改変を行う事業計画とはなっていないものの、ため池周辺の土地利用の変化等に伴い、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
	湿地	ニッポンバラタナゴ、カワバタモロコ、ドジョウ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。

表 2.4.123 重要な種への影響（陸産貝類）

分類	主な生息環境	重要な種	予測結果
陸産貝類	河川	ヒメコウロマイマイ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	池	ナガオカモノアラガイ	事業実施想定地域内にため池や水路が存在し、直接改変を行う事業計画とはなっていないものの、ため池や水路周辺の土地利用の変化等に伴い、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
	湿地	ヒメコウロマイマイ、ナガオカモノアラガイ	
	草地	ヒメコウロマイマイ、ナガオカモノアラガイ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在し、その一部が直接改変されることから、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
	樹林	ゴマオカタニシ、サドヤマトガイ、ハリマムシオイガイ、ミヤマムシオイガイ、ナガナタネガイ、マルナタネガイ、ヒラドマルナタネ、フトキセルガイモドキ、キセルガイモドキ、オオギセル、コンボウギセル、シリオレトノサマガセル、エルベリギセル、ホソヒメギセル、イボイボナメクジ、ヒメハリマキビ、ウメムラシタラガイ、オオウエキビ、ヒメカサキビ、ヒラベッコウガイ、ハクサンベッコウ、キヌツヤベッコウ、レンズガイ、ケハダビロウドマイマイ、トウカイビロウドマイマイ、ヒメビロウドマイマイ、トサビロウドマイマイ、ヤマタカマイマイ、コウロマイマイ、ヒメコウロマイマイ	

表 2.4.124 重要な種への影響（底生動物）

分類	主な 生息環境	重要な種	予測結果
底 生 動 物	海域	リシケタイラギ、オキナガイ、マテガイ、ニッポンマメアゲマキ、スジホシムシモドキヤドリガイ、ムラサキガイ、キヌタアゲマキ、シオフキガイ、クチバガイ、ウネナシトマヤガイ、ハマグリ、オオノガイ、クシケマスオ、ツボミ、イボキサゴ、ヒロクチカノコ、ミヤコドリガイ、ヒナユキスズメ、ウミニナ、イボウミニナ、フトヘナタリ、ヘナタリ、カワアイ、ヤマトクビキレガイ、クリイロカワザンショウ、サツマクリイロカワザンショウ、ツブカワザンショウ、ヒラドカワザンショウ、ムシヤドリカワザンショウ、ヒナタムシヤドリカワザンショウ、ヨシダカワザンショウ、カワグチツボ、ワカウラツボ、エドガワミズゴマツボ、シラギクガイ、ムシロガイ、コヤスツララガイ、ウスコミミガイ、ナギサノシタタリ、マキントシチロリ、コケゴカイ、カワゴカイ属、スナイソゴカイ、スゴカイイソメ、コアシギボシイソメ、ムギワラムシ、スナタバムシ、タマンキゴカイ、スジホシムシモドキ、クルマエビ、シラタエビ、テッポウエビ、エビジャコ属、ハサミシャコエビ、ニホンスナモグリ、アナジャコ、ヨコヤアナジャコ、マメコブシガニ、アカテガニ、クシテガニ、フタバカクガニ、ユビアカベンケイガニ、クロベンケイガニ、ハマガニ、ヒメアシハラガニ、アシハラガニ、スネナガイソガニ、ヒメケフサイソガニ、ウモレマメガニ、タイワンヒライソモドキ、トリウミアカイソモドキ、アリアケモドキ、チゴガニ、コメツキガニ、ヒメヤマトオサガニ、ヤマトオサガニ、ハクセンシオマネキ、スナガニ、シャミセンガイ属、ニンジンイソギンチャク、ハスノハカシパン、ヒガシナメクジウオ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	河川	ニセマツカサガイ、マツカサガイ広域分布種、ササノハガイ、イシガイ、ヤマトシジミ、マシジミ、マルタニシ、オオタニシ、クロダカワニナ、イナバマメタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、モノアラガイ、カワネジガイ、カワコザラガイ、ハブタエヒラマキガイ、ヒメヒラマキミズマイマイ、ミズコハクガイ、ヒラマキミズマイマイ、クルマヒラマキガイ、ヒラマキガイモドキ、カンテンコケムシ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	池	ニセマツカサガイ、ササノハガイ、イシガイ、ヤマトシジミ、マシジミ、マルタニシ、オオタニシ、クロダカワニナ、イナバマメタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、モノアラガイ、カワネジガイ、カワコザラガイ、ハブタエヒラマキガイ、ヒメヒラマキミズマイマイ、ミズコハクガイ、ヒラマキミズマイマイ、クルマヒラマキガイ、ヒラマキガイモドキ、カンテンコケムシ	事業実施想定地域内にため池や水路が存在し、直接改変を行う事業計画とはなっていないものの、ため池や水路周辺の土地利用の変化等に伴い、生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性があるとして予測する。
	湿地	ニセマツカサガイ、ササノハガイ、イシガイ、マルタニシ、オオタニシ、クロダカワニナ、イナバマメタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、モノアラガイ、カワネジガイ、カワコザラガイ、ハブタエヒラマキガイ、ヒメヒラマキミズマイマイ、ミズコハクガイ、ヒラマキミズマイマイ、クルマヒラマキガイ、ヒラマキガイモドキ、カンテンコケムシ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。
	水田	ドブシジミ、マシジミ、マルタニシ、オオタニシ、イナバマメタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、モノアラガイ、ハブタエヒラマキガイ、ヒメヒラマキミズマイマイ、ミズコハクガイ、ヒラマキミズマイマイ、クルマヒラマキガイ、ヒラマキガイモドキ、カンテンコケムシ	事業実施想定地域内に主な生息環境が存在しないことから、直接改変による影響はないと予測する。

2) 注目すべき生息地

事業実施想定地域の大部分は、ゴルフ場として既に開発された区域であるものの、西播丘陵県立自然公園内に位置しており、直接改変により A 案、B 案ともに動物の注目すべき生息地に影響を及ぼす可能性が考えられる。

(3) 評価

① 評価手法

調査及び予測結果に基づき、複数案ごとに重大な環境影響の有無や程度について評価した。

② 評価結果

事業実施想定地域及びその周囲に主な生息環境が存在する重要な種（哺乳類 5 種、鳥類 156 種、爬虫類 7 種、両生類 12 種、昆虫類 146 種、魚類 31 種、陸産貝類 31 種、底生動物 108 種）のうち、海域、海岸、河川、水田、耕作地、市街地、洞窟等、高山を主な生息環境とする重要な種については、事業実施想定地域内に存在しないことから、直接改変による生息環境の変化に伴う影響はない。一方、水辺、池、湿地、樹林、草地を主な生息環境とする重要な種については、直接改変による生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性がある。注目すべき生息地については、事業実施想定地域の大部分は、ゴルフ場として既に開発された区域であるものの、西播丘陵県立自然公園内に位置しており、直接改変により動物の注目すべき生息地に影響を及ぼす可能性が考えられる。

また、A 案、B 案ともに、事業実施想定地域や改変により影響を受ける生息環境は同様のため、A 案、B 案ともに同様の予測結果である。

なお、現時点では、これらの種や注目すべき生息地について、早期事前調査による既存資料の調査のため、事業実施想定地域内における詳細な情報を得られなかったため、今後の概要書の手続き以降の調査、予測及び評価の結果等を踏まえた上で、以下の事項に留意し、具体的な環境保全措置を検討する。

- ・現地調査により動物の生息状況を把握し、生息が確認された重要な種に対して環境保全措置を検討する。なお、現地調査の実施にあたっては、今後検討される事業実施想定地域に主な生息環境が存在する種の生態的特性を踏まえた調査を検討する。
- ・今後の太陽電池等の配置等においては、重要な種の生息状況等を踏まえて検討する。
- ・ゴルフ場等の既改変の土地の活用により、樹木の伐採面積の最小化を図ることで、直接改変による重要な種の生息環境への影響の低減を図る。
- ・猛禽類については、「猛禽類保護の進め方（改訂版）」（平成 24 年、環境省）に準拠して生息状況調査を行い、適切に影響を予測評価する。
- ・工事に使用する重機のタイヤ等の足回りに付着した泥の洗浄、太陽光パネル等の搬入時の不審なアリやクモ等の付着の有無の目視確認により、事業実施想定地域内に持ち込まないよう配慮する。
- ・工事用車両の事業実施想定地域からの退出時の足回り洗浄の実施により、事業実施想定地域外に持ち出さないよう配慮する。

今後の手続において以上を着実に実施することにより、A 案、B 案ともに事業による重大な影響は回避又は低減できる可能性が高いものと評価する。

4-4-3 生態系

(1) 調査

① 調査事項

調査項目は、以下のとおりとした。

- ・地域の生態系の状況

② 調査方法

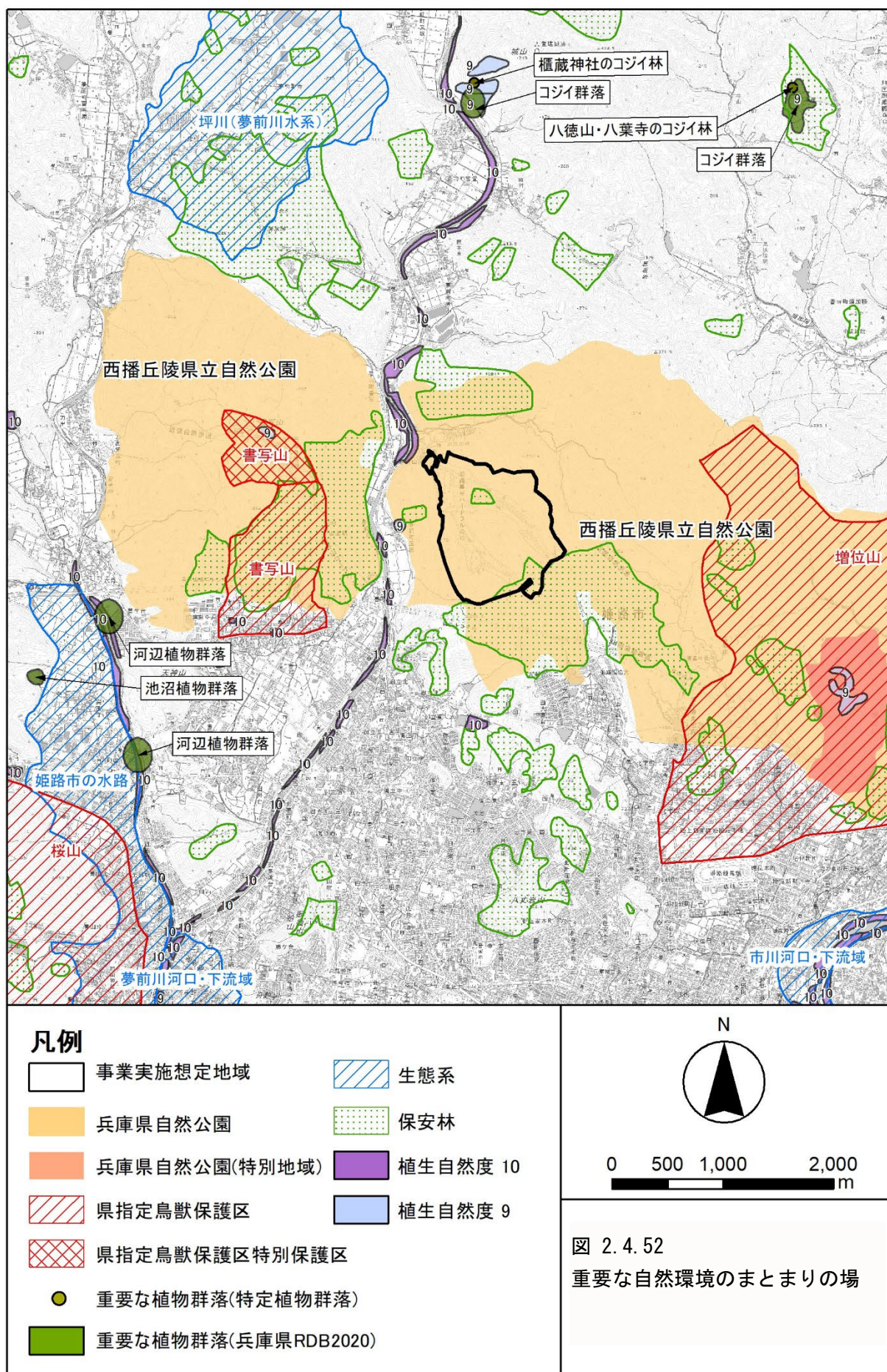
事業実施想定地域及びその周囲における重要な自然環境のまとまりの場の分布状況を、既存資料等により把握した。

③ 調査地域

調査地域は、事業実施想定地域及びその周囲とした。

④ 調査結果

事業実施想定地域及びその周囲の重要な自然環境のまとまりの場は図 2.4.52 のとおりである。事業実施想定地域の大部分は西播丘陵県立自然公園内に位置し、事業実施想定地域の一部（連系変電所エリア含む）及び周辺は保安林に指定されている。



(2) 予測

① 予測事項

- ・事業実施に伴う地形の改変及び施設の存在が重要な自然環境のまとまりの場に及ぼす影響

② 予測方法

事業実施に伴う地形の改変及び施設の存在が重要な自然環境のまとまりの場に及ぼす影響について、既存資料等から抽出した重要な自然環境のまとまりの場と各事業計画案との位置関係を整理した。

③ 予測地域

予測地域は、調査地域と同様とした。

④ 予測結果

事業実施想定地域の大部分は、ゴルフ場として既に開発された区域であるものの、西播丘陵県立自然公園内に位置すること、連携変電所エリアは、植生の分布しない裸地ではあるものの、保安林に指定されていること等より、重要な自然環境のまとまりの場に影響を及ぼす可能性が考えられる。

なお、A 案、B 案ともに、事業実施に伴う改変により影響を受ける範囲は同様のため、A 案、B 案ともに同様の予測結果である。

(3) 評価

① 評価手法

調査及び予測結果に基づき、複数案ごとに重大な環境影響の有無や程度について評価した。

② 評価結果

事業実施想定地域の大部分は、ゴルフ場として既に開発された区域であるものの、西播丘陵県立自然公園内に位置すること、連携変電所エリアは、植生の分布しない裸地ではあるものの、保安林に指定されていること等より、重要な自然環境のまとまりの場に影響を及ぼす可能性が考えられる。

また、A 案、B 案ともに、事業実施想定地域や改変により影響を受ける重要な自然環境のまとまりの場は同様のため、A 案、B 案ともに同様の予測結果である。

なお、現時点では、重要な自然環境のまとまりの場に対する情報について、早期事前調査による既存資料の調査のため、事業実施想定地域内における詳細な情報を得られなかったため、今後の概要書の手続き以降の調査、予測及び評価の結果等を踏まえた上で、以下の事項に留意し、具体的な環境保全措置を検討する。

- ・現地調査等により生態系注目種及び注目すべき生息・生育の場への影響の程度を適切に予測し、必要に応じて環境保全措置を検討する。
- ・県立自然公園内の事業であることから、兵庫県立自然公園条例（昭和 38 年兵庫県条例第 80 号）を遵守し、生物多様性の確保に寄与するよう、適切な環境配慮を行う。
- ・当該自然公園は、アカマツ・コナラ等の二次林を主体に、常緑広葉樹をまじえた社叢林が自然林として残されている環境であるため、これらの環境を保全するため、事業実施想定地域の非改変区域の樹林の伐採は行わない。また、太陽電池等設置検討範囲内の樹林についても極力伐採しない。
- ・現地調査等により生態系注目種及び注目すべき生息・生育の場への影響の程度を適切に予測し、必要に応じて環境保全措置を検討する。

今後の手続において以上を着実に実施することにより、A 案、B 案ともに事業による重大な影響は回避又は低減できる可能性が高いものと評価する。

4-4-4 景観

(1) 調査

① 調査事項

調査項目は、以下のとおりとした。

- ・景観資源の分布状況
- ・主要な眺望点の分布状況

② 調査方法

調査方法は、既存文献等の収集整理とした。

③ 調査地域

調査地域は、事業実施想定地域及びその周囲とした。

④ 調査結果

1) 景観資源の分布状況

事業実施想定地域及びその周辺には表 2. 4. 125 及び図 2. 4. 53 に示す景観資源が存在する。

表 2. 4. 125 景観資源の分布状況

番号	名 称	分 類	出 典
①	広峰山	山岳（非火山性孤嶺）	1、2
②	書写山	山岳（非火山性孤嶺）	1、2、3
③	そうめん滝	滝	1、3
④	置塩城跡	城跡	2
⑤	八徳山八葉寺の森	森	2
⑥	毘沙門天王堂	人の暮らしに密接に関わる自然景観	2
⑦	書写の里・美術工芸館と竹林（景観遺産 9）	建物・まちなみ	3
⑧	書写山圓教寺十妙院（長吏處）（景観遺産 17）	建物・まちなみ	3
⑨	書写山圓教寺摩尼殿と紅葉（景観遺産 25）	林	3
⑩	夢前川の桜並木と姫新線（景観遺産 30）	並木	3
⑪	置塩城跡のある置塩山（景観遺産 35）	山岳	3
⑫	お城に沈む夕日（景観遺産 46）	世界遺産（姫路城）	3
⑬	豆まきの風景（景観遺産 48）	いとなみ	3
⑭	相坂側（東）から見た相坂トンネル（景観遺産 64）	建物・まちなみ	3
⑮	玉田の農道から見た菜の花畑（景観遺産 72）	里地・里山	3
⑯	ヤマサ蒲鉾の芝桜（景観遺産 73）	植物	3
⑰	書写ロープウェイ入口西側から（景観遺産 100）	いとなみ	3
⑱	旧姫路高等学校講堂（兵庫県立大学）	都市景観重要建築物	4
⑲	旧姫路高等学校本館（兵庫県立大学）	都市景観重要建築物	4
⑳	魚橋呉服店	都市景観重要建築物	4
㉑	大野家住宅	都市景観重要建築物	4

出典 1：「第 3 回自然環境保全基礎調査 兵庫県自然環境情報図」（平成元年発行、環境庁）

出典 2：「兵庫県版レッドリスト 2011（地形・地質・自然景観・生態系）」（令和 8 年 1 月閲覧、兵庫県 HP）

出典 3：「登録されている景観遺産の一覧」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典 4：「都市景観重要建築物等」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）



凡 例



事業実施想定地域



景観資源



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.53

景観資源の位置

2) 主要な眺望点の分布状況

事業実施想定地域及びその周囲における主要な眺望点は表 2. 4. 126 及び図 2. 4. 54 のとおりである。事業実施想定区域の西側には書写山参道展望台など、事業実施想定地域方向を望む眺望点が存在する。

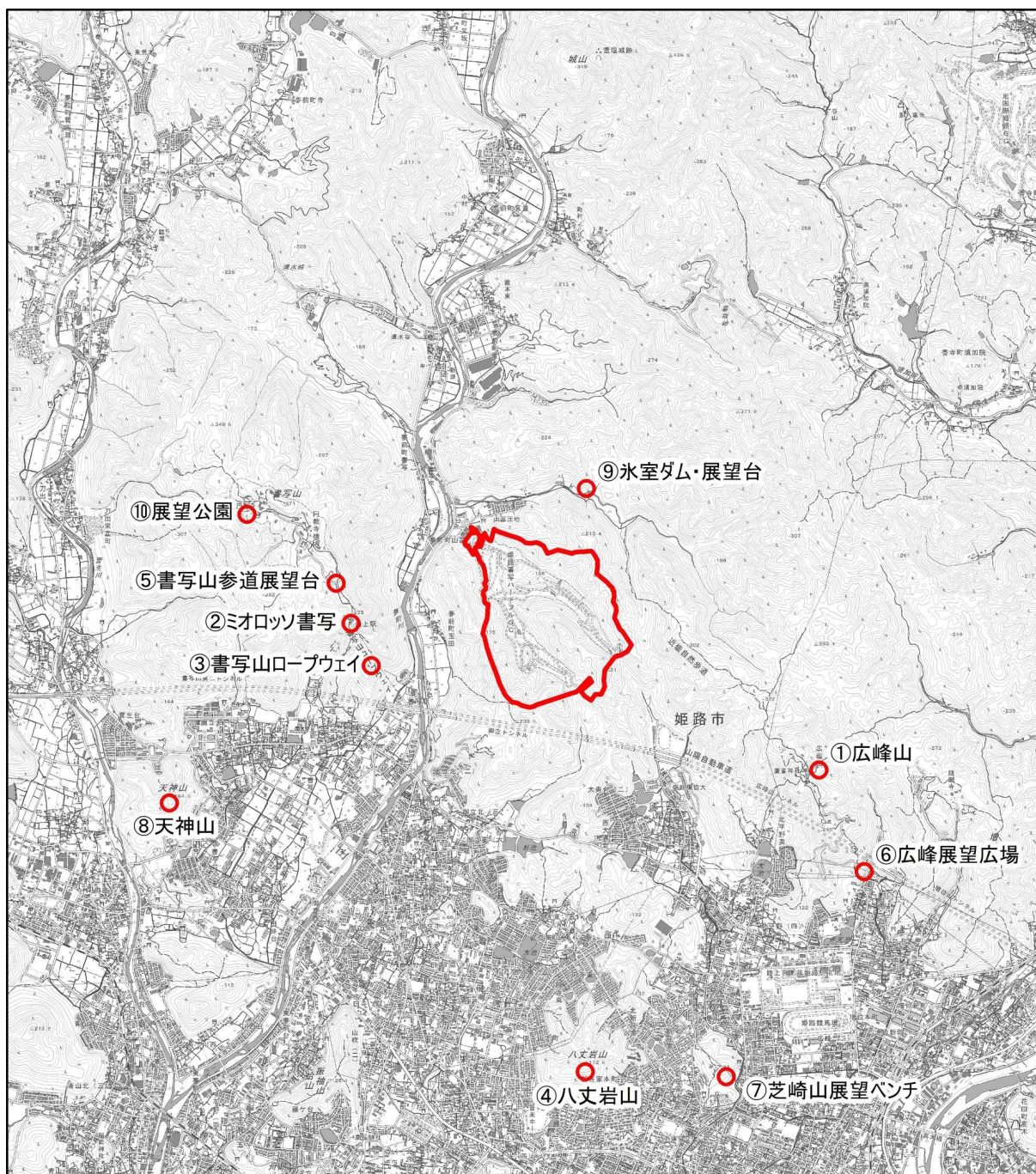
表 2. 4. 126 主要な眺望点の分布状況

番号	名 称	概 要	標高 (m)
①	広嶺山	姫路市街地を中心とした雄大な夜景を楽しむことができる。	260
②	ミオロッソ書写	2022 年 3 月完成した書写山上展望デッキ。 姫路市街地だけでなく、好天時には瀬戸内海まで見渡せる。	246
③	書写山ロープウェイ	昭和 33 年 3 月に開通。複線交走式索道で、3 分 50 秒で最大 71 人を乗せて運行。標高 371m の山上には西国第 27 番札所の圓教寺。	243
④	八丈岩山	標高 172.9m、山上の八丈岩の上から眼下に市内を一望できる。	173
⑤	書写山参道展望台	南向きに視界が開けており、姫路市街を一望できる。空気が澄んでいれば遠くに明石海峡大橋を望むことも可能。	295
⑥	広峰展望広場	ハイランドビラ姫路へ続く山道の途中に位置する。姫路市の街明かりを見下ろすことができる夜景スポットとして知られている。	206
⑦	芝崎山展望ベンチ	姫路競馬場の西にある八代山（別名：柴崎山・金山）の山頂付近、送電線巡視路を登り、総社線 5 番鉄塔を過ぎたあたりにある展望所。南東方面に展望が開けており、直線距離で約 1.5km 先にある姫路城を望むことができる。	82
⑧	天神山	書写山の南に位置する標高約 164m の山で、菅生川に架かる「書写中学校橋」付近の遊歩道から登ることができる。山頂自体は雑木に囲まれており展望はあまりないが、木々の隙間から書写山や白鳥城を垣間見ることができる。一方、山頂手前の露岩地や南に伸びる尾根からは、広嶺山、増位山、姫路市街、鷹山などを見渡せる眺望ポイントがある。	162
⑨	氷室ダム・展望台	姫路自然観察の森の遊歩道や山頂の見晴らし台から氷室ダムを望むことができる。	75
⑩	展望公園	書写山・圓教寺の境内奥、松平家墓所や法華堂（三つの堂）から少し歩いた場所にあり、木々の隙間から姫路市街を眺望できるほか、遠く瀬戸内海が見渡せた際の島々の位置関係を示す展望図も設置されている。	328

出典：「書写山ロープウェイ」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典：「姫路市 Web マップ」（令和 8 年 1 月閲覧、姫路市 HP）

出典：「Google マップ」（令和 8 年 1 月閲覧）



凡例

- 事業実施想定地域
- 主要な眺望点



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.54
主要な眺望点の位置

(2) 予測

① 予測事項

- ・ 景観資源及び主要な眺望点の改変の程度
- ・ 主要な眺望景観の変化の程度

② 予測方法

1) 景観資源及び主要な眺望点の改変の程度

景観資源及び主要な眺望点と太陽電池等設置検討範囲の重ね合わせにより、改変の有無の把握を行うものとした。

2) 主要な眺望景観の変化の程度

主要な眺望点からの可視領域図を作成し眺望点から可視の程度を把握するものとした。

なお、可視領域図は、各眺望地点から国土地理院の基盤地図情報（5m 標高メッシュ）を用いて作成した。

③ 予測地域

1) 景観資源及び主要な眺望点の改変の程度

事業実施想定地域及びその周囲とした。

2) 主要な眺望景観の変化の程度

予測地域は、事業実施想定地域及びその周囲とした。

予測地点は、表 2.4.126 及び図 2.4.54 に示す 10 地点とした。

④ 予測結果

1) 景観資源及び主要な眺望点の改変の程度

景観資源及び主要な眺望点の分布状況と太陽電池等設置検討範囲を重ね合わせた結果、景観資源及び主要な眺望点は、A 案、B 案ともに事業実施想定地域内に位置していないことから、景観資源及び主要な眺望点への影響はないと予測する。

2) 主要な眺望景観の変化の程度

各予測地点からの可視領域は、図 2.4.55～図 2.4.64 のとおりである。

「①広嶺山」は、A 案、B 案ともに太陽電池等設置検討範囲が不可視となることから、影響はないと予測する。

「②ミオロッソ書写」は、A 案では太陽電池等設置検討範囲の西側を中心に可視となることから、影響が生じる可能性があるとして予測する。B 案では、太陽電池等の配置を抑制する範囲を設けることにより、可視範囲は小規模な範囲となっている。

「③書写山ロープウェイ」は、A 案では太陽電池等設置検討範囲の西側を中心に可視となることから、影響が生じる可能性があるとして予測する。B 案では、太陽電池等の配置を抑制する範囲を設けることにより、可視範囲は小規模な範囲となっている。

「④八丈岩山」は、A 案、B 案ともに太陽電池等設置検討範囲の南側で一部可視となることから、影響が生じる可能性があるとして予測する。

「⑤書写山参道展望台」は、A 案では太陽電池等設置検討範囲の西側～南側を中心に可視となることから、影響が生じる可能性があるとして予測する。B 案では、太陽電池等の配

置を抑制する範囲を設けることにより、可視範囲は小規模な範囲となっている。

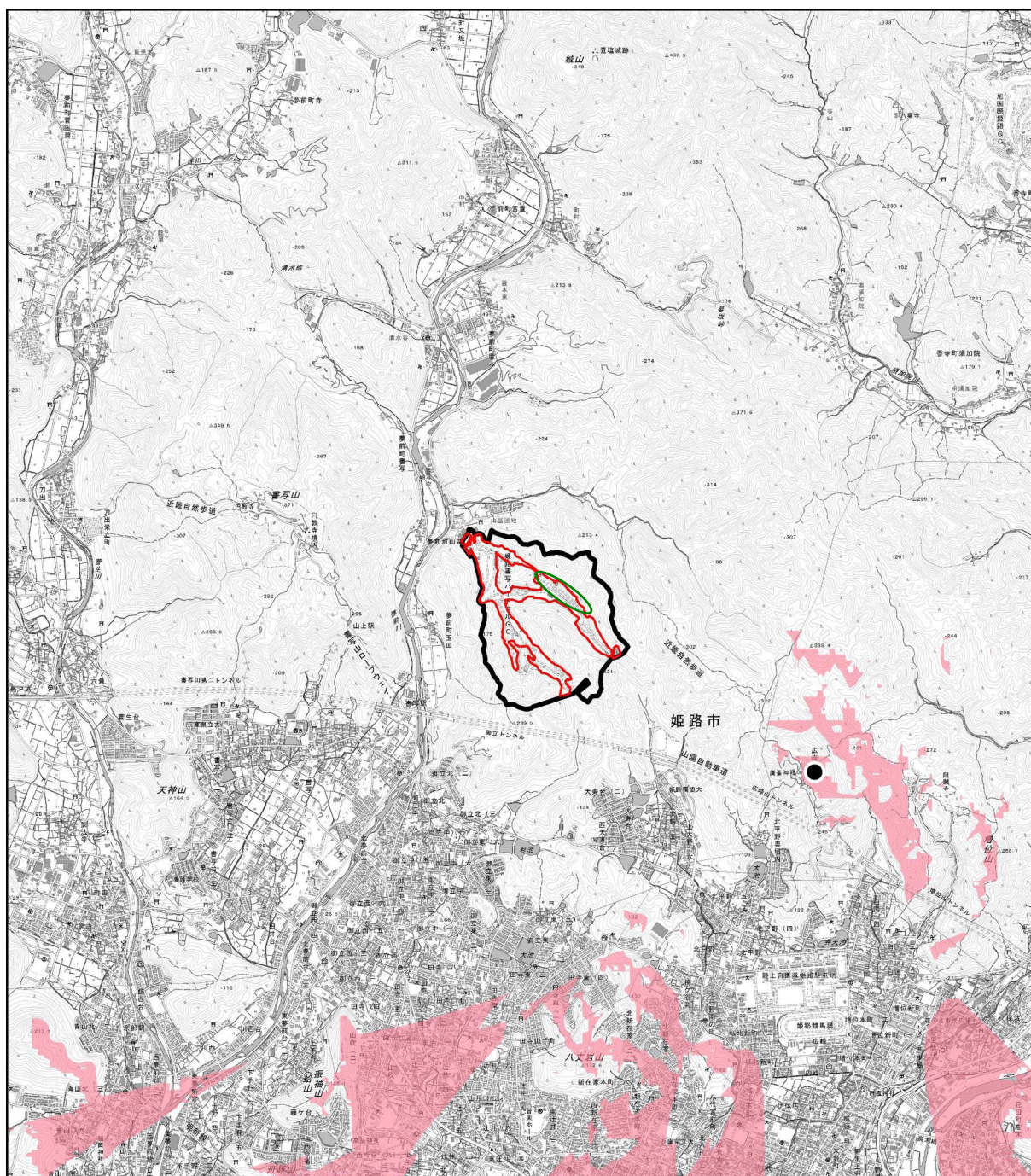
「⑥広峰展望広場」は、A 案、B 案ともに太陽電池等設置検討範囲が不可視となることから、影響はないと予測する。

「⑦芝崎山展望ベンチ」は、A 案、B 案ともに太陽電池等設置検討範囲が不可視となることから、影響はないと予測する。

「⑧天神山」は、A 案、B 案ともに太陽電池等設置検討範囲が不可視となることから、影響はないと予測する。

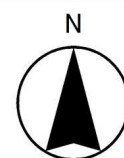
「⑨氷室ダム・展望台」は、A 案、B 案ともに太陽電池等設置検討範囲が不可視となることから、影響はないと予測する。

「⑩展望公園」は、A 案、B 案ともに太陽電池等設置検討範囲が不可視となることから、影響はないと予測する。



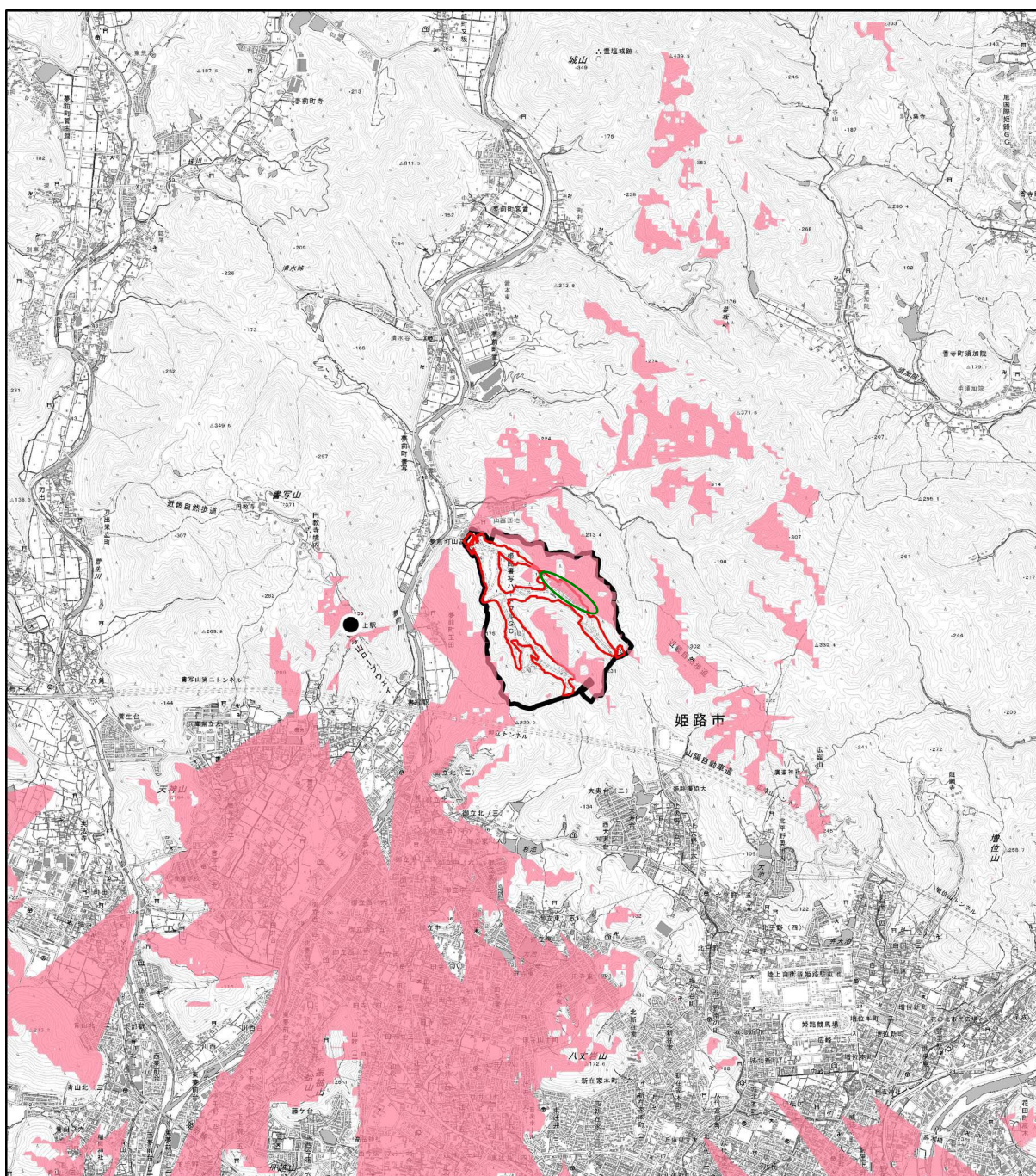
凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲
- B案にて太陽電池等の配置を抑制する範囲
- 主要な眺望点(広峰山)
- 眺望点(広峰山)からの可視領域



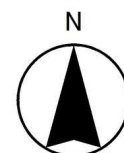
0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.55
主要な眺望点からの可視領域
(①広峰山)



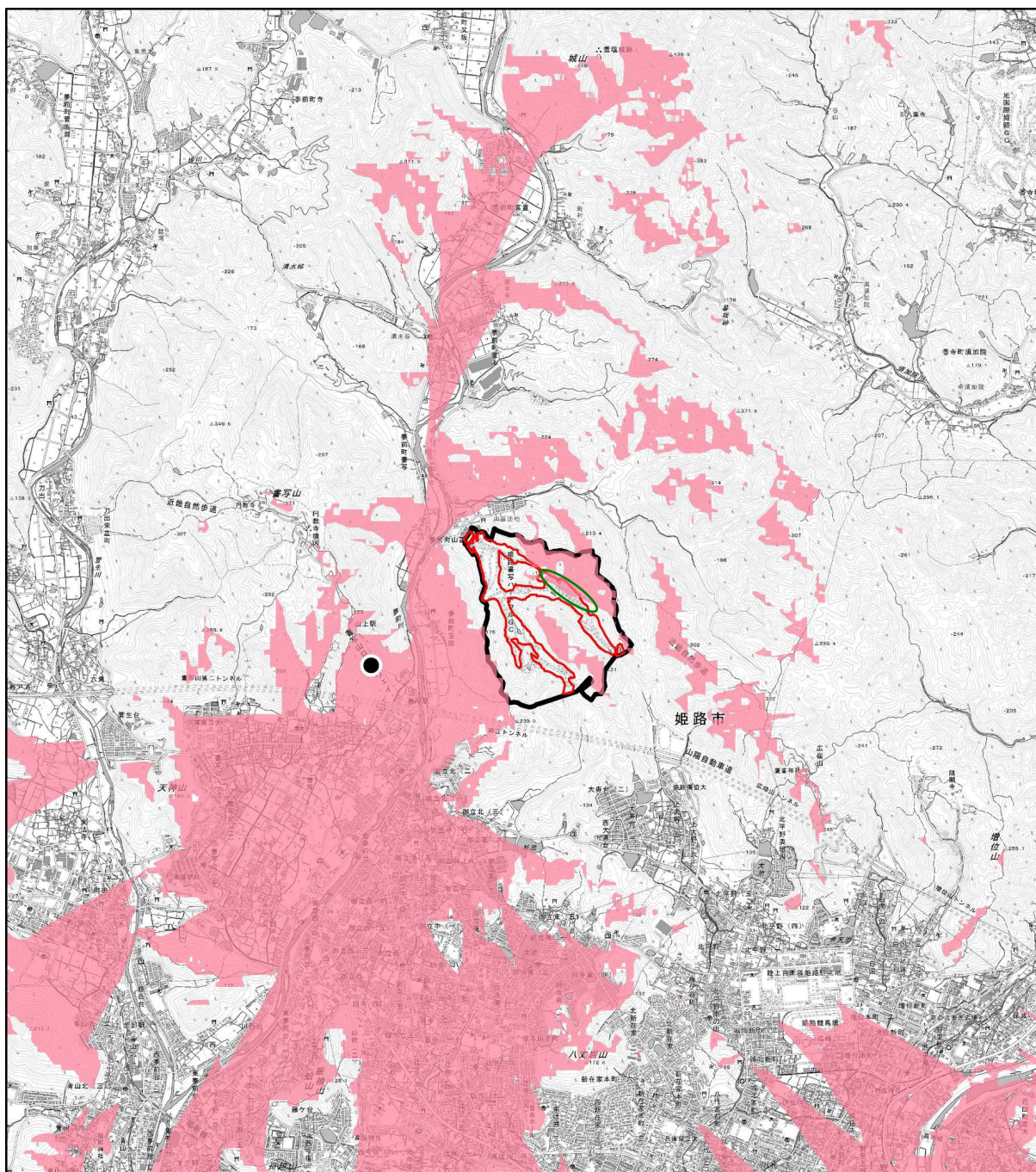
凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲
- B案にて太陽電池等の配置を抑制する範囲
- 主要な眺望点(ミオロッソ書写)
- 眺望点(ミオロッソ書写)からの可視領域



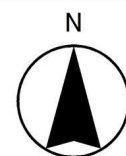
0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.56
主要な眺望点からの可視領域
(②ミオロッソ書写)



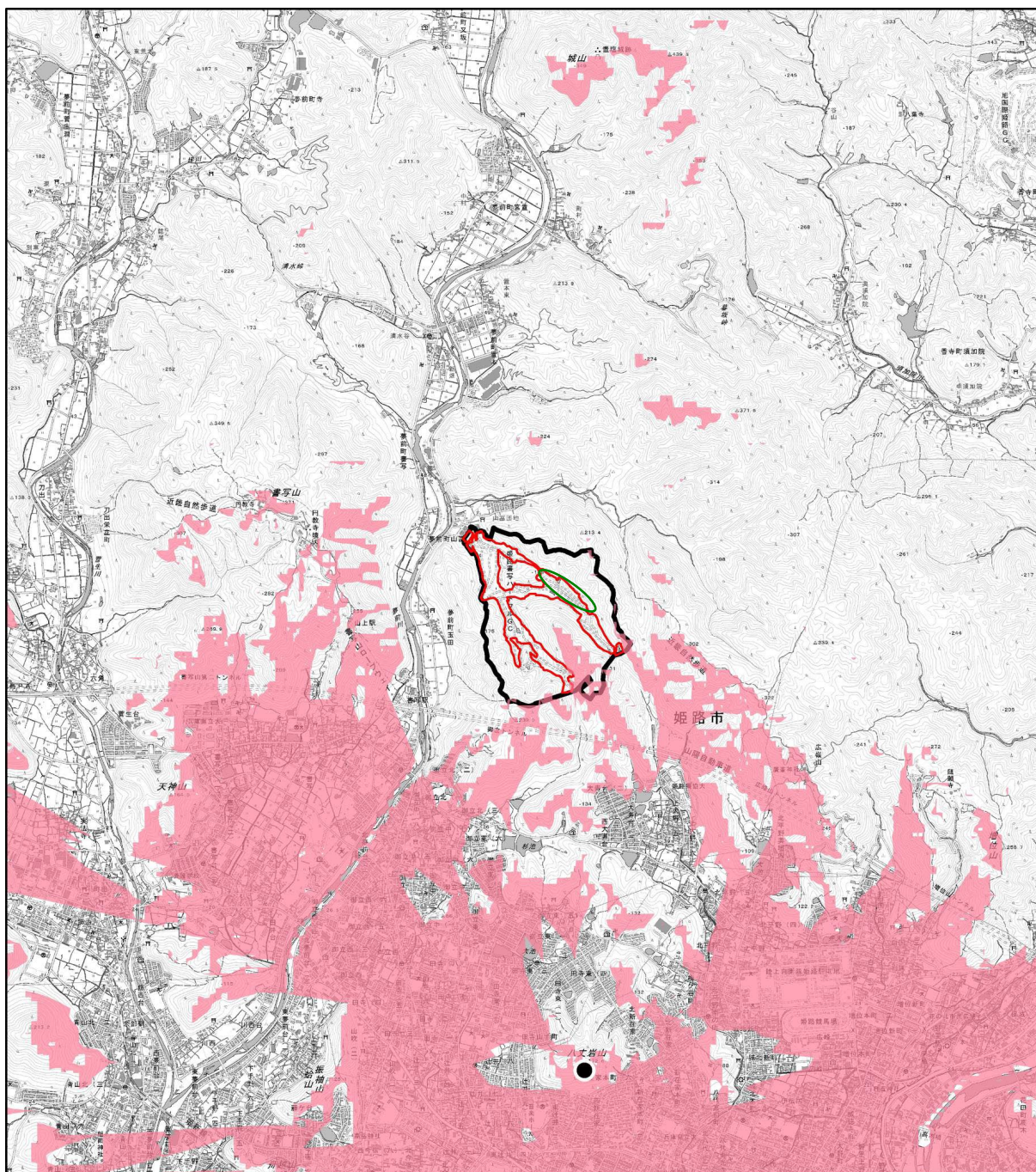
凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲
- B案にて太陽電池等の配置を抑制する範囲
- 主要な眺望点(書写山ロープウェイ)
- 眺望点(書写山ロープウェイ)からの可視領域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.57
主要な眺望点からの可視領域
(③書写山ロープウェイ)



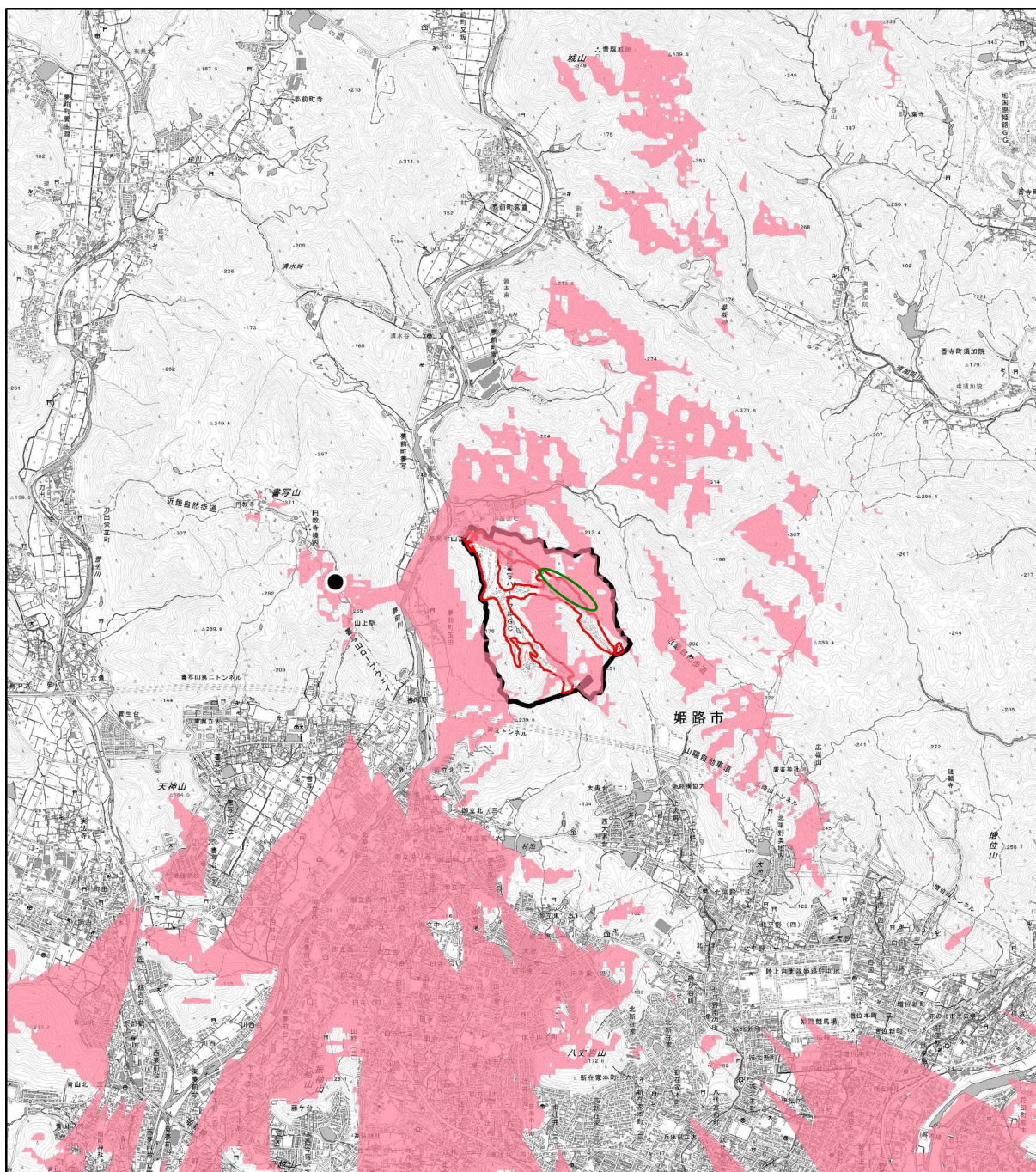
凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲
- B案にて太陽電池等の配置を抑制する範囲
- 主要な眺望点(八丈岩山)
- 眺望点(八丈岩山)からの可視領域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.58
主要な眺望点からの可視領域
(④八丈岩山)



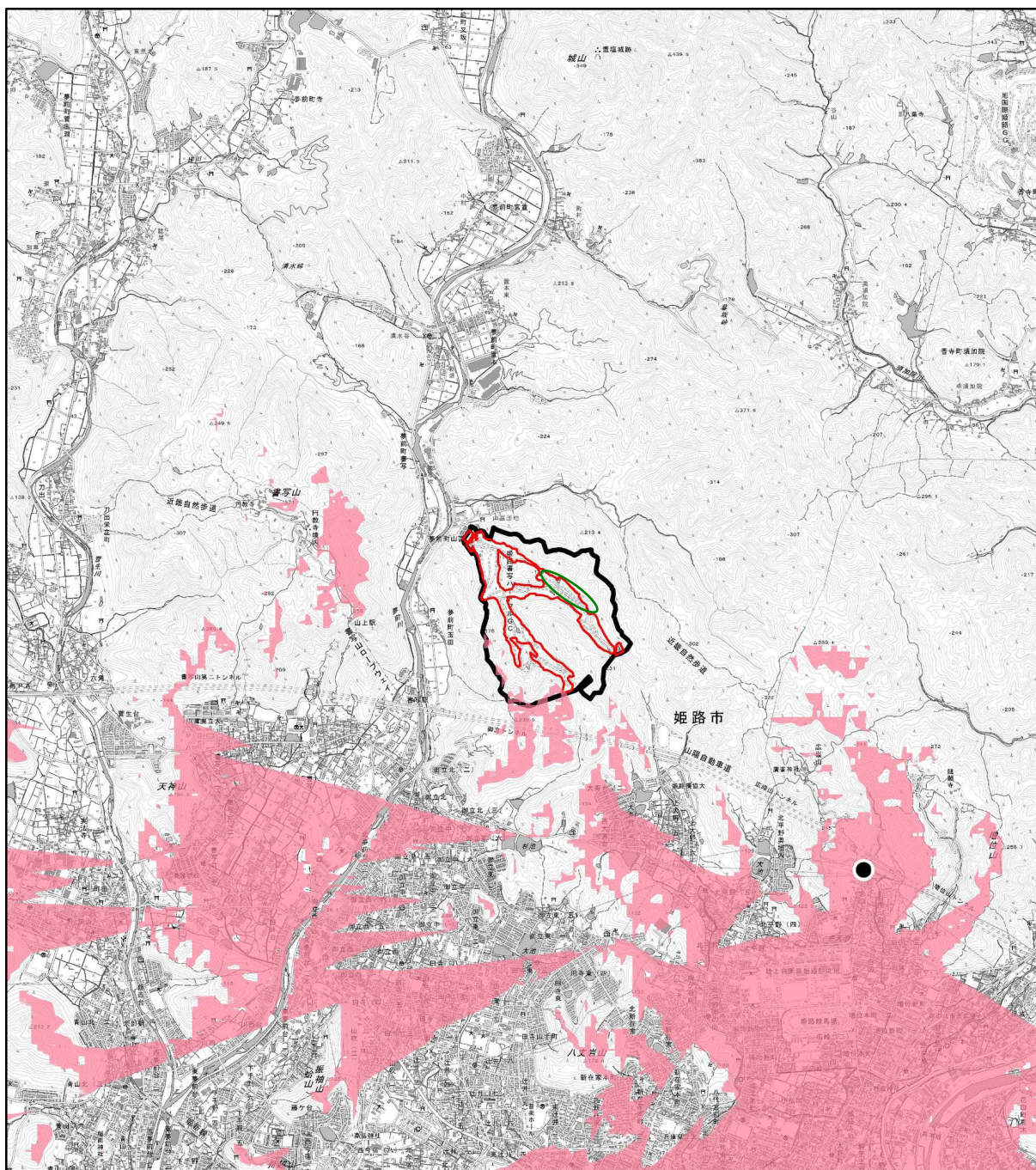
凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲
- B案にて太陽電池等の配置を抑制する範囲
- 主要な眺望点(書写山参道展望台)
- 眺望点(書写山参道展望台)からの可視領域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.59
主要な眺望点からの可視領域
(⑤書写山参道展望台)



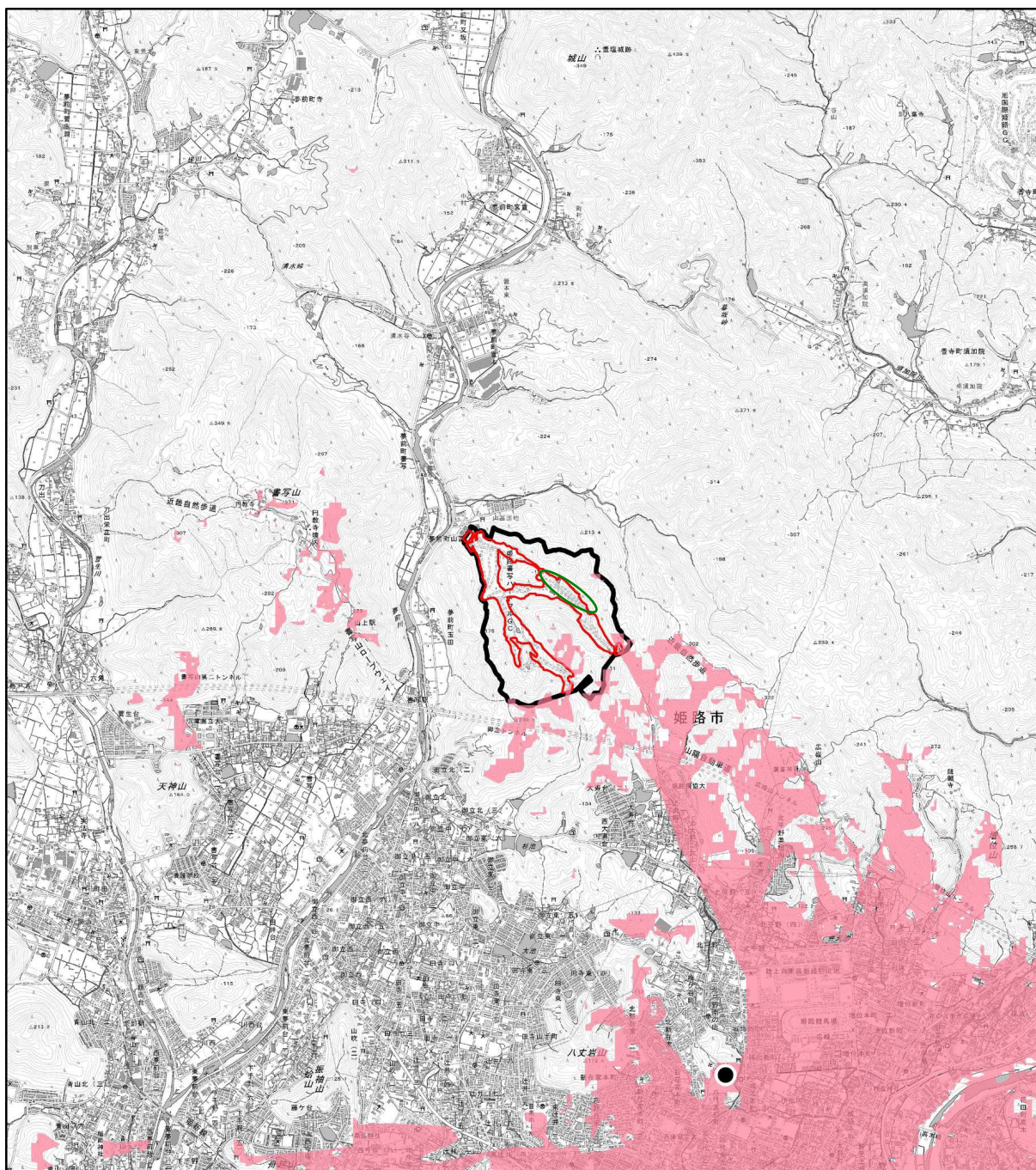
凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲
- B案にて太陽電池等の配置を抑制する範囲
- 主要な眺望点(広峰展望広場)
- 眺望点(広峰展望広場)からの可視領域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.60
主要な眺望点からの可視領域
(⑥広峰展望広場)



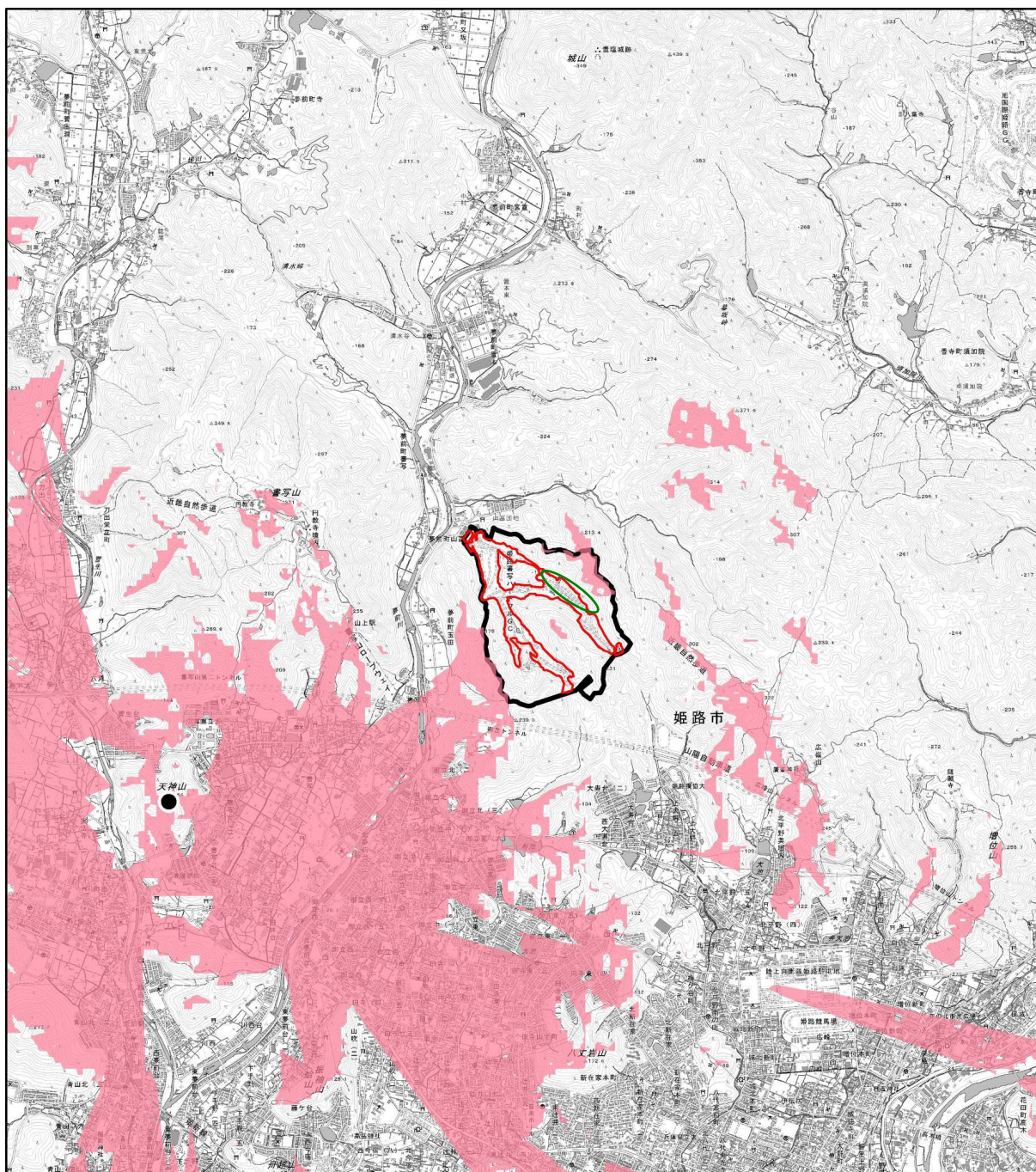
凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲
- B案にて太陽電池等の配置を抑制する範囲
- 主要な眺望点(芝崎山展望ベンチ)
- 眺望点(芝崎山展望ベンチ)からの可視領域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.61
主要な眺望点からの可視領域
(⑦芝崎山展望ベンチ)



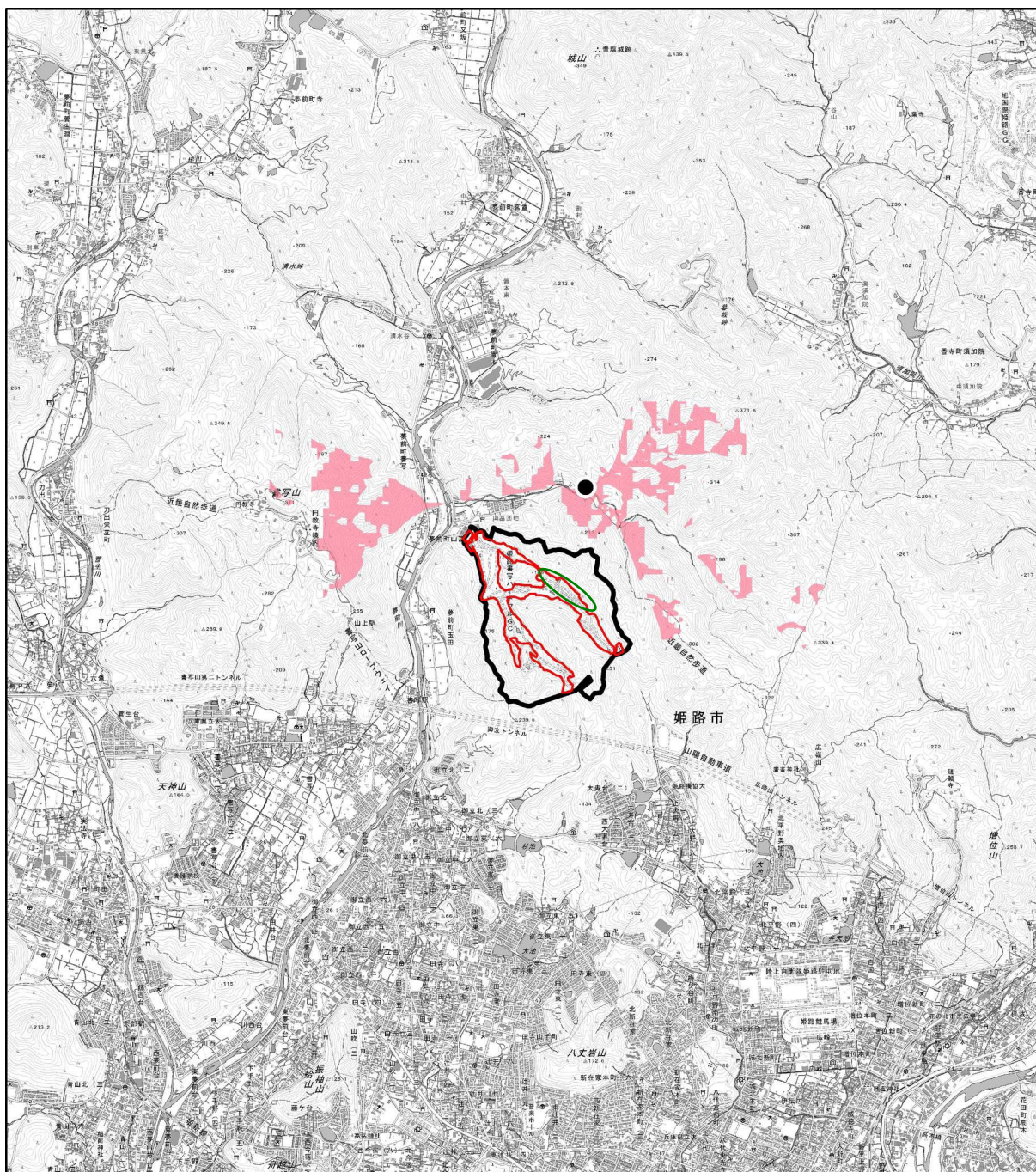
凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲
- B案にて太陽電池等の配置を抑制する範囲
- 主要な眺望点(天神山)
- 眺望点(天神山)からの可視領域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.62
主要な眺望点からの可視領域
(⑧天神山)



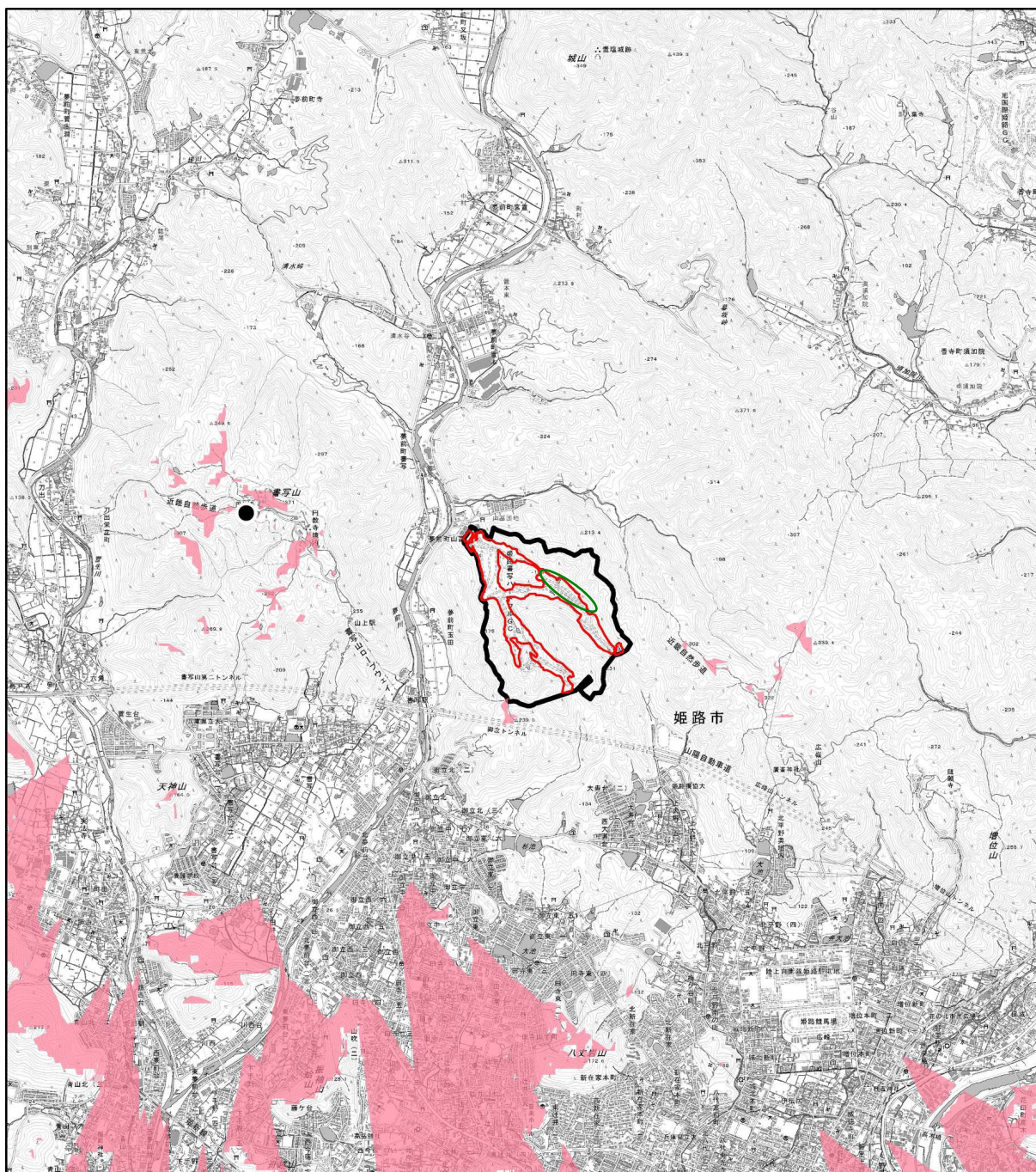
凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲
- B案にて太陽電池等の配置を抑制する範囲
- 主要な眺望点(氷室ダム・展望台)
- 眺望点(氷室ダム・展望台)からの可視領域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.63
主要な眺望点からの可視領域
(⑨氷室ダム・展望台)



凡例

- 事業実施想定地域
- 太陽電池等設置検討範囲
- B案にて太陽電池等の配置を抑制する範囲
- 主要な眺望点(展望公園)
- 眺望点(展望公園)からの可視領域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.64
主要な眺望点からの可視領域
(⑩展望公園)

(3) 評価

① 評価手法

調査及び予測結果に基づき、複数案ごとに重大な環境影響の有無や程度について評価した。また、これら複数案の評価結果を比較整理した。

② 評価結果

1) 景観資源及び主要な眺望点の改変の程度

予測の結果、景観資源及び主要な眺望点は、事業実施想定地域内に位置していないことから、景観資源及び主要な眺望点の改変は無いと考えられ、景観資源及び主要な眺望点への影響はないと評価する。

2) 主要な眺望景観の変化の程度

A 案では「②ミオロッソ書写」、「③書写山ロープウェイ」、「④八丈岩山」、「⑤書写山参道展望台」より太陽電池等設置検討範囲が可視であることから、眺望景観の変化が生じる可能性がある。B 案でも、上述の②～⑤の地点では太陽電池等設置検討範囲が可視であるものの、事業実施想定地域の東部で太陽電池等の配置を抑制する区域を設けることで、②、③並びに⑤等の書写山周辺からの眺望点において、可視範囲を大きく削減することとなる。

表 2.4.127 眺望点からの可視範囲と評価結果のまとめ

眺望点	可視範囲		評価	
	A 案	B 案	A 案	B 案
①広峰山	不可視	不可視	○	○
②ミオロッソ書写	広範囲に可視	一部可視	×	△
③書写山ロープウェイ	広範囲に可視	一部可視	×	△
④八丈岩山	一部可視	一部可視	△	△
⑤書写山参道展望台	広範囲に可視	一部可視	×	△
⑥広峰展望広場	不可視	不可視	○	○
⑦芝崎山展望ベンチ	不可視	不可視	○	○
⑧天神山	不可視	不可視	○	○
⑨氷室ダム・展望台	不可視	不可視	○	○
⑩展望公園	不可視	不可視	○	○

注) 評価 ○：太陽電池等設置検討範囲が視認されないため影響はない。

△：太陽電池等設置検討範囲が一部視認されるため、一定の影響が生じる可能性がある。

×：太陽電池等設置検討範囲が広く視認されるため、大きな影響が生じる可能性がある。

なお、現時点では、早期事前調査による既存資料の調査結果であり、事業計画に未確定事項が多いこと、事業実施想定地域内における詳細な情報を得られていないため、今後の概要書の手続きにおいて、以下の事項に留意し、具体的な環境保全措置を検討する。

- ・事業実施想定地域の西側の眺望点より視認の可能性が高い東部には太陽電池等の配置を抑制する。
- ・現地調査等により主要な眺望景観の状況並びに身近な視点場における景観の状況等を把握し、事業による影響の予測を行い、必要に応じて環境保全措置を検討する。

- ・ 今後の太陽電池等の配置等の検討においては、身近な視点場における景観の状況を踏まえて検討する。
- ・ 県立自然公園内の事業であることから、兵庫県立自然公園条例（昭和 38 年兵庫県条例第 80 号）を遵守し、優れた自然の風景地の保護とその適正な利用が図られるよう、事業実施想定地域の非改変区域の樹林の伐採は行わない。また、太陽電池等設置検討範囲内の樹林についても極力伐採しない。

今後の手続きにおいて以上を着実に実施し、B 案を採用することにより、事業による重大な影響は回避又は低減できる可能性が高いものと評価する。

4-4-5 地盤

(1) 調査

① 調査事項

調査項目は、以下のとおりとした。

- ・ 地形及び表層地質の分布状況
- ・ 国土防災に係る指定区域の分布状況

② 調査方法

既存文献等の収集及び整理により、地形及び表層地質、国土防災に係る指定区域の分布状況を調査した。

③ 調査地域

調査地域は、事業実施想定地域及びその周囲とした。

④ 調査結果

1) 地形及び表層地質の分布状況

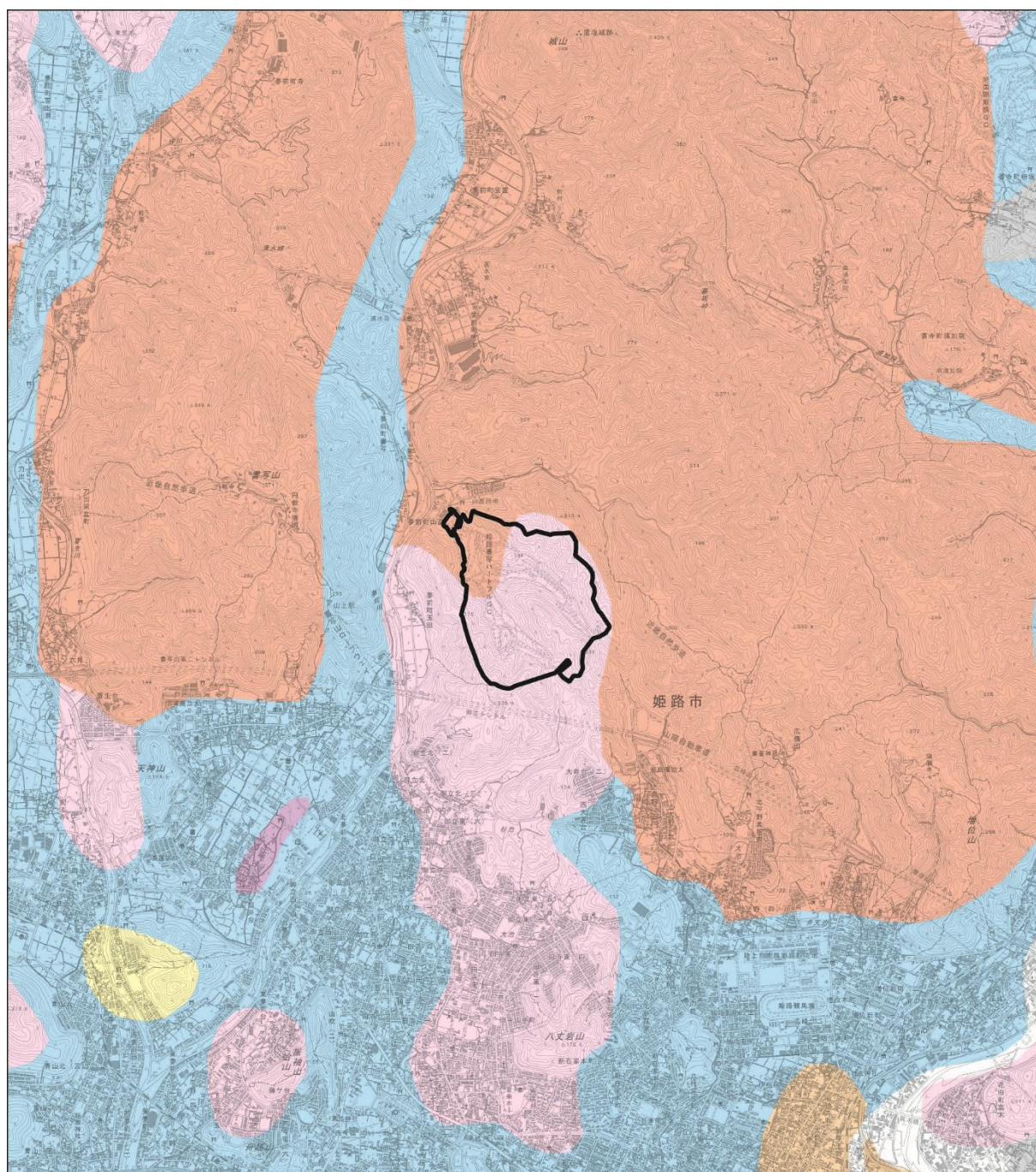
事業実施想定地域及びその周囲の地形及び表層地質の分布状況は、図 2.4.65 及び図 2.4.66 のとおりである。

事業実施想定地域の地形分類区分は主に山地の小起伏山地、丘陵地の大起伏丘陵地からなっている。また、表層地質は、事業実施想定地域は火山性岩石である流紋岩類、未固結堆積物（泥・砂・礫）で、連系変電所エリアは固結堆積物（泥質岩）からなっている。

2) 国土防災に係る指定区域の分布状況

事業実施想定地域及びその周囲の国土防災に係る指定区域の分布状況は、図 2.4.68 ～図 2.4.71 のとおりである。

事業実施想定地域（連系変電所エリア含む）及び周辺が保安林、砂防指定地、「山地災害危険地区調査要領」に基づく崩壊土砂流出危険地区及び山腹崩壊危険地区、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域、「宅地造成及び特定盛土等規制法」に基づく宅地造成工事規制区域及び特定盛土等規制区域、「兵庫県 CG ハザードマップ」で指定される崩壊土砂流出危険地区等に指定されている。



凡 例

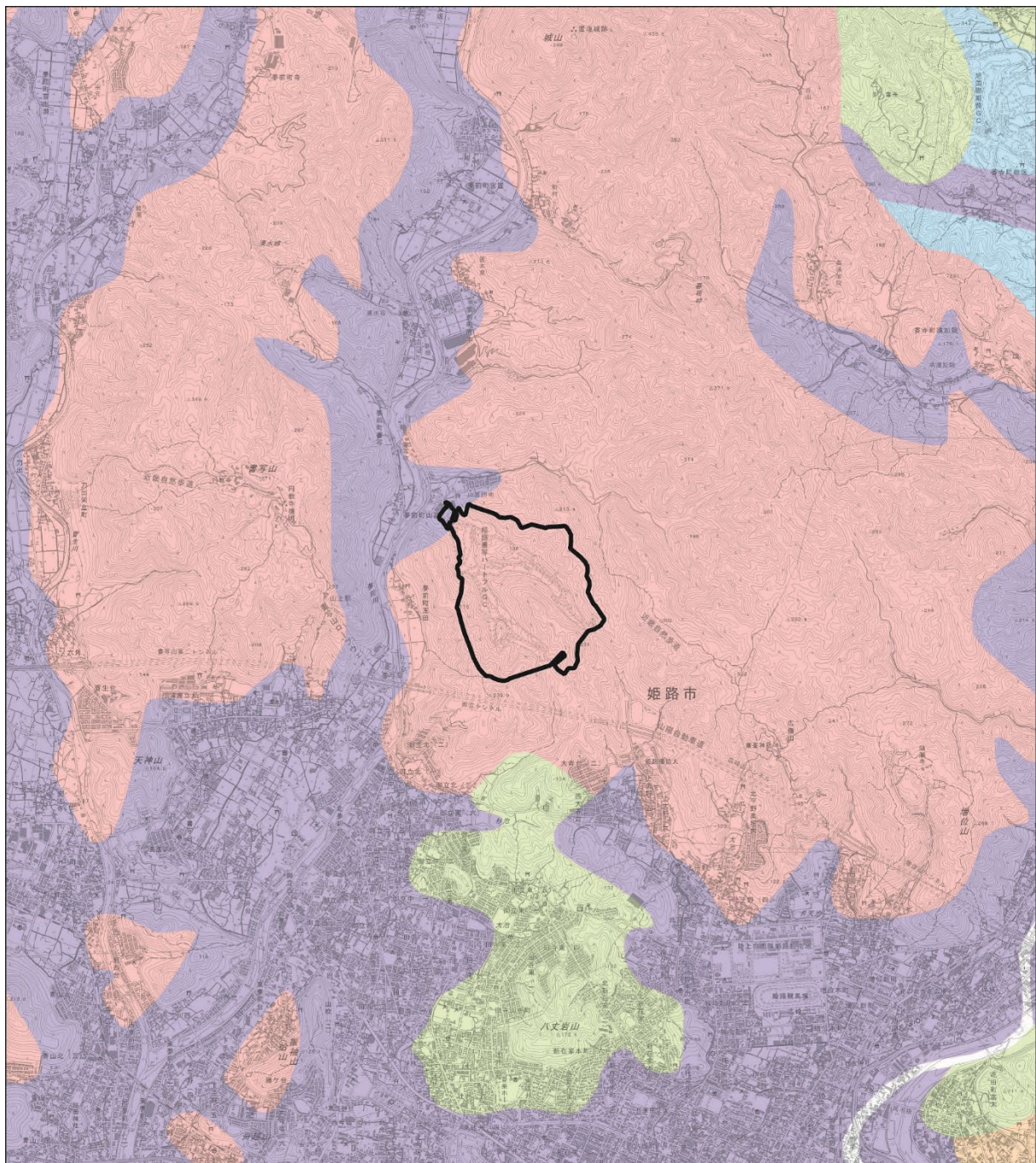
- 事業実施想定地域
- 【山地】
- 小起伏山地
- 【丘陵地】
- 大起伏丘陵地
- 小起伏丘陵地
- 【低地】
- 扇状地性低地
- 三角州性低地
- 自然堤防・砂州・砂丘
- 【台地段丘】
- 砂礫台地（下位）

出典：「国土数値情報 20万分の1土地分類基本調査」（令和8年1月閲覧、国土交通省HP）
 注：本図は、国土地理院電子地形図25000を用いて作成したものである。



0 500 1,000 2,000
 m

図 2.4.65
 地形分類図



凡 例

事業実施想定地域

【火山性岩石】

流紋岩類

【固結～半固結堆積物】

礫砂泥

【未固結堆積物】

泥・砂・礫

段丘礫

【固結堆積物】

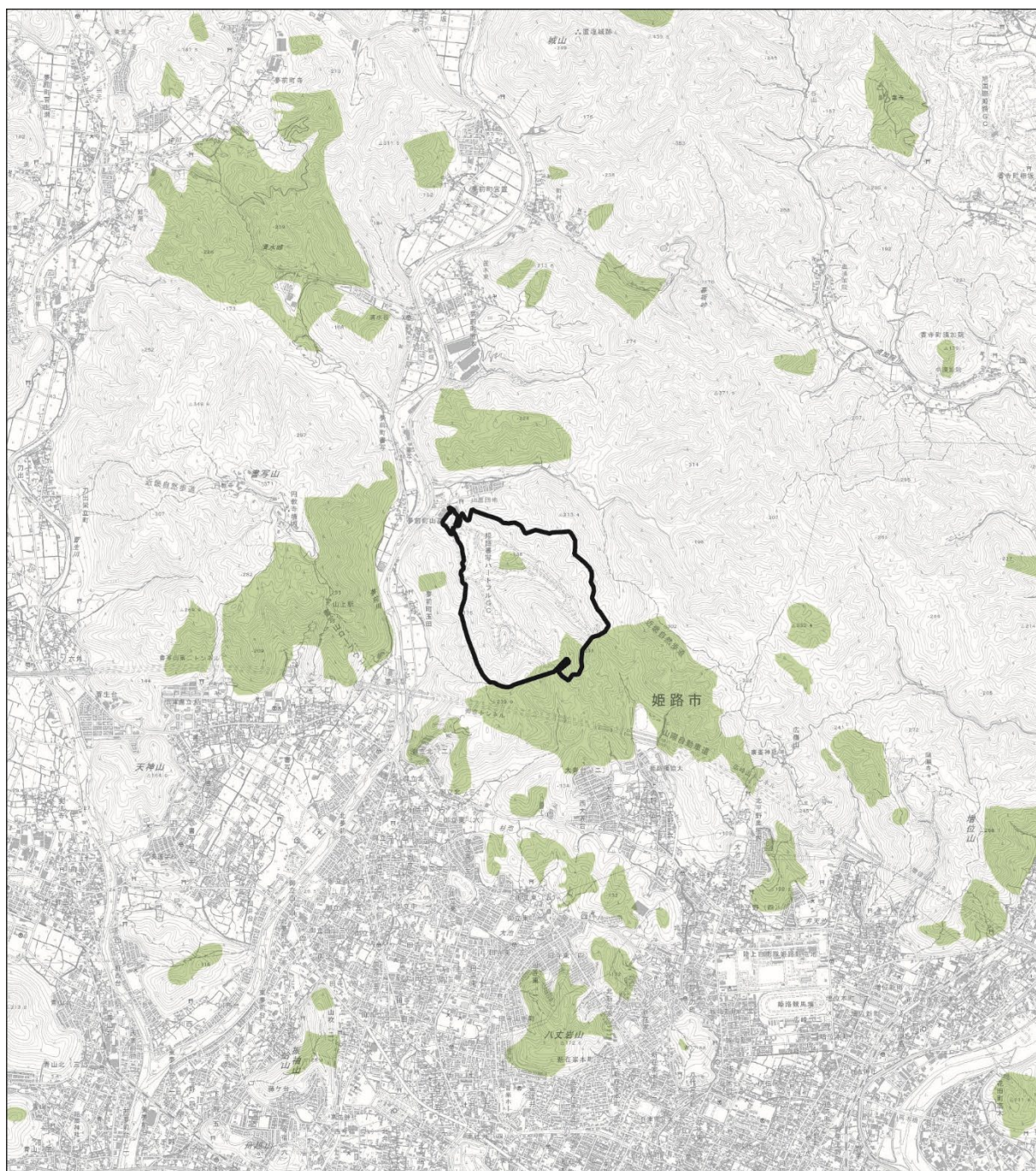
泥質岩



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.66
表層地質図

出典：「国土数値情報 20 万分の 1 土地分類基本調査」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

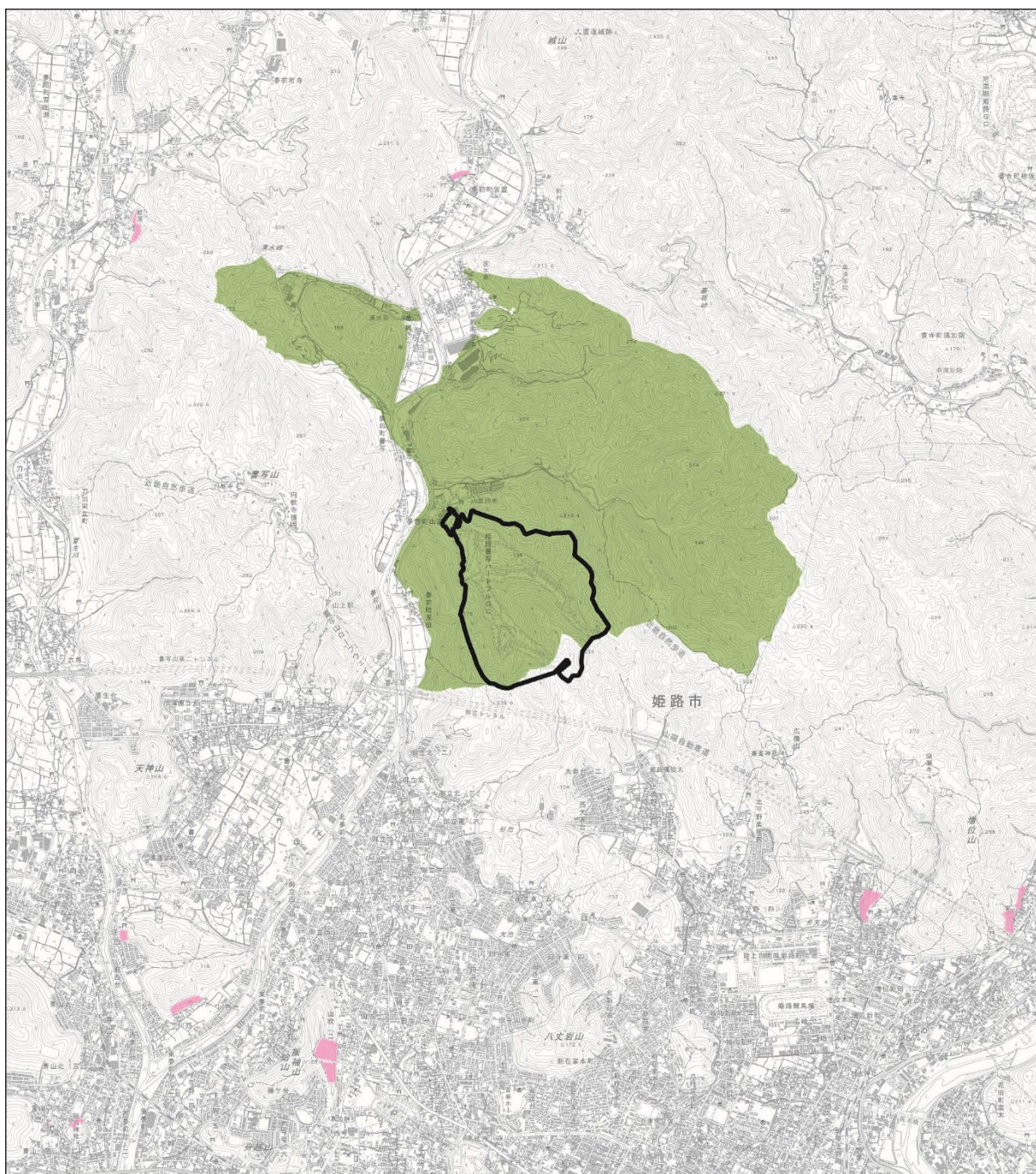
- 事業実施想定地域
- 保安林



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.67
保安林

出典：「国土数値情報 森林地域データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

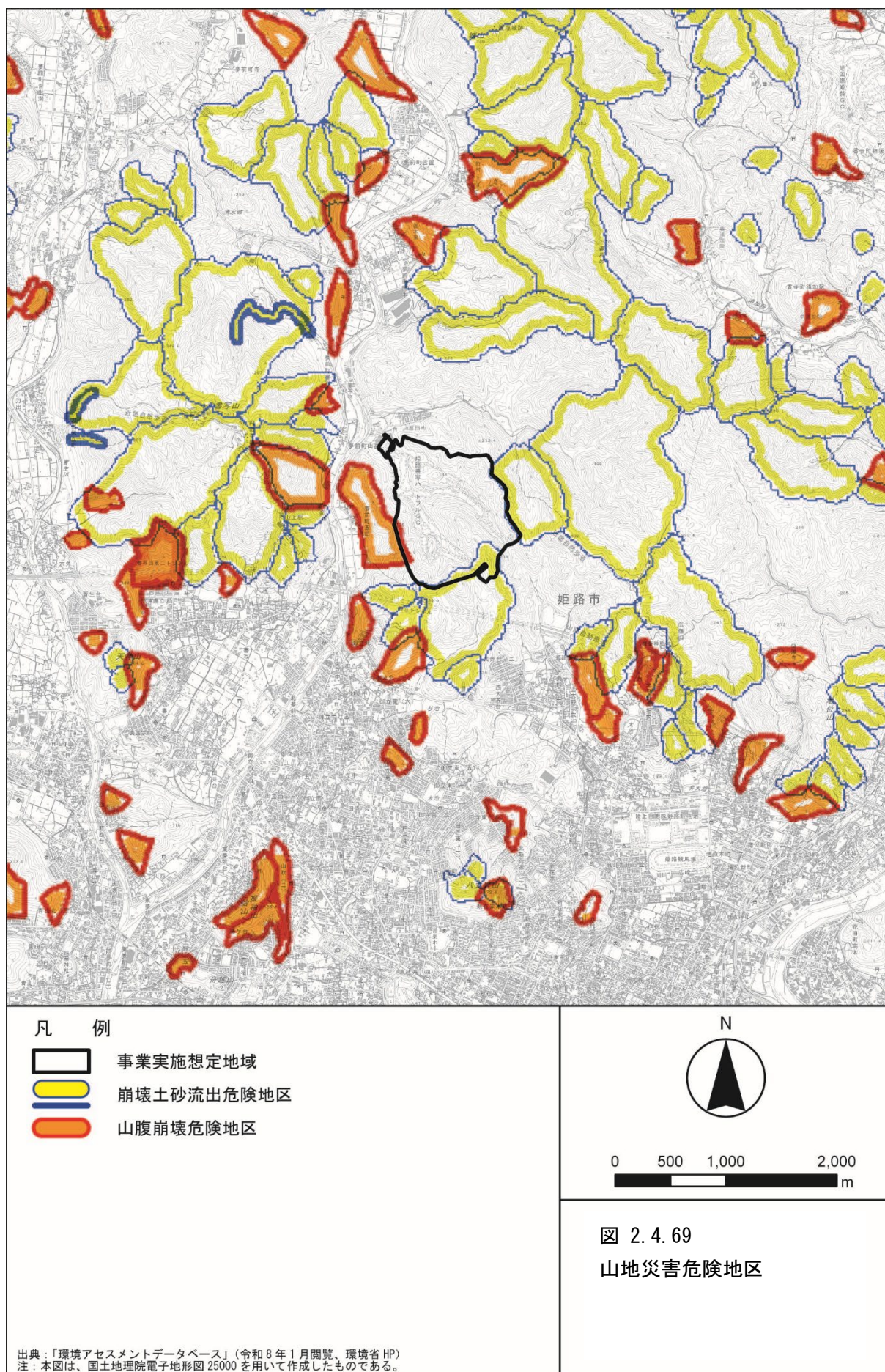
- 事業実施想定地域
- 砂防指定地
- 急傾斜地崩壊危険区域

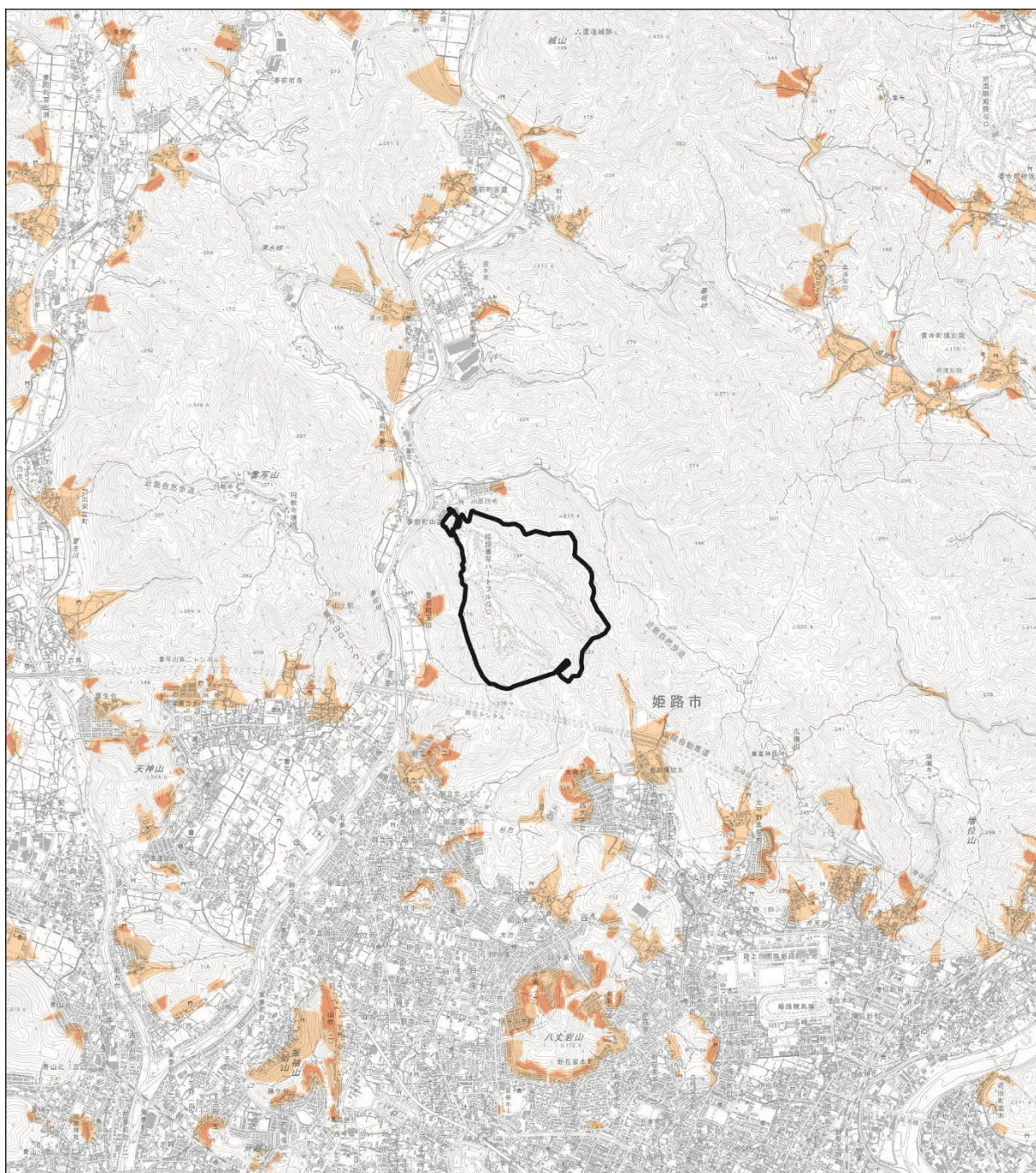


0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.68
砂防指定地

出典：「姫路土木事務所資料」（令和7年12月ヒアリング、姫路土木事務所）
「国土数値情報 急傾斜地崩壊危険区域データ」（令和8年1月閲覧、国土交通省 HP）
「国土数値情報 地すべり防止区域データ」（令和8年1月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。





凡 例

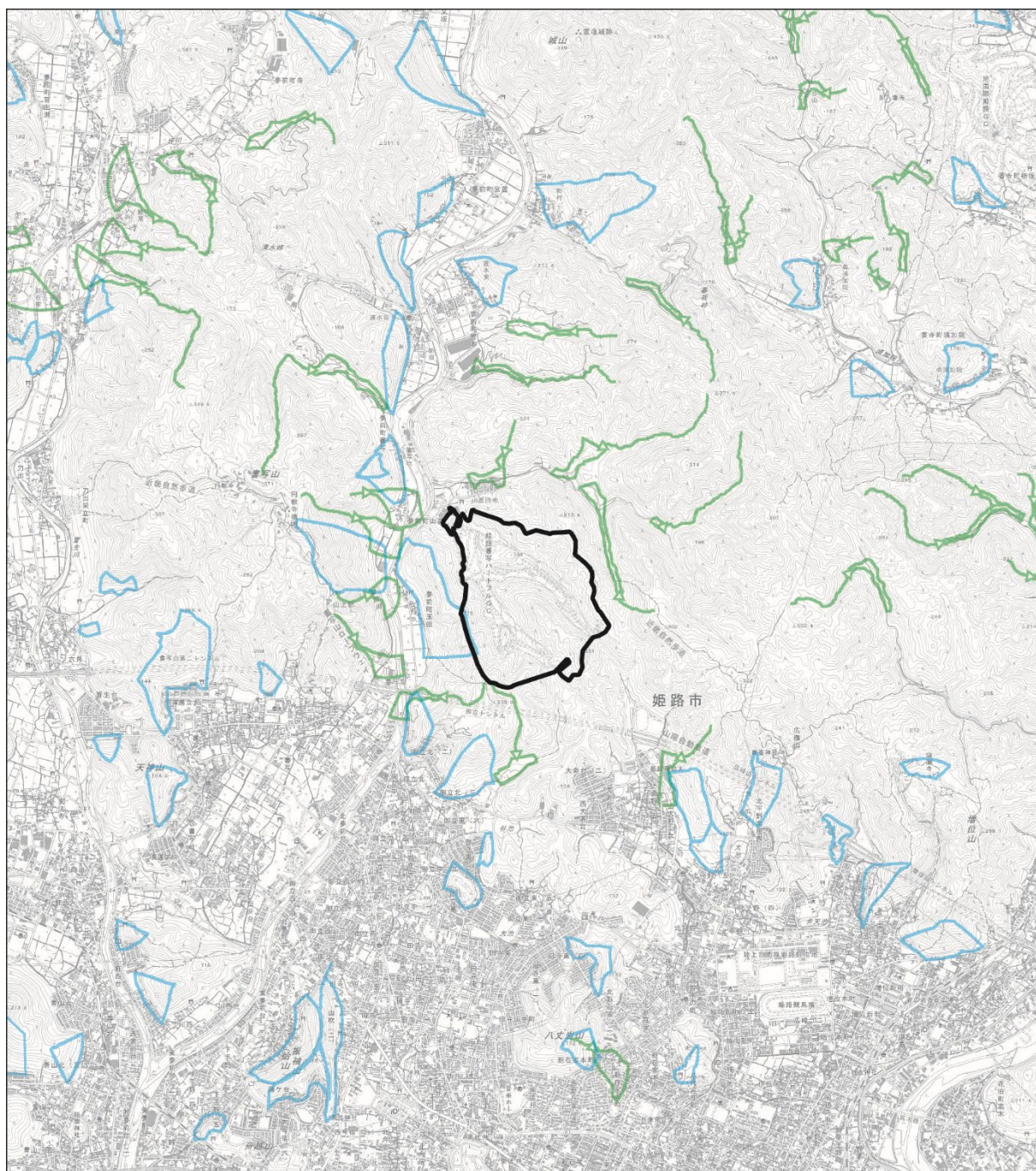
-  事業実施想定地域
-  土砂災害警戒区域
-  土砂災害特別警戒区域



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.70
土砂災害危険区域等

出典：「国土数値情報 土砂災害警戒区域データ」（令和 8 年 1 月閲覧、国土交通省 HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。



凡 例

- 事業実施想定地域
- 山腹崩壊危険区域
- 崩壊土砂流出危険区域 (→土石流の流向)



0 500 1,000 2,000
m

図 2.4.71
山地災害危険区域

出典：「CGハザードマップ2.0」（令和8年1月閲覧、兵庫県HP）
注：本図は、国土地理院電子地形図 25000 を用いて作成したものである。

(2) 予測

① 予測事項

- ・土地の安定性への影響

② 予測方法

太陽電池等設置検討範囲と地形及び表層地質、傾斜区分の重ね合わせ、国土防災に係る指定区域の分布状況により、土地の安定性への影響の有無を整理した。

③ 予測地域

太陽電池等設置検討範囲とした。

④ 予測結果

太陽電池等設置検討範囲内の地形は、山地の小起伏山地及び丘陵地の大起伏丘陵地からなっている。また、表層地質は主に火山性岩石である流紋岩類、未固結堆積物（泥・砂・礫）で、連系変電所エリアは固結堆積物（泥質岩）からなっている。

太陽電池等設置検討範囲は、ほとんどが砂防指定地に指定されており、一部が崩壊土砂流出危険地区に指定されている。また、連系変電所エリアは、保安林、山腹崩壊危険地区、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域、崩壊土砂流出危険地区等に指定されている。

本事業では、新たな土地の造成（切土・盛土等）は実施しないこと、残置森林を確保するとともに、樹木伐採は必要最小限に留める計画であること等、土地の安定性に対して影響を抑える措置を講じる。しかし、土地の安定性に対して懸念される地域が太陽電池等設置検討範囲内に存在するため、事業による影響が生じる可能性が考えられる。

なお、A 案、B 案ともに、事業実施に伴う改変により影響を受ける範囲は同様のため、A 案、B 案ともに同様の予測結果である。

(3) 評価

① 評価手法

調査及び予測結果に基づき、複数案ごとに重大な環境影響の有無や程度について評価した。

② 評価結果

本事業では、新たな土地の造成（切土・盛土等）は実施しないこと、残置森林を確保するとともに、樹木伐採は必要最小限に留める計画であること等、土地の安定性に対して影響を抑える措置を講じるものの、土地の安定性に対して懸念される地域が太陽電池等設置検討範囲内に存在するため、事業による影響が生じる可能性が考えられる。

なお、A 案、B 案ともに、事業実施に伴う改変により影響を受ける範囲は同様のため、A 案、B 案ともに同様の予測結果である。

なお、現時点では、早期事前調査による既存資料の調査結果であり、事業計画に未確定事項が多いこと、事業実施想定地域内における詳細な情報を得られていないため、今後の概要書の手続きにおいて、以下の事項に留意し、具体的な環境保全措置を検討する。

- ・今後の環境影響評価手続きにおいては、今後の設計計画の検討や関係機関との協議並びに環境影響に関する予測・評価結果を踏まえて、周辺地域への環境影響の回避・低減等の検討を行っていく。
- ・今後の太陽電池等の配置計画の検討に当たっては、概要書の手続き以降における調査結果等を踏まえ、土地の傾斜状況、地盤強度等を考慮の上、太陽電池等の設置範囲、基礎構造、排水対策等を検討する。

今後の手続において以上を着実に実施することにより、事業による重大な影響は回避又は低減できる可能性が高いものと評価する。

4-4-6 総合的な評価

事業実施想定地域に太陽電池発電所を設置することによる周辺環境に与える影響について複数案で検討した結果、表 2. 4. 128 に示すとおり、B 案を採用するとともに概要書の手続き以降に、事業計画における配置計画等の配慮を行うことにより、重大な環境影響は回避又は低減できる可能性が高いと評価した。

表 2. 4. 128(1) 評価結果と配慮事項の概要

環境要素	環境要因の区分	重大な環境影響が及ぶおそれのある環境要素の選定理由	評価結果	配慮事項
植物	地形改変及び施設 の存在	事業実施想定地域及びその周辺において、重要な種及び重要な群落が確認されており、地形の改変及び施設の存在による影響のおそれがある。	・ A 案、B 案ともに、水辺、樹林、草地を主な生育環境とする重要な種については、直接改変による生育環境の変化に伴う影響が生じる可能性がある。 ・ A 案、B 案ともに、重要な植物群落及び巨樹・巨木林、天然記念物は、事業実施想定地域内に存在しないことから、直接改変による影響はない。 ・ 上記の結果は、早期事前調査による既存資料の調査結果であり、事業実施想定地域内における詳細な情報を得られていないため、今後の概要書の手続き以降の調査、予測及び評価の結果等を踏まえた上で、環境保全措置を検討・実施することにより、<u>A 案、B 案ともに事業による重大な影響は回避又は低減できる可能性が高いものと評価する。</u>	・ 現地調査により植物の生育状況を把握し、生育が確認された重要な種に対して環境保全措置を検討する。なお、現地調査の実施にあたっては、今後検討される事業実施想定地域に主な生育環境が存在する種の生態的特性を踏まえた調査を検討する。 ・ 今後の太陽電池等の配置等においては、重要な種の生育状況等を踏まえて検討する。 ・ ゴルフ場等の既改変の土地の活用により、樹木の伐採面積の最小化を図ることで、直接改変による重要な種の生育環境への影響の低減を図る。 ・ 工事に使用する重機のタイヤ等の足回りに付着した泥の洗浄、緑化を行う際には地域の在来種を極力使用、種子吹付を行う際には侵略的外来種の種子が含まれていないものを使用等により、事業実施想定地域内に持ち込まないよう配慮する。 ・ 工事用車両の事業実施想定地域からの退出時の足回り洗浄の実施、太陽光パネル配置箇所周辺の定期的な除草（草刈り）による侵略的外来種の異常繁茂抑制等により、事業実施想定地域外に持ち出さないよう配慮する。
動物	地形改変及び施設 の存在	事業実施想定地域及びその周辺において、重要な種及び注目すべき生息地が確認されており、地形の改変及び施設の存在による影響のおそれがある。	・ A 案、B 案ともに、水辺、池、湿地、樹林、草地を主な生息環境とする重要な種については、直接改変による生息環境の変化に伴う影響が生じる可能性がある。 ・ A 案、B 案ともに、注目すべき生息地について、事業実施想定地域の大部分は西播丘陵県立自然公園内に位置しており、直接改変により動物の注目すべき生息地に影響を及ぼす可能性が考えられる。 ・ 上記の結果は、早期事前調査による既存資料の調査結果であり、事業実施想定地域内における詳細な情報を得られていないため、今後の概要書の手続き以降の調査、予測及び評価の結果等を踏まえた上で、環境保全措置を検討・実施することにより、<u>A 案、B 案ともに事業による重大な影響は回避又は低減できる可能性が高いものと評価する。</u>	・ 現地調査により動物の生息状況を把握し、生息が確認された重要な種に対して環境保全措置を検討する。なお、現地調査の実施にあたっては、今後検討される事業実施想定地域に主な生息環境が存在する種の生態的特性を踏まえた調査を検討する。 ・ 今後の太陽電池等の配置等においては、重要な種の生息状況等を踏まえて検討する。 ・ ゴルフ場等の既改変の土地の活用により、樹木の伐採面積の最小化を図ることで、直接改変による重要な種の生息環境への影響の低減を図る。 ・ 猛禽類については、「猛禽類保護の進め方（改訂版）」（平成 24 年、環境省）に準拠して生息状況調査を行い、適切に影響を予測評価する。 ・ 工事に使用する重機のタイヤ等の足回りに付着した泥の洗浄、太陽光パネル等の搬入時の不審なアリやクモ等の付着の有無の目視確認により、事業実施想定地域内に持ち込まないよう配慮する。 ・ 工事用車両の事業実施想定地域からの退出時の足回り洗浄の実施により、事業実施想定地域外に持ち出さないよう配慮する。
生態系	地形改変及び施設 の存在	事業実施想定地域及びその周辺において、重要な自然環境のまとまりの場が確認されており、地形の改変及び施設の存在による影響のおそれがある。	・ A 案、B 案ともに、事業実施想定地域の大部分は自然公園内に位置し、一部は保安林に指定されていること等より、重要な自然環境のまとまりの場に対して影響を及ぼす可能性が考えられる。 ・ 上記の結果は、早期事前調査による既存資料の調査結果であり、事業実施想定地域内における詳細な情報を得られていないため、今後の概要書の手続き以降の調査、予測及び評価の結果等を踏まえた上で、環境保全措置を検討・実施することにより、<u>A 案、B 案ともに事業による重大な影響は回避又は低減できる可能性が高いものと評価する。</u>	・ 現地調査等により生態系注目種及び注目すべき生息・生育の場への影響の程度を適切に予測し、必要に応じて環境保全措置を検討する。 ・ 県立自然公園内の事業であることから、兵庫県立自然公園条例（昭和 38 年兵庫県条例第 80 号）を遵守し、生物多様性の確保に寄与するよう、適切な環境配慮を行う。 ・ 当該自然公園は、アカマツ・コナラ等の二次林を主体に、常緑広葉樹をまじえた社叢林が自然林として残されている環境であるため、これらの環境を保全するため、事業実施想定地域の非改変区域の樹林の伐採は行わない。また、太陽電池等設置検討範囲内の樹林についても極力伐採しない。 ・ 現地調査等により生態系注目種及び注目すべき生息・生育の場への影響の程度を適切に予測し、必要に応じて環境保全措置を検討する。

表 2. 4. 128 (2) 環境影響が懸念された内容と配慮事項の概要

環境要素	環境要因の区分	重大な環境影響が及ぶおそれのある環境要素の選定理由	評価結果	配慮事項
景観	地形改変及び施設 の存在	事業実施想定地域の周辺には、 主要な眺望点及び景観資源が 確認されており、地形の改変及 び施設の存在に伴う景観への 影響のおそれがある。	・ A 案、B 案ともに、景観資源及び主要な眺望点は、事業実施 想定地域内に位置していないことから景観資源及び主要 な眺望点への影響はないと評価する。 ・ 主要な眺望景観の変化について、A 案では「②ミオロッソ 書写」、「③書写山ロープウェイ」、「④八丈岩山」、「⑤ 書写山参道展望台」より太陽電池等設置検討範囲が可視で あることから、眺望景観の変化が生じる可能性がある。B 案 でも、上述の②～⑤の地点では太陽電池等設置検討範囲が 可視であるものの、事業実施想定地域の東部で太陽電池等 の配置を抑制する区域を設けることで、②、③並びに⑤等 の書写山周辺からの眺望点において、可視範囲を大きく削 減することとなる。 ・ 上記の結果は、早期事前調査による既存資料の調査結果で あり、事業実施想定地域内における詳細な情報を得られて いないため、今後の概要書の手続き以降の調査、予測及び 評価の結果等を踏まえた上で、環境保全措置を検討・実施 し、<u>B 案を採用することにより、事業による重大な影響は 回避又は低減できる可能性が高いものと評価する。</u>	・ 事業実施想定地域の西側の眺望点より視認の可能性が高い東部には太陽電池等の配置を抑制する。 ・ 現地調査等により主要な眺望景観の状況並びに身近な視点場における景観の状況等を把握し、事業による影響 の予測を行い、必要に応じて環境保全措置を検討する。 ・ 今後の太陽電池等の配置等の検討においては、身近な視点場における景観の状況を踏まえて検討する。 ・ 県立自然公園内の事業であることから、兵庫県立自然公園条例（昭和 38 年兵庫県条例第 80 号）を遵守し、優 れた自然の風景地の保護とその適正な利用が図られるよう、事業実施想定地域の非改変区域の樹林の伐採は行 わない。また、太陽電池等設置検討範囲内の樹林についても極力伐採しない。
地盤	地形改変及び施設 の存在	事業実施想定地域に斜面等の 土地の安定性に関連する地形・ 地質等が存在し、地形の改変及 び施設の存在に伴い土地の安 定性が変化するおそれがある。	・ A 案、B 案ともに、新たな土地の造成（切土・盛土等）は実 施しないこと、残置森林を確保するとともに、樹木伐採は 必要最小限に留める計画であること等、土地の安定性に対 して影響を抑える措置を講じるものの、土地の安定性に対 して懸念される地域が太陽電池等設置検討範囲内に存在 するため、事業による影響が生じる可能性が考えられる。 ・ 上記の結果は、早期事前調査による既存資料の調査結果で あり、事業実施想定地域内における詳細な情報を得られて いないため、今後の概要書の手続き以降の調査、予測及び 評価の結果等を踏まえた上で、環境保全措置を検討・実施 することにより、<u>A 案、B 案ともに事業による重大な影響は 回避又は低減できる可能性が高いものと評価する。</u>	・ 今後の環境影響評価手続きにおいては、今後の設計計画の検討や関係機関との協議並びに環境影響に関する予 測・評価結果を踏まえて、周辺地域への環境影響の回避・低減等の検討を行っていく。 ・ 今後の太陽電池等の配置計画の検討に当たっては、概要書の手続き以降における調査結果等を踏まえ、土地の 傾斜状況、地盤強度等を考慮の上、太陽電池等の設置範囲、基礎構造、排水対策等を検討する。

資料編

目 次

資料編

表 1	植物確認種一覧	資料- 1
表 2	哺乳類確認種一覧	資料-20
表 3	鳥類確認種一覧	資料-21
表 4	爬虫類確認種一覧	資料-25
表 5	両生類確認種一覧	資料-26
表 6	昆虫類確認種一覧	資料-27
表 7	魚類確認種一覧	資料-37
表 8	陸産貝類確認種一覧	資料-39
表 9	底生動物確認種一覧	資料-41

表 1 (1) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
1	ハラタケ	ヌメリガサ	アケボノタケ	<i>Hygrocybe calyptiformis</i>	○			●	
2		シメジ	ホンシメジ	<i>Lyophyllum shimeji</i>	○			●	
3		キシメジ	ハエトリシメジ	<i>Tricholoma muscarium</i>	○			●	
4			マツタケモドキ	<i>Tricholoma robustum</i>	○			●	
5		オオモミタケ	モミタケ	<i>Catathelasma ventricosum</i>	○			●	
6		モエギタケ	ナガエノスギタケ	<i>Hebeloma radicosum</i>	○			●	
7	イグチ	イグチ	タマノリイグチ	<i>Xerocomus astraeicola Imazeki</i>	○			●	
8	ビョウタケ	キンカクキン	キツネノワン	<i>Ciboria shiraiana</i>	○			●	
9			キツネノヤリタケ	<i>Scleromitrla shiraiana</i>	○			●	
10	チャワンタケ	ベニチャワンタケ	キツネノサカズキ	<i>Galiella japonica</i>	○			●	
11		ノボリリュウタケ	ミミブサタケ	<i>Wynnea gigantea</i>	○			●	
12		フクロシトネタケ	シャグマアミガサタケ	<i>Gyromitra esculenta</i>	○			●	
13		セイヨウショウロ	クルミタケ	<i>Hydnотrya tulasnei</i>	○			●	
14			イボセイヨウショウロ	<i>Tuber indicum</i>	○			●	
15			ホンセイヨウショウロ	<i>Tuber japonicum</i>	○			●	
16	ボタンタケ	バッククキン	アブラゼミタケ	<i>Polycephalomyces nipponicus</i>	○			●	
17		オフィオコルディセ プス	ウメムラセミタケ	<i>Tolypocladium paradoxum</i>	○			●	
18			ミヤマタンボタケ	<i>Tolypocladium intermedium</i>	○			●	
19	オオイシソウ	オオイシソウ	オオイシソウ	<i>Compsopogon caeruleus</i>	○			●	
20	カワモズク	カワモズク	チャイロカワモズク	<i>Batrachospermum arcuatum</i>	○			●	
21			イシカワモズク	<i>Batrachospermum atrum</i>	○			●	
22			アオカワモズク	<i>Batrachospermum helminthosum</i>	○			●	
23			ホソカワモズク	<i>Batrachospermum turfosum</i>	○			●	
24			ユタカカワモズク	<i>Sirodotia yutakae</i>	○			●	
25	シャジクモ	シャジクモ	シャジクモ	<i>Chara braunii</i>	○			●	
26			イトシャジクモ類	<i>Chara fibrosa group</i>	○			●	
27			ヒメフラスコモ	<i>Nitella flexilis</i> var. <i>flexilis</i>	○			●	
28			ハデフラスコモ	<i>Nitella pulchella</i> Allen	○			●	
29			オオシャジクモ	<i>Chara corallina</i> var. <i>corallina</i>	○			●	
30	ウロコゴケ	クラマゴケモドキ	カギクラマゴケモドキ	<i>Porella caespitans</i> var. <i>nipponica</i>	○			●	
31	センボンゴケ	センボンゴケ	ニセイシバイゴケ	<i>Tuerckheimia svihlae</i>	○			●	
32		カタシロゴケ	ヒメイサワゴケ	<i>Syrrhopodon fimbriatulus</i>	○			●	
33	ホンマゴケ	ハリガネゴケ	ヤマハリガネゴケ	<i>Bryum paradoxum</i>	○			●	
34	イヌマゴケ	ツルゴケ	イトヒバゴケ	<i>Cryphaea ovobatocarpa</i>	○			●	
35			ツルゴケ	<i>Pilotrichopsis dentata</i>	○			●	
37		ナワゴケ	カトウゴケ	<i>Palisadula katoi</i>	○			●	
38			キノクニキヌタゴケ	<i>Palisadula chrysophylla</i>	○			●	
39		ハイヒモゴケ	イトゴケ	<i>Barbella pendula</i>	○			●	
41		ヒラゴケ	セイナンヒラゴケ	<i>Neckeromnion calcicola</i>	○			●	
42			フトスズゴケ	<i>Forsstroemia neckeroides</i>	○			●	
36	イタチゴケ	イタチゴケ	トガリイタチゴケ	<i>Leucodon nipponicus</i>	○			●	
40	ハイゴケ	ハイヒモゴケ	オオミミゴケ	<i>Meteoriella soluta</i>	○			●	
43		ミヤベゴケ	タチヒラゴケ	<i>Homaliadelphus targionianus</i>	○			●	
45		ハイゴケ	ヒロハクシノハゴケ	<i>Ctenidium homalophyllum</i>	○			●	
46			キノクニイチイゴケ	<i>Ectropothecium obtusulum</i>	○			●	
44	アブラゴケ	アブラゴケ	イバラゴケ	<i>Calyptrochaeta japonica</i>	○			●	
47	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	トウゲシバ (広義)	<i>Huperzia serrata</i>			○		
48			ミズスギ	<i>Lycopodiella cernua</i>	○			●	
49			ヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium clavatum</i> var. <i>nipponicum</i>			○		
50			マンネンスギ	<i>Lycopodium obscurum</i>	○		○	●	
51	イワヒバ	イワヒバ	ヒメクラマゴケ	<i>Selaginella heterostachys</i>			○		
52			カタヒバ	<i>Selaginella involvens</i>			○		
53			クラマゴケ	<i>Selaginella remotifolia</i>			○		
54			イワヒバ	<i>Selaginella tamariscina</i>			○		
55	トクサ	トクサ	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>			○		
56	ハナヤスリ	ハナヤスリ	オオハナワラビ	<i>Botrychium japonicum</i>			○		
57			アカハナワラビ	<i>Botrychium nipponicum</i>	○			●	
58			フユノハナワラビ	<i>Botrychium ternatum</i> var. <i>ternatum</i>			○		
59			ナツノハナワラビ	<i>Botrychium virginianum</i>			○		
60			ハマハナヤスリ	<i>Ophioglossum thermale</i>	○			●	
61	マツバラン	マツバラン	マツバラン	<i>Psilotum nudum</i>	○			●	
62	ゼンマイ	ゼンマイ	ゼンマイ	<i>Osmunda japonica</i>			○		
63	コケシノブ	コケシノブ	アオホラゴケ	<i>Crepidomanes latealatum</i>			○		
64			ウチワゴケ	<i>Crepidomanes minutum</i>			○		

表 1 (2) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
65	コケシノブ	コケシノブ	コウヤコケシノブ	<i>Hymenophyllum barbatum</i>			○		
66			ホソバコケシノブ	<i>Hymenophyllum polyanthos</i>			○		
67			コケシノブ	<i>Hymenophyllum wrightii</i>			○		
68			ハイホラゴケ	<i>Vandenboschia kalamocarpa</i>			○		
69	ウラジロ	ウラジロ	ウラジロ	<i>Diplazium glaucum</i>			○		
70	フサシダ	カニクサ	カニクサ	<i>Lygodium japonicum</i> var. <i>japonicum</i>			○		
71	サンショウモ	サンショウモ	外来アゾラ類	<i>Azolla</i> sp.		○			●
72	ヘゴ	キジノオシダ	オオキジノオ	<i>Plagiogyria euphlebia</i>			○		
73			キジノオシダ	<i>Plagiogyria japonica</i>			○		
74	ウラボシ	ホングウシダ	ホラシノブ	<i>Odontosoria chinensis</i>			○		
75		コバノイシカグマ	イヌシダ	<i>Dennstaedtia hirsuta</i>			○		
76			コバノイシカグマ	<i>Dennstaedtia scabra</i>			○		
77			イワヒメワラビ	<i>Hypolepis punctata</i>			○		
78			フモトシダ	<i>Microlepia marginata</i>			○		
79		イノモトソウ	ハコネシダ	<i>Adiantum monochlamys</i>			○		
80			ヒメミズワラビ	<i>Ceratopteris gaudichaudii</i> var. <i>vulgaris</i>	○			●	
81			イヌイワガネソウ	<i>Coniogramme x fauriei</i>			○		
82			イワガネゼンマイ	<i>Coniogramme intermedia</i>			○		
83			イワガネソウ	<i>Coniogramme japonica</i>			○		
84			シシラン	<i>Haplopteris flexuosa</i>			○		
85			タチシノブ	<i>Onychium japonicum</i>			○		
86			オオバノイノモトソウ	<i>Pteris cretica</i>			○		
87			イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>			○		
88			オオバノハチジョウシダ	<i>Pteris terminalis</i> var. <i>terminalis</i>			○		
89			ナチシダ	<i>Pteris wallichiana</i>	○			●	
90		ナヨシダ	ウスヒメワラビ	<i>Acystopteris japonica</i>			○		
91		チャセンシダ	コバノヒノキシダ	<i>Asplenium anogrammoides</i>			○		
92			トラノオシダ	<i>Asplenium incisum</i>			○		
93			ヌリトラノオ	<i>Asplenium normale</i>			○		
94			クモノシダ	<i>Asplenium ruprechtii</i>	○		○	●	
95			コタニワタリ	<i>Asplenium scolopendrium</i>			○		
96			イワトラノオ	<i>Asplenium tenuicaule</i>			○		
97			イヌチャセンシダ	<i>Asplenium tripteropus</i>	○		○	●	
98			アオガネシダ	<i>Asplenium wilfordii</i>			○	●	
99		ヒメシダ	ヒメワラビ	<i>Macrothelypteris torresiana</i> var. <i>calvata</i>			○		
100			ミドリヒメワラビ	<i>Macrothelypteris viridifrons</i>			○		
101			ゲジゲジシダ	<i>Phegopteris decursivepinnata</i>			○		
102			ホシダ	<i>Thelypteris acuminata</i> var. <i>acuminata</i>			○		
103			コハシゴシダ	<i>Thelypteris angustifrons</i>			○		
104			ハシゴシダ	<i>Thelypteris glanduligera</i>			○		
105			ハリガネワラビ	<i>Thelypteris japonica</i>			○		
106			ヤワシダ	<i>Thelypteris laxa</i>			○		
107			イワハリガネワラビ	<i>Thelypteris musashiensis</i>			○		
108			ミゾシダ	<i>Thelypteris pozoi</i> ssp. <i>mollissima</i>			○		
109		イワデンダ	フクロシダ	<i>Woodsia manchuriensis</i>	○		○	●	
110		ヌリワラビ	ヌリワラビ	<i>Rhachidosorus mesosorus</i>			○		
111		コウヤワラビ	イヌガンソク	<i>Onoclea orientalis</i>			○		
112		シシガシラ	オサシダ	<i>Blechnum amabile</i>			○		
113			シシガシラ	<i>Blechnum niponicum</i>			○		
114		メシダ	イヌワラビ	<i>Anisocampium niponicum</i>			○		
115			ハコネシケチシダ	<i>Athyrium christensenianum</i>	○		○	●	
116			カラクサイヌワラビ	<i>Athyrium clivicola</i>			○	●	
117			イッポンワラビ	<i>Athyrium crenuloserrulatum</i>			○	●	
118			シケチシダ	<i>Athyrium decurrentialatum</i>			○		
119			ミヤコイヌワラビ	<i>Athyrium imbricatum</i>	○		○	●	
120			トガリバイヌワラビ	<i>Athyrium iseanum</i> var. <i>angustisectum</i>			○		
121			ホソバイヌワラビ	<i>Athyrium iseanum</i> var. <i>iseanum</i>			○		
122			タニイヌワラビ	<i>Athyrium otophorum</i>			○		
123			ヤマイヌワラビ	<i>Athyrium vidalii</i>			○		
124			ヒロハイヌワラビ	<i>Athyrium wardii</i>			○		
125			ルリデライヌワラビ	<i>Athyrium wardii</i> var. <i>inadae</i>	○		○	●	
126			ヘビノネゴザ	<i>Athyrium yokoscense</i>			○		
127			ホソバシケンシダ	<i>Deparia conilii</i>			○		
128			セイタカシケンシダ	<i>Deparia dimorphophylla</i>			○		

表 1 (3) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
129	ウラボシ	メシダ	シケシダ	<i>Deparia japonica</i>			○		
130			ムクゲシケシダ	<i>Deparia kiusiana</i>			○		
131			ヘラシダ	<i>Deparia lancea</i>			○		
132			オオヒメワラビ	<i>Deparia okuboana</i>			○		
133			ナチシケシダ	<i>Deparia petersenii</i>			○		
134			ハクモウイノデ	<i>Deparia pycnosora</i> var. <i>albosquamata</i>			○		
135			オオヒメワラビモドキ	<i>Deparia unifurcata</i>			○		
136			ヒカゲワラビ	<i>Diplazium chinense</i>	○		○	●	
137			ウスバミヤマノコギリシダ	<i>Diplazium deciduum</i>	○		○	●	
138			シロヤマシダ	<i>Diplazium hachijoense</i>	○		○	●	
139			ミヤマノコギリシダ	<i>Diplazium mettenianum</i>			○		
140			キヨタキシダ	<i>Diplazium squamigerum</i>			○		
141			ノコギリシダ	<i>Diplazium wichurae</i> var. <i>wichurae</i>			○		
142		オシダ	オニカナワラビ	<i>Arachniodes chinensis</i>			○		
143			ホソバカナワラビ	<i>Arachniodes exilis</i>			○		
144			ナンゴクナライシダ	<i>Arachniodes fargesii</i>			○		
145			ハカタシダ	<i>Arachniodes simplicior</i>			○		
146			リョウメンシダ	<i>Arachniodes standishii</i>			○		
147			ヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i> var. <i>fortunei</i>			○		
148			ヒロハヤブソテツ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i>	○		○	●	
149			イワヘゴ	<i>Dryopteris atrata</i>			○		
150			ヤマイタチシダ	<i>Dryopteris bissetiana</i>			○		
151			サイゴクベニシダ	<i>Dryopteris championii</i>			○		
152			ミサキカグマ	<i>Dryopteris chinensis</i>			○		
153			オシダ	<i>Dryopteris crassirhizoma</i>			○		
154			オオクジャクシダ	<i>Dryopteris dickinsii</i>			○		
155			ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>			○		
156			マルバベニシダ	<i>Dryopteris fuscipes</i>			○		
157			キンキイタチシダ	<i>Dryopteris hikonensis</i>			○		
158			オオベニシダ	<i>Dryopteris hondoensis</i>			○		
159			クマワラビ	<i>Dryopteris lacera</i>			○		
160			キヨシミヒメワラビ	<i>Dryopteris maximowicziana</i>			○		
161			トウゴクシダ	<i>Dryopteris nipponensis</i>			○		
162			ミヤマクマワラビ	<i>Dryopteris polylepis</i>	○		○	●	
163			ミヤマイタチシダ	<i>Dryopteris sabaiei</i>			○		
164			ヒメイタチシダ	<i>Dryopteris sacrosancta</i>			○		
165			ナガバノイタチシダ	<i>Dryopteris sparsa</i> var. <i>sparsa</i>	○			●	
166			オクマワラビ	<i>Dryopteris uniformis</i>			○		
167			ドウリョウイノデ	<i>Polystichum x anceps</i>			○		
168			ツルデンダ	<i>Polystichum craspedosorum</i>			○		
169			アイアスカイノデ	<i>Polystichum longifrons</i>			○		
170			ナメライノデ	<i>Polystichum x okanum</i>			○		
171			ツヤナシイノデ	<i>Polystichum ovatopaleaceum</i> var. <i>ovatopaleaceum</i>			○		
172			イノデ	<i>Polystichum polyblepharon</i>			○		
173			サイゴクイノデ	<i>Polystichum pseudomakinoi</i>			○		
174			サカゲイノデ	<i>Polystichum retrosopaleaceum</i>			○		
175			イノデモドキ	<i>Polystichum tagawanum</i>			○		
176			ジュウモンジシダ	<i>Polystichum tripterum</i>			○		
177			ヒメカナワラビ	<i>Polystichum tsus-simense</i>			○		
178		シノブ	シノブ	<i>Davallia mariesii</i>			○		
179	ウラボシ		アオネカズラ	<i>Goniophlebium niponicum</i>	○		○	●	
180			マメヅタ	<i>Lemmaphyllum microphyllum</i> var. <i>microphyllum</i>			○		
181			ヒメノキシノブ	<i>Lepisorus onoei</i>			○		
182			ノキシノブ	<i>Lepisorus thunbergianus</i>			○		
183			サジラン	<i>Loxogramme duclouxii</i>			○		
184			ヒメサジラン	<i>Loxogramme grammitoides</i>			○		
185			イワヤナギシダ	<i>Loxogramme salicifolia</i>	○			●	
186			クリハラン	<i>Neolepisorus ensatus</i>	○			●	
187			イワオモダカ	<i>Pyrrosia hastata</i>			○	●	
188			ビロードシダ	<i>Pyrrosia linearifolia</i>			○		
189			ヒトツバ	<i>Pyrrosia lingua</i>			○		
190			ミツデウラボシ	<i>Selliguea hastata</i>			○		
191	マツ	マツ	ゴヨウマツ	<i>Pinus parviflora</i> var. <i>parviflora</i>	○		○	●	
192			ツガ	<i>Tsuga sieboldii</i>			○		

表 1 (4) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
193	ヒノキ	ヒノキ	スギ	<i>Cryptomeria japonica</i> var. <i>japonica</i>			○		
194		イチイ	イヌガヤ	<i>Cephalotaxa harringtonia</i>			○		
195	スイレン	スイレン	サイコクヒメコウホネ	<i>Nuphar saikokuensis</i>	○			●	
196	シキミ	マツブサ	シキミ	<i>Illicium anisatum</i>			○		
197			サネカズラ	<i>Kadsura japonica</i>			○		
198	センリョウ	センリョウ	キビヒトリシズカ	<i>Chloranthus fortunei</i>	○			●	
199			ヒトリシズカ	<i>Chloranthus quadrifolius</i>			○		
200			フタリシズカ	<i>Chloranthus serratus</i>			○		
201			センリョウ	<i>Sarcandra glabra</i>	○			●	
202	コショウ	ドクダミ	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>			○		
203			ハンゲショウ	<i>Saururus chinensis</i>	○			●	
204		ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	<i>Aristolochia debilis</i>	○		○	●	
205			フタバアオイ	<i>Asarum caulescens</i>	○			●	
206	モクレン	モクレン	タムシバ	<i>Magnolia salicifolia</i>			○		
207	クスノキ	クスノキ	ヤブニッケイ	<i>Cinnamomum yabunikkei</i>			○		
208			カナクギノキ	<i>Lindera erythrocarpa</i>			○		
209			ヤマコウバシ	<i>Lindera glauca</i>			○		
210			ダンコウバイ	<i>Lindera obtusiloba</i>			○		
211			アブラチャン	<i>Lindera praecox</i> var. <i>praecox</i>			○		
212			ウスゲクロモジ	<i>Lindera sericea</i> var. <i>glabrata</i>			○		
213			クロモジ	<i>Lindera umbellata</i> var. <i>umbellata</i>			○		
214			アオガシ	<i>Machilus japonica</i>			○		
215			イヌガシ	<i>Neolitsea aciculata</i>			○		
216			シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i> var. <i>sericea</i>			○		
217	ショウブ	ショウブ	セキショウ	<i>Acorus gramineus</i> var. <i>gramineus</i>			○		
218	オモダカ	サトイモ	ホソバテンナンショウ	<i>Arisaema angustatum</i>	○			●	
219			コウライテンナンショウ	<i>Arisaema peninsulæ</i>			○		
220			ムサシアブミ	<i>Arisaema ringens</i>	○			●	
221			オオマムシグサ	<i>Arisaema takedae</i>			○		
222			ウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> ssp. <i>urashima</i>			○		
223			ムロウテンナンショウ	<i>Arisaema yamatense</i> ssp. <i>yamatense</i>			○		
224			オオハンゲ	<i>Pinellia tripartita</i>	○		○	●	
225			ボタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i>		○			●
226		チシマゼキショウ	ハナゼキショウ	<i>Tofieldia nuda</i>	○		○	●	
227	オモダカ	オモダカ	オモダカ	<i>Sagittaria trifolia</i>			○		
228	トチカガミ	オオカナダモ	オオカナダモ	<i>Egeria densa</i>		○			●
229		コカナダモ	コカナダモ	<i>Elodea nuttallii</i>		○			●
230		クロモ	クロモ	<i>Hydrilla verticillata</i>	○			●	
231		トチカガミ	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i>	○			●	
232		ミズオオバコ	ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i>	○			●	
233		セキショウモ	セキショウモ	<i>Vallisneria natans</i> var. <i>natans</i>	○			●	
234	ヤマノイモ	キンコウカ	ノギラン	<i>Metanarthecium luteoviride</i>			○		
235		ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ	<i>Burmannia championii</i>	○		○	●	
236		ヤマノイモ	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>			○		
237			カエデコロ	<i>Dioscorea quinquelobata</i>			○		
238			ヒメドコロ	<i>Dioscorea tenuipes</i>			○		
239			オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>			○		
240	ユリ	シュロソウ	シライトソウ	<i>Chionographis japonica</i>			○		
241			ショウジョウバカマ	<i>Heloniopsis orientalis</i> var. <i>orientalis</i>			○		
242			ツクバネソウ	<i>Paris tetraphylla</i>			○		
243			エンレイソウ	<i>Trillium apetalon</i>			○		
244		イヌサフラン	ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>			○		
245			チゴユリ	<i>Disporum smilacinum</i>			○		
246		サルトリイバラ	サルトリイバラ	<i>Smilax china</i> var. <i>china</i>			○		
247			シオデ	<i>Smilax riparia</i>			○		
248		ユリ	ウバユリ	<i>Cardiocrinum cordatum</i> var. <i>cordatum</i>			○		
249			ササユリ	<i>Lilium japonicum</i>			○		
250			コオニユリ	<i>Lilium leichtlinii</i> f. <i>pseudotigrinum</i>			○		
251			ヤマジノホトトギス	<i>Tricyrtis affinis</i>			○		
252			セトウチホトトギス	<i>Tricyrtis setouchiensis</i>			○		
253	クサスギカズラ	ラン	ヒナラン	<i>Amitostigma gracile</i>			○	●	
254			マメヅタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>	○			●	
255			ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>			○	●	
256			エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	○		○	●	

表 1 (5) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
257	クサスギカズラ	ラン	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i>	○		○	●	
258			ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i>	○		○	●	
259			キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	○		○	●	
260			ササバギンラン	<i>Cephalanthera longibracteata</i>	○		○	●	
261			サイハイラン	<i>Cremastra variabilis</i>			○		
262			シュンラン	<i>Cymbidium goeringii</i>			○		
263			クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	○		○	●	
264			カキラン	<i>Epipactis thunbergii</i>	○		○	●	
265			ミヤマウスラ	<i>Goodyera schlechtendaliana</i>			○		
266			ミズトンボ	<i>Habenaria sagittifera</i>	○		○	●	
267			ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i>	○			●	
268			ジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i>			○		
269			クモキリソウ	<i>Liparis kumokiri</i>			○		
270			アオフタバラン	<i>Neottia makinoana</i>	○		○	●	
271			コケイラン	<i>Oreorchis patens</i>			○		
272			サギソウ	<i>Pecteilis radiata</i>	○			●	
273			ヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> ssp. <i>mandarinorum</i> var. <i>oreades</i>	○		○	●	
274			オオバノ トンボソウ	<i>Platanthera minor</i>			○		
275			コバノ トンボソウ	<i>Platanthera nipponica</i>	○			●	
276			トキソウ	<i>Pogonia japonica</i>	○			●	
277			ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>			○		
278			クモラン	<i>Taeniophyllum glandulosum</i>	○		○	●	
279			カヤラン	<i>Thrixspermum japonicum</i>	○		○	●	
280		アヤメ	ヒオウギ	<i>Iris domestica</i>			○		
281			ノハナショウブ	<i>Iris ensata</i> var. <i>spontanea</i>	○			●	
282			カキツバタ	<i>Iris laevigata</i>	○			●	
283			キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>		○			●
284			ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium rosulatum</i>			○		
285		ススキノキ	ユウスゲ	<i>Hemerocallis citrina</i> var. <i>vespertina</i>	○			●	
286			ノカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>disticha</i>	○			●	
287		ヒガンバナ	ヒガンバナ	<i>Lycoris radiata</i>			○		
288			キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i>			○		
289		クサスギカズラ	ツルボ	<i>Barnardia japonica</i>			○		
290			オヒガンギボウシ	<i>Hosta longipes</i> var. <i>aequinoctiantha</i>			○		
291			イワギボウシ	<i>Hosta longipes</i> var. <i>longipes</i>			○		
292			オオバギボウシ	<i>Hosta sieboldiana</i>			○		
293			ヒメヤブラン	<i>Liriope minor</i>			○		
294			ヤブラン	<i>Liriope muscari</i>			○		
295			ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>			○		
296			ナガバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i> var. <i>umbrosus</i>			○		
297			ミヤマナルコユリ	<i>Polygonatum lasianthum</i>			○		
298			オオナルコユリ	<i>Polygonatum macranthum</i>			○		
299			オモト	<i>Rohdea japonica</i>			○		
300	ツユクサ	ツユクサ	ツユクサ	<i>Commelina communis</i>			○		
301			イボクサ	<i>Murdannia keisak</i>			○		
302			ヤブミョウガ	<i>Polia japonica</i>			○		
303	イネ	ミズアオイ	ホテイアオイ	<i>Eichhornia crassipes</i>		○			●
304		ガマ	ミクリ	<i>Sparganium erectum</i>	○			●	
305			ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>	○			●	
306		ホシクサ	ヤマトホシクサ	<i>Eriocaulon japonicum</i>	○			●	
307			イヌノヒゲ	<i>Eriocaulon miquelianum</i>			○		
308			ニッポンイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon taquetii</i>			○		
309		イグサ	ヒメコウガイゼキショウ	<i>Juncus bufonius</i>	○			●	
310			イグサ	<i>Juncus decipiens</i>			○		
311			ドロイ	<i>Juncus gracillimus</i>	○			●	
312			アオコウガイゼキショウ	<i>Juncus papillosus</i>			○		
313			コウガイゼキショウ	<i>Juncus prismatocarpus</i> ssp. <i>leschenaultii</i>			○		
314			ホソイ	<i>Juncus setchuensis</i>			○		
315			クサイ	<i>Juncus tenuis</i>			○		
316			スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>			○		
317			ヤマスズメノヒエ	<i>Luzula multiflora</i>			○		
318			ヌカボシソウ	<i>Luzula plumosa</i>			○		
319		カヤツリグサ	コウキヤガラ	<i>Bolboschoenus koshevnikovii</i>	○			●	
320			シラスゲ	<i>Carex alopeculoides</i> var. <i>chlorostacya</i>			○		

表 1 (6) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
321	イネ	カヤツリグサ	ベニイトスゲ	<i>Carex alterniflora</i> var. <i>rubrovaginata</i>	○		○	●	
322			クロカワズスゲ	<i>Carex arenicola</i>			○		
323			オオナキリスゲ	<i>Carex autumnalis</i>	○		○	●	
324			マツバスゲ	<i>Carex biwensis</i>			○		
325			ショウジョウスゲ	<i>Carex blepharicarpa</i>			○		
326			ヤマジスゲ	<i>Carex bostrychostigma</i>	○		○	●	
327			メアオスゲ	<i>Carex candolleana</i>			○		
328			ケタガネソウ	<i>Carex ciliatmarginata</i>			○		
329			ヒメカンスゲ	<i>Carex conica</i>			○		
330			ナルコスゲ	<i>Carex curvicolis</i>			○		
331			ミヤマジュズスゲ	<i>Carex dissitiflora</i>			○		
332			イトスゲ	<i>Carex fernaldiana</i>			○		
333			オオタマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>rouyana</i>	○		○	●	
334			オクノカンスゲ	<i>Carex foliosissima</i>			○		
335			タニガワスゲ	<i>Carex forficula</i>			○		
336			マスクサ	<i>Carex gibba</i>			○		
337			ヤマアゼスゲ	<i>Carex heterolepis</i>			○		
338			ミセンアオスゲ	<i>Carex horikawae</i>			○		
339			カワラスゲ	<i>Carex incisa</i>			○		
340			ジュズスゲ	<i>Carex ischnostachya</i>			○		
341			ヒゴクサ	<i>Carex japonica</i>			○		
342			ヒカゲスゲ	<i>Carex lanceolata</i>			○		
343			ナキリスゲ	<i>Carex lenta</i>			○		
344			アオスゲ	<i>Carex leucochlora</i>			○		
345			サツマスゲ	<i>Carex ligulata</i>			○		
346			ゴウソ	<i>Carex maximowiczii</i>			○		
347			ホシナシゴウソ	<i>Carex maximowiczii</i> var. <i>levisaccus</i>			○		
348			フサスゲ	<i>Carex metallica</i>	○			●	
349			ヌカスゲ	<i>Carex mitrata</i>			○		
350			ノゲヌカスゲ	<i>Carex mitrata</i> var. <i>aristata</i>			○		
351			ヒメシラスゲ	<i>Carex mollicula</i>			○		
352			ミヤマカンスゲ	<i>Carex multifolia</i>			○		
353			シバスゲ	<i>Carex nervata</i>			○		
354			ヤチカワズスゲ	<i>Carex omiana</i>			○		
355			ササノハスゲ	<i>Carex pachygyna</i>			○		
356			アオバスゲ	<i>Carex papillatculmis</i>			○	●	
357			タカネマスクサ	<i>Carex planata</i>	○			●	
358			ヒメモエギスゲ	<i>Carex pocilliformis</i>			○		
359			イトアオスゲ	<i>Carex puberula</i>			○		
360			マメスゲ	<i>Carex pudica</i>	○		○	●	
361			コカンスゲ	<i>Carex reinii</i>			○		
362			シラコスゲ	<i>Carex rhizopoda</i>			○		
363			クサスゲ	<i>Carex rugata</i>			○		
364			センダイスゲ	<i>Carex sendaica</i>	○			●	
365			アズマナルコ	<i>Carex shimidzensis</i>			○		
366			ニシノホンモンジスゲ	<i>Carex stenostachys</i>			○		
367			フサナキリスゲ	<i>Carex teinogyna</i>			○		
368			ホソバカンスゲ	<i>Carex temnolepis</i>	○		○	●	
369			アゼスゲ	<i>Carex thunbergii</i>			○		
370			ヤワラスゲ	<i>Carex transversa</i>			○		
371			モエギスゲ	<i>Carex tristachya</i>			○		
372			アイダクグ	<i>Cyperus brevifolius</i>			○		
373			ヒメクグ	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leiolepis</i>			○		
374			アゼガヤツリ	<i>Cyperus flavidus</i>			○		
375			コアゼガヤツリ	<i>Cyperus haspan</i> var. <i>tuberiferus</i>			○		
376			コゴメガヤツリ	<i>Cyperus iria</i>			○		
377			ウシクグ	<i>Cyperus orthostachyus</i>			○		
378			カガシラ	<i>Diplacrum caricinum</i>	○			●	
379			マツバイ	<i>Eleocharis acicularis</i> var. <i>longiseta</i>			○		
380			ハリイ	<i>Eleocharis congesta</i> var. <i>japonica</i>			○		
381			ヤリハリイ	<i>Eleocharis congesta</i> var. <i>subvivipara</i>	○		○	●	
382			イヌクログワイ	<i>Eleocharis dulcis</i>	○			●	
383			オオヌマハリイ	<i>Eleocharis mamillata</i> var. <i>cyclocarpa</i>	○			●	
384			シカクイ	<i>Eleocharis wichurae</i>			○		

表 1 (7) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
385	イネ	イネ	テンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> var. <i>tentsuki</i>			○		
386			ヒデリコ	<i>Fimbristylis littoralis</i>			○		
387			イソヤマテンツキ	<i>Fimbristylis sieboldii</i>	○			●	
388			ヤマイ	<i>Fimbristylis subbispicata</i>			○		
389			ネビキグサ	<i>Machaerina rubiginosa</i>	○			●	
390			トラノハナヒゲ	<i>Rhynchospora brownii</i>	○			●	
391			コイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora fujiana</i>			○		
392			ホタルイ	<i>Schoenoplectiella hotarui</i>			○		
393			タイワンヤマイ	<i>Schoenoplectiella wallichii</i>	○			●	
394			フトイ	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i>	○			●	
395			ノグサ	<i>Schoenus apogon</i>	○			●	
396			コマツカサススキ	<i>Scirpus fuirenooides</i>			○		
397			マツカサススキ	<i>Scirpus mitsukurianus</i>	○			●	
398			アブラガヤ	<i>Scirpus wichurae</i>			○		
399			ヒロハノハネガヤ	<i>Achnatherum coreanum</i>	○		○	●	
400			ヤマヌカボ	<i>Agrostis clavata</i>			○		
401			ヌカボ	<i>Agrostis clavata</i> var. <i>nukabo</i>			○		
402			コヌカグサ	<i>Agrostis gigantea</i>			○		●
403			ハイコヌカグサ	<i>Agrostis stolonifera</i>			○		
404			セトガヤ	<i>Alopecurus japonicus</i>			○		
405			メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>		○			●
406			ハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i>		○	○		●
407			コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i>			○		
408			トダシバ	<i>Arundinella hirta</i>			○		
409			コウヤザサ	<i>Brachyelytrum japonicum</i>			○		
410			ヤマカモジグサ	<i>Brachypodium sylvaticum</i>			○		
411			スズメノチャヒキ	<i>Bromus japonicus</i>			○		
412			キツネガヤ	<i>Bromus remotiflorus</i>			○		
413			ホガエリガヤ	<i>Brylkinia caudata</i>			○		
414			ノガリヤス	<i>Calamagrostis brachytricha</i> var. <i>brachytricha</i>			○		
415			ヒメノガリヤス	<i>Calamagrostis hakonensis</i>			○		
416			カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>		○	○		●
417			メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>			○		
418			アキメヒシバ	<i>Digitaria violascens</i>			○		
419			アブラススキ	<i>Eccoilopus cotulifer</i>			○		
420			オヒシバ	<i>Eleusine indica</i>			○		
421			アオカモジグサ	<i>Elymus racemifer</i>			○		
422			カモジグサ	<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>transiens</i>			○		
423			イトスズメガヤ	<i>Eragrostis brownii</i>	○		○	●	
424			シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i>		○	○		●
425			カゼクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>			○		
426			ナルコビエ	<i>Eriochloa villosa</i>	○		○	●	
427			ウンヌケモドキ	<i>Eulalia quadrinervis</i>	○			●	
428			ウンヌケ	<i>Eulalia speciosa</i>	○			●	
429			トボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i>			○		
430			オオウシノケグサ	<i>Festuca rubra</i>			○		
431			ムツオレグサ	<i>Glyceria acutiflora</i> ssp. <i>japonica</i>	○			●	
432			ドジョウツナギ	<i>Glyceria ischyronura</i>			○		
433			シラゲガヤ	<i>Holcus lanatus</i>			○		
434			アズマガヤ	<i>Hystrix duthiei</i> ssp. <i>longearistata</i>			○		
435			イワタケソウ	<i>Hystrix duthiei</i> ssp. <i>japonica</i>	○		○	●	
436			ハイチゴザサ	<i>Isachne nipponensis</i>			○		
437			カモノハシ	<i>Ischaemum aristatum</i> var. <i>crassipes</i>			○		
438			ササガヤ	<i>Leptatherum japonicum</i>			○		
439			ミヤマササガヤ	<i>Leptatherum nudum</i>			○		
440			ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>		○			●
441			ホソムギ	<i>Lolium perenne</i>			○		●
442			ササクサ	<i>Lophatherum gracile</i>			○		
443			トウササクサ	<i>Lophatherum sinense</i>			○		
444			コメガヤ	<i>Melica nutans</i>			○		
445			アシボソ	<i>Microstegium vimineum</i>			○		
446			ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>			○		●
447			タチネズミガヤ	<i>Muhlenbergia hakonensis</i>	○		○	●	
448			ネズミガヤ	<i>Muhlenbergia japonica</i>			○		

表 1 (8) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
449	イネ	イネ	オオネズミガヤ	<i>Muhlenbergia longistolon</i>			○		
450			タツノヒゲ	<i>Neomolinia japonica</i>			○		
451			コチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>			○		
452			ケチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>undulatifolius</i>			○		
453			ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i>			○		
454			ホウキヌカキビ	<i>Panicum scoparium</i>			○		
455			シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>			○		●
456			スズメノコビエ	<i>Paspalum scrobiculatum</i> var. <i>orbiculare</i>	○			●	
457			スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i>			○		
458			チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>			○		
459			タキキビ	<i>Phaenosperma globosum</i>	○			●	
460			オオアワガエリ	<i>Phleum pratense</i>			○		●
461			モウソウチク	<i>Phyllostachys edulis</i>		○			●
462			マダケ	<i>Phyllostachys reticulata</i>			○		●
463			ミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i>			○		
464			タマミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i> var. <i>submonilliformis</i>			○		
465			スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>			○		
466			ヤマミゾイチゴツナギ	<i>Poa hisauchii</i>			○		
467			オオイチゴツナギ	<i>Poa nipponica</i>			○		
468			ナガハグサ	<i>Poa pratensis</i>			○		
469			イチゴツナギ	<i>Poa sphondylodes</i>			○		
470			オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>			○		
471			ムカゴツヅリ	<i>Poa tuberifera</i>	○		○	●	
472			ウキシバ	<i>Pseudoraphis sordida</i>	○			●	
473			ヤダケ	<i>Pseudosasa japonica</i>			○		
474			ヌメリグサ	<i>Sacciolepis spicata</i> var. <i>oryztorum</i>			○		
475			スズダケ	<i>Sasa borealis</i>			○		
476			オニウシノケグサ	<i>Schedonorus phoenix</i>			○		●
477			ヒロハノウシノケグサ	<i>Schedonorus pratensis</i>			○		●
478			アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>			○		
479			コツブキンエノコロ	<i>Setaria pallidifusca</i>			○		
480			キンエノコロ	<i>Setaria pumila</i>			○		
481			セイバンモロコシ	<i>Sorghum propinquum</i>		○			●
482			オオアブラススキ	<i>Spodiopogon sibiricus</i>			○		
483			ネズミノオ	<i>Sporobolus fertilis</i> var. <i>fertilis</i>			○		
484			カニツリグサ	<i>Trisetum bifidum</i>			○		
485			ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i> var. <i>myuros</i>			○		●
486			シバ	<i>Zoysia japonica</i>			○		
487			オニシバ	<i>Zoysia macrostachya</i>	○			●	
488			ナガミノオニシバ	<i>Zoysia sinica</i> var. <i>nipponica</i>	○			●	
489	キンボウゲ	フサザクラ	フサザクラ	<i>Euptelea polyandra</i>			○		
490		ケシ	クサノオウ	<i>Chelidonium majus</i> ssp. <i>asiaticum</i>			○		
491			ジロボウエンゴサク	<i>Corydalis decumbens</i>			○		
492			ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>			○		
493			ヤマキケマン	<i>Corydalis ophiocarpa</i>			○	●	
494			フウロケマン	<i>Corydalis pallida</i> var. <i>pallida</i>			○		
495			ミヤマキケマン	<i>Corydalis pallida</i> var. <i>tenuis</i>			○		
496			タケニグサ	<i>Macleaya cordata</i>			○		
497		アケビ	ゴヨウアケビ	<i>Akebia x pentaphylla</i> var. <i>pentaphylla</i>			○		
498			アケビ	<i>Akebia quinata</i>			○		
499			ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i> ssp. <i>trifoliata</i>			○		
500		ツヅラフジ	アオツヅラフジ	<i>Cocculus trilobus</i>			○		
501			ツヅラフジ	<i>Sinomenium acutum</i>			○		
502		メギ	ヒイラギナンテン	<i>Berberis japonica</i>		○			●
503		キンボウゲ	シュウメイギク	<i>Anemone hupehensis</i> var. <i>japonica</i>			○		
504			ユキワリイチゲ	<i>Anemone keiskeana</i>			○		
505			イチリンソウ	<i>Anemone nikoensis</i>			○		
506			イヌショウマ	<i>Cimicifuga bitermata</i>			○		
507			オオバショウマ	<i>Cimicifuga japonica</i> var. <i>macrophylla</i>	○			●	
508			サラシナショウマ	<i>Cimicifuga simplex</i>			○		
509			ボタンヅル	<i>Clematis apiifolia</i> var. <i>apiifolia</i>			○		
510			ハンショウヅル	<i>Clematis japonica</i>			○		
511			カザグルマ	<i>Clematis patens</i>	○			●	
512			センニンソウ	<i>Clematis terniflora</i>			○		

表 1 (9) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
513	キンボウゲ	キンボウゲ	トリガタハンショウヅル	<i>Clematis tosaensis</i>			○		
514			オウレン	<i>Coptis japonica</i>			○		
515			バイカオウレン	<i>Coptis quinquefolia</i>			○		
516			セツブンソウ	<i>Eranthis pinnatifida</i>	○		○	●	
517			ケキツネノボタン	<i>Ranunculus cantoniensis</i>			○		
518			ウマノアシガタ	<i>Ranunculus japonicus</i>			○		
519			キツネノボタン	<i>Ranunculus silerifolius</i>			○		
520			ヒメウス	<i>Semiaquilegia adoxoides</i>			○		
521			シギンカラマツ	<i>Thalictrum actaeifolium</i>	○		○	●	
522			アキカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>hypoleucum</i>			○		
523	ヤマグルマ	ヤマグルマ	ヤマグルマ	<i>Trochodendron aralioides</i>			○		
524	ツゲ	ツゲ	ツゲ	<i>Buxus microphylla</i> var. <i>japonica</i>			○		
525			フッキソウ	<i>Pachysandra terminalis</i>	○			●	
526	ユキノシタ	カツラ	カツラ	<i>Cercidiphyllum japonicum</i>			○		
527		ユズリハ	エゾユズリハ	<i>Daphniphyllum macropodum</i> var. <i>humile</i>			○		
528		スグリ	ヤブサンザシ	<i>Ribes fasciculatum</i>			○		
529		ユキノシタ	アカショウマ	<i>Astilbe thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>			○		
530			シロバナネコノメソウ	<i>Chrysosplenium album</i> var. <i>album</i>			○		
531			ネコノメソウ	<i>Chrysosplenium grayanum</i>			○		
532			ヤマネコノメソウ	<i>Chrysosplenium japonicum</i>			○		
533			ボタンネコノメソウ	<i>Chrysosplenium kiotoense</i>			○		
534			ニッコウネコノメ	<i>Chrysosplenium macrostemon</i> var. <i>shiobarense</i>			○		
535			コガネネコノメソウ	<i>Chrysosplenium pilosum</i> var. <i>sphaerospermum</i>	○			●	
536			タチネコノメソウ	<i>Chrysosplenium tosaense</i>			○		
537			チャルメルソウ	<i>Mitella furusei</i> var. <i>subramosa</i>			○		
538			コチャルメルソウ	<i>Mitella pauciflora</i>			○		
539			ジンジソウ	<i>Saxifraga cortusifolia</i>			○		
540			ダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>alpina</i>			○		
541			ナメライモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>suwoensis</i>			○		
542			ユキノシタ	<i>Saxifraga stolonifera</i>			○		
543		ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ	<i>Hylotelephium verticillatum</i> var. <i>verticillatum</i>			○		
544			ツメレンゲ	<i>Orostachys japonica</i>	○			●	
545			コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>			○		
546			メノマンネングサ	<i>Sedum japonicum</i> ssp. <i>japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	○			●	
547			タイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> ssp. <i>oryzifolium</i>	○			●	
548			マルバマンネングサ	<i>Sedum makinoi</i>			○		
549			ヒメレンゲ	<i>Sedum subtile</i>			○		
550		アリノトウグサ	アリノトウグサ	<i>Gonocarpus micranthus</i>			○		
551			オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>		○			●
552	ブドウ	ブドウ	ノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i>			○		
553			ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>			○		
554			サンカクヅル	<i>Vitis flexuosa</i>			○		
555			アマヅル	<i>Vitis saccharifera</i> var. <i>saccharifera</i>			○		
556	ハマビシ	ハマビシ	ハマビシ	<i>Tribulus terrestris</i>	○			●	
557	マメ	マメ	ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i> var. <i>julibrissin</i>			○		
558			イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>		○	○	●	
559			ヤブマメ	<i>Amphicarpaea edgeworthii</i>			○		
560			ホドイモ	<i>Apios fortunei</i>			○		
561			ゲンゲ	<i>Astragalus sinicus</i>			○		
562			ジャケツイバラ	<i>Caesalpinia decapetala</i>			○		
563			ハマナタマメ	<i>Canavalia lineata</i>	○			●	
564			アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>			○		●
565			ノササゲ	<i>Dumasia truncata</i>			○		
566			ノアズキ	<i>Dunbaria villosa</i>			○		
567			サイカチ	<i>Gleditsia japonica</i>	○			●	
568			フジカンゾウ	<i>Hylodesmum oldhamii</i>			○		
569			ケヤブハギ	<i>Hylodesmum podocarpum</i> ssp. <i>fallax</i>			○		
570			ヌスビトハギ	<i>Hylodesmum podocarpum</i> ssp. <i>oxyphyllum</i> var. <i>japonicum</i>			○		
571			ヤブハギ	<i>Hylodesmum podocarpum</i> ssp. <i>oxyphyllum</i> var. <i>mandshuricum</i>			○		
572			コマツナギ	<i>Indigofera pseudotinctoria</i>		○	○		●
573			ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i>			○		
574			ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor</i> var. <i>bicolor</i>			○		●
575			キハギ	<i>Lespedeza buergeri</i>			○		
576			メドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i> var. <i>cuneata</i>			○		●

表 1 (10) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
577	マメ	マメ	マルバハギ	<i>Lespedeza cyrtobotrya</i>			○		●
578			ツクシハギ	<i>Lespedeza homoloba</i>			○		
579			ネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i> var. <i>pilosa</i>			○		
580			ビッチュウヤマハギ	<i>Lespedeza thunbergii</i> f. <i>angustifolia</i>			○		
581			マキエハギ	<i>Lespedeza virgata</i>	○			●	
582			クズ	<i>Pueraria lobata</i> ssp. <i>lobata</i>			○		
583			オオバタンキリマメ	<i>Rhynchosia acuminatifolia</i>			○		
584			ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>		○	○		●
585			クララ	<i>Sophora flavescens</i>			○		
586			コメツブツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>			○		
587			シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>			○		
588			スズメノエンドウ	<i>Vicia hirsuta</i>			○		
589			ヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> ssp. <i>nigra</i>			○		
590			カスマグサ	<i>Vicia tetrasperma</i>			○		
591			ヤブツルアズキ	<i>Vigna angularis</i> var. <i>nipponensis</i>			○		
592			ヤマフジ	<i>Wisteria brachybotrys</i>			○		
593		ヒメハギ	ヒメハギ	<i>Polygala japonica</i>			○		
594			ヒナノカンザシ	<i>Salomonina ciliata</i>	○			●	
595	バラ	グミ	ナツグミ	<i>Elaeagnus multiflora</i>			○		
596			ナワシログミ	<i>Elaeagnus pungens</i>			○		
597			ナツアサドリ	<i>Elaeagnus yoshinoi</i>	○		○	●	
598		クロウメモドキ	オオクマヤナギ	<i>Berchemia magna</i>	○		○	●	
599			クマヤナギ	<i>Berchemia racemosa</i>			○		
600			ヨコグラノキ	<i>Berchemiella berchemiifolia</i>	○		○	●	
601			イソノキ	<i>Frangula crenata</i> var. <i>crenata</i>			○		
602			ケケンボナシ	<i>Hovenia trichocarpa</i> var. <i>robusta</i>			○		
603			ハマナツメ	<i>Paliurus ramosissimus</i>	○			●	
604			クロウメモドキ	<i>Rhamnus japonica</i> var. <i>decipiens</i>			○		
605		アサ	ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>			○		
606			エゾエノキ	<i>Celtis jessoensis</i>			○		
607			カナムグラ	<i>Humulus scandens</i>			○		
608		クワ	ヒメコウゾ	<i>Broussonetia monoica</i>			○		
609			クワクサ	<i>Fatoua villosa</i>			○		
610			イタビカズラ	<i>Ficus sarmentosa</i> ssp. <i>nipponica</i>			○		
611		イラクサ	ヤブマオ	<i>Boehmeria japonica</i> var. <i>longispica</i>			○		
612			カラムシ	<i>Boehmeria nivea</i> var. <i>concolor</i>			○		
613			メヤブマオ	<i>Boehmeria platanifolia</i>			○		
614			ナガバヤブマオ	<i>Boehmeria sieboldiana</i>			○		
615			アカソ	<i>Boehmeria silvestrii</i>			○		
616			コアカソ	<i>Boehmeria spicata</i>			○		
617			ウワバミソウ	<i>Elatostema involucratum</i>			○		
618			ヒメウワバミソウ	<i>Elatostema japonicum</i>			○		
619			ヤマトキホコリ	<i>Elatostema laetevirens</i>			○		
620			ムカゴイラクサ	<i>Laportea bulbifera</i>			○		
621			カテンソウ	<i>Nanocnide japonica</i>			○		
622			サンショウソウ	<i>Pellionia radicans</i> var. <i>minima</i>			○		
623			ヤマミズ	<i>Pilea japonica</i>			○		
624			コミヤマミズ	<i>Pilea notata</i>			○		
625			アオミズ	<i>Pilea pumila</i>			○		
626			イラクサ	<i>Urtica thunbergiana</i>			○		
627		バラ	ヒメキンミズヒキ	<i>Agrimonia nipponica</i>			○		
628			キンミズヒキ	<i>Agrimonia pilosa</i> var. <i>japonica</i>			○		
629			ザイフリボク	<i>Amelanchier asiatica</i>			○		
630			ウラジロノキ	<i>Aria japonica</i>			○		
631			エドヒガン	<i>Cerasus itosakura</i> f. <i>ascendens</i>	○			●	
632			ヤマザクラ	<i>Cerasus jamasakura</i> var. <i>jamasakura</i>			○		
633			クサボケ	<i>Chaenomeles japonica</i>	○			●	
634			ダイコンソウ	<i>Geum japonicum</i>			○		
635			コダイコンソウ	<i>Geum japonicum</i> f. <i>yoanum</i>			○		
636			ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>			○		
637			リンボク	<i>Laurocerasus spinulosa</i>			○		
638			バクチノキ	<i>Laurocerasus zippeliana</i>	○			●	
639			コゴメウツギ	<i>Neillia incisa</i>			○		
640			ウワミズザクラ	<i>Padus grayana</i>			○		

表 1 (11) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
641	バラ	バラ	カナメモチ	<i>Photinia glabra</i>			○		
642			オヘビイチゴ	<i>Potentilla anemonifolia</i>			○		
643			カワラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i>	○			●	
644			ミツバツチグリ	<i>Potentilla freyniana</i>			○		
645			ヘビイチゴ	<i>Potentilla hebiichigo</i>			○		
646			ヤブヘビイチゴ	<i>Potentilla indica</i>			○		
647			カマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>			○		
648			モモ	<i>Prunus persica</i>			○		
649			シロヤマブキ	<i>Rhodotypos scandens</i>	○			●	
650			ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i> var. <i>multiflora</i>			○		
651			モリイバラ	<i>Rosa onoei</i> var. <i>hakonensis</i>	○		○	●	
652			ミヤコイバラ	<i>Rosa paniculigera</i>			○		
653			ヤマイバラ	<i>Rosa sambucina</i>			○		
654			フユイチゴ	<i>Rubus buergeri</i>			○		
655			ビロードイチゴ	<i>Rubus corchorifolius</i>			○		
656			クマイチゴ	<i>Rubus crataegifolius</i>			○		
657			オオバライチゴ	<i>Rubus croceacanthus</i>	○			●	
658			ミヤマフユイチゴ	<i>Rubus hakonensis</i>			○		
659			クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>			○		
660			ニガイチゴ	<i>Rubus microphyllus</i>			○		
661			モミジイチゴ	<i>Rubus palmatus</i>			○		
662			ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>			○		
663			エビガライチゴ	<i>Rubus phoenicolasius</i>			○		
664			アイノコフユイチゴ	<i>Rubus x pseudohakonensis</i>			○		
665			コジキイチゴ	<i>Rubus sumatranus</i>	○		○	●	
666			ナンキンナナカマド	<i>Sorbus gracilis</i>			○		
667			イブキシモツケ	<i>Spiraea nervosa</i>			○		
668	ブナ	ブナ	クリ	<i>Castanea crenata</i>			○		
669			イヌブナ	<i>Fagus japonica</i>			○		
670			ミズナラ	<i>Quercus crispula</i> var. <i>crispula</i>			○		
671			アラカシ	<i>Quercus glauca</i>			○		
672			コナラ	<i>Quercus serrata</i> ssp. <i>serrata</i> var. <i>serrata</i>			○		
673			ツクバネガシ	<i>Quercus sessilifolia</i>			○		
674		クルミ	オニグルミ	<i>Juglans mandshurica</i> var. <i>sachalinensis</i>			○		
675			ノグルミ	<i>Platycarya strobilacea</i>			○		
676			カンボウフウ	<i>Pterocarya stenoptera</i>		○			●
677		カバノキ	オオバヤシャブシ	<i>Alnus sieboldiana</i>		○			●
678			サワシバ	<i>Carpinus cordata</i> var. <i>cordata</i>			○		
679			クマシデ	<i>Carpinus japonica</i>			○		
680			アカシデ	<i>Carpinus laxiflora</i>			○		
681			ゴキツル	<i>Actinostemma tenerum</i>	○			●	
682	ウリ	ウリ	アマチャヅル	<i>Gynostemma pentaphyllum</i> var. <i>pentaphyllum</i>			○		
683			アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>		○			●
684			キカラスウリ	<i>Trichosanthes kirilowii</i> var. <i>japonica</i>			○		
685			モミジカラスウリ	<i>Trichosanthes multiloba</i>			○		
686			ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i> var. <i>orbiculatus</i>			○		
687	ニシキギ	ニシキギ	コマユミ	<i>Euonymus alatus</i> f. <i>ciliatodentatus</i>			○		
688			ケツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i> var. <i>villosus</i>			○		
689			サワダツ	<i>Euonymus melananthus</i>			○		
690			ツリバナ	<i>Euonymus oxyphyllus</i>			○		
691			マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>			○		
692			カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>			○		
693	カタバミ	カタバミ	ミヤマカタバミ	<i>Oxalis griffithii</i> var. <i>griffithii</i>			○		
694	キントラノオ	トウダイグサ	エノキグサ	<i>Acalypha australis</i>			○		
695			ニシキソウ	<i>Euphorbia humifusa</i>	○			●	
696			イワタイゲキ	<i>Euphorbia jokinii</i>	○			●	
697			タカトウダイ	<i>Euphorbia lasiocaula</i>	○			●	
698			オオニシキソウ	<i>Euphorbia nutans</i>			○		
699			アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>			○		
700			ヤマアイ	<i>Mercurialis leiocarpa</i>			○		
701			シラキ	<i>Neoshirakia japonica</i>			○		

表 1 (12) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
702	キントラノオ	トウダイグサ	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>		○			●
703		コミカンソウ	ヒトツバハギ	<i>Flueggea suffruticosa</i>			○		
704			コバンノキ	<i>Phyllanthus flexuosus</i>			○		
705			ヒメミカンソウ	<i>Phyllanthus ussuriensis</i>			○		
706		ヤナギ	イイギリ	<i>Idesia polycarpa</i>			○		
707			サイコクキツネヤナギ	<i>Salix vulpina</i> ssp. <i>alopochroa</i>			○		
708		スマレ	エイザンスミレ	<i>Viola eizanensis</i>			○		
709			コタチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i> var. <i>exilis</i>			○		
710			タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i> var. <i>grypoceras</i>			○		
711			アオイスミレ	<i>Viola hondoensis</i>			○		
712			ヒメスミレ	<i>Viola inconspicua</i> ssp. <i>nagasakiensis</i>			○		
713			コスミレ	<i>Viola japonica</i>			○		
714			マルバスミレ	<i>Viola keiskei</i>			○		
715			スミレ	<i>Viola mandshurica</i> var. <i>mandshurica</i>			○		
716			コミヤマスミレ	<i>Viola maximowicziana</i>	○		○	●	
717			ナガバタチツボスミレ	<i>Viola ovato-oblonga</i>			○		
718			アカネスミレ	<i>Viola phalacrocarpa</i>			○		
719			フモトスミレ	<i>Viola sieboldii</i> ssp. <i>sieboldii</i>			○		
720			ヒナスミレ	<i>Viola tokubuchiana</i> var. <i>takedana</i>			○		
721			アギスミレ	<i>Viola verecunda</i> var. <i>semilunaris</i>			○		
722			ツボスミレ	<i>Viola verecunda</i> var. <i>verecunda</i>			○		
723			シハイスミレ	<i>Viola violacea</i> var. <i>violacea</i>			○		
724			ノジスミレ	<i>Viola yedoensis</i> var. <i>yedoensis</i>			○		
725		オトギリソウ	オトギリソウ	<i>Hypericum erectum</i>			○		
726			ミヤコオトギリ	<i>Hypericum kinashianum</i>			○		
727			コケオトギリ	<i>Hypericum laxum</i>			○		
728			サワオトギリ	<i>Hypericum pseudopetiolatum</i>			○		
729	フウロソウ	フウロソウ	アメリカフウロ	<i>Geranium carolinianum</i>			○		
730			ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>			○		
731	フトモモ	ミソハギ	ミソハギ	<i>Lythrum anceps</i>			○		
732		アカバナ	ウシタキソウ	<i>Circaea cordata</i>			○		
733			タニタデ	<i>Circaea rubescens</i>			○		
734			ミズタマソウ	<i>Circaea mollis</i>			○		
735			アカバナ	<i>Epilobium pyrricholophum</i>			○		
736			メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>			○		
737			コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>		○			●
738	ミツバウツギ	ミツバウツギ	ゴンズイ	<i>Euscaphis japonica</i>			○		
739		キブシ	キブシ	<i>Stachyurus praecox</i>			○		
740	ムクロジ	ウルシ	ヌルデ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>chinensis</i>			○		
741			ツタウルシ	<i>Toxicodendron orientale</i> ssp. <i>orientale</i>			○		
742			ヤマハゼ	<i>Toxicodendron sylvestre</i>			○		
743			ヤマウルシ	<i>Toxicodendron trichocarpum</i>			○		
744		ムクロジ	チドリノキ	<i>Acer carpinifolium</i>			○		
745			ウリカエデ	<i>Acer crataegifolium</i>			○		
746			カジカエデ	<i>Acer diabolicum</i>	○		○	●	
747			イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>			○		
748			エンコウカエデ	<i>Acer pictum</i> ssp. <i>dissectum</i>			○		
749			ウラゲエンコウカエデ	<i>Acer pictum</i> ssp. <i>dissectum</i> f. <i>connivens</i>			○		
750			ウリハダカエデ	<i>Acer rufinerve</i>			○		
751			コハウチワカエデ	<i>Acer sieboldianum</i>			○		
752			ヒナウチワカエデ	<i>Acer tenuifolium</i>	○		○	●	
753			トチノキ	<i>Aesculus turbinata</i>			○		
754			ムクロジ	<i>Sapindus mukorossi</i>	○			●	
755		ミカン	マツカゼソウ	<i>Boenninghausenia albiflora</i> var. <i>japonica</i>			○		
756			コクサギ	<i>Orixa japonica</i>			○		
757			ツルシキミ	<i>Skimmia japonica</i> var. <i>intermedia</i>			○		
758			ミヤマシキミ	<i>Skimmia japonica</i> var. <i>japonica</i>			○		
759			フユザンショウ	<i>Zanthoxylum armatum</i> var. <i>subtrifoliatum</i>			○		
760			サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>			○		
761			イヌザンショウ	<i>Zanthoxylum schinifolium</i> var. <i>schinifolium</i>			○		
762		ニガキ	ニワウルシ	<i>Ailanthus altissima</i>		○			●
763			ニガキ	<i>Picrasma quassioides</i>			○		
764	アオイ	アオイ	カラスノゴマ	<i>Corchoropsis crenata</i>			○		
765		ジンチョウゲ	コショウノキ	<i>Daphne kiusiana</i> var. <i>kiusiana</i>			○		

表 1 (13) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
766	アオイ	ジンチョウゲ	コガンビ	<i>Diplomorpha ganpi</i>			○		
767			ガンビ	<i>Diplomorpha sikokiana</i>			○		
768			キガンビ	<i>Diplomorpha trichotoma</i>			○		
769			ミツマタ	<i>Edgeworthia chrysantha</i>			○		
770	アブラナ	アブラナ	ハクサンハタザオ	<i>Arabidopsis halleri</i> ssp.gemmifera var.senanensis			○		
771			スズシロソウ	<i>Arabis flagellosa</i> var.flagellosa			○		
772			カラシナ	<i>Brassica juncea</i>		○	○		
773			ヒロハコンロンソウ	<i>Cardamine appendiculata</i>			○		
774			オオマルバコンロンソウ	<i>Cardamine arakiana</i>	○			●	
775			ニシノオオタネツケバナ	<i>Cardamine dentipetala</i> var.longifructus			○		
776			タチタネツケバナ	<i>Cardamine fallax</i>			○		
777			ジャンジン	<i>Cardamine impatiens</i>			○		
778			ミズタガラシ	<i>Cardamine lyrata</i>	○		○	●	
779			タネツケバナ	<i>Cardamine occulta</i>			○		
780			オオバタネツケバナ	<i>Cardamine scutata</i>			○		
781			マルバコンロンソウ	<i>Cardamine tanakae</i>			○		
782			イヌナズナ	<i>Draba nemorosa</i>			○		
783			ユリワサビ	<i>Eutrema tenue</i>			○		
784			コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i>	○			●	
785			イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>			○		
786	ビャクダン	ビャクダン	ツクパネ	<i>Buckleya lanceolata</i>			○		
787			カナビキソウ	<i>Thesium chinense</i>			○		
788		オオバヤドリギ	マツグミ	<i>Taxillus kaempferi</i> var.kaempferi			○		
789	ナデシコ	イソマツ	ハマサジ	<i>Limonium tetragonum</i>	○			●	
790		タデ	シャクチリソバ	<i>Fagopyrum dibotrys</i>		○			●
791			イタドリ	<i>Fallopia japonica</i> var.japonica			○		●
792			ナガバノヤノネグサ	<i>Persicaria brevichreata</i>			○		
793			ミヤマタニソバ	<i>Persicaria debilis</i>			○		
794			ミズヒキ	<i>Persicaria filiformis</i>			○		
795			ヤナギタデ	<i>Persicaria hydropiper</i>			○		
796			オオイヌタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i> var.lapathifolia			○		
797			イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>			○		
798			サデクサ	<i>Persicaria maackiana</i>	○			●	
799			ヤノネグサ	<i>Persicaria muricata</i>			○		
800			シンミズヒキ	<i>Persicaria neofiliformis</i>			○		
801			タニソバ	<i>Persicaria nepalensis</i>			○		
802			ハナタデ	<i>Persicaria posumbu</i>			○		
803			アキノウナギツカミ	<i>Persicaria sagittata</i> var.sibirica			○		
804			ママコノシリヌグイ	<i>Persicaria senticosa</i>			○		
805			ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	○		○	●	
806			ネバリタデ	<i>Persicaria viscofera</i> var.viscofera			○		
807			ニオイタデ	<i>Persicaria viscosa</i>	○			●	
808			ミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i> ssp.aviculare			○		
809			アキノミチヤナギ	<i>Polygonum polyneuron</i>			○		
810			スイバ	<i>Rumex acetosa</i>			○		
811			ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i> ssp.pyrenaicus			○		●
812			コギンギシ	<i>Rumex dentatus</i> ssp.klotzschianus	○			●	
813			ギンギシ	<i>Rumex japonicus</i>			○		
814			エゾノギンギシ	<i>Rumex obtusifolius</i>			○		●
815		モウセンゴケ	イシモチソウ	<i>Drosera peltata</i> var.nipponica	○			●	
816			コモウセンゴケ	<i>Drosera spatulata</i>	○			●	
817		ナデシコ	ネバリノミノツツリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i> var.viscida			○		
818			ミミナグサ	<i>Cerastium fontanum</i> ssp.vulgare var.angustifolium			○		
819			オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>			○		
820			ワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i>	○		○	●	
821			ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>			○		
822			ナンバンハコベ	<i>Silene baccifera</i> var.japonica			○		
823			フシグロ	<i>Silene firma</i>			○		
824			フシグロセンノウ	<i>Silene miqueliana</i>			○		
825			ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>			○		
826			サワハコベ	<i>Stellaria diversiflora</i> var.diversiflora			○		
827			コハコベ	<i>Stellaria media</i>			○		
828			オオヤマハコベ	<i>Stellaria monosperma</i> var.japonica			○		
829			ミドリハコベ	<i>Stellaria neglecta</i>			○		

表 1 (14) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
830	ナデシコ	ナデシコ	ミヤマハコベ	<i>Stellaria sessiliflora</i>			○		
831			ヤマハコベ	<i>Stellaria uchiyamana</i> var. <i>uchiyamana</i>			○		
832			ノミノフスマ	<i>Stellaria uliginosa</i> var. <i>undulata</i>			○		
833		ヒユ	イノコヅチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>			○		
834			ホナガイヌビユ	<i>Amaranthus viridis</i>			○		
835			ホソバハマアカザ	<i>Atriplex patens</i>	○			●	
836			イソホウキギ	<i>Bassia scoparia</i>	○			●	
837			イワアカザ	<i>Chenopodium gracilispicum</i>	○		○	●	
838			アリタソウ	<i>Dysphania ambrosioides</i>			○		
839			ハママツナ	<i>Suaeda maritima</i> ssp. <i>asiatica</i>	○			●	
840		ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i>			○		
841			マルミノヤマゴボウ	<i>Phytolacca japonica</i>			○		
842		ザクロソウ	ザクロソウ	<i>Trigastrotheca stricta</i>			○		
843	ミズキ	ミズキ	ウリノキ	<i>Alangium platanifolium</i> f. <i>macrophyllum</i>			○		
844			ミズキ	<i>Cornus controversa</i> var. <i>controversa</i>			○		
845			クマノミズキ	<i>Cornus macrophylla</i>			○		
846		アジサイ	ツルアジサイ	<i>Calyptanthe petiolaris</i>			○		
847			クサアジサイ	<i>Cardiandra alternifolia</i> var. <i>alternifolia</i>			○		
848			ウツギ	<i>Deutzia crenata</i> var. <i>crenata</i>			○		
849			ヒメウツギ	<i>Deutzia gracilis</i> var. <i>gracilis</i>			○		
850			ウラジロウツギ	<i>Deutzia maximowicziana</i>			○		
851			ノリウツギ	<i>Heteromalla paniculata</i>			○		
852			コガクウツギ	<i>Hortensia luteovenosa</i> var. <i>luteovenosa</i>			○		
853			ヤマアジサイ	<i>Hortensia serrata</i> var. <i>serrata</i>			○		
854			イワガラミ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i>			○		
855	ツツジ	ツリフネソウ	ツリフネソウ	<i>Impatiens textorii</i>			○		
856		サカキ	サカキ	<i>Cleyera japonica</i>			○		
857			ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>			○		
858		カキノキ	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i> var. <i>kaki</i>			○		
859			トキワガキ	<i>Diospyros morrisiana</i>	○			●	
860		サクラソウ	ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica</i> var. <i>japonica</i>			○		
861			ギンレイカ	<i>Lysimachia acroadenia</i>			○		
862			オカトラノオ	<i>Lysimachia clethroides</i>			○		
863			ヌマトラノオ	<i>Lysimachia fortunei</i>			○		
864			コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i>			○		
865			クサレダマ	<i>Lysimachia vulgaris</i> ssp. <i>davurica</i>	○			●	
866			イズセンリョウ	<i>Maesa japonica</i>			○		
867			タイミンタチバナ	<i>Myrsine seguinii</i>	○			●	
868		ツバキ	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>			○		
869			チャノキ	<i>Camellia sinensis</i> var. <i>sinensis</i>			○		
870		ハイノキ	タンナサワフタギ	<i>Symplocos coreana</i>			○		
871		イワウメ	イワカガミ	<i>Schizocodon soldanelloides</i> var. <i>soldanelloides</i>			○		
872		エゴノキ	エゴノキ	<i>Styrax japonicus</i>			○		
873			コハクウンボク	<i>Styrax shiraianus</i>			○		
874		マタタビ	サルナシ	<i>Actinidia arguta</i> var. <i>arguta</i>			○		
875			ウラジロマタタビ	<i>Actinidia arguta</i> var. <i>hypoleuca</i>			○		
876			マタタビ	<i>Actinidia polygama</i>			○		
877		リョウブ	リョウブ	<i>Clethra barbinervis</i>			○		
878		ツツジ	ウメガサソウ	<i>Chimaphila japonica</i>	○		○	●	
879			ホツツジ	<i>Elliottia paniculata</i>			○		
880			ベニドウダン	<i>Enkianthus cernuus</i> f. <i>rubens</i>			○		
881			ジャクジョウソウ	<i>Hypopitys monotropa</i>	○		○	●	
882			ネジキ	<i>Lyonia ovalifolia</i> var. <i>elliptica</i>			○		
883			ギンリョウソウ	<i>Monotropastrum humile</i>			○		
884			アセビ	<i>Pieris japonica</i> ssp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>			○		
885			イチヤクソウ	<i>Pyrola japonica</i> var. <i>japonica</i>			○		
886			ツリガネツツジ	<i>Rhododendron benhallii</i>			○		
887			ホンシャクナゲ	<i>Rhododendron japonheptamerum</i> var. <i>hondoense</i>	○		○	●	
888			ヤマツツジ	<i>Rhododendron kaempferi</i> var. <i>kaempferi</i>			○		
889			ヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>keiskei</i>	○		○	●	
890			モチツツジ	<i>Rhododendron macrosepalum</i>			○		
891			アカヤシオ	<i>Rhododendron pentaphyllum</i> var. <i>nikoense</i>	○		○	●	
892			コバノミツバツツジ	<i>Rhododendron reticulatum</i>			○		
893			バイカツツジ	<i>Rhododendron semibarbatum</i>			○		

表 1 (15) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
894	ツツジ	ツツジ	シロバナウンゼンツツジ	<i>Rhododendron serpyllifolium</i> var. <i>albiflorum</i>			○		
895			ミヤコツツジ	<i>Rhododendron</i> x <i>tectum</i>			○		
896			コウスノキ	<i>Vaccinium hirtum</i> var. <i>hirtum</i>			○		
897			ケアクシバ	<i>Vaccinium japonicum</i> var. <i>ciliare</i>			○		
898			ナツハゼ	<i>Vaccinium oldhamii</i>			○		
899			カンサイスノキ	<i>Vaccinium smallii</i> var. <i>versicolor</i>			○		
900	アオキ	アオキ	アオキ	<i>Aucuba japonica</i> var. <i>japonica</i>			○		
901	リンドウ	アカネ	ホンバオオアリドオン	<i>Damnacanthus indicus</i> var. <i>lancifolius</i>			○		
902			ジュズネノキ	<i>Damnacanthus macrophyllus</i>	○			●	
903			ヒメヨツバムグラ	<i>Galium gracilens</i>			○		
904			クルマムグラ	<i>Galium japonicum</i>			○		
905			キクムグラ	<i>Galium kikumugura</i>			○		
906			ヤマムグラ	<i>Galium pogananthum</i>			○		
907			オオバノヤエムグラ	<i>Galium pseudoasprellum</i>			○		
908			ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>			○		
909			ヨツバムグラ	<i>Galium trachyspermum</i>			○		
910			カワラマツバ	<i>Galium verum</i> ssp. <i>asiaticum</i> f. <i>lacteum</i>			○		
911			ツルアリドオン	<i>Mitchella undulata</i>			○		
912			ハシカグサ	<i>Neanotis hirsuta</i>			○		
913			サツマイナモリ	<i>Ophiorrhiza japonica</i>	○		○	●	
914			ヘクソカズラ	<i>Paederia foetida</i>			○		
915			イナモリソウ	<i>Pseudopyxis depressa</i>					
916			アカネ	<i>Rubia argyi</i>			○		
917			ヤマトグサ	<i>Theligonum japonicum</i>			○	●	
918			カギカズラ	<i>Uncaria rhynchophylla</i>	○		○	●	
919		リンドウ	リンドウ	<i>Gentiana scabra</i> var. <i>buergeri</i>			○		
920			フデリンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i>			○		
921			アケボノソウ	<i>Swertia bimaculata</i>			○		
922			センブリ	<i>Swertia japonica</i>			○		
923			ムラサキセンブリ	<i>Swertia pseudochinensis</i>	○			●	
924			イヌセンブリ	<i>Swertia tosaensis</i>	○			●	
925			ツルリンドウ	<i>Tripterospermum japonicum</i>			○		
926		マチン	チトセカズラ	<i>Gardneria multiflora</i>	○		○	●	
927			ホウライカズラ	<i>Gardneria nutans</i>	○			●	
928			アイナエ	<i>Mitrasacme pygmaea</i>	○			●	
929		キョウチクトウ	キジョラン	<i>Marsdenia tomentosa</i>			○		
930			ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>			○		
931			テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i>			○		
932			ケテイカカズラ	<i>Trachelospermum jasminoides</i> var. <i>pubescens</i>	○		○	●	
933			オオカモメヅル	<i>Vincetoxicum aristolochioides</i>			○		
934			コカモメヅル	<i>Vincetoxicum floribundum</i>	○		○	●	
935	ナス	ヒルガオ	アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta campestris</i>			○		●
936			ネナシカズラ	<i>Cuscuta japonica</i>			○		
937		ナス	イガホオズキ	<i>Physalisstrum echinatum</i>			○		
938			ヤマホロシ	<i>Solanum japonense</i>	○		○	●	
939			ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i>			○		
940			マルバノホロシ	<i>Solanum maximowiczii</i>			○		
941			ハダカホオズキ	<i>Tubocapsicum anomalum</i>			○		
942		ムラサキ	サウルリソウ	<i>Ancistrocarya japonica</i>			○	●	
943			ハナイバナ	<i>Bothriospermum zeylanicum</i>			○		
944			オニルリソウ	<i>Cynoglossum asperrimum</i>			○		
945			オオルリソウ	<i>Cynoglossum furcatum</i> var. <i>villosulum</i>			○		
946			ヤマルリソウ	<i>Nihon japonicum</i>			○		
947			ミズタビラコ	<i>Trigonotis brevipes</i>			○		
948			キュウリグサ	<i>Trigonotis peduncularis</i>			○		
949	シソ	モクセイ	ケアオダモ	<i>Fraxinus lanuginosa</i> f. <i>lanuginosa</i>			○		
950			マルバアオダモ	<i>Fraxinus sieboldiana</i>			○		
951			ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i> var. <i>japonicum</i>			○		
952			トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>		○			●
953			イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i> ssp. <i>obtusifolium</i>			○		
954			セツツイボタ	<i>Ligustrum obtusifolium</i> f. <i>leiocalyx</i>	○			●	

表 1 (16) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
955	シソ	イワタバコ	イワタバコ	<i>Conandron ramondiioides</i> var. <i>ramondiioides</i>			○		
956		オオバコ	サワトウガラシ	<i>Deinostema violaceum</i>			○		
957			アブノメ	<i>Dopatrium junceum</i>	○		○	●	
958			キクガラクサ	<i>Ellisiophyllum pinnatum</i> var. <i>reptans</i>	○		○	●	
959			オオバコ	<i>Plantago asiatica</i> var. <i>asiatica</i>			○		
960			ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica</i>			○		
961			オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>		○			●
962			タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>			○		
963			クワガタソウ	<i>Veronica miqueliana</i>	○		○	●	
964			オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>			○		
965			イヌノフグリ	<i>Veronica polita</i>	○			●	
966			カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i>	○			●	
967		ゴマノハグサ	フサフジウツギ	<i>Buddleja davidii</i>		○			●
968			ヒナノウスツボ	<i>Scrophularia duplicatoserrata</i>			○		
969			オオヒナノウスツボ	<i>Scrophularia kakudensis</i>	○		○	●	
970		アゼナ	アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> ssp. <i>major</i>			○		
971	シソ		キランソウ	<i>Ajuga decumbens</i>			○		
972			ジュウニヒトエ	<i>Ajuga nipponensis</i>			○		
973			ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>japonica</i>			○		
974			ヤブムラサキ	<i>Callicarpa mollis</i>			○		
975			クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>			○		
976			クルマバナ	<i>Clinopodium coreanum</i> ssp. <i>coreanum</i>			○		
977			トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>			○		
978			イヌトウバナ	<i>Clinopodium micranthum</i> var. <i>micranthum</i>			○		
979			ヤマトウバナ	<i>Clinopodium multicaule</i> var. <i>multicaule</i>			○		
980			ミカエリソウ	<i>Comanthosphace stellipila</i> var. <i>stellipila</i>			○		
981			ナギナタコウジュ	<i>Elsholtzia ciliata</i>			○		
982			フトボナギナタコウジュ	<i>Elsholtzia nipponica</i>			○		
983			カキドオシ	<i>Glechoma hederacea</i> ssp. <i>grandis</i>			○		
984			ヤマハッカ	<i>Isodon inflexus</i>			○		
985			ヒキオコシ	<i>Isodon japonicus</i>			○		
986			アキチョウジ	<i>Isodon longitubus</i>			○		
987			サンインヒキオコシ	<i>Isodon shikokianus</i> var. <i>occidentalis</i>			○		
988			クロバナヒキオコシ	<i>Isodon trichocarpus</i>			○		
989			オドリコソウ	<i>Lamium album</i> var. <i>barbatum</i>			○		
990			メハジキ	<i>Leonurus japonicus</i>			○		
991			ヒメシロネ	<i>Lycopus maackianus</i>			○		
992			ヒメジソ	<i>Mosla dianthera</i>			○		
993			シラゲヒメジソ	<i>Mosla hirta</i>			○		
994			ヤマジソ	<i>Mosla japonica</i>	○			●	
995			イヌコウジュ	<i>Mosla scabra</i>			○		
996			シソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i>			○		
997			エゴマ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>frutescens</i>			○		
998			セトエゴマ	<i>Perilla setoyensis</i>			○		
999			ウツボグサ	<i>Prunella vulgaris</i> ssp. <i>asiatica</i>			○		
1000			アキノタムラソウ	<i>Salvia japonica</i>			○		
1001			キバナアキギリ	<i>Salvia nipponica</i> var. <i>nipponica</i>			○		
1002			ミゾコウジュ	<i>Salvia plebeia</i>	○			●	
1003			オカタツナミソウ	<i>Scutellaria brachyspica</i>			○		
1004			タツナミソウ	<i>Scutellaria indica</i> var. <i>indica</i>			○		
1005			コバノタツナミ	<i>Scutellaria indica</i> var. <i>parvifolia</i>			○		
1006			トウゴクシソバタツナミ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> var. <i>abbreviata</i>			○		
1007			ミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>shikokiana</i>	○		○	●	
1008			ナミキソウ	<i>Scutellaria strigillosa</i>	○			●	
1009			イヌゴマ	<i>Stachys aspera</i> var. <i>hispidula</i>			○		
1010			ニガクサ	<i>Teucrium japonicum</i>			○		
1011			ツルニガクサ	<i>Teucrium viscidum</i> var. <i>miquelianum</i>			○		
1012		サギゴケ	ムラサキサギゴケ	<i>Mazus miquelii</i>			○		
1013			トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>			○		
1014		ハエドクソウ	ミゾホオズキ	<i>Mimulus nepalensis</i>			○		

表 1 (17) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
1015	シソ	ハエドクソウ	ハエドクソウ	<i>Phryma nana</i>			○		
1016		ハマウツボ	ゴマクサ	<i>Centranthera cochinchinensis</i> var. <i>lutea</i>	○			●	
1017			シコクママコナ	<i>Melampyrum laxum</i> var. <i>laxum</i>			○		
1018			ママコナ	<i>Melampyrum roseum</i> var. <i>japonicum</i>			○		
1019			ツシマママコナ	<i>Melampyrum roseum</i> var. <i>roseum</i>			○		
1020			クチナシグサ	<i>Monochasma shearerii</i>	○		○	●	
1021			キヨスミウツボ	<i>Phacellanthus tubiflorus</i>	○		○	●	
1022			コシオガマ	<i>Phtheirospermum japonicum</i>			○		
1023			オオヒキヨモギ	<i>Siphonostegia laeta</i>			○	●	
1024		タヌキモ	ノタヌキモ	<i>Utricularia aurea</i>	○		○	●	
1025			ホザキノミミカキグサ	<i>Utricularia caerulea</i>			○		
1026			ムラサキミミカキグサ	<i>Utricularia uliginosa</i>	○		○	●	
1027		キツネノマゴ	オギノツメ	<i>Hygrophila ringens</i>	○			●	
1028			キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i> var. <i>procumbens</i>			○		
1029			ハグロソウ	<i>Peristrophe japonica</i>			○		
1030			スズムシバナ	<i>Strobilanthes oligantha</i>	○		○	●	
1031		クマツヅラ	アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i>		○			●
1032	モチノキ	ハナイカダ	ハナイカダ	<i>Helwingia japonica</i> ssp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>			○		
1033		モチノキ	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i> var. <i>crenata</i>			○		
1034			モチノキ	<i>Ilex integra</i>			○		
1035			タマミズキ	<i>Ilex micrococca</i>	○			●	
1036			ソヨゴ	<i>Ilex pedunculosa</i>			○		
1037			アカミノイヌツゲ	<i>Ilex sugerokii</i> var. <i>brevipedunculata</i>			○		
1038			クロソヨゴ	<i>Ilex sugerokii</i> var. <i>sugerokii</i>			○		
1039	キク	キキョウ	ツリガネニンジン	<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i>			○		
1040			ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i> var. <i>punctata</i>			○		
1041			ツルニンジン	<i>Codonopsis lanceolata</i>			○		
1042			ミゾカクシ	<i>Lobelia chinensis</i>			○		
1043			サウギキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i>			○		
1044			タニギキョウ	<i>Peracarpa carnosae</i> var. <i>carnosae</i>			○		
1045		ミツガシワ	アサザ	<i>Nymphoides peltata</i>	○			●	
1046		キク	ノブキ	<i>Adenocaulon himalaicum</i>			○		
1047			ヌマダイコン	<i>Adenostemma lavenia</i>	○			●	
1048			キッコウハグマ	<i>Ainsliaea apiculata</i>			○		
1049			オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>		○			●
1050			ホソバナヤマハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> ssp. <i>margaritacea</i> var. <i>angustifolia</i>			○	●	
1051			カワラハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> ssp. <i>margaritacea</i> var. <i>yedoensis</i>	○			●	
1052			フクド	<i>Artemisia fukudo</i>	○			●	
1053			ヨモギ	<i>Artemisia indica</i> var. <i>maximowiczii</i>			○		●
1054			ヒメヨモギ	<i>Artemisia lancea</i>	○			●	
1055			ヤマジノギク	<i>Aster hispidus</i> var. <i>hispidus</i>	○			●	
1056			ユウガギク	<i>Aster linumae</i>			○		
1057			ケシロヨメナ	<i>Aster leiophyllus</i> var. <i>intermedius</i>			○		
1058			ノコンギク	<i>Aster microcephalus</i> var. <i>ovatus</i>			○		
1059			ミヤマヨメナ	<i>Aster savatieri</i> var. <i>savatieri</i>			○		
1060			シラヤマギク	<i>Aster scaber</i>			○		
1061			イナカギク	<i>Aster semiamplexicaulis</i>			○		
1062			シュウブンソウ	<i>Aster verticillatus</i>			○		
1063			ヨメナ	<i>Aster yomena</i> var. <i>yomena</i>			○		
1064			オケラ	<i>Atractylodes ovata</i>	○			●	
1065			ヤブタバコ	<i>Carpesium abrotanoides</i>			○		
1066			ホソバガンクビソウ	<i>Carpesium divaricatum</i> var. <i>abrotanoides</i>			○		
1067			サジガンクビソウ	<i>Carpesium glossophyllum</i>			○		
1068			ヒメガンクビソウ	<i>Carpesium rosulatum</i>			○		
1069			トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>			○		

表 1 (18) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
1070	キク	キク	ノジギク	<i>Chrysanthemum japonense</i> var. <i>japonense</i>	○			●	
1071			リュウノウギク	<i>Chrysanthemum makinoi</i>			○		
1072			ヒメアザミ	<i>Cirsium buergeri</i>			○		
1073			ヒツキアザミ	<i>Cirsium congestissimum</i>			○		
1074			ノアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>japonicum</i>			○		
1075			ケショウアザミ	<i>Cirsium japonicum</i> var. <i>vestitum</i>			○		
1076			オハラメアザミ	<i>Cirsium kiotoense</i>			○		
1077			キセルアザミ	<i>Cirsium sieboldii</i>			○		
1078			ヨシノアザミ	<i>Cirsium yoshinoi</i>			○		
1079			オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>		○			●
1080			ベニバナゴロギク	<i>Crassocephalum crepidioides</i>			○		
1081			ヤクシソウ	<i>Crepidastrum denticulatum</i>			○		
1082			ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>			○		●
1083			ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>			○		
1084			ヨツバヒヨドリ	<i>Eupatorium glehnii</i>			○		
1085			サケバヒヨドリ	<i>Eupatorium laciniatum</i>	○		○	●	
1086			サワヒヨドリ	<i>Eupatorium lindleyanum</i>			○		
1087			オオヒヨドリバナ	<i>Eupatorium makinoi</i> var. <i>oppositifolium</i>			○		
1088			ハキダメギク	<i>Galinsoga quadriradiata</i>			○		
1089			チチコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>			○		
1090			キクイモ	<i>Helianthus tuberosus</i>		○			●
1091			キツネアザミ	<i>Hemisteptia lyrata</i>			○		
1092			スイラン	<i>Hololeion krameri</i>			○		
1093			ブタナ	<i>Hypochaeris radicata</i>			○		
1094			オグルマ	<i>Inula britannica</i> ssp. <i>japonica</i>	○			●	
1095			ニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> ssp. <i>dentatum</i>			○		
1096			ハイニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> ssp. <i>dentatum</i> f. <i>stoloniferum</i>			○		
1097			ハナニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> ssp. <i>nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i>			○		
1098			オオジシバリ	<i>Ixeris japonica</i>			○		
1099			ノニガナ	<i>Ixeris polycephala</i>	○			●	
1100			ハマニガナ	<i>Ixeris repens</i>	○			●	
1101			イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i>			○		
1102			アキノノゲン	<i>Lactuca indica</i> var. <i>indica</i>			○		
1103			ヤマニガナ	<i>Lactuca raddeana</i> var. <i>elata</i>			○		
1104			コオニタビラコ	<i>Lapsanastrum apogonoides</i>			○		
1105			ヤブタビラコ	<i>Lapsanastrum humile</i>			○		
1106			センボンヤリ	<i>Leibnitzia anandria</i>			○		
1107			ハンカイソウ	<i>Ligularia japonica</i>	○			●	
1108			サウギク	<i>Nemosencio nikoensis</i>			○		
1109			ムラサキニガナ	<i>Paraprenanthes sororia</i>			○		
1110			モミジガサ	<i>Parasenecio delphiniifolius</i>			○		
1111			ナガバノコウヤボウキ	<i>Pertya glabrescens</i>			○		
1112			コウヤボウキ	<i>Pertya scandens</i>			○		
1113			フキ	<i>Petasites japonicus</i> var. <i>japonicus</i>			○		
1114			コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> ssp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>			○		
1115			ハハコグサ	<i>Pseudognaphalium affine</i>			○		
1116			ナルトサウギク	<i>Senecio madagascariensis</i>		○			●
1117			コメナモミ	<i>Sigesbeckia glabrescens</i>			○		
1118			メナモミ	<i>Sigesbeckia pubescens</i>			○		
1119			セイトカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>		○			●
1120			アキノキリンソウ	<i>Solidago virgaurea</i> ssp. <i>asiatica</i> var. <i>asiatica</i>			○		
1121			ノゲン	<i>Sonchus oleraceus</i>			○		
1122			ヤブレガサ	<i>Syneilesis palmata</i>			○		
1123			キクバヤマボクチ	<i>Synurus palmatopinnatifidus</i> var. <i>palmatopinnatifidus</i>			○		
1124			カンサイタンポポ	<i>Taraxacum japonicum</i>			○		
1125			セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>			○		●
1126			オカオグルマ	<i>Tephrosieris integrifolia</i> ssp. <i>kirilowii</i>			○		
1127			オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>		○			●
1128			アオオニタビラコ	<i>Youngia japonica</i> ssp. <i>japonica</i>			○		
1129	セリ	トベラ	コヤスノキ	<i>Pittosporum illicioides</i>	○		○	●	
1130		ウコギ	ウド	<i>Aralia cordata</i>			○		
1131			タラノキ	<i>Aralia elata</i>			○		
1132			コシアブラ	<i>Chengiopanax sciadophylloides</i>			○		
1133			ウラゲウコギ	<i>Eleutherococcus spinosus</i> var. <i>nikaianus</i>			○		

表 1 (19) 植物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					②	③	④		
1134	セリ	ウコギ	ヤマウコギ	<i>Eleutherococcus spinosus</i> var. <i>spinosus</i>			○		
1135			タカノツメ	<i>Gamblea innovans</i>			○		
1136			キヅタ	<i>Hedera rhombea</i>			○		
1137			オオバチドメ	<i>Hydrocotyle javanica</i>			○		
1138			オオチドメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>			○		
1139			ウチワゼニクサ	<i>Hydrocotyle verticillata</i> var. <i>triradiata</i>		○			●
1140			トチバニンジン	<i>Panax japonicus</i>			○		
1141		セリ	ノダケ	<i>Angelica decursiva</i>			○		
1142			ハナビゼリ	<i>Angelica inaequalis</i>			○		
1143			セントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i>			○		
1144			ミツバ	<i>Cryptotaenia japonica</i>			○		
1145			ヤブニンジン	<i>Osmorhiza aristata</i> var. <i>aristata</i>			○		
1146			ボタンボウフウ	<i>Peucedanum japonicum</i>	○			●	
1147			カワラボウフウ	<i>Peucedanum terebinthaceum</i>			○		
1148			ウマノミツバ	<i>Sanicula chinensis</i>			○		
1149			ムカゴニンジン	<i>Sium ninsi</i>			○		
1150			ヒカゲミツバ	<i>Spuriopimpinella koreana</i>			○		
1151			ヤブジラミ	<i>Torilis japonica</i>			○		
1152			オヤブジラミ	<i>Torilis scabra</i>			○		
1153	マツムシソウ	ガマズミ	ニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>			○		
1154			ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>			○		
1155			コバノガマズミ	<i>Viburnum erosum</i>			○		
1156			オトコヨウゾメ	<i>Viburnum phlebotrichum</i>			○		
1157			ヤブデマリ	<i>Viburnum plicatum</i> var. <i>tomentosum</i>			○		
1158			ゴマキ	<i>Viburnum sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>			○		
1159			ミヤマガマズミ	<i>Viburnum wrightii</i> var. <i>wrightii</i>			○		
1160		スイカズラ	コツクバネウツギ	<i>Abelia serrata</i> var. <i>serrata</i>			○		
1161			ツクバネウツギ	<i>Abelia spathulata</i> var. <i>spathulata</i>			○		
1162			ナベナ	<i>Dipsacus japonicus</i>	○		○	●	
1163			ウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i>			○		
1164			ミヤマウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glandulosa</i>			○		
1165			スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>			○		
1166			オミナエシ	<i>Patrinia scabiosifolia</i>			○		
1167			オトコエシ	<i>Patrinia villosa</i>			○		
1168			カノコソウ	<i>Valeriana fauriei</i>			○		
1169			ツルカノコソウ	<i>Valeriana flaccidissima</i>			○		
1170			ノヂシャ	<i>Valerianella locusta</i>			○		
1171			タニウツギ	<i>Weigela hortensis</i>			○		
合計	74目	187科	1171種	種数	248種	37種	974種	260種	56種

注1) 種名および配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベースHP、令和7年10月)に準拠した。

注2) 文献番号は表2.4.64植物相に係る収集文献に対応する。

表2 哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献						重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	①	②	③		
1	モグラ	トガリネズミ	ジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>	○							
2		モグラ	ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>	○							
3			ミズラモグラ	<i>Oreoscaptor mizura</i>		○					●	
4			コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>	○							
5	コウモリ	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ (ニホンコキクガシラコウモリ)	<i>Rhinolophus cornutus</i> (<i>P. c. cornutus</i>)	○							
6			キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	○						●	
7		ヒナコウモリ	モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i>		○						
8			アブラコウモリ	<i>Pipistrellus abramus</i>	○							
9			ヒナコウモリ	<i>Vespertilio sinensis</i>		○					●	
10	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	○				○			
11	ネズミ	リス	クリハラリス	<i>Callosciurus erythraeus</i>	○		○					●
12			ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	○							
13			ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	○							
14		ネズミ	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	○							
15			クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>	○							
16			ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>	○							
17			スミスネズミ	<i>Craseomys smithii</i>	○						●	
18			ハタネズミ	<i>Alexandromys montebelli</i>	○							
19			アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	○							
20			ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>	○							
21		ヌートリア	ヌートリア	<i>Myocastor coypus</i>	○		○	○		○		●
22	ネコ	クマ	ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i>	○	○		○			●	
23		アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	○		○	○		○		●
24		イヌ	ノイヌ (オオカミ)	<i>Canis lupus</i>	○		○					●
25		イタチ	テン (ホンドテン)	<i>Martes melampus</i> (<i>M. m. melampus</i>)	○							
26			シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i>	○		○					●
27			アナグマ	<i>Meles anakuma</i>	○			○	○			
28			ニホンイタチ	<i>Mustela itatsi</i>	○				○			
29		ジャコウネコ	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	○			○		○		●
30		ネコ	ノネコ	<i>Felis catus</i>	○		○					●
31		イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	○			○	○			
32			キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	○				○			
33	アザラン	アザラン	ゴマファザラン	<i>Phoca largha</i>	○							
34	ウシ	シカ	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	○			○				
35		イノシシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	○			○				
36	サル	オナガザル	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	○			○				
合計	8目	20科	36種	種数	33種	4種	6種	9種	5種	3種	5種	6種

注1) 種名および配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベースHP、令和7年10月)に準拠した。

注2) 文献番号は表2.4.74動物に係る収集文献に対応する。

表 3 (1) 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	④	⑤		
1	キジ	キジ	ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>		○				●	
2			コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	○			○			
3			ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>		○		○		●	
4			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	○			○			
5	カモ	カモ	ヒンケイ	<i>Anser fabalis</i>		○				●	
6			コクガン	<i>Branta bernicla</i>		○				●	
7			コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>		○		○		●	
8			オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>		○				●	
9			ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>		○		○		●	
10			オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	○	○		○		●	
11			オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	○			○			
12			ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	○			○			
13			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	○			○			
14			アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>	○	○		○		●	
15			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	○			○			
16			アヒル	<i>Anas platyrhynchos</i> var. <i>domesticus</i>			○				●
17			アイガモ	<i>Anas platyrhynchos</i> × <i>A. p.</i> var. <i>domesticus</i>			○				●
18			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○			○			
19			ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	○			○			
20			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	○			○			
21			シマアジ	<i>Anas querquedula</i>		○		○		●	
22			トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	○	○		○		●	
23			ヨガモ	<i>Anas crecca</i>	○			○			
24			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	○			○		●	
25			アカハジロ	<i>Aythya baeri</i>		○				●	
26			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	○			○		●	
27			スズガモ	<i>Aythya marila</i>	○			○		●	
28			ビロードキンクロ	<i>Melanitta fusca</i>		○				●	
29			クロガモ	<i>Melanitta americana</i>		○				●	
30			ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>		○		○		●	
31			ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>	○			○			
32			カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>	○			○			
33			ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	○			○			
34	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	○			○			
35			カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	○			○			
36			ミミカイツブリ	<i>Podiceps auritus</i>				○			
37			ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>	○			○			
38	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>	○		○	○			●
39			キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○			○			
40	アビ	アビ	アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	○			○			
41			アビ	<i>Gavia stellata</i>		○				●	
42			オオハム	<i>Gavia arctica</i>		○				●	
43	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>		○				●	
44	カツオドリ	ウ	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>		○				●	
45			カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>				○			
46			ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>	○						
47	ベリカン	サギ	サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris</i>		○		○		●	
48			ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	○	○		○		●	
49			オオヨシゴイ	<i>Ixobrychus eurhythmus</i>		○				●	
50			ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>		○				●	
51			ヨイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○			○		●	
52			ササゴイ	<i>Butorides striata</i>	○	○		○		●	
53			アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>	○			○		●	
54			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○			○			
55			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○			○			
56			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	○	○		○		●	
57			ユサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○			○		●	
58			クロサギ	<i>Egretta sacra</i>		○				●	
59			カラシラサギ	<i>Egretta eulophotes</i>		○				●	
60	ツル	クイナ	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>		○		○		●	
61			ヒメクイナ	<i>Porzana pusilla</i>		○				●	
62			ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>	○	○		○		●	
63			バン	<i>Gallinula chloropus</i>	○			○		●	
64			オオバン	<i>Fulica atra</i>	○			○			
65	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>		○		○		●	
66			ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	○			○			
67			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	○			○			
68			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	○	○		○		●	
69	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	○	○		○		●	
70	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>				○		●	
71			アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>				○		●	
72			ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>		○				●	
73	チドリ	チドリ	タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>	○			○			
74			ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>	○			○		●	
75			ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	○	○				●	

表 3 (2) 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	④	⑤		
76	チドリ	チドリ	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	○	○		○		●	
77			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	○			○			
78			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	○	○		○		●	
79			オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>		○				●	
80		ミヤコドリ	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>		○				●	
81		セイタカシギ	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>		○				●	
82		シギ	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>		○		○		●	
83			オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>		○				●	
84			チュウジシギ	<i>Gallinago megala</i>		○				●	
85			タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>	○	○		○		●	
86			オグロシギ	<i>Limosa limosa</i>		○				●	
87			オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>		○				●	
88			ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata</i>		○				●	
89			ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>		○				●	
90			ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>		○				●	
91			アカアシシギ	<i>Tringa totanus</i>		○				●	
92			コアオアシシギ	<i>Tringa stagnatilis</i>		○				●	
93			アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>		○				●	
94			クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	○			○			
95			タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	○	○		○		●	
96			ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>		○				●	
97			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	○	○		○		●	
98			キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>		○				●	
99			オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>		○				●	
100			コオバシギ	<i>Calidris canutus</i>		○				●	
101			ミユビシギ	<i>Calidris alba</i>		○				●	
102			オジロトウネン	<i>Calidris temminckii</i>		○				●	
103			ヒバリシギ	<i>Calidris subminuta</i>		○				●	
104			ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>		○				●	
105			サルハマシギ	<i>Calidris ferruginea</i>		○				●	
106			ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	○	○		○		●	
107			ヘラシギ	<i>Euryornhynchus pygmeus</i>		○				●	
108			キリアイ	<i>Limicola falcinellus</i>		○				●	
109			エリマキシギ	<i>Philomachus pugnax</i>		○				●	
110			アカエリヒレアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>		○				●	
111		タマシギ	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>	○	○		○		●	
112		ツバメチドリ	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>		○				●	
113		カモメ	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	○			○			
114			ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>		○		○		●	
115			ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	○			○		●	
116			カモメ	<i>Larus canus</i>	○			○			
117			セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>	○			○			
118			オオアジサシ	<i>Sterna bergii</i>		○				●	
119			コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	○	○		○		●	
120			アジサシ	<i>Sterna hirundo</i>		○				●	
121			クロハラアジサシ	<i>Chlidonias hybrida</i>		○				●	
122			ハジロクロハラアジサシ	<i>Chlidonias leucopterus</i>		○				●	
123	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○		○		●	
124		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		○		○		●	
125			トビ	<i>Milvus migrans</i>	○			○			
126			オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>		○				●	
127			チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>	○	○		○		●	
128			ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>		○				●	
129			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>		○		○		●	
130			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○	○		○		●	
131			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>		○		○		●	
132			サシバ	<i>Butastur indicus</i>	○	○		○		●	
133			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○	○		○		●	
134			ケアシノスリ	<i>Buteo lagopus</i>		○				●	
135			イヌワシ	<i>Aquila chrysaetos</i>	イヌワシ	○				●	
136			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>		○		○		●	
137		フクロウ	オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>		○		○		●	
138			コノハズク	<i>Otus sunia</i>		○				●	
139			フクロウ	<i>Strix uralensis</i>				○			
140			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>		○		○		●	
141			トラフズク	<i>Asio otus</i>		○				●	
142			コミミズク	<i>Asio flammeus</i>		○		○		●	
143	サイチョウ	ヤツガシラ	ヤツガシラ	<i>Upupa epops</i>		○				●	
144	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>		○				●	
145			カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○	○		○		●	
146			ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	○	○		○		●	
147		ブッポウソウ	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>		○				●	
148	キツツキ	キツツキ	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>	○	○		○		●	
149			コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○			○			
150			オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	○						

表 3 (3) 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	④	⑤		
151	キツツキ	キツツキ	アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	○	○		○		●	
152			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	○	○		○		●	
153	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	○			○			
154			コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>		○		○		●	
155			チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>		○				●	
156			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○	○		○		●	
157	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>		○		○		●	
158		サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○	○		○		●	
159		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>				○			
160		モズ	チゴモズ	<i>Lanius tigrinus</i>		○				●	
161			モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○			○			
162			アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>		○		○		●	
163		カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	○			○			
164			コクマルガラス	<i>Corvus dauuricus</i>		○				●	
165			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	○			○	○		
166			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○			○	○		
167		キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	○			○			
168		ツリスガラ	ツリスガラ	<i>Remiz pendulinus</i>		○		○		●	
169		シジュウカラ	コガラ	<i>Poecile montanus</i>	○	○		○		●	
170			ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	○			○			
171			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	○			○			
172			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○			○			
173		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○			○			
174		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○			○			
175			ヨシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	○			○			
176			イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○			○			
177		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○			○	○		
178		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○			○			
179		ヤブサメ	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	○			○			
180		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○			○			
181		ムシクイ	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>		○		○		●	
182			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○			○			
183		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○			○			
184		センニュウ	マキノセンニュウ	<i>Locustella lanceolata</i>		○				●	
185			シマセンニュウ	<i>Locustella ochotensis</i>		○				●	
186			オオセツカ	<i>Locustella pryeri</i>	○					●	
187			エゾセンニュウ	<i>Locustella fasciolata</i>		○				●	
188		ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	○	○		○		●	
189			コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>		○				●	
190		セツカ	セツカ	<i>Cisticola juncidis</i>	○			○			
191		レンジャク	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>				○			
192			ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>				○			
193		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>		○				●	
194		キバシリ	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>		○				●	
195		ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○			○			
196		ムクドリ	ハツカチョウ	<i>Acridotheres cristatellus</i>	○		○	○			●
197			ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○			○			
198			コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>		○				●	
199		カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	○	○		○		●	
200		ヒタキ	マミジロ	<i>Zoothera sibirica</i>		○				●	
201			トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	○			○			
202			クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	○			○			
203			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	○			○			
204			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	○			○			
205			コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>		○				●	
206			コルリ	<i>Luscinia cyane</i>		○				●	
207			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	○	○		○		●	
208			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureoreus</i>	○	○		○		●	
209			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>		○				●	
210			インヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○			○			
211			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	○	○		○		●	
212			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>		○		○		●	
213			オジロビタキ	<i>Ficedula albicilla</i>		○				●	
214			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○	○		○		●	
215		イワヒバリ	カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>		○		○		●	
216		スズメ	ニューナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>	○	○		○		●	
217			スズメ	<i>Passer montanus</i>	○			○	○		
218		カエデチョウ	ベニスズメ	<i>Amandava amandava</i>	○			○			
219			ギンバラ	<i>Lonchura malacca</i>	○						
220			ヘキチョウ	<i>Lonchura maja</i>	○						
221		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○			○			
222			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○			○			
223			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○			○			
224			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	○			○		●	
225			タヒバリ	<i>Anthus rubescens</i>	○			○			

表3 (4) 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	④	⑤		
226	スズメ	アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	○			○			
227			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○			○			
228			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	○			○			
229			ベニヒワ	<i>Carduelis flammea</i>		○				●	
230			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	○			○			
231			オオマシコ	<i>Carpodacus roseus</i>		○				●	
232			イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>		○		○		●	
233			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	○			○			
234			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○			○			
235			コイカル	<i>Eophona migratoria</i>		○				●	
236			イカル	<i>Eophona personata</i>	○			○			
237		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○			○			
238			ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>		○		○		●	
239			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	○			○		●	
240			ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	○			○			
241			ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i>		○				●	
242			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	○	○		○		●	
243			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>		○		○		●	
244			オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	○			○			
合計	20目	58科	244種	種数	131種	142種	4種	160種	4種	156種	4種

注1) 種名および配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベースHP、令和7年10月)に準拠した。

注2) 文献番号は表2.4.74動物に係る収集文献に対応する。

表 4 爬虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					①	②	③		
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	○	○		●	
2			クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>	○		○		●
3		ヌマガメ	ミシシippアカミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>	○		○		●
4		スッポン	チュウゴクスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i>			△		●
5			ニホンスッポン	<i>Pelodiscus japonicus</i>	○			●	
6	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>	○	○		●	
7			タワヤモリ	<i>Gekko tawaensis</i>		○		●	
8		カナヘビ	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	○				
9		ナミヘビ	ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>		○		●	
10			シロマダラ	<i>Lycodon orientalis</i>	○			●	
11			ヒバカリ	<i>Hebius vibakari vibakari</i>		○		●	
12			ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>	○				
13		クサリヘビ	ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>	○				
合計	2目	7科	13種	種数	9種	5種	3種	7種	3種

注1) 種名および配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベースHP、令和7年10月)に準拠した。

注2) 文献番号は表2.4.74動物に係る収集文献に対応する。

注3) 文献③の△印は「古い記録、不確実な情報、可能性が高いもの」とされているもの

表5 両生類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					①	②	③		
1	有尾	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ	<i>Hynobius kimurae</i>	○			●	
2			セトウチサンショウウオ	<i>Hynobius setouchi</i>	○			●	
3		オオサンショウウオ イモリ	オオサンショウウオ	<i>Andrias japonicus</i>	○	○		●	
4			アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	○	○		●	
5	無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	<i>Bufo japonicus</i>	○	○		●	
6			ニホンアマガエル	<i>Dryophytes japonicus</i>	○				
7		アカガエル	タゴガエル	<i>Rana tagoi</i>	○	○		●	
8			ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>		○		●	
9			ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i>		○		●	
10			トノサマガエル	<i>Pelophylax nigromaculatus</i>	○				
11			ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>	○		○		●
12			ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>	○	○		●	
13		ヌマガエル	ヌマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i>	○				
14		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	<i>Zhangixalus schlegelii</i>	○	○		●	
15			モリアオガエル	<i>Zhangixalus arboreus</i>		○		●	
16			カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	○	○		●	
合計	2目	8科	16種	種数	13種	10種	1種	12種	1種

注1) 種名および配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベースHP、令和7年10月)に準拠した。

注2) 文献番号は表2.4.74動物に係る収集文献に対応する。

表6 (1) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	⑨	⑩		
1	クモ	トタテグモ	キノボリトタテグモ	<i>Conothele fragaria</i>		○				●	
2			キシノウエトタテグモ	<i>Latouchia typica</i>		○				●	
3		ヒメグモ	ハラダカツクネグモ	<i>Phoroncidia altiventr</i>		○				●	
4		ヨリメグモ	ヨリメグモ	<i>Conculus lyugadinus</i>		○				●	
5		アシナガグモ	キンヨウグモ	<i>Menosira ornata</i>		○				●	
6			コケオニグモ	<i>Araneus seminiger</i>		○				●	
7			マメイタイセキグモ	<i>Ordgarius hobsoni</i>		○				●	
8			ムツトゲイセキグモ	<i>Ordgarius sexspinosus</i>		○				●	
9			ゲホウグモ	<i>Polys illepidus</i>		○				●	
10		サシアシグモ	シノビグモ	<i>Shinobius orientalis</i>		○				●	
11		ヒトエグモ	ヒトエグモ	<i>Plator nipponicus</i>		○				●	
12		ミヤマシボグモ	シボグモモドキ	<i>Zora spinimana</i>		○				●	
13		カニグモ	カトウツケオグモ	<i>Phrynarchne katoi</i>		○				●	
14	カゲロウ	トビイロカゲロウ	オオトゲエラカゲロウ	<i>Thraulius grandis</i>		○				●	
15		マダラカゲロウ	コウノマダラカゲロウ	<i>Drunella kohnoi</i>		○				●	
16			チノマダラカゲロウ	<i>Teloganopsis chinoi</i>		○				●	
17	トンボ	アオイトトンボ	ホソミオツネトンボ	<i>Indolestes peregrinus</i>	○						
18			コバネアオイトトンボ	<i>Lestes japonicus</i>	○	○				●	
19			アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>	○						
20			オオアオイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i>	○						
21			オツネトンボ	<i>Sympecma paedisca</i>	○	○				●	
22		イトトンボ	ホソミイトトンボ	<i>Aciagrion migratum</i>	○						
23			キイトトンボ	<i>Ceragrion melanurum</i>	○						
24			アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>	○						
25			アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>	○						
26			モートンイトトンボ	<i>Mortonagrion selenion</i>	○	○				●	
27			クロイトトンボ	<i>Paracercion calamorum calamorum</i>	○						
28			セスジイトトンボ	<i>Paracercion hieroglyphicum</i>	○	○				●	
29			ムスジイトトンボ	<i>Paracercion melanotum</i>	○	○				●	
30		モノサシトンボ	モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i>	○						
31			グンバイトンボ	<i>Platynemis foliacea sasakii</i>	○	○				●	
32		カワトンボ	ハグロトンボ	<i>Atrocalopteryx atrata</i>	○						
33			ミヤマカワトンボ	<i>Calopteryx cornelia</i>	○						
34			ニホンカワトンボ	<i>Mnais costalis</i>	○						
35			アサヒナカワトンボ	<i>Mnais pruinosa</i>	○						
36		ムカシトンボ	ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>	○	○				●	
37		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	<i>Aeschnophlebia anisoptera</i>	○	○				●	
38			アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>	○	○				●	
39			オオルリボシヤンマ	<i>Aeshna crenata</i>	○						
40			ルリボシヤンマ	<i>Aeshna juncea</i>	○	○		○		●	
41			マルタンヤンマ	<i>Anaciaeschna martini</i>	○	○				●	
42			オオギンヤンマ	<i>Anax guttatus</i>	○						
43			クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>	○						
44			ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>	○						
45			コシボソヤンマ	<i>Boyeria macclachlani</i>	○						
46			カトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i>	○	○				●	
47			ミルンヤンマ	<i>Planaeschna milnei milnei</i>	○						
48			ヤブヤンマ	<i>Polycanthagyna melanictera</i>	○						
49			サラサヤンマ	<i>Sarasaeschna pryri</i>	○	○				●	
50		サナエトンボ	ミヤマサナエ	<i>Anisogomphus maacki</i>	○	○				●	
51			ヤマサナエ	<i>Asiagomphus melaenops</i>	○						
52			キイロサナエ	<i>Asiagomphus pryri</i>	○	○				●	
53			クロサナエ	<i>Davidius fujiana</i>	○						
54			ヒラサナエ	<i>Davidius moiwanus taruii</i>	○					●	
55			ダビドサナエ	<i>Davidius nanus</i>	○						
56			タイワンウチワヤンマ	<i>Ictinogomphus pertinax</i>	○						
57			ヒメクロサナエ	<i>Lanthus fujicus</i>	○						
58			オナガサナエ	<i>Melligomphus viridicostus</i>	○						
59			アオサナエ	<i>Nihonogomphus viridis</i>	○	○				●	
60			ホンサナエ	<i>Shaogomphus postocularis</i>	○	○				●	
61			コオニヤンマ	<i>Sieboldius albardae</i>	○						
62			ウチワヤンマ	<i>Sinictinogomphus clavatus</i>	○						
63			ヒメサナエ	<i>Sinogomphus flavolimbatus</i>	○	○				●	
64			オジロサナエ	<i>Stylogomphus suzukii</i>	○						
65			タベサナエ	<i>Trigomphus citimus tabei</i>	○					●	
66			フタスジサナエ	<i>Trigomphus interruptus</i>	○					●	
67			オグマサナエ	<i>Trigomphus ogumai</i>	○					●	
68		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	<i>Tanypteryx pryri</i>	○	○				●	
69		オニヤンマ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	○						
70		エゾトンボ	トラフトンボ	<i>Epithea marginata</i>	○						
71			オオヤマトンボ	<i>Epopthalmia elegans</i>	○						
72			コヤマトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	○						
73			ハネビロエゾトンボ	<i>Somatochlora clavata</i>	○	○				●	
74			タカネトンボ	<i>Somatochlora uchidai</i>	○	○				●	
75			エゾトンボ	<i>Somatochlora viridiaenea</i>	○	○				●	

表 6 (2) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	⑨	⑩		
76	トンボ	トンボ	ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilla mariannae</i>	○						
77			コフキトンボ	<i>Deiella phaon</i>	○						
78			ベッコウトンボ	<i>Libellula angelina</i>	○	○				●	
79			ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>	○	○				●	
80			ハラビロトンボ	<i>Lyriothemis pachygastra</i>	○						
81			ハッチョウトンボ	<i>Nannophya pygmaea</i>	○	○				●	
82			シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	○						
83			シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum</i>	○						
84			オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum melania melania</i>	○						
85			ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	○						
86			コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>	○						
87			チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>	○						
88			コノシメトンボ	<i>Sympetrum baccha matutinum</i>	○						
89			キトンボ	<i>Sympetrum croceolum</i>	○						
90			ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>	○						
91			マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	○						
92			アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>	○						
93			ナニワトンボ	<i>Sympetrum gracile</i>	○	○				●	
94			ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>	○	○				●	
95			マイコアカネ	<i>Sympetrum kunkeli</i>	○	○				●	
96			マダラナニワトンボ	<i>Sympetrum maculatum</i>	○	○				●	
97			ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>	○						
98			ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>	○	○				●	
99			リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>	○						
100			ネキトンボ	<i>Sympetrum speciosum speciosum</i>	○						
101			タイリクアカネ	<i>Sympetrum striolatum imitoides</i>	○						
102			オオキトンボ	<i>Sympetrum uniforme</i>	○	○				●	
103			ハネビロトンボ	<i>Tramea virginia</i>	○						
104			ベニトンボ	<i>Trithemis aurora</i>				○			
105	カワゲラ	ヒロムネカワゲラ	ミヤマノギカワゲラ	<i>Yoraperla uenoi</i>		○				●	
106	バッタ	クツワムシ	クツワムシ	<i>Mecopoda niponensis</i>		○				●	
107		ケラ	ケラ	<i>Gryllotalpa orientalis</i>				○			
108		カネタタキ	イソカネタタキ	<i>Ornebius bimaculatus</i>		○				●	
109		オンブバッタ	アカハネオンブバッタ	<i>Atractomorpha sinensis</i>				○			
110	ガロアムシ	ガロアムシ	ガロアムシ	<i>Galloisiana nipponensis</i>		○				●	
111	カメムシ	セミ	クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>	○			○			
112			アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>	○			○			
113			ミンミンゼミ	<i>Hyalessa maculaticollis</i>	○			○			
114			チツゼミ	<i>Kosemia radiator</i>	○			○			
115			ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>	○			○			
116			ニイニゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>	○			○			
117			ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>	○			○			
118			ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	○	○		○		●	
119			エゾハルゼミ	<i>Yezoterpnosia nigricosta</i>				○		●	
120		アメンボ	オオアメンボ	<i>Aquarius elongatus</i>	○						
121			アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	○						
122			エサキアメンボ	<i>Limnporus esakii</i>	○					●	
123			コセアカアメンボ	<i>Gerris gracilicornis</i>	○						
124			ヤスマツアメンボ	<i>Gerris insularis</i>	○						
125			ヒメアメンボ	<i>Gerris latiaabdominis</i>	○						
126			ハネナシアメンボ	<i>Gerris nepalensis</i>	○						
127		ミズカメムシ	ウミミズカメムシ	<i>Speovelia maritima</i>		○		○			
128		ミズムシ (昆)	ホッケミズムシ	<i>Hesperocorixa distantis hokkensis</i>		○				●	
129			ナガミズムシ	<i>Hesperocorixa mandshurica</i>		○				●	
130		コオイムシ	コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>	○					●	
131			オオコオイムシ	<i>Appasus major</i>	○						
132			タガメ	<i>Kirkaldyia deyrollei</i>	○	○				●	
133		タイコウチ	タイコウチ	<i>Laccotrephes japonensis</i>	○						
134			ヒメタイコウチ	<i>Nepa hoffmanni</i>	○	○				●	
135			ミズカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>	○					●	
136			ヒメミズカマキリ	<i>Ranatra unicolor</i>	○						
137		ナベバタムシ	トゲナベバタムシ	<i>Aphelocheirus nawae</i>		○		○		●	
138		コバンムシ	コバンムシ	<i>Ilyocoris cimicoides</i>	○	○				●	
139		マツモムシ	マツモムシ	<i>Notonecta triguttata</i>	○						
140	アミメカゲロウ	ケカゲロウ	ケカゲロウ	<i>Isoscelipteron okamotonis</i>				○			
141		カマキリモドキ	カマキリモドキ	<i>Eumantispa harmandi</i>	○						
142		ツノトンボ	キバネツノトンボ	<i>Libelloides ramburi</i>		○				●	
143	トビケラ	カタツムリトビケラ	カタツムリトビケラ	<i>Helicopsyche yamadai</i>		○				●	
144	チョウ	ハマキガ	ナカジロハマキ	<i>Acleris japonica</i>				○			
145			シロテンシロアシヒメハマキ	<i>Phaenocasiophora obratzsovi</i>				○			
146		イラガ	ヒロヘリアオイラガ	<i>Parasa lepida lepida</i>			○				●
147		マダラガ	オキナワルリチラシ本土亜種	<i>Eterusia aedea sugitanii</i>				○			
148		セセリチョウ	ホシチャバネセセリ	<i>Aeromachus inachus inachus</i>		○			○	●	
149			アオバセセリ本土亜種	<i>Choaspes benjaminii japonicus</i>					○		
150			ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys tethys</i>	○					●	

表 6 (3) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	⑨	⑩		
151	チョウ	セセリチョウ	ミヤマセセリ	<i>Erynnis montana montana</i>	○			○			
152			ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>	○					●	
153			ギンイデモンジセセリ	<i>Leptalina unicolor</i>	○					●	
154			ヒメキマダラセセリ	<i>Ochlodes rikuchina</i>	○					●	
155			コキマダラセセリ	<i>Ochlodes venatus venatus</i>	○				○	●	
156			イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>	○				○		
157			ミヤマチャバネセセリ	<i>Pelopidas jansonis</i>	○	○			○	●	
158			チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias oberthueri</i>	○						
159			オオチャバネセセリ	<i>Polytremis pellucida pellucida</i>	○						
160			キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus flavus</i>	○						
161			コチャバネセセリ	<i>Praethoressa varia</i>	○						
162			スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種	<i>Thymelicus leoninus leoninus</i>	○	○			○	●	
163			ヘリグロチャバネセセリ	<i>Thymelicus sylvaticus sylvaticus</i>		○			○	●	
164	シジミチョウ	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	<i>Antiglus attila attila</i>	○						
165			ウラコマダラシジミ	<i>Artopoetes pryeri pryeri</i>		○				●	
166			ムラサキシジミ	<i>Arhopala japonica</i>	○			○			
167			コツバメ	<i>Callophrys ferrea ferrea</i>	○			○			
168			ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>	○			○			
169			スギタニルリシジミ本州亜種	<i>Celastrina sugitanii sugitanii</i>		○			○	●	
170			クロマダラソテツシジミ	<i>Chilades pandava</i>				○			
171			メスアカミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus smaragdinus smaragdinus</i>	○						
172			ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>	○						
173			ツバメシジミ	<i>Everes argiades argiades</i>	○						
174			ヒロオビミドリシジミ	<i>Favonius cognatus</i>		○				●	
175			ウラジロミドリシジミ	<i>Favonius saphirinus</i>		○				●	
176			アカシジミ	<i>Japonica lutea lutea</i>	○						
177			ウラナミアカシジミ	<i>Japonica saepestriata saepestriata</i>	○	○				●	
178			ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>	○						
179			ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas chinensis</i>	○			○			
180			ミドリシジミ	<i>Neozephyrus japonicus japonicus</i>	○	○				●	
181			クロシジミ	<i>Niphanda fusca</i>		○			○	●	
182			トラフシジミ	<i>Rapala arata</i>	○			○			
183			キマダラルリツバメ	<i>Spindasis takanonis</i>	○	○			○	●	
184			ゴイシシジミ	<i>Taraka hamada hamada</i>	○	○				●	
185			クロツバメシジミ中国地方・四国・九州内陸亜種	<i>Tongeia fischeri shojii</i>	○	○				●	
186			ウラキンシジミ	<i>Ussuriana stygiana</i>	○	○				●	
187			ヤマトシジミ本土亜種	<i>Zizeeria maha argia</i>	○						
188			シルビアシジミ	<i>Zizina emelina emelina</i>	○	○				●	
189	タテハチョウ	タテハチョウ	コムラサキ	<i>Apatura metis substituta</i>	○						
190			サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana burejana</i>		○				●	
191			ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia tsushima</i>	○						
192			ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>	○						
193			ウラギンシジミヒョウモン	<i>Argyronome laodice japonica</i>	○	○				●	
194			ヒメヒカゲ本州西部亜種	<i>Coenonympha oedippus arothius</i>	○	○				●	
195			イシガケチョウ	<i>Cyrestis thyodamas mabella</i>	○				○		
196			メスグロヒョウモン	<i>Damora sagana liane</i>	○	○				●	
197			スミナガシ本土亜種	<i>Dichorragia nesimachus nesiotis</i>	○				○		
198			ウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana adippe pallescens</i>	○						
199			オオウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana nerippe</i>		○				●	
200			ゴマダラチョウ本土亜種	<i>Hestina persimilis japonica</i>	○						
201			メスアカムラサキ	<i>Hypolimnas misippus</i>				○			
202			ルリタテハ本土亜種	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>	○			○			
203			キマダラモドキ	<i>Kirinia fentoni</i>	○	○				●	
204			クロヒカゲ本土亜種	<i>Lethe diana diana</i>	○						
205			ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>	○						
206			テングチョウ日本本土亜種	<i>Libythea lepita celtoides</i>	○			○			
207			イチモンジチョウ	<i>Limenitis camilla japonica</i>	○						
208			アサマイチョウ	<i>Limenitis glorifica</i>	○						
209			ウスイロコノマチョウ	<i>Melanitis leda leda</i>					○		
210			クロコノマチョウ	<i>Melanitis phedima oitensis</i>	○			○			
211			ウスイロヒョウモンモドキ	<i>Melitaea protomedia</i>	○					●	
212			ヒョウモンモドキ	<i>Melitaea scotosia</i>	○					●	
213			ジャノメチョウ	<i>Minois dryas bipunctata</i>	○						
214			ヒメジャノメ	<i>Mycalasis gotama fulginia</i>	○						
215			サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>	○						
216			クモガタヒョウモン	<i>Nephargynnis anadyomene ella</i>		○				●	
217			ミスジチョウ	<i>Neptis philyra philyra</i>	○						
218			ホシミスジ近畿地方以西亜種	<i>Neptis pryeri hamadai</i>	○						
219			コミスジ本州以南亜種	<i>Neptis sappho intermedia</i>	○						
220			ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>	○						
221			アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>	○						
222			シータテハ	<i>Polygonia c-album hamigera</i>					○		
223			キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>	○			○			
224			オオムラサキ	<i>Sasakia charonda charonda</i>	○	○				●	
225			ヒメアカタテハ	<i>Vanessa cardui</i>	○			○			

表 6 (4) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	⑨	⑩		
226	チョウ	タテハチョウ	アカタテハ	<i>Vanessa indica indica</i>	○			○			
227			ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus argus</i>	○						
228			ウラナミジャノメ本土亜種	<i>Ypthima multistriata nipponica</i>	○	○				●	
229			ヒメキマダラヒカゲ	<i>Zophoessa callipteris</i>		○				●	
230	アゲハチョウ	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ本土亜種	<i>Atrophaneura alcinous alcinous</i>	○				○		
231			アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nipponum</i>	○						
232			ギフチョウ	<i>Luehdorfia japonica</i>	○	○			○	●	
233			カラスアゲハ本土亜種	<i>Papilio dehaanii dehaanii</i>	○				○		
234			モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicolens</i>	○				○		
235			ミヤマカラスアゲハ	<i>Papilio maackii</i>	○				○		
236		アゲハチョウ	キアゲハ	<i>Papilio machaon hippocrates</i>	○			○	○		
237			オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus macilentus</i>	○	○				●	
238			ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon thunbergii</i>	○						
239			クロアゲハ本土亜種	<i>Papilio protenor demetrius</i>	○				○		
240			アゲハ	<i>Papilio xuthus</i>	○			○			
241			ウスバシロチョウ	<i>Parnassius citrinarius citrinarius</i>	○	○			○	●	
242	シロチョウ	シロチョウ	ツマキチョウ本土亜種	<i>Anthocharis scolymus scolymus</i>				○			
243			モンキチョウ	<i>Colias erate polio-grapha</i>	○			○			
244			ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta betheseba</i>		○				●	
245			キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>	○			○	○		
246			スジボソヤマキチョウ	<i>Gonepteryx aspasia nipponica</i>		○			○	●	
247			スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>	○				○		
248			ヤマトスジグロシロチョウ本州中・南部亜種	<i>Pieris nesis japonica</i>		○			○	●	
249			モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>	○			○	○		
250	シャクガ	シャクガ	オカモトトゲエダシャク	<i>Apochima juglansaria</i>				○			
251			キイロトゲエダシャク	<i>Apochima praeacutaria</i>				○			
252			ハスオビエダシャク	<i>Descoreba simplex</i>				○			
253			キンオビナミシャク	<i>Electrophaes corylata granitalis</i>				○			
254			キリバエダシャク	<i>Ennomos nephotropa</i>				○			
255			ナシモンエダシャク	<i>Garaeus mirandus mirandus</i>				○			
256			ギフウスキナミシャク	<i>Idiotephria debilitata</i>				○			
257			イカリモンガ	<i>Pterodecta felderi</i>				○			
258	イボタガ	イボタガ	イボタガ	<i>Brahmaea japonica</i>				○			
259			オオミズアオ本土亜種	<i>Actias aliena aliena</i>	○						
260	ヤマユガ	ヤマユガ	オナガミズアオ本土亜種	<i>Actias gnomia gnomia</i>	○					●	
261			ヒメヤマユ	<i>Rinaca jonasii</i>	○						
262	スズメガ	スズメガ	ウンモンズメ	<i>Callambulyx tatarinovii gabyae</i>	○						
263			トビイロスズメ	<i>Clanis bilineata tsingtauca</i>	○						
264			オオシモフリスズメ	<i>Langia zenzeroides nawai</i>				○			
265			フリッツェホウジャク	<i>Macroglossum fritzei</i>	○			○			
266			ホシホウジャク	<i>Macroglossum pyrrhosticta</i>	○						
267			モモスズメ	<i>Marumba gaschkewitschii echephron</i>	○						
268			クチバスズメ	<i>Marumba sperchius sperchius</i>	○						
269			エゾスズメ	<i>Phyllosphingia dissimilis dissimilis</i>	○						
270			コスズメ	<i>Theretra japonica</i>	○						
271	ヒトリガ	ヒトリガ	キハラゴマダラヒトリ	<i>Spilosoma lubricipedum</i>				○			
272			モンクロベニコケガ	<i>Stigmatophora rhodophila</i>				○			
273	ヒトリモドキガ ヤガ	ヒトリモドキガ ヤガ	イチジクヒトリモドキ	<i>Asota ficus</i>				○			
274			コシロシタバ	<i>Catocala actaea</i>				○		●	
275			オニベニシタバ	<i>Catocala dula</i>				○			
276			マメキシタバ	<i>Catocala duplicata</i>				○			
277			アミメキシタバ	<i>Catocala hyperconnexa</i>				○			
278			ウスイロキシタバ	<i>Catocala intacta intacta</i>				○			
279			ジョナスキシタバ	<i>Catocala jonasii</i>	○			○			
280			クロシオキシタバ	<i>Catocala kuangtungensis sugii</i>		○				●	
281			カバフキシタバ	<i>Catocala mirifica</i>		○		○		●	
282			キシタバ	<i>Catocala patala</i>				○			
283			コガタキシタバ	<i>Catocala praegnax oblitterata</i>				○			
284			アサマキシタバ	<i>Catocala streckeri</i>				○			
285			ヨスジキリガ	<i>Eupsilia strigifera</i>				○			
286			ミドリシロモンコヤガ	<i>Koyaga virescens</i>				○			
287			マイコトラガ	<i>Maikona jezoensis jezoensis</i>				○			
288			クロモンシタバ	<i>Ophiusa tirhaca</i>				○			
289			アヤモクメキリガ	<i>Xylena fumosa</i>				○			
290			コブガ	<i>Eligma narcissus narcissus</i>				○			
291	ハエ	ハナアブ	コマバムツホシヒラタアブ	<i>Scaeva komabensis</i>				○			
292			ネツタイヒメクロミバエ	<i>Spathulina acroleuca</i>				○			
293	コウチュウ	オサムシ	キイロチビゴモクムシ	<i>Acupalpus inornatus</i>				○			
294			ニッポンヨツボシゴミムシ	<i>Adischissus japonicus</i>				○			
295			オオヨツボシゴミムシ	<i>Dischissus mirandus</i>				○			
296			トゲアトキリゴミムシ	<i>Aephnidius adelioides</i>				○			
297			オグラヒラタゴミムシ	<i>Agonum ogurae</i>				○			
298			マルガタゴミムシ	<i>Amara chalcites</i>				○			
299			ナガマルガタゴミムシ	<i>Amara macronota ovalipennis</i>				○			
300			ヨツモンエグリゴモクムシ	<i>Amblystomus quadriguttatus</i>				○			

表 6 (5) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	⑨	⑩		
301	コウチュウ	オサムシ	ホシボシゴミムシ	<i>Anisodactylus punctatipennis</i>				○			
302			オオホシボシゴミムシ	<i>Anisodactylus sadoensis</i>				○			
303			キベリゴモクムシ	<i>Anoplogenus cyanescens</i>				○			
304			ヒョウゴミズギワゴミムシ	<i>Bembidion hiogoense</i>				○			
305			ムネミゾマルゴミムシ	<i>Caelostomus picipes japonicus</i>				○			
306			クロカタビロオサムシ	<i>Calosoma maximowiczii</i>				○			
307			アキオサムシ	<i>Carabus chugokuensis chugokuensis</i>	○						
308			セアカオサムシ	<i>Carabus tuberculatus</i>		○				●	
309			ヤコンオサムシ	<i>Carabus yaconinus yaconinus</i>				○			
310			コアトワアオゴミムシ	<i>Chlaenius hamifer</i>				○			
311			ムナビロアトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius tetragonoderus</i>				○			
312			クロヒメヒョウタンゴミムシ	<i>Clivina lewisi</i>				○		●	
313			ミズギワアトキリゴミムシ	<i>Demetrias marginicollis</i>				○			
314			セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i>				○			
315			ホソアトキリゴミムシ	<i>Dromius prolixus</i>				○			
316			キイロマルコムズギワゴミムシ	<i>Elaphropus latissimus</i>				○			
317			オオキベリアオゴミムシ	<i>Epomis nigricans</i>				○			
318			スジアオゴミムシ	<i>Haplochlaenius costiger</i>				○			
319			フタホシアトキリゴミムシ	<i>Lebia bifenestrata</i>				○			
320			ホシハネビロアトキリゴミムシ	<i>Lebia calycophora</i>				○			
321			アトグロジュウジアトキリゴミムシ	<i>Lebia idae</i>				○			
322			コリリアトキリゴミムシ	<i>Lebia viridis</i>				○			
323			キベリマルクビゴミムシ	<i>Nebria livida angulata</i>		○				●	
324			メダカアトキリゴミムシ	<i>Orionella lewisii</i>				○			
325			ミツアナアトキリゴミムシ	<i>Parena tripunctata</i>				○			
326			クロスホナシゴミムシ	<i>Perigona nigriceps</i>				○			
327			ウミホソチビゴミムシ	<i>Perileptus morimotoi</i>		○				●	
328			フタホシシバネゴミムシ	<i>Planetes puncticeps</i>				○			
329			カラカネゴモクムシ	<i>Platymetopus flavilabris</i>				○			
330			ムナビロヒメナガゴミムシ	<i>Pterostichus straneoi</i>				○			
331			ヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites aterrimus</i>				○			
332			ナガヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites terricola pacificus</i>				○			
333			クロチビカワゴミムシ	<i>Tachyta nana</i>				○			
334			ルイスオオゴミムシ	<i>Trigonotoma lewisii</i>				○			
335		ハンミョウ	ヨドシロヘリハンミョウ	<i>Callytron inspecularis</i>	○					●	
336			アイヌハンミョウ	<i>Cicindela gemmata aino</i>	○	○				●	
337			ニウハンミョウ	<i>Cicindela japana</i>	○						
338			エリザハンミョウ	<i>Cylindera elisae elisae</i>	○						
339			コハンミョウ	<i>Myriochile specularis</i>	○						
340			ナミハンミョウ	<i>Sophiodela japonica</i>	○			○			
341		ゲンゴロウ	マメゲンゴロウ	<i>Agabus japonicus</i>	○			○			
342			チャイロチビゲンゴロウ	<i>Allodessus megacephalus</i>				○			
343			カンムリセシゲンゴロウ	<i>Copelatus kammuriensis</i>	○			○			
344			コシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus grammicus</i>	○						
345			ウスイロシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus rhantoides</i>				○			
346			チビゲンゴロウ	<i>Hydroglyphus japonicus</i>	○			○			
347			コマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus acuminatus</i>	○					●	
348			マルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus subtilis</i>	○					●	
349			ケシゲンゴロウ	<i>Hyphydrus japonicus</i>	○	○		○		●	
350			コウベツゲンゴロウ	<i>Laccophilus kobensis</i>	○					●	
351			シャープツゲンゴロウ	<i>Laccophilus sharpi</i>	○					●	
352			マルチビゲンゴロウ	<i>Leiodytes frontalis</i>				○		●	
353			ナガマルチビゲンゴロウ	<i>Leiodytes kyushuensis</i>				○			
354			メクラゲンゴロウ	<i>Morimotoa phreatica phreatica</i>	○	○		○		●	
355			ホソクロマメゲンゴロウ	<i>Platambus optatus</i>	○			○			
356			モンキマメゲンゴロウ	<i>Platambus pictipennis</i>	○						
357			サワダマメゲンゴロウ	<i>Platambus sawadai</i>	○						
358			ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus suturalis</i>	○			○			
359		ミズスマシ	オオミズスマシ	<i>Dineutus orientalis</i>	○					●	
360			ヒメミズスマシ	<i>Gyrinus gestroi</i>	○					●	
361			ミズスマシ	<i>Gyrinus japonicus</i>	○	○				●	
362		コガシラミズムシ	クビボソコガシラミズムシ	<i>Haliplus japonicus</i>		○		○		●	
363		コツゲンゴロウ	コツゲンゴロウ	<i>Noterus japonicus</i>	○						
364		ムカシゲンゴロウ	ムカシゲンゴロウ	<i>Phreatodytes relictus</i>	○	○		○		●	
365		ダルマガムシ	ミヤタケダルマガムシ	<i>Hydraena miyatakei</i>				○			
366			ダルマガムシ属	<i>Hydraena</i> sp.				○			
367			ホンシュウセシダルマガムシ	<i>Ochthebius japonicus</i>				○			
368		ホソガムシ	チュウブホソガムシ	<i>Hydrochus chubu</i>				○		●	
369		ガムシ	タマガムシ	<i>Amphiops mater mater</i>				○			
370			オオトゲバゴマフガムシ	<i>Berosus incretus</i>				○			
371			ウスモンケシガムシ	<i>Cercyon laminatus</i>				○			
372			キバネケシガムシ	<i>Cercyon quisquilius</i>				○			
373			ヒメセマルガムシ	<i>Coelostoma orbiculare</i>				○			
374			コガタセマルガムシ	<i>Coelostoma vitalisi</i>				○			
375			セマルケシガムシ	<i>Cryptopleurum subtile</i>				○			

表 6 (6) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	⑨	⑩		
375	コウチュウ	ガムシ	チビヒラタガムシ	<i>Enochrus esuriens</i>				○			
376			キベリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i>				○			
—			ヒラタガムシ属	<i>Enochrus</i> sp.				○			
377			スジヒラタガムシ	<i>Helochaeres nipponicus</i>				○		●	
378			ヒメシジミガムシ	<i>Laccobius fragilis</i>				○			
379			ホソケシガムシ	<i>Paroosternum sorex</i>				○			
380			コウセンマルケシガムシ	<i>Peratogonus reversus</i>				○			
381		エンマムシ	コツヤエンマムシ	<i>Atholus duodecimstriatus quatuordecimstriatus</i>				○			
382			ヨコミゾアカツブエンマムシ	<i>Mullerister nipponicus</i>				○			
383			ヒメチビヒラタエンマムシ	<i>Platylomalus mendicus</i>				○			
384			ツヤチビヒラタエンマムシ	<i>Platylomalus viaticus</i>				○			
385		タマキノコムシ	メボソマルタマキノコムシ	<i>Agathidium fornicatum</i>				○			
—			Agathidium属	<i>Agathidium</i> sp.				○			
386			ウスイロヒメタマキノコムシ	<i>Pseudocolenis hilleri</i>				○			
387			チビタマキノコムシ	<i>Zeadolopus japonicus</i>				○			
388		ムナビロムクゲキノコムシ	ムナビロムクゲキノコムシ	<i>Acrotrichis lewisii</i>				○			
389			コゲチャムクゲキノコムシ	<i>Acrotrichis pumila</i>				○			
—			Acrotrichis属	<i>Acrotrichis</i> sp.				○			
390			ニホンムクゲキノコムシ	<i>Baeocrara japonica</i>				○			
391		シデムシ	ベッコウヒラタシデムシ	<i>Eusilpha brunneicollis</i>				○			
392			オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i>				○			
393			モモブトシデムシ	<i>Necrodes nigricornis</i>				○			
394			ニセセシジヒゲブトハネカクシ	<i>Aleochara zerchei</i>				○			
395		ハネカクシ	コバネアシベセシジハネカクシ	<i>Anotylus amicus</i>				○			
396			シワバネセシジハネカクシ	<i>Anotylus mimulus</i>				○			
—			Anotylus属	<i>Anotylus</i> sp.				○			
397			カントウシリグロハネカクシ	<i>Astenus japonicus</i>				○			
398			キアシシリグロハネカクシ	<i>Astenus latifrons</i>				○			
399			フタホシシリグロハネカクシ	<i>Astenus maculipennis</i>				○			
400			オオシリグロハネカクシ	<i>Astenus suffusus</i>				○			
—			Astenus属	<i>Astenus</i> sp.				○			
401			ムネボソヨツメハネカクシ	<i>Boreaphilus japonicus</i>				○			
402			Bryothinusa属	<i>Bryothinusa</i> sp.				○			
403			ニセヒメユミセミゾハネカクシ	<i>Carpelimus vagus</i>				○			
—			Carpelimus属	<i>Carpelimus</i> sp.				○			
404			アカセマルチビマルクビハネカクシ	<i>Coproporus evanescens</i>				○			
405			コヤマトヒゲブトアリヅカムシ	<i>Diartiger fossulatus fossulatus</i>				○			
406			マルズハネカクシ	<i>Domene crassicornis</i>				○			
407			Edaphus属	<i>Edaphus</i> sp.				○			
408			カワラヒメコケムシ	<i>Euconnus dulcis</i>				○			
409			シリブトヨツメハネカクシ	<i>Eudectus rufulus</i>				○			
410			Gyrophaena属	<i>Gyrophaena</i> sp.				○			
411			ハダニカブリケシハネカクシ	<i>Holobus yasumatsui</i>				○			
412			ミズギワヒメハネカクシ	<i>Hydrosmeeta longula</i>				○			
413			ヒメトガリハネカクシ	<i>Hypomedon debilicornis</i>				○			
414			Lobrathium属	<i>Lobrathium</i> sp.				○			
415			セマルハバヒロハネカクシ	<i>Megarthus convexus</i>				○			
416			セシジチビハネカクシ	<i>Micropeplus fulvus japonicus</i>				○			
417			キバネセミゾハネカクシ	<i>Myrmecocephalus sapidus</i>				○			
418			ナガモリツツハネカクシ	<i>Nacaeus longulus</i>				○			
419			ヒゲナガカレハハネカクシ	<i>Neosilusa ceylonica</i>				○			
420			クロカワベナガエハネカクシ	<i>Ochtheophilum densipenne</i>				○			
421			セミゾヨツメハネカクシ	<i>Omalium japonicum</i>				○			
422			サビハネカクシ	<i>Ontholestes gracilis</i>				○			
423			アシベアリヅカムシ	<i>Prosthecarthron sauteri</i>				○			
424			Proteinus属	<i>Proteinus</i> sp.				○			
425			クビボソハネカクシ	<i>Rugilus rufescens</i>				○			
426			ダイコクアリヅカムシ	<i>Rybaxis princeps</i>				○			
427			Scaphisoma属	<i>Scaphisoma</i> sp.				○			
428			アバタヒメハネカクシ	<i>Schistogenia crenicollis</i>				○			
429			ヒメクビボソハネカクシ	<i>Scopaeus currax</i>				○			
430			クロヒゲヒメキノコハネカクシ	<i>Sepedophilus longipennis</i>				○			
431			ハスモンヒメキノコハネカクシ	<i>Sepedophilus pumilus</i>				○			
432			クロヒメキノコハネカクシ	<i>Sepedophilus varicornis</i>				○			
—			Sepedophilus属	<i>Sepedophilus</i> sp.				○			
433			ルイスナガメダカハネカクシ	<i>Stenus lewisius</i>				○			
434			キアシソメダカハネカクシ	<i>Stenus rugipennis</i>				○			
435			タチゲクビボソハネカクシ	<i>Sunesta setigera</i>				○			
436			キアシコガシラナガハネカクシ	<i>Tetratopeus pallipes</i>				○			
437			モンクロアリノスハネカクシ	<i>Zyras haworthi</i>				○			
438			ヒゲブトハネカクシ亜	<i>Aleocharinae</i> sp.				○			
439			Staphylinini族	<i>Staphylinini</i> sp.				○			
440			Xantholinini族	<i>Xantholinini</i> sp.				○			
441		タマキノコムシモドキ	マルタマキノコムシモドキ	<i>Clambus formosanus japonicus</i>				○			
442		クワガタムシ	マメクワガタ	<i>Figulus punctatus</i>		○				●	

表6 (7) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	⑨	⑩		
443	コウチュウ	クワガタムシ	ノコギリクワガタ	<i>Prosopocoilus inclinatus inclinatus</i>				○			
444		コガネムシ	サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i>				○			
445			ヤマトアオドウガネ	<i>Anomala japonica</i>		○				●	
446			チャグロマグソコガネ	<i>Aphodius isaburoi</i>				○			
447			キマダラマグソコガネ	<i>Aphodius punctatus</i>				○			
448			マグソコガネ	<i>Aphodius rectus</i>				○			
449			コカブトムシ	<i>Eophileurus chinensis chinensis</i>				○			
450			マルオクロコガネ	<i>Holotrichia convexopyga</i>				○			
451			コクロコガネ	<i>Holotrichia picea</i>				○			
452			オオコフキコガネ	<i>Melolontha frater</i>				○			
453			コケシマグソコガネ	<i>Myrnessus samurai</i>				○			
454			カドマルエンマコガネ	<i>Onthophagus lenzii</i>				○			
455			シロスジコガネ	<i>Polyphylla albolineata</i>		○		○		●	
456			キョウトアオハナムグリ	<i>Protaetia lenzi</i>				○			
457			クロカナブン	<i>Rhomborhina polita</i>				○			
458		コブスジコガネ	ヒメコブスジコガネ	<i>Trox opacotuberculatus</i>				○			
459		マルトゲムシ	Horiella属	<i>Horiella</i> spp.				○			
460		ドロムシ	ムナビロツヤドロムシ	<i>Elmormorphus brevicornis</i>				○			
461		ヒメドロムシ	キベリナガアシドロムシ	<i>Grouvellinus marginatus</i>				○			
462			ヨコミゾドロムシ	<i>Leptelmis gracilis</i>		○				●	
463			トウカイヒメツヤドロムシ	<i>Zaitzeviaria takafumii</i>				○			
464		タマムシ	ヒシモンナガタマムシ	<i>Agrilus discalis</i>				○			
465			アオグロナガタマムシ	<i>Agrilus viridiobscurus</i>				○			
466			オオムツボシタマムシ	<i>Chrysobothris ohbayashii</i>				○			
467			アオタマムシ	<i>Eurythya tenuistriata</i>		○		○		●	
468			ハイヒロヒラタチビタマムシ	<i>Habroloma griseonigrum</i>				○			
469			ヒラタチビタマムシ	<i>Habroloma subbicorne</i>				○			
470			ウメチビタマムシ	<i>Trachys inconspicuus</i>				○			
471			ヤノナミガタチビタマムシ	<i>Trachys yanoi</i>				○			
472		コメツキムシ	シモフリコメツキ	<i>Actenicerus pruinatus</i>				○			
473			ヒメホソキコメツキ	<i>Agaripenthes helvolus</i>				○			
474			ツシマヒメサビキコリ	<i>Agrypnus tsushimensis tsushimensis</i>		○				●	
475			アカハラクロコメツキ	<i>Ampedus hypogastricus hypogastricus</i>				○			
476			ドウガネヒラタコメツキ	<i>Corymbitodes gratus</i>				○			
477			クロツヤハダコメツキ	<i>Hemicrepidius secessus secessus</i>				○			
478			Homotechnes属	<i>Homotechnes</i> sp.				○			
479			コガタノサビコメツキ	<i>Lacon parallelus parallelus</i>				○			
480			ニセクチプトコメツキ	<i>Lanecarus palustris</i>				○			
481			クロクシコメツキ	<i>Melanotus senilis senilis</i>				○			
482			スナサビキコリ	<i>Meristhus niponensis</i>				○		●	
483			ニホンチビマメコメツキ	<i>Quasimus japonicus</i>				○			
484			オオクシヒゲコメツキ	<i>Tetrigus lewisi</i>				○			
485			カタモンチビコメツキ	<i>Zoroachros humeralis humeralis</i>				○			
486			オオチャイロコメツキダマシ	<i>Fornax victor</i>				○			
487			ミカドヒゲトコメツキ	<i>Trixagus micado micado</i>				○			
488		ジョウカイボン	フタイロチビジョウカイ	<i>Malthinellus bicolor</i>				○			
489			マルムネジョウカイ	<i>Prothemus ciusianus</i>				○			
490			キベリコバネジョウカイ	<i>Trypherus niponicus</i>				○			
491		ホタル	ヒメボタル	<i>Luciola parvula</i>	○	○				●	
492			ゲンジボタル	<i>Nipponoluciola cruciata</i>	○						
493			クロマドボタル	<i>Pyrocoelia fumosa</i>				○			
494		ベニボタル	オオクシヒゲベニボタル	<i>Macrolycus excellens</i>				○			
495		カツオブシムシ	ヒメカツオブシムシ	<i>Attagenus unicolor japonicus</i>				○			
496			ベニモンチビカツオブシムシ	<i>Orphnus japonicus</i>				○			
497			ヨツモンチビカツオブシムシ	<i>Orphnus quadrimaculatus</i>				○			
498			チビカツオブシムシ	<i>Trinodes rufescens</i>				○			
499		シバンムシ	クリイロタマキノコシバンムシ	<i>Byrrhodes nipponicus</i>				○			
500			タイワンタマキノコシバンムシ	<i>Byrrhodes tomokunii</i>				○			
501			ヒメホコリタケシバンムシ	<i>Caenocara rufitarse</i>				○			
502			フルホンシバンムシ	<i>Gastrallus immarginatus</i>				○			
503			マゴジャクシミソキノコシバンムシ	<i>Mizodorcatoma magolyakushi</i>				○			
504			ニセスジキノコシバンムシ	<i>Stagetodes tetsuyai</i>				○			
505			ジンサンシバンムシ	<i>Stegobium paniceum</i>				○			
506		ナガシクイムシ	オオナガシクイ	<i>Heterobostrychus hamatipennis</i>				○			
507		カッコームシ	ツマグロツツカッコームシ	<i>Tenerus hilleri</i>				○			
508		ジョウカイモドキ	コケシジョウカイモドキ	<i>Celsus spectabilis</i>				○			
509			ヒメジョウカイモドキ	<i>Nepachys japonicus</i>				○			
510		ムクゲキスイムシ	アカグロムクゲキスイ	<i>Biphyllus lewisi</i>				○			
511			ハスモンムクゲキスイ	<i>Biphyllus rufopictus</i>				○			
512		ツツキノコムシ	キタツツキノコムシ	<i>Cis seriatopilous</i>				○			
513			ミツアナツツキノコムシ	<i>Cis seriatulus</i>				○			
514			フタツノツツツツキノコムシ	<i>Euxestocis bicornutus</i>				○			
515		テントウムシ	カメノコテントウ	<i>Aiolocaria hexaspilota</i>				○			
516			ハラグロオオテントウ	<i>Callicaria superba</i>	○						
517			シロジョウゴホシテントウ	<i>Calvia quindecimguttata</i>				○			

表 6 (8) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	⑨	⑩		
518	コウチュウ	テントウムシ	シコクフタホシヒメテントウ	<i>Nephus shikokensis</i>				○			
519			ヨツモンヒメテントウ	<i>Nephus yotsumon</i>				○			
520			モンクデビルテントウ	<i>Platynaspidium maculosus</i>				○			
521			クモガタテントウ	<i>Psyllobora vigintimaculata</i>				○			
522			ハレヤヒメテントウ	<i>Sasajiscymnus hareja</i>				○			
523			ツマアカヒメテントウ	<i>Scymnus dorcatomoides</i>				○			
524			オニヒメテントウ	<i>Scymnus giganteus</i>				○			
525			カグヤヒメテントウ	<i>Scymnus kaguyahime</i>				○			
526			ニセツマアカヒメテントウ	<i>Scymnus rectoides</i>				○			
527			クロツヤテントウ	<i>Serangium japonicum japonicum</i>				○			
528			ハダニクロヒメテントウ	<i>Stethorus pusillus</i>				○			
529			クロテントウ	<i>Telsimia nigra</i>				○			
530		ミジンムシ	マルガタミジンムシ	<i>Orthoperus japonicus</i>				○			
531		クスイムシ	キイロセマルクスイ	<i>Atomaria lewisi</i>				○			
532			ウスバクスイ	<i>Cryptophagus cellaris</i>				○			
533			ノコバクスイ	<i>Cryptophagus micramboides</i>				○			
534			ガマクスイ	<i>Telmatophilus orientalis</i>				○			
535		ヒラタムシ	サビカクムネチビヒラタムシ	<i>Cryptolestes ferrugineus</i>				○			
536			グルーベルホソチビヒラタムシ	<i>Leptophloeus convexisculus</i>				○			
537		テントウムシダマシ	エグリツヤヒメマキムシ	<i>Holoparamesus contractus</i>				○			
538			イカリモンテントウダマシ	<i>Mycetina ancoriger</i>				○			
539		オオキノコムシ	ニホンホソオオキノコムシ	<i>Dacne japonica</i>				○			
540			セモンホソオオキノコムシ	<i>Dacne picta</i>				○			
541			フタホシチビオオキノコムシ	<i>Triplax devia</i>				○			
542			シベリアチビオオキノコムシ	<i>Triplax sibirica connectens</i>				○			
543			クロチビオオキノコムシ	<i>Tritoma niponensis</i>				○			
544		コメツキモドキ	キムネヒメコメツキモドキ	<i>Anadastus atriceps</i>				○			
545			ヒラタコメツキモドキ	<i>Cathartocrypus hiranoi</i>				○			
546			アカスジナガムクゲクスイ	<i>Cryptophilus hiranoi</i>				○			
547			ケシコメツキモドキ	<i>Microlanguria jansoni</i>				○			
548			ケナガマルクスイ	<i>Toramus glisonothoides</i>				○			
549		ヒメマキムシ	ニセクロオビケシマキムシ	<i>Corticaria geisha</i>				○			
550			ヤマトケシマキムシ	<i>Melanophthalma japonica</i>				○			
551			サカグチケシマキムシ	<i>Melanophthalma sakagutii</i>				○			
552			トフシケシマキムシ	<i>Migneauxia laderi</i>				○			
553			<i>Stephostethus pandellei</i>	<i>Stephostethus pandellei</i>				○			
554		ネスイムシ	アナバケデオネスイ	<i>Mimemodes cribratus</i>				○			
555			オバケデオネスイ	<i>Mimemodes monstrosus</i>				○			
556			ホソムネデオネスイ	<i>Monotoma longicollis</i>				○			
557			ニセケブカネスイ	<i>Rhizophagoides kojimai</i>				○			
558		マルテントウダマシ	ヒメマルガタテントウダマシ	<i>Dexialia minor</i>				○			
559		ケシクスイ	クロハナケシクスイ	<i>Carpophilus chalybeus</i>				○			
560			トゲアシヒラタケシクスイ	<i>Epuraea dentipes</i>				○			
561			モンチビヒラタケシクスイ	<i>Epuraea ocularis</i>				○			
562			コクロヒラタケシクスイ	<i>Ipidia sibirica</i>				○			
563			クロヒラタケシクスイ	<i>Ipidia variolosa variolosa</i>				○			
564			トゲナシチビケシクスイ	<i>Meligethes corvinus</i>				○			
565			フトヒゲツヤマルケシクスイ	<i>Neopalodes clavatus</i>				○			
566			ヒゲナガチビケシクスイ	<i>Pria tokarensis</i>				○			
567		ヒメハナムシ	Acylopus属	<i>Acylopus</i> sp.				○			
568			キイロアシナガヒメハナムシ	<i>Augasmus nipponicus</i>				○			
569			Olibrus属	<i>Olibrus</i> sp.				○			
570			チビズマルヒメハナムシ	<i>Phalacrus luteicornis</i>				○			
571			アカボシチビヒメハナムシ	<i>Stilbus bipustulatus</i>				○			
572		ホソヒラタムシ	ノコギリヒラタムシ	<i>Oryzaephilus surinamensis</i>				○			
573			ホソミツカドホソヒラタムシ	<i>Silvanoprus grouvellei</i>				○			
574			ホソビロホソヒラタムシ	<i>Silvanoprus longicollis</i>				○			
575		ヒメキノコムシ	マルヒメキノコムシ	<i>Aspidiphorus japonicus</i>				○			
576			Sphindus属	<i>Sphindus</i> sp.				○			
577		アリモドキ	ツヤチビホソアリモドキ	<i>Anthicus laevipennis</i>				○			
578			ヒゲブトホソアリモドキ	<i>Anthicus monstrosicornis</i>				○			
579		ホソカタムシ	ヒサゴホソカタムシ	<i>Glyphocryptus brevicollis</i>				○			
580			ハヤシヒメヒラタホソカタムシ	<i>Synchita hayashii</i>				○			
581			ベニモンヒメヒラタホソカタムシ	<i>Synchita rufosignata</i>				○			
582		ニセクビボソムシ	チャイロニセクビボソムシ	<i>Aderus grouvelli</i>				○			
583			ヤマトニセクビボソムシ	<i>Pseudotelus japonicus</i>				○			
584			セグロニセクビボソムシ	<i>Syzeton brunnidorsis</i>				○			
585		ナガクチキムシ	オオメズカクシナガクチキ	<i>Anisoxiella ocularis</i>				○			
586			アヤモンヒメナガクチキ	<i>Holostrophus orientalis</i>				○			
587		ツチハンミョウ	マメハンミョウ	<i>Epicauta gorhami</i>		○				●	
588			ツマグロキゲンセイ	<i>Zonitis cothurnata cothurnata</i>				○			
589		ハナノミ	カトウヒメハナノミ	<i>Falsomordellistena katoii</i>				○			
590			クワイロヒゲハナノミ	<i>Higehananomia palpalis</i>				○			
591			チャオビヒメハナノミ	<i>Mordellina brunneotincta</i>				○			
592			シロウズクロヒメハナノミ	<i>Mordellistena shirozui</i>				○			

表 6 (9) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	⑨	⑩		
593	コウチュウ	ハナノミ	ナガトゲヒメハナノミ	<i>Mordellochroa japonica</i>				○			
594		コキノコムシ	ウスモンヒメコキノコムシ	<i>Litargus lewisi</i>				○			
595		カミキリモドキ	ハイイロカミキリモドキ	<i>Eobia cinereipennis cinereipennis</i>				○			
596			キイロカミキリモドキ	<i>Nacerdes hilleri</i>				○			
597			キアシカミキリモドキ	<i>Oedemera manicata</i>				○			
598		チビキカワムシ	ツヤチビキカワムシ	<i>Lissodema laevipenne</i>				○			
599		ハナノミダマシ	オオクロフナガタハナノミ	<i>Anaspis frontalis</i>				○			
600			コフナガタハナノミ	<i>Anaspis funagata</i>				○			
601			フナガタハナノミ亜科	<i>Anaspidinae</i> sp.				○			
602		ゴミムシダマシ	クロテントウゴミムシダマシ	<i>Ades convexus</i>				○			
603			キイロテントウゴミムシダマシ	<i>Ades masidai</i>				○			
604			ナミウスイロクチキムシ	<i>Allecula bilamellata</i>				○			
605			コマルキマワリ	<i>Amarygmus curvus</i>				○			
606			ヤマトスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum coenosum</i>				○			
607			シナスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum klappericki</i>				○			
608			オオスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum pubens</i>				○			
609			フナガタクチキムシ	<i>Isomira oculata</i>				○			
610			アラメヒゲブトゴミムシダマシ	<i>Luprops cribrifrons</i>				○			
611			ホンドカタモンヒメクチキムシ	<i>Mycetochara mimica</i>				○			
612			ホンドクビカクシゴミムシダマシ	<i>Stenochinus bacillus bacillus</i>				○			
613			セスジナガキマワリ本土亜種	<i>Strongylium cultellatum cultellatum</i>				○			
614			ハネナシセスジナガキマワリ	<i>Strongylium marseuli</i>				○			
615			マルセルエグリゴミムシダマシ本土亜種	<i>Ulama marseuli marseuli</i>				○			
616			ゴミムシダマシ	<i>Tenebrionidae</i>				○			
617		カミキリムシ	ニセピロウドカミキリ	<i>Acalolepta sejuncta sejuncta</i>				○			
618			ツヤケシハナカミキリ	<i>Anastrangalia scotodes</i>	○						
619			カノコサビカミキリ	<i>Apomecyna naevia naevia</i>				○			
620			ヒメスギカミキリ	<i>Callidiellum rufipenne</i>				○			
621			タケトラカミキリ	<i>Chlorophorus annularis</i>				○			
622			シラケトラカミキリ	<i>Clytus melaenus</i>				○			
623			ホシベニカミキリ	<i>Eupromus ruber</i>				○			
624			クモガタケンカミキリ	<i>Exocentrus fasciatus</i>				○			
625			アトモンマルケシカミキリ	<i>Exocentrus lineatus</i>				○			
626			ヤツボシハナカミキリ	<i>Leptura annularis mimica</i>				○			
627			ムネアカクロハナカミキリ	<i>Leptura dimorpha</i>	○						
628			ツマグロハナカミキリ	<i>Leptura modicenotata</i>	○						
629			ハラアカコブカミキリ	<i>Moehotypa diphyis</i>				○			
630			ヒメヒゲナガカミキリ	<i>Monochamus subfasciatus subfasciatus</i>				○			
631			タカサゴシロカミキリ	<i>Olenecamptus formosanus</i>	○						
632			ニセノコギリカミキリ	<i>Prionus sejunctus</i>				○			
633			スギカミキリ	<i>Semanotus japonicus</i>				○			
634			イボタサビカミキリ	<i>Sophronica obrioides</i>				○			
635			アサカミキリ	<i>Thyestilla gebleri</i>		○				●	
636			ヤハズカミキリ	<i>Uraecha bimaculata bimaculata</i>				○			
637		ハムシ	インゲンマメゾウムシ	<i>Acanthoscelides obtectus</i>				○			
638			コカミナリハムシ	<i>Altica viridicyanea</i>				○			
639			キイロツブノミハムシ	<i>Aphthona abdominalis</i>				○			
640			キアシツブノミハムシ	<i>Aphthona semiviridis</i>				○			
641			ジンガサハムシ	<i>Aspidimorpha indica</i>				○			
642			ヒメジンガサハムシ	<i>Cassida fusciorufa</i>				○			
643			ヒメカメノコハムシ	<i>Cassida piperata</i>				○			
644			ヒメドウガネトビハムシ	<i>Chaetocnema concinnicollis</i>				○			
645			ツツジムシクソハムシ	<i>Chlamisus laticollis</i>				○			
646			キボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus perelegans perelegans</i>				○			
647			カシワツツハムシ	<i>Cryptocephalus scitulus</i>				○			
648			カタピロトゲハムシ	<i>Dactylispa subquadrata</i>				○			
649			キンイロネクタイハムシ	<i>Donacia japana</i>		○				●	
650			ジュンサイハムシ	<i>Galerucella nipponensis</i>				○			
651			イタドリハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>				○			
652			ヒメトビハムシ	<i>Hermaphysa adamsii</i>				○			
653			オオバコトビハムシ	<i>Longitarsus scutellaris</i>				○			
654			クビアカトビハムシ	<i>Luperomorpha pryri</i>				○			
655			ニホンケブカサルハムシ	<i>Lypesthes japonicus</i>				○			
656			コバンマメトビハムシ	<i>Manobidia nipponica</i>				○			
657			キベリハムシ	<i>Oides bowringii</i>	○						
658			ブタクサハムシ	<i>Ophraella communis</i>				○			
659			アワクビボソハムシ	<i>Oulema dilutipes</i>				○			
660			マルキバネサルハムシ	<i>Pagria ussuriensis</i>				○			
661			チャバネツヤハムシ	<i>Phygasia fulvipennis</i>				○			
662			ダイコンナガスネトビハムシ	<i>Psylliodes subrugosa</i>				○			
663			サンゴジュハムシ	<i>Pyrrhalta lineatipes</i>				○			
664			フェモラータオオモモトハムシ	<i>Sagra femorata</i>				○			
665		ヒゲナガゾウムシ	シバンガタノミヒゲナガゾウムシ	<i>Choragus anobioides</i>				○			
666		ホソクチゾウムシ	ケバホソクチゾウムシ	<i>Sergiola griseopubescens</i>				○			
667		オトシブミ	ヒメケバカチョッキリ	<i>Involvulus pilosus</i>				○			

表 6 (10) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献					重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	⑨	⑩		
668	コウチュウ	ゾウムシ	チビハナゾウムシ	<i>Anthonomus minor</i>				○			
669			カナムグラサルゾウムシ	<i>Cardipennis shaowuensis</i>				○			
670			アオバネサルゾウムシ	<i>Ceutorhynchus ibukianus</i>				○			
671			クロタマゾウムシ	<i>Cionus helleri</i>				○			
672			オビアカサルゾウムシ	<i>Coeliodes nakanoensis</i>				○			
673			アイノシギゾウムシ	<i>Curculio aino</i>				○			
674			クリイロクチブトゾウムシ	<i>Cyrtopistomus castaneus</i>				○			
675			シュロゾウムシ	<i>Derelomus uenoi</i>				○			
676			ハモグリゾウムシ	<i>Ellescus bicoloripes</i>				○			
677			コフキゾウムシ	<i>Eugnathus distinctus</i>				○			
678			ツメクサタコゾウムシ	<i>Hypera nigrirostris</i>				○			
679			アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera postica</i>			○				●
680			ハマベゾウムシ	<i>Isonycholips gotoi</i>		○				●	
681			コカシワクチブトゾウムシ	<i>Lepidepistomodes griseoides</i>				○			
682			チビヒョウタンゾウムシ	<i>Myosides seriehispidus</i>				○			
683			カシワクチブトゾウムシ	<i>Nothomylocerus griseus</i>				○			
684			ムネスジノミゾウムシ	<i>Orchestes amurensis</i>				○			
685			エノキノミゾウムシ	<i>Orchestes horii</i>				○			
686			タカオマルクチカクシゾウムシ	<i>Orochlesis takaosana</i>				○			
687			オビデオゾウムシ	<i>Orsophagus trifasciatus</i>				○			
688			ワシバナヒメクイゾウムシ	<i>Phloeophagosoma curvirostre</i>				○			
689			ヒラズネヒゲボソゾウムシ	<i>Phyllobius intrusus</i>				○			
690			オオクチブトゾウムシ	<i>Phyllolytus variabilis</i>				○			
691			リンゴノミゾウムシ	<i>Rhamphus pulicarius</i>				○			
692			アラハダクチカクシゾウムシ	<i>Rhadinopus sulcatostriatus</i>				○			
693			チビコフキゾウムシ	<i>Sitona japonicus</i>				○			
694			Stereonychus属	<i>Stereonychus</i> sp.				○			
695			クロノミゾウムシ	<i>Tachyerges stigma</i>				○			
696			ケナガサルゾウムシ	<i>Trichocoeliodes excavatus</i>				○			
697			トゲトゲクロサルゾウムシ	<i>Zacladus geranii</i>				○			
698			サルゾウムシ亜科	<i>Ceutorhynchinae</i> sp.				○			
699			クチブトゾウムシ亜科	<i>Entiminae</i> sp.				○			
700		イネゾウムシ	イネミズゾウムシ	<i>Lissorhoptrus oryzophilus</i>				○			
701		チビゾウムシ	ハナコブチビゾウムシ	<i>Alonsiellus pubescens</i>				○			
702		キクイムシ	Cosmoderes属	<i>Cosmoderes</i> sp.				○			
703			ニホンザイノキクイムシ	<i>Cyclorhipidion japonicum</i>				○			
704			フィリピンキクイムシ	<i>Cyrtogenius brevior</i>				○			
705			クリノミキクイムシ	<i>Poecilips cardamomi</i>				○			
706			クワノキクイムシ	<i>Xyleborus atratus</i>				○			
707			ヒサカキノキクイムシ	<i>Xyleborus octiesdentatus</i>				○			
708			フィリピンザイノキクイムシ	<i>Xyleborus perforans</i>				○			
709			ハンノキクイムシ	<i>Xylosandrus germanus</i>				○			
710			ザイノキクイムシ族	<i>Xyleborini</i> sp.				○			
711	ハチ	コマユバチ	ウマノオバチ	<i>Euurobracon yokahamae</i>		○				●	
712		スズメバチ	チャイロスズメバチ	<i>Vespa dybowskii</i>				○			
713		ギングチバチ	リュウキュウコオロギバチ	<i>Liris deplanata binghami</i>				○			
714		ミツバチ	ウスルリモンハナバチ	<i>Thyreus centrimacula</i>		○				●	
715		ハキリバチ	トモンハナバチ	<i>Anthidium septemspinsum</i>		○				●	
716			イマイツツハナバチ	<i>Osmia jacoti</i>	○						
合計	13目	134科	716種	種数	241種	118種	2種	462種	27種	146種	2種

注1) 種名および配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベースHP、令和7年10月)に準拠した。

注2) 文献番号は表2.4.74動物に係る収集文献に対応する。

表7 (1) 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献				重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	⑤		
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	ミナミスナヤツメ	<i>Lethenteron hattai</i>		○				
2			スナヤツメ類	<i>Lethenteron sp.N and/or sp.S</i>				○		
3	カライワシ	カライワシ	カライワシ	<i>Elops hawaiiensis</i>	○					
4	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	○			○	●	
5	ニシン	ニシン	サッパ	<i>Sardinella zunasi</i>				○		
6			コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>				○		
7	コイ	コイ	コイ (型不明)	<i>Cyprinus carpio</i>	○		○	○		●
8			ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>	○			○		
9			オオキンブナ	<i>Carassius buergeri buergeri</i>	○					
10			ギンブナ	<i>Carassius sp.</i>	○			○		
11			ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>	○	○		○	●	
12			アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>	○	○		○	●	
13			カネヒラ	<i>Acheilognathus rhombeus</i>	○	○			●	
14			イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	○	○		○	●	
15			シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	○				●	
16			タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	○		○	○		●
17			ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>		○		○	●	
18			カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypripis neglecta</i>	○	○			●	
19			ハス	<i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i>	○					
20			オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>	○			○		
21			カワムツ	<i>Candidia temminckii</i>	○			○		
22			ヌマムツ	<i>Candidia sieboldii</i>	○			○		
23			ソウギョ	<i>Ctenopharyngodon idellus</i>			○			●
24			アブラハヤ	<i>Rhynchocypris lagowskii steindachneri</i>	○	○			●	
25			タカハヤ	<i>Rhynchocypris oxycephala</i>	○			○		
26			ウグイ	<i>Pseudaspius hakonensis</i>	○			○		
27			モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	○			○		
28			カワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i>	○	○			●	
29			ムギツク	<i>Pungtungia herzi</i>	○			○		
30			タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	○			○		
31			ホンモロコ	<i>Gnathopogon caerulescens</i>				○		
32			ゼゼラ	<i>Biwia zezera</i>	○	○			●	
33			カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus</i>	○			○		
34			ズナガニゴイ	<i>Hemibarbus longirostris</i>	○					
35			コウライニゴイ	<i>Hemibarbus labeo</i>	○			○		
36			ニゴイ類	<i>Hemibarbus barbus complex</i>	○					
37			イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	○			○		
38			スゴモロコ	<i>Squalidus chankaensis biwae</i>	○					
39			コウライモロコ	<i>Squalidus chankaensis tsuchigae</i>	○					
40		ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	○	○		○	●	
41			オオシマドジョウ	<i>Cobitis sp. BIWAE type A</i>	○			○		
42			チュウガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis striata striata</i>	○			○		
43			スジシマドジョウ種群	<i>Cobitis striata complex</i>	○					
44		フクドジョウ	ナガレホトケドジョウ	<i>Lefua torrentis</i>	○	○		○	●	
45	ナマズ	ギギ	ギギ	<i>Tachysurus nudiceps</i>	○			○		
46		ナマズ	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>	○			○		
47		アカザ	アカザ	<i>Liobagrus reinii</i>	○	○		○	●	
48	サケ	アユ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	○			○		
49		シラウオ	シラウオ	<i>Salangichthys microdon</i>	○				●	
50		サケ	サツキマス	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	○					
51			サツキマス (アマゴ)	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	○	○		○	●	
51			サクラマス類	<i>Oncorhynchus masou</i>			○			
52	タウナギ	タウナギ	タウナギ (本土産)	<i>Monopterus albus</i>				○		
53	ボラ	ボラ	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>	○			○		
54			メナダ	<i>Planiliza haematocheilus</i>	○			○		
55			セスジボラ	<i>Planiliza lauvernii</i>	○			○		
56	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>				○		●
57			グッピー	<i>Poecilia reticulata</i>				○		●
58	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	○	○		○	●	
59		サヨリ	クルマサヨリ	<i>Hyporhamphus intermedius</i>		○			●	
60			サヨリ	<i>Hyporhamphus sajori</i>	○			○		
61	スズキ	メバル	カサゴ	<i>Sebastiscus marmoratus</i>				○		
62			メバル類	<i>Sebastes species complex</i>				○		

表7 (2) 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献				重要種	侵略的 外来種
					①	②	③	⑤		
63	スズキ	ケツギヨ	オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>	○	○		○	●	
64		スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>	○			○		
65			タイリクスズキ	<i>Lateolabrax maculatus</i>			○			●
66		サンフィッシュ	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus macrochirus</i>	○		○	○		●
67			オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>	○		○	○		●
68			コクチバス	<i>Micropterus dolomieu dolomieu</i>			○			●
69		アジ	ギンガメアジ	<i>Caranx sexfasciatus</i>	○					
70		ヒイラギ	ヒイラギ	<i>Nuchequula nuchalis</i>	○			○		
71		タイ	クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>	○			○		
72			キチヌ	<i>Acanthopagrus latus</i>	○			○		
73		キス	シロギス	<i>Sillago japonica</i>				○		
74		シマイサキ	コトヒキ	<i>Terapon jarbua</i>	○			○		
75			シマイサキ	<i>Rhynchopelates oxyrhynchus</i>	○			○		
76		アイナメ	アイナメ	<i>Hexagrammos otakii</i>				○		
77		カジカ	カジカ	<i>Cottus pollux</i>	○	○		○	●	
78		タウエガジ	ダイナギンボ	<i>Dictyosoma burgeri</i>				○		
79		イソギンボ	トサカギンボ	<i>Omobranchus fasciolatocephs</i>		○			●	
80		ドンコ	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>	○			○		
81		カワアナゴ	カワアナゴ	<i>Eleotris oxycephala</i>	○			○		
82		ハゼ	イドミミズハゼ型不明	<i>Luciogobius</i> sp.	○					
83			ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>	○			○		
84			シロウオ	<i>Leucopsarion petersii</i>		○		○	●	
85			トビハゼ	<i>Periophthalmus modestus</i>	○	○			●	
86			マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	○			○		
87			アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>	○			○		
88			アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>	○			○		
89			マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>		○			●	
90			アカオビシマハゼ	<i>Tridentiger trignocephalus</i>				○		
91			シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>	○	○			●	
92			ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	○			○		
93			チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>	○			○		
94			ヒナハゼ	<i>Redigobius bikolanus</i>		○			●	
95			カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>	○			○		
96			シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>	○			○		
97			オオヨシノボリ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>		○		○	●	
98			ゴクラクハゼ	<i>Rhinogobius similis</i>				○		
99			トウヨシノボリ種群	<i>Rhinogobius</i> sp.OR unidentified complex	○			○		
100			ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>	○			○		
101			ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>	○					
102			ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>	○	○		○	●	
103			ピリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>	○			○		
104			チクゼンハゼ	<i>Gymnogobius uchidai</i>	○	○			●	
105			クボハゼ	<i>Gymnogobius scrobiculatus</i>	○	○			●	
106			エドハゼ	<i>Gymnogobius macrognathos</i>	○	○			●	
107		タイワンドジョウ	タイワンドジョウ	<i>Channa maculata</i>				○		
108			カムルチー	<i>Channa argus</i>	○			○		
109	カレイ	カレイ	イシガレイ	<i>Platichthys bicoloratus</i>	○			○		
110	フグ	フグ	クサフグ	<i>Takifugu alboplumbeus</i>				○		
合計	14目	37科	110種	種数	82種	29種	8種	78種	31種	9種

注1) 種名および配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベースHP、令和7年10月)に準拠した。

注2) 文献番号は表2.4.74動物に係る収集文献に対応する。

表 8 (1) 陸産貝類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的外来種
					①	②	③		
1	アマオブネガイ	ゴマオカタニシ	ゴマオカタニシ	<i>Georissa japonica</i>	○			●	
2		ヤマキサゴ	ヤマキサゴ	<i>Waldemaria japonica</i>	○				
3	新生腹足	ヤマタニシ	ヤマタニシ	<i>Cyclophorus herklotsi</i>	○				
4			アツバタガイ	<i>Cyclotus campanulatus</i>	○				
5			サドヤマトガイ	<i>Japonia sadoensis</i>	○	○		●	
6			ミジンヤマタニシ	<i>Nakadaella micron</i>	○				
7			アズキガイ	<i>Pupinella rufa</i>	○				
8		ムシオイガイ	ハリマムシオイガイ	<i>Chamalycaeus japonicus</i>	○			●	
9			ピルスブリムシオイ	<i>Chamalycaeus pilsbryi</i>	○				
10			ミヤムシオイガイ	<i>Chamalycaeus</i> sp.1		○		●	
11		ゴマガイ	ゴマガイ	<i>Diplommatina cassa</i>	○				
12			コベルトゴマガイ	<i>Diplommatina kobelti</i>	○				
13			オオウエゴマガイ	<i>Diplommatina labiosa tenuiplica</i>	○				
14			キュウシュウゴマガイ	<i>Diplommatina tanegashimae kyusyuensis</i>	○				
15			ウゼンゴマガイ	<i>Diplommatina uzenensis</i>	○				
16			ヒダリマキゴマガイ	<i>Palaina pusilla</i>	○				
17			カワザンショウガイ	<i>Solenomphala debilis</i>	○				
18	汎有肺	ケンガイ	ニホンケンガイ	<i>Carychium nipponense</i>	○				
19			スジケンガイ	<i>Carychium noduliferum</i>	○				
20	マイマイ (柄眼)	オカモノアラガイ	ヒメオカモノアラガイ	<i>Neosuccinea lyrata horticola</i>	○				
21			ナガオカモノアラガイ	<i>Oxyloma hirasei</i>	○			●	
22			キバサナガイ	<i>Columella edentula</i>	○			●	
23		マキゾメガイ	マルナタネガイ	<i>Parazoogenetes orcula</i>		○		●	
24			ヒラマルナタネ	<i>Pupisoma harpula</i>	○			●	
25		キセルガイモドキ	フトキセルガイモドキ	<i>Mirus japonicus</i>	○			●	
26			キセルガイモドキ	<i>Mirus reinianus</i>	○	○		●	
27		キセルガイ	ヒメコギセル	<i>Euphaedusa comes</i>	○				
28			ナミコギセル	<i>Euphaedusa tau</i>	○				
29			オオギセル	<i>Megalophaedusa martensi</i>	○			●	
30			コンボウギセル	<i>Mesophaedusa hickonis</i>	○	○		●	
31			シリオレトノサマギセル	<i>Mundiphaedusa decapitata</i>	○			●	
32			スグヒダギセル	<i>Paganizaptyx stimpsoni subgibbera</i>	○				
33			ハゲギセル	<i>Pinguiphaedusa attrita</i>	○				
34			チビギセル	<i>Pinguiphaedusa expansilabris</i>	○				
35			ツムガタギセル	<i>Pinguiphaedusa pinguis platydera</i>	○				
36			ナミギセル	<i>Stereophaedusa japonica</i>	○				
37			アワジウツミギセル	<i>Stereophaedusa japonica pallens</i>	○				
38			ウスベニギセル	<i>Tyrannophaedusa aurantiaca</i>	○				
39			エルベリギセル	<i>Tyrannophaedusa aurantiaca erberi</i>	○			●	
40			シリオレギセル	<i>Tyrannophaedusa bilabrata</i>	○				
41			ホソヒメギセル	<i>Tyrannophaedusa gracilispira</i>	○			●	
42			ゼイギセル	<i>Tyrannophaedusa proba</i>	○				
43			ナラビヒダギセル	<i>Tyrannophaedusa proba caryostoma</i>	○				
44		オカチョウジガイ	マルオカチョウジガイ	<i>Allopeas brevispirum</i>	○				
45			オカチョウジガイ	<i>Allopeas clavulinum kyotoense</i>	○				
46			トクサオカチョウジガイ	<i>Allopeas javanicum</i>	○				
47			ホソオカチョウジガイ	<i>Allopeas pyrgula</i>	○				
48		ナタネガイ	ミジンナタネ	<i>Punctum atomus</i>	○				
49			ハリマナタネ	<i>Punctum japonicum</i>	○				
50		コハクガイ	コハクガイ	<i>Zonitoides arboreus</i>	○				
51		ナメクジ	イボイボナメクジ	<i>Granulilimax fuscicornis</i>	○	○		●	
52			ナメクジ	<i>Meghimatium bilineatum</i>	○				
53			ヤマナメクジ	<i>Meghimatium fruhstorferi</i>	○				
54		コウラナメクジ	ノハラナメクジ	<i>Deroceras reticulatum</i>	○				
55			チャコウラナメクジ	<i>Limax marginatus</i>	○		○		●
—			チャコウラナメクジ近似種	<i>Limax</i> sp.	○				●
56		ベッコウマイマイ	ツノイロヒメベッコウ	<i>Ceratochlamys ceratodes</i>	○				
57			ヒメベッコウガイ	<i>Discoconulus sinapidium</i>	○				
58			ヤクシマヒメベッコウ	<i>Discoconulus yakuensis</i>	○				
59			キビガイ	<i>Gastrodontella multivolvis</i>	○				
60			ハリマキビ	<i>Parakaliella harimensis</i>	○			●	
61			ヒメハリマキビ	<i>Parakaliella pagoduloides</i>	○				
62			ハナレシタラガイ	<i>Parasitala libertina</i>	○				
63			キョウトシタラガイ	<i>Parasitala nanodes</i>	○				
64			マルシタラガイ	<i>Parasitala reinhardti</i>	○				
65			コシタカシタラガイ	<i>Sitalina circumcincta</i>	○			●	
66			ウメムランタラガイ	<i>Sitalina japonica</i>	○				
67			カサキビ	<i>Trochochlamys crenulata</i>	○			●	
68			オオウエキビ	<i>Trochochlamys fraterna</i>	○			●	
69			ヒメカサキビ	<i>Trochochlamys subcrenulata</i>	○				
70			オオクラヒメベッコウ	<i>Yamatochlamys lamprea</i>	○				
71			ナミヒメベッコウ	<i>Yamatochlamys vaga</i>	○			●	
72			ヒラベッコウガイ	<i>Bekkochlamys micrograpta</i>	○			●	
73			ハクサンベッコウ	<i>Nipponochlamys hakusanus</i>	○			●	
74			キヌツヤベッコウ	<i>Nipponochlamys semisericata</i>	○	○		●	

表 8 (2) 陸産貝類確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					①	②	③		
75	マイマイ (柄眼)	ベッコウマイマイ	レンズガイ	<i>Otosiopsis japonica</i>	○				
76			ウラジロベッコウ	<i>Urazirochlamys doenitzii</i>	○			●	
77		ナンバンマイマイ	ケハダヒロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis fragilis</i>		○		●	
78			トウカイヒロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis oscitans</i>	○			●	
79			ヒメヒロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis perpunctatus</i>	○			●	
80			トサヒロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis tosanus</i>	○				
81			シメクチマイマイ	<i>Satsuma ferruginea</i>	○				
82			ニッポンマイマイ	<i>Satsuma japonica</i>	○				
83			コベソマイマイ	<i>Satsuma myomphala</i>	○			●	
84			ヤマタカマイマイ	<i>Satsuma papilliformis</i>	○				
85		オナジマイマイ	ウスカワマイマイ	<i>Acusta despecta sieboldiana</i>	○				
86			コウベマイマイ	<i>Aegista kobensis</i>	○				
87			コオオベソマイマイ	<i>Aegista proba mimula</i>	○				
88			オオケマイマイ	<i>Aegista vulgivaga</i>	○				
89			オナジマイマイ	<i>Bradybaena similis</i>	○				
90			クチベニマイマイ	<i>Euhadra amaliae</i>	○				
91			ハリママイマイ	<i>Euhadra congenita</i>	○				
92			コガネマイマイ	<i>Euhadra sandai</i>	○				
93			オキニシキマイマイ	<i>Euhadra sandai oki</i>	○				
94			ナミマイマイ	<i>Euhadra sandai communis</i>	○				
95			セトウチマイマイ	<i>Euhadra subnimbosa</i>	○			●	
96			コウロマイマイ	<i>Euhadra yagurai yagurai</i>		○		●	
97			ヒメコウロマイマイ	<i>Euhadra yagurai form.</i>	○				
98			アワジオトメマイマイ	<i>Trishoplita awajiensis</i>	○				
99			マメマイマイ	<i>Trishoplita commoda</i>	○				
100			クロオトメマイマイ	<i>Trishoplita commoda fusca</i>	○				
101			コウダカシロマイマイ	<i>Trishoplita eumenes cretacea</i>	○				
102			オトメマイマイ	<i>Trishoplita goodwini</i>	○				
103			コオトメマイマイ	<i>Trishoplita mesogonia</i>	○				
104		タワラガイ	タワラガイ	<i>Sinoennea iwakawa</i>			○		
合計	4目	22科	104種	種数	100種	9種	2種	31種	3種

注1) 種名および配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベースHP、令和7年10月)に準拠した。

注2) 文献番号は表2.4.74動物に係る収集文献に対応する。

表 9 (1) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					①	②	③		
1	イガイ	イガイ	ホトトギスガイ	<i>Arcuatula senhousia</i>	○				
2			ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>			○		●
3			ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>			○		●
4			コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>	○		○		●
5	カキ	イタボガキ	マガキ	<i>Magallana gigas</i>	○				
6	ウグイスガイ	ハボウキ	リシケタイラギ	<i>Atrina lischkeana</i>		○		●	
7	イシガイ	イシガイ	フネドブガイ	<i>Anemina arcaeiformis</i>		○		●	
8			ニセマツカサガイ	<i>Inversunio yanagawensis</i>		○		●	
9			ササノハガイ	<i>Lanceolaria oxyrhyncha</i>		○		●	
10			イシガイ	<i>Nodularia douglasiae</i>	○	○		●	
11			カタハガイ	<i>Obovalis omiensis</i>	○	○		●	
12			マツカサガイ広域分布種	<i>Pronodularia cf. japonensis 1</i>	○			●	
13			イシガイ	<i>Unionidae</i>	○				
14	ネリガイ	オキナガイ	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	○				
15			オキナガイ	<i>Laternula anatina</i>		○		●	
16	マテガイ	マテガイ	マテガイ	<i>Solen strictus</i>		○		●	
17	ウロコガイ	ウロコガイ	ニッポンマメアゲマキ	<i>Pseudogaleomma japonica</i>		○		●	
18		ブンブクヤドリガイ	スジホシムシモドキヤドリガイ	<i>Nipponomysella subtruncata</i>		○		●	
19	ドブシジミ	ドブシジミ	ドブシジミ	<i>Musculium japonicum</i>	○	○		●	
20			フクイマメシジミ	<i>Pisidium hukuense</i>	○				
21			マメシジミ	<i>Pisidium japonicum</i>	○				
22		シオサザナミ	ムラサキガイ	<i>Hiatula adamsii</i>		○		●	
23		キヌタアゲマキ	キヌタアゲマキ	<i>Solecurtus divaricatus</i>		○		●	
24	マルスダレガイ	バカガイ	シオフキガイ	<i>Macra quadrangularis</i>		○		●	
25		チドリマスオ	クチバガイ	<i>Coecella chinensis</i>	○			●	
26		フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ	<i>Neotrapezium liratum</i>	○			●	
27		マルスダレガイ	オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>	○				
28			ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>		○		●	
29			アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	○				
30		シジミ	タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>	○		○		●
31			ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	○	○		●	
32			マシジミ	<i>Corbicula leana</i>	○	○		●	
33	オオノガイ	オオノガイ	オオノガイ	<i>Mya arenaria oonogai</i>		○		●	
34			クシケマスオ	<i>Venatomya truncata</i>		○		●	
35	ヨメガカサ	コガモガイ	ツボミ	<i>Patelloida corulus</i>	○	○		●	
36			シボリガイ	<i>Patelloida pygmaea</i>	○				
37	ニシキウズ	ニシキウズ	イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>		○		●	
38	アマオブネ	アマオブネ	イシマキガイ	<i>Clithon retropictum</i>	○				
39			ヒロクチカノコ	<i>Neripteron sp.</i>	○			●	
40		ユキスズメ	ミヤコドリガイ	<i>Phenacolepas pulchella</i>		○		●	
41			ヒナユキスズメ	<i>Phenacolepas sp.</i>		○		●	
42	タニシ	タニシ	マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i>	○			●	
43			オオタニシ	<i>Heterogen japonica</i>	○			●	
44			ヒメタニシ	<i>Sinotaia histrica</i>	○				
45	リンゴガイ	リンゴガイ	スクミリンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>	○		○		●
46	オニノツノガイ	ウミニナ	ホソウミニナ	<i>Batillaria attramentaria</i>	○				
47			ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i>	○			●	
48			イボウミニナ	<i>Batillaria zonalis</i>	○			●	
49		キバウミニナ	フトヘナタリ	<i>Cerithidea moerchii</i>	○			●	
50			ヘナタリ	<i>Pirenella nipponica</i>		○		●	
51			カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>	○			●	
52		カワニナ	クロダカワニナ	<i>Semisulcospira kurodai</i>	○	○		●	
53			カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>	○				
54			チリメンカワニナ	<i>Semisulcospira reiniana</i>	○				
55									
56	エゾタマキビ	タマキビ	マルウズラタマキビ	<i>Littoraria sinensis</i>	○				
57			タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>	○				
58		クビキレガイ	ヤマトクビキレガイ	<i>Truncatella pfeifferi</i>	○			●	
59		カワザンショウ	クリイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>	○	○		●	
60			サツマクリイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea satsumana</i>	○	○		●	
61			ツブカワザンショウ	<i>Assiminea estuarina</i>	○			●	
62			ヒラドカワザンショウ	<i>Assiminea hiradoensis</i>	○	○		●	
63			カワザンショウガイ	<i>Assiminea japonica</i>	○				
64			ムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea parasitologica</i>	○			●	
65			ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Assiminea aff. parasitologica</i>		○		●	

表 9 (2) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					①	②	③		
65	エゾタマキビ	カワザンショウ	ヨシダカワザンショウ	<i>Assiminea yoshidayukioi</i>	○			●	
66			ヘソカドガイ	<i>Paludinellassiminea japonica</i>	○				
67		エゾマメタニシ	イナバマメタニシ	<i>Bithynia inabai</i>	○	○		●	
68		ワカウラツボ	カワグチツボ	<i>Fluviocingula elegantula</i>	○	○		●	
69			ワカウラツボ	<i>Wakauraia sakaguchii</i>	○	○		●	
70		ミズゴマツボ	エドガワミズゴマツボ	<i>Stenothyra edogawensis</i>	○	○		●	
71		イソコハクガイ	シラギクガイ	<i>Pseudoliotia pulchella</i>		○		●	
72	カリバガサ	カリバガサ	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>			○		●
73	新腹足	オリイレヨフバイ	ムシロガイ	<i>Nassarius livescens</i>		○		●	
74	頭楯	クダタマガイ	コヤスツララガイ	<i>Acteocina koyasensis</i>		○		●	
75	モノアラガイ	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ	<i>Galba cf. truncatula</i>	○			●	
76			ヒメモノアラガイ	<i>Orientogalba ollula</i>	○				
77			モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>	○			●	
78		ヒラマキガイ	カワネジガイ	<i>Camptoceras hirasei</i>	○	○		●	
79			カワコザラガイ	<i>Ferrissia nipponica</i>	○			●	
80			ハブタエヒラマキガイ	<i>Gyraulus illibatus</i>	○			●	
81			ヒメヒラマキミズマイマイ	<i>Gyraulus pulcher</i>	○			●	
82			ミズコハクガイ	<i>Gyraulus soritai</i>	○	○		●	
83			ヒラマキミズマイマイ	<i>Gyraulus spirillus</i>	○			●	
84			クルマヒラマキガイ	<i>Helicorbis cantori</i>	○	○		●	
85			ヒラマキガイモドキ	<i>Polypylis hemisphaerula</i>	○			●	
86		サカマキガイ	サカマキガイ	<i>Physella acuta</i>	○				
87	オカミミガイ	オカミミガイ	ウスコミミガイ	<i>Laemodonta exaratoidea</i>		○		●	
88			ナギサノシタリ	<i>Microtaralia alba</i>	○			●	
89	サシバゴカイ	チロリ	マキントシチロリ	<i>Glycera macintoshi</i>		○		●	
90		ゴカイ	コケゴカイ	<i>Ceratonereis erythraeensis</i>		○		●	
91			カワゴカイ属	<i>Hediste</i> sp.		○		●	
92			スナインゴカイ	<i>Perinereis mictodonta</i>		○		●	
93	イソメ	ナナテイスメ	スゴカイイソメ	<i>Diopatra sugokai</i>		○		●	
94		ギボシイソメ	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>		○		●	
95	スピオ	ツバサゴカイ	ムギワラムシ	<i>Mesochaetopterus japonicus</i>		○		●	
96			スナタバムシ	<i>Mesochaetopterus minutus</i>		○		●	
97	イトゴカイ	タマシキゴカイ	タマシキゴカイ	<i>Arenicola brasiliensis</i>		○		●	
98	ケヤリムシ	カンザシゴカイ	カサネカンザシゴカイ	<i>Hydroides elegans</i>			○		
99	フクロホシムシ	スジホシムシ	スジホシムシモドキ	<i>Siphonossoma cumanense</i>		○		●	
100	無柄	フジツボ	アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>			○		●
101			ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>			○		●
102	エビ	クルマエビ	クルマエビ	<i>Marsupenaeus japonicus</i>		○		●	
103		ヌマエビ	ミソレヌマエビ	<i>Caridina leucosticta</i>		○		●	
104			カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> sp.			○		●
105		テナガエビ	ミナミテナガエビ	<i>Macrobrachium formosense</i>		○		●	
106			シラタエビ	<i>Palaemon orientis</i>		○		●	
107		テッポウエビ	テッポウエビ	<i>Alpheus brevirostratus</i>		○		●	
108		エビジャコ	エビジャコ属	<i>Crangon</i> sp.		○		●	
109		アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>			○		●
110		ハサミシャコエビ	ハサミシャコエビ	<i>Laomedia astacina</i>		○		●	
111		スナモグリ	ニホンスナモグリ	<i>Nihonotrypaea japonica</i>		○		●	
112		アナジャコ	アナジャコ	<i>Upogebia major</i>		○		●	
113			ヨコヤアナジャコ	<i>Upogebia yokoyai</i>		○		●	
114		コブシガニ	マメコブシガニ	<i>Pyrhila pisum</i>		○		●	
115		ワタリガニ	チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>			○		●
116		ベンケイガニ	アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>		○		●	
117			クシテガニ	<i>Parasesarma affine</i>		○		●	
118			フタバカクガニ	<i>Parasesarma bidens</i>		○		●	
119			ユビアカベンケイガニ	<i>Parasesarma tripectinis</i>		○		●	
120			クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaani</i>		○		●	
121			モクスガニ	<i>Chasmagnathus convexus</i>		○		●	
122		モクスガニ	ヒメアシハラガニ	<i>Helicana japonica</i>		○		●	
123			アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>		○		●	
124			スネナガイソガニ	<i>Hemigrapsus longitarsis</i>		○		●	
125			ヒメケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus sinensis</i>		○		●	
126			ウモレマメガニ	<i>Pseudopinnixa carinata</i>		○		●	
127			タイワンヒライソモドキ	<i>Ptychognathus ishii</i>		○		●	
128			トリウミアカイソモドキ	<i>Sestrostoma toriumii</i>		○		●	

表9 (3) 底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種和名	学名	文献			重要種	侵略的 外来種
					①	②	③		
129	エビ	ムツハアリアケガニ	アリアケモドキ	<i>Deiratonotus cristatus</i>		○		●	
130		コメツキガニ	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>		○		●	
131			コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>		○		●	
132		オサガニ	ヒメヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus banzai</i>		○		●	
133			ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>		○		●	
134		スナガニ	ハクセンシオマネキ	<i>Austruca lactea</i>		○		●	
135			スナガニ	<i>Ocypode stimpsoni</i>		○		●	
136	舌殻	シャミセンガイ	シャミセンガイ属	<i>Lingula</i> sp.aff. <i>reevei</i>		○		●	
137	ハネコケムシ	ヒメテンコケムシ	カンテンコケムシ	<i>Asajirella gelatinosa</i>		○		●	
138	イソギンチャク	ウメボシイソギンチャク	ニンジンイソギンチャク	<i>Paracondylactis hertwigi</i>		○		●	
139	タコノマクラ	ヨウミヤクカシパン	ハスノハカシパン	<i>Scaphechinus mirabilis</i>		○		●	
140	ナメクジウオ	ナメクジウオ	ヒガシナメクジウオ	<i>Branchiostoma japonicum</i>		○		●	
141	マメボヤ	ユウレイボヤ	カタユウレイボヤ	<i>Ciona intestinalis</i>			○		●
合計	36目	72科	141種	種数	62種	86種	13種	108種	12種

注1) 種名および配列は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和7年度生物リスト)」(国土交通省河川環境データベースHP、令和7年10月)に準拠した。

注2) 文献番号は表2.4.74動物に係る収集文献に対応する。